津 市 立 栗 真 小 学 校 長 寿 命 化 改 修 工 事

図面リスト

図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称
	建築工事（意匠図）　86枚	A － 44	３階建具配置図、Ｒ階建具配置図		建築工事（構造図）　13枚		電気設備工事　19枚		機械設備工事　13枚
A － 01	特記仕様書（改修）1	A － 45	建具表１	S － 01	構造特記仕様書	E － 01	特記仕様書（電気設備）1	M － 01	特記仕様書1
A － 02	特記仕様書（改修）2	A － 46	建具表２	S － 02	RC標準図1	E － 02	特記仕様書（電気設備）2	M － 02	特記仕様書2
A － 03	特記仕様書（改修）3	A － 47	建具表３	S － 03	RC標準図2	E － 03	特記仕様書（電気設備）3	M － 03	凡例・器具、機器表
A － 04	特記仕様書（改修）4	A － 48	建具表４	S － 04	S標準図1	E － 04	配置図・付近見取図	M － 04	１階平面図（改修前）
A － 05	特記仕様書（改修）5	A － 49	建具表５	S － 05	S標準図2	E － 05	分電盤結線図	M － 05	１階平面図（改修後）
A － 06	特記仕様書（改修）6	A － 50	特別教室棟（１階）建具配置図、建具表	S － 06	BP標準図	E － 06	照明器具・弱電機器姿図	M － 06	２階平面図（改修前）
A － 07	特記仕様書（改修）7	A － 50-2	（付）特別教室棟 立面図	S － 07	QL標準図	E － 07	電灯設備・動力設備 ［改修後］１階・２階平面図	M － 07	２階平面図（改修後）
A － 08	配置図・付近見取図	A － 51	詳細図	S － 08	ALC標準図	E － 08	動力設備 ［改修後］３階・屋上階平面図	M － 08	３階平面図（改修前）
A － 09	仕上表	A － 52	総合仮設計画図（参考）	S － 09	地質調査図	E － 09	弱電設備（1） ［改修後］１階・２階平面図	M － 09	３階平面図（改修後）
A － 10	［改修前］１階平面図	A － 52-2	内部仮設計画図（参考）	S － 10	基礎伏図・基礎詳細図・地中梁柱脚リスト・スラブリスト	E － 10	弱電設備（1） ［改修後］３階・屋上階平面図	M － 10	屋上平面図（改修前）
A － 11	［改修後］１階平面図	AEV － 01	特記仕様書（新営）1	S － 11	梁伏図・軸組図	E － 11	弱電設備（2） ［改修後］１階・２階平面図	M － 11	屋上平面図（改修後）
A － 12	［改修前］２階平面図	AEV － 02	特記仕様書（新営）2	S － 12	鉄骨断面リスト	E － 12	弱電設備（2） ［改修後］３階・屋上階平面図	M － 12	１．２．３階平面詳細図（給排水衛生設備）
A － 13	［改修後］２階平面図	AEV － 03	特記仕様書（新営）3	S － 13	鉄骨詳細図	E － 13	電灯設備・動力設備・弱電設備 ［改修前］［改修後］２階平面図	M － 13	１．２．３階平面詳細図（換気設備）
A － 14	［改修前］３階平面図	AEV － 04	特記仕様書（新営）4			E － 14	電灯設備・動力設備・弱電設備 ［改修前］［改修後］３階平面図		
A － 15	［改修後］３階平面図	AEV － 05	特記仕様書（新営）5			E － 15	動力設備・弱電設備 ［改修前］［改修後］屋上・PH階平面図		
A － 16	［改修前］屋上・PH階平面図	AEV － 06	特記仕様書（新営）6			E － 16	EV棟 電灯設備［増築後］各階平面図		
A － 17	［改修後］屋上・PH階平面図	AEV － 07	特記仕様書（新営）7			E － 17	仮設電源配置図		
A － 18	クラック集計（屋上・庇）	AEV － 08	特記仕様書（新営）8			E － 18	仮設電源１階平面図		
A － 19	［改修前］立面図	AEV － 09	敷地求積図			E － 19	単線結線図（改修前・改修後）		
A － 20	［改修後］立面図	AEV － 10	建物求積表						
A － 21	［改修前・後］Ａ～Ａ’断面詳細図	AEV － 11	仕上表（増築）						
A － 22	１階天井伏図、２階天井伏図	AEV － 12	EV棟［増築前］１階平面詳細図						
A － 23	３階天井伏図、PH階天井伏図	AEV － 13	EV棟［改修前］2，3階平面詳細図・R階平面詳細図						
A － 24	平面詳細図（１階　昇降口）	AEV － 14	EV棟［増築後］１階平面詳細図						
A － 25	展開図（１階　昇降口）	AEV － 15	EV棟［増築後］2，3階平面詳細図						
A － 26	平面詳細図（１階　玄関～ホール）	AEV － 16	EV棟［増築後］Ｒ階平面詳細図						
A － 27	展開図（１階　玄関～ホール）	AEV － 17	EV棟［増築後］外構図						
A － 28	平面詳細図（２階　普通教室（全階共通））	AEV － 18	EV棟［増築後］立面図						
A － 29	展開図（普通教室　２階　１年生教室）	AEV － 19	EV棟［増築前］矩計図・［増築後］イ～イ’矩計図						
A － 30	展開図（普通教室　２階　２年生教室）	AEV － 20	EV棟［増築後］ロ～ロ’矩計図						
A － 31	展開図（普通教室　２階　３年生教室）	AEV － 21	EV棟［増築後］展開図（１階 EVホール）						
A － 32	展開図（特別支援教室　２階　しいのき１教室）	AEV － 22	EV棟［増築後］展開図（２階 EVホール・３階 EVホール）						
A － 33	展開図（特別支援教室　２階　しいのき２教室）	AEV － 23	EV棟［増築後］展開図（２，３階 多目的トイレ）						
A － 34	展開図（普通教室　３階　４年生教室）	AEV － 24	［改修前］展開図（廊下）・［改修後］展開図（廊下）						
A － 35	展開図（普通教室　３階　５年生教室）	AEV － 25	エレベーター詳細図（１）						
A － 36	展開図（普通教室　３階　６年生教室）	AEV － 26	エレベーター詳細図（２）						
A － 37	［改修前・後］Ｂ～Ｂ’断面詳細図（東階段）	AEV － 27	エレベーター詳細図（３）						
A － 38	［改修前・後］展開図（東階段）	AEV － 28	エレベーター詳細図（４）						
A － 39	［改修前・後］Ｃ～Ｃ’断面詳細図（西階段）	AEV － 29	エレベーター詳細図（５）						
A － 40	［改修前・後］展開図（西階段）	AEV － 30	エレベーター詳細図（６）						
A － 41	展開図（廊下１）	AEV － 31	エレベーター詳細図（７）						
A － 42	展開図（廊下２）	AEV － 32	EXP.J 図						
A － 43	１階建具配置図、２階建具配置図								図面総枚数（本図面目録含む）　131 枚

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津 市 立 栗 真 小 学 校 長 寿 命 化 改 修 工 事	図面リスト	A2 ――――	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山 本 一 級 建 築 士 事 務 所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設 計 者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		No. A-00

工事特記仕様書（改修）

Ⅰ．工事名称　津市立栗真小学校長寿命化改修工事

Ⅱ．工事概要

1　工事場所　三重県津市栗真中山町452

2　敷地面積　14,527.03㎡

3　工事内容

棟名称　管理・普通教室棟

構造　鉄筋コンクリート造３階建

建築面積　912.964㎡

延べ面積　2,549.359㎡

工事項目　防水改修、外壁改修、建具改修、内装改修、塗装改修、躯体改修、受変電設備

Ⅲ．建築改修工事仕様

1　共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版（以下「改修標準仕様書」という。）」による。

2　特記仕様

(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。

(3) 項目欄に記載の（　）内表示番号は改標仕の該当項目等を示す。

章	項目	特記事項
① 一般共通事項	① 適用基準等	1）公共建築工事標準仕様書（建築工事編） 国土交通大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版） 2）公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編） 国土交通大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版） 3）建築物解体工事共通仕様書 国土交通大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版） 4）建築工事標準詳細図 国土交通大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版）
	② 施工条件	施工方法及び検査に関する事項 ※　工事契約後、速やかに調査及び施工計画書等を作成し、現場着手までに市監督員の承諾を得ること。 ※　工事中の安全計画・消防計画等は、市監督員と十分協議し災害防止に努めること。 ※　本工事における諸官庁への届出、手続き及び書類等は、速やかに提出し工事の遂行に影響の無いよう努めること。 ※　特定作業に伴って発生する騒音は、低振動・低騒音に努め騒音規　制法に基づき関係機関への届出・打合せの上、作業に着手すること。 ※　工事期間中、近隣関係者等へ危害を与えないよう注意し、かつ周道路等に資材を落下させたり、ほこり等を飛散させないよう万全の注意を払うこと。 ※　場外退出時、車両足廻りの洗浄等を行い、汚損等しないようにすること。 ※　工事車両の出入りについては、安全確保に十分配慮すること。 ※　大型車両通行時には誘導員を配置し、通行人及び敷地周辺の安全に十分配慮すること。 ※　工事車両及び工事関係車両は、周辺道路に駐車しないこと。 ※　工事着手前には、現況把握のために、破損箇所等があれば、市監督員立合いのもと写真に記録しておくこと。 ※　工事期間中、工事に起因し、既存施設に破損等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに原状復旧するとともに市監督員に報告書を提出すること。 ※　設計図書に明記なくとも機能上及び構造上当然必要と認められるもの並びに、取り合いのはつり補修復旧は本工事に含む。なお内訳書の数量は参考とし、当図面を優先する。 ※　高所等の施工箇所で完成検査時に確認が困難な工事については、足場解体前に市検査課による随時検査(書類を含む)を受けること。また、当該検査の合格をもって足場解体を行うこと。 ※　周辺住民からの苦情があった時は、工事を一時中断し、誠意をもって地元調整を行い、工事の再開は市監督員の承認を得てから行う。 ※　工事作業については、学校運営に支障をきたさないよう工事の遂行に必要な施工体制を確保すること。 ※　撤去工事等の騒音及び振動が生じる作業は、原則、休日等の授業が行われていない時に行うこと。 ※　外部足場の設置及び解体は、原則、休日等の授業が行われていない時に行うこと。 ※　作業後の校舎等の施錠については学校側と十分協議を行うこと。 ※　原則として、撤去工事等の現場への本格着手は7月19日からとする。但し、学校及び監督員との協議により承諾を得た場合は、この限りではない。 ※　外壁補修（浮き部、ひび割れ補修等）は、原則、休日等の授業が行われていない時に行うものとする。 ※　９月以降に外壁吹付工事等を施工する場合は、感染症対策として、各面を一定スパン毎に分割して工区分けし、各教室にて少なくとも１方向の換気ができるようにすること。南側及び北側の窓を同時に封鎖する状況で施工することが無いように配慮すること。 ※　外部鉄部塗替えにおいて、下地調整ケレン時に集じん機付きディスクグラインダーの使用又は湿潤化し飛散養生するなど粉塵の飛散防止に努めること。 ※　工事用水、電力については校内既存の施設を無償で利用できる。但し、学校行事に影響しないよう事前に打合せのうえ利用すること。 ※　防火戸等の特定防火設備の改修は、原則、お盆期間を利用し作業を行うこと。 ※　下記に示す諸室の改修工事について、２学期または３学期以降の　学校運用に支障が無いよう、市検査課の中間検査（書類を含む）を受け、引き渡すこと。なお、下記に中間検査対象箇所及び引渡し　計画時期を示す。但し、学校との協議により運営に支障がない範囲であれば、施工範囲を変更できるものとする。 （８月中引渡） ＜管理・普通教室棟＞　＜外構＞ ・内部改修部（普通教室、特別支援教室、廊下、昇降口、ホール、玄関、配膳室前室、特定防火設備）　・渡廊下 ・外壁（南面） ※　各諸室について、作り付け家具のほか、机等の備品があるため、作業に際し移設及び養生を適宜行うこと。（平面詳細図参照） なお、下記に各諸室の主要な備品を明記する。 ・普通教室、特別支援教室：机、椅子、教卓、木棚、スチール棚、黒板 ・昇降口、玄関、ホール：傘立て、掲示板、下足入、掃除具入 ・廊下：掲示板、黒板、掃除具入
	③ 発生材の処理等 (1.3.12)	本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法律第104号。以下「建設リサイクル法」という。）施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。 工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。 ・分別解体等の方法

工程	作業の有無	分別解体等の方法
造成等	・有 (・)無	・手作業　・手作業、機械作業の併用
基礎・基礎ぐい	・有 (・)無	・手作業　・手作業、機械作業の併用
上部構造部分・外装	(・)有　・無	・手作業　(・)手作業、機械作業の併用
屋根	(・)有　・無	・手作業　(・)手作業、機械作業の併用
建築設備・内装等	(・)有　・無	・手作業　(・)手作業、機械作業の併用
その他（　）	・有 (・)無	・手作業　・手作業、機械作業の併用

(・) 引き渡しを要するもの　(・) 無　・　）

・　特別管理産業廃棄物　・　有（・PCBを含む機器類　・廃油、廃酸、廃アルカリ　・ダイオキシン類　・水銀を含む特別管理産業廃棄物　・廃水銀等　）

処理方法（　）

・　水銀使用製品産業廃棄物　・　有（　・　蛍光ランプ　・　HIDランプ　・（　））

「水銀廃棄物ガイドライン」（第２版）（平成31年3月　環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課）に基づき適切に処理すること。

(・) 石綿含有成形板等解体時の留意点

1.手ばらし等、出来るだけ粉塵の発生しない方法で行うこと。

2.可能であれば湿潤状態（散水）として作業を進めること。

3.飛散されない様にすること。

4.保護具及び作業着を着用すること。

5.解体されたボード等は、蓋のある容器に入れること。

6.事前に使用箇所や状況の調査を行い記録すること。

・　現場において再利用を図るもの　（　）

(・) 再資源化を図るもの　(・) コンクリート塊

(・) アスファルトコンクリート塊

・　建設発生木材

・　（　）

引渡を要するもの、再資源化を図るものについては調書を作成し、監督員へ提出すること。

引渡を要するもの以外のものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切に処理し、監督員にマニフェストA、B2、D票を提示すること。

④ 建設副産物情報交換システムの利用

受注者は工事着手前に「再生資源利用計画書」（建設資材の搬入がある場合）及び「再生資源利用促進計画書」（建設副産物の搬出がある場合）を作成し、施工計画書に含めて監督員へ写しを提出するとともに法令等に基づき、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。

また、工事完了後には「再生資源利用実施書」（建設資材の搬入があった場合）及び「再生資源利用促進実施書」（建設副産物の搬出があった場合）をすみやかに作成し、監督員へ写しを提出すること。

なお、各計画書及び実施書の作成等は、JACICが運営する「建設副産物情報交換システム」に登録のうえ、行うこと。

⑤ 三重県産業廃棄物税

本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の４月１日から８月31日までの間に別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。

なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表（マニフェストの数量の集計）を超えて請求することはできない。

6　電気保安技術者 (1.3.3)

・　配置する

7　技能士 (1.7.2)

職種別に可能なものについては、積極的に活用のこと。

⑧ 施工数量調査 (1.6.2)

調査範囲及び調査方法　(・) 工種別の特記による

9　調査のための破壊部分の補修 (1.5.3)

補修方法　・　図示（図面番号：　）　・（　）

⑩ 建築材料等

1）　本工事に使用する木材は、津市公共建築物等木材利用方針に基づき、木材の利用に努めること。

2）　本工事に使用する建築材料のホルムアルデヒド放散量等は、F☆☆☆☆以上とする。

⑪ 化学物質の濃度測定 (1.6.9)

測定対象化学物質（●で示したものとする。）

適用	施設用途	ホルムアルデヒド	トルエン	キシレン	エチルベンゼン	スチレン	パラジクロロベンゼン
●	学校,教育施設	●	●	●	●	●	●
	住宅	●	●	●	●	●	
	その他	●	●	●	●	●	

測定対象室及び測定個所数　(・) 図示（図面番号：A-13,A-15　）　・（　）

測定方法（(・) パッシブ法　・　アクティブ法）

測定時期　(・)（改修前、改修後　）

報告書提出部数　２部

⑫ 特別な材料の工法

改修標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。

⑬ 騒音・振動の防止

低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程に基づき指定された建設機械の使用に努めること。

⑭ 工事写真 (1.2.4)

営繕工事写真撮影要領(国土交通省大臣官房官庁営繕部（最新版）)に従い撮影する。

提出部数１部　用紙は上質紙とする。

なお、デジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について（令和5年3月1日国営建技14号）」による。

⑮ 完成図等 (1.8.2) (1.8.3)

作成する　（(・) 完成図　・　保全に関する資料　・（　））

完成図作図範囲（設計図を訂正）

完成図はＣＡＤにより作成することとし、著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む）にかかる使用権は発注者に移譲するものとする。また、製本２部（原図サイズ）により提出すること。

⑯ 完成写真

(・) デジタルカメラで撮影し、全てＬ版相当サイズで印刷する。

（Ａ４版用紙に１ページあたり３枚）　１部

箇所数は外観４面各室２面程度とし、規定の箇所数が確保できない場合や枚数が多大になる場合には、監督員と協議すること。写真は、着工前・施工中・完成を同一場所から、黒板なしで撮影すること。

⑰ 設備工事との取合い

施工範囲

(・) 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔・開口部の補強

(・) 図示した壁・天井の仕上材・下地材の切込み及び補強

・　自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強

・　駆動装置が電動による建具等の２次側の配管・配線及び操作スイッチ

施工図

(・) 設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受けること。

⑱ 既存部分等への処置 (1.3.13)

工事施工に際し、既存部分を汚損した場合又は損傷した場合は、監督職員に報告するとともに承諾を受けて原状に準じて補修する。

⑲ 事故の発生時

工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により工事事故発生報告書を監督員が指示する期日までに、監督員に提出すること。

また、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。

⑳ 消防提出書類

1）　消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成

(・) 本工事（(・) 建築工事　(・) 電気設備工事　(・) 機械設備工事）　・　別途工事

2）　防火対象物使用開始届出書

書類の作成（電気設備図面の作成及び電気設備に関する部分の記入）を行うこと。

㉑ 労働安全衛生法に基づく労働災害防止措置

労働安全衛生法第30条第１項に規定する措置を講ずる必要がある場合、その措置を講ずべき者として、同法第30条第２項の規定に基づき、本工事の請負者を指名する。この場合における指名への同意は、本工事の請負契約を締結することにより得られたものとみなす。

㉒ 不正軽油の使用の禁止

1）　一般事項

工事現場で使用し、又は使用させる車両（資機材等の搬出入車両を含む。）並びに建設機械等の燃料として、不正軽油（地方税法第144条の32(製造等の承認を受ける義務等)の規定に違反する燃料をいう。）を使用してはならない。

2）　調査の協力

受注者は、市が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また、受注者は下請負者等に同調査に協力するよう管理及び監督しなければならない。

3）　是正措置

受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。また、受注者は下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じるよう管理及び監督しなければならない。

２３　屋外広告物

屋外広告物を設置する場合は、「三重県屋外広告物条例」第２３条に規定する屋外広告業の登録事業者であること。

㉔ 石綿含有建材の調査 (1.5.1)

(・) 石綿含有建材の事前調査

調査範囲　(・) 改修部分すべて　・（　）

資与資料　(・) 既存の設計図書　(・) 石綿含有建材の調査報告書　・（　）

・分析調査

分析対象　アクチノライト、アモサイト、アンフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト

分析方法

材料名	定性分析法 JIS A 1481-1 JIS A 1481-2	定量分析法 JIS A 1481-3 JIS A 1481-4 JIS A 1481-5
	・箇所数（　）	・箇所数（　）
	・箇所数（　）	・箇所数（　）

サンプル数　1箇所あたり3サンプル

採取箇所　・図面(図面番号：　）　・（　）

② 仮設工事

1　騒音・粉じん等の対策 (2.1.3)

・　防音パネル　設置範囲　・　図示（図面番号：　）

・　防音シート　設置範囲　・　図示（図面番号：　）

② 足場 (2.2.1) (表2.2.1)

設置する足場について、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年４月）」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の２の(２)手すり据置き型方式又は(３)手すり先行専用足場方式により行うこと。

内部足場の種別（参考）　(・) 脚立　・　棚足場　(・) その他（ 階段足場、ｼｬﾌﾄ内足場 ）

外部足場の種別（参考）　(・) 手摺先行据置枠組本足場　・　移動足場　・　高所作業車

・　その他（　）

外部足場設置範囲（参考）　(・) 外部改修部　・　設備改修部　・　昇降用　・　転落防止用

防護シート等による養生　(・) 適用する　・　適用しない

足場の組立て後、足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行い記録を保存すること。

つり足場、張出し足場又は高さが１０ｍ以上の足場で、組立から解体までの期間が６０日以上のものについては、組立て後市監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。

なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。

1）　足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第１９条の２に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者

2）　労働安全衛生法第８１条に規定する労働安全コンサルタント（区分が土木又は建築である者）や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等法第８８条に基づく足場の届出に係る「計画作成参画者」に必要な資格を有する者

3）　全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記１）又は２）に掲げる者と同等の知識・経験を有する者

③ 既存部分の養生 (2.3.1)

既存部分の養生　・　図示（図面番号：　）

既存ブラインド・カーテンの養生

養生方法（　）

保管場所　・　構内既存施設内

固定された備品、机、ロッカーの移動

(・) 行う　・　行わない

④ 仮設間仕切り (2.3.2) (表2.3.1)

屋内の仮設間仕切り　・　Ａ種　(・) Ｂ種　・　Ｃ種

合板　厚さ　・　９㎜　・（　）

せっこうボード　厚さ　(・) 9.5㎜　・（　）

合板又は石こうボードの塗装　・　行う　(・) 行わない

仮設扉　設置箇所　・　図示（図面番号：　）

仕様　・　合板張り木製扉　(・)（ｱﾙﾐ　）

5　監督員事務所 (2.4.1)

・　構内建物内の一部を使用する。

・　設置する　・　設置しない

監督員事務所の規模(単位:㎡)

適用					
規模	10程度	20程度	35程度	65程度	100程度

監督員事務所の仕上げ

部位等	仕上げ
床	合板張り又はビニル床シート張り
内壁・天井	合板張り又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルション塗り
屋根	装溶融亜鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り

6　監督員事務所の設備・備品等 (2.4.1)(2)(7)

種類	机・いす	書棚	黒板・白板	掛時計	温度計
数量	組	台	個	個	個
種類	長靴	雨合羽	保護帽	懐中電灯	衣類ロッカー
数量	足	着	個	個	台
種類	消火器	掃除具	受注者加入電話 FAX	冷暖房機器	インターネット
数量	個	個	台	台	台

⑦ 仮設便所

構内既存の施設

・　利用できる　(・) 利用できない

⑧ 工事用水

構内既存の施設

(・) 利用できる（　・　有償　(・) 無償）　・　利用できない

⑨ 工事用電力

構内既存の施設

(・) 利用できる（　・　有償　(・) 無償）　・　利用できない

有償利用の場合において、本工事で新規受電又は既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は、本工事に含まれる。

⑩ 交通誘導警備員

配置　(・) 図示（図面番号：A-52　）

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書（改修）１	A2	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		A-01

③ 防水改修工事

1 アスファルト防水
(3.3.3)
(表3.3.3)～
(表3.3.10)

工 法	種 別	施 工 箇 所
・ P1B	・ B-1 ・ B-2	
・ P1E ・ P2E	・ E-1 ・ E-2	

改質アスファルトルーフィングシート
種類 ・ 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による ・ (　　)
厚さ ・ 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による ・ (　　)

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート
種類 ・ 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による ・ (　　)
厚さ ・ 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による ・ (　　)

(3.3.2) 断熱工法の断熱材 (P1BI,P2AI,P0DI,M3DI,M4DI)
材質 ・(　　)
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ（スキンあり）
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材２種１号
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号
厚さ ・(　　)
ルーフドレン回り及び立上がり部周辺断熱材の張りじまい位置 ・ 図示（図面番号：　　）

(3.3.3)(2)(イ) 脱気装置 (M3D,P0D,P0DI,M3DI,M4DI)
(3.3.3)(3) ・ 設ける（設置数量 ・ 図示（図面番号：　　）、材質（　　））
・ 設けない
・ 仕上塗料 種類（　　） 使用量（　　）
(3.3.5) 保護コンクリートの厚さ こて仕上げ ・ 水下80mm以上 ・(　　)
床タイル張り ・ 水下60mm以上 ・(　　)
(表8.1.5) こて仕上げの場合のコンクリートの平たんさ ・ ａ種 ・ ｂ種 ・ｃ種
保護層 ・ 設ける ・ 設けない
屋上排水溝の適用 ・ 適用する
立上り保護 ・ 乾式保護材（　　）
・ れんが（材種 ・ ＪＩＳ R1250）

2 改質アスファルトシート防水
(3.4.2)
改質アスファルトシート
種類 ・ 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による ・(　　)
厚さ ・ 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による ・(　　)

粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシート
種類 ・ 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による ・(　　)
厚さ ・ 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による ・(　　)

断熱工法の断熱材 (M3ASI,M4ASI,P0ASI)
材質、厚さ（　　）
図示 ・(　　)

(3.4.3)
(表3.4.1)～
(表3.4.3)

工法	種別	施工箇所	仕上塗料
・ M4AS	・ AS-T1 ・ AS-T2 ・ AS-J2		

脱気装置
・ 設ける（設置数量 ・ 図示（図面番号：　　）、材質（　　））
・ 設けない

3 合成高分子系ルーフィングシート防水
(3.5.2)
ルーフィングシート
種類 ・ 改修標準仕様書(表3.5.1)～(表3.5.3)による ・(　　)
厚さ ・ 改修標準仕様書(表3.5.1)～(表3.5.3)による ・(　　)
絶縁用シート ・ 発泡ポリエチレンシート
固定金具の材質及び寸法形状 ・図示（　　）
断熱工法の断熱材 (P0SI,S4SI,S3SI,M4SI)
材質、厚さ（　　）
・図示（　　）

(3.5.3)
(表3.5.1)～
(表3.5.3)

工法	種別	種別	仕上塗料
・ S3S ・ S3SI	・ S-F1(SI-F1) ・ S-F2(SI-F2)		

(3.5.3) 脱気装置
・ 設ける（設置数量 ・ 図示（図面番号：　　）、材質（　　））
・ 設けない
(3.5.4) 既存防水層下地がPCコンクリート部材の場合
目地処理 ・ 図示（図面番号：　　）
増張り ・ 図示（図面番号：　　）
機械式固定方法
風圧力に対応した工法 ・図示（図面番号：　　）
保護層の施工・ 図示（図面番号：　　）

4 塗膜防水
(3.6.3)
(表3.6.1)
(3.6.3)(1)

工法	種別	施工箇所	仕上塗料
(・) P0X ・ L4X	(・) X-1 ・ X-2 ・ X-1H ・ X-2H	平場（屋上、玄関屋根 昇降口屋根）	フッ素仕上げ
(・) P0X ・ L4X	・ X-1 (・) X-2 ・ X-1H ・ X-2H	立上り・庇（屋上、玄関屋根 昇降口屋根、庇）	フッ素仕上げ

X-1,X-2：特化物無配合１成分形ｳﾚﾀﾝ塗膜防水

脱気装置
(・) 設ける（設置数量 (・) 図示（図面番号：A-13, A-17 ）、材質（ ステンレス ））
・ 設けない

(3.6.3)(2)

工法	種別	施工箇所
・ P1Y ・ P2Y	・ Y-2 ・	

保護層 ・ 図示（図面番号：　　）

5 既存防水層表面の仕上塗装の除去
(3.2.6)(3)(イ)
(3.2.6)(3)(カ)
(M4AS,M4ASI,M4C,M4DI) ・ 行う (・) 行わない
(L4X) ・ 行う (・) 行わない

6 シーリング
(3.7.2)
(表3.7.1)
材料

種類	材種	施工箇所
(・) SR-1	シリコーン系	ｶﾞﾗｽ周り
(・) MS-2	変成シリコーン系	建具周り
・ PS-2	ポリサルファイド系	
(・) PU-2	ポリウレタン系	外壁目地

(3.7.4～7) 工法
(・) シーリング充填工法
(・) シーリング再充填工法
・ 拡幅シーリング再充填工法
・ ブリッジ工法

(3.7.8) シーリング材の試験
・ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験 (・) 行わない

7 とい
(3.8.2)
(表3.8.1)
(表3.8.2)
材種 (・) 硬質ポリ塩化ビニル管（カラー） ・ 配管用鋼管（白管）
・(　　)

とい受金物及び足金物

といの材種	形状	取付け間隔
硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	φ100 樋受金物 SUS製	1.0m内外

工法 ・ 図示（図面番号：　　）

8 アルミニウム製笠木
(3.9.2)(3)
(表3.9.1)
部材の種類
・ 押出し250形
・ 押出し300形
・ 押出し350形
・ 板材折曲げ形（本体幅（　　）mm、板厚 ・ 2.0mm ・(　　)）

(3.9.3)(2) 固定金具の間隔（　　mm）
固定方法 ・(　　)

(3.9.2)(4) 表面処理 ・(　　)
(3.9.3) 工法 既存笠木等の撤去 ・ 図示（図面番号：　　）
下地補修の工法 ・ 図示（図面番号：　　）
板材折曲げ形の笠木の取付方法 ・ 図示（図面番号：　　）
笠木固定金具の工法 ・ 図示（図面番号：　　）
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応したか固定金具の間隔固定方法等は施工計画書として提出する。

9 保証書

工事区分	材料名	保証年数
防水工事	(・)防水	(・)10年 ・ 年

※防水施工業者、製作メーカー、受注者の連名により提出する。

④ 外壁改修工事

1 施工数量調査
(・) 行う ・ 行わない
調査範囲 (・) 全面 ・(　　)
調査項目 (・) ひび割れ部（・ 幅0.2mm未満 (・) 0.2mm以上～1.0mm以下 (・) 1.0mm以上超）
(・) はがれ及びはく落部分
(・) 浮き部
調査方法 (・) 打診、目視及びクラックスケール等（ (・) 足場 ・ ゴンドラ）
報告書 ２部（立面図等に記載、必要に応じて写真添付）

2 改修工法の種類
(4.1.4)
(4.1.5)

外壁	種類	改修工法
(・) コンリート打放し仕上げ外壁	ひび割れ部	(・) 樹脂注入工法 (・) Ｕカットシール材充填工法 ・ シール工法
	欠損部	(・) 充填工法
(・) モルタル塗り仕上げ外壁	ひび割れ部	(・) 樹脂注入工法 (・) Ｕカットシール材充填工法 ・ シール工法
	欠損部	(・) 充填工法 ・ モルタル塗替え工法
	浮き部	(・) アンカーピンニング (・) 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法
・ タイル張り仕上げ外壁	ひび割れ部	・ 樹脂注入工法
	欠損部	・ タイル部分張替え工法 ・ タイル張替え工法
	浮き部	・ アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ エポキシ樹脂注入タイル固定工法 ・ タイル部分張替え工法 ・ タイル張替え工法
	目地	・ 目地ひび割れ部改修工法 ・ 伸縮調整目地改修工法
(・) 塗り仕上げ外壁	新規仕上げ	(・) 薄付け仕上塗材塗り ・ 厚付け仕上塗材塗り (・) 複層仕上塗材塗り ・ 可とう形改修用仕上塗材塗り ・ マスチック塗材塗り ・ 外壁用塗膜防水材塗り

3 改修工法等
(4.2.4)(1)
(4.2.5)
(4.3.6)
(4.4.6)
(・) 樹脂注入工法
種類 (・) 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
注入量（　　）注入間隔（　　）
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法
注入量（　　）注入口間隔（　　）
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法
注入量（　　）注入口間隔（　　）
材料 エポキシ樹脂JIS A6024(建築補修用注入エポキシ樹脂)
コア抜取検査 ・ 行う (・) 行わない
・ 抜取り個数（　　）
・ 抜取り部分補修方法（　　）

(4.2.4)(2)
(4.2.6)
(4.3.7)
(・) Ｕカットシール材充填工法
材料 (・) シーリング用材充填
(・) ＰＵ－１ ・ ＰＵ－２ ・(　　))
・ 可とう性エポキシ樹脂充填
シーリング材の上にポリマーセメントモルタル充填
(・) 行う ・ 行わない

(4.2.4)(3)
(4.2.7)
(4.3.8)
・ シール工法
材料 ・ パテ状エポキシ樹脂
・ 可とう性エポキシ樹脂

(4.2.4)(4)
(4.2.8)
(4.3.9)
(・) 充填工法
材料 (・) エポキシ樹脂モルタル
・ ポリマーセメントモルタル

(4.3.5)(5)
(4.3.10)
・ モルタル塗替え工法
材料 ・ 現場調合材料 ・ 既調合材料
・ 既製目地材の適用及び形状（　　）
・ 仕上げ厚（　　）

(4.3.5)(6)
(4.3.11)(4.4.9)
(図4.3.1)
(・) アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
アンカーピンの本数 (・) 標準 ・(　　)
材料 (・) ステンレス鋼（ＳＵＳ３０４） ・(　　)

(4.3.5)(6)
(4.3.12)(4.4.10)
(図4.3.2)
・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
アンカーピンの本数び注入口の数 ・ 標準 ・(　　)
材料 ・ ステンレス鋼（ＳＵＳ３０４） ・(　　)

(4.3.5)(6)
(4.3.13)(4.4.11)
(図4.3.2)
・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
アンカーピンの本数び注入口の数 ・ 標準 ・(　　)
材料 ・ ステンレス鋼（ＳＵＳ３０４） ・(　　)

(4.3.5)(7)
(4.3.14)(4.4.12)
(図4.3.3)
・ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
注入口付アンカーピンの本数 ・ 標準 ・(　　)
材料 ・ ステンレス鋼（ＳＵＳ３０４） ・(　　)
呼び径 ・ ６mm ・(　　)

(4.3.5)(7)
(4.3.15)(4.4.13)
(図4.3.4)
・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
注入口付アンカーピンの本数及び注入口の数 ・ 標準 ・(　　)
材料 ・ ステンレス鋼（ＳＵＳ３０４） ・(　　)
呼び径 ・ ６mm ・(　　)

(4.3.5)(7)
(4.3.16)(4.4.14)
(図4.3.4)
・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
注入口付アンカーピンの本数及び注入口の配置 ・ 標準 ・(　　)
材料 ・ ポリマーセメントスラリー（　　）
・ 注入口付アンカーピン（ ・ ステンレス鋼（ＳＵＳ３０４） ・(　　))
呼び径 ・ ６mm ・(　　)

(4.4.5)(4)
(4.4.7)
・ タイル部分張替え工法
張替え材料 ・ ポリマーセメントモルタル
・ 接着剤（一液反応硬化形変成シリコーン樹脂） ・ (　　)

施工箇所	形状	寸法	耐滑り性	標準・特注色の別	耐凍害性の有無

・ 役物（ ・ 一体成形 ・ 接着加工）
・ 試験張り ・ 行う ・ 行わない
・ 見本焼き ・ 行う ・ 行わない
・ 既調合モルタル ・ 使用する ・ 使用しない

(4.4.5)(4)
(4.4.8)
(表4.4.5)
・ タイル張替え工法

タイルの種類	タイルの大きさ	工法	塗り厚(mm)
・ 外装 タイル	小口平 二丁掛 100角	・ 密着張り	5～8
		・ 改良圧着張り	下地側 4～6 タイル側 1～3
・ ユニットタイル	50二丁以下	・ マスク張り	3～4
		・ モザイクタイル貼り	3～5

(4.4.15) ・ 注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法
注入口付アンカーピンの本数（　　本）

(4.4.5)(5)
(4.4.16)
・ 目地ひび割れ部改修工法
・ 伸縮調整目地改修工法
伸縮調整目地
（位置　　寸法　　×　　）
検査 シーリング接着性試験
・ 行う（ ・ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験）

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書（改修）２	A2	―――	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康

No. A-02

④ 塗り仕上げ
(4.5.2)
(表4.5.1(その1)
(その2))

種　類	呼び名	仕上げ形状	工法
薄付け仕上塗材	⊙ 外装薄塗材Ｅ	⊙ 砂壁状 ・ ゆず肌状	吹付け
		・ 平たん状 ・ 凹凸状	こて
		・ ゆず肌状 ・ さざ波状	ローラー
		・着色骨材砂壁状	・ 吹付け ・ こて
	・（　　）	・（　　）	・（　　）
厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材Ｃ	・ 吹放し ・ 凸部処理	吹付け
		・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起し ・ 掻き落とし	こて
	・ 外装厚塗材Si ・ 外装厚塗材Ｅ	・ 吹放し ・ 凸部処理	吹付け
		・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起し	・こて ・ローラー
複層仕上塗材	⊙ 複層塗材Ｅ ・ 複層塗材RE ・ 防水形複層塗材Ｅ ・ 防水形複層塗材RE	・ ゆず肌状	ローラー
		・ 凸部処理 ⊙ 凹凸状	吹付け
	・（　　）	・（　　）	・（　　）
可とう形改修用仕上塗材	・ 可とう形改修塗材Ｅ ・ 可とう形改修塗材RE ・ 可とう形改修塗材CE	・ 平たん状 ・ さざ波状	ローラー
		・ ゆず肌状	吹付け

・ 外装厚塗Ｃの上塗材がセメントスタッコ以外の場合
材所要量（　　kg／m2）

(4.6.2)　・ マスチック塗材塗り　・ Ａ種　・ Ｂ種
(表4.6.1)

(表4.5.2)　複層仕上塗材及び可とう形改修塗材の上塗材の種類

樹脂種類	溶媒種類	外　　観
・ アクリル系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無
	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無
・ シリカ系	・ 水系	・ 艶無
・ ポリウレタン系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無
	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無
・ アクリルシリコン系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無
	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無
⊙ ふっ素系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無
	⊙ 水系	⊙ 艶有 ・ 艶無

（注）　艶無及びメタリックは、可とう形複層塗材、防水形複層塗材、及び可とう形改修塗材には適用しない。

外壁用塗膜防水材の仕上げの形状及び工法
(表4.7.1)

種類	仕上げの形状	工法
外壁用塗膜防水材	・ 凹凸状 ・ 凸部処理	・ 吹付け
	・ ゆず肌状 ・ さざ波状	・ ローラー

(4.5.4)　既存塗膜等の除去及び下地処理

工　　法	処理範囲
・ サンダー工法	
⊙ 高圧水洗工法　(30～50MPa)	外壁・軒天・庇
・ 塗膜はく離剤工法	
⊙ 水洗い工法（⊙ 高圧ポンプ（10～15MPa）　・ デッキブラシ ）	外部巾木

(4.5.5)　下地調整
⊙ C-1　・ C-2　・ CM-2　・ E　・（　　）

⑤ 建具改修工事

1　改修工法
(5.1.3)
・ かぶせ工法
・ カバー工法　・ 持出し工法　・ ノンシール工法

・ 撤去工法
・ はつり工法　・ 引抜き工法

② 防火戸
(5.1.4)
⊙ 例示仕様　・ 個別認定（認定番号：　　）
・ 自動閉鎖機構　⊙ 図示（図面番号：A-49　）

3　見本の製作
(5.1.5)
・ 製作する　・ 製作しない

4　防犯建物部品
(5.1.7)
・ 図示（図面番号：　　）

5　ブラインドボックス等
(5.1.6)(3)
・ 再使用する　・ 再使用しない

6　アルミニウム製建具
(5.2.2)
(5.2.4)
(表5.2.1)
外部建具の性能等級等　・ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種
・ 枠の見込み寸法　・ 70mm　・（　　）
・ 防音ドアセット、防音サッシ（等級　　）
・ 断熱ドアセット、断熱サッシ（等級　　）
・ 結露水の処理方法　・ 図示（図面番号：　　）

(表5.2.2)　アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理の種別
・ 外部に面する建具（過酷な環境の屋外）
・ BA-1　・ BA-2　・（　　）
・ 外部に面する建具（一般的な環境の屋外）
・ BB-1　・ BB-2　・（　　）
・ 内部に面する建具
・ BC-1　・ BC-2　・（　　）

7　網戸
(5.2.3)(5)
・ 可動式　・ 固定式
防虫網の材質
・ 合成樹脂製　・ ガラス繊維入り合成樹脂製　・ ステンレス(SUS316)製
網目
・ 16メッシュ　・ 18メッシュ

8　樹脂製建具
(5.3.2)～(5.3.5)
(表5.3.1)～
(表5.3.3)
外部に面する樹脂製建具の性能等級等
・ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種

・ 防音ドアセット、防音サッシ（等級　　）
・ 断熱ドアセット、断熱サッシ（等級　　）
・ 日射熱取得性（等級　　）
ガラス　・ 複層ガラス　・（　　）
建具枠見込寸法　・ 図示（図面番号：　　）
水切り　・ 図示（図面番号：　　）
ぜん板　・ 図示（図面番号：　　）
丁番　・ 改修標準仕様書(表5.7.3)による　・ 図示（図面番号：　　）

9　鋼製建具
(5.4.2)
鋼製建具の性能等級
・ 簡易気密性ドアセット
・ 外部に面する建具の耐風圧
・ S-4　・ S-5　・ S-6
・ 防音ドアセット、防音サッシ（等級　　）
・ 断熱ドアセット、断熱サッシ（等級　　）
・ 耐震ドアセット（等級　　）

(5.4.4)
・ H>2400又はW>950の建具
鋼板類の厚さ　・ 図示（図面番号：　　）　・ 改修標準仕様書表5.4.2による

１０　鋼製軽量建具
(5.5.2)
(5.5.5)
(5.2.2)(2)
(5.5.3)
(5.5.4)
(5.6.3)(1)
(5.2.3)(1)
鋼製軽量建具の性能等級
・ 簡易気密性ドアセット
・ 防音ドアセット、防音サッシ（等級　　）
・ 断熱ドアセット、断熱サッシ（等級　　）
・ 耐震ドアセット（等級　　）
・ H>2400又はW>950の建具
鋼板類の厚さ　・ 図示（図面番号：　　）　・ 改修標準仕様書表5.5.1による

表面仕上げ
・ 塗装
・ ビニル被覆鋼板
・ カラー鋼板
・ ステンレス鋼板（ ・ HL　・ 鏡面）
・（　　）

１１　ステンレス製建具
(5.6.2)
(5.4.2)
ステンレス製建具の性能等級
・ 簡易気密性ドアセット
・ 外部に面する建具の耐風圧
・ S-4　・ S-5　・ S-6
・ 防音ドアセット、防音サッシ（等級　　）
・ 断熱ドアセット、断熱サッシ（等級　　）
・ 耐震ドアセット（等級　　）　・ ＭＤＦ　改修標準仕様書5.7.2(2)（イ）(a)～(c)　・（　　）

(5.6.3)　材料　・ SUS304　・（　　）

(5.6.4)　表面仕上げ　・ HL仕上げ　・（　　）

(5.6.5)　曲げ加工　・ 普通曲げ　・ 角出し曲げ

１２　木製建具
(5.7.2)
(5.7.3)
含水率　・ Ａ種　・ Ｂ種
・ フラッシュ戸　表面材　・（　　）
厚み　・ 改修標準仕様書表5.7.6　・（　　）
表面材の品質等　・ 改修標準仕様書5.7.2(2)（イ）(a)～(c)　・（　　）
・ ＭＤＦ　表裏面の状態による区分　・（　　）
曲げ強さによる区分　・（　　）
接着剤による区分　・（　　）
難燃性による区分　・（　　）
・ 引戸の召合せかまちをいんろう付きとする
・ かまち戸　見込み寸法　・ 36mm　・（　　）
かまち及び鏡板の樹種　・（　　）
・ ふすま　見込み寸法　・ 19.5mm　・（　　）
種別　・ Ｉ種　・ Ⅱ種
ふすま紙の上張り種類　・（　　）
縁の仕上げ　・（　　）
・ 戸ぶすま　見込み寸法　・ 30mm　・（　　）
表面材　・（　　）
厚み　・ 改修標準仕様書表5.7.6　・（　　）
表面材の品質等　・ 改修標準仕様書5.7.2(2)（イ）(a)～(c)　・（　　）
・ ＭＤＦ　表裏面の状態による区分　・（　　）
曲げ強さによる区分　・（　　）
接着剤による区分　・（　　）
難燃性による区分　・（　　）
・ 引戸の召合せかまちをいんろう付きとする
上張りの種類　・（　　）

・ 紙張り障子　見込み寸法　・ 30mm　・（　　）

枠及びくつずりの材料　・（　　）

13 建具用金物
(5.8.2)
金物の見え掛かり部等の材質等
⊙ 改修標準仕様書(表5.8.1)による
・ 図示（図面番号：　　）

(5.8.4)　マスターキー　・ 製作する　・ 製作しない
引戸用鍵箱　・ 必要　・ 不要

１４　自動ドア開閉装置
(5.9.2)
駆動装置及び検出装置の性能値（ ・ 車椅子使用者用便房出入口用 ）
・ 図示（図面番号：　　）

(5.9.3)
(表5.9.4)
引き戸用検出装置の種類
・ 図示（図面番号：　　）

(5.9.3)(9)　凍結防止措置　・ あり　・ なし

１５　自閉式上吊り引戸装置
(5.10.3)
自閉式上吊り引戸装置の性能値
・ 改修標準仕様書(表5.10.1)による　・（　　）

１６　重量シャッター
(5.11.2)
種類
・ 管理用シャッター　・ 外壁用防火シャッター
・ 屋内用防火シャッター　・ 防煙シャッター

耐風圧強度（　　Pa以上）

(5.11.2)(3)
(表5.11.1)
開閉機能
・ 上部電動式（手動併用）　・ 上部手動式

(5.11.2)(6)
(5.11.3)
管理用重量シャッターのシャッターケース
・ 設ける　・ 設けない
・ めっき付着量　・ Z12　・ F12　・（　　）

１７　軽量シャッター
(5.12.2)
(表5.12.1)
(5.12.3)
(5.12.4)
開閉形式
・ 上部電動式（手動併用）　・ 手動式

耐風圧強度（　　Pa以上）

スラットの材質及び形状
・ インターロッキング形　・ オーバーラッピング形
・ めっき付着量　JIS G 3312　・ Z06　・ F06　・（　　）
JIS G 3322　・ AZ90　・（　　）

１８　オーバーヘッドドア
(5.13.2)
型式及び機構
セクション材料
・ スチールタイプ　・ アルミニウムタイプ　・ ファイバーグラスタイプ

耐風圧強度（　　Pa以上）

開閉方式
・ バランス式　・ チェーン式　・ 電動式

収納形式
・ スタンダード形　・ ローヘッド形　・ ハイリフト形　・ バーチカル形

(5.13.3)
ガイドレール
・ 溶融亜鉛めっき鋼板　・ ステンレス鋼板

１９　板ガラス
(5.14.2)(1)
(5.14.3)
・ 図示（図面番号：　　）

２０　ガラス留め材
(5.14.2)(2)
・ シーリング　・ ガスケット（　　）

２１　ガラス溝の寸法、形状等
(5.14.3)
・ 図示（図面番号：　　）
・ 建具の製造所の仕様による

２２　ガラスブロック積み
(5.14.5)
ガラスブロック
表面形状、寸法、厚さ　・ 図示（図面番号：　　）
金属枠、補強材　・ 図示（図面番号：　　）

化粧カバー　・ 図示（図面番号：　　）
工法　・ 図示（図面番号：　　）
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施行計画書として提出する。

⑥ 内装改修工事

① 一般事項
(6.1.3)(2)
既存間仕切壁の撤去に伴う取り合い部分の改修範囲

改修部分	改 修 範 囲
⊙ 天井	⊙ 図示（図面番号：A-22,A-23　）
・ 壁	・ 図示（図面番号：　　）
⊙ 床	⊙ 図示（図面番号：AEV-13,AEV-14 ）

(6.1.3)(3)　天井内の既存壁の撤去に伴う取り合い部の天井改修範囲
・ 図示（図面番号：　　）　・（　　）

(6.1.3)(5)　天井の撤去に伴う取り合い部の壁面改修
・ 図示（図面番号：　　）　・（　　）

② 既存床撤去、下地補修
(6.2.2)(1)(7)
既存床仕上げ材の除去等
浮き、欠損部等による下地モルタルの撤去
・ 行う　⊙ 行わない

(6.2.2)(1)(4)　合成樹脂塗り床材の除去等
・ 機械的除去工法　・ 目荒し工法

(6.2.2)(3)　改修後の床の清掃範囲
・ 施工範囲及び施工によって汚れが生じた範囲
・（　　）

3　既存壁撤去、下地補修
(6.3.2)
既存間仕切壁の撤去に伴う他の構造体の補修工法
・（　　）

4　木下地等
(6.5.2)(1)(4)
(表6.5.1)
木材の含水率（工事現場搬入時、質量比）

部材名称	種　別
下地材	・ Ａ種　・ Ｂ種
造作材	・ Ａ種　・ Ｂ種

(6.5.2)(2)(7)　製材
「製材の日本農林規格」による製材

部位	樹種・寸法・形状	等級	含水率	保存処理	材面の品質
下地用 針葉樹製材	・ 図示 （図面番号：　　）	・（　　）	・（　　）	・（　　）	・（　　）
造作用 針葉樹製材	・ 図示 （図面番号：　　）	・（　　）	・（　　）	・（　　）	・（　　）
広葉樹製材	・ 図示 （図面番号：　　）	・（　　）	・（　　）	・（　　）	・（　　）

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書（改修）３	A2 ――	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	No. A-03

(6.5.2)(2)(イ)
(6.5.2)(2)(ウ)
(表6.5.2)

「製材の日本農林規格」以外の製材
樹種、寸法、材面の品質、防虫処理、含水率　・　図示（図面番号：　　）
造作材の材面の品質　・　Ａ種　・（　　）
樹種

(5.5.6)(1)～
(5.5.9)(1)

部　位	樹　種	県　産　材

(6.5.2)(3)(ア)

造作用集成材
「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

部　位	品 名 ・ 樹 種	見付け材面の寸法・品質・数	厚さ
造作用集成材	・　図示（図面番号：　　）	・　図示（図面番号：　　）	
化粧ばり造作用集成材	・　図示（図面番号：　　）	・　図示（図面番号：　　）	・（　　）
化粧ばり構造用造作用集成柱	・　図示（図面番号：　　）		・（　　）

(6.5.2)(3)(イ)

「集成材の日本農林規格」以外の製材
樹種、寸法、見付け材面の品質　・　図示（図面番号：　　）
含水率　・　１５％以下　・（　　）

(6.5.2)(4)(ア)

造作用単板積層材
「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

部位	品名・寸法	表面の品質	防虫処理
造作用単板積層材	・　図示（図面番号：　　）	・（　　）	・（　　）

(6.5.2)(4)(イ)

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材
寸法、表面の品質、防虫処理　・　図示（図面番号：　　）
含水率　・　１４％以下　・（　　）

(6.5.2)(5)

「直交集成板の日本農林規格」による直交集成板
品名、曲げ強度、種別、接着性能、樹種及び寸法　・　図示（図面番号：　　）

(6.5.2)(6)

・　合板等

品名（品目）	樹種名	接着の程度	等級	板面の品質	防虫処理等	厚さ

(6.5.3)(1)

接合具等
造作材化粧面の釘打ち　・　隠し釘打ち　・　（　　）

(6.5.3)(2)

諸金物
形状、寸法及び材質　・　図示（図面番号：　　）

(6.5.5)(1)

・　防腐、防蟻処理
適用部位　図示（図面番号：　　）
保存処理性能区分（　　）
薬剤の塗布等の処理方法（　　）
附属書Ａに基づく表面処理用木材保存剤　・　適用する（　・薬剤の種類（　　）　・　適用部材（　　））
ボード原料接着剤への防腐・防蟻処理（　　）

(6.5.5)(2)

・　防虫処理
・　図示（図面番号：　　）

5　軽量鉄骨天井下地
(6.6.2)
(表6.6.1)
(6.6.3)

野縁等の種類
・　屋内　・　19形　・（　　）
・　屋外　・　25形　・（　　）

形式及び寸法
・　屋外　・　図示（図面番号：　　）
・　耐震天井　・　図示（図面番号：　　）
・　ふところ≧3.0m　・　改修標準仕様書(6.6.4)(8)　・　図示（図面番号：　　）

(6.6.4)

既存埋込みインサート
・　使用する　・　使用しない　（※使用する場合は、確認試験を行う）
既存埋込みインサート、あと施工アンカーの確認試験
・　行う（　図示（図面番号：　　））　・　行わない
・　確認試験の箇所数（　　箇所）　・　確認強度（　　）
耐震性・耐風圧性を考慮した補強
・　図示（図面番号：　　）

6　軽量鉄骨壁下地
(6.7.3)

スタッド、ランナー等の種類
・　図示（図面番号：　　）

⑦ ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り
(6.8.2)
(6.8.2)(1)

材料
・　ビニル床シート【JIS A 5705（ビニル系床材）】

種類の記号	色柄	厚さ	備考
ＦＳ	無地	2.0mm	

(6.8.2)(2)

・　ビニル床タイル【JIS A 5705（ビニル系床材）】

種類の記号	色柄	寸法	厚さ	備考
ＫＴ	既設合わせ	300×300	2.0mm	既設　部分張替え

(6.8.2)(3)(ア)(イ)

・　帯電防止床シート又は床タイル

種類	性能	寸法	厚さ	備考

(6.8.2)(3)(ウ)

・　視覚障害者用床タイル

種類	形状	備考
ビニル床タイル	300×300×7.0mm	

(6.8.2)(3)(エ)

・　耐動荷重性床シート

種類	厚さ	備考

(6.8.2)(3)(オ)(カ)

・　防滑性床シート又は床タイル

種類	寸法	厚さ	備考

(6.8.2)(5)

・　ゴム床タイル

種類	色柄	寸法	厚さ	備考

(6.8.3)(1)

工法
下地　・　モルタル塗り　・　セルフレベリング材塗り　・　木下地　・　その他（　　）

(6.8.3)(2)(ウ)

ビニル床シート張り
熱溶接工法　・　適用する　・　適用しない

8　カーペット敷き
(6.9.2)(1)
(表6.9.1)

・　織じゅうたん

種別	糸の種類	パイルの形状	帯電性	品質の程度	色柄
・　Ａ種 ・　Ｂ種 ・　Ｃ種	・　そ毛 ・　紡糸 ・（　）	・　カットパイル ・　ループパイル ・　カット、ループ併用	・　人体帯電圧3KV以下 ・（　）	・（　）	・　無地 ・　柄物

品質の程度欄に記載した商品名は、品質の程度を示すための参考商品名である。（以下同様）

(6.9.2)(2)
(表6.9.2)

・　タフテッドカーペット

パイルの形状	パイル長(mm)	帯電性	工法	品質の程度
・　カットパイル ・　ループパイル ・　カット、ループ併用		・　人体帯電圧3KV以下 ・（　）	・全面接着工法 ・グリッパー工法	・（　）

(6.9.2)(3)
(表6.9.2)

・　タイルカーペット

種類	パイルの形状	寸法(mm)	総厚さ(mm)	品質の程度
	・　カットパイル ・　ループパイル	・500×500 ・（　）	・6.5 ・（　）	・（　）

(6.9.2)(4)
(6.9.2)(5)

下敷き材　・　第２種第２号、厚さ８mm　・（　　）
見切り、押え金物　・　適用する（材質、種類及び形状　・　図示（図面番号：　　））

(6.9.3)(3)

織じゅうたんの接合方法
・　ヒートボンド工法　・　（　　）

(6.9.3)(5)

タイルカーペットの敷き方

平場	・　市松敷き　・　模様流し　・（　　）
階段部分	・　市松敷き　・　模様流し　・（　　）

9　合成樹脂塗床
(6.10.3)(2)(a)
(表6.10.4)
(6.10.3)(2)(b)
(6.10.3)(3)
(表6.10.5)～
(表6.10.8)

弾性ウレタン樹脂系塗床の仕上げ種類、工程
・　平滑仕上げ　・　防滑仕上げ　・　つや消し仕上げ

エポキシ樹脂系塗床の仕上げ種類
・　薄膜流しのべ仕上げ（・　平滑　・　防滑）　・　厚膜流しのべ仕上げ（・　平滑　・　防滑）
・　樹脂モルタル仕上げ（・　平滑　・　防滑）　・　薄膜型塗床仕上げ（・　平滑）

10　フローリング張り
(6.11.4)
(表6.11.2)

・　釘留め工法

材料	種別	樹種
・　フローリングボード（根太張用）		・　なら ・（　）
・　複合フローリング（根太張用）	・　Ａ種 ・　Ｂ種 ・　Ｃ種	

防湿処理　・　図示（図面番号：　　）

(6.11.5)
(表6.11.5)
(表6.11.6)

・　接着工法

材種	樹種	厚さ	大きさ
・　フローリングボード（直張用） ・　フローリングブロック（直張用） ・　複合フローリング（直張用） ・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種	・　なら ・（　）		

緩衝材　・　合成樹脂発泡シート　・　図示（図面番号：　　）

(6.11.6)

塗替え
下地調整　・　（　　）
塗装
・　ウレタン樹脂ワニス塗り（１液形、Ｂ種）
・　オイルステイン塗りのうえワックス塗り
・　生地のままワックス塗り
・（　　）

11　畳敷き
(6.12.2)
(表6.12.1)

種別　・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種　・　Ｄ種
・　Ｄ種の畳床　ＫＴ－（　・Ⅰ　・Ⅱ　・Ⅲ　・Ｋ　・Ｎ　）

12 せっこうボード、その他ボード及び合板張り
(6.13.2)
(表6.13.1)

材種	種別		厚さ(mm)
・　せっこうボード		壁	・　9.5(準不燃) ・　12.5(不燃)
		天井	・　9.5(準不燃) ・　12.5(不燃)
・　化粧せっこうボード	・　トラバーチン模様		・　9.5(不燃)　・　9.5(準不燃)
	・　木目模様		・　9.5(不燃)　・　9.5(準不燃)
・　ロックウール化粧吸音板	・　普通		・　9(　　)　・（　　）
	・　立体模様		・　9(　　)　・（　　）
・　けい酸カルシウム板	・　タイプⅡ0.8FK		
・　有孔せっこうボード		天井	・　9.5(準不燃)

(6.13.3)(4)(ウ)

合板類の張付け
・　Ａ種　・　Ｂ種

(6.13.3)(6)(ア)
(表6.13.5)

せっこうボードの目地工法
・　継目処理　・　突付け　・　目透し

13　壁紙張り
(6.14.2)

施工箇所	種類	防火性能
		・　不燃　・　準不燃
		・　不燃　・　準不燃
		・　不燃　・　準不燃

14　モルタル塗り
(6.15.3)
(6.15.5)
(6.15.6)

モルタル　・　現場調合材料　・　既調合材料
既製目地材　・　使用する（形状：　　）
床の目地　・　図示（図面番号：　　）
下地処理　・　壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mm超　図示（図面番号：　　）

15　タイル張り
(6.16.2)
(6.16.3)

伸縮調整目地
位置　・　図示（図面番号：　　）

タイルの種類

施工箇所	工　法	種　類	形状寸法	耐滑り性	うわぐすり	役　物	標準・特注色の別	耐凍害性の有無

(6.16.3)(2)

試験張り　・　行う　・　行わない
見本焼き　・　行う　・　行わない
既調合モルタル　・　使用できる　・　使用できない

16　セルフレベリング材塗り
(6.17.2)
(6.17.3)

・　せっこう系　・　セメント系
塗厚（　　）mm

17　断熱材
(9.5.2)

断熱材打込み工法

種類	種別	厚さ（mm）	施工箇所
・　ビーズ法ポリスチレンフォーム			
・　押出法ポリスチレンフォーム			
・　Ａ種硬質ウレタンフォーム			
・　フェノールフォーム			

(9.5.3)

断熱材現場発泡工法（吹付硬質ウレタンフォーム）

種類	厚さ[mm]	施工箇所
・　Ａ種１ ・　Ａ種１Ｈ ・（　）	・（　）	・　窓回り等の断熱材補修部分、ルーフドレン回りの床版下等、部分的に後張りとしなければならない箇所 ・（　）

⑦ 塗装改修工事

1 材料
(7.1.3)

・　屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・　次の箇所を除き防火材料とする。（箇所：　　）

2 下地調整
(7.2.1～7.2.7)
(表7.2.1)～
(表7.2.7)

既存塗膜の除去範囲（塗り替えでＲＢ種の場合）
・　図示（図面番号：　　）

種別

下地	種別	ひび割れ部の補修
・　木部	・　RA種　・　RB種　・　RC種	
・　鉄鋼面	・　RA種　・　RB種　・　RC種	
・　亜鉛めっき鋼面	・　RA種　・　RB種　・　RC種	
・　モルタル、プラスター面	・　RA種　・　RB種　・　RC種	・　行う
・　コンクリート、ＡＬＣパネル面	・　RA種　・　RB種　・　RC種	・　行う
・　コンクリート、押出成形セメント板面	・　RA種　・　RB種　・　RC種	・　行う
・　せっこうボード、その他ボード面	・　RA種　・　RB種　・　RC種	

3 素地ごしらえ
(7.3.1～7.3.7)
(表7.3.1)～
(表7.3.7)

種別

下地	種別
・　木部	・　Ａ種　・　Ｂ種
・　鉄鋼面	・　Ａ種　・　Ｂ種　・Ｃ種
・　亜鉛めっき鋼面	・　Ａ種　・　Ｂ種
・　モルタル、プラスター面	・　Ａ種　・　Ｂ種
・　コンクリート、ＡＬＣパネル面	・　Ａ種　・　Ｂ種
・　コンクリート、押出成形セメント板面	・　Ａ種　・　Ｂ種
・　せっこうボード、その他ボード面	・　Ａ種　・　Ｂ種

4 錆止め塗料塗り
(7.4.2)
(7.4.3)
(表7.4.3)～
(表7.4.5)

錆止め塗料種別
鉄鋼面　・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種　・　Ｄ種　・　Ｅ種
亜鉛めっき鋼面　・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種
錆止め塗料塗り種別
鉄鋼面　・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種
亜鉛めっき鋼面　・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種

5 合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)
(7.5.3～7.5.4)
(表7.5.1)～
(表7.5.3)

塗料種別　・　１種　・（　　）
種別

下地	種別
・　木部	・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種
・　鉄鋼面	・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種
・　亜鉛めっき鋼面	・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種

6 クリヤラッカー塗り(CL)
(7.6.2)
(表7.6.1)

種別
木部　・　Ａ種　・　Ｂ種

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書（改修）４	A2	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 / 一級建築士 第317991号 山本　覚康	A-04

7　アクリル樹脂系非水分散形塗料(NAD)
(7.7.2)
(表7.7.1)

種別
・　Ａ種　　・　Ｂ種

⑧ 耐候性塗料塗り(DP)
(7.8.2)～(7.8.4)
(表7.8.1)～(表7.8.3)

上塗り等級
・　１級（フッ素系）　・　２級（シリコン系）　・　３級（ポリウレタン系）

下地	種別
コンクリート面及び押出成形セメント板面	・　Ａ－１種　・　Ａ－２種 ・　Ｂ－１種　・　Ｂ－２種 ・　Ｃ－１種　・　Ｃ－２種

⑨ つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)
(7.9.2)～(7.9.5)
(表7.9.1)～(表7.9.4)

種別

下地	種別
コンクリート、モルタル、プラスター、せっこうボード、その他ボード面	・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種 しみ止め（　　）
木部（屋内）	・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種
鉄鋼面（屋内）	・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種
亜鉛めっき鋼面（屋内）	・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種

⑩ 合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)
(7.10.2)
(表7.10.1)

種別
・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種
しみ止め　・（　　）

１１　ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)
(7.11.2)
(表7.11.1)

種別
・　Ａ種　・　Ｂ種
工程１の着色　・　適用する　・　適用しない

１２　ステイン塗り(OS)
(7.12.2)
(表7.12.1)

種類　・　ピグメントステイン塗り　・　オイルステイン塗り
オイルステイン塗りの工程、塗料　・（　　）

１３　木材保護塗料塗り(WP)
(7.13.2)
(表7.13.1)

種別
・　Ａ種　・　Ｂ種

8の1　耐震改修工事　共通事項

（一般事項）
1　適用範囲

工事内容
・　現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事
・　鉄骨ブレースの設置工事
・　柱補強工事（溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法）
・　柱補強工事（鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法）
・　柱補強工事（連続繊維補強工法）
・　耐震スリット新設工事
・　免震改修・制振改修工事

(8.1.1)
(8.1.2)

工事種別
・　鉄筋工事
・　あと施工アンカー工事
・　コンクリート工事
・　鉄骨工事
・　グラウト工事
・　連続繊維補強工事
・　スリット新設工事
・　免震改修、制振改修工事
・　土工事及び地業工事

8の2　耐震改修工事　撤去工事

1　既存部分の撤去等
(8.21.2)

撤去の範囲
・　図示（図面番号：　　）
・　新設のコンクリート、モルタル、グラウト材、鉄骨、連続繊維に接する部分
・　既存コンクリート撤去範囲に面する部分
・（　　）

既存設備機器、配管撤去、新設、移設等処置
本工事の範囲
・　本工事の範囲として図示された設備機器及び配管、盤類の撤去及び処分
・　設備機器及び配管、盤類の撤去及び処分は本工事の範囲としない。
・（　　）
撤去範囲　・　図示（図面番号：　　）

2　既存構造体の撤去
(8.21.2)
(8.22.2)
(8.23.2)
(8.24.4)

既存構造体の撤去
撤去範囲　・　図示（図面番号：　　）
はつりだした鉄筋及び鉄骨の処置

既存鉄筋コンクリート内の鉄筋の切断

鉄筋の切断	範囲	適用
・既存鉄筋は切断せず残す	・図示（図面番号：　　） ・全ての撤去部分 ・（　　）　・適用なし	
・コンクリートの撤去範囲の周囲より一定長さを残し切断する	・図示（図面番号：　　） ・全ての撤去部分 ・（　　）　・適用なし	
・コンクリート撤去範囲の鉄筋は切断する	・切断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 ・（　　）	

はつりだした鉄筋の処置
・　鉄筋に損傷を与えないよう適切な養生を施す。
・（　　）

はつりだした鉄骨の処置
・　発泡スチロール等で養生する。
・（　　）

（既存部分の処理）
3　既存構造体コンクリート面の目荒らし
(8.21.3)
(8.22.3)
(8.23.3)

既存構造体コンクリート面の目荒らし
目荒らし程度
・　平均深さ2～5mmで最大深さ5～7mm程度の凹面を、打継ぎ面の15～30%程度の面積となるように施す。
・　図示（図面番号：　　）

8の3　耐震改修工事　鉄筋工事

1　鉄筋
(8.2.1)
(表8.2.1)

材料　改修標準仕様書(表8.2.1)による

種別	径(mm)
・　SD295	
・　SD345	
・　SD390	
・（　　）	

2　溶接金網
(8.2.2)

網目の形状、寸法及び鉄線の径

網目の形状、寸法	鉄線の径(mm)

3　加工
(8.3.2)

90°未満の折曲げの内法直径　・　図示（図面番号：　　）

4　鉄筋の継手及び定着
(8.3.4)

	径	部位
重ね継手	・　Ｄ１６以下	
ガス圧接	・　Ｄ１９以上	

主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ
・　改修標準仕様書(8.3.4)(3)(ｱ)による
・　図示（図面番号：　　）

継手位置
・　各部配筋参考図による
・　図示（図面番号：　　）

先組み工法等
・　柱・梁主筋の継手を同一箇所に設ける

鉄筋の定着長さ
・　改修標準仕様書(表8.3.4)による
・　（表8.3.4）のフックありの定着長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法　図示（図面番号：　　）
・　図示（図面番号：　　）

機械式定着工法　適用箇所（　　）　種類（　　）

帯筋組立の形、継手及び定着
・　図示（図面番号：　　）

5　鉄筋のかぶり厚さ及び間隔
(8.3.5)
(表8.3.6)

鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ　・（　　）mm

6　各部配筋

・　図示（図面番号：　　）

7　ガス圧接
(8.3.8)

圧接完了後の試験
超音波探傷試験　・　行う　・　行わない

（現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事及び鉄骨ブレースの設置工事等）

8　割裂補強筋
(8.21.6)
(8.22.7)

割裂補強筋の適用

種類	材料	材種	径	本数・ピッチ	適用箇所
・スパイラル筋	・鉄筋コンクリート用棒鋼 ・（　　）	・　R235 ・（　　） ・（　　）	・　6Φ ・　9Φ ・（　）	スパイラルの径(mm) （　　） スパイラルのピッチ(mm) （　　）	・図示 （図面番号：　　）
・はしご筋	・鉄筋コンクリート用棒鋼(異形鉄筋) ・（　　）	・　295 ・（　　）	・　10 ・（　）	壁内方向筋 （　　） 壁面外方向筋 （　　）	

9　鉄筋の機械式継手及び溶接継手
(8.4.2)
(8.4.3)

・　機械式継手
種類　（　　）　適用箇所　（　　）
性能　（　　）　鉄筋相互のあき　（　　）mm
施工完了後の継手部の試験　（　　）
不合格となった継手部への措置等　（　　）

・　溶接継手
工法　（　　）　適用箇所　（　　）
性能　（　　）　鉄筋相互のあき　（　　）mm
溶接完了後の溶接部の試験　（　　）
不合格となった溶接部への措置等　（　　）

8の4　耐震改修工事　コンクリート工事

（コンクリート工事一般事項）
1　コンクリートの種類及び強度
(8.1.3)
(8.1.4)

コンクリートの類別
・　Ⅰ類　・　Ⅱ類

普通コンクリートの設計基準強度

設計基準強度Fc [N/mm2]	適用範囲	気乾単位容積質量	スランプ
・　24		・2.3t/m3程度	
・（　　）			

(8.9.1)
(8.9.2)
(表8.9.1)

軽量コンクリートの設計基準強度

設計基準強度Fc [N/mm2]	種類	適用箇所	気乾単位容積質量	スランプ
・　36	・　１種 ・　２種			
・（　　）				

2　構造体コンクリートの仕上り
(8.1.4)
(表8.1.4)
(表8.1.5)

合板せき板を用いる場合の打放し仕上げの種別
・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種

コンクリートの仕上りの平たんさ
・　ａ種　・　ｂ種　・　ｃ種

（コンクリート）
3　コンクリートの材料
(8.2.5)
(表8.2.3)

セメントの種類
・　普通ポルトランドセメント
・　高炉セメントＡ種
・　シリカセメントＡ種
・　フライアッシュセメントＡ種
・（　　）
・　高炉セメントＢ種及びフライアッシュセメントＢ種
適用箇所　（　　）

骨材
アルカリシリカ反応性による区分
・　ＡＬ（コンクリート中のアルカリ総量を規制）
・　Ａ（安全と認められる骨材を使用）
なお、ＡＬで規制できない場合は、Ａとし、その試験は、施工着手前、工事中１回／６ヶ月かつ産地が変わった場合に信頼できる試験機関で行い、試験に用いる骨材の採取は、請負者立ち会いのもと、試験を行う者が生コン工場のストックヤードから試料を採取して試験を行うこと。
・　特殊な骨材の使用
・　フェロニッケルスラグ細骨材
・　銅スラグ細骨材
・　電気炉酸化スラグ骨材
・　再生骨材Ｈ（普通エコセメントを使用するコンクリートに限る）

4　混和材料
(8.2.5)

・　混和剤
混和剤の種類
・　改修標準仕様書(8.2.5)(4)(a)による
・　図示（図面番号：　　）

・　混和材
混和材の種類
・　改修標準仕様書(8.2.5)(4)(b)による
・　図示（図面番号：　　）

5　調合管理強度
(8.2.5)
(8.8.3)
(8.10.2)

構造体強度補正値（S）
・　３N/mm2　・　６N/mm2　・（　　）

6　養生
(8.7.7)

・普通エコセメント使用の場合の湿潤養生期間　（　　）

7　型枠
(8.2.7)
(8.7.8)

材料
・　複合合板（厚さ　・　12mm　・（　　））
スリーブ
・　材種（　　）　規格（　　）
型枠存置期間及び取外し
・　普通エコセメント使用の場合の最小存置期間　（　　）

8　暑中コンクリート
(8.10.2)

構造体強度補正値（S）
・　6N/mm2　・（　　）

9　無筋コンクリート
(8.11.1)

コンクリートの種類
・　普通コンクリート　・　（　　）
設計基準強度
・　18N/mm2　・（　　）
スランプ
・　15cm　・18cm　・（　　）

（現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事、溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法）
10　コンクリートの打込み工法等
(8.21.8)
(8.23.5)

部位別のコンクリートの打設工法の指定

補強工法	打設工法	部位
現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事	・流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(ｱ)及び(2)	・全ての増設壁 ・図示（図面番号：　　） ・（　　）
	・圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(ｲ)及び(3)	・全ての増設壁 ・図示（図面番号：　　） ・（　　）
	・工法指定なし	・全ての増設壁 ・図示（図面番号：　　） ・（　　）
	・（　　）	・図示（図面番号：　　） ・（　　）
鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	・流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(ｱ)及び(2)	・全ての増設壁 ・図示（図面番号：　　） ・（　　）
	・圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(ｲ)及び(3)	・全ての増設壁 ・図示（図面番号：　　） ・（　　）
	・工法指定なし	・全ての増設壁 ・図示（図面番号：　　） ・（　　）
	・（　　）	・図示（図面番号：　　） ・（　　）

(8.23.6)

柱頭柱脚の隙間部間の型枠
・　発泡プラスチック保温材等を埋込む
・（　　）

柱頭柱脚の隙間寸法
・　図示（図面番号：　　）

打ち込みコンクリート又はグラウト材の厚さ
・　図示（図面番号：　　）　・　60mm　・（　　）

11　増設壁工事後の仕上げ
(8.21.10)
(8.23.7)

・　図示（図面番号：　　）

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書（改修）５	A2	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	No. A-05

8の5 耐震改修工事 あと施工アンカー工事

(あと施工アンカー)

1 あと施工アンカーの材料 (8.2.4) (表8.2.2)

種類
- ・ 金属系 セットの方式 ・ 本体打込み式（ ・ 改良型 ・ 従来型）
  - 径及び埋込み長さ ・ 図示（図面番号： ）
  - 引張耐力 ・ 図示（図面番号： ）
  - せん断耐力 ・ 図示（図面番号： ）
  - 接合筋の種類・径・長さ ・ 図示（図面番号： ）
- ・ 接着系 アンカーの種類 ・ カプセル型回転･打撃式 ・（ ）
  - 接着剤の品質 ・ 有機系 ・ 無機系
  - 径及び埋込み長さ ・ 図示（図面番号： ）
  - 引張耐力 ・ 図示（図面番号： ）
  - せん断耐力 ・ 図示（図面番号： ）
  - アンカー筋の種類 ・ 図示（図面番号： ）
  - アンカー筋の新設壁内への定着長さ ・ 図示（図面番号： ）
  - あと施工アンカーの性能確認試験 ・ 行う ・ 行わない

2 あと施工アンカーの施工 (8.12.4) (8.12.6) (8.12.7)

穿孔

埋込み配管等の探査の方法
- ・ 鉄筋探知機(金属探知機)により検査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
- ・ はつり出しによる。
- ・（ ）

あと施工アンカーの施工確認試験 ・ 実施する ・ 実施しない

試験方法 ・ 引張試験機による引張試験 ・（ ）

１ロットの単位 ・ １日に施工されたものの径及び仕様ごと （ ）

試験の箇所数 ・ １ロットに対し３本（無作為） ・（ ）

確認強度 ・（ ）

(場所打ちコンクリート壁の増設工事)

3 シアコネクター

場所打ちコンクリート壁の打増部に用いる既存部とのシアコネクタ

種類 ・ 金属系あと施工アンカーの異形差筋アンカー
- ・ 接着系あと施工アンカーの異形差筋アンカー

径[mm] ・ Ｄ１０

長さ[mm] ・ 増打壁厚－４０ ・（ ）

彫込み深さ[mm] ・ ５ｄ(d: シアコネクタの径)以上 ・（ ）

間隔[mm] ・ ５００×５００

シアコネクタとセパレーターの兼用 ・ 兼用してもよい ・ 兼用しない ・（ ）

8の6 耐震改修工事 鉄骨工事

1 鉄骨製作工場 (8.1.5)

㈱日本鉄骨評価センター又は㈱全国鉄骨評価機構の「鉄骨製作工事の性能評価基準」に定めるグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場

・ Ｊ ・ Ｒ ・ Ｍ ・ Ｈ ・ Ｓ

2 鉄骨製作工場における施工管理技術者 (8.1.6)

施工管理技術者（鉄骨製作管理技術者、鉄骨工事管理責任者等）の配置

・ しない ・ する

3 鋼材 (8.2.8)

種類・形状及び寸法 ・ 図示（図面番号： ）

4 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)

高力ボルトの適用
- ・ トルシア形高力ボルト２種（S10T）
- ・ JIS形高力ボルト２種（F10T）
- ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト1種（F8T相当）

ねじの呼び
- ・ 図示（図面番号： ）

すべり試験
- ・ 行う（試験方法等 図示：図面番号 ）

JIS形・ナット回転法かつボルト長がねじの５倍を超える場合の回転量
- ・（ °）

5 溶接材料 (8.2.10)

・ 改修標準仕様書(8.2.10)(1)(2)以外の溶接材料

材料及び使用箇所 ・ 図示（図面番号： ）

6 仮組 (8.13.10)

仮組の実施
- ・ 実施する（ ） ・ 実施しない

7 溶接作業を行う技能資格者 (8.15.3)

溶接作業における技能資格者の技量付加試験
- ・ 実施する（ ） ・ 実施しない

8 溶接の準備 (8.15.4)

開先の形状 ・ 図示（図面番号： ）

9 溶接施工 (8.15.7)

鋼製エンドタブの切断 ・ 適用箇所 図示（図面番号： ）

切断面の仕上げ ・（ ）

鋼製エンドタブに代わるその他の工法

鋼製エンドタブに代わるその他の工法については、代替エンドタブ（セラミックタブ又はフラックスタブ）を用いたものとし、工法の採用にあたっては、以下の項目の両方とも満足することを条件とし、監督員の承諾を受けること。

1．相当数の代替エンドタブによる溶接を行ったことがある工場での製作であること。

2．製作工場がＪ、Ｒ、Ｍグレードの場合は、溶接技能者がＮＰＯ法人日本エンドタブ協会による固形タブに係るエンドタブ施工講習修了者（溶接技能者・Ａ級以上）又はＡＷ検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とすること。また、製作工場がＨ、Ｓグレードの場合は、溶接技能者がＡＷ検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とすること。

板厚が異なる場合の突合せ継手溶接部
- ・ 低応力高サイクル疲労を受ける部位 図示（図面番号： ）

スカラップの形状 ・ 図示（図面番号： ）

10 溶接部の試験 (8.15.12)

溶接部の外観試験 ・ 試験方法（ ） ・ 確認方法（ ）

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験

工場溶接の場合
- ・ 全数試験とする
- ・ 公共建築工事標準仕様書(令和4年版)(7.6.12)(ｲ)による。

平均出検品質限界(AOQL) ・ 4.0% ・ 2.5% ・（ ）

検査水準 ・ 第６水準 ・（ ）

ロットの構成（ ）

工事現場溶接の場合
- ・ 全数試験とする
- ・ 公共建築工事標準仕様書(令和4年版)(7.6.12)(ｲ)による。

平均出検品質限界(AOQL) ・ 4.0% ・（ ）

11 鉄骨の錆止め塗装 (8.17.2) (8.17.4)

鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面（鉄骨に溶接されたものに限る）
- ・ 改修標準仕様書(7.3.2)(表7.3.1) （ ）種

耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・図示（図面番号： ）
- ・ 改修標準仕様書(7.3.2)(表7.3.1) （ ）種

耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ・図示（図面番号： ）

12 耐火被覆材の種類及び性能 (8.18.2) (8.18.3)

部位	種類	材料・工法	耐火性能

13 ブレース設置工事後の仕上げ (8.22.9)

・ 図示（図面番号： ）

14 スタッド (8.2.11)

スタッドの種類 ・（ ）

8の7 耐震改修工事 グラウト工事

(グラウト工事)

1 モルタル及びグラウト材 (8.2.6) (8.2.12) (表8.2.5) (表8.2.10)

構造体用モルタル
- ・ 改修標準仕様書(8.2.6)及び(8.2.12)による。

無収縮モルタル
- ・ 改修標準仕様書(8.2.12)(1)による
- ・（ ）

グラウト材
- ・ 改修標準仕様書(8.2.12)(2)による。

(現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事及び鉄骨ブレースの設置工事等)

増設の現場打ち鉄筋コンクリート壁と既存構造体との隙間の処置方法

部位	処理方法	備考
・ 増設壁の上部	・ グラウト材を注入 ・（ ）	・ 寸法は図示による
・（ ）	・（ ）	・（ ）

2 既存構造体との取合部の処理方法 (8.21.9) (8.22.7)

8の8 耐震改修工事 柱補強工事

(連続繊維補強工事)

1 連続繊維シート等による工法 (8.24.1)

連続繊維による補強、補修工法
- ・ (財)日本建築防災協会の評価を受けた工法とする。
- ・（ ）

2 連続繊維シート及び含浸接着樹脂等の材料 (8.2.13)

連続繊維の材料
- ・（ ）

工法
- ・（ ）

引張強度（含浸硬化後）
- ・（ ）

ヤング係数（含浸硬化後）
- ・（ ）

3 連続繊維シートの施工準備

仕上げモルタルの除去
- ・ 既存構造躯体面まで除去する
- ・ モルタル除去は行わない
- ・（ ）

既存モルタルの圧縮強度測定
- ・ 行う（ ）
- ・ 行わない

ひび割れ部の改修工法
- ・ 樹脂注入工法
- ・ Ｕカットシール材充填工法
- ・ シール工法

4 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8.23.6)

柱頭柱脚の隙間寸法
- ・ 図示（図面番号： ）

5 耐震補強後の仕上げ (8.23.7) (8.24.7)

・ 図示（図面番号： ）

6 炭素繊維シートの施工

炭素繊維の目付量
- ・ 図示（図面番号： ）
- ・ 200g/m2
- ・ 300g/m2
- ・（ ）

炭素繊維シートの巻き数
- ・ 図示（図面番号： ）
- ・ １巻き
- ・ ２巻き
- ・（ ）

7 連続繊維補強材の強度試験 (8.24.6)

引張強度試験
- ・ 実施する（JIS A1191に準拠する） ・ 実施しない
- 試験数量（ ）

付着強度試験
- ・ 実施する（JIS A6909に準拠する） ・ 実施しない
- 試験数量（ ）

8の9 耐震補強工事 スリット新設工事 免震改修工事 制振改修工事

(耐震スリット新設工事)

1 スリットの種類 (8.25.1) (8.25.2)

耐震スリットの種類及び形状

完全スリットの形状

	一般型	一面せん断型	
記号			
形状	・ 図示（図面番号： ）	・ 図示（図面番号： ）	
幅W（mm）	・ 図示（図面番号： ） ・（ ）	・ 図示（図面番号： ） ・（ ）	
既存鉄筋の処理	・既存鉄筋はつり出し ・切断してよい ・（ ）	・切断してよい ・（ ）	

部分スリットの形状

	片側スリット	両面スリット	
記号			
形状	・ 図示（図面番号： ）	・ 図示（図面番号： ）	
幅W（mm）	・ 図示（図面番号： ） ・（ ）	・ 図示（図面番号： ） ・（ ）	
目地部の残存厚さ	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下	
ts（mm）	・（ ）	・（ ）	
既存鉄筋の処理	・ 存置する ・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・（ ）	・ 存置する ・ 切断してよい	

2 スリットの施工

スリット部の配管等の調査

範囲 ・ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの撤去範囲全て。
- ・ 図示（図面番号： ）
- ・（ ）

方法 ・ 鉄筋探査機（金属探知器）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。

スリットの逃げ位置

壁上端部 ・ 梁との接合部 ・（ ）

壁の柱きわ部 ・ 柱の仕上げを逃げたきわ部 ・（ ）

壁下端部 ・ 床仕上げ上部 ・ 床体上部 ・（ ）

撤去部の補修
- ・ 図示（図面番号： ）

充填材
- ・ 耐火材 使用箇所（ ） 仕様（ ）
- ・ 遮音材 使用箇所（ ） 仕様（ ）

3 免震・制振改修 (8.26.1)～(8.27.9)

免震改修、制振改修に関する仕様は、図示する。

8の10 その他工事

1 土工事 (8.28.2) (8.28.3)

既存杭の撤去
- ・ 図示（図面番号： ）

埋戻し及び盛土の材料及び工法

・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 ・Ｄ種

建設発生土の処理
- ・処分地指定 処分地（ ）
- ・処分地未定につき相互協議する。

暫定運搬距離 ・ 8km ・ 4km ・（ ）

山留めの撤去
- ・撤去（鋼矢板等の抜き跡の処理 ・ 直ちに砂で充填する ・（ ））
- ・存置

2 地業工事 (8.28.4)

杭の施工監理

杭工事特記仕様書による。

適用基準

本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準を適用する。

国土交通省告示第468号 「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」(平成28年3月4日)

施工記録

受注者は、杭の施工期間中は、１週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録を取りまとめ、翌週以内に監督員に、工事打合せ簿を添付したうえで提出し、確認を受けること。また電流値が記録されたチャート紙等の原本を合わせて提示し、必ず監督員の確認を受けること。

なお、取得すべき施工記録が取得できない場合に、当該施工記録に代替する記録を確保するための手法については、施工計画書に明記しておくこと。

根拠資料

共通仕様書、特記仕様書及びその他基準書等の定めにより作成した施工管理資料の根拠となる資料（施工記録の原本、チャート紙、電子的な記録やプリントアウト紙等）は、受注者において全て適切に管理し、保管しなければならない。保管期間は契約書第３１条第４項又は第５項（第３８条においてこれらの規定を準用する場合を含む。）の規定による引渡しを受けた日から１０年とする。

また、発注者から請求があった場合は、速やかにこれらを提出または提示しなければならない。

試験杭及び試験掘
- ・ 試験杭 位置、本数及びず寸法は図示(図面番号： ）による。
- ・ 試験掘 位置、本数及びず寸法は図示(図面番号： ）による。

杭の支持層

支持層の位置、土質、杭の根入れ長さ ・ 図示(図面番号： ） ・（ ）

水平方向の位置ずれの精度
- ・（ ）mm以下

杭の載荷試験

試験方法 ・ 鉛直載荷 ・ 水平載荷 ・（ ）

試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。

位置 ・ 図示(図面番号： ） 載荷荷重 （ kN）

報告書 ・ 提出部数 2部

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書（改修）６	A2 ――	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	No. A-06

地盤の載荷試験
試験方法　・平板載荷　・（　　）
試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。
位置　・図示(図面番号：　）　載荷荷重　（　　kN）
報告書　・提出部数　2部

杭地業の工法、寸法
・図示（図面番号：　）

杭頭処置
・行う　・行わない

砂利及び砂地業
範囲　・図示（図面番号：　）　厚さ（mm）　・　60　・（　　）

捨てコンクリート地業
範囲　・図示（図面番号：　）　厚さ（mm）　・　50　・（　　）

⑨ 環境配慮改修工事

① 石綿含有建材の除去工事

(9.1.1)

・石綿粉じん濃度測定
測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点（各施工箇所ごと）
・	測定１	処理作業前	処理作業室内	計　点
・	測定２	処理作業中	調査対象室外部の付近	計　点
・	測定３		処理作業室内	計　点
・	測定４		負圧・除じん装置の排出吹出し口	出口吹出し風速1m/s以下の位置 計　点
・	測定５		処理作業室外（敷地境界）	計　点
・	測定６	処理作業後（シート養生中）	処理作業室内	計　点
・	測定７	処理作業後シート撤去後１週間以降	処理作業室内	計　点
・	測定８		調査対象室外部の付近	計　点

測定方法

	測定 3	測定 1,2,4,6,7,8	測定 5
メンブレンフィルタ直径(mm)	25	25	47
試料の吸引流量(L/min)	・1　・（　　）	・5　・（　　）	・10　・（　　）
試料の吸引時間(min)	・5　・（　　）	・120　・（　　）	・240　・（　　）

(9.1.3)
・石綿含有吹付け材の除去
除去対象範囲　・図示（図面番号：　　）
除去工法　・改修標準仕様書9.1.3(2)(7)による　・（　　）
除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止
・湿潤化　・固形化
除去した石綿含有吹付け材等の処分
・埋立処分（管理型最終処分場）　・中間処理（溶融又は無害化による）

(9.1.4)
・石綿含有保温材等の除去
除去対象範囲　・図示（図面番号：　　）
除去方法　・改修標準仕様書9.1.4(1)による　・（　　）
除去した石綿含有保温材等の処分
・埋立処分（管理型最終処分場）　・中間処理（溶融又は無害化による）

(9.1.5)
・石綿含有成形板の除去
除去対象範囲　・図示（図面番号：AEV-11,AEV-12）　1～3階床 Ｐタイル
石綿含有せっこうボードの処分
・埋立処分（管理型最終処分場）
石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板の処分
・埋立処分（安定型最終処分場）　・中間処理（溶融又は無害化による）

(9.1.6)
・石綿含有仕上塗材の除去
除去対象範囲　・図示（図面番号：　　）
除去した石綿含有仕上塗材等の処分
・埋立処分（安定型最終処分場）　・中間処理（溶融又は無害化による）

※大気汚染防止法および石綿障害予防規則に加え、「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル（令和3年3月）」に基づき適切に処理すること。

・除去等作業の結果報告
除去等作業が終了したときは環境省令で定めるところにより、その結果を遅滞なく発注者に書面で報告すること。

2 断熱アスファルト防水改修工事

(9.2.1)～(9.2.3)

改修特記仕様書３章による

3 外断熱改修工事

(9.3.2)

断熱材

種類	厚さ[mm]
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキンなし）	
・硬質ウレタンフォーム断熱材	
・フェノールフォーム断熱材	
・ロックウール断熱材	
・グラスウール断熱材	
・（　　）	

施工箇所
・図示（図面番号：　　）　・（　　）

外装材

種類	防火性能	備考
・		

(9.3.3)
既存外壁の措置
既存外壁仕上げ材の撤去　・あり　・なし
下地面の清掃　・行う　・行わない
欠損部の改修工法　・充填工法　・モルタル塗替え工法　・（　　）

(9.3.4)
工法
通気層の有無　・あり（　　mm）　・なし
断熱材の施工　・断熱材製造所の仕様による　・（　　）
外装材の施工　・外装材製造所の仕様による　・（　　）
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
・適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
・適用しない
不陸等の下地調整　・行う

4 断熱・防露改修工事

(9.5.2)

・断熱材打込み工法

種類	厚さ[mm]
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキンなし）	
・硬質ウレタンフォーム断熱材	
・フェノールフォーム断熱材	
・（　　）	

施工箇所　・図示（図面番号：　　）　・（　　）

(9.5.3)
・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　・Ａ種１　・Ａ種１Ｈ　・（　　）
厚さ（mm）　・25　・30　・（　　）
施工箇所　・図示（図面番号：　　）

・現場発泡断熱材
（品質・性能）
工事建築材料等品質性能表による
（試験方法）
工事建築材料等品質性能表による

(9.5.4)
・断熱材後張り工法

種類	せっこうボード等の張り付け	厚さ［mm］
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・有　・無	
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材	・有　・無	
・硬質ウレタンフォーム断熱材	・有　・無	
・フェノールフォーム断熱材	・有　・無	
・（　　）	・有　・無	

施工箇所　・図示（図面番号：　　）　・（　　）

5 屋上緑化改修工事

植栽基盤及び材料
屋上緑化軽量システム
(9.6.1)
・適用する　・適用しない
(9.6.2)
芝及び地被類の樹種並びに種類等　・図示（図面番号：　　）　・（　　）
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等　・図示（図面番号：　　）　・（　　）
(9.6.3)
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
・適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
・適用しない

かん水装置　・設置する（種類　・　　・　　）
既存保護層の撤去　・行う　・行わない

6 透水性アスファルト舗装改修工事

(9.5.2)～(9.5.7)(9.5.9)

既存舗装の撤去及び再利用　・図示（図面番号：　　）　・（　　）
路床
路床の材料

種別	材料	厚さ[mm]
・盛土	・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種 ・建設汚泥から再生した処理土	・図示（図面番号：　　） ・（　　）
・凍上抑制層	・再生クラッシャラン　・クラッシャラン ・切込み砂利 ・川砂、海砂又は良質な山砂 （7μmふるい通過量10%以下） ・（　　）	・図示（図面番号：　　） ・（　　）
・フィルター層	・砂 ・（　　）	・図示（図面番号：　　） ・（　　）

路床安定処理
・添加材料による安定処理
種類　・普通ポルトランドセメント　・フライアッシュセメントＢ種
・生石灰（・特号　・１号）　・消石灰（・特号　・１号）
添加量（　　kg/m2）（目標CBR　・５以上　・　　）

・ジオテキスタイル
単位面積質量　・60g/m2以上　・（　　）
厚さ[mm]　・0.5～1.0　・（　　）
引張強さ　・98N/5cm（10kgf/5cm）以上　・（　　）
透水係数　・1.5×10^-1cm/sec 以上　・（　　）

試験
路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験　・行う　・行わない
路床締固め度の試験　・行う　・行わない
現場ＣＢＲ試験　・行う　・行わない

路盤
路盤の構成及び厚さ　・図示（図面番号：　　）　・（　　）
路盤材料　・再生材のクラッシャラン
・クラッシャラン鉄鋼スラグ
・図示（図面番号：　　）
・（　　）

試験
路盤締固め度の試験　行う　・行わない

舗装

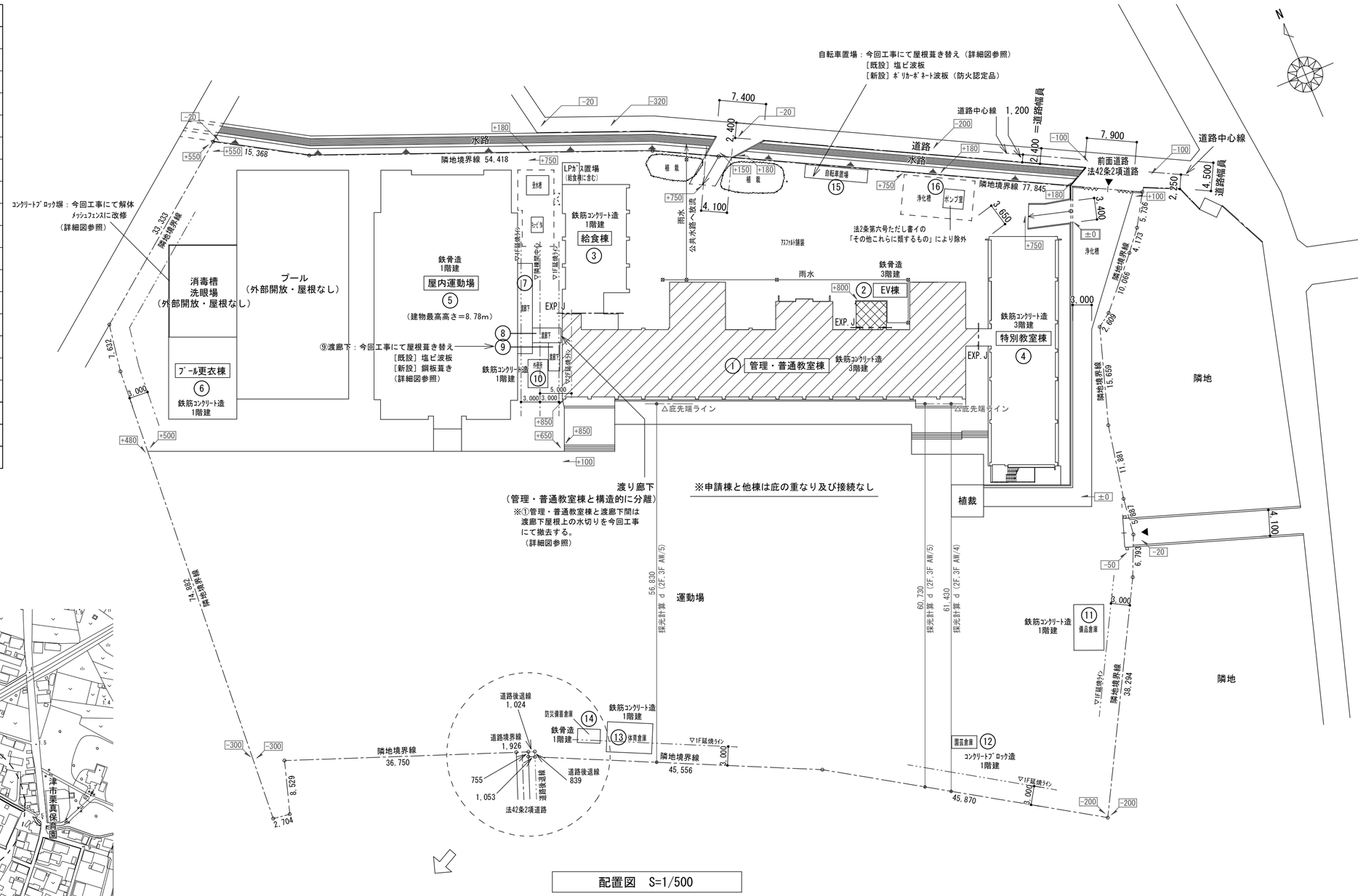
材料	厚さ[mm]
・ストレートアスファルト	・図示（図面番号：　　） ・（　　）

試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性　・著しい不陸がないもの　・（　　）

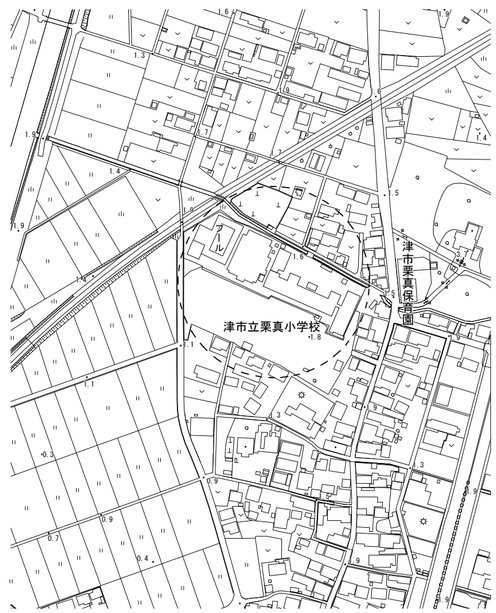
原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書（改修）７	A2 ――	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士第317991号 山本 覚康	No. A-07

	棟　名	延床面積	建築面積	備　考
①	管理・普通教室棟	2543.73	912.96	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造 ３階建
②	ＥＶ棟	83.16	27.72	鉄骨造 ３階建
③	給食棟	196.22	196.22	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造 １階建
④	特別教室棟	1091.25	393.18	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造 ３階建
⑤	屋内運動場	935.00	935.00	鉄骨造 １階建
⑥	ﾌﾟｰﾙ更衣室	136.74	136.74	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造 １階建
⑦	渡廊下 (開放性あり)	8.94	23.84	鉄骨造 １階建
⑧	渡廊下 (開放性あり)	0.00	2.64	鉄骨造 １階建
⑨	渡廊下 (開放性あり)	0.00	0.00	鉄骨造 １階建
⑩	外便所	13.59	13.59	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造 １階建
⑪	備品倉庫	33.72	33.72	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造 １階建
⑫	園芸倉庫	7.64	7.64	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ造 １階建
⑬	体育倉庫	33.55	33.55	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造 １階建
⑭	防災備蓄倉庫	7.63	7.63	鉄骨造 １階建
⑮	自転車置場	20.39	20.39	鉄骨造 １階建
⑯	ポンプ室	9.60	9.60	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造 １階建
合計		5121.16	2754.42	
敷地面積 (㎡)			14527.03 (㎡)	



配置図　S=1/500



付近見取図　S=FREE

S=1/100

●凡例

…… 改修建物を示す

…… 増築建物を示す（今回工事にて増築）

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE		設計者	No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	配置図 付近見取図	A2　1/500	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	一級建築士 第317991号 山本　覚康	A-08

●外部仕上表

屋　根	改修前	平　場：ｱｽﾌｧﾙﾄ防水のうえ、押えｺﾝｸﾘｰﾄ押え 伸縮目地（ｴﾗｽﾀｲﾄ 15×60） 立上り：ｱｽﾌｧﾙﾄ防水のうえ、防水ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押え 【東・西階段屋根】 平　場：ｱｽﾌｧﾙﾄ防水露出のうえ、砂利敷き（直径30mm程度 H=50） （点線範囲内） 立上り：ｱｽﾌｧﾙﾄ防水のうえ、防水ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押え
	改修後	平　場：高圧水洗浄 既設目地材撤去のうえ目地材充填 （ｶﾞﾗｽ発砲骨材入り樹脂ﾓﾙﾀﾙ充填） 下地処理（ｴﾎﾟｷｼ系ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ ﾉﾛ引き）のうえ ｳﾚﾀﾝ塗膜防水（X-1工法）　脱気筒設置 【東・西階段屋根】 平　場：砂利敷き撤去 ｱｽﾌｧﾙﾄ防水撤去（石綿含有） ｹﾚﾝ清掃 下地処理（ｴﾁﾚﾝ酢酸ﾋﾞﾆﾙ系ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ ﾉﾛ引き 仮防水）のうえ ｳﾚﾀﾝ塗膜防水（X-1工法）　脱気筒設置 立上り･笠木：高圧水洗浄 ｸﾗｯｸ補修（Uｶｯﾄｼｰﾘﾝｸﾞ充填）のうえ 下地処理（ｴﾎﾟｷｼ系ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ ﾉﾛ引き）のうえ ｳﾚﾀﾝ塗膜防水（X-2工法）
軒　天	改修前	RC打放し　ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付仕上げ
	改修後	高圧洗浄(30～50MPa)　下地調整のうえ　外装薄塗材E吹付
庇	改修前	（天端）防水ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押え
	改修後	（天端）高圧水洗浄、ｸﾗｯｸ補修（Uｶｯﾄｼｰﾘﾝｸﾞ充填） 下地処理（ｴﾎﾟｷｼ系ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ ﾉﾛ引き）のうえ　自閉式塗膜防水

外　壁	改修前	ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き　ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付仕上げ 北面一部：RC打放し　ｱｸﾘﾙ系吹付ﾀｲﾙ仕上げ
	改修後	高圧洗浄(30～50MPa)下地調整のうえ、複層塗材E吹付(ﾀｲﾙ部を除く) 一部ﾀｲﾙ貼　水洗い　　巾木：水洗い
樋	改修前	竪樋：硬質塩ﾋﾞ管φ100　VP塗装 撤去（集水器共）
	改修後	竪樋：硬質塩ﾋﾞ管（カラー）φ100　新設（集水器共）
ポーチ	改修前	床：ﾚﾝｶﾞﾀｲﾙ貼り
	改修後	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押さえ　複層塗材E吹付け　新設
屋上　ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ	改修前	ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ（ｽﾁｰﾙ製）撤去　ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎共　ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎：W200×D490×H390×67個 防鳥ﾈｯﾄ（繊維製）撤去　　ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎：W300×D500×H310×10個
	改修後	ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ　新設　ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎共　（ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ H=1500、ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎 H=350）

●内部仕上表

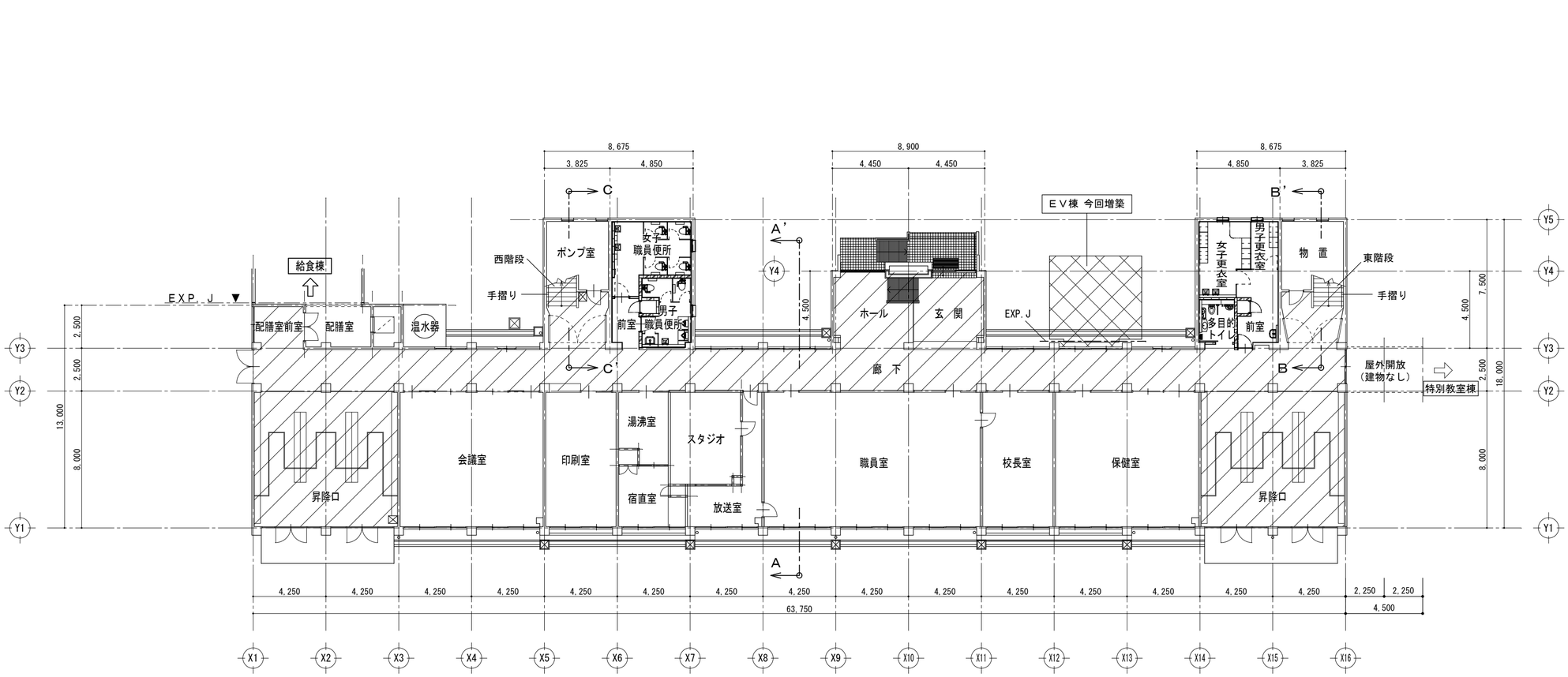
階　数	室　名		床	巾　木	壁	天　井	天井高	備　考
1階	昇降口	改修前	150角ｸﾘﾝｶｰﾀｲﾙ貼り 長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ t=3.0	ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ H=100～150	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え　VP塗装	有孔石こう t=9.0 目透かし張り　EP塗装 ﾎﾞｰﾀﾞｰ石こう t=9.0 目透かし張り	2,800	
		改修後	改修なし 改修なし	改修なし	下地調整のうえ　EP塗装（塗替え）	改修なし		
	玄　関	改修前	ﾚﾝｶﾞﾀｲﾙ貼り	ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ H=100～150	ｸﾗﾌﾄﾀｲﾙ貼り ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え　VP塗装	有孔石こう t=9.0 目透かし張り　EP塗装 ﾎﾞｰﾀﾞｰ石こう t=9.0 目透かし張り	2,790	
		改修後	改修なし	改修なし	改修なし 下地調整のうえ　EP塗装（塗替え）	改修なし 改修なし		家具（傘立、下足入）　改修なし
	ホール	改修前	Pﾀｲﾙ張り t=2.0（石綿含有）	木製巾木（ﾗﾜﾝ） H=100　OS塗装	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え　VP塗装 ｼﾅ合板 t=6.0　目透かし張り　OP塗装	有孔石こう t=9.0 目透かし張り　EP塗装 ﾎﾞｰﾀﾞｰ石こう t=9.0 目透かし張り	2,640	
		改修後	改修なし	下地調整のうえ　EP-G塗装（塗替え）	下地調整のうえ　EP塗装（塗替え） 下地調整のうえ　EP-G塗装（塗替え）	改修なし		
	配膳室前室	改修前	Pﾀｲﾙ張り t=2.0（石綿含有）	木製巾木（ﾗﾜﾝ） H=100　OS塗装	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装 磁器質ﾀｲﾙ貼り	有孔石こう t=9.0 目透かし張り　EP塗装 ﾎﾞｰﾀﾞ-PB t=9.0 目透かし張り	2,640	
		改修後	改修なし	下地調整のうえ　EP-G塗装（塗替え）	下地調整のうえ　EP塗装（塗替え） 改修なし	改修なし 改修なし		
	廊　下	改修前	Pﾀｲﾙ張り t=2.0（石綿含有）一部撤去	木製巾木（ﾗﾜﾝ） H=100　OS塗装	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え　VP塗装 ｼﾅ合板 t=6.0　目透かし張り　OP塗装	有孔石こう t=9.0 目透かし張り　EP塗装 ﾎﾞｰﾀﾞ-PB t=9.0 目透かし張り	2,640	
		改修後	Pﾀｲﾙ張り t=2.0（既設一部撤去部分）	下地調整のうえ　EP-G塗装（塗替え）	下地調整のうえ　EP塗装（塗替え） 下地調整のうえ　EP-G塗装（塗替え）	天井材 一部撤去、後新設（張替え）		掲示板：ｸﾛｽ張替え（全面）
2階	普通教室	改修前	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ貼り　OSW塗装	木製巾木（ﾗﾜﾝ） H=100　OS塗装	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え　VP塗装 ｼﾅ合板 t=6.0　目透かし張り　OP塗装	有孔石こう t=9.0 目透かし張り　EP塗装 ﾎﾞｰﾀﾞ-石こう t=9.0 目透かし張り 梁型：ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え　VP塗装	3,050	
		改修後	改修なし	下地調整のうえ　EP-G塗装（塗替え）	下地調整のうえ　EP塗装（塗替え） 下地調整のうえ　EP-G塗装（塗替え）	改修なし 梁型：下地調整のうえ EP塗装（塗替え）		掲示板：ｸﾛｽ張替え（全面） 家具（掃除具入、ロッカー、整理棚）　改修なし
	しいのき１・２教室	改修前	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ貼り　OSW塗装	木製巾木（ﾗﾜﾝ） H=100　OS塗装	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え　VP塗装 ｼﾅ合板 t=6.0　目透かし張り　OP塗装	有孔石こう t=9.0 目透かし張り　EP塗装 梁型：ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え　VP塗装	3,050	
		改修後	改修なし	下地調整のうえ　EP-G塗装（塗替え）	下地調整のうえ　EP塗装（塗替え） 下地調整のうえ　EP-G塗装（塗替え）	改修なし 梁型：下地調整のうえ EP塗装（塗替え）		掲示板：ｸﾛｽ張替え（全面） 家具（掃除具入、ロッカー、整理棚）　改修なし
	廊　下	改修前	Pﾀｲﾙ張り t=2.0（石綿含有）一部撤去	木製巾木（ﾗﾜﾝ） H=100　OS塗装	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え　VP塗装 ｼﾅ合板 t=6.0　目透かし張り　OP塗装	有孔石こう t=9.0 目透かし張り　EP塗装	2,640	
		改修後	Pﾀｲﾙ張り t=2.0（既設一部撤去部分）	下地調整のうえ　EP-G塗装（塗替え）	下地調整のうえ　EP塗装（塗替え） 下地調整のうえ　EP-G塗装（塗替え）	天井材 一部撤去、後新設（張替え）		掲示板：ｸﾛｽ張替え（全面）
3階	普通教室	改修前	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ貼り　OSW塗装	木製巾木（ﾗﾜﾝ） H=100　OS塗装	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え　VP塗装 ｼﾅ合板 t=6.0　目透かし張り　OP塗装	有孔石こう t=9.0 目透かし張り　EP塗装 梁型：ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え　VP塗装	3,050	
		改修後	改修なし	下地調整のうえ　EP-G塗装（塗替え）	下地調整のうえ　EP塗装（塗替え） 下地調整のうえ　EP-G塗装（塗替え）	改修なし 梁型：下地調整のうえ EP塗装（塗替え）		掲示板：ｸﾛｽ張替え（全面） 家具（掃除具入、ロッカー、整理棚）　改修なし
	廊　下	改修前	Pﾀｲﾙ張り t=2.0（石綿含有）一部撤去	木製巾木（ﾗﾜﾝ） H=100　OS塗装	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え　VP塗装 ｼﾅ合板 t=6.0　目透かし張り　OP塗装	有孔石こう t=9.0 目透かし張り　EP塗装	2,640	
		改修後	Pﾀｲﾙ張り t=2.0（既設一部撤去部分）	下地調整のうえ　EP-G塗装（塗替え）	下地調整のうえ　EP塗装（塗替え） 下地調整のうえ　EP-G塗装（塗替え）	天井材 一部撤去、後新設（張替え）		掲示板：ｸﾛｽ張替え（全面）
	西階段室	改修前	Pﾀｲﾙ張り t=2.0 階段：RC打放し、着色ﾋﾙ石吹付け	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え　VP塗装	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え　VP塗装	有孔石こう t=9.0 目透かし張り　EP塗装 ﾎﾞｰﾀﾞ-石こう t=9.0 目透かし張り		防火戸：SOP塗装
		改修後	改修なし 改修なし	下地調整のうえ　EP塗装（塗替え）	下地調整のうえ　EP塗装（塗替え） ｸﾗｯｸ補修（Uｶｯﾄｼｰﾘﾝｸﾞ充填）	天井材 一部撤去、後新設（張替え）		防火戸：下地調整のうえ　EP-G塗装（塗替え） 収納状態で見付面を塗替え（枠共）
	東階段室	改修前	Pﾀｲﾙ張り t=2.0 階段：RC打放し、着色ﾋﾙ石吹付け	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え　VP塗装	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え　VP塗装	有孔石こう t=9.0 目透かし張り　EP塗装 ﾎﾞｰﾀﾞ-石こう t=9.0 目透かし張り		
		改修後	改修なし 改修なし	下地調整のうえ　EP塗装（塗替え）	下地調整のうえ　EP塗装（塗替え）	改修なし		防火戸：下地調整のうえ　EP-G塗装（塗替え） 収納状態で見付面を塗替え（枠共）

外部建具周り：既設ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去のうえ、ｼｰﾘﾝｸﾞ（MS-2）打ち替え

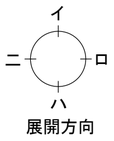
※特記なき限り、既設のままとする。

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	仕上表	A2 ――――	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		No. A-09



［改修前］１階平面図　S=1/200



展開方向

…… 改修箇所を示す（内部塗装改修、建具改修）

…… 増築箇所を示す（ＥＶ棟増築）

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	［改修前］１階平面図	A2　1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	No. A-10

西階段

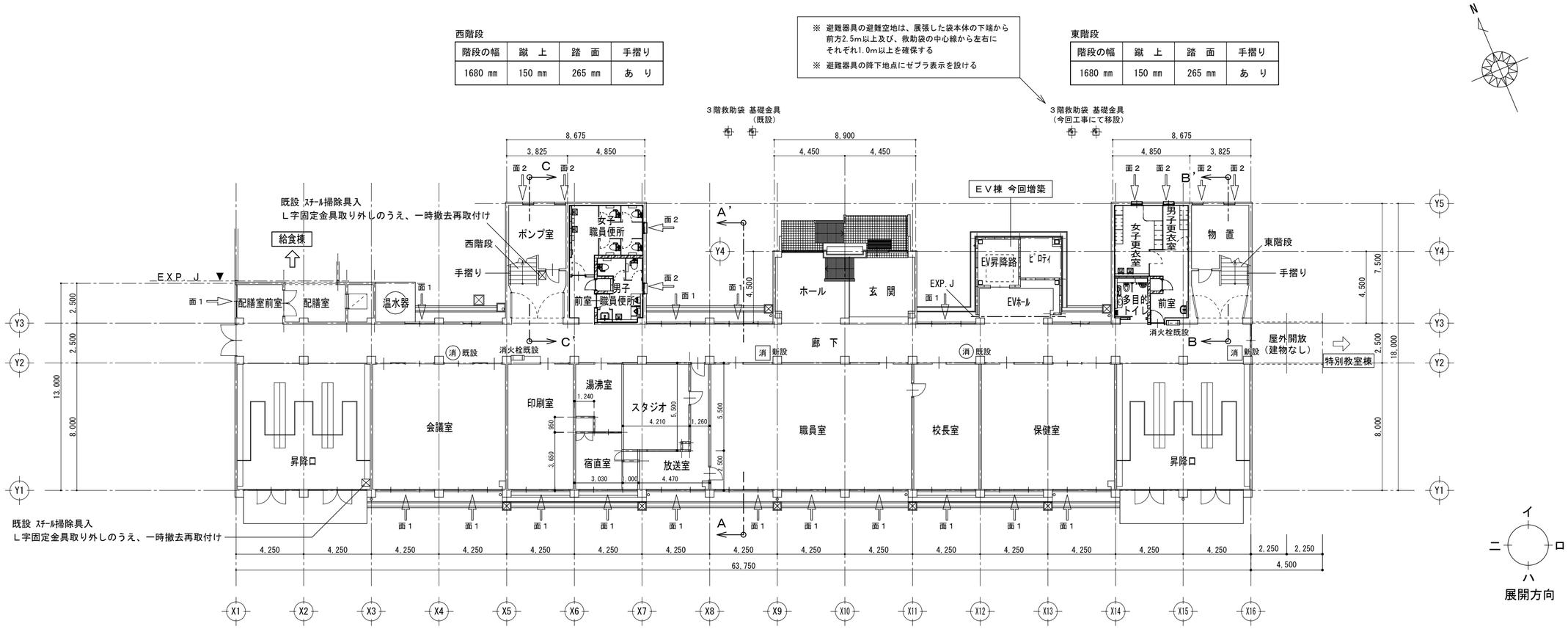
階段の幅	蹴　上	踏　面	手摺り
1680 ㎜	150 ㎜	265 ㎜	あ　り

※ 避難器具の避難空地は、展張した袋本体の下端から前方2.5m以上及び、救助袋の中心線から左右にそれぞれ1.0m以上を確保する

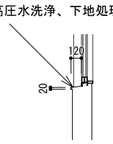
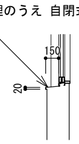
※ 避難器具の降下地点にゼブラ表示を設ける

東階段

階段の階段の幅	蹴　上	踏　面	手摺り
1680 ㎜	150 ㎜	265 ㎜	あ　り



●凡例

面１	面２
……既設 窓面台：以下の改修箇所を示す	……既設 窓面台：以下の改修箇所を示す
窓面台： ［改修前］防水ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押え ［改修後］高圧水洗浄、下地処理のうえ 自閉式塗膜防水 	窓面台： ［改修前］防水ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押え ［改修後］高圧水洗浄、下地処理のうえ 自閉式塗膜防水 

［改修後］１階平面図　S=1/200

消 既設 ……消火器（既設）設置位置を示す（ABC10型）

消 新設 ……消火器（今回工事にて新設）設置位置を示す（ABC10型）

消火栓既設 ……1号消火栓　（既設）

●居室の有効換気面積の検討

	必要換気面積（1/20）	有効換気面積	判　定
会議室	8.500×8.000＝68.000（床面積） 68.000×1/20＝3.400	AW-1　計2ヵ所 （1.100×1.750×1/2×2）×2＝3.850	3.400 ㎡ ＜ 3.850 ㎡ ……OK
職員室	12.750×8.000＝102.000（床面積） 102.000×1/20＝5.100	AW-1　AW-1´-2 （1.100×1.750×1/2×2）＋（1.100×1.750×1/2×2） AW-2 ＋（1.100×1.750×1/2 ＋ 2.000×1.750×1/2）＝6.562	5.100 ㎡ ＜ 6.562 ㎡ ……OK
校長室	4.250×8.000＝34.000（床面積） 34.000×1/20＝1.700	AW-1´ 1.100×1.750×1/2×2＝1.925	1.700 ㎡ ＜ 1.925 ㎡ ……OK
保健室	8.500×8.000＝68.000（床面積） 68.000×1/20＝3.400	AW-1´ （1.100×1.750×1/2×2） AW-3 ＋（1.100×1.750×1/2 ＋ 2.000×1.750×1/2）＝4.637	3.400 ㎡ ＜ 4.637 ㎡ ……OK
宿直室	1.240×0.950 ＋ 3.030×3.650 ＋ 1.000×2.500 ＝14.737（床面積） 14.737×1/20＝0.736	AW-1´-2 1.100×1.750×1/2×2＝1.925	0.736 ㎡ ＜ 1.925 ㎡ ……OK
放送室	1.260×5.500 ＋ 4.470×2.500＝18.105（床面積） 18.105×1/20＝0.905	AW-1 1.100×1.750×1/2×2＝1.925	0.905 ㎡ ＜ 1.925 ㎡ ……OK
スタジオ	4.210×5.500＝23.155（床面積） 23.155×1/20＝1.157	開口なし	0.000 ㎡ ＜ 1.157 ㎡ ……NG 但し換気設備設置

●内装制限 無窓居室の検討（床面積50㎡を超える居室）

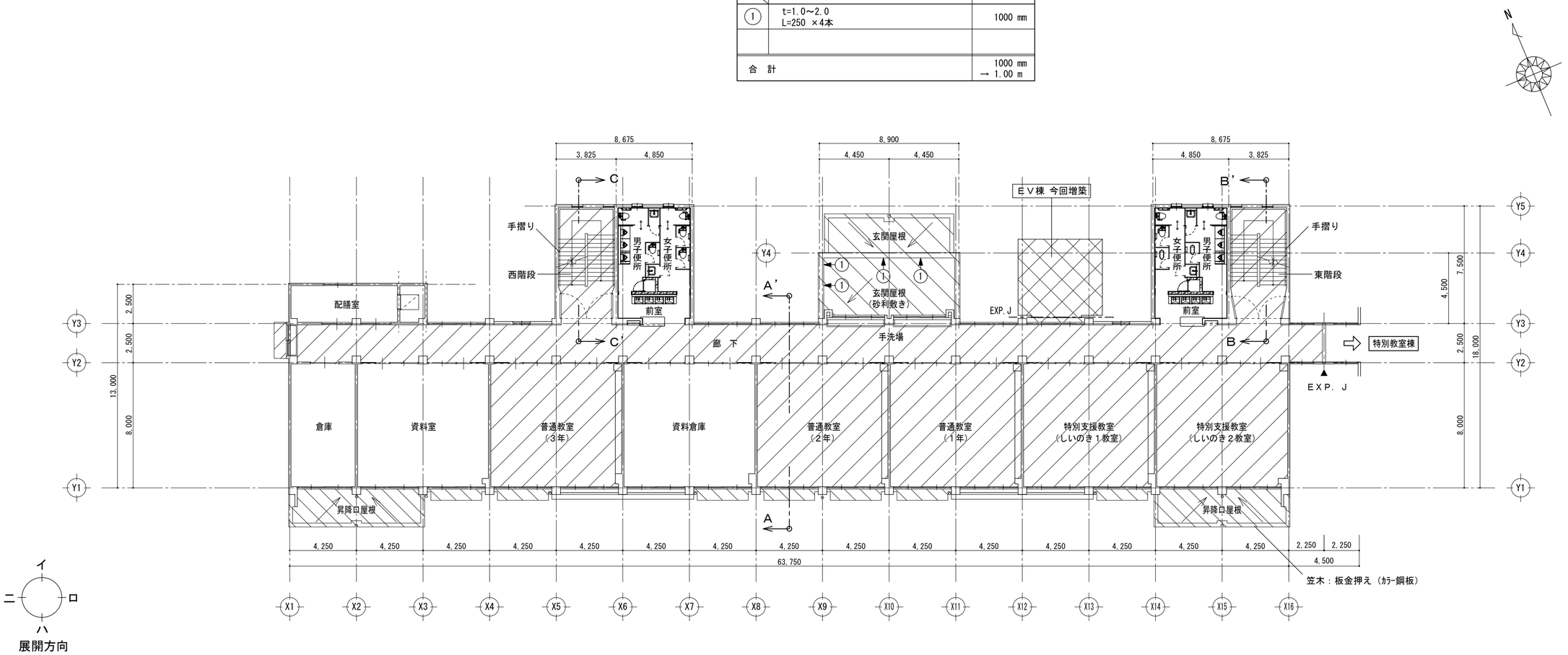
	必要開口面積（1/50）	有効開口面積	判　定
会議室	8.500×8.000＝68.000（床面積） 68.000×1/50＝1.360	AW-1　計2ヵ所 （0.540×1.750×1/2×2）×2＝1.890	1.360 ㎡ ＜ 1.890 ㎡ ……有窓（OK）
職員室	12.750×8.000＝102.000（床面積） 102.000×1/50＝2.040	AW-1 （0.540×1.750×1/2×2 ＋ 0.160×1.750×1/2×2） AW-1´-2　AW-2 ＋（0.540×1.750×1/2）＋（0.540×1.750×1/2）＝2.170	2.040 ㎡ ＜ 2.170 ㎡ ……有窓（OK）
保健室	8.500×8.000＝68.000（床面積） 68.000×1/50＝1.360	AW-1´ （0.540×1.750×1/2 ＋ 0.160×1.750×1/2×2） AW-3 ＋（0.540×1.750×1/2 ＋ 0.160×1.750×1/2×2）＝1.505	1.360 ㎡ ≦ 1.505 ㎡ ……有窓（OK）

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	［改修後］１階平面図	A2　1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	No. A-11

●ｸﾗｯｸ集計表（屋根）

	t=1.0を超えるクラック	長　さ
①	t=1.0～2.0 L=250 ×4本	1000 mm
合　計		1000 mm → 1.00 m



［改修前］２階平面図　S=1/200

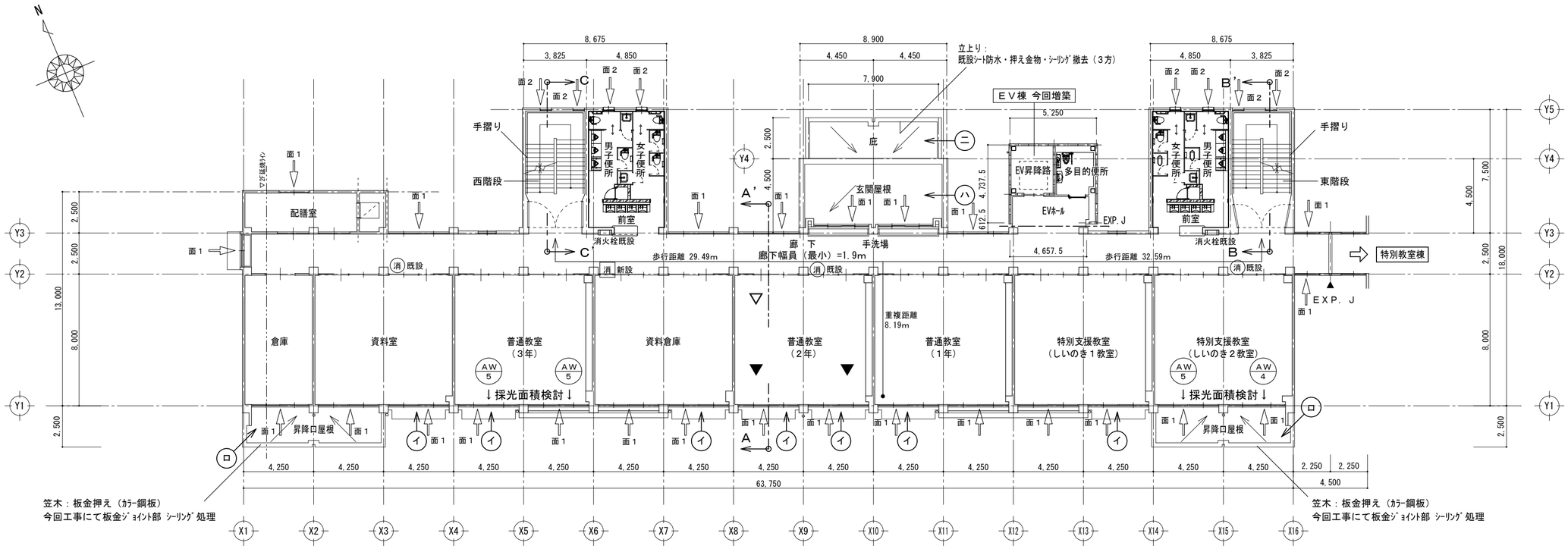
…… 改修箇所を示す（防水改修）

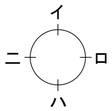
…… 改修箇所を示す（内部塗装改修、建具改修）

…… 増築箇所を示す（ＥＶ棟増築）

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	［改修前］２階平面図	A2　1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	A-12





展開方向

［改修後］２階平面図　S=1/200

消 既設 ……消火器（既設）設置位置を示す（ABC10型）

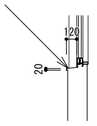
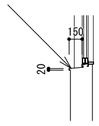
消 新設 ……消火器（今回工事にて新設）設置位置を示す（ABC10型）

消火栓既設 ……1号消火栓（既設）

▽ …… 室内環境測定（改修前）箇所を示す

▼ …… 室内環境測定（改修後）箇所を示す

●凡例

面１ ……既設 窓面台：以下の改修箇所を示す	面２ ……既設 窓面台：以下の改修箇所を示す
窓面台： ［改修前］防水ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押え ［改修後］高圧水洗浄、下地処理のうえ 自閉式塗膜防水 	窓面台： ［改修前］防水ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押え ［改修後］高圧水洗浄、下地処理のうえ 自閉式塗膜防水 

記号	部 位	改修前	改修後	備 考
イ	庇	（天端） シート防水 t=0.8 のうえ ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押え	（天端） 高圧水洗浄、ｸﾗｯｸ補修（Ｕｶｯﾄｼｰﾘﾝｸﾞ充填） 下地処理（ｴﾎﾟｷｼ系ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ ﾉﾛ引き）のうえ 自閉式塗膜防水	
ロ	昇降口屋根	（平場） シート防水 t=0.8 のうえ ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押え （立上り・笠木）シート防水 t=0.8 のうえ ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押え	（平場） 高圧水洗浄、下地処理（ｴﾎﾟｷｼ系ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ ﾉﾛ引き）のうえ ｳﾚﾀﾝ塗膜防水（X-1工法）脱気筒設置 （立上り・笠木）高圧水洗浄、ｸﾗｯｸ補修（Ｕｶｯﾄｼｰﾘﾝｸﾞ充填） 下地処理（ｴﾎﾟｷｼ系ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ ﾉﾛ引き）のうえ ｳﾚﾀﾝ塗膜防水（X-2工法）	既設ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ（横引き型）撤去　脱気装置 改修用ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ設置　100㎡以内毎に1ヵ所設置
ハ	玄関屋根 （上段）	（平場） ｱｽﾌｧﾙﾄ防水露出のうえ、砂利敷き（直径30mm程度 H=50） （点線範囲内） （立上り・笠木）ｱｽﾌｧﾙﾄ防水、防水ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押えのうえに塗膜防水	（平場） 砂利敷き撤去、ｱｽﾌｧﾙﾄ防水撤去、ｹﾚﾝ清掃 下地処理（ｴﾁﾚﾝ酢酸ﾋﾞﾆﾙ系ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ ﾉﾛ引き 仮防水）のうえ ｳﾚﾀﾝ塗膜防水（X-1工法） 脱気筒設置 （立上り・笠木）既設塗膜防水撤去、ｹﾚﾝ清掃、笠木 高圧水洗浄、 ｸﾗｯｸ補修（Ｕｶｯﾄｼｰﾘﾝｸﾞ充填） 下地処理（ｴﾎﾟｷｼ系ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ ﾉﾛ引き）のうえ ｳﾚﾀﾝ塗膜防水（X-2工法）	既設ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ（横引き型）撤去　脱気装置 改修用ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ設置　100㎡以内毎に1ヵ所設置
ニ	玄関屋根 （下段）	（平場） シート防水 t=0.8 のうえ ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押え （立上り・笠木）シート防水 t=0.8 のうえ ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押え	（平場） 高圧水洗浄、下地処理（ｴﾎﾟｷｼ系ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ ﾉﾛ引き）のうえ ｳﾚﾀﾝ塗膜防水（X-1工法）脱気筒設置 （立上り・笠木）既設ｼｰﾄ防水・押え金物・ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去、ｹﾚﾝ清掃、笠木 高圧水洗浄、ｸﾗｯｸ補修（Ｕｶｯﾄｼｰﾘﾝｸﾞ充填） 下地処理（ｴﾎﾟｷｼ系ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ ﾉﾛ引き）のうえ ｳﾚﾀﾝ塗膜防水（X-2工法）	既設ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ（横引き型）撤去　脱気装置 改修用ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ設置　100㎡以内毎に1ヵ所設置

●教室の有効採光面積の検討

	必要採光面積（1/5）	有効採光面積	判 定
普通教室（3年）	8.500×8.000＝68.000（床面積） 68.000×1/5＝13.600	採光補正係数 AW-5 56.830/5.750×6-1.4＝57.900 →3.0 有効採光面積 AW-5 計4ヵ所 （1.750×1.200×3.0）×4＝25.200	13.600 ㎡ ＜ 25.200 ㎡ ……OK 普通教室（2年・1年）、特別支援教室（しいのき１教室）も同様にOK （隣地境界線までの距離が最も不利な普通教室（3年）で検討）
特別支援教室（しいのき2教室）	8.500×8.000＝68.000（床面積） 68.000×1/5＝13.600	採光補正係数 AW-5 60.730/5.750×6-1.4＝61.970 →3.0 AW-4 61.430/5.700×6-1.4＝63.263 →3.0 有効採光面積 AW-5 計2ヵ所 AW-4 計2ヵ所 （1.750×1.200×3.0）×2+（1.650×1.100×3.0）×2=23.490	13.600 ㎡ ＜ 23.490 ㎡ ……OK

●内装制限 無窓居室の検討（床面積50㎡を超える居室）

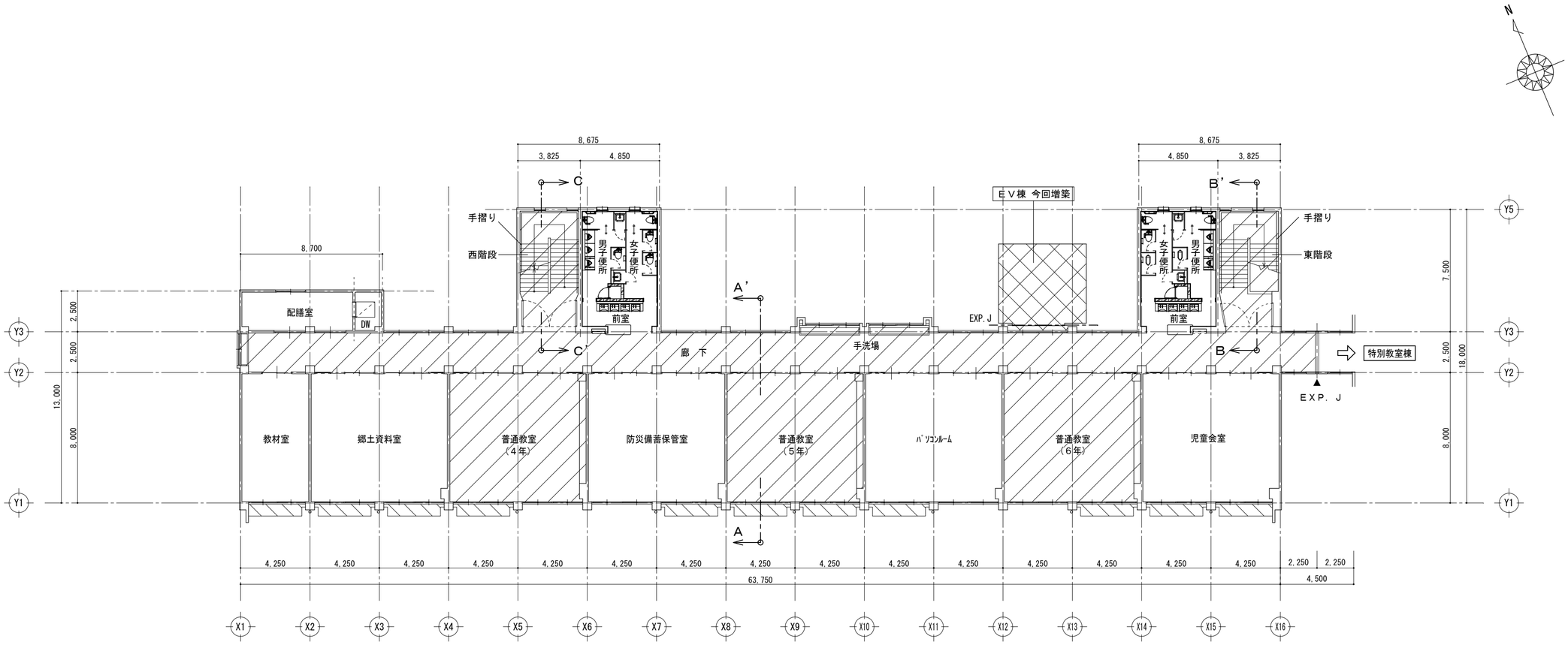
	必要開口面積（1/50）	有効開口面積	判 定
普通教室（1年･2年･3年） 特別支援教室（しいのき1教室）	8.500×8.000＝68.000（床面積） 68.000×1/50＝1.360	AW-5 計2ヵ所 （0.450×1.750×1/2×2）×2＝1.575	1.360 ㎡ ＜ 1.575 ㎡ ……有窓（OK）
特別支援教室（しいのき2教室）	8.500×8.000＝68.000（床面積） 68.000×1/50＝1.360	AW-4 AW-5 （0.450×1.650×1/2×2）+（0.450×1.750×1/2×2）＝1.530	1.360 ㎡ ＜ 1.530 ㎡ ……有窓（OK）

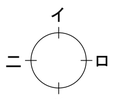
●居室の有効換気面積の検討

	必要換気面積（1/20）	有効換気面積	判 定
普通教室（3年） 普通教室（2年） 普通教室（1年） 特別支援教室（しいのき1教室）	8.500×8.000＝68.000（床面積） 68.000×1/20＝3.400	AW-5 計2ヵ所 （1.200×1.750×1/2×2）×2＝4.200	3.400 ㎡ ＜ 4.200 ㎡ ……OK
特別支援教室（しいのき2教室）	8.500×8.000＝68.000（床面積） 68.000×1/20＝3.400	AW-5 AW-4 （1.200×1.750×1/2×2）+（1.100×1.650×1/2×2）＝3.915	3.400 ㎡ ＜ 3.915 ㎡ ……OK

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	［改修後］２階平面図	A2　1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	A-13





展開方向

［改修前］３階平面図　S=1/200

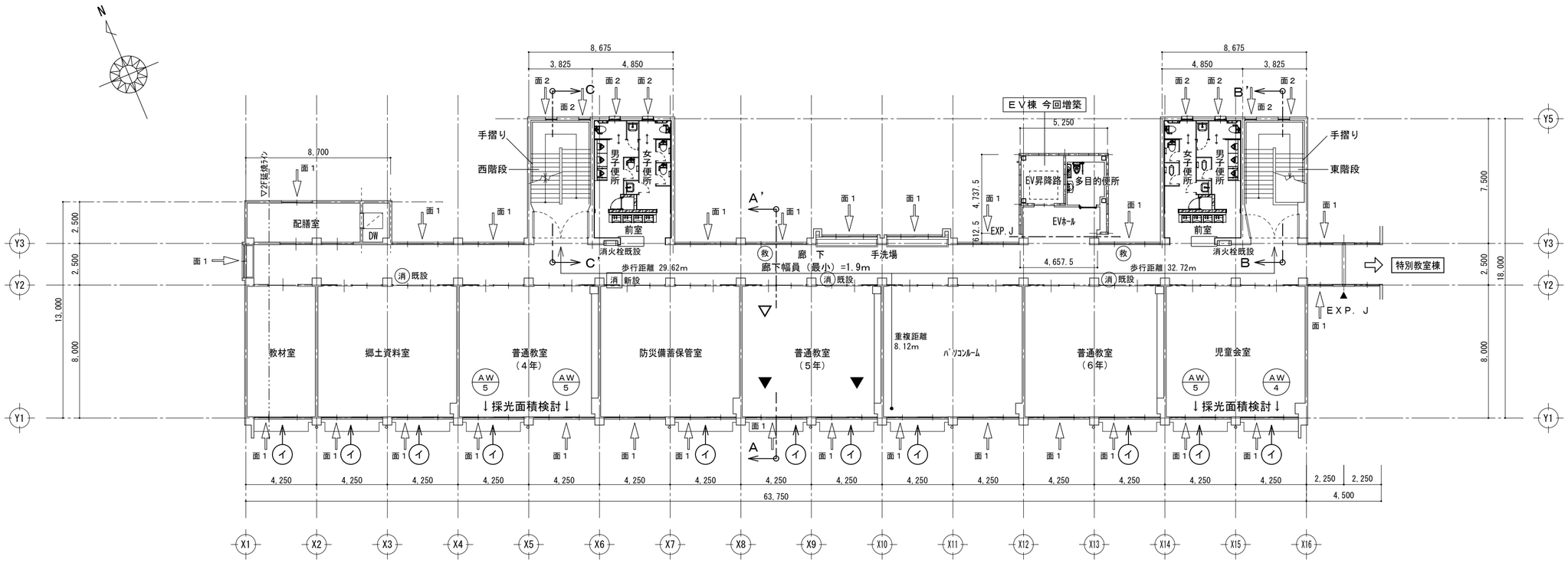
…… 改修箇所を示す（防水改修）

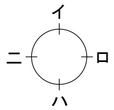
…… 改修箇所を示す（内部塗装改修、建具改修）

…… 増築箇所を示す（ＥＶ棟増築）

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	［改修前］３階平面図	A2　1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	A-14





展開方向

［改修後］３階平面図　S=1/200

消 既設 ……消火器（既設）設置位置を示す（ABC10型）

消 新設 ……消火器（今回工事にて新設）設置位置を示す（ABC10型）

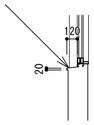
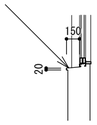
救 ……救助袋（既設）設置位置を示す

消火栓既設 ……1号消火栓（既設）

▽ …… 室内環境測定（改修前）箇所を示す
１ヶ所（普通教室（５年））

▼ …… 室内環境測定（改修後）箇所を示す
２ヶ所（普通教室（５年））

●凡例

面1 ……既設 窓面台：以下の改修箇所を示す	面2 ……既設 窓面台：以下の改修箇所を示す
窓面台： ［改修前］防水ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押え ［改修後］高圧水洗浄、下地処理のうえ 自閉式塗膜防水 	窓面台： ［改修前］防水ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押え ［改修後］高圧水洗浄、下地処理のうえ 自閉式塗膜防水 

記号	部　位	改修前	改修後	備　考
イ	庇	（天端）　防水ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押え	（天端）　高圧水洗浄、ｸﾗｯｸ補修（Ｕｶｯﾄｼｰﾘﾝｸﾞ充填） 下地処理（ｴﾎﾟｷｼ系ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ ﾉﾛ引き）のうえ 自閉式塗膜防水	

●教室の有効採光面積の検討

	必要採光面積（1/5）	有効採光面積	判　定
普通教室（4年）	8.500×8.000＝68.000（床面積） 68.000×1/5＝13.600	採光補正係数　AW-5　56.830/2.150×6-1.4＝157.195　→3.0 有効採光面積　AW-5 計4ヵ所（1.750×1.200×3.0）×4＝25.200	13.600 ㎡ ＜ 25.200 ㎡　……OK 普通教室（5年・6年）、ﾊﾟｿｺﾝﾙｰﾑも同様にOK （隣地境界線までの距離が最も不利な普通教室（4年）で検討）
児童会室	8.500×8.000＝68.000（床面積） 68.000×1/5＝13.600	採光補正係数　AW-5　60.730/2.150×6-1.4＝168.079　→3.0 AW-4　61.430/2.100×6-1.4＝174.114　→3.0 有効採光面積　AW-5 計2ヵ所（1.750×1.200×3.0）×2＋AW-4 計2ヵ所（1.650×1.100×3.0）×2＝23.490	13.600 ㎡ ＜ 23.490 ㎡　……OK

●内装制限 無窓居室の検討（床面積50㎡を超える居室）

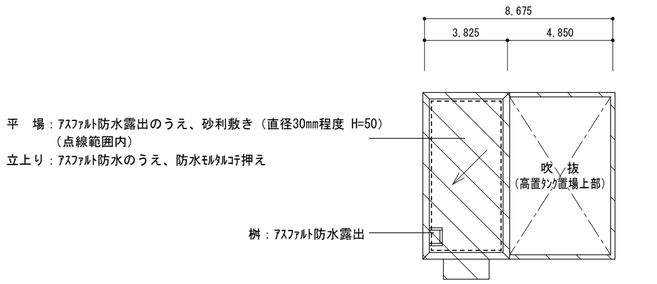
	必要開口面積（1/50）	有効開口面積	判　定
普通教室（4年･5年･6年） パソコンルーム	8.500×8.000＝68.000（床面積） 68.000×1/50＝1.360	AW-5 計2ヵ所 （0.450×1.750×1/2×2）×2＝1.575	1.360 ㎡ ＜ 1.575 ㎡　……有窓（OK）
児童会室	8.500×8.000＝68.000（床面積） 68.000×1/50＝1.360	AW-4　AW-5 （0.450×1.650×1/2×2）＋（0.450×1.750×1/2×2）＝1.530	1.360 ㎡ ＜ 1.530 ㎡　……有窓（OK）

●居室の有効換気面積の検討

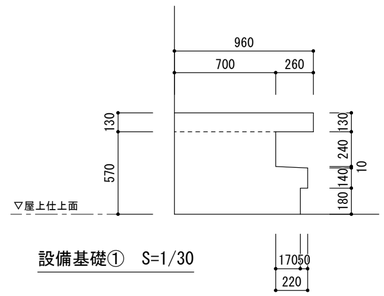
	必要換気面積（1/20）	有効換気面積	判　定
普通教室（4年） 普通教室（5年） 普通教室（6年） パソコンルーム	8.500×8.000＝68.000（床面積） 68.000×1/20＝3.400	AW-5 計2ヵ所 （1.200×1.750×1/2×2）×2＝4.200	3.400 ㎡ ＜ 4.200 ㎡　……OK
児童会室	8.500×8.000＝68.000（床面積） 68.000×1/20＝3.400	AW-5　AW-4 （1.200×1.750×1/2×2）＋（1.100×1.650×1/2×2）＝3.915	3.400 ㎡ ＜ 3.915 ㎡　……OK

原図：Ａ２

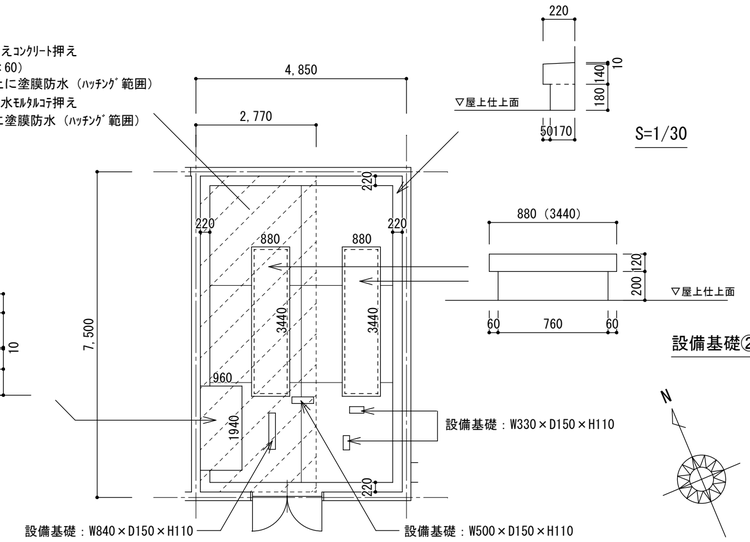
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	［改修後］３階平面図	A2　1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	No. A-15



［改修前］PH階平面図　S=1/200



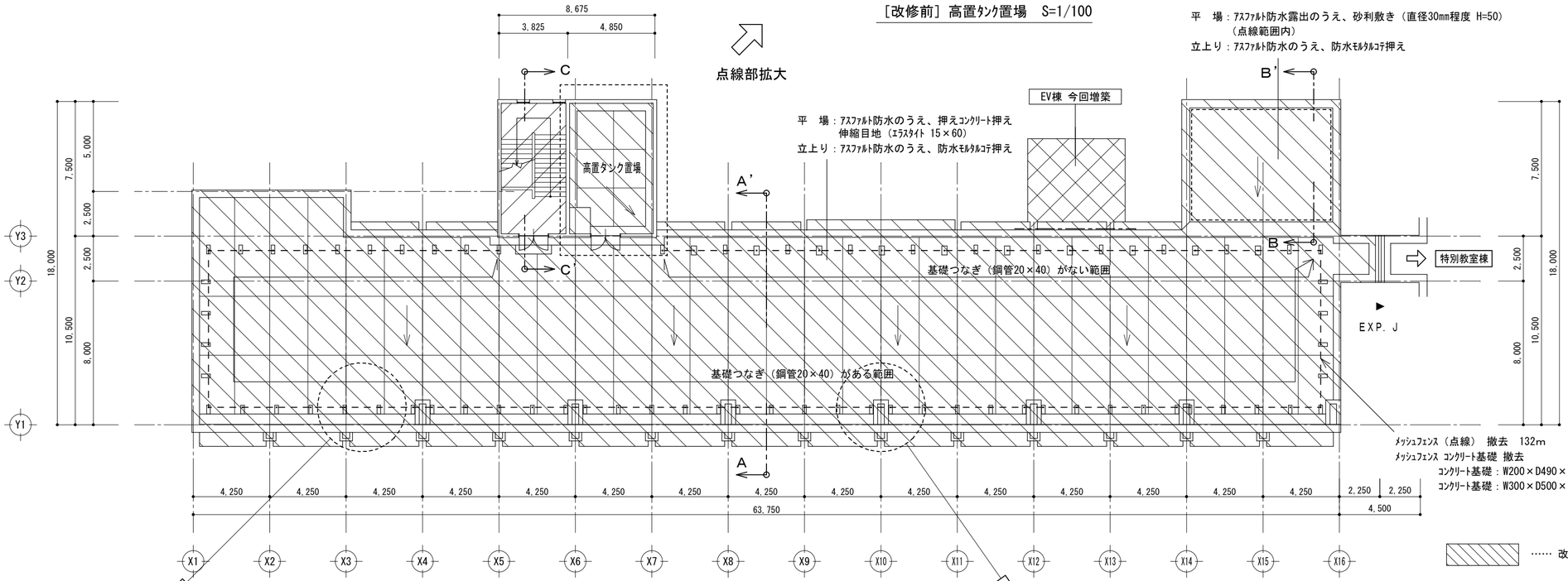
設備基礎①　S=1/30

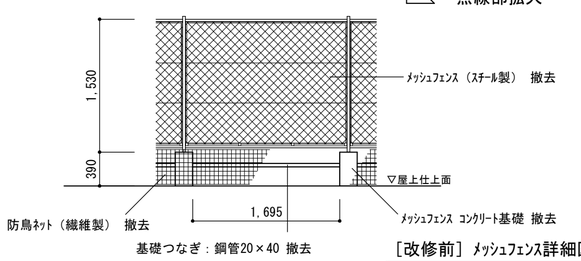


［改修前］高置ﾀﾝｸ置場　S=1/100

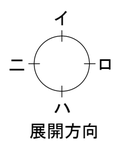
S=1/30

設備基礎②　S=1/30

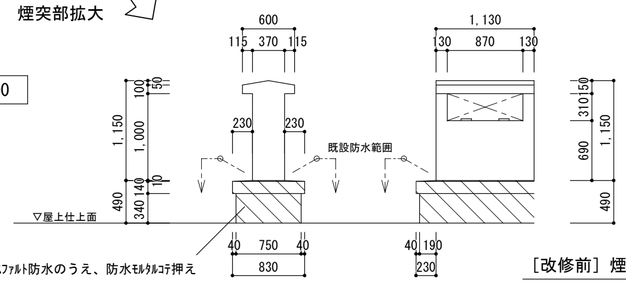




［改修前］ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ詳細図　S=1/50



［改修前］屋上階平面図　S=1/200



［改修前］煙突部詳細図　S=1/50

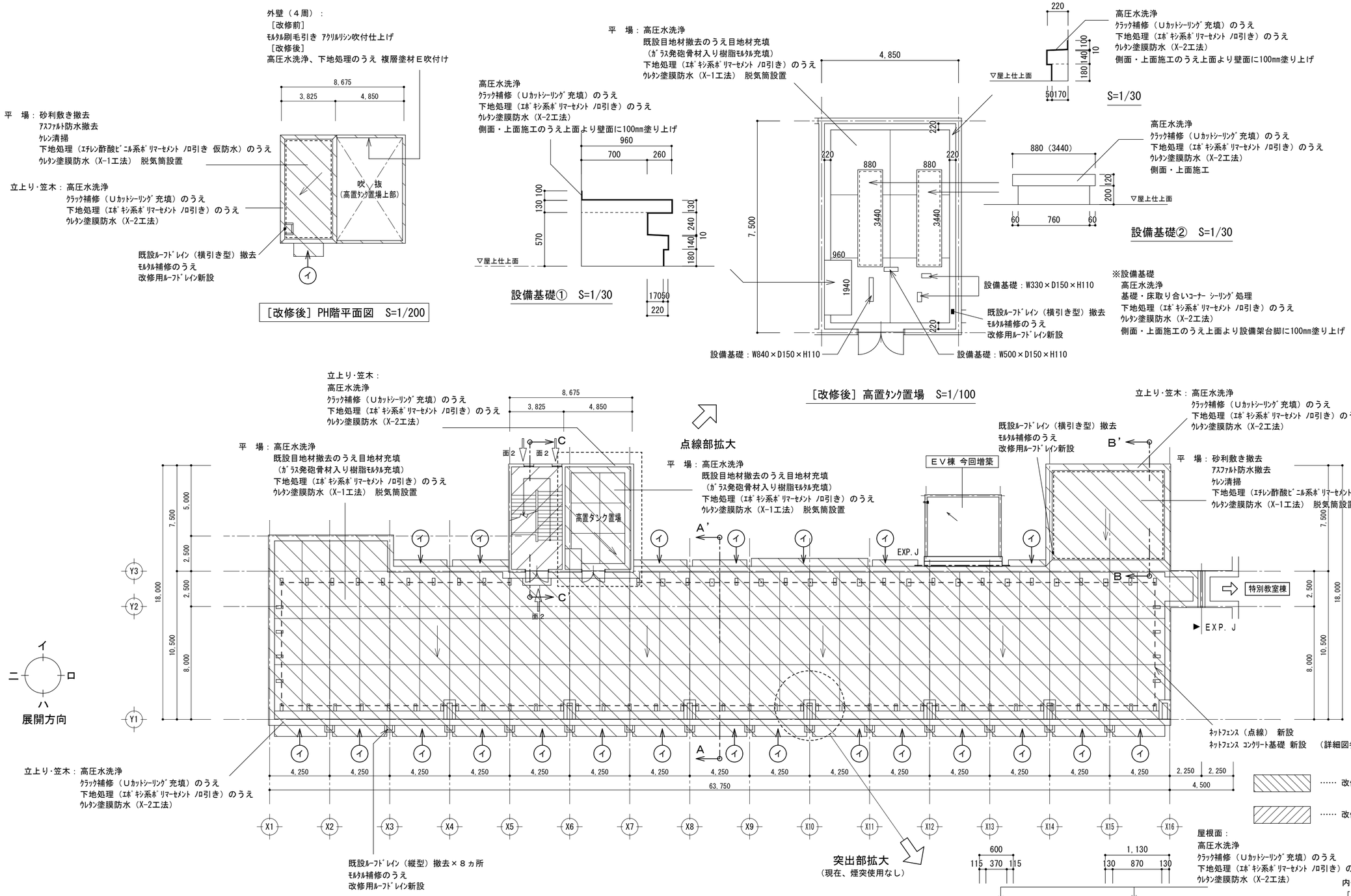
…… 改修箇所を示す（防水改修）

…… 改修箇所を示す（内部塗装改修、建具改修）

…… 増築箇所を示す（ＥＶ棟増築）

原図：Ａ２

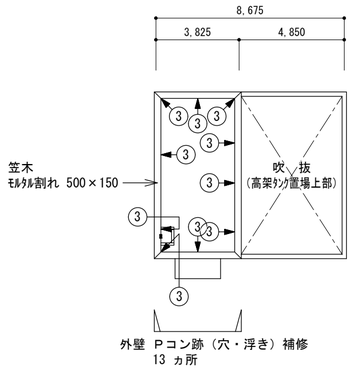
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	［改修前］屋上･PH階平面図	A2　1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康		No. A-16



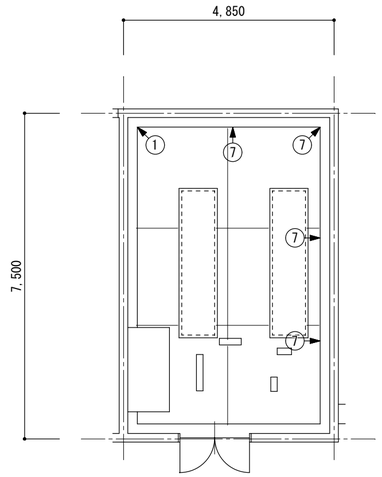
記号	部 位	改修前	改修後	備 考
イ	庇	（天端） ｼｰﾄ防水 t=0.8 のうえ ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押え	（天端） 高圧水洗浄、ｸﾗｯｸ補修（Ｕｶｯﾄｼｰﾘﾝｸﾞ充填） 下地処理（ｴﾎﾟｷｼ系ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ ﾉﾛ引き）のうえ 自閉式塗膜防水	

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	［改修後］屋上･PH階平面図	A2 1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	No. A-17



［改修前］PH階平面図　S=1/200

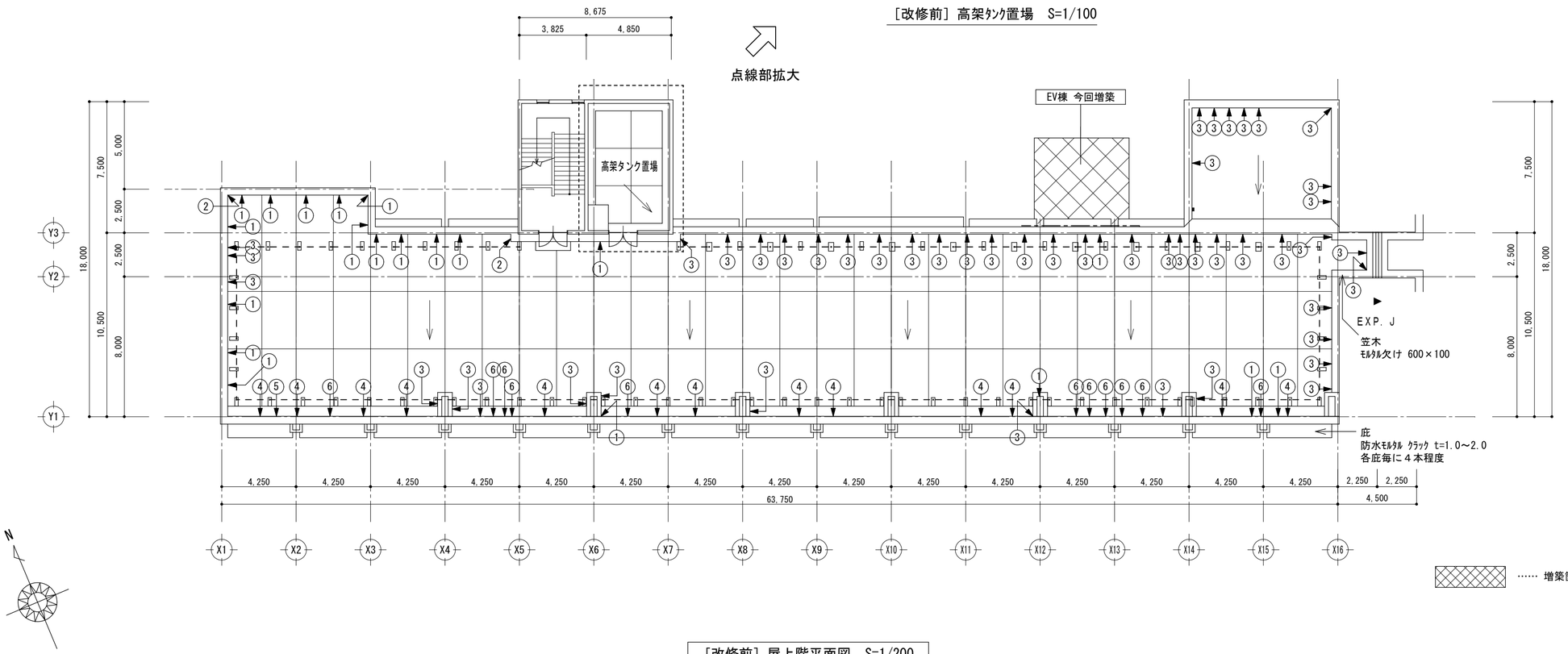


［改修前］高架ﾀﾝｸ置場　S=1/100

●ｸﾗｯｸ集計表（屋上・庇）

	t=1.0を超えるクラック	長　さ
①	t=3.0～5.0 L=260 ×21本（笠木含む）	5460 mm
②	t=8.0～10.0 L=260 ×2本	520 mm
③	t=1.0～2.0 L=260 ×59本（笠木含む）	15340 mm
④	t=3.0～5.0 L=640 ×13本（雨水排水溝含む）	8320 mm
⑤	t=8.0～10.0 L=640 ×1本（雨水排水溝含む）	640 mm
⑥	t=1.0～2.0 L=640 ×11本（雨水排水溝・笠木含む）	7040 mm
⑦	t=1.0～2.0 L=225 ×4本	900 mm
庇	t=1.0～2.0 L=750 ×60本	45000 mm
合　計		83220 mm → 83.3 m

	モルタル欠損	面　積
笠木	ﾓﾙﾀﾙ割れ 500×150	0.075 ㎡
笠木	ﾓﾙﾀﾙ欠け 600×100	0.06 ㎡
合　計		0.135 ㎡

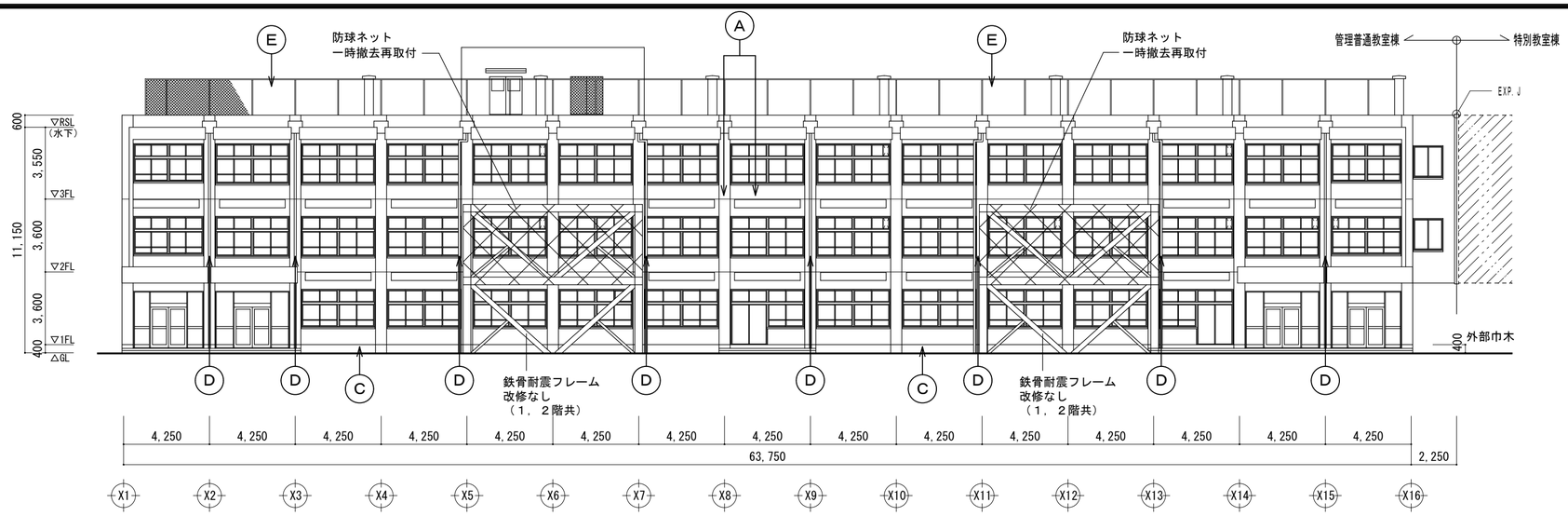


…… 増築箇所を示す（ＥＶ棟増築）

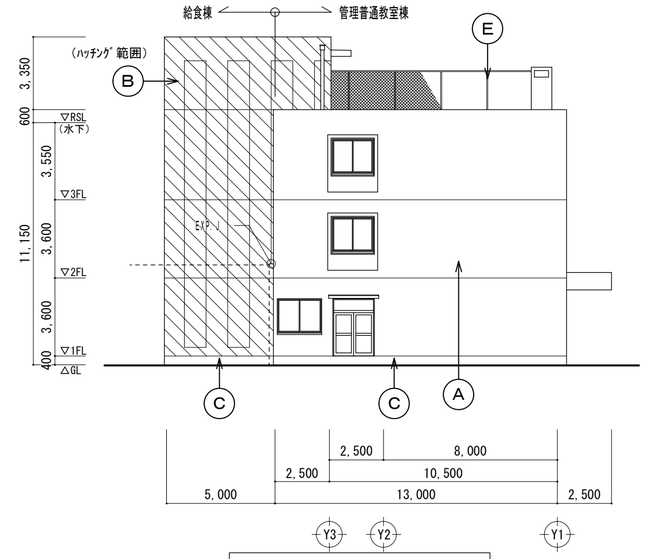
［改修前］屋上階平面図　S=1/200

原図：Ａ２

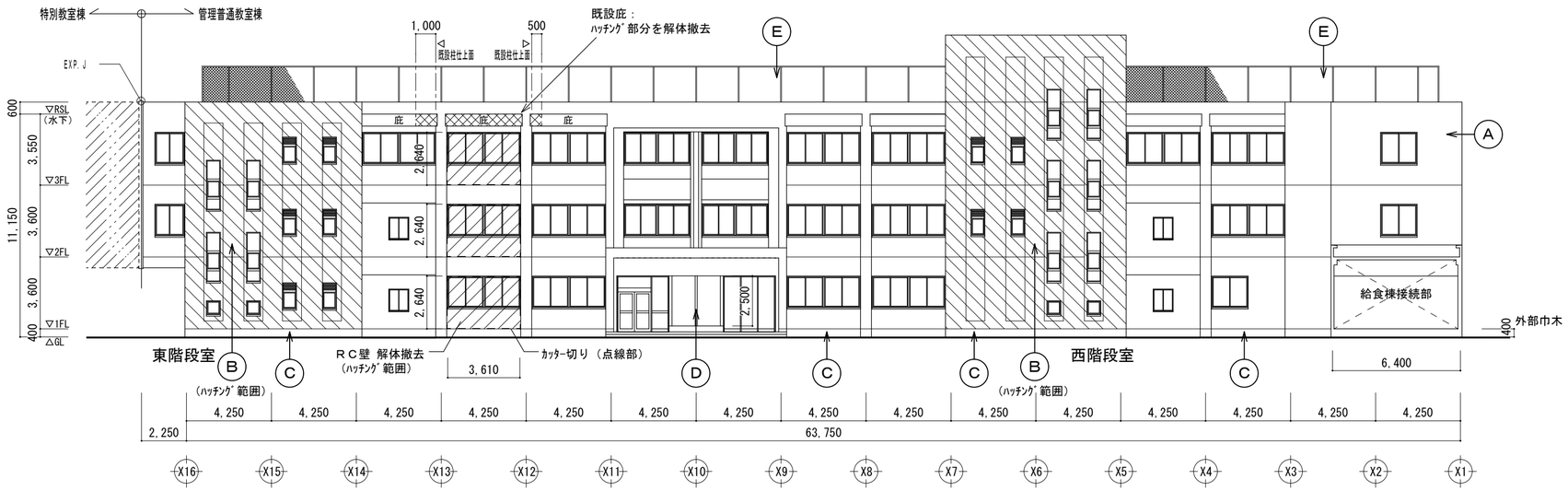
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE					No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	クラック集計（屋上・庇）	A2　1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康			A-18



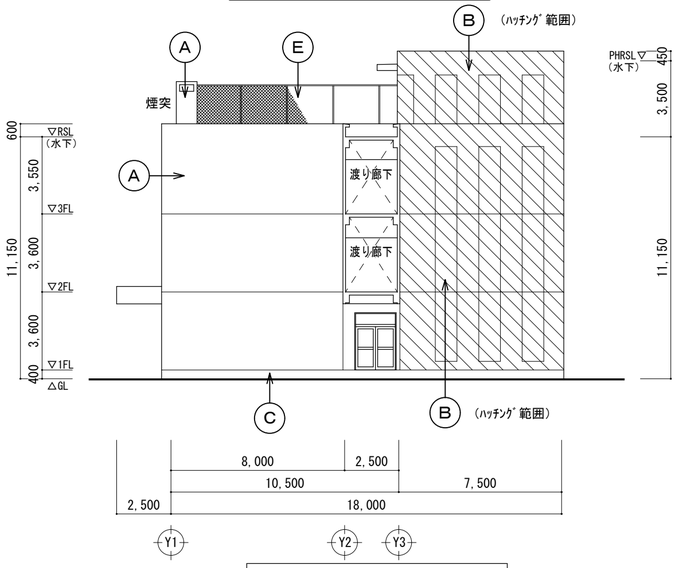
南立面図　S=1/200



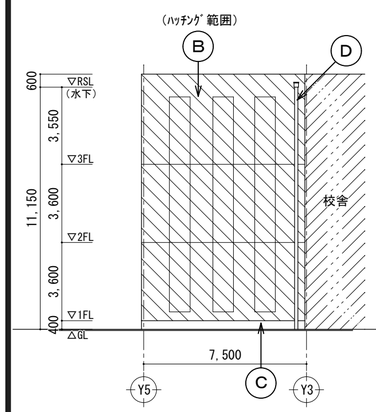
西立面図　S=1/200



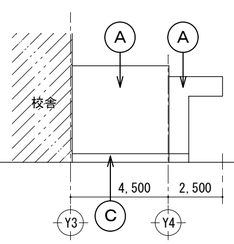
北立面図　S=1/200



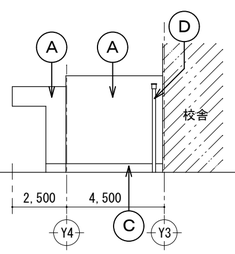
東立面図　S=1/200



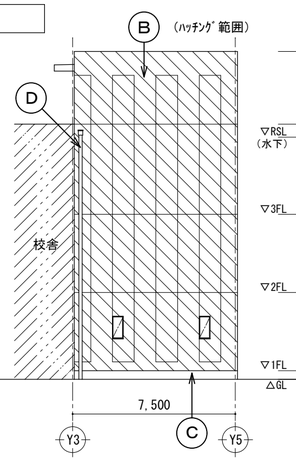
（東階段室）西立面図　S=1/200



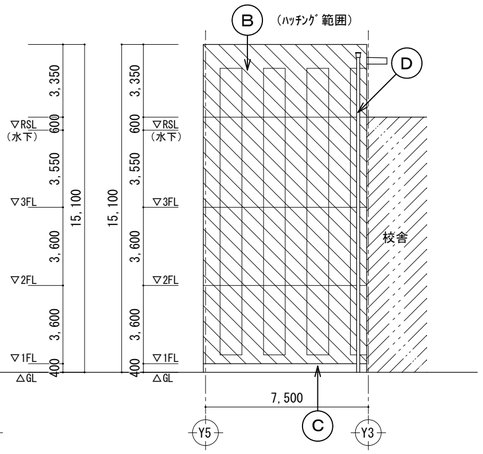
（玄関）東立面図　S=1/200



（玄関）西立面図　S=1/200



（西階段室）東立面図　S=1/200



（西階段室）西立面図　S=1/200

記号	部　位	改修前	改修後
Ⓐ	外　壁	ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付仕上げ	高圧水洗浄、下地処理のうえ 複層塗材Ｅ吹付け
Ⓑ	外　壁	RC打放し、ｱｸﾘﾙ系吹付ﾀｲﾙ仕上げ	高圧水洗浄、下地処理のうえ 複層塗材Ｅ吹付け
Ⓒ	外部巾木	ﾓﾙﾀﾙ塗り ｺﾃ押え	ﾓﾙﾀﾙ塗りｺﾃ押え そのまま 水洗い
Ⓓ	竪　樋	硬質塩ビ管 φ100 VP塗装 撤去（集水器共）	硬質塩ビ管（ｶﾗｰ） φ100 新設（集水器共）
Ⓔ	ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ	撤去 ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎共	新設 ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎共

【備　考】
・サッシ廻りのシーリングについては、撤去の上新設を行う。
・外壁目地部は、シーリング（PU-2）新設を行う。
・外壁改修は、施工数量調査を行う。
・盤、BOX、鋼管等については下地調整ＲＢ種の上ＤＰ塗りとする。

……外壁改修工事対象外を示す

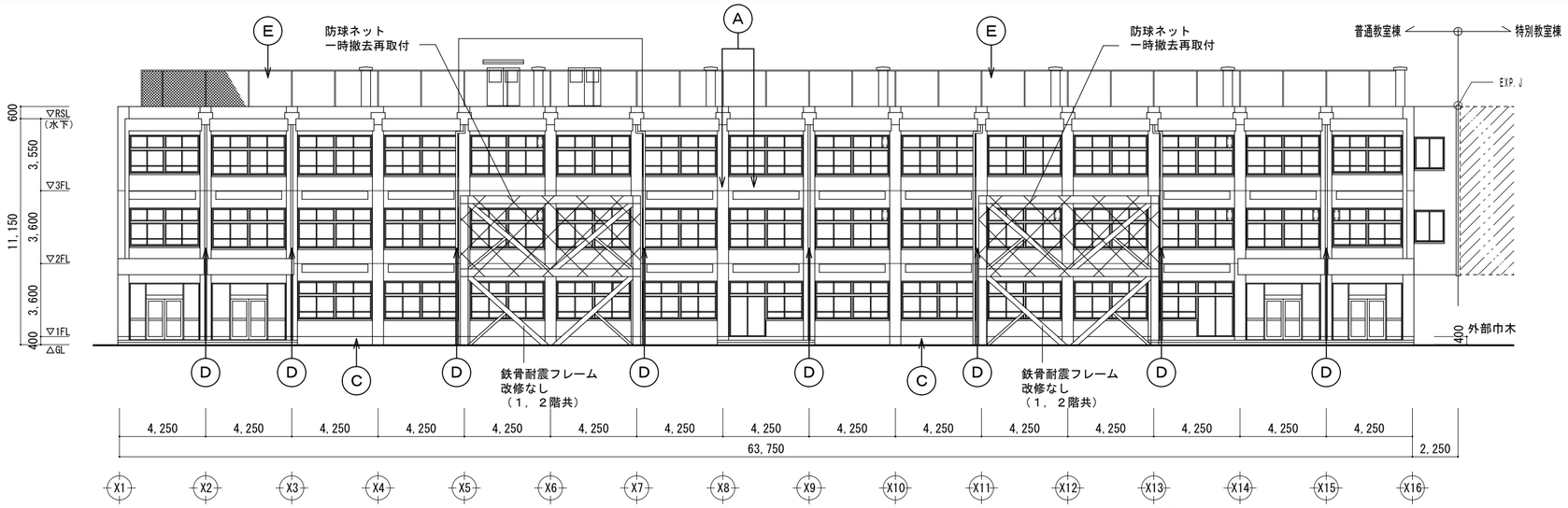
原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	［改修前］立面図	A2　1/200

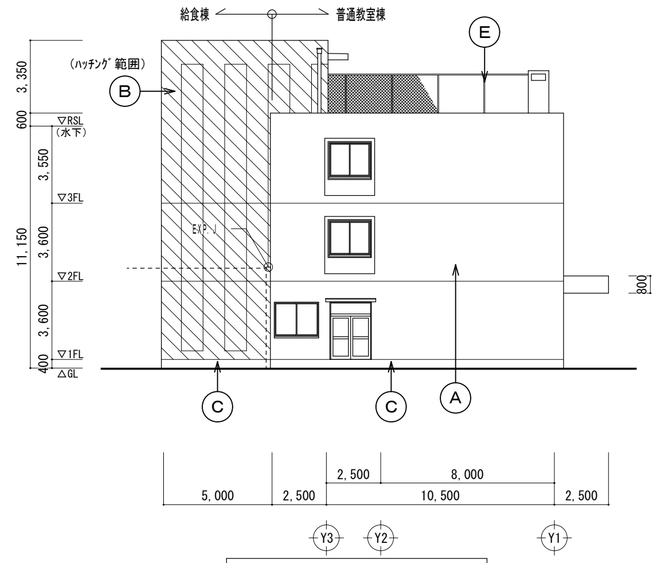
一級建築士事務所
三重県登録第1-2396号
山本一級建築士事務所
管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号）
〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779

設計者：一級建築士 第317991号 山本 覚康

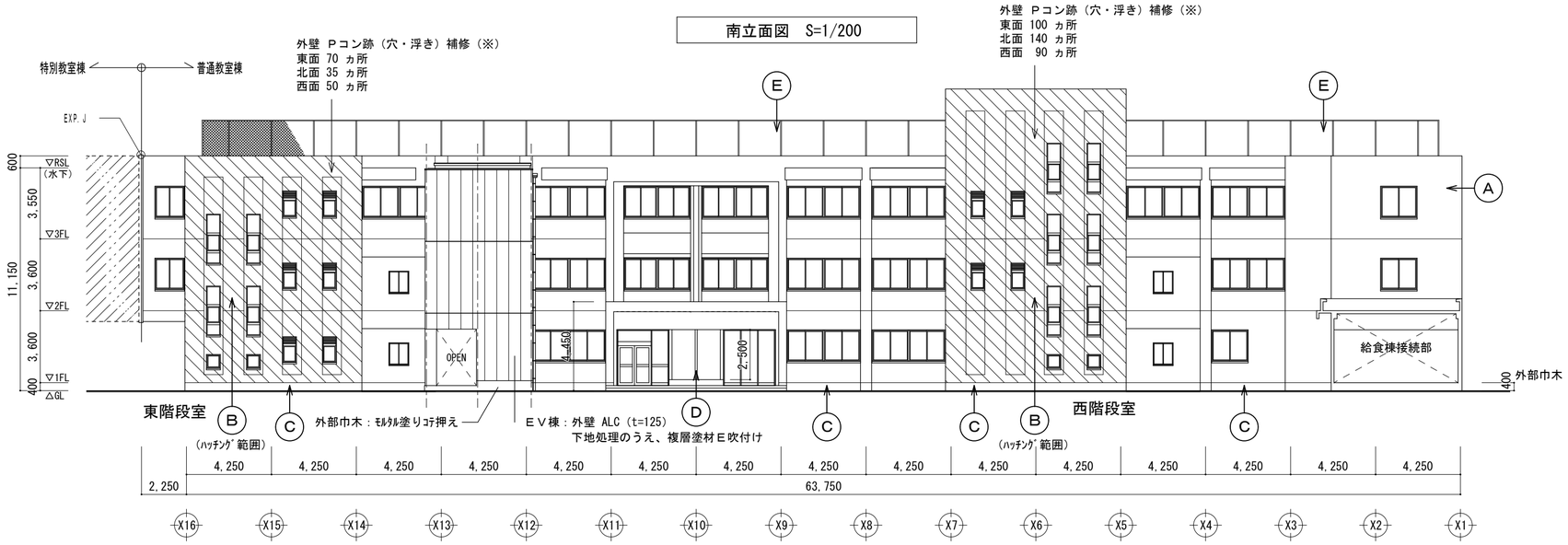
No. A-19



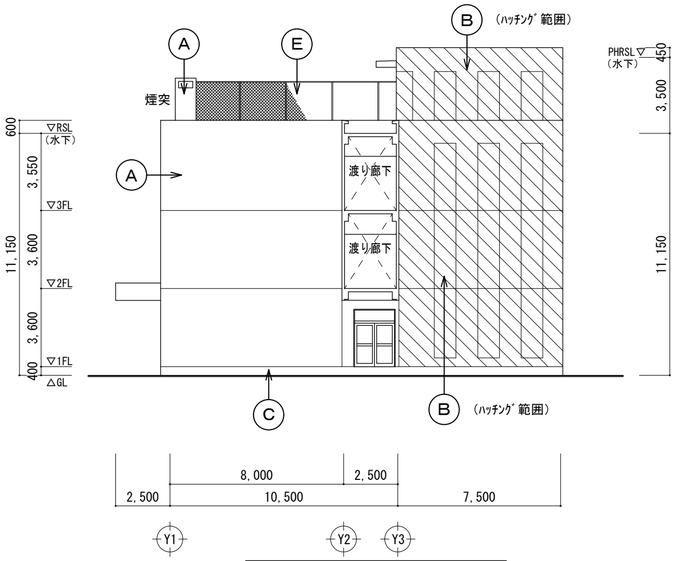
南立面図　S=1/200



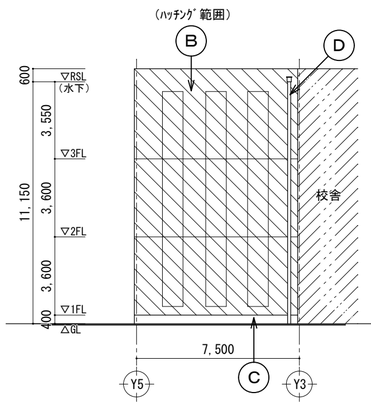
西立面図　S=1/200



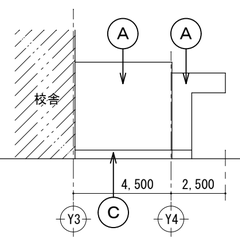
北立面図　S=1/200



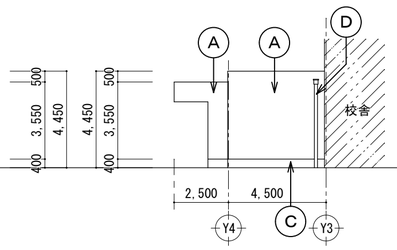
東立面図　S=1/200



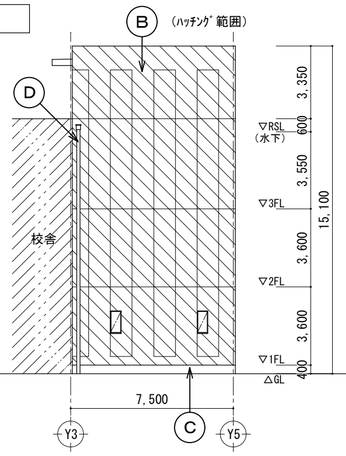
（東階段室）西立面図　S=1/200



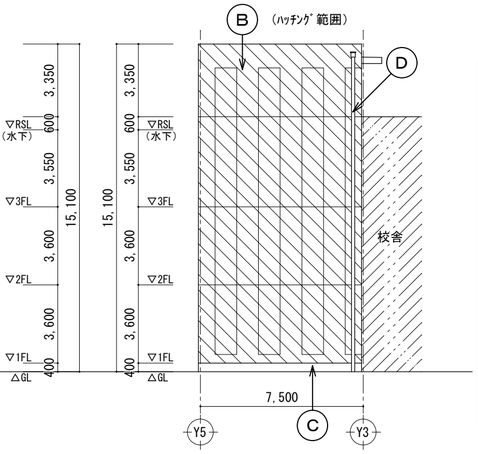
（玄関）東立面図　S=1/200



（玄関）西立面図　S=1/200



（西階段室）東立面図　S=1/200



（西階段室）西立面図　S=1/200

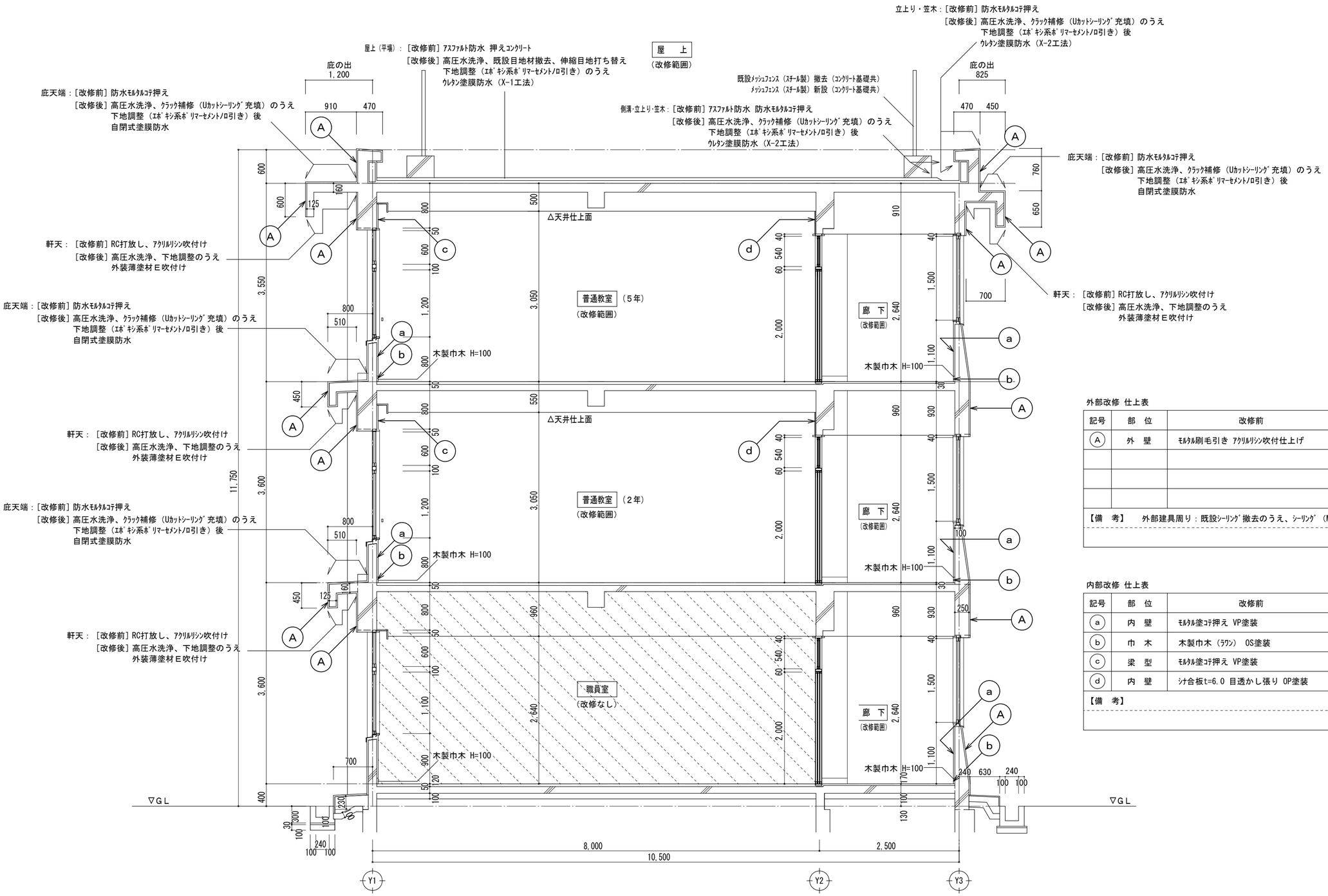
記号	部　位	改修前	改修後
Ⓐ	外　壁	ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付仕上げ	高圧水洗浄、下地処理のうえ 複層塗材Ｅ吹付け
Ⓑ	外　壁	RC打放し、ｱｸﾘﾙ系吹付ﾀｲﾙ仕上げ	高圧水洗浄、下地処理のうえ 複層塗材Ｅ吹付け
Ⓒ	外部巾木	ﾓﾙﾀﾙ塗り ｺﾃ押え	ﾓﾙﾀﾙ塗りｺﾃ押え そのまま 水洗い
Ⓓ	竪　樋	硬質塩ビ管 φ100 VP塗装 撤去（集水器共）	硬質塩ビ管（ｶﾗｰ） φ100 新設（集水器共）
Ⓔ	ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ	撤去 ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎共	新設 ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎共

【備　考】
・サッシ廻りのシーリングについては、撤去の上新設を行う。
・外壁目地部は、シーリング（PU-2）新設を行う。
・外壁改修は、施工数量調査を行う。
・盤、BOX、鋼管等については下地調整ＲＢ種の上ＤＰ塗りとする。
・（※）Pコン跡（穴・浮き）補修は、ｸﾞﾘｯﾄﾞにて算定し9ヵ所につき
欠損部補修（100×100程度）１ヵ所とする。

……外壁改修工事対象外を示す

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	［改修後］立面図	A2　1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	No. A-20



［改修前・後］A～A’断面詳細図 S=1/50

外部改修 仕上表

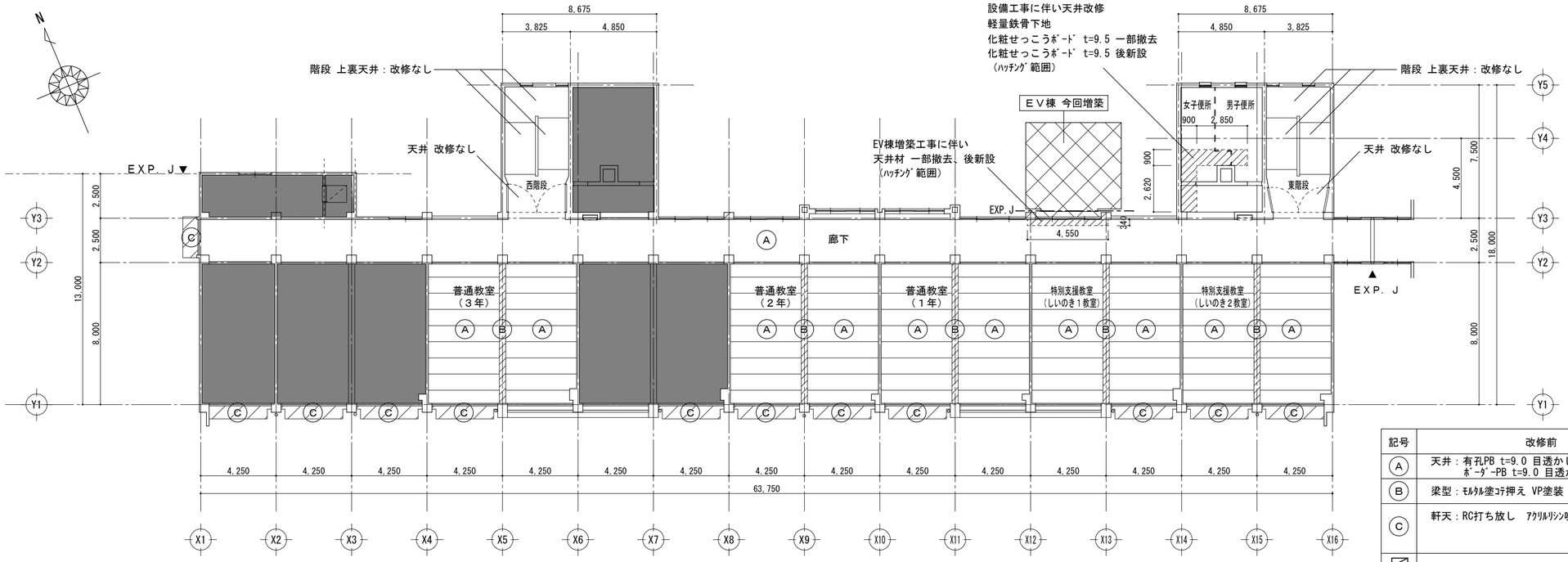
記号	部 位	改修前	改修後
A	外 壁	モルタル刷毛引き アクリルリシン吹付仕上げ	高圧水洗浄、下地処理のうえ 複層塗材E吹付け
【備 考】 外部建具周り：既設シーリング撤去のうえ、シーリング（MS-2）打ち替え			

内部改修 仕上表

記号	部 位	改修前	改修後
a	内 壁	モルタル塗コテ押え VP塗装	下地調整のうえ、EP塗装塗替え
b	巾 木	木製巾木（ラワン） OS塗装	下地調整のうえ、EP-G塗装塗替え
c	梁 型	モルタル塗コテ押え VP塗装	下地調整のうえ、EP塗装塗替え
d	内 壁	シナ合板t=6.0 目透かし張り OP塗装	下地調整のうえ、EP-G塗装塗替え
【備 考】			

原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	［改修前・後］A～A’断面詳細図	A2 1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	A-21

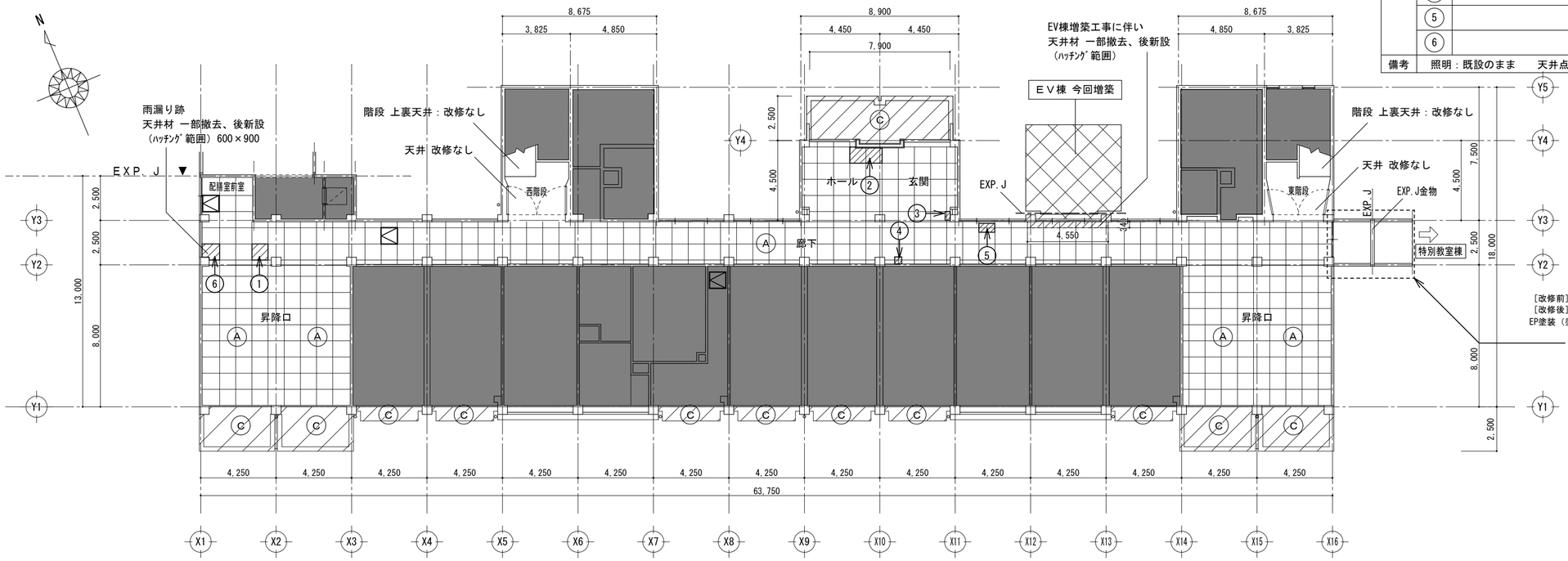


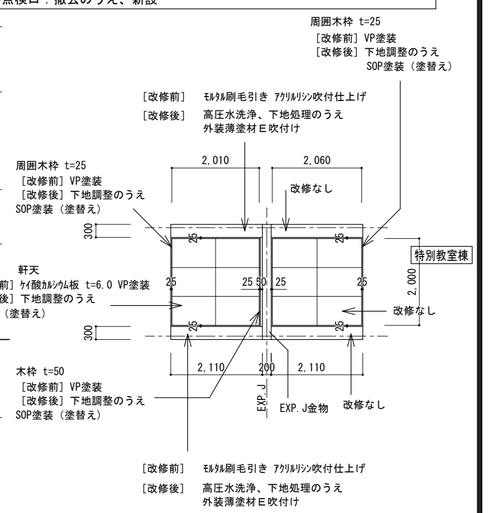
２階天井伏図　S=1/200

…… 天井改修箇所を示す

記号	改修前	改修後
A	天井：有孔PB t=9.0 目透かし張り　EP塗装 ﾎﾞｰﾀﾞ-PB t=9.0 目透かし張り　EP塗装	天井　一部 天井材張替え（劣化・雨漏り箇所）
B	梁型：ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	梁型：下地調整のうえ、EP塗装（塗替え）
C	軒天：RC打ち放し　ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付	軒天：高圧水洗浄 下地調整のうえ　外装薄塗材E吹付
◁		天井点検口 新設 450×450

	記号	範　囲	状　況
天井材張替え箇所	1	900×900	劣化・照明あり
	2	900×1800	劣化
	3	500×300	劣化
	4	400×400	劣化・点検口あり
	5	900×500	劣化・点検口あり
	6	600×900	雨漏り跡
備考	照明：既設のまま　天井点検口：撤去のうえ、新設		





１階天井伏図　S=1/200

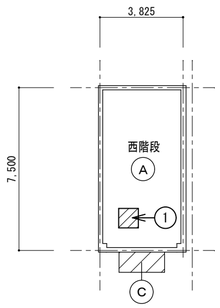
…… 天井改修箇所を示す

原図：Ａ２

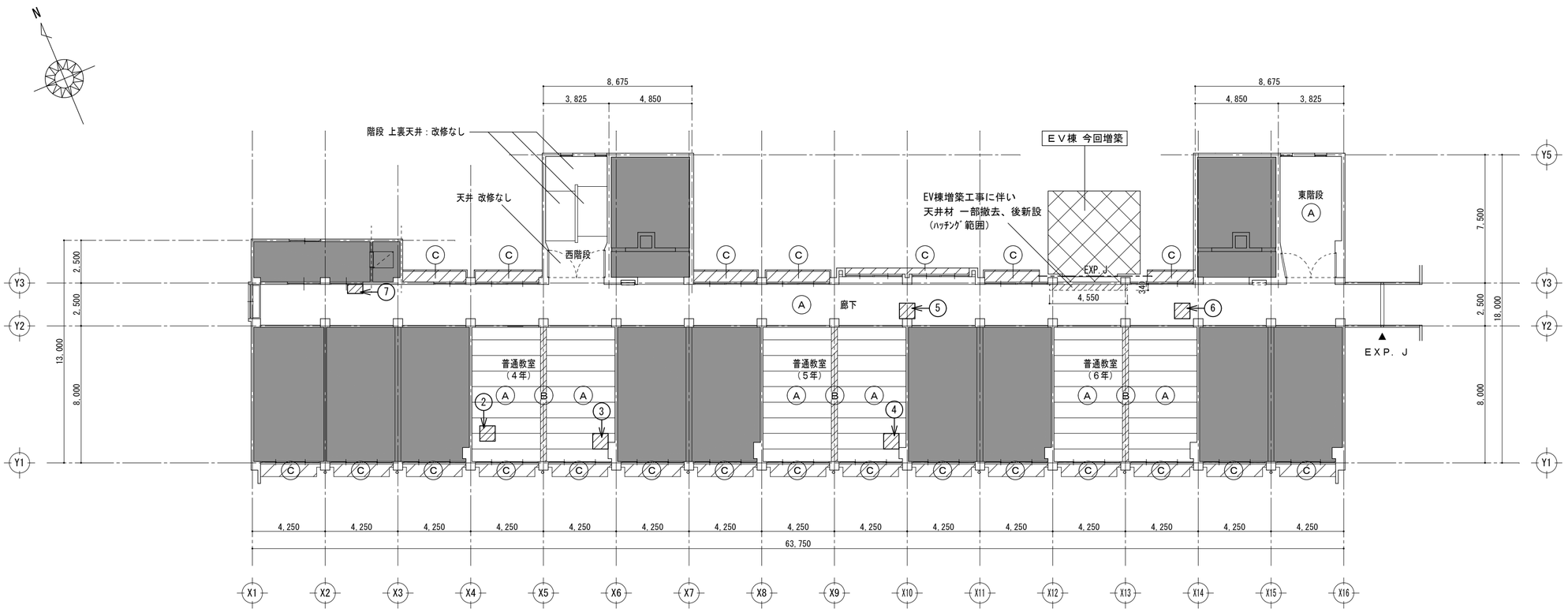
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	２階天井伏図 １階天井伏図	A2　1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		A-22

記号	改修前	改修後
Ⓐ	天井：有孔PB t=9.0 目透かし張り　EP塗装 ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り　EP塗装	天井　一部 天井材張替え（劣化・雨漏り箇所）
Ⓑ	梁型：ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	梁型：下地調整のうえ、EP塗装（塗替え）
Ⓒ	軒天：RC打ち放し　ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付	軒天：高圧水洗浄 下地調整のうえ　外装薄塗材E吹付

	記号	範　囲	備　考
天井材張替え箇所	①	900×900	雨漏り跡
	②	900×900	雨漏り跡
	③	900×900	雨漏り跡
	④	900×900	雨漏り跡
	⑤	900×900	雨漏り跡・点検口あり
	⑥	900×900	劣化
	⑦	530×900	劣化・点検口あり
備考	天井点検口：撤去のうえ、新設		



PH階天井伏図　S=1/200



３階天井伏図　S=1/200

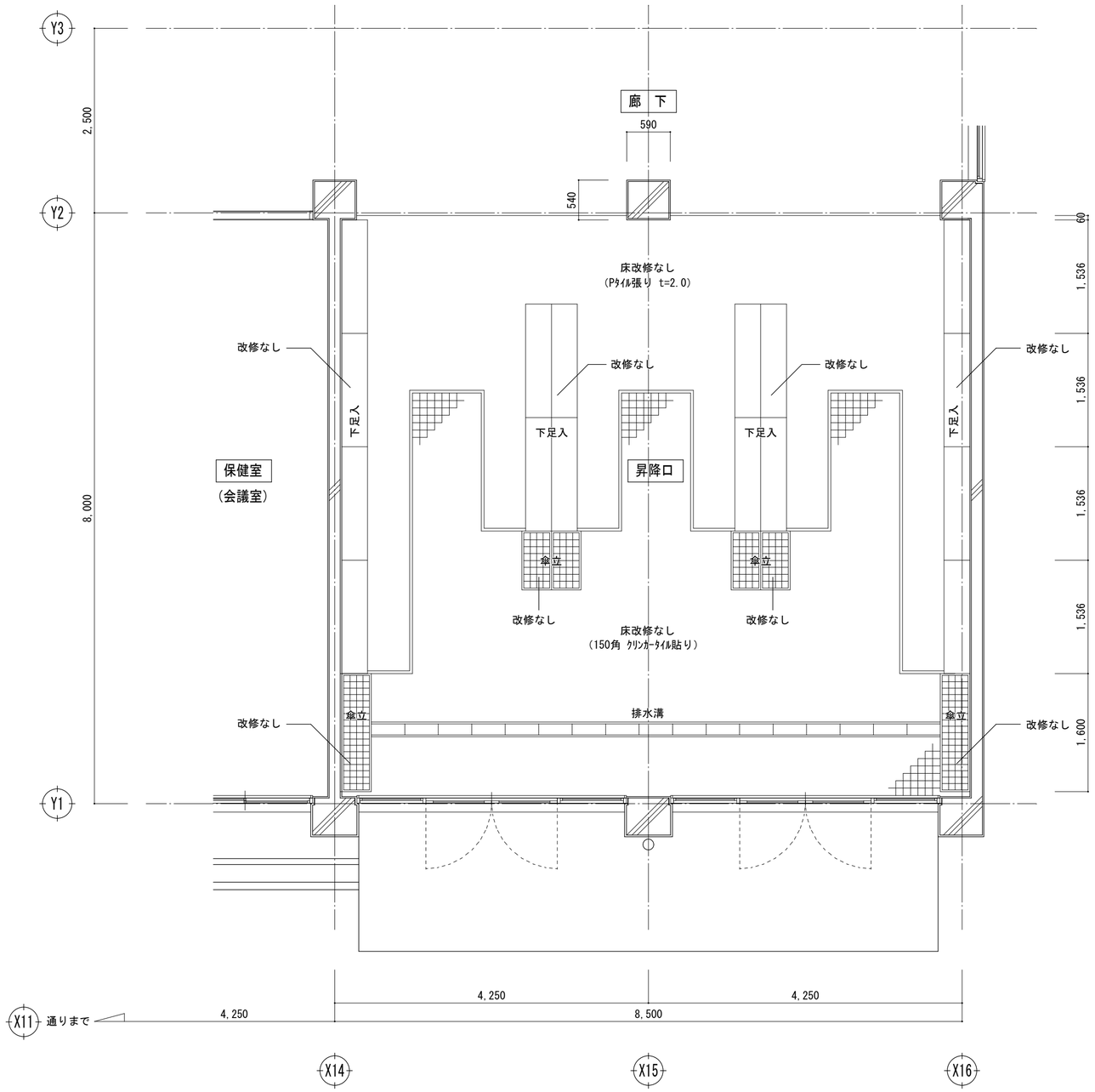
…… 増築箇所を示す

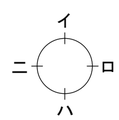
原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE					No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	PH階天井伏図 ３階天井伏図	A2　1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康			A-23

1階 （東）昇降口

1階 西昇降口は左右反転





展開方向

●仕上表

室名	部位	改修前	改修後
昇降口	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
	巾木	ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ H=100～150	改修なし
	床	150角 ｸﾘﾝｶｰﾀｲﾙ貼り	改修なし
		Pﾀｲﾙ張り t=2.0	改修なし
	備考	家具（下足入、傘立） 改修なし	

平面詳細図 S=1/50

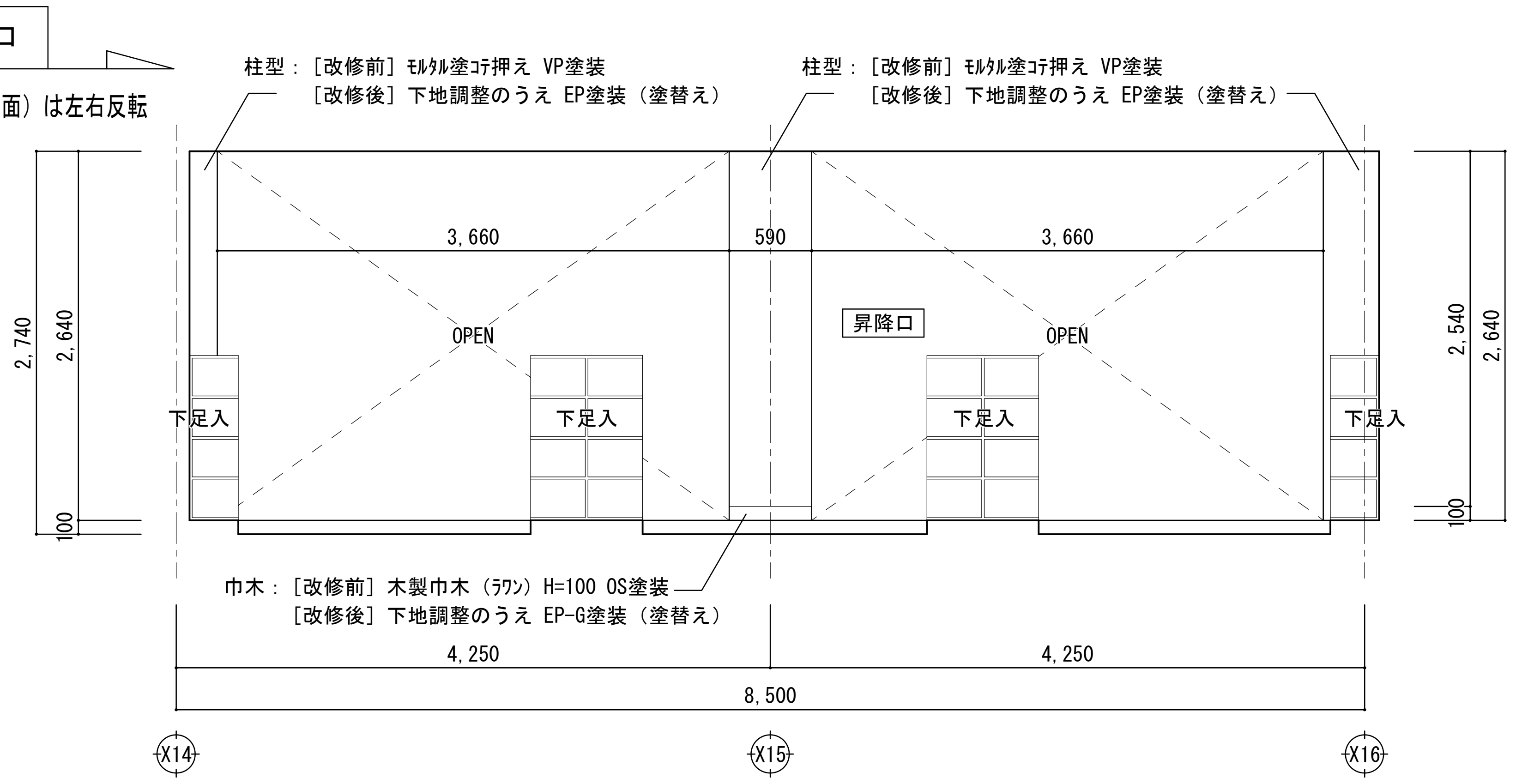
（１階西昇降口は左右反転）

原図：Ａ２

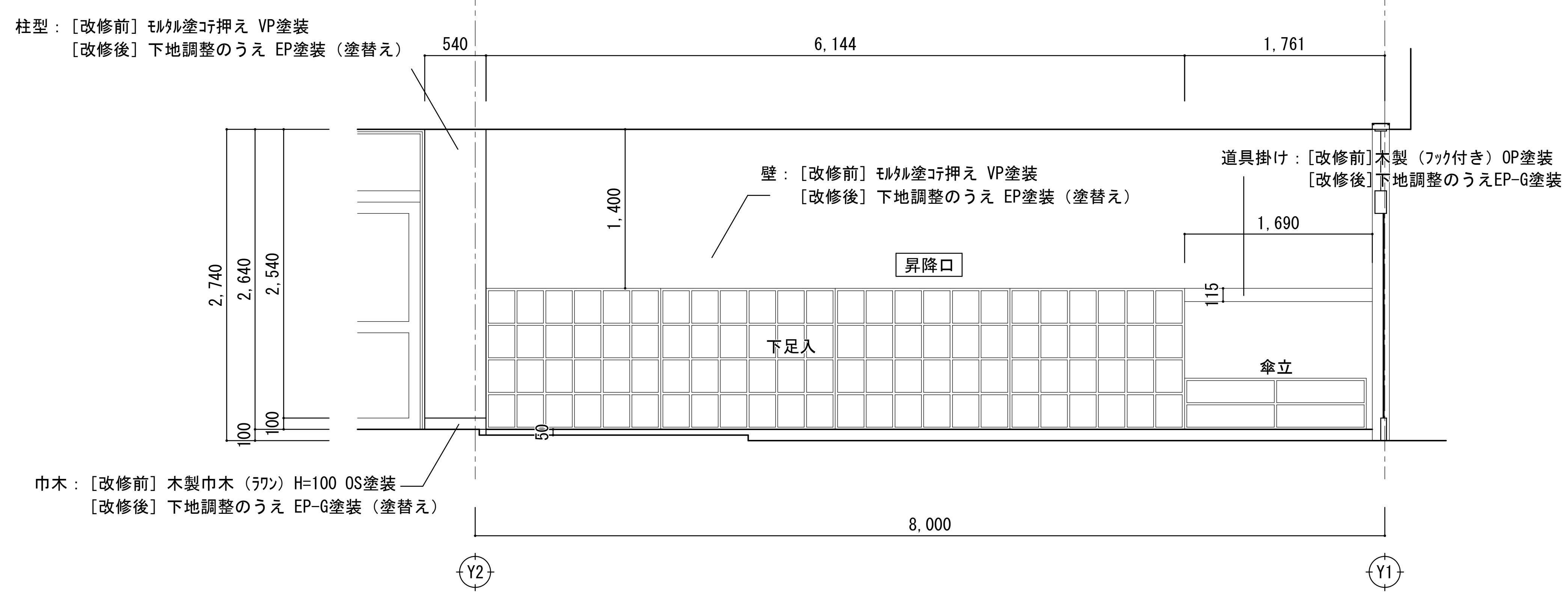
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	平面詳細図（１階 昇降口）	A2 1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	A-24

1階 （東）昇降口

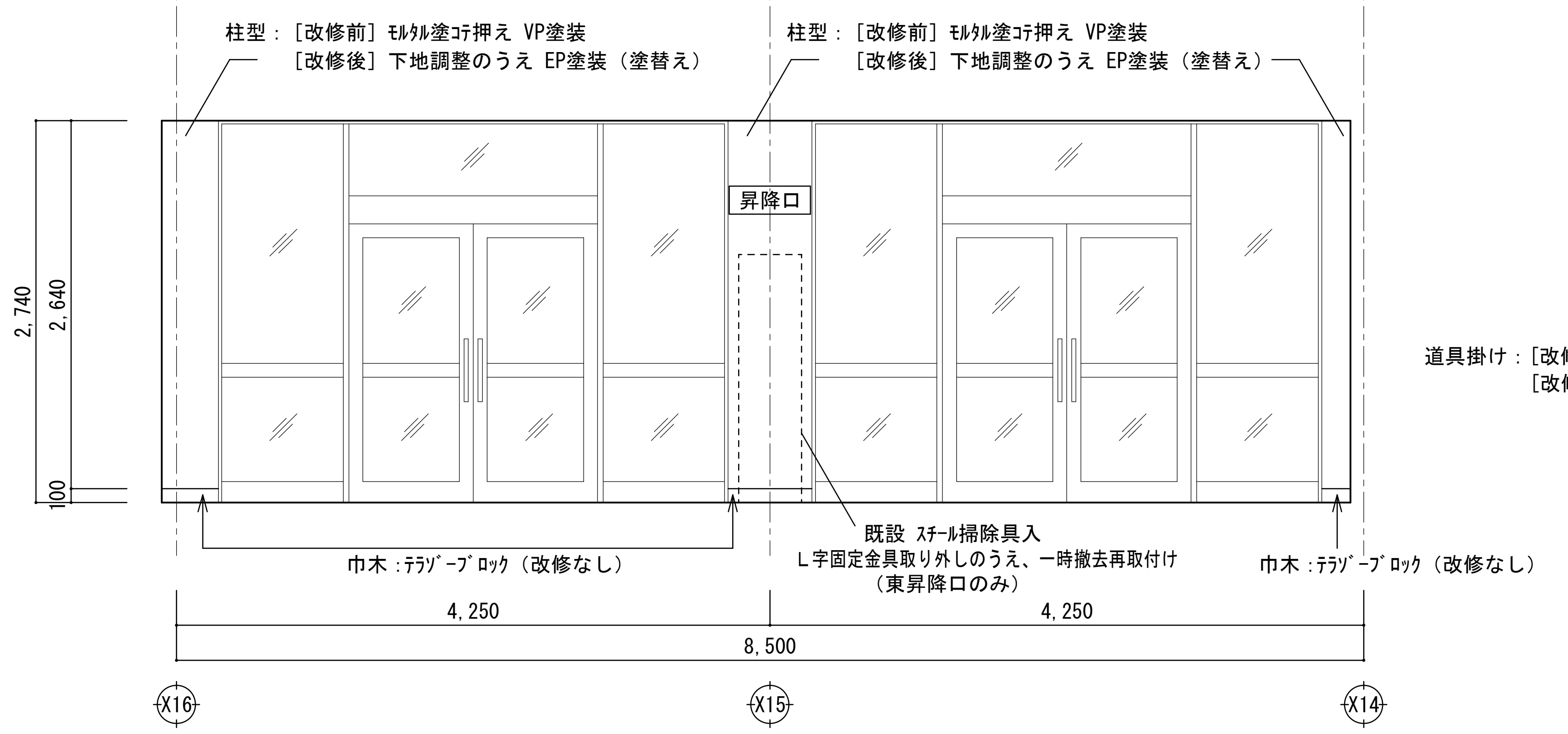
1階 西昇降口（イ面）（ハ面）は左右反転



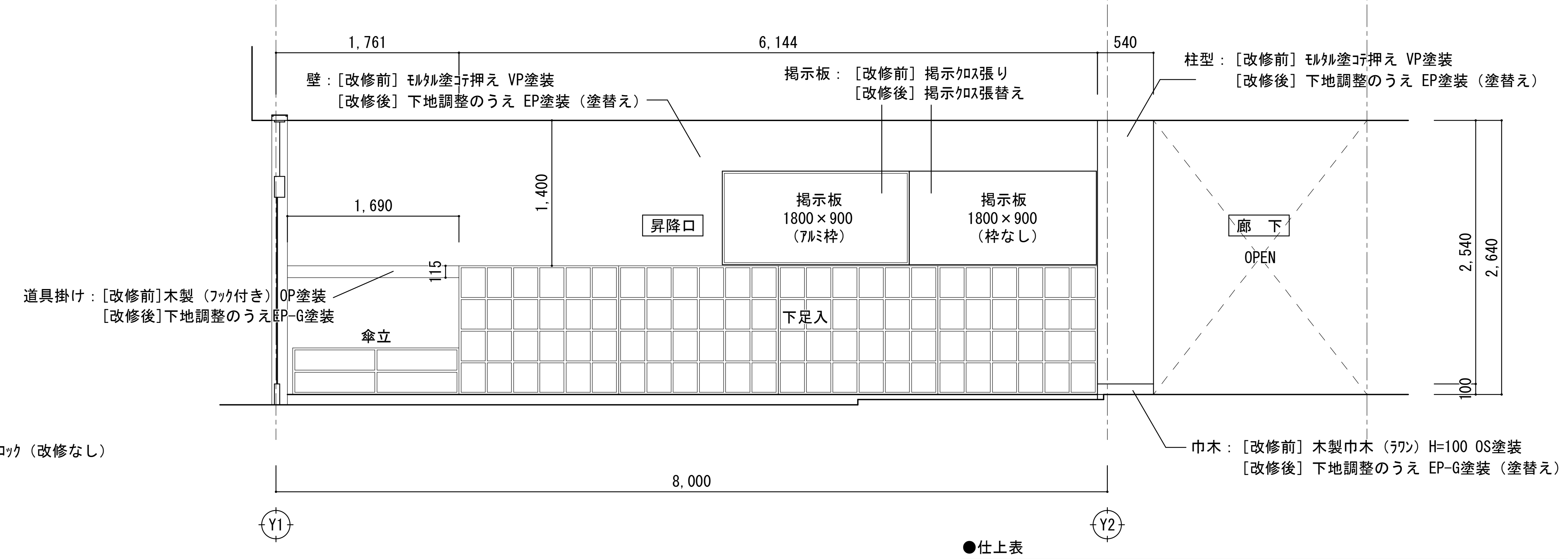
イ面



ロ面



ハ面

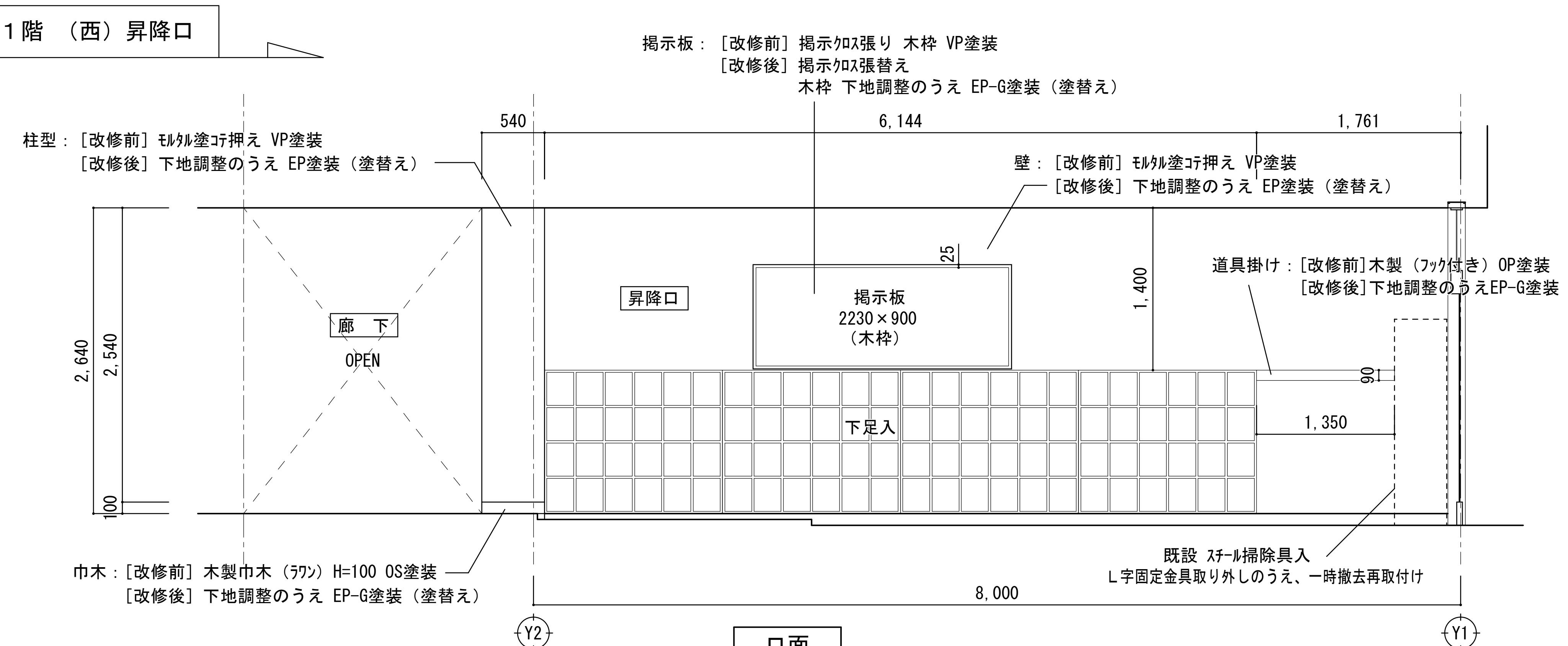


二面

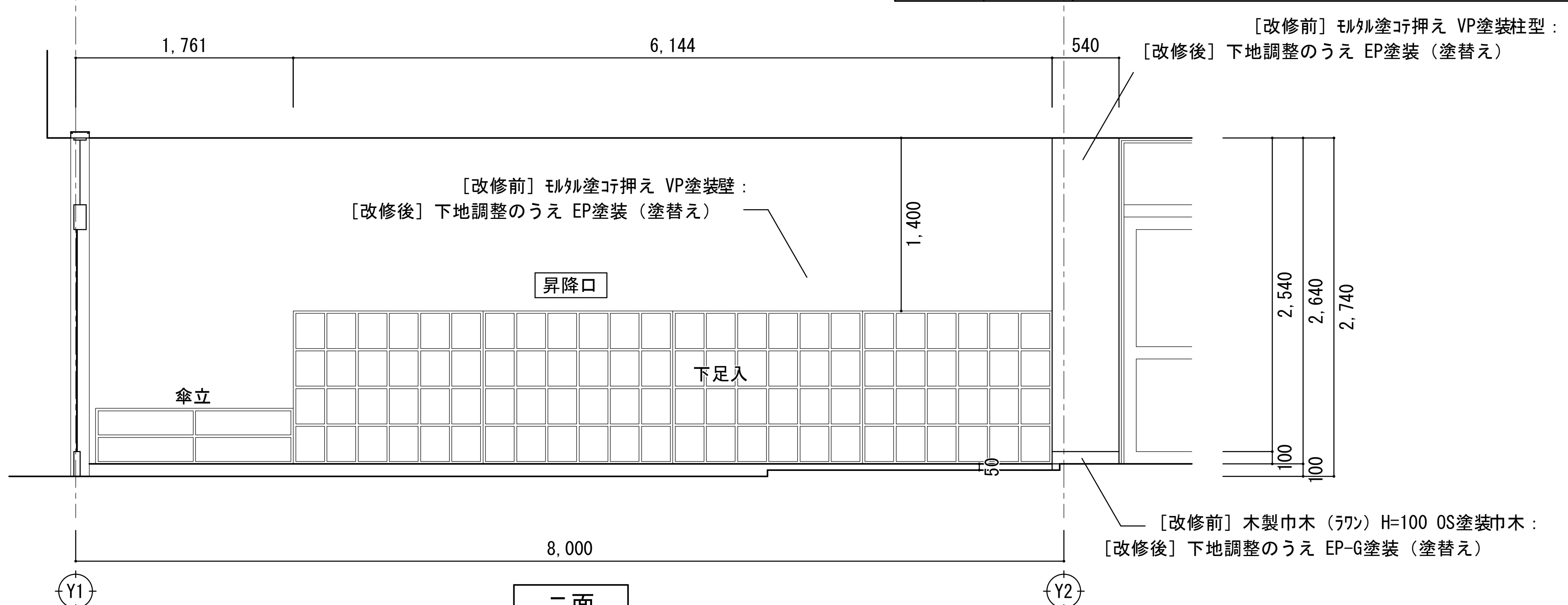
●仕上表

室名	部位	改修前	改修後
昇降口	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
	巾木	ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ H=100～150	改修なし
	床	150角 ｸﾘﾝｶｰﾀｲﾙ貼り	改修なし
		Pﾀｲﾙ張り t=2.0	改修なし
	備考	家具（下足入、傘立）改修なし	

1階 （西）昇降口



ロ面

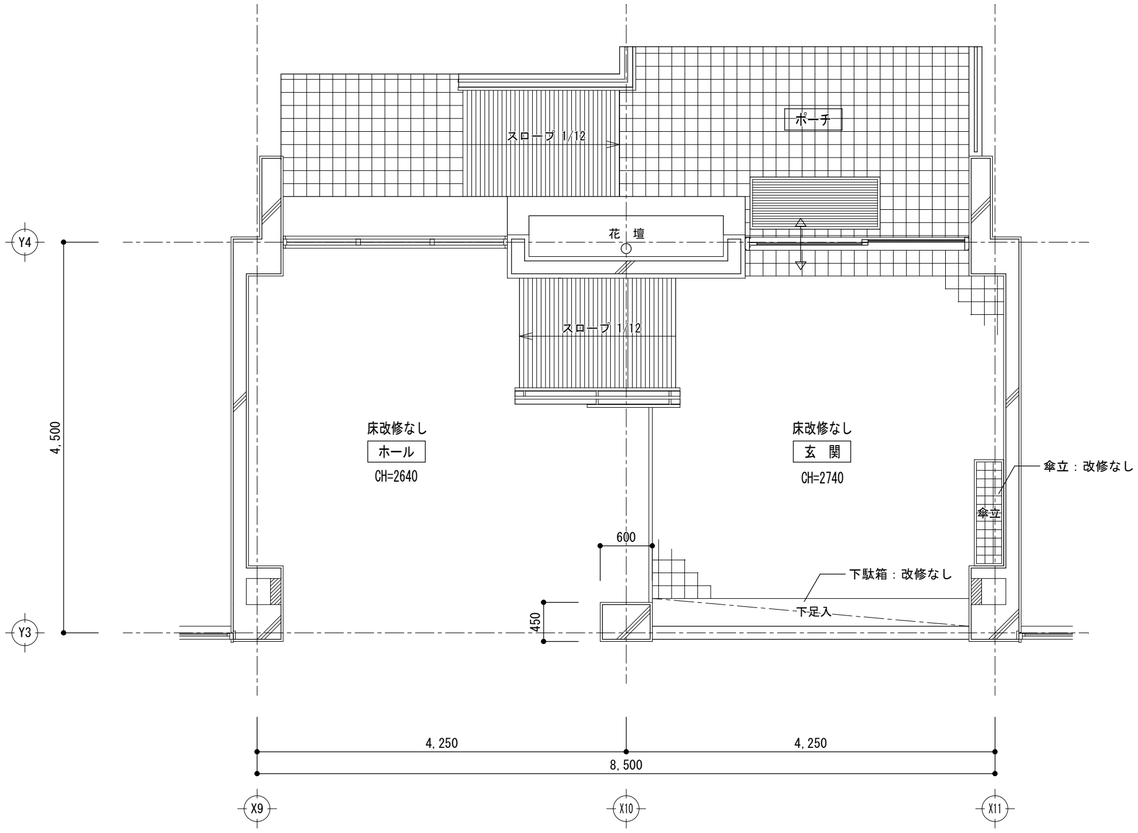


二面

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE		設計者	No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	展開図（1階 昇降口）	A2 1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	一級建築士 第317991号 山本 覚康	A-25

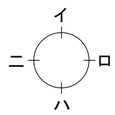
1階 玄関～ホール



平面詳細図 S=1/50

●仕上表

室名	部位	改修前	改修後
玄関	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ｸﾗﾌﾄﾀｲﾙ貼り	改修なし
		ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
		ｼｴ合板 t=9.0 目透かし張り OP塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	巾木	ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ H=100～150	改修なし
	床	ﾚﾝｶﾞﾀｲﾙ貼り	改修なし
	備考	家具（傘立、下足入） 改修なし	
ホール	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
	巾木	木製巾木（ﾗﾜﾝ）H=100 OS塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	床	Pﾀｲﾙ張り t=2.0	改修なし
	備考		

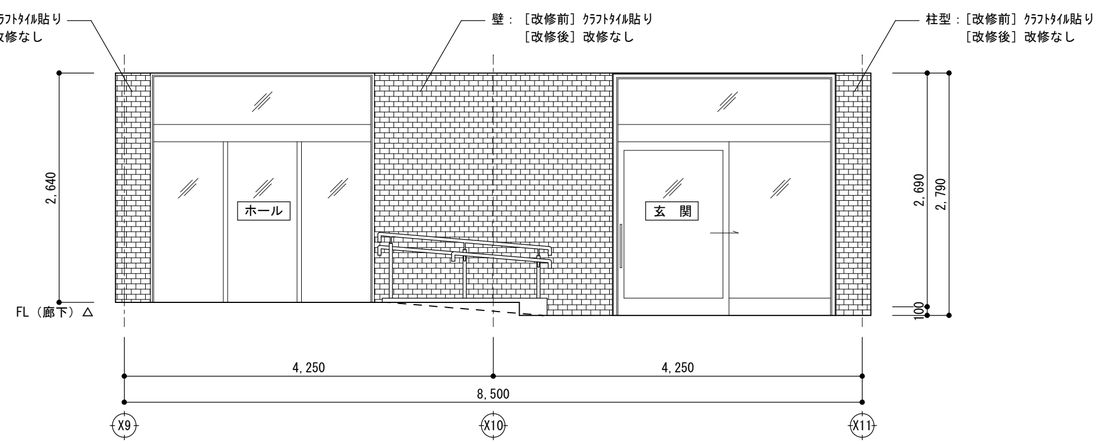


展開方向

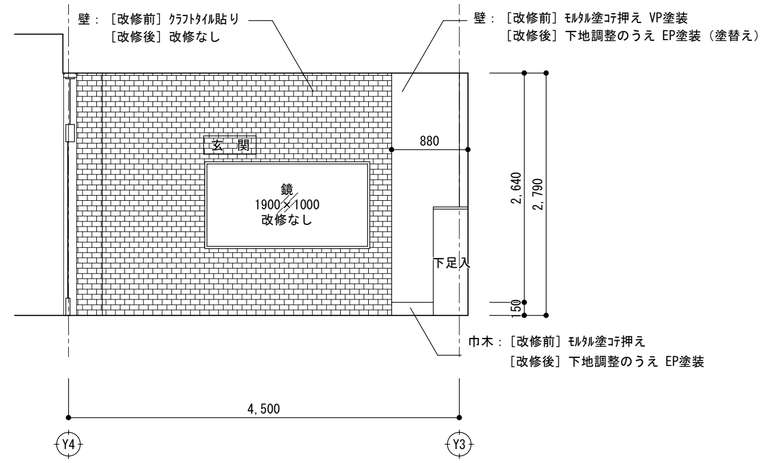
原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	平面詳細図 （１階 玄関～ホール）	A2 1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	No. A-26

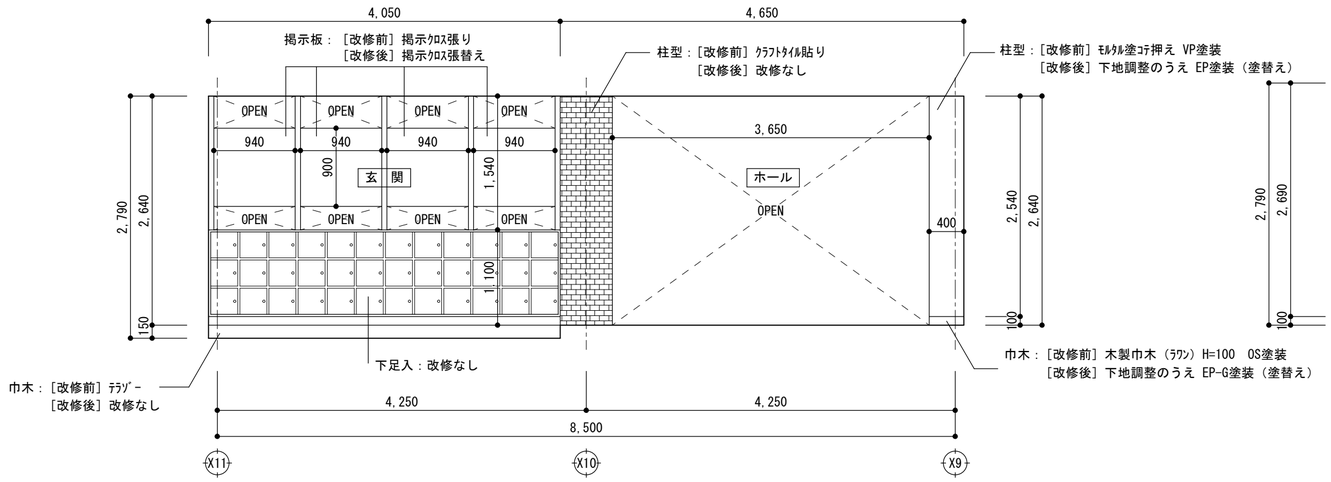
１階 玄関～ホール



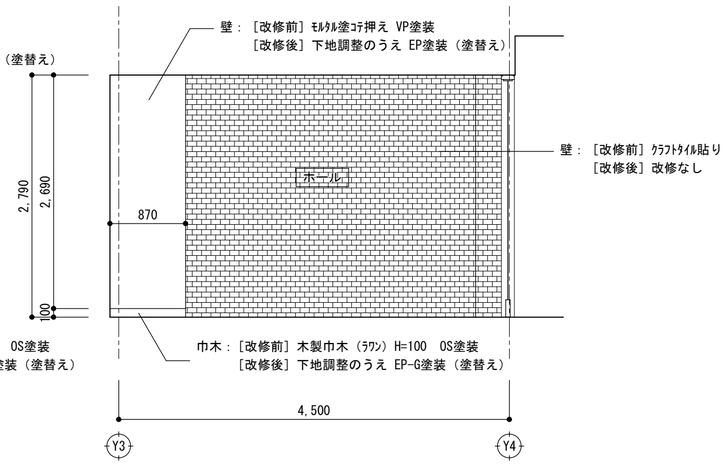
イ面



ロ面



ハ面



二面

●仕上表

下地調整のうえ EP塗装（塗替え）

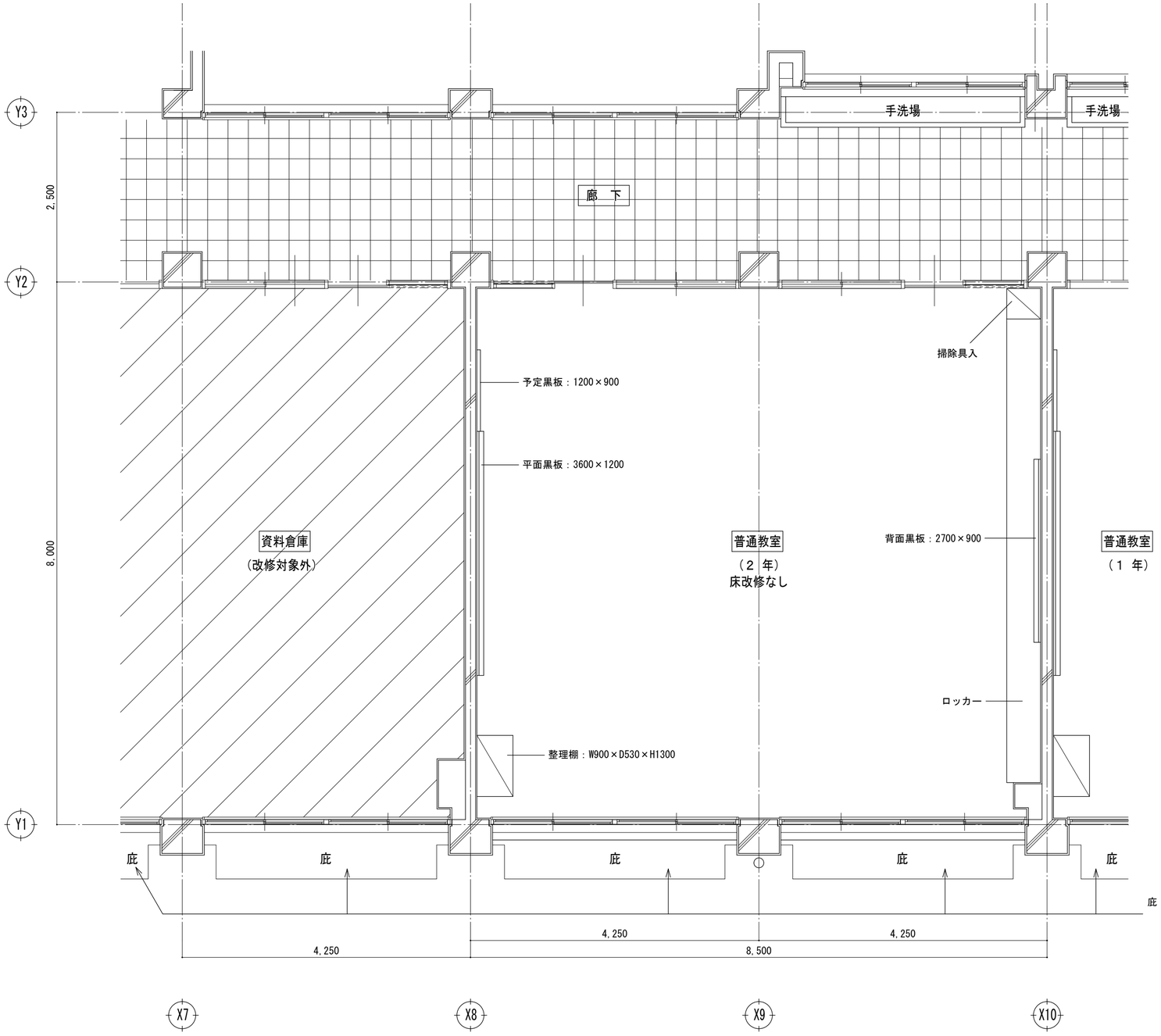
室名	部位	改修前	改修後
玄関	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装 ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	一部 張替え 改修なし
	壁	ｸﾗﾌﾄﾀｲﾙ貼り ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	改修なし 下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
	巾木	ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ H=100～150	改修なし
	床	ﾚﾝｶﾞﾀｲﾙ貼り	改修なし
	備考	家具（傘立、下足入） 改修なし	
ホール	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装 ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	一部 張替え 改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
	巾木	木製巾木（ﾗﾜﾝ）H=100 OS塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	床	Pﾀｲﾙ張り t=2.0	改修なし
	備考		

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	展開図 （１階 玄関～ホール）	A2 1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	No. A-27

普通教室（２階普通教室）

（全階共通）



庇：［改修前］防水ﾓﾙﾀﾙｺﾃ押え
［改修後］高圧水洗浄、ｸﾗｯｸ補修（Ｕｶｯﾄｼｰﾘﾝｸﾞ充填）のうえ
下地調整（ｴﾎﾟｷｼ系ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ引き）後
自閉式塗膜防水

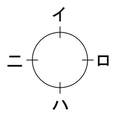
●教室 既設黒板 集計

	２階 普通教室（１年）	２階 普通教室（２年）	２階 普通教室（３年）	２階 特別支援教室（しいのき1教室）	２階 特別支援教室（しいのき2教室）	３階 普通教室（４年）	３階 普通教室（５年）	３階 普通教室（６年）	
黒板 W3600×H1200	１カ所	１カ所	１カ所	１カ所	１カ所	１カ所	１カ所	１カ所	計 8
黒板 W1200×H900	※ １カ所	※ １カ所	※ １カ所	——	——	——	※ １カ所	——	計 4
黒板 W2700×H900	１カ所	１カ所	１カ所	１カ所	１カ所	１カ所	１カ所	１カ所	計 8
ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ（イ面） W1200×H900	——	——	※ １カ所	——	——	——	——	——	計 1
予定黒板（イ面） W1200×H900	——	——	——	——	——	※ １カ所	——	※ １カ所	計 2

上記 ※ 印の箇所は一時撤去 再取付け

●仕上表

室名	部位	改修前	改修後
普通教室	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
		ｼﾅ合板 t=6.0 目透かし張り OP塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	巾木	木製巾木（ﾗﾜﾝ）H=100 OS塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	床	ﾅﾗﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ張り OSW塗装	改修なし
	備考	掲示板（壁面）	掲示ｸﾛｽ張替え（全面）
		家具（掃除具入、ﾛｯｶｰ、整理棚、平面黒板、予定黒板、背面黒板）	改修なし



展開方向

平面詳細図　S=1/50

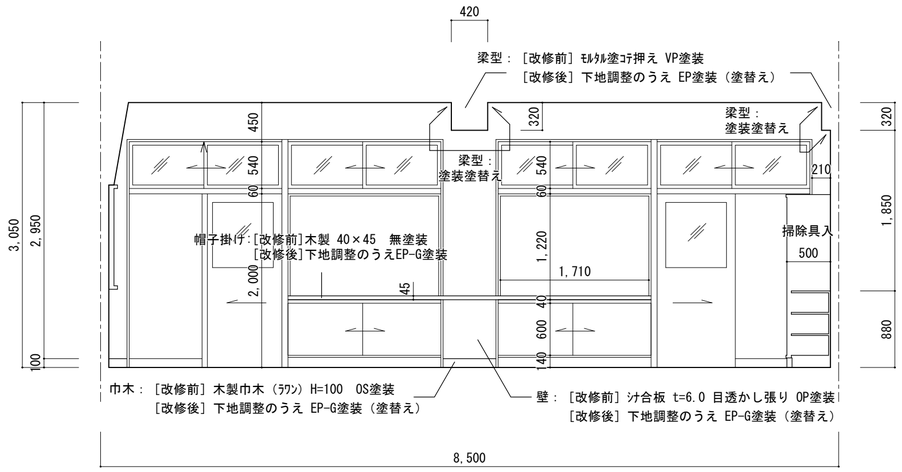
（２階 普通教室（全階共通））

原図：Ａ２

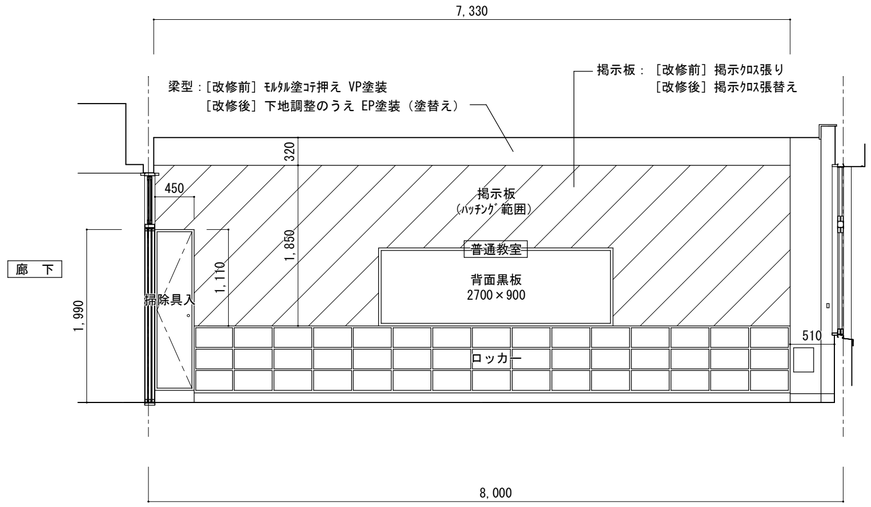
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	平面詳細図（２階 普通教室（全階共通））	A2 1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康		No. A-28

普通教室

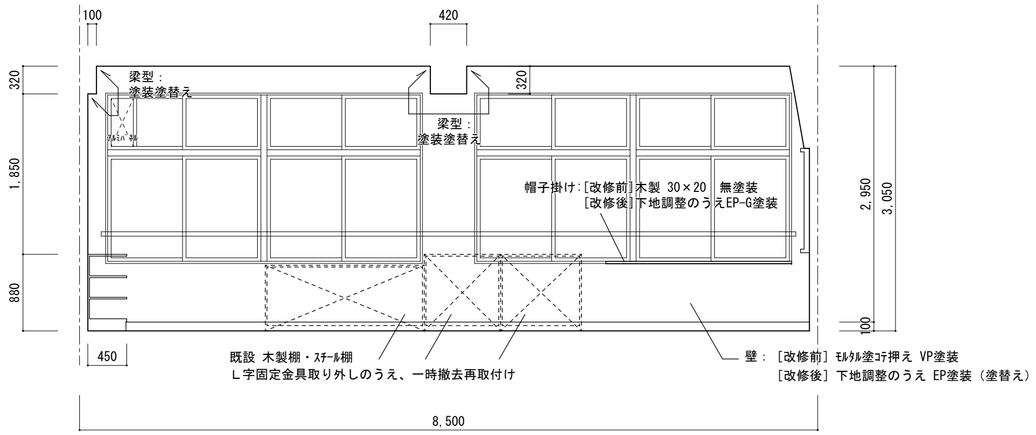
（２階　１年生教室）



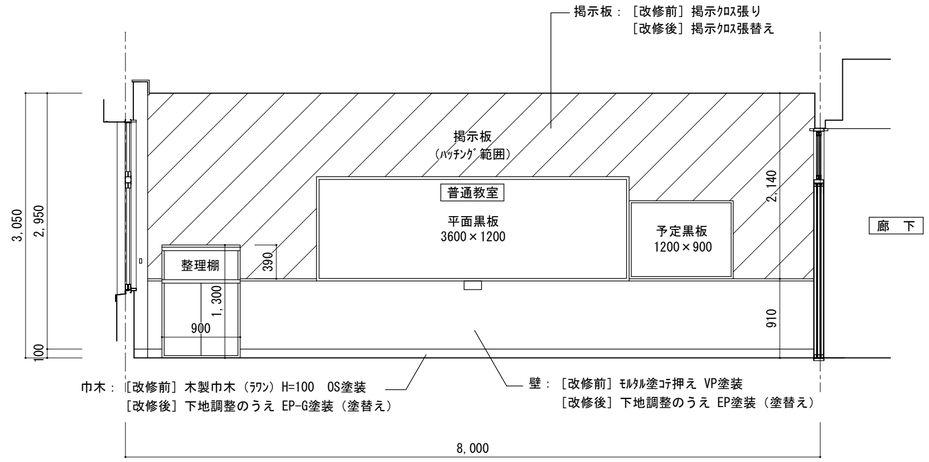
イ面



口面



ハ面



二面

●仕上表

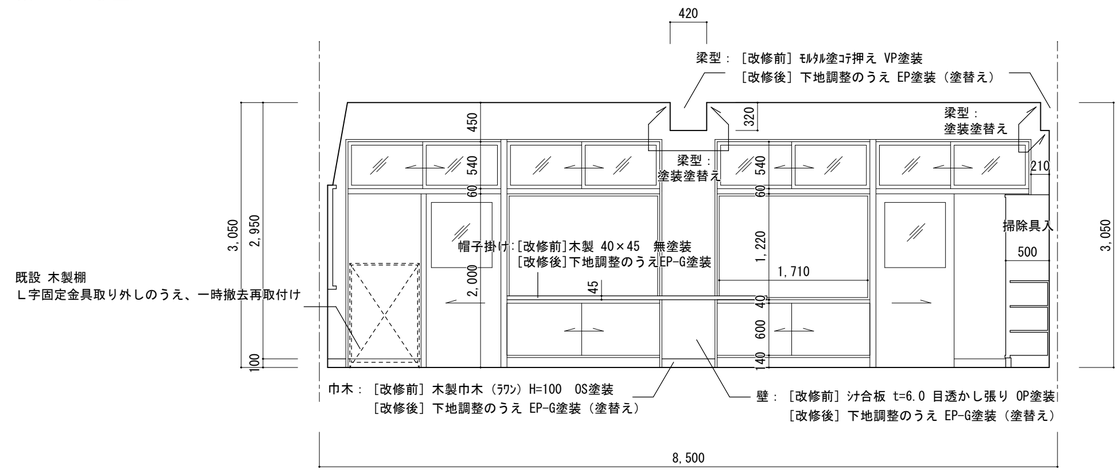
室名	部位	改修前	改修後
普通教室	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
		ｼﾅ合板 t=6.0 目透かし張り OP塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	巾木	木製巾木（ﾗﾜﾝ）H=100　OS塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	床	ﾅﾗﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ張り OSW塗装	改修なし
	備考	掲示板（壁面）	掲示ｸﾛｽ張替え（全面）
		家具（掃除具入、ロッカー、整理棚）	改修なし

原図：Ａ２

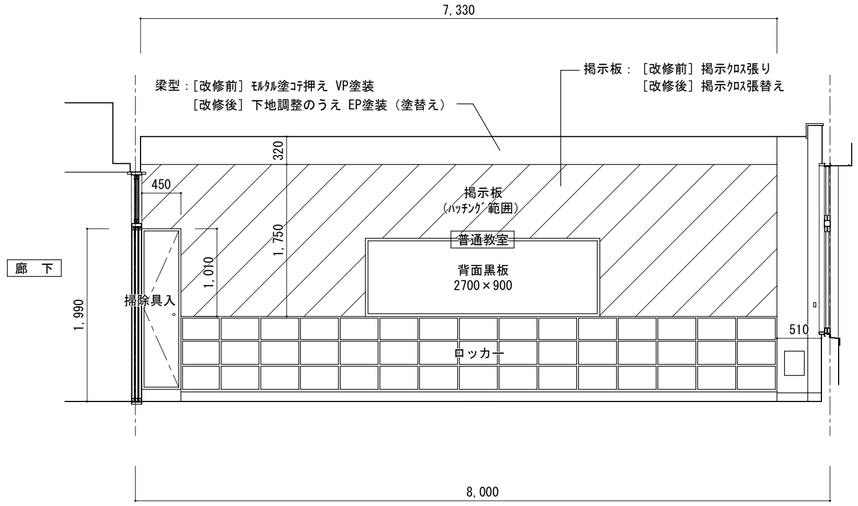
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	展開図 （普通教室　２階　１年生教室）	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	A-29

普通教室

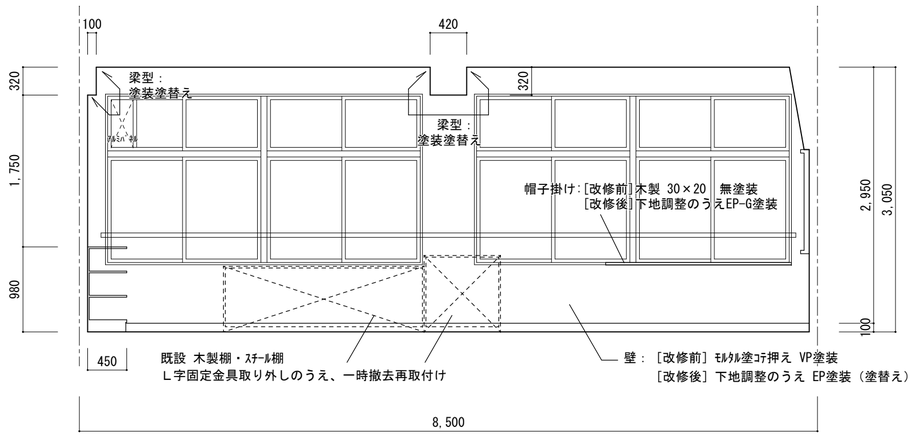
（２階　２年生教室）



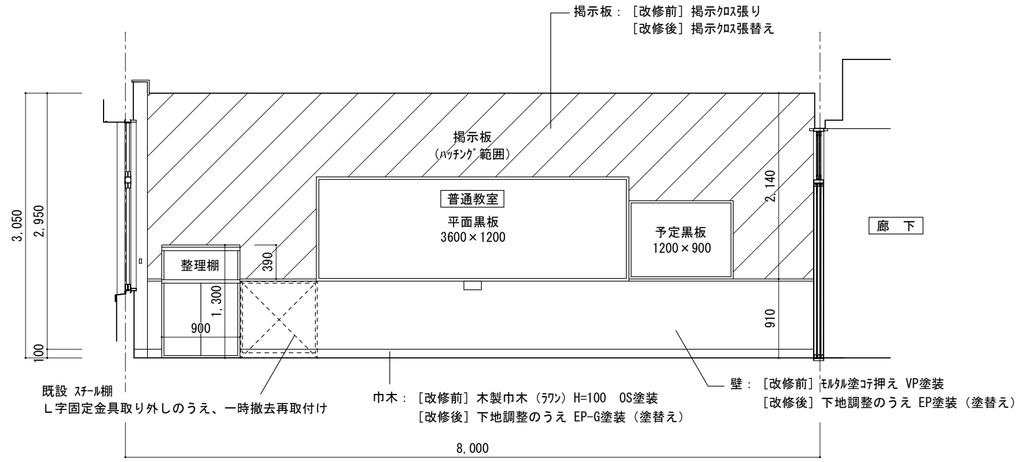
イ面



ロ面



ハ面



二面

●仕上表

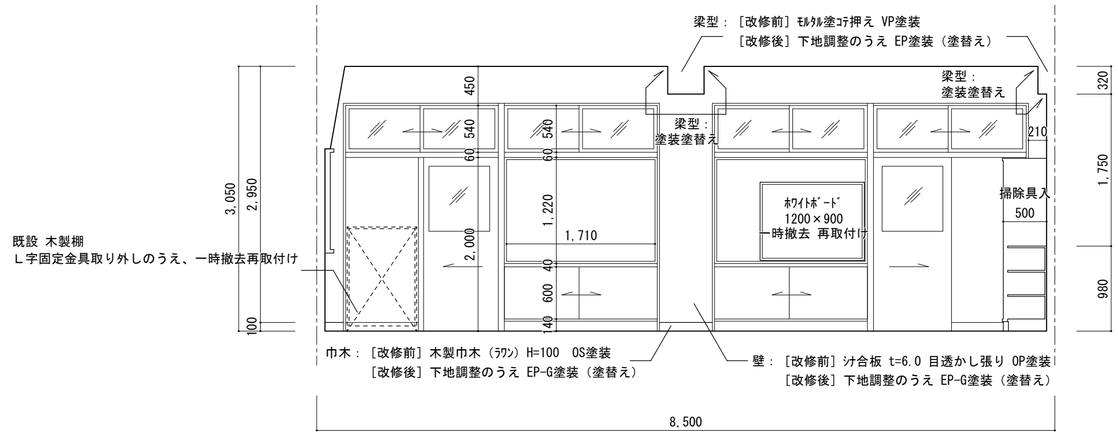
室名	部位	改修前	改修後
普通教室	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
		ｼﾅ合板 t=6.0 目透かし張り OP塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	巾木	木製巾木（ﾗﾜﾝ）H=100　OS塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	床	ﾅﾗﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ張り OSW塗装	改修なし
	備考	掲示板（壁面）	掲示ｸﾛｽ張替え（全面）
		家具（掃除具入、ロッカー、整理棚）	改修なし

原図：Ａ２

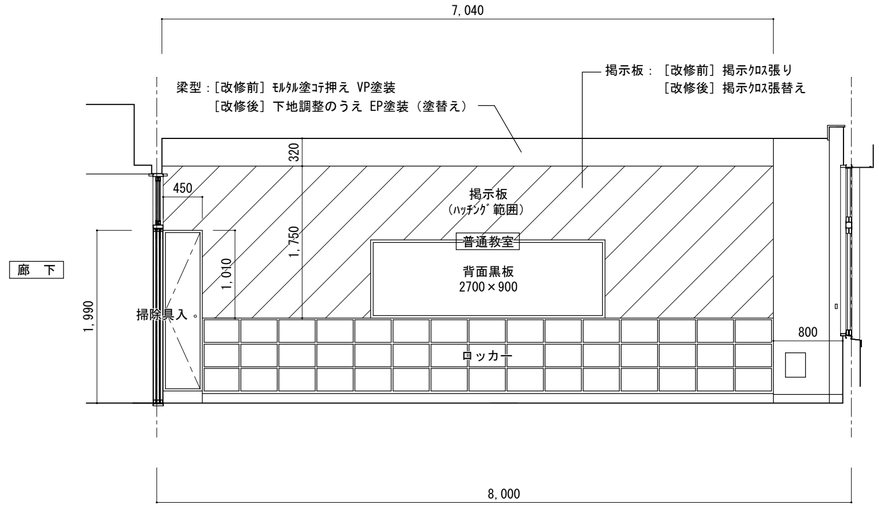
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	展開図 （普通教室　２階　２年生教室）	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		A-30

普通教室

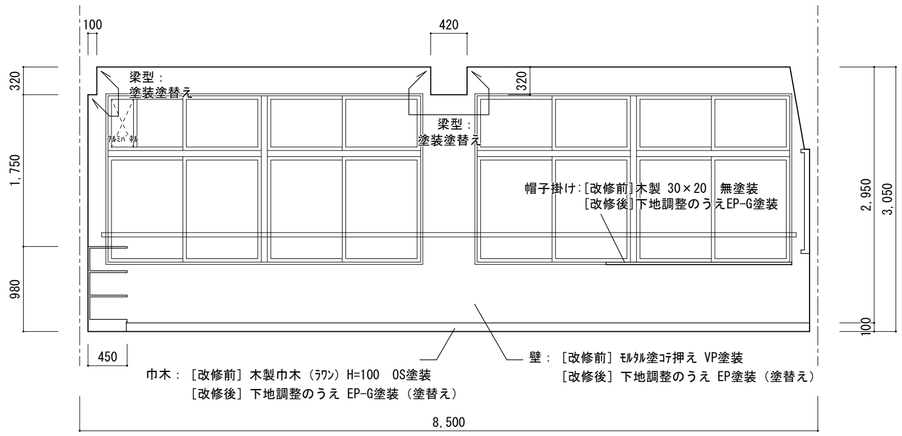
（２階　３年生教室）



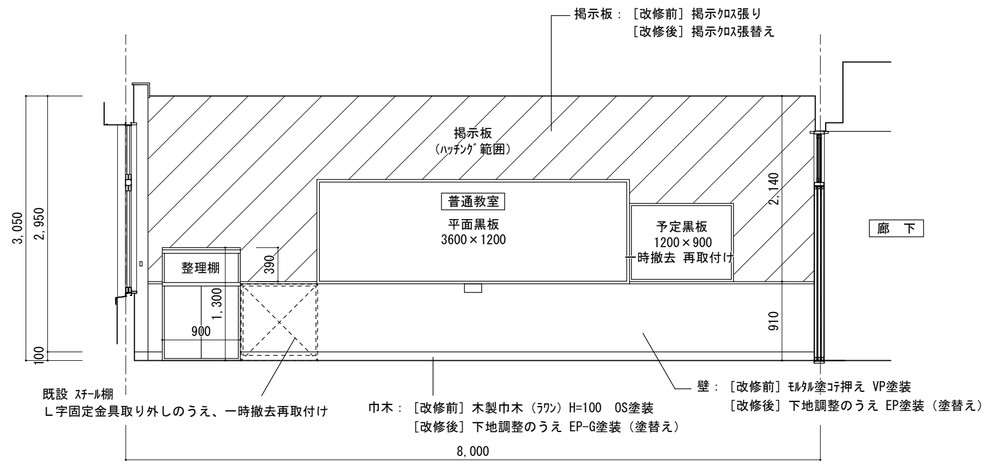
イ面



ロ面



ハ面



二面

●仕上表

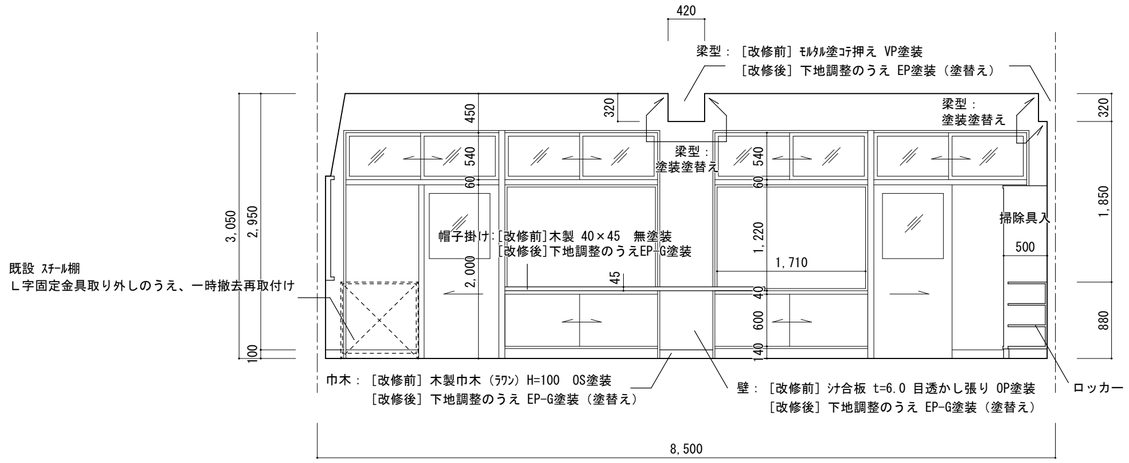
室名	部位	改修前	改修後
普通教室	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
		ｼﾅ合板 t=6.0 目透かし張り OP塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	巾木	木製巾木（ﾗﾜﾝ）H=100　OS塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	床	ﾅﾗﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ張り OSW塗装	改修なし
	備考	掲示板（壁面）	掲示ｸﾛｽ張替え（全面）
		家具（掃除具入、ロッカー、整理棚）	改修なし

原図：Ａ２

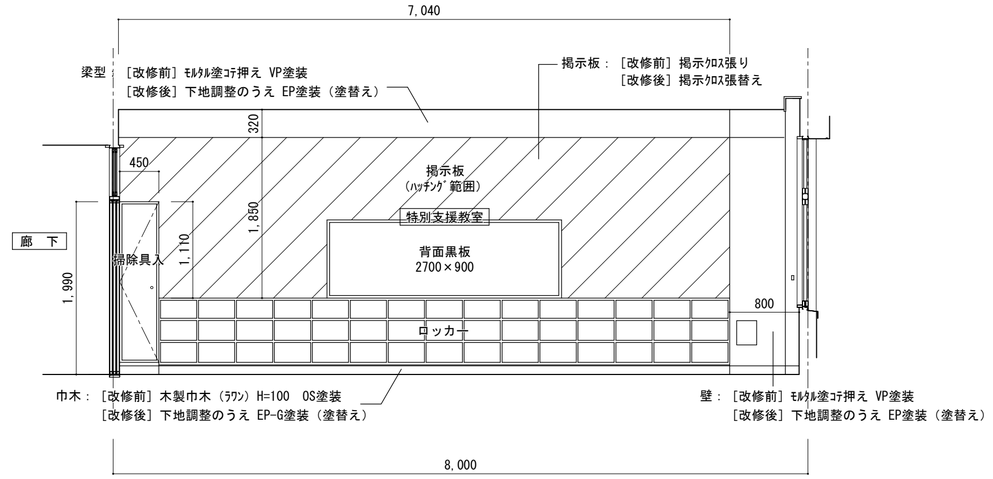
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	展開図 （普通教室　２階　３年生教室）	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	A-31

特別支援教室

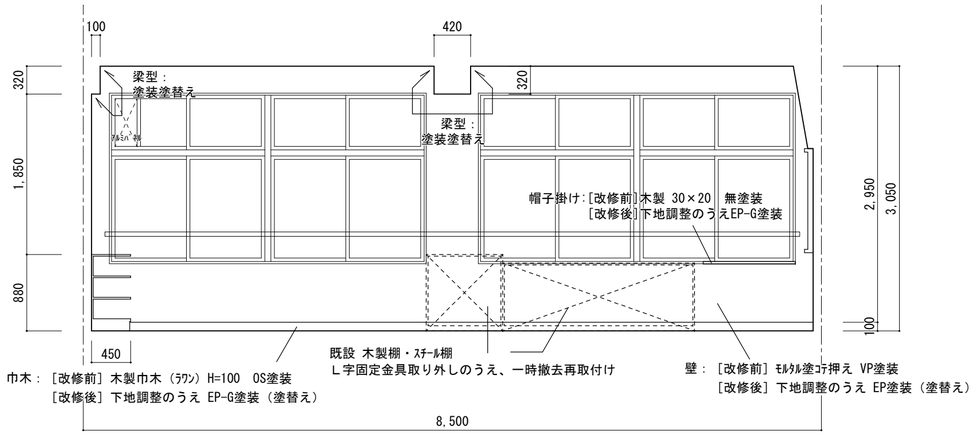
（２階 しいのき１教室）



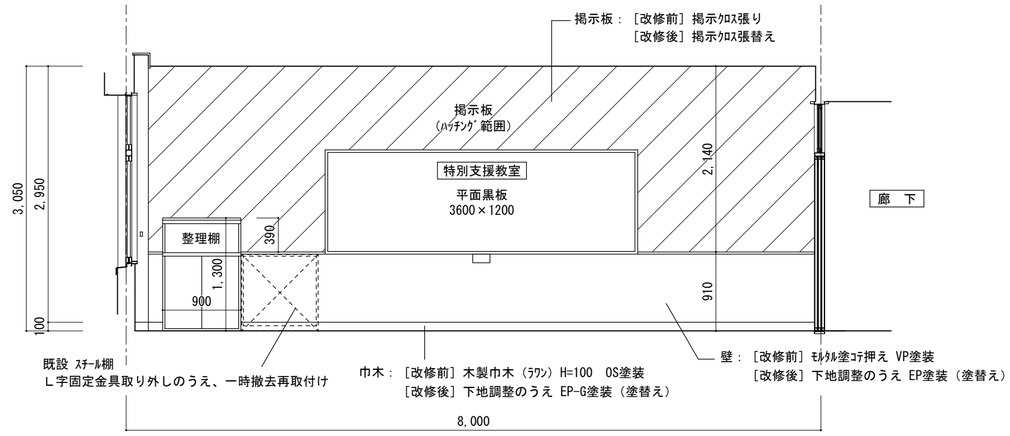
イ面



口面



ハ面



二面

●仕上表

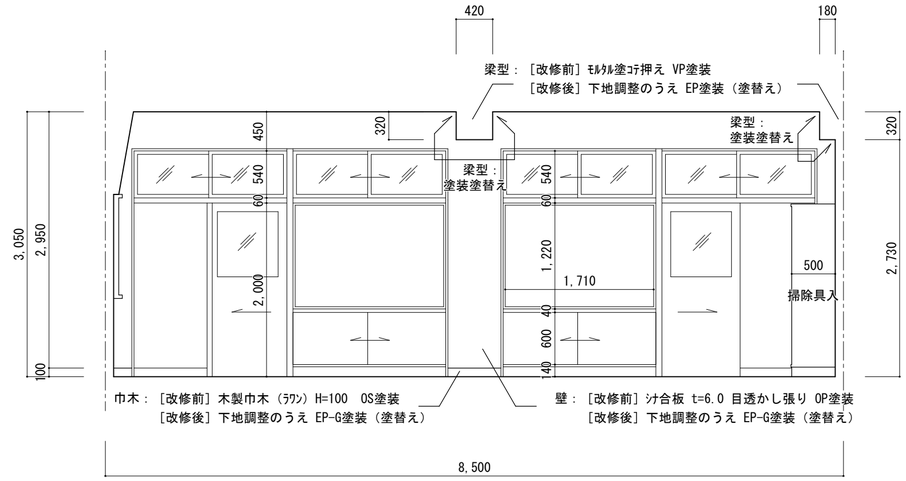
室名	部位	改修前	改修後
普通教室（特別支援教室）	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
		ｼﾅ合板 t=6.0 目透かし張り OP塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	巾木	木製巾木（ﾗﾜﾝ）H=100 OS塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	床	ﾅﾗﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ張り OSW塗装	改修なし
	備考	掲示板（壁面）	掲示ｸﾛｽ張替え（全面）
		家具（掃除具入、ロッカー、整理棚）	改修なし

原図：Ａ２

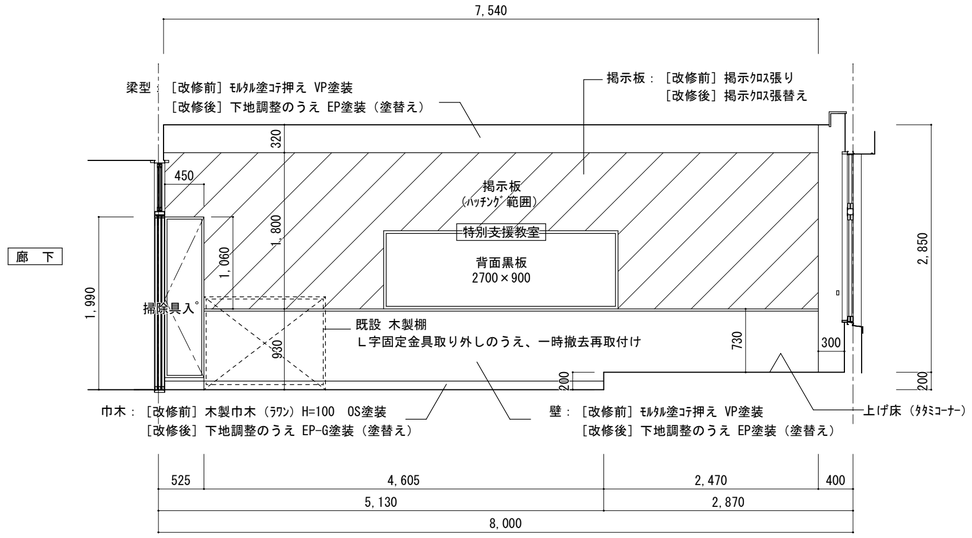
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	展開図（特別支援教室 ２階 しいのき１教室）	A2 1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	A-32

特別支援教室

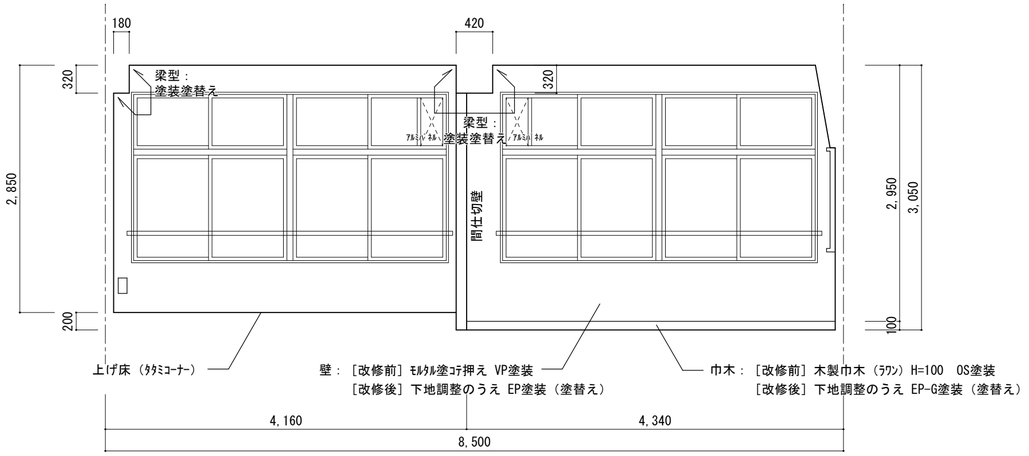
（２階 しいのき２教室）



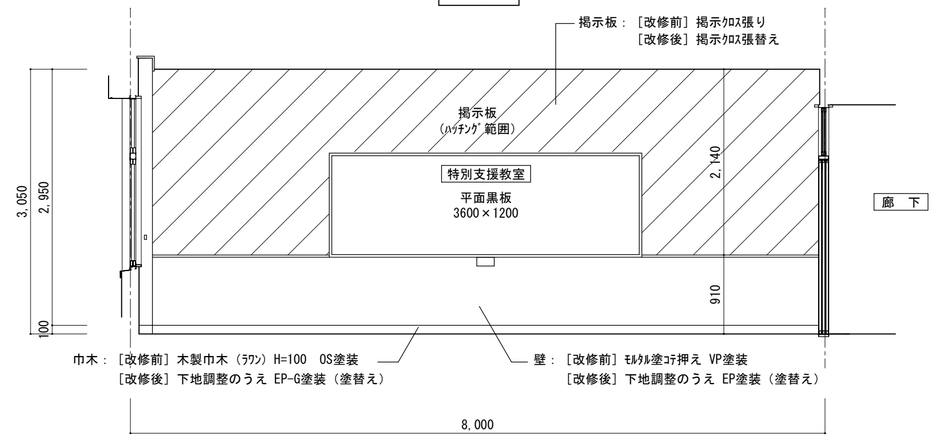
イ面



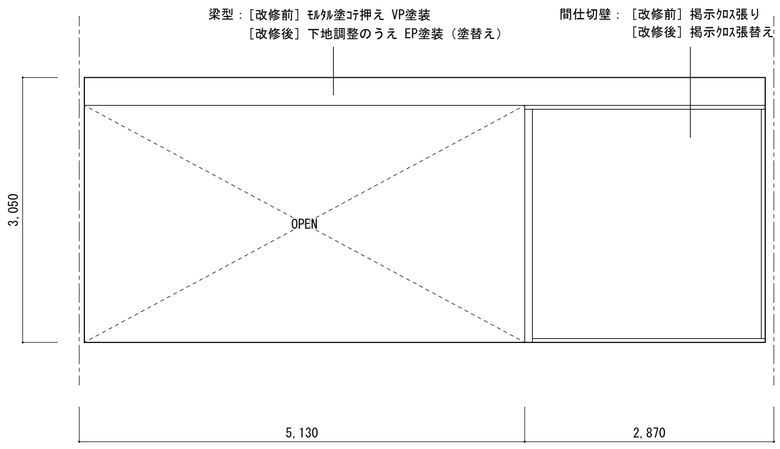
ロ面



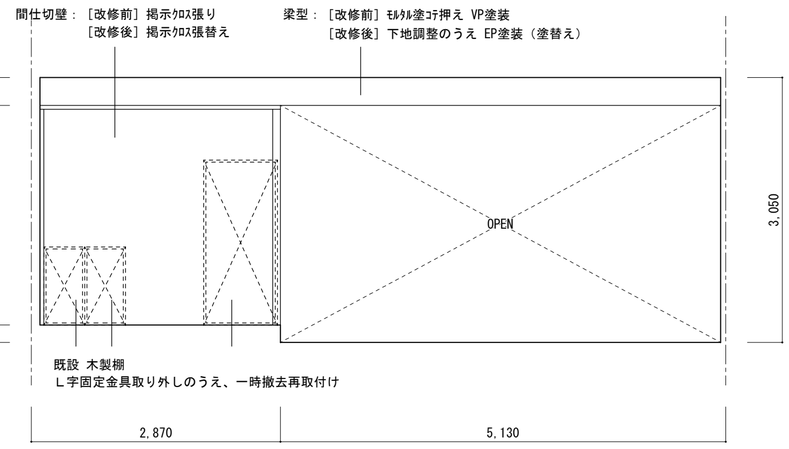
ハ面



二面



ロ面　間仕切壁



二面　間仕切壁

●仕上表

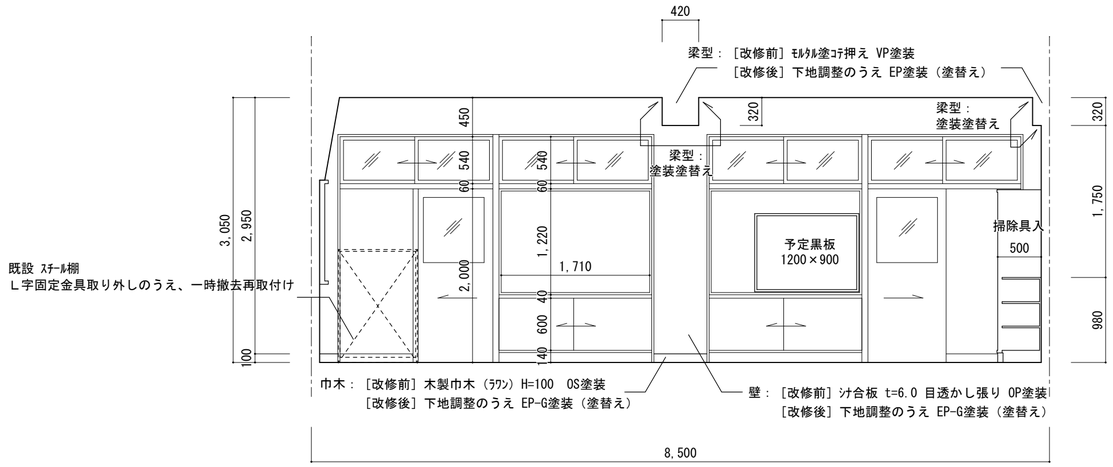
室名	部位	改修前	改修後
普通教室（特別支援教室）	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
		ｼﾅ合板 t=6.0 目透かし張り OP塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	間仕切壁	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張り	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張替え
	巾木	木製巾木（ﾗﾜﾝ）H=100 OS塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	床	ﾅﾗﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ張り OSW塗装	改修なし
	備考	掲示板（壁面）	掲示ｸﾛｽ張替え（全面）
		家具（掃除具入）	改修なし

原図：Ａ２

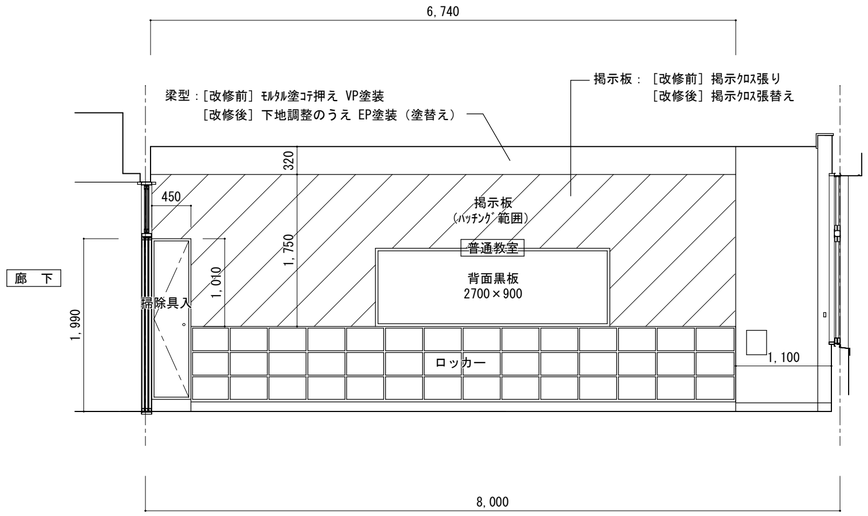
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	展開図（特別支援教室 ２階 しいのき２教室）	A2 1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	A-33

普通教室

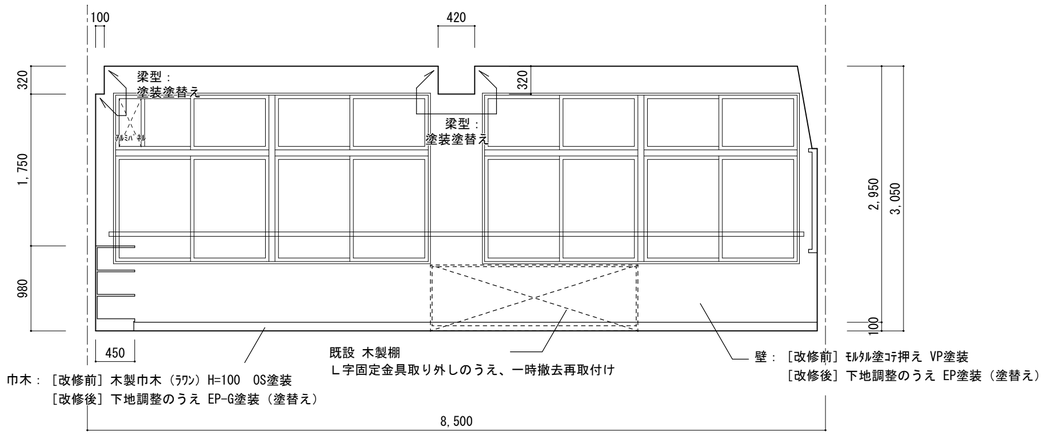
（３階　４年生教室）



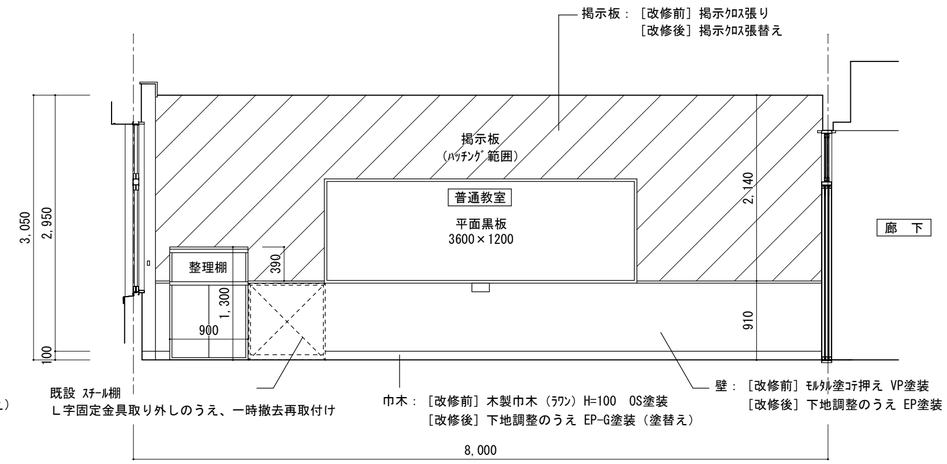
イ面



口面



ハ面



二面

●仕上表

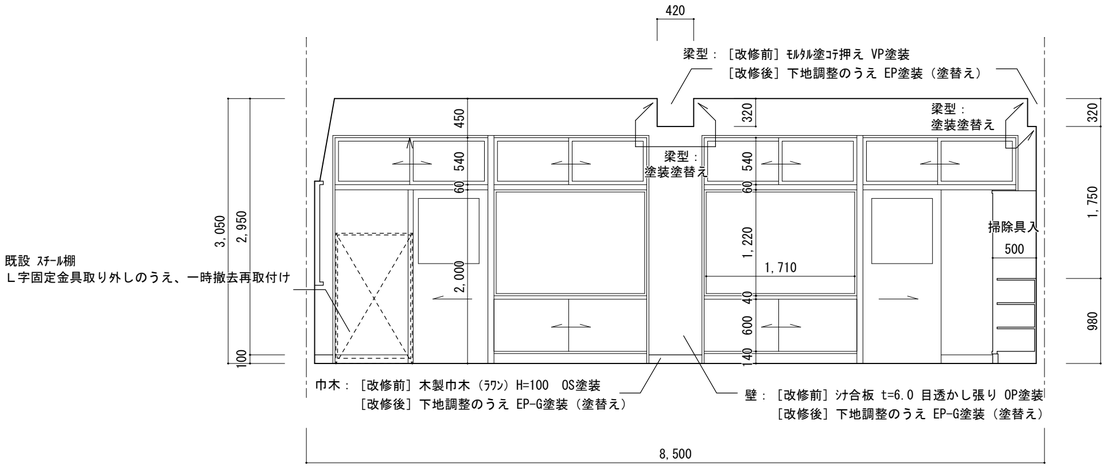
室名	部位	改修前	改修後
普通教室	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
		ｼﾅ合板 t=6.0 目透かし張り OP塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	巾木	木製巾木（ﾗﾜﾝ）H=100　OS塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	床	ﾅﾗﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ張り OSW塗装	改修なし
	備考	掲示板（壁面）	掲示ｸﾛｽ張替え（全面）
		家具（掃除具入、ロッカー、整理棚）	改修なし

原図：Ａ２

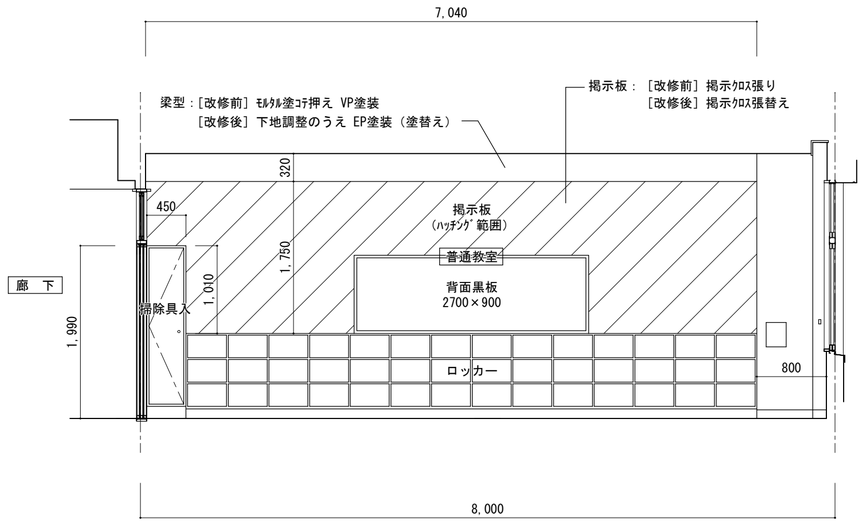
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	展開図 （普通教室　３階　４年生教室）	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	A-34

普通教室

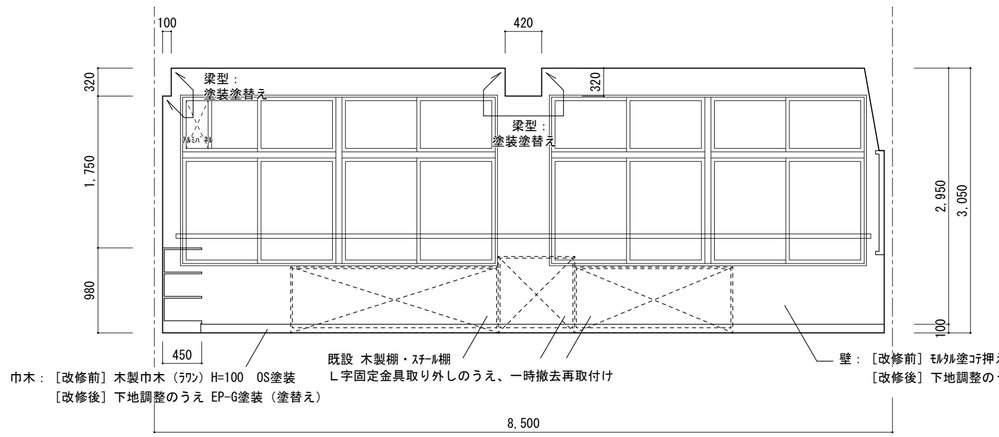
（３階　５年生教室）



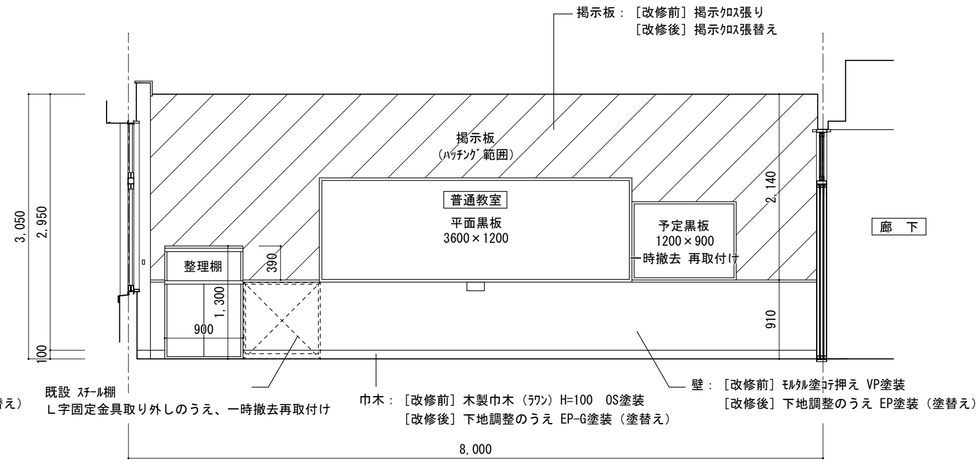
イ面



ロ面



ハ面



二面

●仕上表

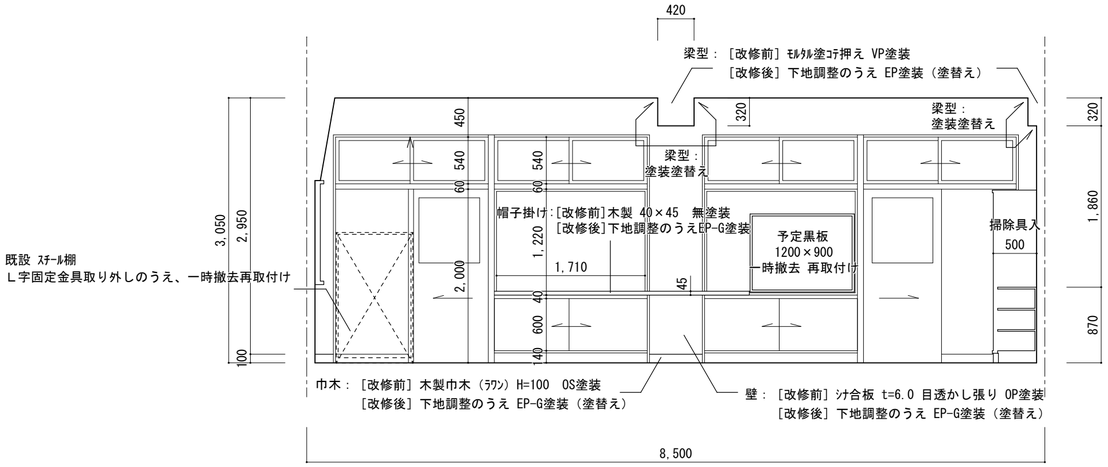
室名	部位	改修前	改修後
普通教室	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
		ｼﾅ合板 t=6.0 目透かし張り OP塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	巾木	木製巾木（ﾗﾜﾝ）H=100　OS塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	床	ﾅﾗﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ張り OSW塗装	改修なし
	備考	掲示板（壁面）	掲示ｸﾛｽ張替え（全面）
		家具（掃除具入、ロッカー、整理棚）	改修なし

原図：Ａ２

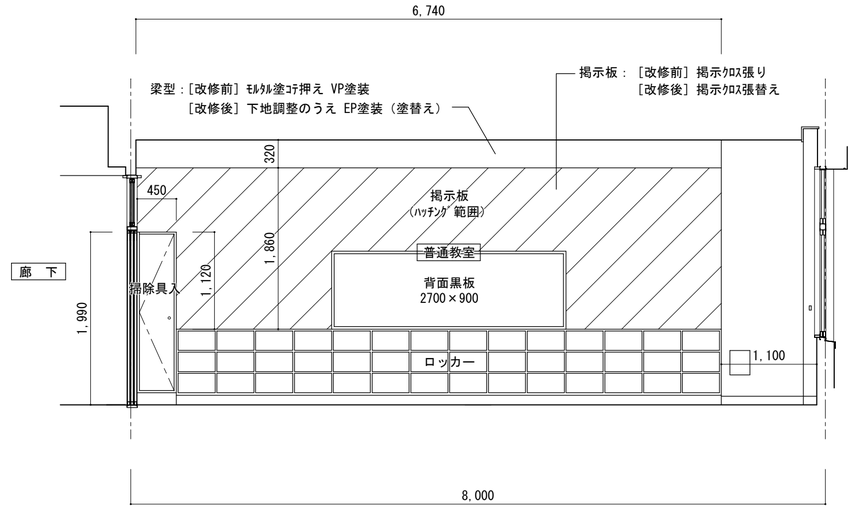
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	展開図 （普通教室　３階　５年生教室）	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	A-35

普通教室

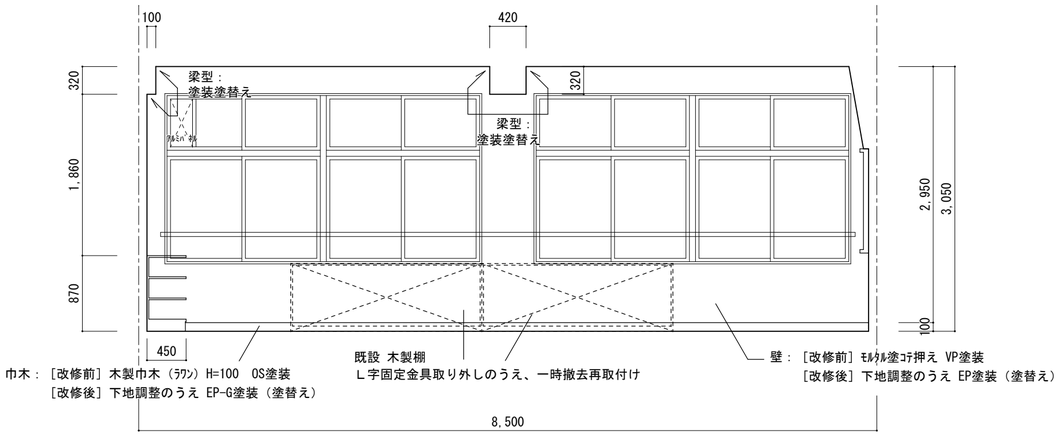
（３階　６年生教室）



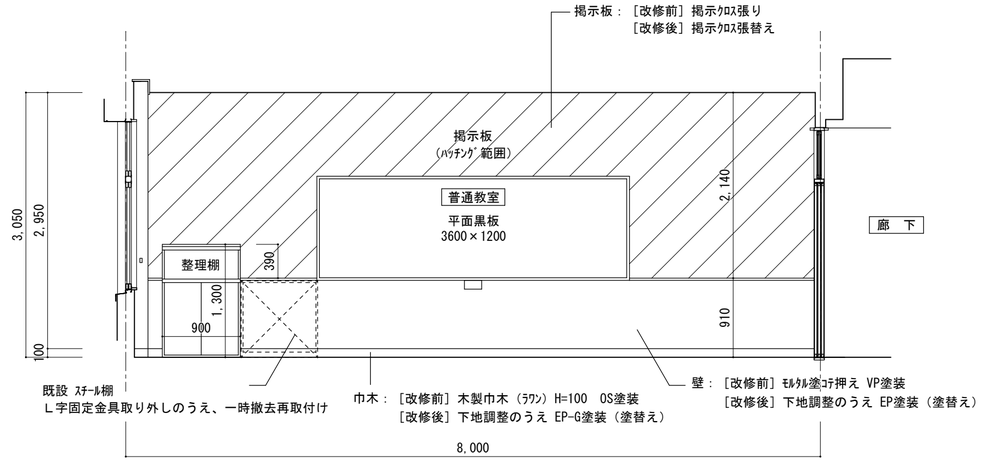
イ面



ロ面



ハ面



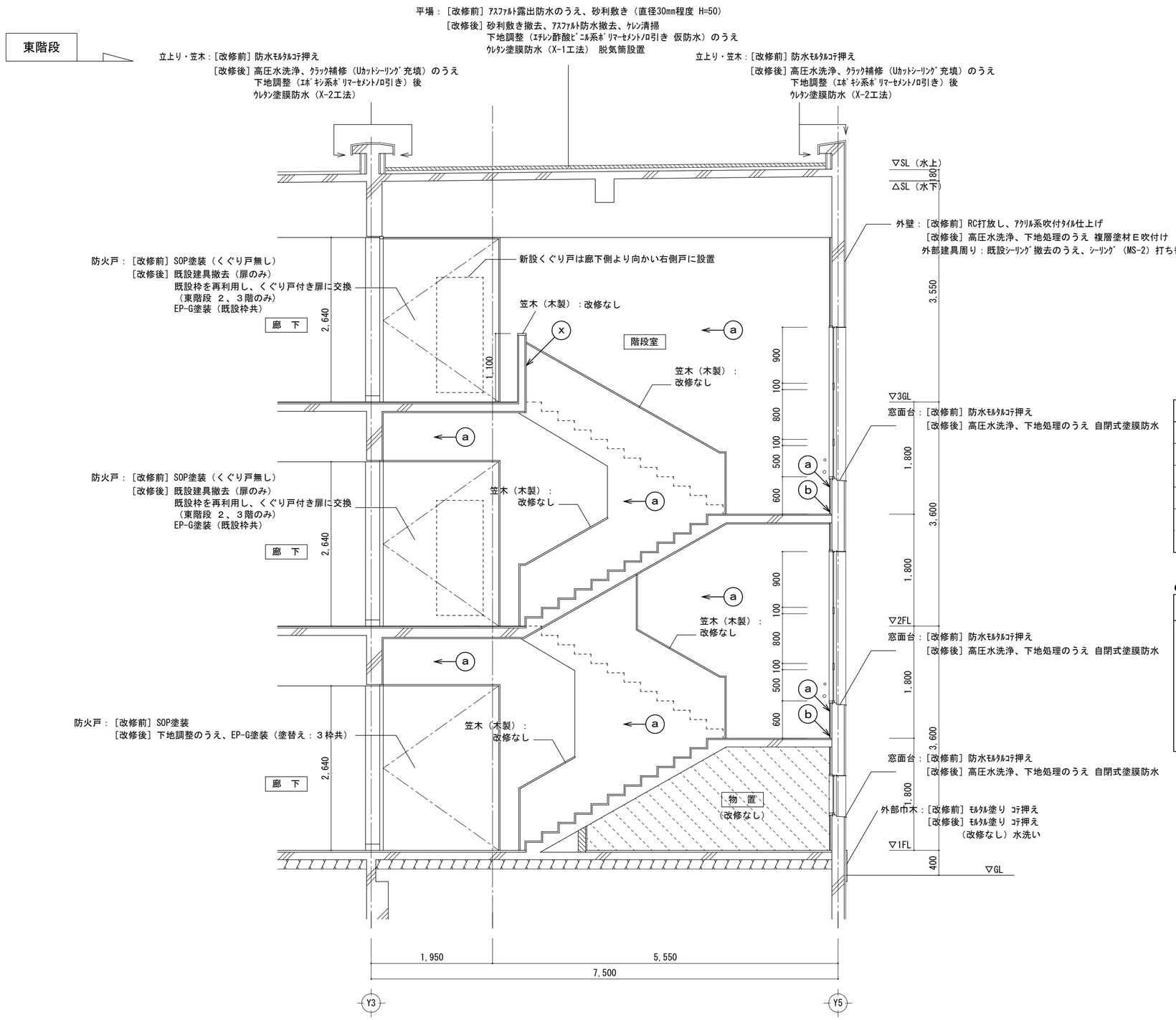
二面

●仕上表

室名	部位	改修前	改修後
普通教室	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
		ｼﾅ合板 t=6.0 目透かし張り OP塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	巾木	木製巾木（ﾗﾜﾝ）H=100 OS塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	床	ﾅﾗﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ張り OSW塗装	改修なし
	備考	掲示板（壁面）	掲示ｸﾛｽ張替え（全面）
		家具（掃除具入、ロッカー、整理棚）	改修なし

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	展開図 （普通教室　３階　６年生教室）	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	A-36



［改修前・後］Ｂ～Ｂ’断面詳細図 S=1/50

内部改修 仕上表

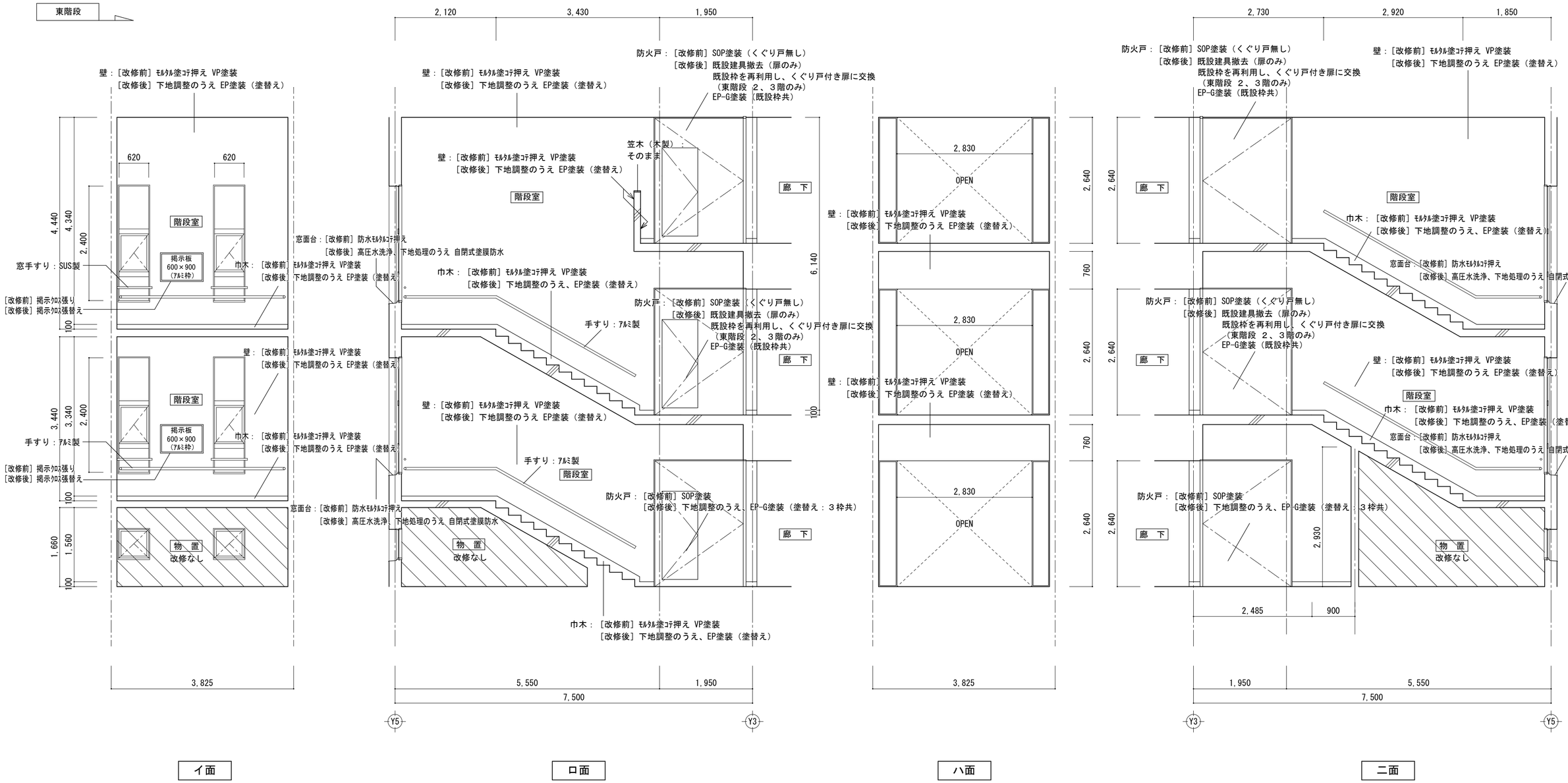
記号	部 位	改修前	改修後
a	内 壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ、EP塗装（塗替え）
b	巾 木	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ、EP塗装（塗替え）
x	壁ｸﾗｯｸ	壁ｸﾗｯｸ 1.0mm、L=1000 改修	ｸﾗｯｸ補修（Uｶｯﾄｼｰﾘﾝｸﾞ充填）
【備 考】			

●仕上表

室名	部位	改修前	改修後
階段室（東階段）	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
	巾木	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
	床	Pﾀｲﾙ張り t=2.0	改修なし
	備考		

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	［改修前・後］Ｂ～Ｂ’断面詳細図（東階段）	A2 1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	A-37



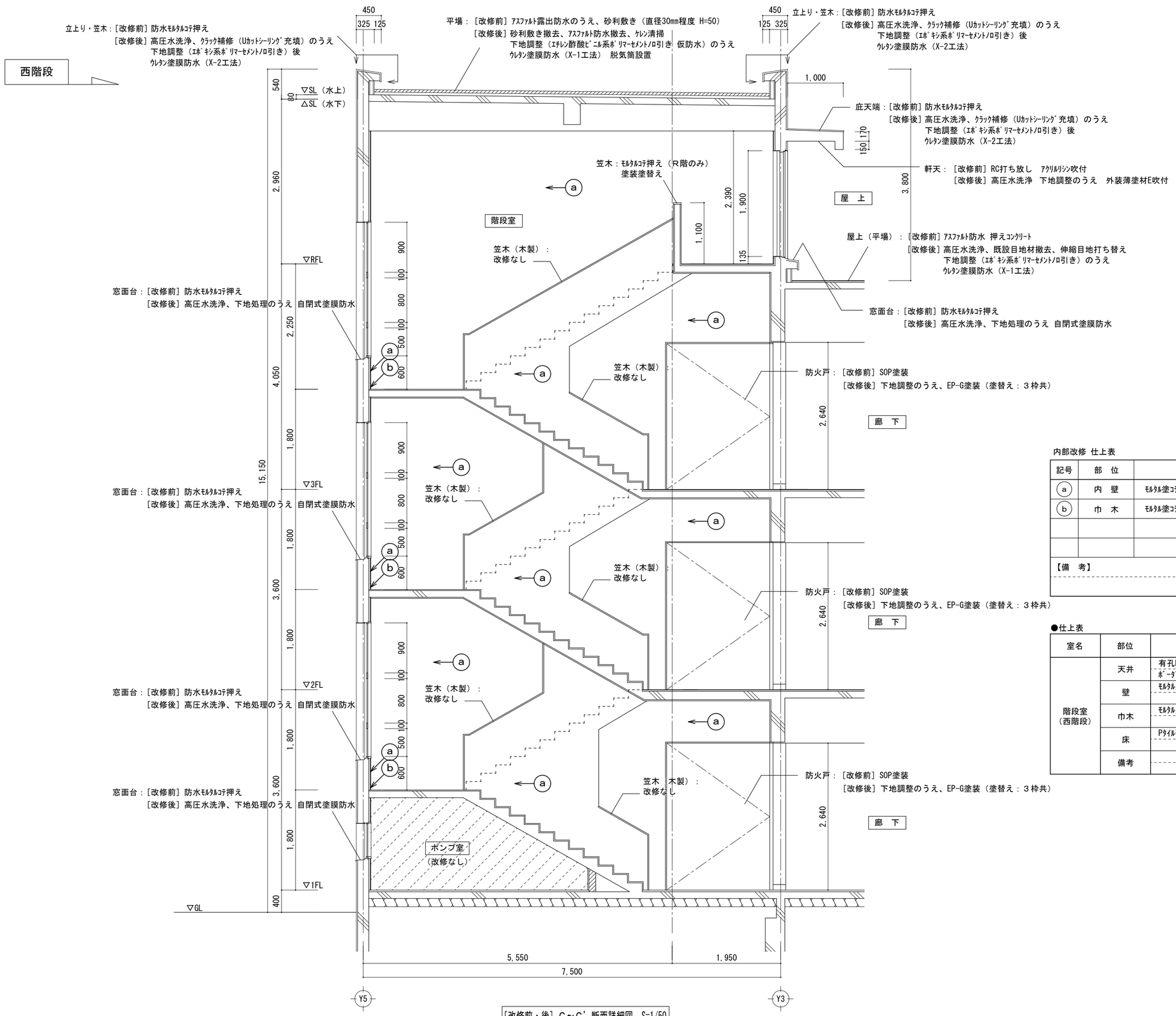
[改修前・後] 展開図 S=1/60

●仕上表

室名	部位	改修前	改修後
階段室（東階段）	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	階段（上げ裏）	RC打放し、着色ﾋﾙ石吹付け	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
	巾木	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
	床	Pﾀｲﾙ張り t=2.0	改修なし
	備考		

原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	[改修前・後] 展開図（東階段）	A2 1/60	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	A-38



[改修前・後] C～C’断面詳細図 S=1/50

内部改修 仕上表

記号	部 位	改修前	改修後
a	内 壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ、EP塗装（塗替え）
b	巾 木	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ、EP塗装（塗替え）

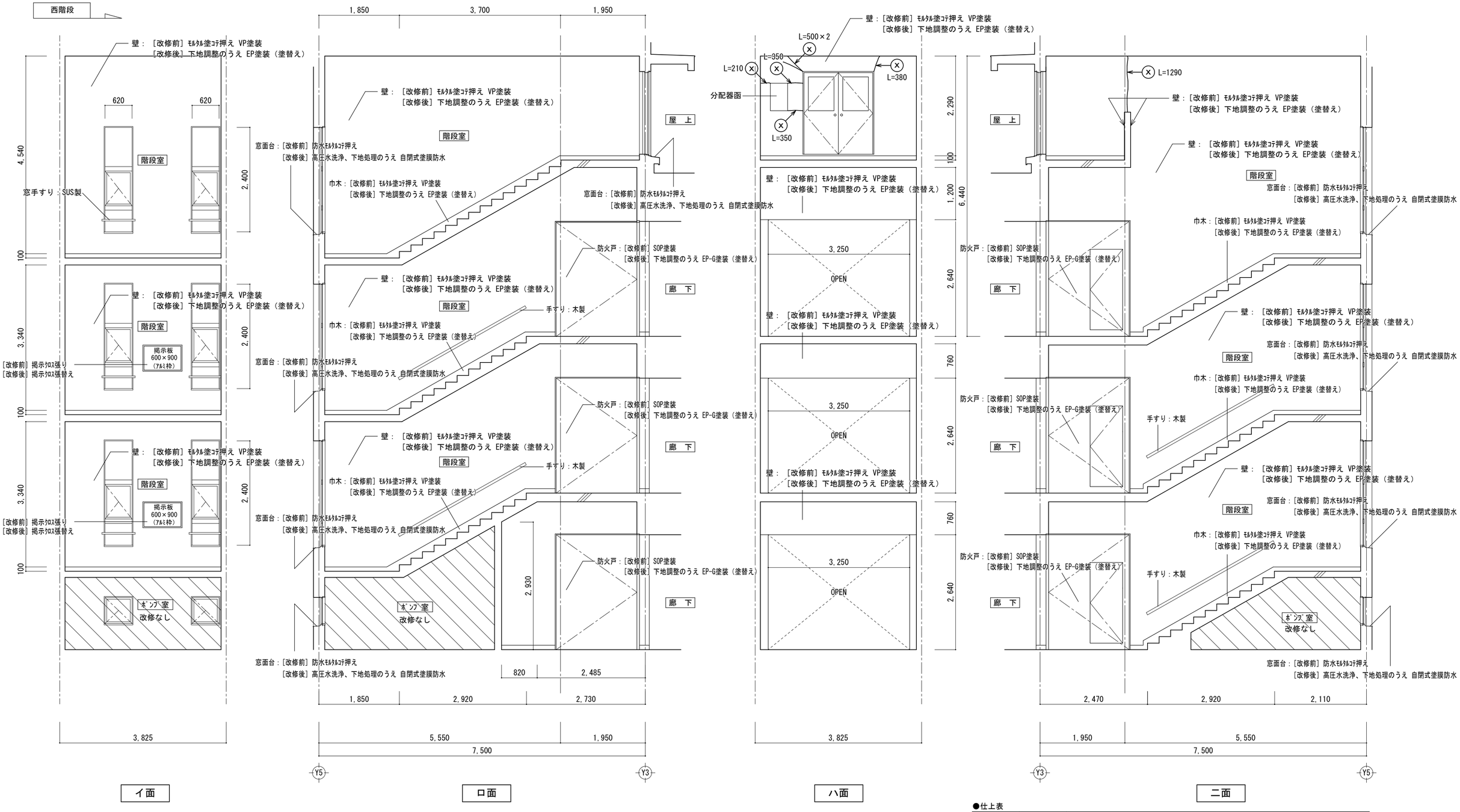
【備 考】

●仕上表

室名	部位	改修前	改修後
階段室（西階段）	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
	巾木	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
	床	Pﾀｲﾙ張り t=2.0	改修なし
	備考		

原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	［改修前・後］C～C’断面詳細図（西階段）	A2 1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	A-39



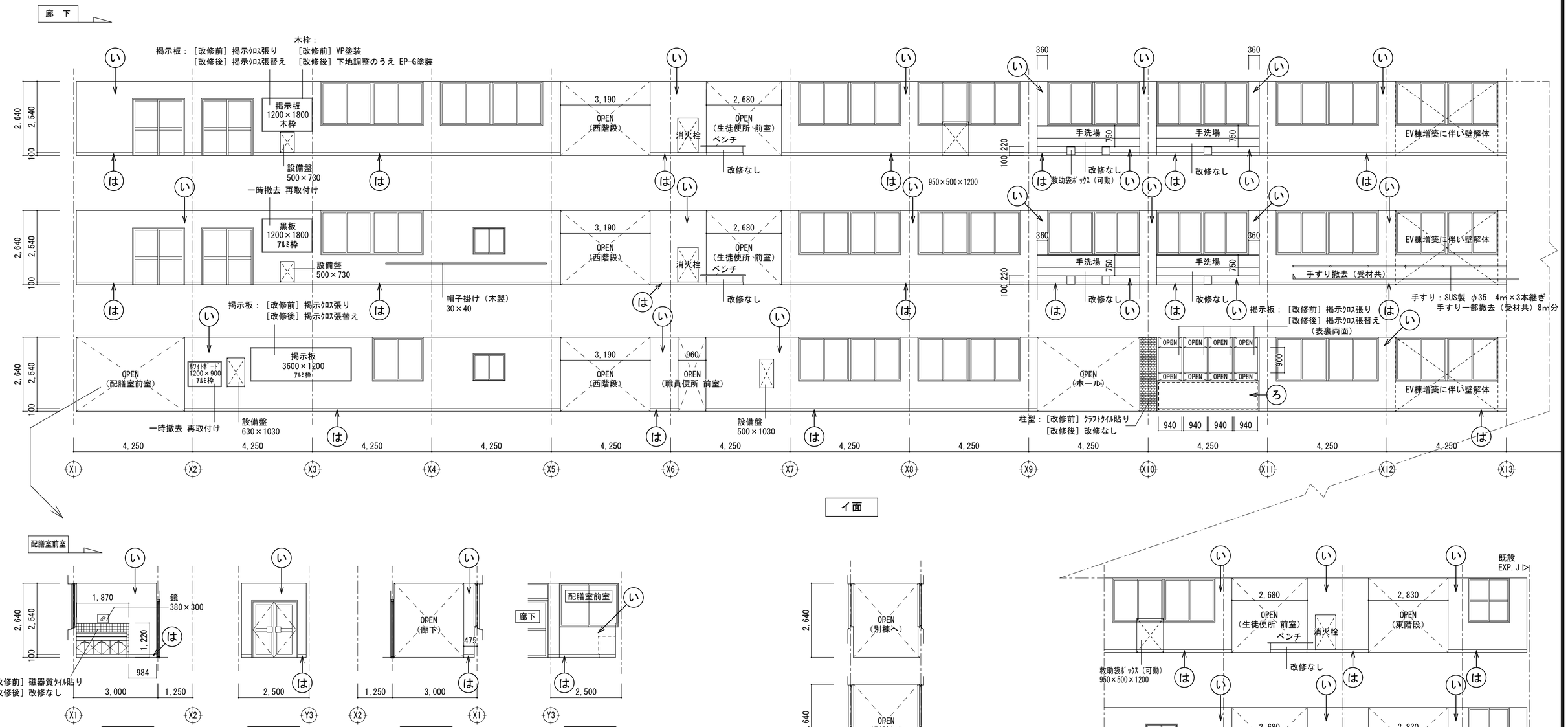
［改修前・後］展開図　S=1/60

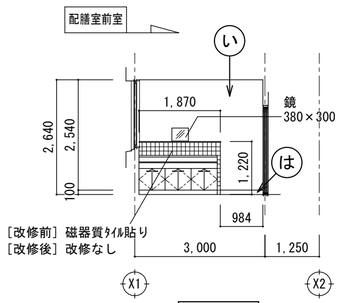
●仕上表

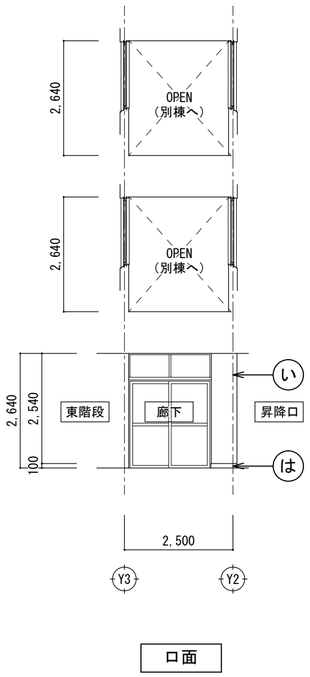
室名	部位	改修前	改修後
階段室（西階段）	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞ-PB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	階段（上げ裏）	RC打放し、着色ﾋﾙ石吹付け	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
	巾木	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
	床	Pﾀｲﾙ張り t=2.0	改修なし
	⊗ 壁ｸﾗｯｸ	壁ｸﾗｯｸ 1.0mm（長さは図中に記載）	ｸﾗｯｸ補修（Uｶｯﾄｼｰﾘﾝｸﾞ充填）

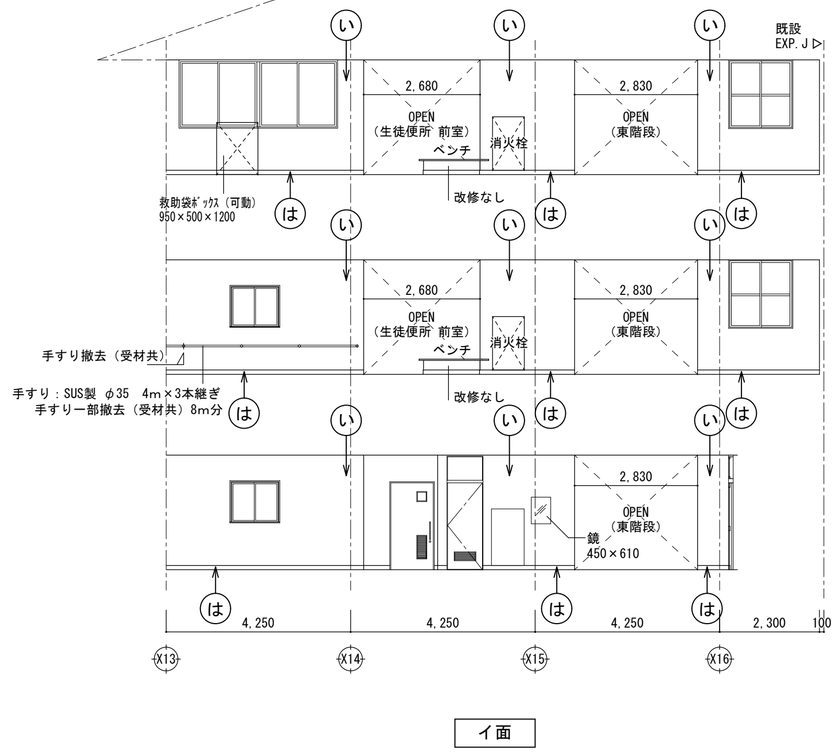
原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	［改修前・後］展開図（西階段）	A2　1/60	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	A-40









●仕上表

室名	部位	改修前	改修後
廊 下	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
		ｼﾅ合板 t=6.0 目透かし張り OP塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	巾木	木製巾木（ﾗﾜﾝ）H=100 OS塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	床	Pﾀｲﾙ張り t=2.0	改修なし
	備考		
配膳室前室	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
		磁器質ﾀｲﾙ貼り	改修なし
	巾木	木製巾木（ﾗﾜﾝ）H=100 OS塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	床	Pﾀｲﾙ張り t=2.0	改修なし
	備考		

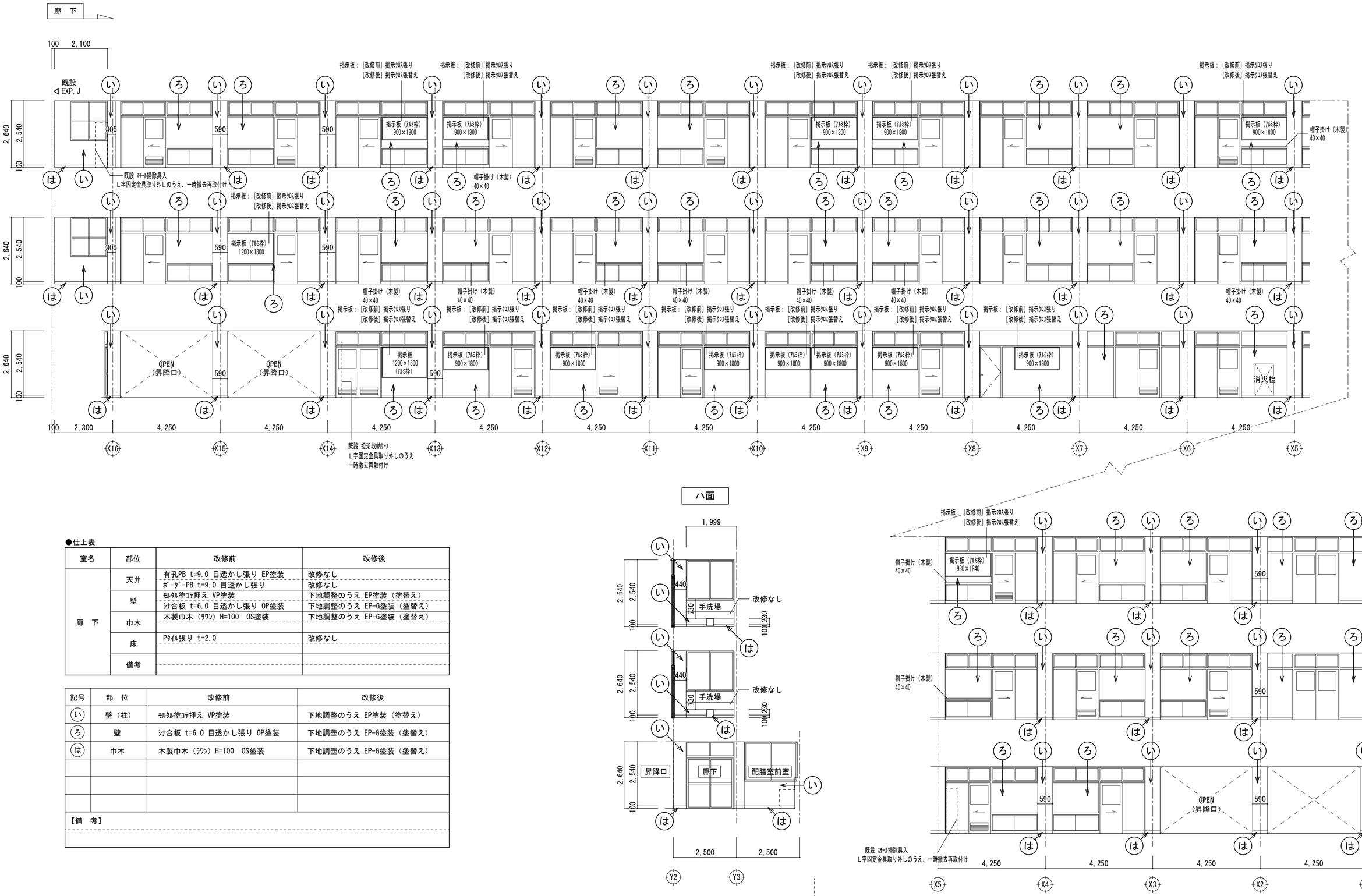
記号	部 位	改修前	改修後
い	壁（柱）	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
ろ	壁	ｼﾅ合板 t=6.0 目透かし張り OP塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
は	巾木	木製巾木（ﾗﾜﾝ）H=100 OS塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）

【備 考】

展開図 S=1/100

原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	展開図（廊下１）	A2 1/100	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	No. A-41



展開図 S=1/100

●仕上表

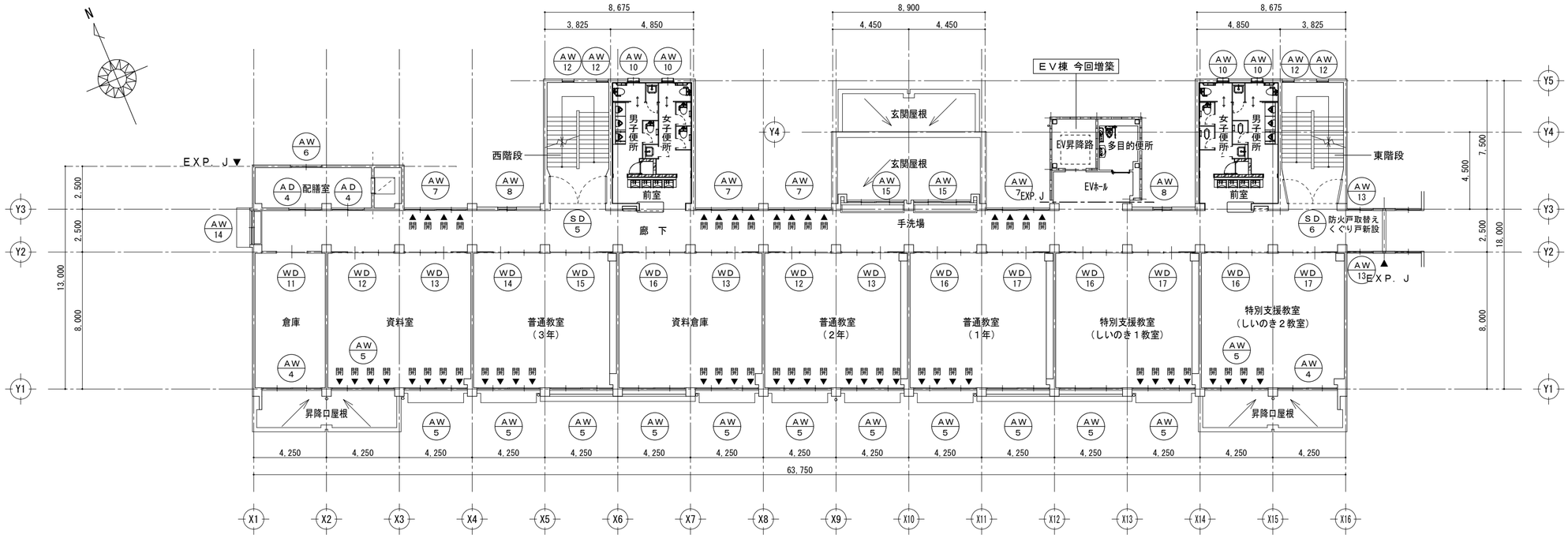
室名	部位	改修前	改修後
廊 下	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
		ｼﾅ合板 t=6.0 目透かし張り OP塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	巾木	木製巾木（ﾗﾜﾝ）H=100 OS塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	床	Pﾀｲﾙ張り t=2.0	改修なし
	備考		

記号	部 位	改修前	改修後
い	壁（柱）	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
ろ	壁	ｼﾅ合板 t=6.0 目透かし張り OP塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
は	巾木	木製巾木（ﾗﾜﾝ）H=100 OS塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）

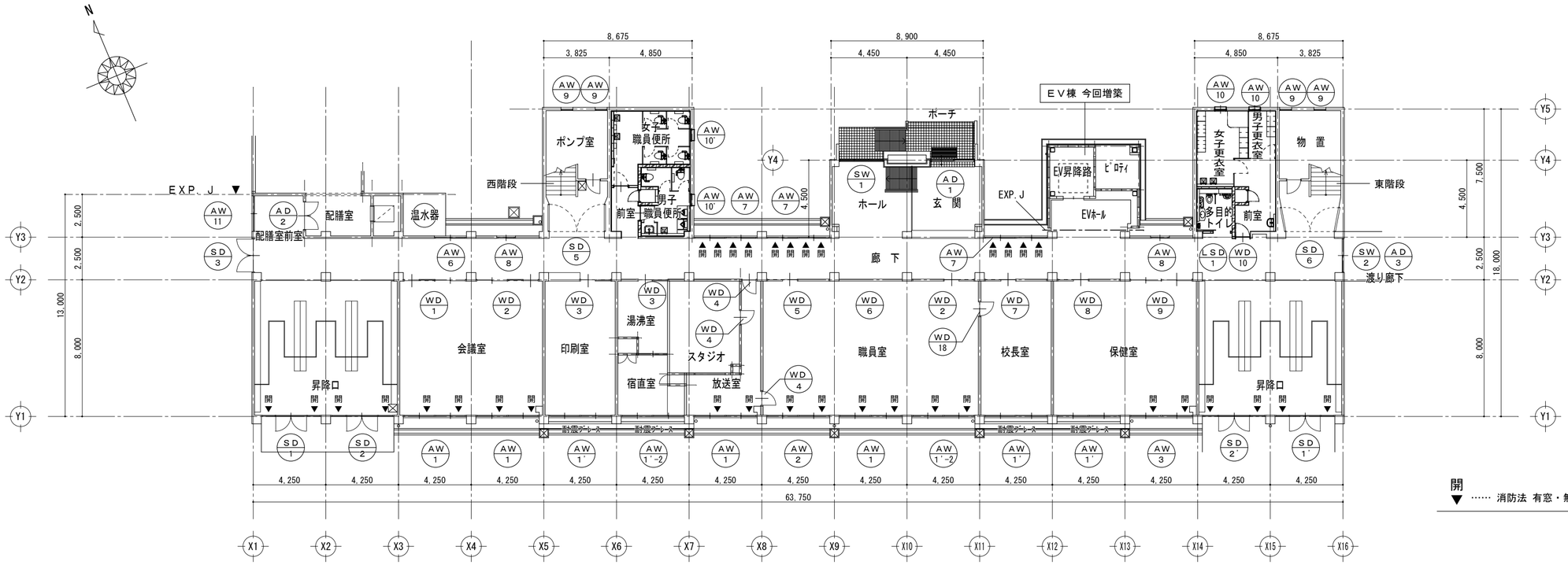
【備 考】

原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	展開図（廊下２）	A2 1/100	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	No. A-42



２階建具配置図　S=1/200

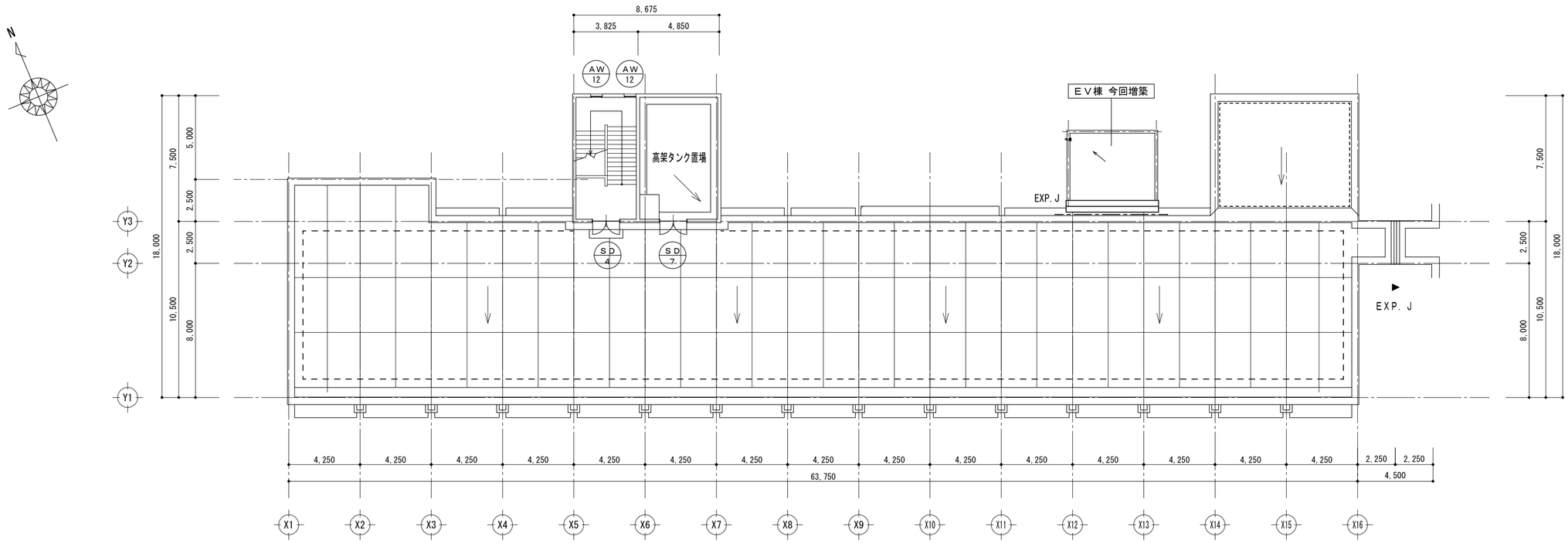


１階建具配置図　S=1/200

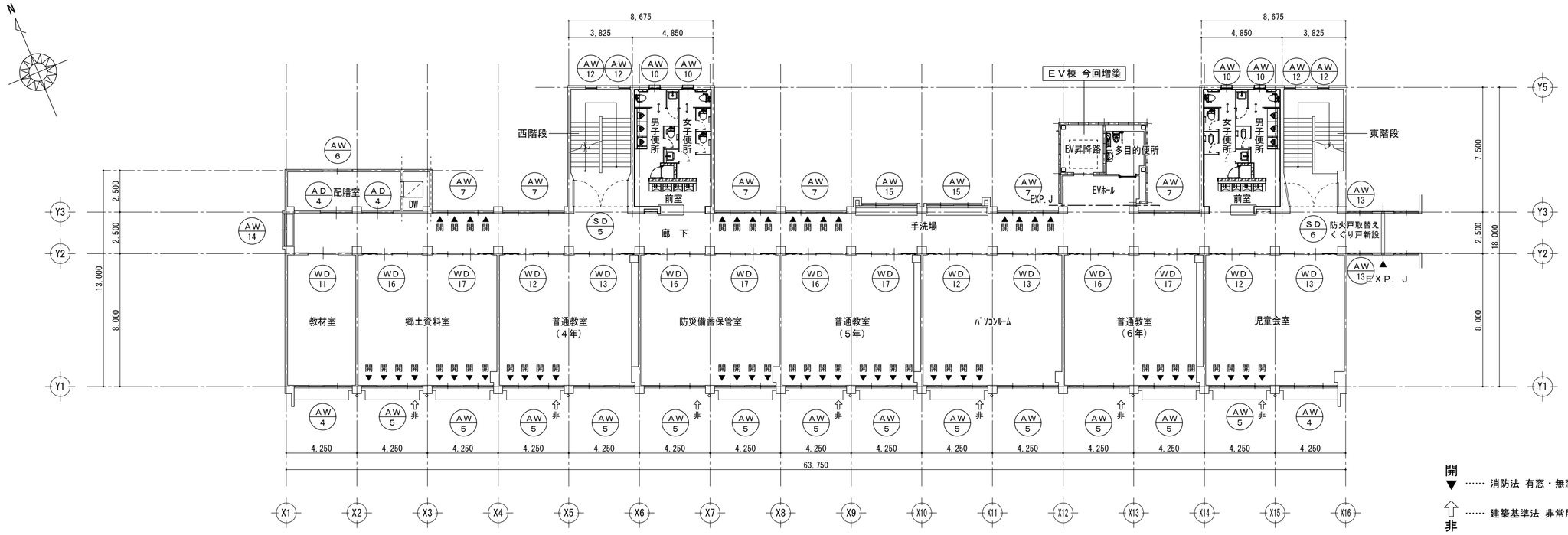
開
▼ …… 消防法 有窓・無窓階の検討用開口部を示す

原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	２階建具配置図 １階建具配置図	A2　1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		A-43



R階建具配置図　S=1/200



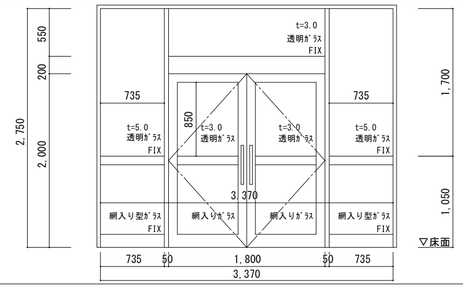
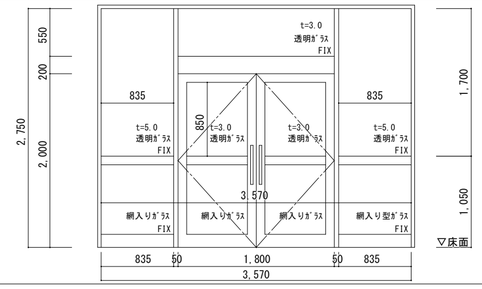
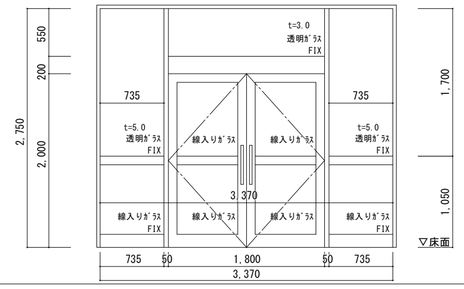
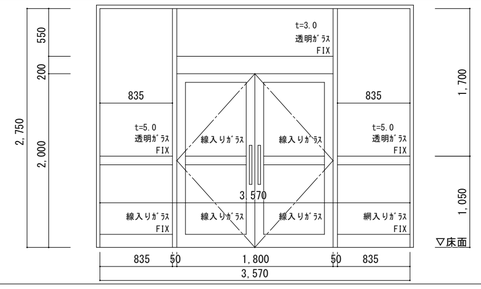
開 ▼ …… 消防法 有窓・無窓階の検討用開口部を示す

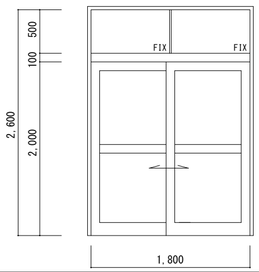
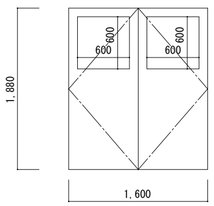
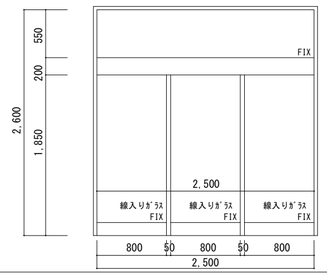
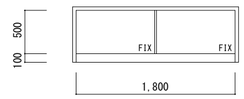
非 ⇧ …… 建築基準法 非常用進入口（代替進入口）を示す

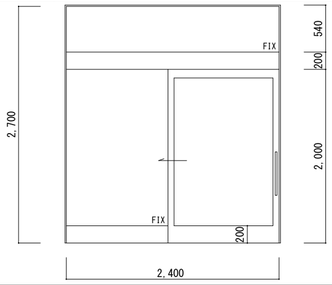
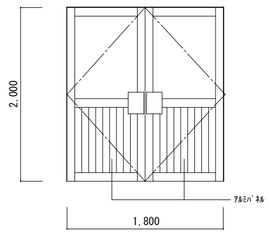
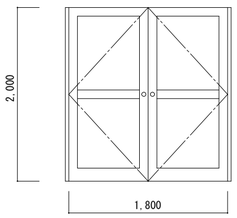
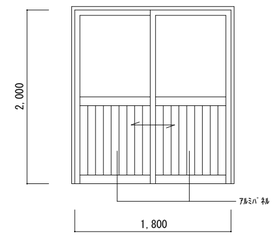
3階建具配置図　S=1/200

原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	R階建具配置図 3階建具配置図	A2　1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		A-44

記号・ヶ所	ＳＤ／１	昇降口	１ヶ所	ＳＤ／２	昇降口	１ヶ所	ＳＤ／１'	昇降口	１ヶ所	ＳＤ／２'	昇降口	１ヶ所
姿　図												
形　式	両開きﾄﾞｱ＋FIX窓			両開きﾄﾞｱ＋FIX窓			両開きﾄﾞｱ＋FIX窓			両開きﾄﾞｱ＋FIX窓		
材　質	ｽﾁｰﾙ製			ｽﾁｰﾙ製			ｽﾁｰﾙ製			ｽﾁｰﾙ製		
仕　上	DP塗装			DP塗装			DP塗装			DP塗装		
ガ ラ ス	透明ｶﾞﾗｽ（ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ t=3.0・5.0)，　腰：網入りｶﾞﾗｽ、網入り型ｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ（ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ t=3.0・5.0)，　腰：網入りｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ（ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ t=3.0・5.0)、線入りｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ（ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ t=3.0・5.0)、線入りｶﾞﾗｽ、網入りｶﾞﾗｽ		
改修内容	・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・建具鉄部 SOP塗装をDP塗装に塗替え（３方枠共）			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・建具鉄部 SOP塗装をDP塗装に塗替え（３方枠共）			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・建具鉄部 SOP塗装をDP塗装に塗替え（３方枠共）			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・建具鉄部 SOP塗装をDP塗装に塗替え（３方枠共）		

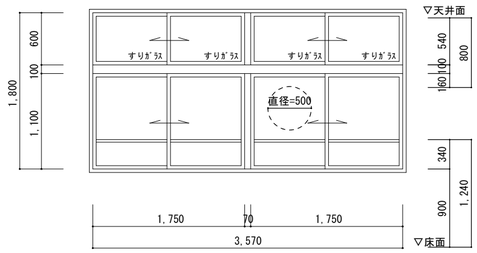
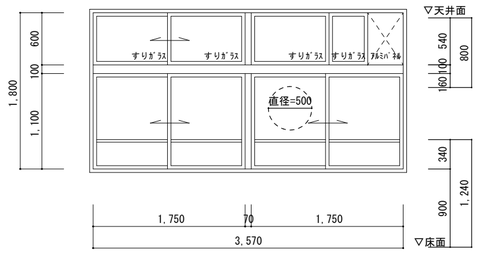
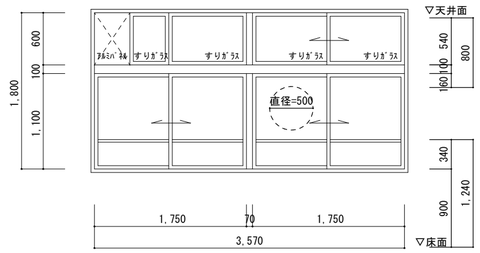
記号・ヶ所	ＳＤ／３	廊下	１ヶ所	ＳＤ／４	塔屋	１ヶ所	ＳＷ／１	ホール	１ヶ所	ＳＷ／２	廊下	１ヶ所
姿　図												
形　式	引き違いﾄﾞｱ＋FIX窓			両開きﾄﾞｱ			FIX窓			FIX窓		
材　質	ｽﾁｰﾙ製			ｽﾁｰﾙ製			ｽﾁｰﾙ製			ｽﾁｰﾙ製		
仕　上	DP塗装			DP塗装			DP塗装			DP塗装		
ガ ラ ス	線入りｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ		
改修内容	・建具鉄部 SOP塗装をDP塗装に塗替え（３方枠共）			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・建具鉄部 SOP塗装をDP塗装に塗替え（３方枠共）			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・建具鉄部 SOP塗装をDP塗装に塗替え（３方枠共）			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・建具鉄部 SOP塗装をDP塗装に塗替え（３方枠共）		

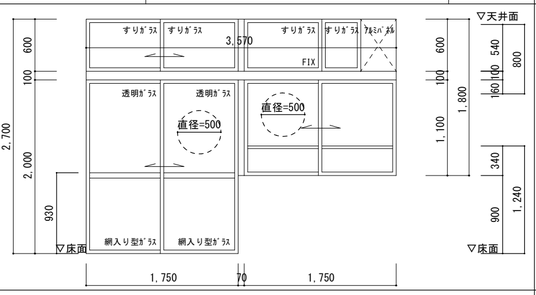
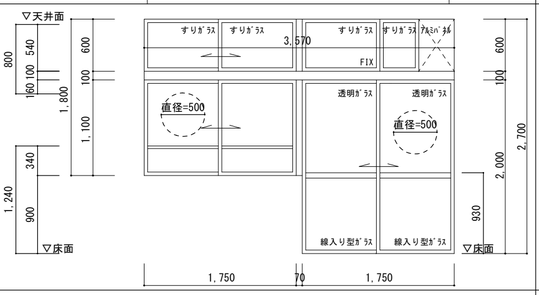
記号・ヶ所	ＡＤ／１	玄関	１ヶ所	ＡＤ／２	１階 配膳室	１ヶ所	ＡＤ／３	廊下	１ヶ所	ＡＤ／４	２・３階 配膳室	４ヶ所
姿　図												
形　式	ｽﾗｲﾄﾞﾄﾞｱ＋FIX窓			両開きﾄﾞｱ			両開きﾄﾞｱ			引き違いﾄﾞｱ		
材　質	ｱﾙﾐ製			ｱﾙﾐ製			ｱﾙﾐ製			ｱﾙﾐ製		
仕　上	ｱﾙﾏｲﾄ			ｱﾙﾏｲﾄ			ｱﾙﾏｲﾄ			ｱﾙﾏｲﾄ		
ガ ラ ス	強化ｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ			強化ｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ		
改修内容				・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り						・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り		

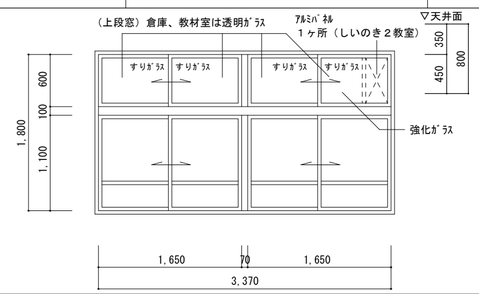
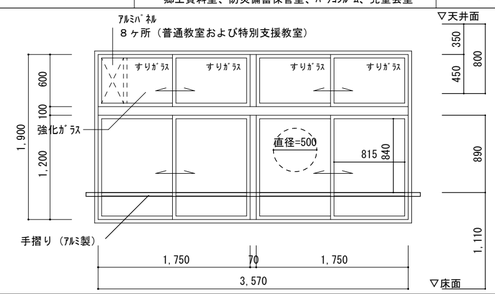
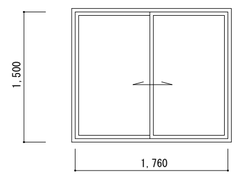
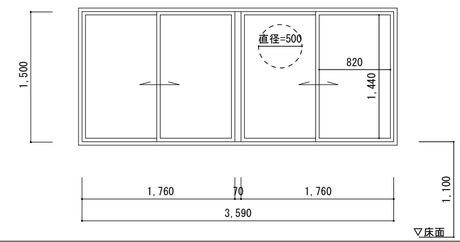
［飛散防止フィルム］
飛散飛散フィルムは内貼りとする。なお、透明ｶﾞﾗｽに貼るフィルムは遮熱機能を有するものとする。
※強化、網入り、線入りｶﾞﾗｽ面は施工対象外とする。

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE					No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	建具表１	A2	1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		A-45

記号・ヶ所	ＡＷ／１	会議室、放送室、職員室	４ヶ所	ＡＷ／１’	印刷室、校長室、保健室	３ヶ所	ＡＷ／１’-2	宿直室、職員室	２ヶ所
姿　図									
形　式	2連引き違い窓			2連引き違い窓			2連引き違い窓		
材　質	ｱﾙﾐ製			ｱﾙﾐ製			ｱﾙﾐ製		
仕　上	ｱﾙﾏｲﾄ			ｱﾙﾏｲﾄ			ｱﾙﾏｲﾄ		
ガ ラ ス	透明ｶﾞﾗｽ（ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ t=3.0）、すりｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ（ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ t=3.0）、すりｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ（ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ t=3.0）、すりｶﾞﾗｽ		
改修内容	・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り		

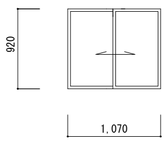
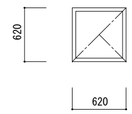
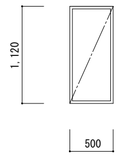
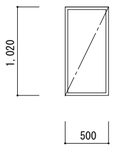
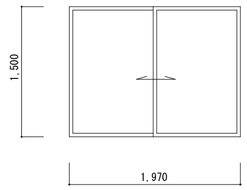
記号・ヶ所	ＡＷ／２	職員室	１ヶ所	ＡＷ／３	保健室	１ヶ所
姿　図						
形　式	2連引き違い窓			2連引き違い窓		
材　質	ｱﾙﾐ製			ｱﾙﾐ製		
仕　上	ｱﾙﾏｲﾄ			ｱﾙﾏｲﾄ		
ガ ラ ス	透明ｶﾞﾗｽ（ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ t=3.0）、すりｶﾞﾗｽ、網入り型ｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ（ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ t=3.0）、すりｶﾞﾗｽ、線入り型ｶﾞﾗｽ		
改修内容	・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り		

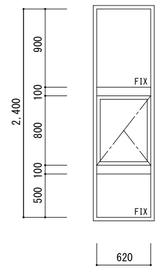
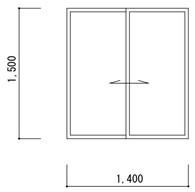
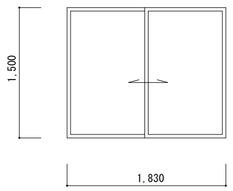
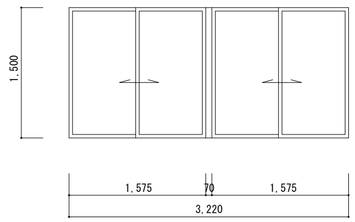
記号・ヶ所	ＡＷ／４	倉庫、しいのき２教室、教材室、児童会室	４ヶ所	ＡＷ／５	資料室、普通教室、資料倉庫、特別支援教室 郷土資料室、防災備蓄保管室、ﾊﾟｿｺﾝﾙｰﾑ、児童会室	26ヶ所	ＡＷ／６	１階 廊下、２階 配膳室、３階 配膳室	３ヶ所	ＡＷ／７	１～３階 廊下	13ヶ所
姿　図												
形　式	2連引き違い窓			2連引き違い窓			引き違い窓			２連引き違い窓		
材　質	ｱﾙﾐ製			ｱﾙﾐ製			ｱﾙﾐ製			ｱﾙﾐ製		
仕　上	ｱﾙﾏｲﾄ			ｱﾙﾏｲﾄ			ｱﾙﾏｲﾄ			ｱﾙﾏｲﾄ		
ガ ラ ス	透明ｶﾞﾗｽ（ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ t=3.0）、すりｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ（ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ t=3.0）、すりｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ、（2階配膳室、3階配膳室は 線入りｶﾞﾗｽ）			透明ｶﾞﾗｽ（ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ t=3.0）		
改修内容	・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り		

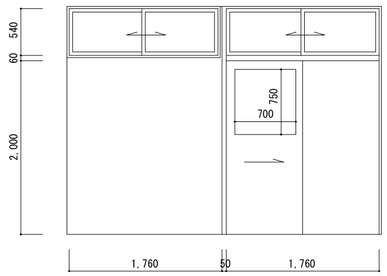
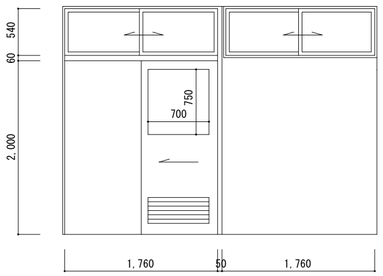
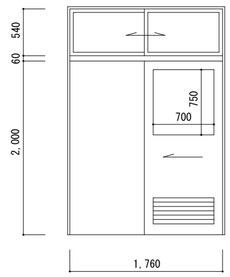
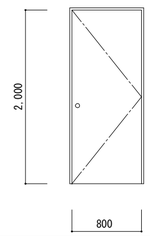
［飛散防止フィルム］
飛散飛散フィルムは内貼りとする。なお、透明ｶﾞﾗｽに貼るフィルムは遮熱機能を有するものとする。
※強化、網入り、線入りｶﾞﾗｽ面は施工対象外とする。

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	建具表２	A2 1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康		A-46

記号・ヶ所	ＡＷ／８	廊下	４ヶ所	ＡＷ／９	階段室	４ヶ所	ＡＷ／10	男子便所、女子便所 男子更衣室、女子更衣室	10ヶ所	ＡＷ／10'	男子職員便所 女子職員便所	２ヶ所	ＡＷ／11	配膳室前室	１ヶ所
姿　図							ＡＷ／10 			ＡＷ／10' 					
形　式	引き違い窓			すべり出し窓			縦すべり出し窓						引き違い窓		
材　質	ｱﾙﾐ製			ｱﾙﾐ製			ｱﾙﾐ製						ｱﾙﾐ製		
仕　上	ｱﾙﾏｲﾄ			ｱﾙﾏｲﾄ			ｱﾙﾏｲﾄ						ｱﾙﾏｲﾄ		
ガ ラ ス	透明ｶﾞﾗｽ、強化ｶﾞﾗｽ（２階廊下のみ）			透明ｶﾞﾗｽ			強化ｶﾞﾗｽ						線入りｶﾞﾗｽ		
改修内容	・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り											

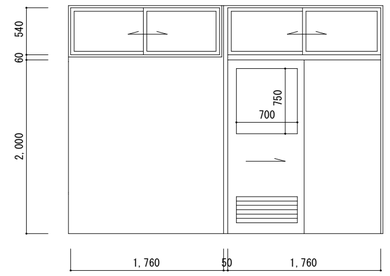
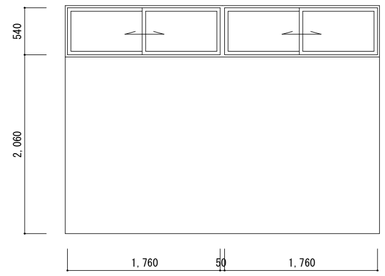
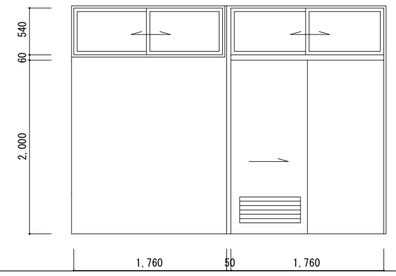
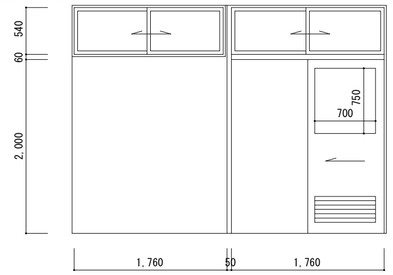
記号・ヶ所	ＡＷ／12	階段室	10ヶ所	ＡＷ／13	２階、３階 廊下	４ヶ所	ＡＷ／14	２階、３階 廊下	２ヶ所	ＡＷ／15	２階、３階 廊下	４ヶ所
姿　図												
形　式	すべり出し窓＋FIX窓			引き違い窓			引き違い窓			2連引き違い窓		
材　質	ｱﾙﾐ製			ｱﾙﾐ製			ｱﾙﾐ製			ｱﾙﾐ製		
仕　上	ｱﾙﾏｲﾄ			ｱﾙﾏｲﾄ			ｱﾙﾏｲﾄ			ｱﾙﾏｲﾄ		
ガ ラ ス	透明ｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ			線入りｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ		
改修内容	・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り						・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り		

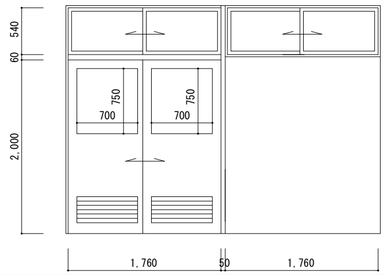
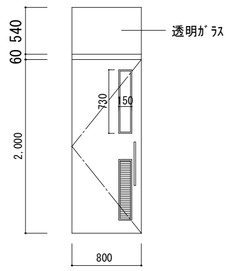
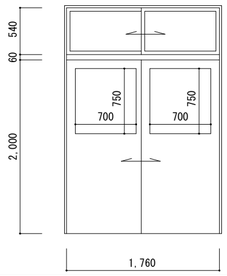
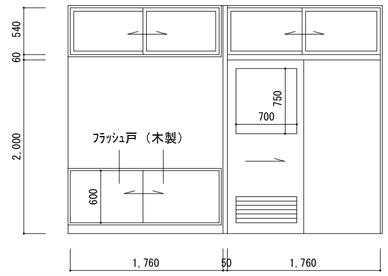
記号・ヶ所	ＷＤ／１	会議室	１ヶ所	ＷＤ／２	会議室、職員室	２ヶ所	ＷＤ／３	印刷室、湯沸室	２ヶ所	ＷＤ／４	放送室、スタジオ	３ヶ所
姿　図												
形　式	引き戸＋2連引き違い窓（間仕切壁）			片開きﾄﾞｱ（間仕切壁）			引き違い戸＋引き違い窓			片開きﾄﾞｱ		
材　質	木製			木製			木製			木製		
仕　上	ｼﾅ合板			ｼﾅ合板			ｼﾅ合板			ｼﾅ合板		
ガ ラ ス	透明ｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ			――		
改修内容	・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・壁面（廊下側）下地調整のうえ EP-G塗装塗替え （建具は塗装しない）			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・壁面（廊下側）下地調整のうえ EP-G塗装塗替え （建具は塗装しない）			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り					

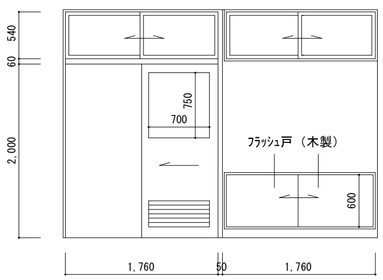
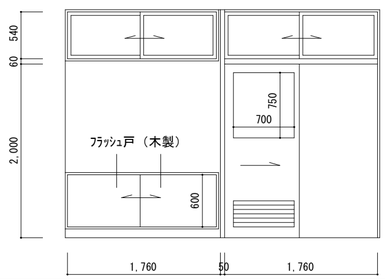
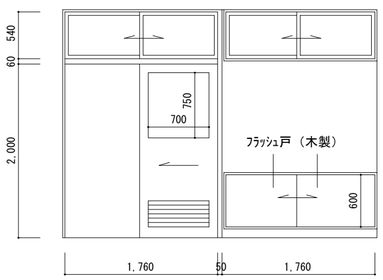
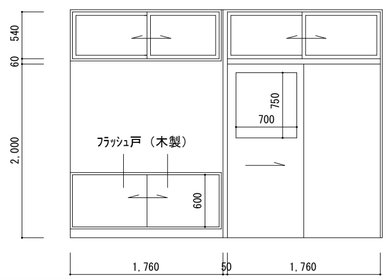
［飛散防止フィルム］
飛散飛散フィルムは内貼りとする。なお、透明ｶﾞﾗｽに貼るフィルムは遮熱機能を有するものとする。
※強化、網入り、線入りｶﾞﾗｽ面は施工対象外とする。

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	建具表３	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		A-47

記号・ヶ所	ＷＤ／５	職員室	１ヶ所	ＷＤ／６	職員室	１ヶ所	ＷＤ／７	校長室	１ヶ所	ＷＤ／８	保健室	１ヶ所
姿　図												
形　式	引き戸＋2連引き違い窓（間仕切壁）			2連引き違い窓（間仕切壁）			引き戸＋2連引き違い窓（間仕切壁）			引き戸＋2連引き違い窓（間仕切壁）		
材　質	木製			木製			木製			木製		
仕　上	ｼﾅ合板			ｼﾅ合板			ｼﾅ合板			ｼﾅ合板		
ガラス	透明ｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ		
改修内容	・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・壁面（廊下側）下地調整のうえ EP-G塗装塗替え （建具は塗装しない）			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・壁面（廊下側）下地調整のうえ EP-G塗装塗替え （建具は塗装しない）			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・壁面（廊下側）下地調整のうえ EP-G塗装塗替え （建具は塗装しない）			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・壁面（廊下側）下地調整のうえ EP-G塗装塗替え （建具は塗装しない）		

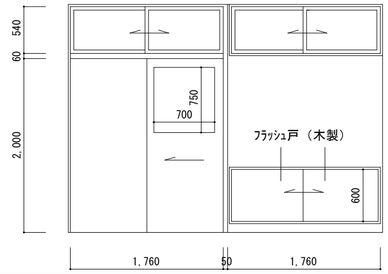
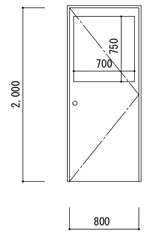
記号・ヶ所	ＷＤ／９	保健室	１ヶ所	ＷＤ／10	更衣室前室	１ヶ所	ＷＤ／11	倉庫、教材室	２ヶ所	ＷＤ／12	資料室、普通教室 ﾊﾟｿｺﾝﾙｰﾑ、児童会室	５ヶ所
姿　図												
形　式	引き違い戸＋2連引き違い窓（間仕切壁）			片開きﾄﾞｱ			引き違い戸＋引き違い窓			引き戸＋2連引き違い窓（間仕切壁）		
材　質	木製			木製			木製			木製		
仕　上	ｼﾅ合板			ﾒﾗﾐﾝ化粧板			ｼﾅ合板			ｼﾅ合板		
ガラス	透明ｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ、強化ｶﾞﾗｽ（小窓）			透明ｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ		
改修内容	・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・壁面（廊下側）下地調整のうえ EP-G塗装塗替え （建具は塗装しない）			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り（上部窓）			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・壁面（廊下側）下地調整のうえ EP-G塗装塗替え （建具は塗装しない）		

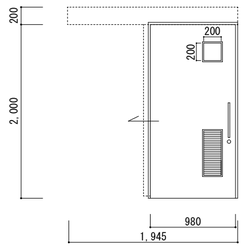
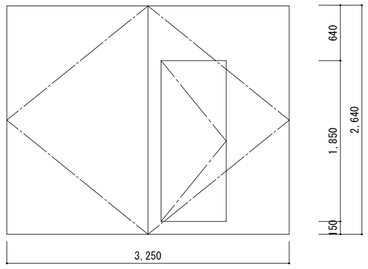
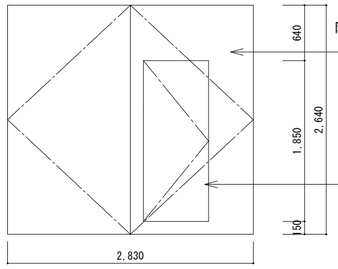
記号・ヶ所	ＷＤ／13	資料室、資料倉庫、普通教室 ﾊﾟｿｺﾝﾙｰﾑ、児童会室	６ヶ所	ＷＤ／14	普通教室	１ヶ所	ＷＤ／15	普通教室	１ヶ所	ＷＤ／16	資料倉庫、普通教室 郷土資料室、防災備蓄保管室、特別支援教室	８ヶ所
姿　図												
形　式	引き戸＋2連引き違い窓（間仕切壁）			引き戸＋2連引き違い窓（間仕切壁）			引き戸＋2連引き違い窓（間仕切壁）			引き戸＋2連引き違い窓（間仕切壁）		
材　質	木製			木製			木製			木製		
仕　上	ｼﾅ合板			ｼﾅ合板			ｼﾅ合板			ｼﾅ合板		
ガラス	透明ｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ			透明ｶﾞﾗｽ		
改修内容	・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・壁面（廊下側）下地調整のうえ EP-G塗装塗替え （建具は塗装しない）			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・壁面（廊下側）下地調整のうえ EP-G塗装塗替え （建具は塗装しない）			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・壁面（廊下側）下地調整のうえ EP-G塗装塗替え （建具は塗装しない）			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・壁面（廊下側）下地調整のうえ EP-G塗装塗替え （建具は塗装しない）		

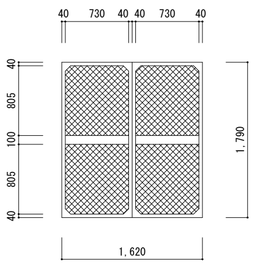
［飛散防止フィルム］
飛散飛散フィルムは内貼りとする。なお、透明ｶﾞﾗｽに貼るフィルムは遮熱機能を有するものとする。
※強化、網入り、線入りｶﾞﾗｽ面は施工対象外とする。

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	建具表４	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		A-48

記号・ヶ所	ＷＤ／17	普通教室、特別支援教室 郷土資料室、防災備蓄保管室	７ヶ所	ＷＤ／18	校長室	１ヶ所
姿　　図						
形　　式	引き戸＋2連引き違い窓（間仕切壁）			片開きﾄﾞｱ		
材　　質	木製			木製		
仕　　上	ｼﾅ合板			ｼﾅ合板		
ガ ラ ス	透明ｶﾞﾗｽ			型ｶﾞﾗｽ		
改修内容	・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り ・壁面（廊下側）下地調整のうえ EP-G塗装塗替え （建具は塗装しない）			・ｶﾞﾗｽ面に飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り		

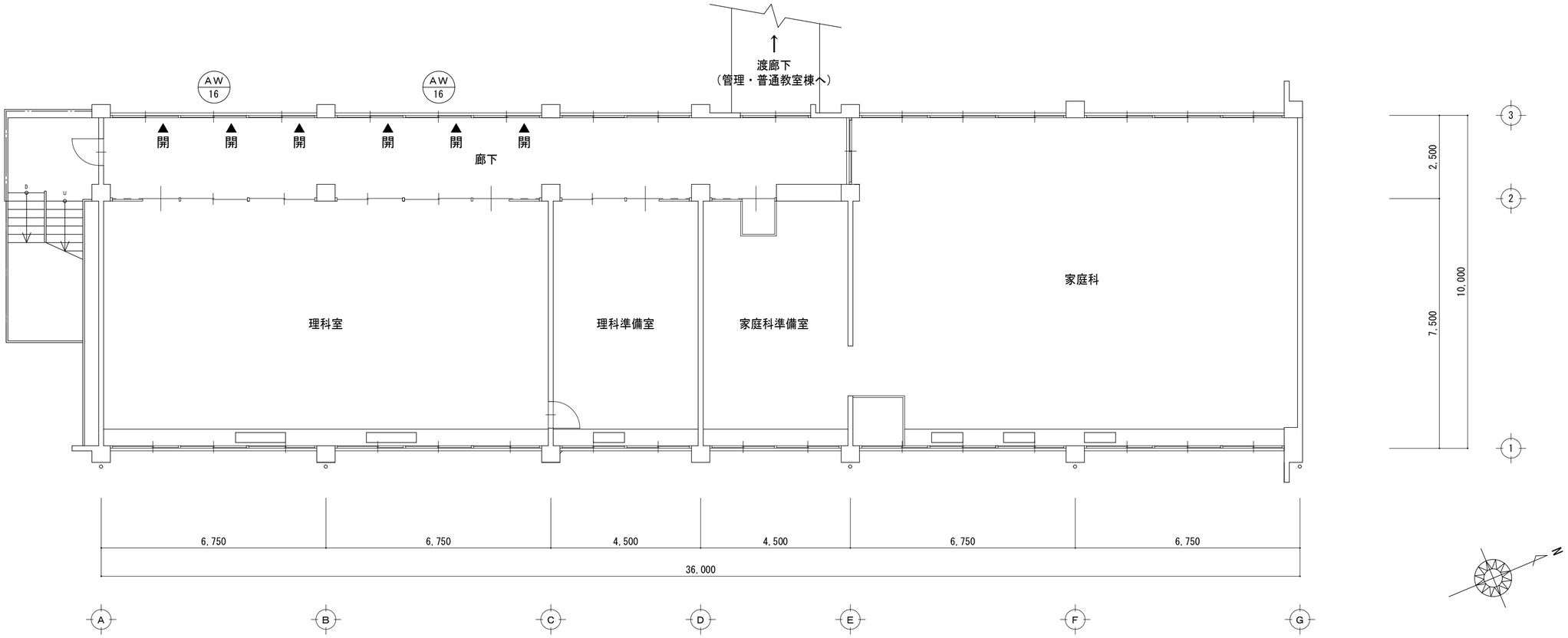
記号・ヶ所	ＬＳＤ／１	多目的ﾄｲﾚ	１ヶ所	ＳＤ／５	階段室	３ヶ所	ＳＤ／６	階段室	1~3階各1ヶ所 ３ヶ所
姿　　図				[改修前] DP塗装 [改修後] EP-G塗装 			[改修前] DP塗装 [改修後] EP-G塗装  防火戸：［改修前］DP塗装（くぐり戸無し） ［改修後］既設建具撤去（扉のみ） 既設枠を再利用し、くぐり戸付き扉に交換 （東階段 ２、３階のみ） EP-G塗装（既設枠共） 2階、3階…現状くぐり戸なし 今回工事でくぐり戸を新設		
形　　式	引き違いﾄﾞｱ＋2連引き違い窓			防火戸			防火戸		
材　　質	ﾍﾞｰﾊﾟｰｺｱ			ｽﾁｰﾙ製			ｽﾁｰﾙ製		
	亜鉛ﾒｯｷ鋼板			EP-G塗装			EP-G塗装		
ガ ラ ス	小窓：強化型ｶﾞﾗｽ			――			――		
改修内容				・下地調整のうえEP-G塗装に塗り替え（枠共） ・扉建付調整			・下地調整のうえP-G塗装に塗り替え（枠共） ・ﾚﾘｰｽﾞ交換（１階のみ）（電気設備工事）		

記号・ヶ所	ＳＤ／７	高置タンク置場	１ヶ所
姿　　図	 ［改修前］SOP塗装 ［改修後］DP塗装		
形　　式	両開き戸		
材　　質	ｽﾁｰﾙ製（ｽﾁｰﾙﾒｯｼｭ）		
	DP塗装		
ガ ラ ス	――		
改修内容	・下地調整のうえDP塗装に塗り替え（枠共）		

［飛散防止フィルム］
飛散飛散フィルムは内貼りとする。なお、透明ｶﾞﾗｽに貼るフィルムは遮熱機能を有するものとする。
※強化、網入り、線入りｶﾞﾗｽ面は施工対象外とする。

原図：Ａ２

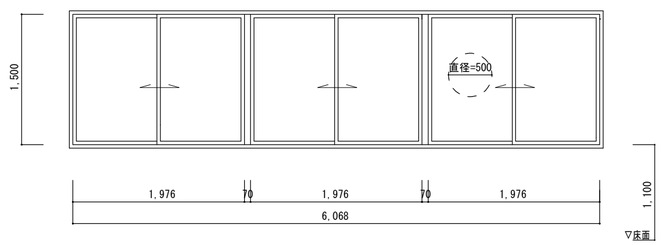
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			設 計 者	No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	建具表５	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779		一級建築士 第317991号 山本　覚康	A-49



特別教室棟（1階）建具配置図　S=1/100

開
▼ …… 消防法 有窓・無窓階の検討用開口部を示す

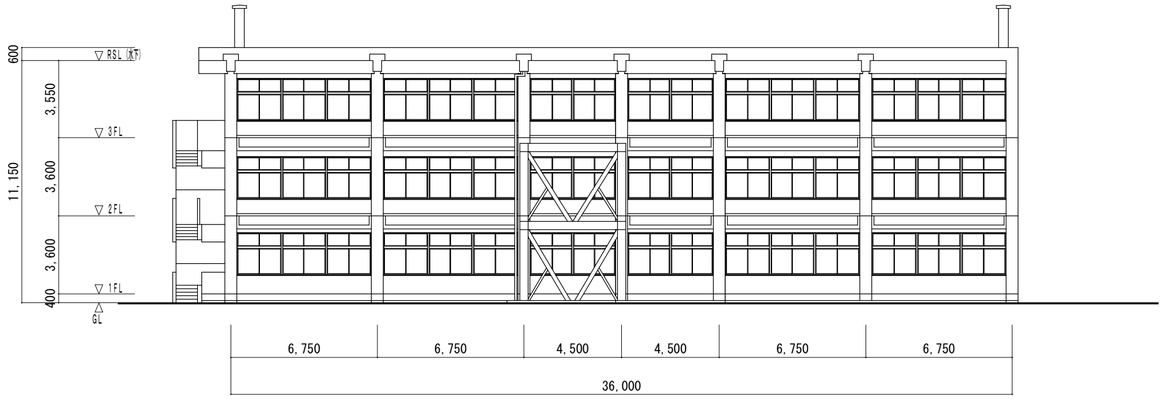
AW／16	1階 廊下	2ヶ所						



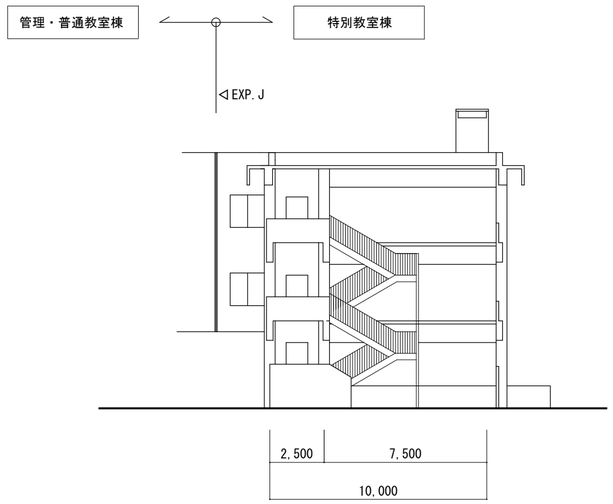
3連引き違い窓
ｱﾙﾐ製
ｱﾙﾏｲﾄ塗装
透明ｶﾞﾗｽ t=5

原図：A2

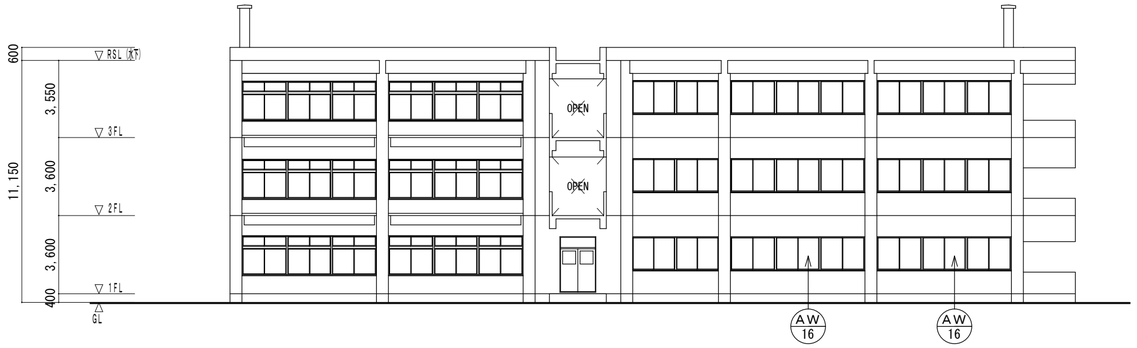
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE					No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特別教室棟（1階）建具配置図 建具表	A2	1/100 1/ 50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		A-50



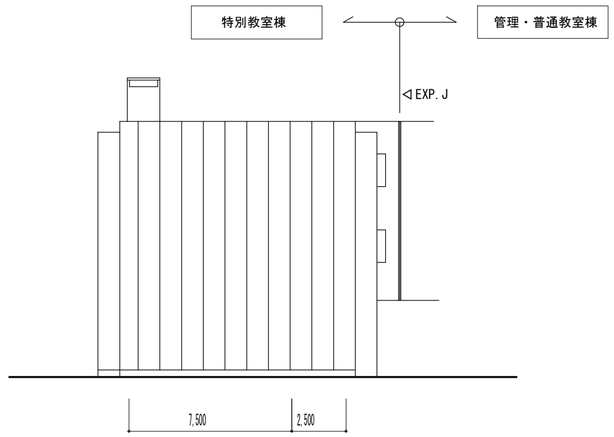
東立面図　S=1/200



南立面図　S=1/200



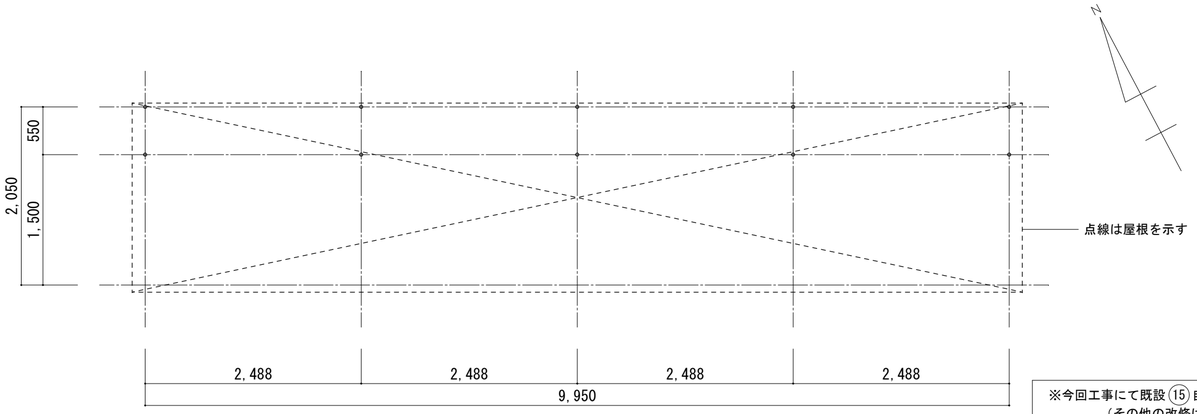
西立面図 S=1/200



北立面図　S=1/200

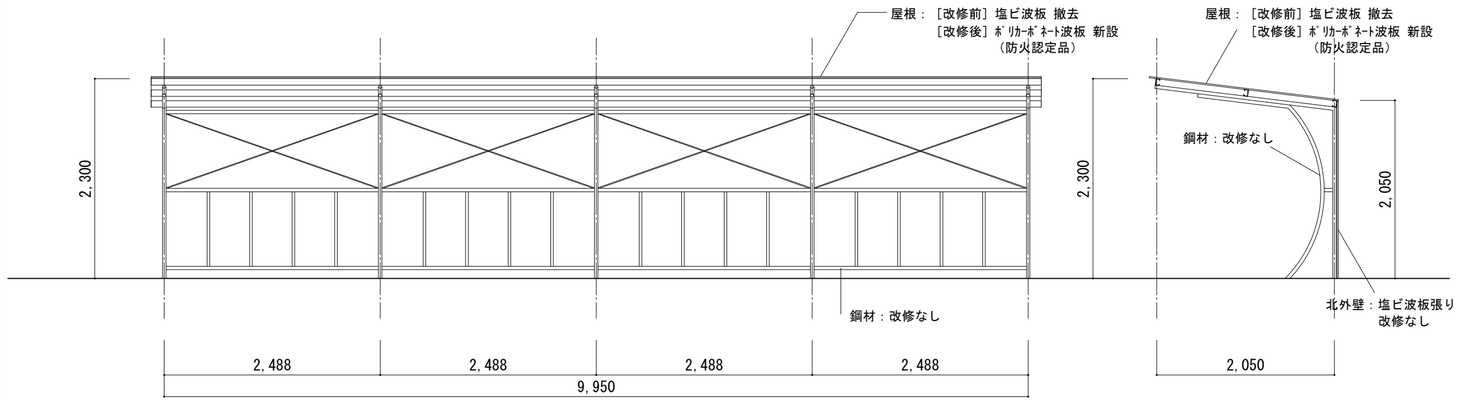
原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特別教室棟 立面図	A2　1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		No. A-50-2



※今回工事にて既設⑮自転車置場の屋根材のみ葺き替えを行う
（その他の改修は無し）

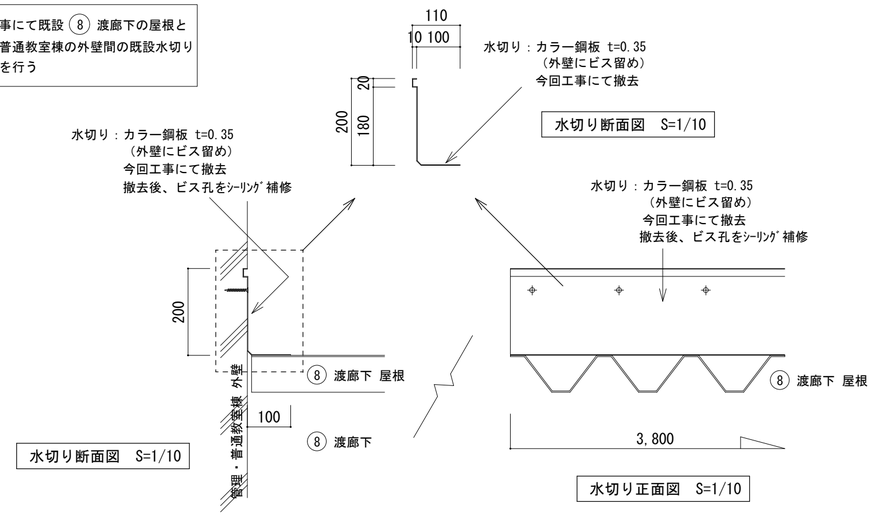
［改修前・後］⑮ 自転車置場 平面図 S=1/50

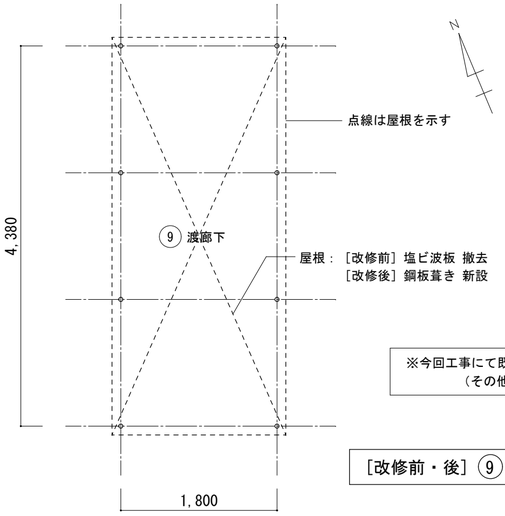


［改修前・後］⑮自転車置場 南立面図 S=1/50

［改修前・後］⑮自転車置場 東立面図 S=1/50

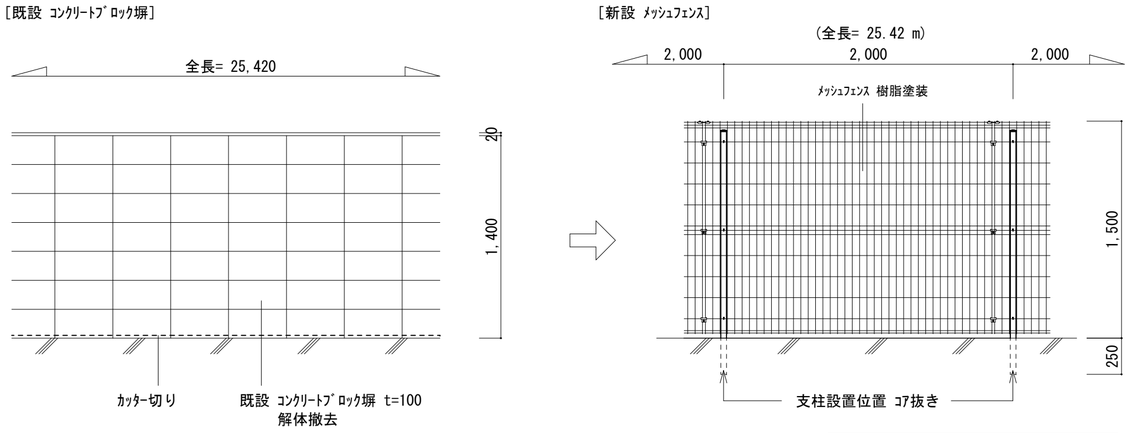
※今回工事にて既設⑧渡廊下の屋根と
管理・普通教室棟の外壁間の既設水切り
の撤去を行う





※今回工事にて既設⑨渡廊下の屋根材のみ葺き替えを行う
（その他の改修は無し）

［改修前・後］⑨ 渡廊下 平面図 S=1/50



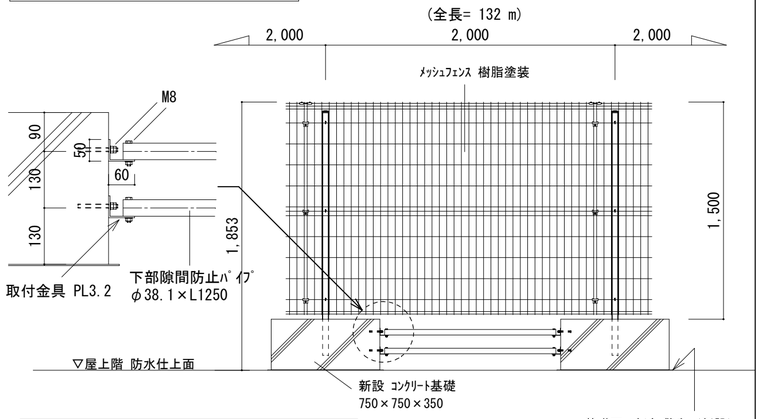
［改修前・後］ﾌﾟｰﾙ外周 立面図 S=1/30

（参考）

※今回工事にてﾌﾟｰﾙ外周の既設ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ塀
を解体し、同位置にﾒｯｼｭﾌｪﾝｽを新設する

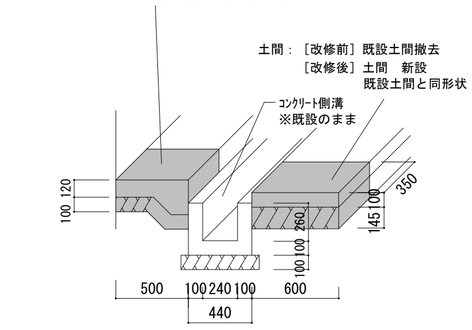
参考図

※今回工事にて屋上の既設ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽを撤去し
同位置にﾒｯｼｭﾌｪﾝｽを新設する



［改修後］ 屋上ﾌｪﾝｽ 立面図 S=1/30

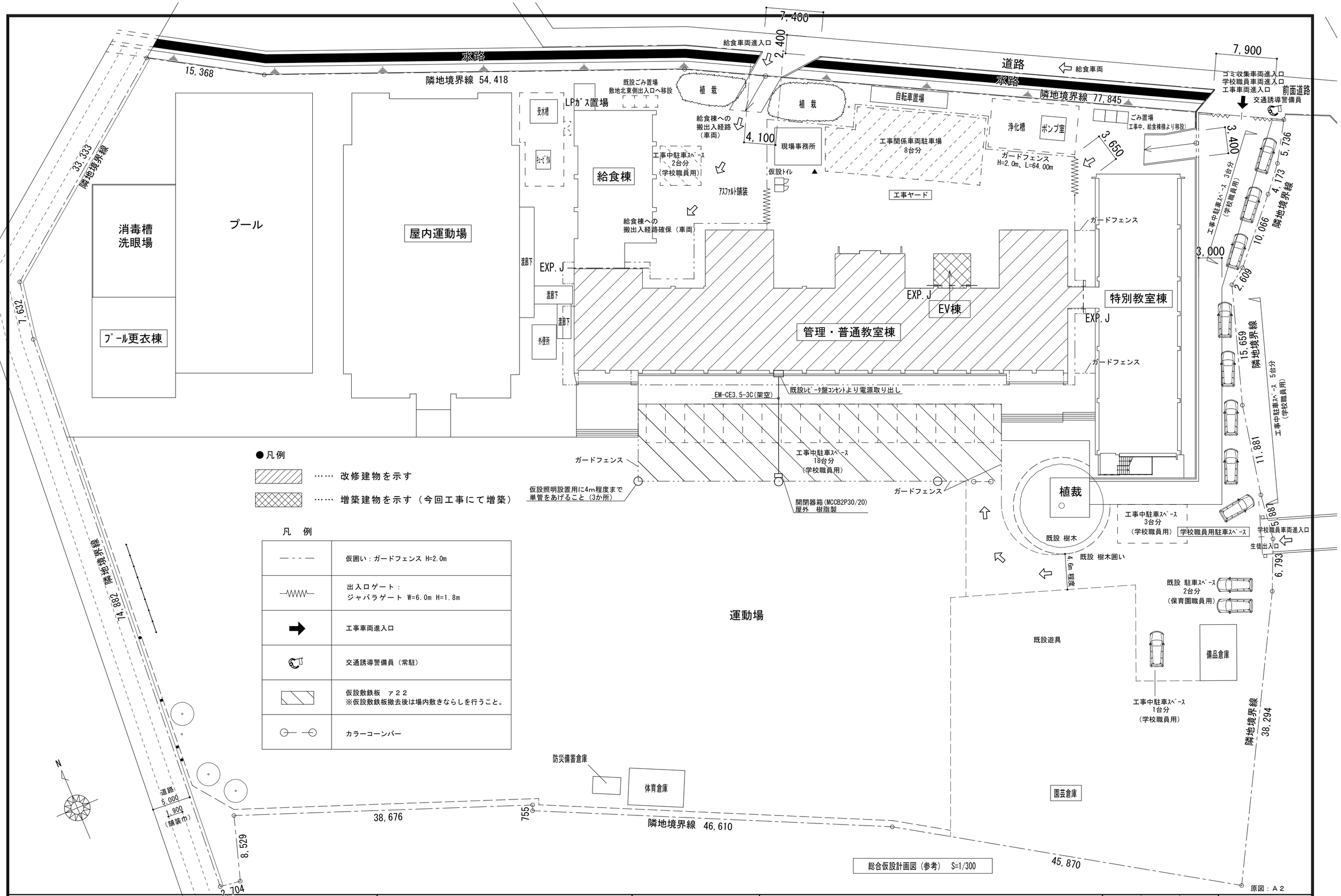
撤去範囲を示す



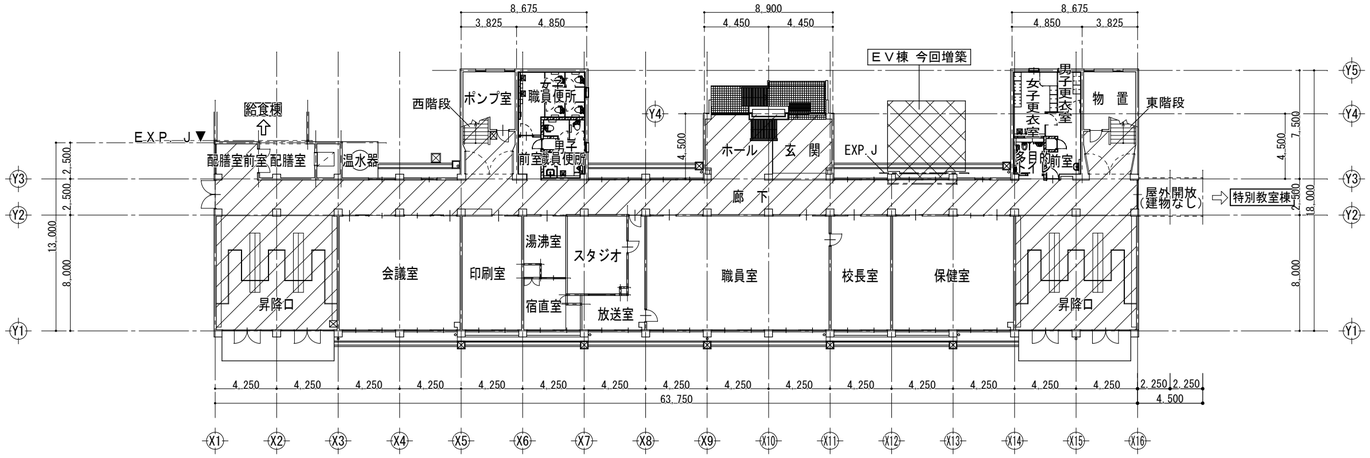
［改修前・後］給食棟 犬走り・土間 詳細図

原図：A2

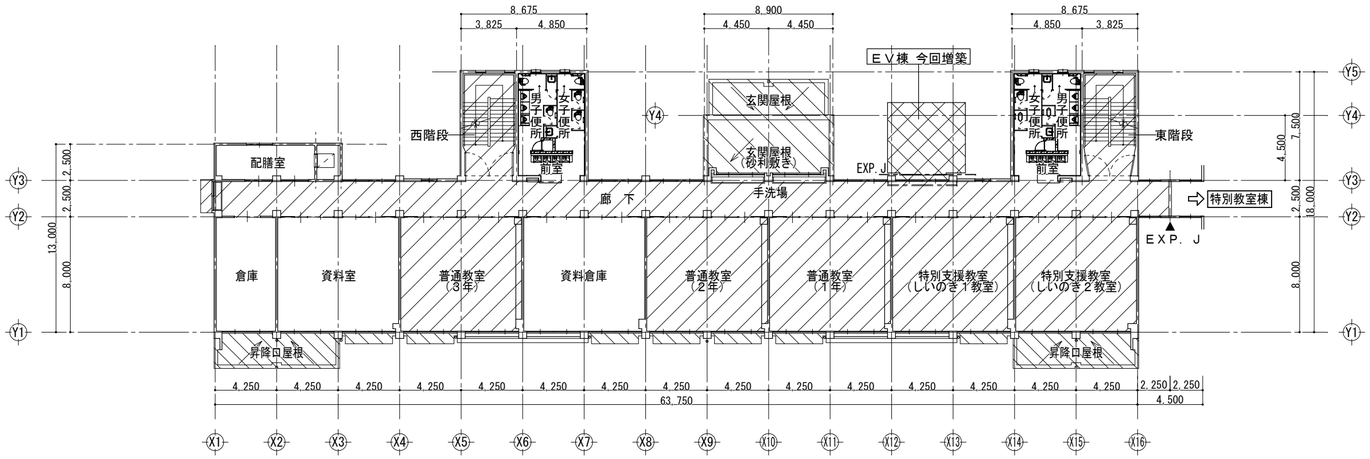
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE	設計者	No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	詳細図	A2 1/10 1/30 1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	一級建築士 第317991号 山本 覚康 / A-51



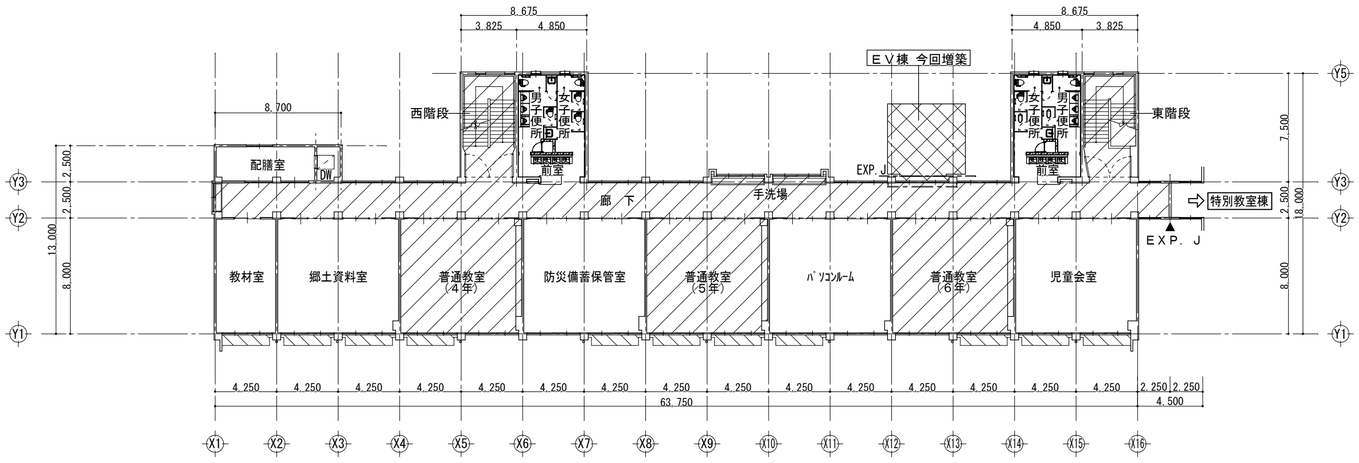
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	総合仮設計画図(参考)	A2 1/300	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康(一級建築士 第317991号) 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康		A-52



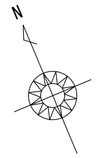
１階仮設計画図　S=1/300



２階仮設計画図　S=1/300



３階仮設計画図　S=1/300



凡　例	
	改修箇所を示す（内部塗装改修、建具改修）
	増築箇所を示す（ＥＶ棟増築）
	仮間仕切 （夏休みが明ける前に設置） 仮設間仕切りＢ種 仮設扉：アルミ製片開キパネルドア（南京錠付） W800　H2000

…… 改修箇所を示す（内部塗装改修、建具改修）

…… 増築箇所を示す（ＥＶ棟増築）

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE					No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	内部仮設計画図（参考）	A2　1/300	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康			A-52-2

工事特記仕様書

Ⅰ．工 事 名

津市立栗真小学校長寿命化改修工事

Ⅱ．工事概要

1． 工事場所	三重県津市栗真中山町452
2． 敷地面積	14,527.03 ㎡
3． 工事内容	
棟名称	昇降機棟
構 造	鉄骨造３階建
建築面積	27.723 ㎡
延べ面積	83.169 ㎡
工事項目	建築工事（昇降機室、多目的トイレ）、電気設備工事、機械設備工事

Ⅲ．建築工事仕様

1．共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、公共建築工事標準仕様書(「建築工事編」令和4年版)(以下「標準仕様書」)及び公共建築改修工事標準仕様書（「建築工事偏」令和4年版)による。

2．特記仕様

1)項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
2)特記事項は、○印の付いたものを適用する。
3)項目に記載の（ ）内番号は標準仕様書の当該項目、図又は表を示す。

章	項 目	特 記 事 項
① 一般共通事項	①適用基準等	本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準等を適用する。 １） 建築工事標準詳細図 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（令和4年版） ２） 建築物解体工事共通仕様書 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（令和4年版） ３） 津市木材利用方針
	②施工条件	施工方法及び検査に関する事項 ※ 工事契約後、速やかに調査及び施工計画書等を作成し、現場着手までに市監督員の承諾を得ること。 ※ 工事中の安全計画・消防計画等は、市監督員と十分協議し災害防止に努めること。 ※ 本工事における諸官庁への届出、手続き及び書類等は、速やかに提出し工事の遂行に影響の無いよう努めること。 ※ 工事期間中、近隣関係者等へ危害を与えないよう注意し、かつ周道路等に資材を落下させたり、ほこり等を飛散させないよう万全の注意を払うこと。 ※ 場外退出時、車両足廻りの洗浄等を行い、汚損等しないようにすること。 ※ 工事車両の出入りについては、安全確保に十分配慮すること。 ※ 大型車両通行時には誘導員を配置し、通行人及び敷地周辺の安全に十分配慮すること。 ※ 工事車両及び工事関係車両は、周辺道路に駐車しないこと。 ※ 工事着手前には、現況把握のために、破損箇所等があれば、市監督員立合いのもと写真に記録しておくこと。 ※ 工事期間中、工事に起因し、既存施設に破損等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに原状復旧するとともに市監督員に報告書を提出すること。 ※ 設計図書に明記なくとも機能上及び構造上当然必要と認められるもの並びに、取り合いのはつり補修復旧は本工事に含む。なお内訳書の数量は参考とし、当図面を優先する。 ※ 高所等の施工箇所で完成検査時に確認が困難な工事については、足場解体前に市検査課による随時検査（書類を含む）を受けること。また、当該検査の合格をもって足場解体を行うこと。
	③発生材の処理等（1.3.11）	・本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法律第104号。以下「建設リサイクル法」という。）施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。 工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。 ・分別解体等の方法

工程	作業の有無	分別解体等の方法
造成等	・有⊙無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用
基礎・基礎ぐい	・有⊙無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用
上部構造部分・外装	⊙有・無	・手作業 ⊙手作業、機械作業の併用
屋根	・有⊙無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用
建築設備・内装等	⊙有・無	・手作業 ⊙手作業、機械作業の併用
その他（ ）	・有⊙無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用

⊙ 引渡を要するもの （⊙無 ・ ）
・ 特別管理産業廃棄物 ・有（ ） 処理方法（ ）
・ 石綿含有成形板等解体時の留意点
1.手ばらし等、出来るだけ粉塵の発生しない方法で行うこと。
2.可能であれば湿潤状態（散水）として作業を進めること。
3.飛散されない様にすること。
4.保護具及び作業着を着用すること。
5.解体されたボード等は、蓋のある容器に入れること。
6.事前に使用箇所や状況の調査を行い記録すること。
⊙ 再資源化を図るもの ⊙コンクリート塊
⊙アスファルトコンクリート塊
・建設発生木材
・（ ）

引渡を要するもの、再資源化を図るものについては調書を作成し監督員へ提出すること。
引渡を要するもの以外のものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切に処理し、監督員にマニフェストA、B2、D票を提示すること。

④建設副産物情報交換システムの利用

受注者は工事着手前に「再生資源利用計画書」(建設資材の搬入がある場合）及び「再生資源利用促進計画書」(建設副産物の搬出がある場合）を作成し、施工計画書に含めて監督員へ写しを提出するとともに法令等に基づき、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。
また、工事完了後には「再生資源利用実施書」（建設資材の搬入があった場合）及び「再生資源利用促進実施書」（建設副産物の搬出があった場合）をすみやかに作成し、監督員へ写しを提出すること。
なお、各計画書及び実施書の作成等は、JACICが運営する「建設副産物情報交換システム」に登録のうえ、行うこと。

⑤三重県産業廃棄物税

本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。
なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表（マニフェストの数量の集計）を超えて請求することはできない。

⑥電気保安技術者（1.3.3）

⊙ 配置する

⑦技能士（1.5.2）

職種別に可能なものについては積極的に活用のこと

⑧建築材料等

1） 本工事に使用する木材は、津市公共建築物等木材利用方針に基づき、木材の利用に努めること。
2） 本工事に使用する建築材料のホルムアルデヒド放散量等は、Ｆ☆☆☆☆以上とする。

9.化学物質の濃度測定（1.5.9）

測定対象化学物質（●で示したものとする。）

適用	施設用途	ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ	ﾄﾙｴﾝ	ｷｼﾚﾝ	ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ	ｽﾁﾚﾝ	ﾊﾟﾗｼﾞｸﾛﾛﾍﾞﾝｾﾞﾝ
	学校.教育施設	●	●	●	●	●	●
	住宅	●	●	●	●	●	
	その他	●	●	●	●	●	

対象箇所（・図示(図面番号： ） ・（ ））
測定方法（・パッシブ法 ・アクティブ法 ）
測定時期 ・ （ ）
報告書提出部数 2部

⑩特別な材料の工法

標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。

⑪騒音・振動の防止

低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程に基づき指定された建設機械の使用に努めること。

⑫工事写真（1.2.4）

営繕工事写真撮影要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（最新版））に従い撮影する。
提出部数１部 用紙は上質紙とする。
なお、デジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について（令和5年3月1日付け国営建技第14号）」による。

⑬完成図等（1.7.1）（1.7.2）（1.7.3）

⊙ 作成する （⊙ 完成図 ・ 保全に関する資料 ・（ ））
⊙ 完成図作図範囲（設計図を訂正）
完成図はCADにより作成することとし、著作権（著作権法第２７条及び第２８条に規定する権利を含む）は発注者に移譲するものとする。また、製本２部（図面サイズについては監督員と協議による。）により提出すること。

⑭完成写真

⊙ デジタルカメラで撮影し、全てＬ版相当サイズで印刷する。
（Ａ４版用紙に１ページあたり３枚） １部
箇所数は外観４面各室２面程度とし、規定の箇所数が確保できない場合や枚数が多大になる場合には、監督員と協議すること。
写真は、着工前・施工中・完成を同一場所から、黒板なしで撮影すること。

⑮設備工事との取合い

施工範囲
⊙図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の補強
⊙図示した壁、天井の仕上材、下地材の切り込み及び補強
⊙駆動装置又は電動建具等の2次側配管配線及び操作スイッチ
施工図
⊙設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受けること。

⑯設計GL

・ 図示（図面番号：AEV-18, AEV-19 ）

⑰養生その他

工事施工に際し既存部分を汚損又は損傷した場合は、構造・仕上げ共、既存にならい補修すること。

⑱事故の発生時

工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により事故発生報告書を監督員が指示する期日までに監督員に提出すること。
また、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。

⑲消防法関係の手続き

1） 消火器に係る消防法用設備等設置届出書の作成
⊙本工事 （⊙建築工事 ⊙電気設備工事 ⊙機械設備工事）
・別途工事
２）防火対象物使用開始届出書
書類の作成（建築図面の作成及び建築に関する部分の記入）を行うこと。

⑳労働安全衛生法に基づく労働災害防止措置

労働安全衛生法第30条第1項に規定する措置を講ずる必要がある場合、その措置を講ずべき者として、同法第30条第2項の規定に基づき、本工事の受注者を指名する。この場合における指名への同意は、本工事の請負契約を締結することにより得られたものとみなす。

㉑不正軽油の使用の禁止

1）一般事項
工事現場で使用し、又は使用させる車両（資機材等の搬出入車両を含む。）資機材等の搬出入車両を含む。）並びに建設機械等の燃料として、不正軽油(地方税法第144条の32(製造等の承認を受ける義務等)の規定に違反する燃料をいう。)を使用してはならない。
2)調査の協力
受注者は、市が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また受注者は、下請負者等に同調査に協力するよう管理及び監督しなければならない。
3)是正措置
受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。また、受注者は下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じるよう管理及び監督しなければならない。

22.屋外広告物

屋外広告物を設置する場合は「三重県屋外広告物条例」第23条に規定する屋外広告業の登録事業者であること。

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE					No.
津 市 立 栗 真 小 学 校 長 寿 命 化 改 修 工 事	特記仕様書（新営） 1	A2	――	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康		AEV-01

② 仮設工事

1.監督員事務所 (2.3.1)

・設置する。

監督員事務所の規模（単位：㎡）

適用					
規模	10程度	20程度	35程度	65程度	100程度

2.監督員事務所の設備・備品 (2.3.1)

種類	机・いす	書棚	黒板・白板	掛時計	温度計
数量	組	台	個	個	個
種類	長靴	雨合羽	保護帽	懐中電灯	衣類ロッカー
数量	足	着	個	個	台
種類	消火器	掃除具	受注者加入電話・FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	冷暖房機器
数量	個	個	台	台	台

監督員職員事務所の仕上げ

部位等	仕上げ
床	合板張り又はビニル床シート張り
内壁・天井	合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルション塗り
屋根	溶融亜鉛めっき鋼板又は鉄板張り、調合ペイント塗り

3.仮設便所　構内既存の施設　・利用できる　(・)利用できない

4.工事用水　構内既存の施設
(・)利用できる（・有償　(・)無償）　・利用できない

5.工事用電力　構内既存の施設
(・)利用できる（・有償　(・)無償）　・利用できない
本工事で新規受電または既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は本工事に含まれる。

6.足場　内部足場の種別（参考）(・)脚立　・棚足場　(・)(ｼｬﾌﾄ内足場)
外部足場の種別（参考）(・)手摺先行据置枠組本足場
・その他（　）
防護シート等による養生　(・)適用する　・適用しない

設置する足場については、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月）」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の２の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

(・)足場（つり足場、張出し足場又は高さが１０ｍ以上の足場で、組立から解体までの期間が６０日以上のものに限る）の組立て後、市監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。

１）足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第１９条の２に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者
２）労働安全衛生法第８１条に規定する労働安全コンサルタント（区分が土木又は建築である者）や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等法第８８条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参画者」に必要な資格を有する者
３）全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記１）又は２）に掲げる者と同等の知識・経験を有する者

7.交通誘導警備員　配置　(・)図示(図面番号：A-52　)

③ 土工事

1.埋戻し及び盛土 (3.2.3)(表3.2.1)　種別　・A種　(・)B種　・C種　・D種

2.建設発生土の処理 (3.2.5)
・処分地指定　処分地（　）
(・)処分地未定につき相互協議する。
暫定運搬距離　・8km　(・)4km　・（　）km

3.山留めの撤去 (3.3.3)　鋼矢板等の抜き跡の処理　・砂充填　・（　）
山留め壁等　・撤去　・存置

④ 地業工事

1.杭の施工管理　杭工事特記仕様書による。

2.適用基準　本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準を適用する。国土交通省告示第468号　「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」（平成28年3月4日）

3.施工記録　受注者は、杭の施工期間中は、１週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録を取りまとめ、翌週以内に監督員に、工事打合せ簿を添付したうえで提出し、確認を受けること。また電流値が記録されたチャート紙等の原本を合わせて提示し、必ず監督員の確認を受けること。
なお、取得すべき施工記録が取得できない場合に、当該施工記録に代替する記録を確保するための手法については、施工計画書に明記しておくこと。

4.根拠資料　特記仕様書及びその他基準書等の定めにより作成した施工管理資料の根拠となる資料（施工記録の原本、チャート紙、電子的な記録やプリントアウト紙等）は、受注者において全て適切に管理し、保管しなければならない。保管期間は契約書第３１条第４項又は第５項（第３８条においてこれらの規定を準用する場合を含む。）の規定による引渡しを受けた日から１０年とする。
また、発注者から請求があった場合は、速やかにこれらを提出または提示しなければならない。

5.試験杭及び試験掘 (4.2.2)
・試験杭　位置、本数及び寸法　図示（図面番号：　）
・試験掘　位置、本数及び寸法　図示（図面番号：　）

6.支持層　支持層の位置、土質　(・)図示（図面番号：S-9　）　・（　）

7.水平方向の位置ずれ (4.3.4)(4.5.5)　（　）mm以下

8.杭の載荷試験 (4.2.3)
試験方法　・鉛直載荷　・水平載荷　・（　）
試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。
位置、本数　・図示（図面番号：　）　載荷荷重　（　kN）
報告書　・提出部数　2部

9.地盤の載荷試験 (4.2.4)
試験方法　・平板載荷　・（　）
試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。
位置　・図示（図面番号：　）　載荷荷重　（　kN）
報告書　・提出部数　2部

10.既製ｺﾝｸﾘｰﾄ杭 (4.3.1)(表4.3.1)(4.3.3)(4.3.4)(4.3.5)(4.3.6)(4.3.8)
・PHC杭
・A種　・B種　・C種
・SC杭
・PRC杭
・上記以外の建築基準法に基づく杭
（参考表）

種別	杭径(mm)	杭長	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考

先端形状　・開放型　・閉そく型
施工方法
・セメントミルク工法
・オーガーの支持層への掘削深さ
・（　）m　・図示（図面番号：　）
・杭の支持層への根入れ深さ
・（　）m　・図示（図面番号：　）
・根固め液及び杭周固定液の管理試験
・標準仕様書[4.3.4(6)(ｺ)]　・（　）
・特定埋込杭工法
・杭の根入れ深さ
・（　）m　・図示（図面番号：　）
継手　・アーク溶接　・無溶接継手（工法：　）
杭頭の処理　・行う　・行わない

11.鋼杭地業 (4.4.3)(4.4.4)(4.4.5)(4.4.6)(4.3.5)(4.3.8)(7.2.5)
(・)鋼管杭　・SKK400　・SKK490　(・)STKT590,STK490
・H形鋼杭　・SHK400　・SHK490M
径　・φ300　・φ350　・φ400　・φ450　(・)φ(267.4)
長さ　(20.0)m
継手の工法　・現場溶接　(・)機械式継手
溶接材料　・標準仕様書[7.2.5](1)(2)以外（　）
・特定埋込杭工法
・杭の根入れ深さ　・（　）m　(・)図示（図面番号：S-10　）
杭頭処理の方法　・ガス切断　・（　）

12.場所打ちコンクリート杭地業 (4.5.1)(4.5.4)(4.5.5)(4.5.6)(表4.5.1)
施工方法
・アースドリル工法
・リバース工法
・オールケーシング工法
・鋼管コンクリート杭工法
拡底　・行わない　・行う（　）
杭の根入れ深さ
・（　）m　・図示（図面番号：　）
孔壁の超音波測定　・行う　・行わない
帯筋の加工及び組立　・図示（図面番号：　）
鉄筋の最小かぶり厚さ　（　）mm
鉄筋かごの補強
・図示（図面番号：　）
継手　・重ね継手　・（　）
コンクリートの種別　・A種　・B種
設計基準強度　（　）N/mm²
セメントの種類　・高炉セメントB種　・（　）
スランプ（cm）　・18　・（　）
構造体強度補正値（S）・３N/mm²　・（　）

13.地盤改良　・（　）工法
・六価クロム溶出試験
・室内配合試験
・一軸圧縮試験

14.砂及び砂利地業 (4.6.2)(4.6.3)
砂利
(・)再生クラッシャラン　・切込砂利　・切込砕石　・（　）
砂
・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂　・（　）
施工範囲　(・)図示（図面番号：S-10、AEV-19、20 ）
厚さ(mm)　・60　(・)（100、150　）
・仕上がりレベルを計測し、記録すること。

15.捨コンクリート地業 (4.6.4)
厚さ(mm)　(・)50　・（　）
施工範囲　(・)図示（図面番号：S-10、AEV-19、20 ）
(・)仕上がりレベルを計測し、記録すること。

16.床下防湿層 (4.6.2)(4.6.5)
施工範囲　(・)図示（図面番号：AEV-19、20 ）
ポリエチレンフィルム厚さ　(・)0.15mm以上　・（　）
(・)防湿層の重ね幅、基礎梁へのめり込みは、250mm以上とする。

⑤ 鉄筋工事

1.鉄筋の種類 (5.2.1)(表5.2.1)

種類の記号	径	備考
(・)SD295A	(・)D16以下	
(・)SD345	(・)D19以上	

(・)建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたもの

2.溶接金網 (5.2.2)
網目の形状、寸法
鉄線の径（mm）　・4　・5　(・)6　・（　）
寸法(mm)　・100×100　(・)150×150　・（　）

3.内法直径 (5.3.2)　90°未満の折曲げの内法直径　(・)図示（図面番号：S-2,S-3 ）

4.継手 (5.3.4)(表5.3.2)(表5.3.3)

	径	部位
(・)重ね継手	(・)D16以下	
(・)ガス圧接	(・)D19以上	

主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ
・標準仕様書[5.3.4](3)(ｱ)　(・)図示（図面番号：S-2,S-3　）
継手位置
・各部配筋参考図による　(・)図示（図面番号：S-2,S-3　）
鉄筋定着
・標準仕様書[表5.3.4]　(・)図示（図面番号:S-2,S-3）
・標準仕様書[図5.3.3]　(・)図示（図面番号:S-2,S-3）

5.鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (5.3.5)(表5.3.6)
鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ
・標準仕様書[表5.3.6]　(・)図示（図面番号:S-2,S-3）

6.各部配筋 (5.3.7)　(・)図示(図面番号：S-2,S-3　)

7.圧接完了後の試験 (5.4.10)
抜取試験方法　(・)超音波探傷試験　・引張試験
引張試験方法　(・)標準仕様書[5.4.10](ｲ)(b)　・（　）

8.機械式継手及び溶接継手 (5.5.3)(5.5.5)(5.6.3)(5.6.5)
・機械式継手　適用箇所（　）
種類（　）　性能（　）
施工完了後の継手部の試験（　）
不合格となった継手部への措置（　）
鉄筋相互のあき（　）mm
・溶接継手　適用箇所（　）
工法（　）　性能（　）
施工完了後の溶接部の試験（　）
不合格となった溶接部への措置（　）
鉄筋相互のあき（　）mm

原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書（新営）2	A2	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士第317991号 山本 覚康	No. AEV-02

⑥ コンクリート工事

①コンクリートの使用骨材による種類及び強度
(6.2.1)
(6.2.2)
(6.2.4)
(6.10.1)
(6.10.2)
(6.10.3)
(6.11.1)
(6.11.3)
(表6.2.2)
(表6.10.1)

普通コンクリートの設計基準強度

設計基準強度 Fc	適 用 箇 所	施工時期	スランプ
⊙ 21(N/mm²)	基礎・ﾃﾞｯｷｽﾗﾌﾞ・ｽﾗﾌﾞ		⊙ 18(cm)
⊙ 21(N/mm²)	土間		⊙ 18(cm)
⊙ 18(N/mm²)	捨てｺﾝｸﾘｰﾄ		⊙ 15(cm)

軽量コンクリートの設計基準強度

設計基準強度 Fc	適用箇所	種類	気乾単位容積質量	スランプ
・ (N/mm²)			・ t/m³	・ (cm)
・				
・				

・ 常時土又は水に直接接する部分　図示（図面番号：　　）

②コンクリートの類別(6.2.1)
(表6.2.1)

類別　⊙ Ⅰ類　・ Ⅱ類
・ 大臣認定品　図示（図面番号：　　）

③コンクリートの仕上り
(6.2.5)
(表6.2.4)
(表6.2.5)

合板せき板を用いる場合の打放し仕上げの種別
・ A種　⊙ B種　・ C種
仕上りの平たんさ
・ a種　・ b種　⊙ c種

④セメント
(6.3.1)
(表6.3.1)

種類　⊙ 普通ポルトランドセメント、混合セメントA種
・（　　）
高炉セメントB種又はフライアッシュセメントB種
・ 適用箇所　図示（図面番号：　　）

⑤骨材
(6.3.1)

アルカリシリカ反応性による区分
⊙ A
・ B

・ 特殊な骨材の使用
・ フェロニッケルスラグ細骨材
・ 銅スラグ細骨材
・ 電気炉酸化スラグ骨材
・ 再生骨材H

⑥コンクリートの材料 (6.3.1)
(6.3.1)
(表6.3.2)

混和材料　・図示（図面番号：　　）
混和剤の種類、使用方法、使用量
⊙ 標準仕様書 [6.3.1] (4)(a)、標準仕様書 [6.3.2] (ｲ)(f)
・（　　）
混和材の種類、使用方法、使用量
・ 標準仕様書 [6.3.1] (4)(b)、標準仕様書 [6.3.2] (ｲ)(f)
・（　　）
構造体強度補正値（S）　・標準仕様書[表6.3.2]　・（　　）

⑦打継ぎ
(6.6.4)

位置　⊙標準仕様書 [6.6.4] (1)　・図示（図面番号：　　）

8.養生
(6.7.2)

・普通エコセメント使用の場合の湿潤養生期間　（　　）日以上

⑨型枠
(6.6.4)
(6.8.1)
(6.8.2)
(表6.8.1)

材料　⊙複合合板　(厚さ(mm)　⊙ 12　・（　　））
打増し厚さ　⊙ 図示(図面番号：　S-10　)
誘発目地、打継ぎ目地、化粧目地の位置、形状及び寸法
・ 図示(図面番号：　　)
・ 断熱材の兼用
・ ＭＣＲ工法用シート
スリーブの材種、規格等
・ 鋼管　・ 硬質ポリ塩化ビニル管　・ 溶融亜鉛めっき鋼板
・ つば付き鋼管　・ 図示（図面番号：　　）

(6.8.4)

型枠存置期間及び取外し
・普通エコセメント使用の場合の最小存置期間　（　　）日

⑩寒中コンクリート (6.11.1)

適用期間(　　)
⊙ 構造体強度補正値(S)は積算温度を基に定める

⑪暑中コンクリート(6.12.2)

構造体強度補正値(S)
⊙ 6　N/mm²　・（　　）

12.マスコンクリート
(6.13.1)
(6.13.2)
(表6.13.1)

適用箇所　・ 図示（図面番号：　　）
セメントの種類　・ 普通ポルトランドセメント
・ 中庸熱ポルトランドセメント
・ 低熱ポルトランドセメント
・ 高炉セメントB種
・ フライアッシュセメントB種
・ シリカセメント
スランプ　・ 15cm　・（　　）
混和剤の種類　・ 標準仕様書[6.13.2](2)(ｱ)　・（　　）
混和材の種類　・ 標準仕様書[6.13.2](2)(ｲ)　・（　　）
構造体強度補正値（S）　・標準仕様書[表16.3.1]　・（　　）

13.無筋コンクリート
(6.14.1)

コンクリートの種類　・普通コンクリート　・（　　）
適用箇所　標準仕様書[6.14.1]
・ (ｱ) ・ (ｲ) ・ (ｳ) ・ (ｴ) ・ (ｵ) ・ (ｶ)
・ 上記以外の適用箇所（　　）
設計基準強度　・ 18(N/mm²)　・（　　）(N/mm²)
スランプ　・ 15cm　・ 18cm

14.流動化コンクリート
(6.15.1)

適用箇所
・ 図示(図面番号：　　)

⑦ 鉄骨工事

①施工管理技術者 (7.1.4)

⊙ 配置する

②製作工場
(7.1.3)

（株）日本鉄骨評価センター又は（株）全国鉄骨評価機構の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定めるグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
・J　⊙R　・M　・H　・S

③鋼材
(7.2.1)
(表7.2.1)

種類、形状及び寸法　⊙ 図示（図面番号：S-10、11, 12）

④高力ボルト
(7.2.2)
(7.3.2)
(7.4.2)
(7.4.7)

種類
⊙ トルシア形高力ボルト(S10T)
・ JIS形高力ボルト2種(F10T)
・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト1種(F8T相当)
・（　　）
高力ボルトのねじの呼び
⊙ 図示（図面番号：S-12　）
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
⊙ 図示（図面番号：S-4　）
すべり試験の試験方法　・（　　）
JIS形、ナット回転法かつボルト長がねじの呼びの5倍を超える場合
・ 回転量（　　）°

5.普通ボルト
(7.2.3)
(表7.2.3)
(7.3.2)

ボルト及びナットの材料等、ボルトのねじの呼び
・ 図示(図面番号：　　)
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・ 図示(図面番号：　　)

6.溶融亜鉛めっき高力ボルト
(7.3.2)
(7.4.2)
(7.12.5)

摩擦面の処理
・ ブラスト処理(表面粗度50μmRz以上)
・ りん酸塩処理
すべり試験の試験方法　・（　　）
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・図示(図面番号：　　)

⑦ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ
(7.2.4)
(7.3.2)
(7.10.3)
(表7.10.1)
(表7.2.3)

種類
構造用　・ABR400B　⊙（ SD490 ）
建方用　・SS400　・（　　）
建方用アンカーボルトの保持及び埋込み
・ A種　・ B種
アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
⊙ 標準仕様書[表7.2.3]
・ 図示（図面番号：　　）
構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状、寸法
⊙ 図示（図面番号：S-6　）
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
⊙ 図示（図面番号：　S-4　）

⑧溶接材料
(7.2.5)

材料
⊙ 標準仕様書[7.2.5](1)(2)以外の溶接材料　（　　）

⑨ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ
(7.2.6)

種類及びねじの呼び等
⊙ 図示（図面番号：S-12　）
建築用ターンバックル胴　・割枠式　・（　　）
建築用ターンバックルボルト　⊙羽子板ボルト　・（　　）

⑩ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ
(7.2.7)
(7.2.8)

材質、形状及び寸法　⊙ 図示(図面番号：　S-7　)
溶接方法　⊙ 図示(図面番号：　S-7　)

11.ｽﾀｯﾄﾞ
(7.2.8)

種類等　・ 図示(図面番号：　　)

⑫柱底均しモルタル
(7.2.9)
(7.10.3)
(表7.10.2)

柱底均しモルタルの工法、厚み
⊙ A種 (30)mm　・ B種 (　)mm
無収縮モルタルの材料及び調合
⊙ 標準仕様書[7.2.9](2)　・（　　）

13.材料試験等
(7.2.10)

板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験
・ JIS G 0901により行う

⑭ﾎﾞﾙﾄの孔径
(7.3.8)

普通ボルトの孔径（母屋又は胴縁の取付け）
⊙ねじの呼び径±1.0mm　・（　　）

⑮仮組
(7.3.10)

⊙ 行わない　・ 行う
仮組を行う範囲　・ 図示（図面番号：　　）

⑯溶接作業における技能資格者
(7.6.3)

溶接作業の技量付加試験
⊙ 行わない　・ 行う

⑰溶接部の開先
(7.6.4)

開先の形状
⊙ 図示(図面番号：S-4　)

⑱溶接施工
(7.6.7)

鋼製エンドタブの切除
⊙ 適用及び切断範囲　図示（図面番号：　S-4　）
切断面の仕上げ
⊙標準仕様書[7.6.7(1)(ｶ)(b)]　・図示（図面番号：　　）

鋼製エンドタブに代わるその他の工法
鋼製エンドタブに代わるその他の工法については、代替エンドタブ（セラミックタブ又はフラックスタブ）を用いたものとし、工法の採用にあたっては、以下の項目の両方を満足することを条件とし、監督員の承諾を受けること。
1. 相当数の代替エンドタブによる溶接を行ったことがある工場の製作であること。
2. 製作工場がJ、R、Mグレードの場合は、溶接技能者がNPO法人日本エンドタブ協会による固形タブに係るエンドタブ施工講習終了者（溶接技能者・A級以上）、又はAW検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とすること。また、製作工場がH、Sグレードの場合は溶接技能者がAW検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とすること。
板厚が異なる場合の突合せ継手溶接部
・低応力高サイクル疲労を受ける部位　図示（図面番号：　　）
スカラップの形状　⊙ 図示(図面番号：S-4　)

⑲溶接部の試験
(7.6.12)

試験の種別
⊙ 超音波探傷試験　・（　　）

溶接区分	AOQL(%)	検査水準	備　考
現場溶接			⊙全数試験
工場溶接	・ 2.5 ⊙ 4.0	⊙ 6	

⑳錆止め塗装
(7.8.2)
(7.8.4)

耐火被覆材の接着する面への塗装
塗装範囲　図示（図面番号：　　）
種別
⊙ 標準仕様書[18.3.2]、[表18.3.1]　（ A ）種
・ 標準仕様書[18.3.2]、[表18.3.2]　（　　）種

耐火被覆材の接着する面以外への塗装
塗装範囲　図示（図面番号：　　）
鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造の鋼製ｽﾘｰﾌﾞの内面(鉄骨に溶接されたものに限る)
・ 標準仕様書[18.3.2]、[表18.3.1]　（　　）種

㉑耐火被覆
(7.9.2)
(7.9.3)

部位	種類	材料	工法	耐火性能
柱・梁	耐火被覆	ﾛｯｸｳｰﾙ	吹付	60分耐火

㉒軽量形鋼
(7.11.2)

接合部（ボルト接合の場合）
⊙ 普通ボルト接合　・（　　）

⑧ コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板

1.補強コンクリートブロック造
(8.2.2)
(8.2.3)
(8.2.5)
(8.2.7)
(8.2.8)
(表8.2.1)

種類　・ 空洞ブロック16
・ 図示(図面番号：　　)
正味厚さ、モデュール呼び寸法
・ 図示(図面番号：　　)
各部の配筋　・ 図示(図面番号：　　)
目地仕上げ　・ 押し目地　・ 化粧目地
モルタルの調合　・ 標準仕様書[8.2.3]　・（　　）
モルタル又はコンクリートの充填範囲　・ 図示(図面番号：　　)

2.コンクリートブロック帳壁及び塀
(8.3.2)
(8.3.3)
(8.3.4)
(8.3.7)
(表8.3.1)

ブロックの種類　・ 標準仕様書[表8.3.1]
・ 図示(図面番号：　　)
正味厚さ、モデュール呼び寸法、ブロックの厚さ
・ 図示(図面番号：　　)
モルタルの調合　・ 標準仕様書[8.2.3]　・（　　）
化粧　・ 有り　・ 無し
塀の厚さ　H≦2.0m　・ 120mm　・（　　）
H＞2.0m　・ 150mm　・（　　）
各部の配筋　・ 図示(図面番号：　　)
モルタル又はコンクリートの充填範囲
・ 図示(図面番号：　　)

3.ALCパネル
(8.4.2)
(8.4.3)
(8.4.4)
(表8.4.2)
(8.4.5)
(表8.4.3)

区分	単位荷重(N/mm²)	呼び寸法 厚さ(mm)	呼び寸法 幅(mm)	呼び寸法 長さ(mm)	構法	耐火性能
⊙外壁パネル	・（ ）	・100 ⊙（125）	・（ ）	・（ ）	⊙A種 ・B種	⊙（1）時間 ・ 無し
⊙間仕切壁パネル	・（ ）	・100 ⊙（125）	・（ ）	・（ ）	⊙C種 ・E種 ・D種	⊙（1）時間 ・ 無し
・屋根パネル	・（ ）	・100 ・（　）	・（ ）	・（ ）	・F種	・（ ）時間 ・ 無し
・床パネル	・（ ）	・100 ・120 ・150	・（ ）	・（ ）	・F種	・（ ）時間 ・ 無し

パネル幅を300mm以下とする部分　・ 適用あり
外壁、屋根及び床パネル構法
風圧力に対応した工法　・ 適用あり
パネル短編小口相互の伸縮目地幅(mm)　・（　　）
出隅、入隅等の取合い部の伸縮目地幅(mm)　・（　　）
伸縮目地への耐火目地材の充填　⊙ 適用する（材料：　　）

4.押出成形セメント板
(8.5.2)
(8.5.3)
(8.5.4)
(表8.5.1)
(8.5.5)
(表8.5.2)

種類	表面形状及び原料区分	板厚(mm)	働き幅(mm)	工法
・外壁パネル	・ フラットパネル ・ デザインパネル ・ タイルベースパネル	・（ ）	・（ ）	・ A種 ・ B種
・間仕切壁パネル	・ フラットパネル ・ デザインパネル ・ タイルベースパネル	・（ ）	・（ ）	・ B種 ・ C種

パネル幅を300mm以下とする部分　・ 適用あり
パネル相互の目地幅 (mm)
・ 長辺 8以上、短辺 15以上　・（　　）
出隅、入隅の接合部の伸縮調整目地幅 (mm)　・ 15　・（　　）
目地及び隙間の処理　・（　　）
外壁パネル構法
風圧力に対応した工法　・適用あり
間仕切壁パネル構法
パネルに欠き込みを行う場合
・パネル開口の限度　・図示（図面番号：　　）

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所	設計者	No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書（新営）3	A2	管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	一級建築士 第317991号 山本 覚康	AEV-03

⑨ 防水工事

1.アスファルト防水
(表9.2.3)
～(表9.2.8)
(9.2.2)
(9.2.3)

種　別	施　工　箇　所

改質アスファルトルーフィングシート

厚さ　・標準仕様書[表9.2.3] ～[表9.2.8]　・図示（　　）
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート
種類　・標準仕様書[表9.2.5] ～[表9.2.8]　・図示（　　）
厚さ　・標準仕様書[表9.2.5] ～[表9.2.8]　・図示（　　）
絶縁用シート
・ ポリエチレンフィルム（厚さ　0.15mm以上）
・ フラットヤーンクロス（70g/㎡）
押え金物
・ アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm)　・図示（図面番号：　　）
断熱材
・ 屋根保護防水断熱工法
厚さ　（　　）mm
・ 屋根露出防水断熱工法
種類　（　　）　厚さ　（　　）mm
(表9.2.3)
屋根保護防水
～(表9.2.6)
立上り部の保護工法　・ 図示(図面番号：　　)
乾式保護材　・ 使用する
立上り部保護れんが　・ JIS R 1250　・（　　）
(表9.2.8)
断熱工法における立上り部への断熱材及び絶縁ｼｰﾄ　・設置する
(表9.2.7)
脱気装置
(表9.2.8)
・ 設置数量　図示(図面番号：　　)　種類（　　）
(表9.2.7)
屋根露出防水における仕上塗料
(表9.2.8)
・ 図示(図面番号：　　)　種類（　　）　使用量（　　）
(表9.2.9)
屋内防水密着工法における保護層
・図示（図面番号：　　）
E-1の工程3　・行う　・行わない
(9.2.4)
防水層の下地モルタル塗り
・図示（図面番号：　　）
立上りのコンクリート打放し仕上げの種別
種別　・B種　・（　　）
屋根露出防水絶縁断熱工法
ルーフドレン回り及び立上り部周辺断熱材の張りじまい位置
・ 図示(図面番号：　　)
(9.2.5)
保護コンクリートの厚さ
こて仕上げ　・ 水下 80mm以上　・（　　）
床タイル張り　・ 水下 60mm以上　・（　　）
立上り部の保護方法
・乾式保護材　・れんが押え　・コンクリート押え
・モルタル押え（屋内等）　・（　　）
屋上排水溝
・ 図示(図面番号：　　)

2.改質アスファルトシート防水
(9.3.2)
(9.3.3)
(表9.3.1)
～(表9.3.3)

種　別	施　工　箇　所

改質アスファルトシート
種類　・標準仕様書[表9.3.1] ～[表9.3.3]　・図示（　　）
厚さ　・標準仕様書[表9.3.1] ～[表9.3.3]　・図示（　　）
粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ及び部分粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ
種類　・標準仕様書[表9.3.2]、[表9.3.3]　・図示（　　）
厚さ　・標準仕様書[表9.3.2]、[表9.3.3]　・図示（　　）
押え金物の材質、形状、寸法
・アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm)　・（　　）
仕上塗料
・ 図示（図面番号：　　）　種類（　　）　使用量（　　）
脱気装置　・設置数量　図示（図面番号：　　）　種類（　　）

(表9.3.3)
断熱材
・ 屋根露出防水絶縁断熱工法
種類　（　　）　厚さ（　　）mm
防湿用シートの設置　・有り　・無し

3.合成高分子系ルーフィングシート防水
(9.4.2)
(9.4.3)
(9.4.4)
(表9.4.1)
(表9.4.2)
(表9.4.3)

種　別	軽歩行(S-F2,-M2)	施　工　箇　所
S-F2	・軽歩行　・非歩行	R階屋根

ルーフィングシート
種類　・標準仕様書[表9.4.1] ～[表9.4.3]　・図示（　　）
厚さ　・標準仕様書[表9.4.1] ～[表9.4.3]　・図示（　　）
可塑剤移行防止用シート
・ 発砲ポリエチレンシート　・（　　）
固定金具　材質、寸法形状（　　）
・ 図示（図面番号：　　）
断熱材　種類、厚さ
・ 機械的固定工法　図示（図面番号：　　）
・ 接着工法　図示（図面番号：　　）
仕上塗料
・ 図示（図面番号：　　）　種類（　　）　使用量（　　）
防湿用フィルムの設置　・有り　・無し

屋内保護密着工法
モルタル塗り厚さ　・（　　）mm
立上り部の保護モルタル塗厚さ　・ 7mm以下　・（　　）mm
目地処理(接着工法)
PC下地　・ 図示（図面番号：　　）
増張り（S-F1、SI-F1）
PC入隅部　・ 図示（図面番号：　　）
機械的固定工法
風圧力に対応した工法　・図示(図面番号：　　)
脱気装置
・ 設置数量　図示（図面番号：　　）　種類（ ｽﾃﾝﾚｽ ）

④塗膜防水
(9.5.3)
(表9.5.1)
(表9.5.2)

施　工　箇　所	種　別
平場	X-1
立上	X-2
	Y-1
	Y-2

脱気装置（ X-1 ）
⊙ 設置数量　図示（図面番号：AEV-16 ）　種類（ ｽﾃﾝﾚｽ ）
保護層（ Y-2 ）　・保護コンクリート　・保護モルタル
仕上塗料（X-1、X-2）
⊙ 図示（図面番号：　　）　種類（ ﾌｯ素 ）　使用量（　　）

⑤ケイ酸質系塗布防水
(9.6.4)
防水層の下地
壁及び天井部の仕上げ　⊙コンクリート打放し仕上げ（B種）
・図示（図面番号：　　）
防水層下地のコンクリートの打継ぎ箇所の下地処理
⊙標準仕様書[9.6.4](2)(ｱ)後段　・（　　）
標準仕様書［9.6.4］(2)(ｲ)及び(ｳ)以外の処理　・（　　）

⑥シーリング
(9.7.2)
(9.7.3)
(表9.7.1)
・ 標準仕様書[表9.7.1]による

施　工　箇　所	目地寸法	種　類	仕上
外壁取合	10×10	MS-2	・省略
建具周り	10×10	MS-2	・省略
ALC目地	20×20	PU-2	・省略

(9.7.5)
接着性試験
⊙ 簡易接着性試験　・ 引張接着性試験

⑦保証書

工事区分	材料名	保証年数
防水工事	⊙ 防水	⊙10年　・　年

※防水工事業者、製作メーカー、受注者の連名により提出する。

10 石工事

1.共通
(10.1.3)
割付　・図示(図面番号：　　)

2.天然石
(10.2.1)
(表10.2.1)
(表10.2.2)

使用部位	種類（名称）	寸法(mm)	表面仕上げ	工法	形状
床			・ 粗磨き ・（　）		
壁			・ 水磨き ・（　）		

ジェットバーナー仕上面　バフ仕上　・あり　・なし

3.テラゾ
(10.2.1)
(表10.2.2)
テラゾタイル

使用部位	種石の種類	種石の大きさ	寸法による区分	表面仕上
	・ 大理石	・ 1.5～12mm	・ 300型 ・ 400型	・（　）

テラゾブロック

使用部位	種石の種類	種石の大きさ	形状	仕上げ面	寸法(mm)	表面仕上
	・大理石	・1.5～12mm	・平もの ・役もの	・ 片面 ・ 両面	・（　）	・（　）

4.その他の材料
(10.2.3)
取付用モルタル　・ 図示(図面番号：　　)
目地用モルタル　・ 図示(図面番号：　　)
浸透性吸水防止剤　・ 図示（図面番号：　　）
石裏面処理材　・ 図示(図面番号：　　)
裏打ち処理材　・ 図示(図面番号：　　)
充填材料　・ 図示(図面番号：　　)

5.外壁湿式工法
(10.2.2)
(10.2.3)
受金物の材質、形状、寸法
・ 図示（図面番号：　　）
アンカーの材質及び寸法
材質　・ SS400　・（　　）　寸法（　　）
(10.3.2)
あと施工アンカーの材質及び寸法　・（　　）
(10.3.3)
ドレンパイプの材質
・ 樹脂ネット製パイプ　クロスメッシュ巻き 25～35φ
・（　　）
石材の厚さ　・25mm以上　・（　　）
石裏面処理　・適用する
裏打ち処理　・適用する
下地ごしらえ
・ 流し筋工法　・ あと施工アンカー工法
・ あと施工アンカー横筋流し工法
目地　一般目地
目地幅　・ 6mm以上　・（　　）
シーリング材の有無　・有り　・無し
伸縮調整目地
位置　・ 標準仕様書[表11.1.1]　・ 図示（図面番号：　　）
シーリング材の目地寸法
・幅、深さとも10mm以上　・ 図示（図面番号：　　）

6.内壁空積工法
(10.2.2)
(10.3.3)
(10.4.2)
(10.4.3)
受金物の材質、形状、寸法
・ 図示（図面番号：　　）
アンカーの材質及び寸法　材質・ SS400　・（　　）　寸法（　　）
あと施工アンカーの材質及び寸法　・（　　）
石材の厚さ　・20mm以上　・（　　）
下地ごしらえ
・ あと施工アンカー・横筋流し工法　・ あと施工アンカー工法
目地　一般目地
目地幅　・ 6mm以上　・（　　）
伸縮調整目地
位置　・ 6mごと　・ 図示(図面番号：　　)
シーリング材の目地寸法
・幅、深さとも10mm以上　・図示（図面番号：　　）

7.外壁乾式工法
(10.2.2)
(10.5.2)
(10.5.3)
(表10.2.4)
金物の種類、形状、寸法　・図示（図面番号：　　）
取り付け工法
・ スライド方式　・ ロッキング方式
アンカーの材質及び寸法　材質・ SUS304　・（　　）　寸法（　　）
あと施工アンカーの材質及び寸法　・（　　）
石材の厚さ　・30mm以上(外壁)　・25mm以上(内壁)　・（　　）
たぼ用穴の位置　・図示（図面番号：　　）
裏打ち処理　・適用する
風圧力に対応した工法　・図示（図面番号：　　）
目地
目地幅　・ 8mm以上　・（　　）
シーリング材　・ 適用する

8.床及び階段の石張り
(10.3.3)
(10.6.2)
(10.6.3)
石材の厚さ　・（　　）mm
石裏面処理　・適用する（浸透性吸水防止剤）
裏打ち処理　・適用する（浸透性吸水防止剤）
目地　一般目地
目地幅　・ 屋内4mm以上、屋外3～6mm
・ 図示(図面番号：　　)
伸縮調整目地
位置　・ 標準仕様書[10.6.2](5)(ｲ)(a)後段
・ 図示（図面番号：　　）
シーリング材の目地寸法
・幅、深さとも10mm以上　・図示（図面番号：　　）

9.笠木、甲板等
(10.2.2)
(10.3.3)
(10.5.3)
(10.7.2)
取付け金物
・ 標準仕様書[10.2.2](3)(ｱ)の各後段　・（　　）
アンカーの材質及び寸法
材質・ SUS304　・（　　）　寸法（　　）
あと施工アンカーの材質及び寸法　・（　　）
取付工法　・ 湿式工法　・ 乾式工法
石材の厚さ　・（　　）mm
石裏面処理　・適用する
取付け代(乾式工法の場合)
・ 標準仕様書[10.5.3](2)　・（　　）mm
石裏の補強用モルタル(乾式工法の場合)
・ 適用する　図示(図面番号：　　)
目地　一般目地
目地幅　・（　　）mm
伸縮調整目地(外壁湿式工法の場合)
位置　・ 図示(図面番号：　　)
シーリング材の目地寸法
・幅、深さとも10mm以上　・ 図示（図面番号：　　）

10.隔て板
(10.7.3)
石材の厚さ　・40mm　・（　　）

11 タイル工事

1.伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
(11.1.3)
位置　・ 標準仕様書[表11.1.1]
・ 図示(図面番号：　　)

2.タイル張り
(11.1.4)
(表11.2.3)
(11.2.2)
(11.2.3)
(11.3.2)
(11.3.3)
(11.3.4)
(表11.3.2)
タイルの種類・工法

施工箇所	工法	種類	形状寸法	耐滑り性	うわぐすり	役物	標準・特注色	耐凍害性

・ 試験張りを行う
・ 見本焼きを行う
・ 既調合モルタル材料　（　　）
(11.2.6)
セメントモルタル塗り又は有機系接着剤あと張り工事
(11.3.5)
コンクリート素地面の処理　・ 適用箇所　図示(図面番号：　　)
・ 目荒し工法　・ ＭＣＲ工法
有機系接着剤あと張り工事
シーリング材の種類
打継、ひび割れ誘発目地　・PU-2　・（　　）
伸縮、その他目地　・MS-2　・（　　）
外装タイル接着剤張りの目地詰め
・行う　・行わない

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書（新営）4	A2	――	設計者	AEV-04

一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号
山本一級建築士事務所
管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号）
〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779
一級建築士 第317991号 山本 覚康

12 木工事

1.木材
(12.2.1)
(12.4.1)
(12.5.1)
(12.6.1)
(12.7.1)
(表12.2.1)

木材の含水率

部材名称	種別	
下地材	・ A種	・ B種
造作材	・ A種	・ B種

2.製材
(12.2.1)(2)(ｱ)

「JAS 1083」による製材

	寸法	等級	含水率	保存処理	県産材
下地用製材	・図示（: ）	・（ ）			
造作用製材	・図示（: ）	・（ ）			
広葉樹製材	・図示（: ）	・（ ）	・10%以下		

(12.2.1)(2)(ｲ)
(表12.2.2)

「JAS 1083」以外の製材
樹種、寸法、材面の品質、防虫処理及び含水率
・ 図示（図面番号： ）
造作材の材面の品質 ・ A種 ・（ ）
樹種

部位	樹 種	県産材

3.集成材等
(12.2.1)(3)

造作用集成材
「集成材の日本農林規格」による造作用集成材等

	品名・樹種・寸法 見付け材面数	見付け材面の品質	化粧薄板厚さ
造作用集成材	・図示（図面番号： ）	・ 1等 ・（ ）	
化粧ばり造作用集成材	・図示（図面番号： ）	・ 1等 ・（ ）	

「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材等
樹種、寸法、見付け材面の品質及び含水率等
・ 図示（図面番号： ）

4.造作用単板積層材
(12.2.1)(4)

「JAS 0701」による造作用単板積層材
品名、寸法、表面の品質及び防虫処理
・ 図示（図面番号： ）
「JAS 0701」以外の造作用単板積層材
寸法、表面の品質、含水率及び防虫処理
・ 図示（図面番号： ）

5.直交集成材
(12.2.1)(5)

「JAS 3079」による直交集成材
品名、曲げ強度(強度等級)、種別、接着性能(使用環境)、樹種、寸法
・ 図示（図面番号： ）

6.合板等
(12.2.1)(6)

品名・品目	樹種名	接着の程度	等級	板面の品質	防虫・保存処理等	厚さ

構造用合板の強度等級
・ 図示（図面番号： ）
特殊加工化粧合板の化粧加工方法
・オーバーレイ ・プリント ・塗装 ・（ ）
パーティクルボード
表裏面の状態、曲げ強さ、耐水性、難燃性による区分、厚さ等
・ 図示（図面番号： ）
ミディアムデンシティーファーバーボード（MDF）
表裏面の状態、曲げ強さ、接着剤、難燃性による区分、厚さ等
・ 図示（図面番号： ）

7.接合具等
(12.2.2)
(表12.2.3)
～(表12.2.5)

造成材の化粧面の釘打ち
・隠し釘打ち ・釘頭埋め木 ・つぶし頭釘打ち ・釘頭現し
諸金物の形状、寸法、材質
・図示（図面番号： ）

8.防腐・防蟻・防虫処理
(12.3.1)
(12.3.2)

防腐・防蟻処理
薬剤加圧注入
適用部材、保存処理性能区分 ・ 図示（図面番号： ）
薬剤の塗布等
処理方法 ・薬剤の製造所の仕様 ・（ ）
附属書A（規定）に基づく表面処理用木材保存剤による処理
薬剤の種類、適用部材 ・図示（図面番号： ）
薬剤の接着剤への混入 ・（ ）
合板等の加圧注入 ・（ ）
防虫処理 ・（ ）

9.RC造等の間仕切軸組及び床組
(12.4.1)

間仕切軸組に用いる木材 ・杉 ・松 ・（ ）
床組に用いる木材(土間ｽﾗﾌﾞ類の土台、転ばし大引、転ばし根太)
・ひのき ・保存処理材 ・（ ）
床組に用いる木材(上記以外) ・杉 ・松 ・（ ）

10.窓、出入口等
(12.5.1)

吊元枠、水掛りの下枠、敷居 ・ひのき ・（ ）
上記以外 ・松 ・杉 ・（ ）

11.床板張り
(12.6.1)

縁甲板、上がりがまち ・ひのき ・（ ）

12.壁及び天井下地
(12.7.1)

木材 ・杉 ・松 ・（ ）

⑬ 屋根及びといい工事

1.長尺金属板葺
(13.2.2)
(13.2.3)
(表13.2.1)

屋根葺形式	材種	塗膜の耐久性	厚さ(mm)	葺板の寸法	めっき付着量
・立て平葺 ・心木なし瓦棒葺 ・横葺	・ 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金メッキ鋼板		・0.4		

下葺の種類 ・ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ940 ・（ ）
風圧力に対応した工法 ・図示（図面番号： ）
屋根葺工法に応じた下地留め付け方法等 ・ 図示（図面番号： ）
横葺のけらば ・つかみ込み納め ・けらば包み納め
雪止め ・ 図示（図面番号： ）

2.折板葺
(13.3.2)
(13.3.3)
(表13.2.1)

緊結方法	板厚(mm)	山高(mm)	山ピッチ(mm)	耐力区分
・ 重ね形 ・ はぜ締め形	・ 0.8 ・ 0.6	・ 90 ・（ ）	・（ ）	・（ ）

材種	軒先面戸板
・ 塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑ亜鉛合金めっき鋼板 ・（ ）	・ あり ・ なし

断熱材 種別 ・ ガラス繊維シート ・（ ）
厚さ ・ 5mm ・（ ）mm
防火性能 ・（ ）
風圧力に対応した工法 ・図示（図面番号： ）
積雪荷重に対応した工法 ・図示（図面番号： ）
けらば納め ・けらば包み ・（ ）

3.粘土瓦葺
(13.4.2)
(13.4.3)

種 類	大きさ	産 地	役物の種類	棟の工法

凍害試験 ・ 行う ・ 行わない
雪止め瓦 ・ 使用する
瓦桟木の材種、寸法 ・ 杉 21×15 ・（ ）
棟補強用心材の材質、寸法 ・杉 40×30 ・（ ）
瓦緊結用釘又はねじの種類、径、長さ ・図示（図面番号： ）
棟補強等に使用する金物等の材質、形状、寸法、留付け方法
・図示（図面番号： ）
下葺材料の種類 ・（ ）
風圧力及び地震力に対応した工法 ・図示（図面番号： ）
桟木の留付け工法 ・図示（図面番号： ）
棟の工法 ・7寸丸伏せ棟又はF形用冠瓦伏せ棟 ・のし積み棟
面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部の仕上 ・ﾓﾙﾀﾙ ・瓦葺用しっくい

④といい
(13.5.2)
(表13.5.1)
(表13.5.2)
(13.5.3)
(表13.5.4)

材種 (・) 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・ 配管用鋼管(白管)
・（ ）
表面処理鋼板の塗膜の種類 ・（ ）
耐酸被覆鋼板 材質等 ・（ ）
受金物及び足金物の材種、形状、取付け間隔 (・)図示（ AEV-18 ）
軒どいの取付け間隔（多雪地域） ・0.5m以下 ・（ ）
鋼管製といの防露巻工法 ・標準仕様書[表13.5.4] ・（ ）

⑭ 金属工事

①アルミニウム
(14.2.1)
(表14.2.1)

表面処理の種別
・ AB-1 ・ AB-2 ・ AC-1 ・ AC-2 ・ BA-1
・ BA-2 (・) BB-1 ・ BB-2 ・ BC-1 ・ BC-2
・C（常温乾燥形の塗装（ ））
陽極酸化被膜の着色方法 ・ 二次電解着色 ・（ ）
陽極酸化被膜の色合い等 (・)（ 標準色 ）

2.鉄鋼の亜鉛めっき
(14.2.2)(表14.2.2)

亜鉛めっきの種別
・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種 ・ F種

③軽量鉄骨天井下地
(14.4.2)
(表14.4.1)
(14.4.3)
(表14.4.2)
(14.4.4)

野縁等の種類
屋内 (・) 19形 ・（ ）
屋外 (・) 25形 ・（ ）
屋外の野縁受等の間隔 ・ 図示(図面番号： ）
吊りボルトの補強方法（@900mm超） ・図示(図面番号： ）
吊りボルトの水平補強、斜め補強
・ 天井ふところ＞3.0m 図示(図面番号： ）
・ 耐震天井 図示(図面番号： ）
・ 耐風圧の補強 図示(図面番号： ）

④軽量鉄骨壁下地
(14.5.3)
(表14.5.1)
(14.5.4)

スタッド、ランナーの種類
・ 50形 (・) 65形 ・ 90形 (・) 100形 ・ ｽﾀｯﾄﾞの高さによる区分
・ 図示（図面番号： ）
スタッドの高さ5m超
・ 図示(図面番号： ）
出入口、開口部の補強 (・)標準仕様書[14.5.4](5)後段 ・（ ）

5.金属成形板張り
(14.6.2)
(14.6.3)

施工箇所		
種 別	・ アルミニウム ・ ステンレス ・ 鋼	
形 状	・ スパンドレル形 ・ パネル形	
表面処理	・	

取付け用下地 ・ 図示(図面番号： ）
長尺ものにおける伸縮調整継手
・ 設ける 図示(図面番号： ）

⑥アルミニウム製笠木
(14.7.2)
(14.7.3)
(表14.7.1)

部材の種類 (・) 175形 ・ 250形 ・ 300形 ・ 350形
表面処理 (・)（ BB-1 ）
固定方法 ・ 図示（図面番号： ）
風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ・図示（図面番号： ）

⑦天井見切縁

材種 ・アルミニウム合金製 (・)塩化ビニル製

⑧点検口

取付箇所	材種	寸法	形式
(・) 天井	(・) アルミニウム製	(・) 450角 ・ 600角	(・) 額縁タイプ ・ 目地タイプ
・ 床	・ アルミニウム製	・ 450角 ・ 600角	

⑮ 左官工事

1.ラス系下地
(15.2.4)

通気工法 ・二層下地 ・単層下地
直張り工法 ・ラスモルタル下地 ・ラスシートモルタル下地
ラス及び補強用平ラス

材料記号	種類	質量（kg/㎡）
・K ・（ ）	・（ ）	・（ ）

ラスシート

山高(mm)	山ピッチ(mm)	質量(kg)	溶接ピッチによる区分
・（ ）	・（ ）	・（ ）	・（ ）

外張断熱工法 ・図示（図面番号： ）
ステープルの形状、寸法 ・図示（図面番号： ）
換気口部の措置 ・標準仕様書(木造)[11.4.3](2)(ｳ) ・（ ）
耐力壁のラスシートの施工 ・図示（図面番号： ）

2.せっこうボード その他のボード下地
(15.2.5)

せっこうボード、せっこうラスボードの種類、厚さ
・図示（図面番号： ） ・（ ）
木質系セメント板の種類、厚さ
・図示（図面番号： ） ・（ ）

3.こまい下地及び木ずり下地
(15.2.6)
(15.2.7)

耐力壁の指定 ・図面（図面番号： ）
木ずり用小幅板の樹種
・杉（芯去り材） ・図示（図面番号： ）

④モルタル塗り
(15.3.2)
(15.3.5)

材料 (・) 現場調合材料 ・既調合材料
既製目地材 ・ 使用する 図示（図面番号： ）
床の目地 ・ 図示（図面番号： ）
下地モルタル、下地調整塗材の接着力試験（外壁タイル張り等）
・ 実施する

⑤仕上塗材仕上
(15.6.2)
(表15.6.1)

種 類	呼 び 名	仕 上 形 状		工 法
薄付仕上塗材	・外装薄塗材E	・砂壁状 ・着色骨材砂壁状		・吹付け
	・内装薄塗材E	・砂壁状ジュラク		
	・（ ）	・（ ）		・（ ）
厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	スタッコ状	・吹放し ・凸部処理	・吹付け
			・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて
	・外装厚塗材Si	スタッコ状	・吹放し ・凸部処理	・吹付け
	・外装厚塗材E		・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・こて ・ローラー
	・（ ）	・（ ）		・（ ）
複層仕上塗材	(・)複層塗材E ・複層塗材RE ・防水型複層塗材E ・防水型複層塗材RE	・ゆず肌状 ・凸部処理 (・)凹凸状		・ローラー (・)吹付け
	・（ ）	・（ ）		・（ ）
軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材 ・こて塗用軽量塗材	・砂壁状 ・平たん状		・吹付け ・こて

内装薄塗材、内装厚塗材（吸放湿性を有するもの）
・JIS A 6909 調湿形
複層仕上塗材の耐候性 ・ 耐候形３種 ・（ ）
外装厚塗材Cの上塗材
・ セメントスタッコ以外の場合 材所要量（ ）kg/㎡
外装厚塗材Si、Eの上塗材の適用 ・あり ・なし

原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE		No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書（新営）5	A2	――	AEV-05

一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号
山本一級建築士事務所
管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号）
〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779
設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康

⑮ 左官工事

(表15.6.2) 複層仕上塗材の上塗材の種類

樹脂種類	溶媒種類	外観
・アクリル系	・溶剤系	・艶有　・艶無　・メタリック
	・弱溶剤系	・艶有　・艶無
	・水系	・艶有　・艶無
・シリカ系	・水系	・艶無
・ポリウレタン系	・溶剤系	・艶有　・艶無　・メタリック
	・弱溶剤系	・艶有　・艶無
	・水系	・艶有　・艶無
・アクリルシリコン系	・溶剤系	・艶有　・艶無　・メタリック
	・弱溶剤系	・艶有　・艶無
	・水系	・艶有　・艶無
(・)ふっ素系	・溶剤系	・艶有　・艶無　・メタリック
	・弱溶剤系	・艶有　・艶無
	(・)水系	(・)艶有　・艶無

6.マスチック塗材塗り (15.7.2)
(表15.7.1)
種別　・A種　・B種

7.しっくい塗り
(15.10.1) 下地　・標準仕様書[15.10.1]　・(　　)
(15.10.2) 材料　・既調合材料（色しっくい　・適用する　・適用しない）
(15.10.3) ・現場調合材料
(15.10.4) 調合及び各層の塗厚
(表15.10.1) せっこうボード下地　・標準仕様書[表15.10.1]　・(　　)
(表15.10.2) モルタル塗り下地　・標準仕様書[表15.10.2]　・(　　)
せっこうラスボード下地　・製造所仕様による　・(　　)
木ずり下地　・標準仕様書[表15.10.3]　・(　　)
せっこうプラスター下地、こまい土壁下地
・標準仕様書[表15.10.4]　・(　　)
その他の下地　・(　　)
工法　上塗り仕上げ工法　・なで切り仕上げ　・パターン仕上げ

8.こまい壁塗り
(15.11.2) のりの種類
土壁用　・ふのり　・つのまた　・ぎんなんそう
(15.11.3) ・粉末海藻　・(　　)
(15.11.4) 砂壁用　・ふのり　・つのまた　・こんにゃくのり
(15.11.5) ・にかわ　・合成高分子系混和剤　・(　　)
(15.11.7) 色土の種類　土物仕上げ　・(　　)ちりじゃくり・(　　)
(15.11.8) 大津仕上げ　・(　　)ちりじゃくり・(　　)
(表15.11.2) 色砂の種類　・(　　)
(表15.11.8) 下塗りの調合　・標準仕様書[表15.11.2]　・(　　)
(表15.11.9) 塗厚　・標準仕様書[表15.11.8]　・(　　)
耐力壁の指定　・図示（図面番号：　　）
工程種別　・A種　・B種

9.ロックウール吹付け
(15.12.3) 仕上げ吹付け厚さ　(　　)mm

⑯ 建具工事

1.防火戸
(16.1.3) 防火戸の指定　・図示（図面番号：　　）
ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器と連動するもの
・図示（図面番号：　　）

2.見本の製作等
(16.1.4) 建具見本の製作　・実施する
特殊な建具の仮組　・実施する

3.防犯建物部品
(16.1.6) 防犯建物部品　・図示（図面番号：　　）

④アルミニウム製建具
(16.2.2) 外部建具の性能等級等
コンクリート系下地、鉄骨下地
(16.2.4) ・A種　(・)B種　・C種　・(　　)
(表16.2.1) 木下地
(表16.2.2) ・D種　・E種　・(　　)
(表14.2.2) 表面処理　種別　・(　　)　(・)標準色　・特注色
(16.2.5) 内部建具
表面処理　種別　・(　　)　・標準色　・特注色

防音ドア、防音サッシの遮音性　・(　　)等級
断熱ドア、断熱サッシの断熱性　・(　　)等級
建具枠見込み寸法　・図示（図面番号：　　）
結露水の処理方法　・(　　)
水切り板、ぜん板等　・図示（図面番号：　　）
建具周りの止水処理(外部に面するもののみ)
・製造所の仕様による　・(　　)

5.網戸等
(16.2.3) 形式　・可動式　・固定式
防虫網　網の材質　・合成樹脂　・ガラス繊維入り合成樹脂
・ステンレス（SUS316）　・(　　)
線　径　・0.25mm以上　・(　　)
網　目　・16メッシュ　・18メッシュ　・(　　)

6.樹脂製建具
(16.3.2) 外部建具の性能等級等
コンクリート系下地、鉄骨下地
(16.3.3) ・A種　・B種　・C種　・(　　)
(16.3.4) 木下地
・D種　・E種　・(　　)
(表16.3.1)～(表16.3.3) 建具の遮音性能等級
・T-1　・T-2　・(　　)
外部建具の断熱性能等級
・H-4　・H-5　・H-6　・H-7　・H-8　・(　　)
外部建具の日射熱取得性能等級　・(　　)
ガラス　・複層ガラス　・(　　)
建具枠見込み寸法　・図示（図面番号：　　）
表面色　・標準色　・特注色
水切り板　ぜん板　・図示（図面番号：　　）
建具周りの止水処理(外部に面するもののみ)
・製造所の仕様による　・(　　)

7.鋼製建具
(16.4.2) 簡易気密型ドアセット　・図示（図面番号：　　）
外部建具の耐風圧性　・S-4　・S-5　・S-6
耐震ドアの面内変形追随性　・(　　)等級
(表16.4.1) 防音ドア、防音サッシの遮音性　・(　　等級)
(表16.2.1) 断熱ドア、断熱サッシの断熱性　・(　　等級)
(16.4.4) 鋼板類の厚さ　・[表16.4.2]　・図示（図面番号：　　）
くつずりの仕上げ　・HL　・(　　)
(表16.4.2) H>2400mm 又は W>950mm　・図示（図面番号：　　）
(16.4.6) 標準型鋼製建具

型式	幅(mm)	高さ(mm)
片開き	・900　・950	・2000 ・2100
親子開き	・1200　・1250	
両開き	・1800　・1900	

⑧鋼製軽量建具
(16.5.2) 簡易気密型ドアセット　・図示（図面番号：　　）
(16.5.3) 耐震ドアの面内変形追随性　・(　　)等級
(16.5.4) 防音ドア、防音サッシの遮音性　・(　　等級)
(表16.5.1) 断熱ドア、断熱サッシの断熱性　・(　　等級)
鋼板類の種類　(・)図示（図面番号：AEV-23）
召合せ、縦小口包み板等の材質
(・)鋼板　・ステンレス鋼板　・アルミニウム合金押出形材
鋼板類の厚さ　(・)[表16.5.1]　・図示（図面番号：　　）
H>2400mm 又は W>950mm　・図示（図面番号：　　）

9.ステンレス製建具
簡易気密型ドアセット　・図示（図面番号：　　）
外部建具の耐風圧性　・S-4　・S-5　・S-6
(16.6.2) 防音ドアセット、防音サッシの遮音性　・(　　等級)
(16.6.3) 断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性　・(　　等級)
(16.6.4) 耐震ドアセットの面内変形追随性　・(　　等級)
(16.6.5) ステンレス鋼板　・SUS304　・(　　)
(表16.4.1) 表面仕上げ　・HL　・鏡面仕上げ
曲げ加工　・普通曲げ　・角出し曲げ

10.木製建具
(16.7.2) 建具材の含水率　・A種　・B種
フラッシュ戸、戸ぶすまの表面材
(16.7.3) ・合板（・普通合板　・天然木化粧合板　・特殊加工化粧合板）
(表16.7.1) ・MDF　区分（表裏面の状態、曲げ強さ、接着剤、難燃性）
(表16.7.2) ・図面（図面番号：　　）
(表16.7.6)
(表16.7.7)

(表16.7.3) フラッシュ戸の形状
(16.7.4) 表面板の厚さ　・標準仕様書[表16.7.6]　・(　　)
(表16.7.8) 引戸の召合わせ　・いんろう付き　図示（図面番号：　　）
かまち戸　かまち、鏡板の樹種　・図示(図面番号：　　)
ふすま　種別　・Ⅰ型　・Ⅱ型
上張の種類　・図示(図面番号：　　)
縁の仕上げ　・図示(図面番号：　　)
枠及びくつずりの材料　・図示(図面番号：　　)
各木製建具の見込み寸法　・標準仕様書[表16.7.7]
・図示(図面番号：　　)

⑪建具用金物
(16.8.2) 金物の種類、見え掛かり部等の材質等
(・)標準仕様書[表16.8.1]　・図示（図面番号：　　）
(表16.8.1) 表16.8.1中の*印の適用及び備考中の特記について
(16.8.3) ・図示（図面番号：　　）
(16.8.4) 丁番の枚数、大きさ
(表16.8.2) 金属製建具　(・)標準仕様書[表16.8.2]　・(　　)
(表16.8.3) 樹脂製建具　・標準仕様書[表16.8.3]　・(　　)
(表16.8.4) 木製建具　・標準仕様書[表16.8.4]　・(　　)
(表16.8.5) 戸車、レールの外径等　(・)標準仕様書[表16.8.5]　・(　　)
レバーハンドル、クレセント等の取付け位置
・図示(図面番号：　　)
マスターキー　・製作する　・製作しない
・監督員と協議の上システムを決定する
キーボックス　・要　・不要
鍵の製作本数等　(・)3本一組とし、室名札を付ける　・(　　)

12.自動ドア開閉装置
(16.9.2) 駆動装置の性能値
多機能トイレ出入口以外　・標準仕様書[表16.9.1]　・(　　)
多機能トイレ出入口　・標準仕様書[表16.9.2]　・(　　)
(表16.9.1) 検出装置の性能
(表16.9.2) ・標準仕様書[表16.9.3]　・(　　)
(表16.9.3) 戸の開閉方式　・図示（図面番号：　　）
(表16.9.4) 引き戸用検出装置の種類　・(　　)
凍結防止措置　・行う　・行わない
・防錆の適用

13.自閉式上吊り引戸装置
(16.10.3)(表16.10.1) 性能値
・標準仕様書［表16.10.1］　・(　　)

14.重量シャッター
(16.11.2) シャッターの種類　・図示（図面番号：　　）
外壁開口部のシャッター
(表16.11.1) ・耐風圧強度(　　)Pa 以上
(16.11.3) 開閉方式　・図示（図面番号：　　）
安全装置の設置箇所　・図示（図面番号：　　）
シャッターケース　・図示（図面番号：　　）
鋼板の種類　・図示（図面番号：　　）
・めっき付着量　・Z12　・F12　・(　　)

15.軽量シャッター
(16.12.2) 開閉方式　・図示（図面番号：　　）
(表16.12.1) ・耐風圧強度(　　)Pa 以上
(16.12.3) 保護装置の設置箇所　・図示（図面番号：　　）
(16.12.4) スラットの材質、めっき付着量
・JIS G 3312　・Z06　・F06　・(　　)
・JIS G 3322　・AZ90　・(　　)
スラットの形状
・インターロッキング形　・オーバーラッピング形

16.オーバーヘッドドア
(16.13.2)
(16.13.3)

セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレール
・スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	・溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

耐風圧性能の区分　JIS A 4715　・(　　)
保護装置の設置箇所　・図示（図面番号：　　）

⑰ガラス
(16.14.2) 板ガラスの種類、厚さ、特性による種類等　(・)図示(図面番号：AEV-23)
留め材　(・)シーリング　・ガスケット(　　)
(16.14.3) ガラス溝の寸法、形状等
(・)製造所の仕様による　・図示(図面番号：　　)

18.ガラスブロック積み
(16.14.5) 表面形状、寸法、厚さ　・図示(図面番号：　　)
壁用金属枠、補強材　・図示(図面番号：　　)
力骨の材質等　・SUS304、φ5.5はしご形状複筋、単筋　・(　　)
化粧目地モルタルの色　・(　　)
シーリング材の種類　・(　　)
化粧カバーの材質、形状等　・図示（図面番号：　　）
風圧力に対応した工法　・図示（図面番号：　　）
アンカー等の留付け間隔(木下地の場合)　・図示（図面番号：　　）
目地幅、伸縮調整目地
・標準仕様書[16.14.5](2)(ｳ)(a)(b)(i)の各後段　・(　　)

17 カーテンウォール工事

1.種類
(17.1.1) ・メタルカーテンウォール
(17.1.3) ・PCカーテンウォール

2.性能等
(17.1.3) 耐風圧性　(　　)
(17.2.2) 耐震性　(　　)
(17.3.2) 水密性　(　　)
気密性　(　　)
耐火性　(　　)
耐温度差性　(　　)
遮音性　(　　)
断熱性　(　　)
性能の確認・判定方法　(　　)
シーリング材の種類　(　　)
断熱材　(　　)

3.メタルカーテンウォール
(17.2.2) カーテンウォールの材料

材料	規格等	見え掛り部の仕上げ	映像調整
・アルミニウム製 ・(　　)	・標準仕様書[16.2.3] ・(　　)		・行う

(17.2.3)
(表17.2.1) 製品の寸法許容差　・標準仕様書[表17.2.1]
(17.2.5) ガラス溝の寸法、形状等　・製造所の仕様による
(17.2.6) ・図示(図面番号：　　)
(表17.2.2) 取付け
(表17.2.3) 躯体付け金物取付け位置の寸法許容差
・標準仕様書[表17.2.2]　・(　　)
カーテンウォール部材取付け位置の寸法許容差
・標準仕様書[表17.2.3]　・(　　)
ガラスの取付け　・図示（図面番号：　　）

4.PCカーテンウォール
カーテンウォールの材料
コンクリートの種類及び品質　・図示（図面番号：　　）
(17.3.2) 鉄筋　・SD295A　・(　　)
(17.3.3) 補強鉄線の径、網目寸法　・図示（図面番号：　　）
(17.3.4) 耐火目地材　・(　　)
(17.3.5) 配筋　・図示(図面番号：　　)
(17.3.6) 先付け材料　・仕上げ材（　　）　・建具枠（　　）
・ゴンドラ用ガイドレール（　　）　・(　　)
(表17.3.1) 製品の寸法許容差等　・標準仕様書[表17.3.1]による　・(　　)
(表17.3.2) 表面仕上げ材　・磁器質タイル
石材　(・花こう岩　・大理石　・(　　))
取付け
カーテンウォール部材取付け位置の寸法許容差
・標準仕様書[表17.3.2]　・(　　)
ガラスの取付け　・図示(図面番号：　　)

⑱ 塗装工事

①材料
②施工一般
(18.1.4)
(18.2.2)
～(18.12.2)

塗料塗り 種類	塗料塗り 種別	施工箇所	下地の種類	素地ごしらえ	錆止め塗料の種類
SOP	・A種 ・B種		鉄鋼面	・A種 ・B種 ・C種	
EP	・A種 (・)B種		ボード面	(・)A種 ・B種	

原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書（新営）6	A2	――	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康

No. AEV-06

⑱ 塗装工事

3.耐候性塗料塗り(DP)
(18.7.2)
(表18.7.1)
(18.7.3)
(表18.7.2)
(18.7.4)
(表18.7.3)

下地の種類	施工箇所	上塗り等級	ｺﾝｸﾘｰﾄ,ECP面における種別
		・1級 ・2級 ・3級	・A種 ・B種 ・C種

4.ｽﾃｲﾝ塗り
(18.11.2)
オイルステイン塗り　工程、材料　・(　　)

⑲ 内装工事

1.ビニル床シート張り
(19.2.2)
(表19.2.1)
(19.2.3)

種類	色柄	厚さ(mm)	継目
⊙FS ・(　　)	・無地 ⊙ﾏｰﾌﾞﾙ ・柄物	・2.0 ⊙(2.5)	⊙熱溶接 ・突付け

接着剤の種別、施工箇所
セメント系下地、木質系下地以外　・図示（図面番号：　　）

2.ビニル床タイル張り
(19.2.2)
(表19.2.1)

寸法・色合	種類		厚さ(mm)
・300×300 (　　)	・コンポジションビニル床タイル（KT）	半硬質	・2.0
・450×450 (　　)	・コンポジションビニル床タイル（KT）	軟質	・(　　)
	・ホモジニアスビニルタイル		・(　　)

接着剤の種別、施工箇所
セメント系下地、木質系下地以外　・図示（図面番号：　　）

3.特殊機能床材
(19.2.2)
(表19.2.2)
・帯電防止床シート・床タイル　寸法(　　)mm
厚さ(　　)mm　種類（　　）　性能（　　）
・視覚障害者用床タイル
種類(・ ビニル床タイル　・（　　))
形状(・ 300×300　・（　　))
・耐動荷重性床シート
種類(　　)　厚さ(　　)mm
・ゴム床タイル
色柄（　　）　種類(　　)　寸法(　　)　厚さ(　　)mm
接着剤の種別、施工箇所
セメント系下地、木質系下地以外　・図示（図面番号：　　）
・防滑性床シート・床タイル　種類(　　)　寸法(　　)　厚さ(　　)mm

4.ビニル幅木
(19.2.2)
種類　・図示(図面番号：　　)
高さ　・図示(図面番号：　　)　・60mm　⊙100mm
厚さ　・図示(図面番号：　　)　⊙1.5mm以上

5.施工
(19.2.3)
下地　⊙モルタル　・ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ　・木造　・(　　)
接合部の処理　⊙熱溶接工法　・(　　)

6.ｶｰﾍﾟｯﾄ敷き
(19.3.2)
(19.3.3)
(表19.3.1)
(表19.3.2)
織りじゅうたん

種別	色柄	パイル形状	織り方
・A種 ・B種 ・C種	・無地 ・柄物 (標準品)	・ループ ・カット ・カット、ループ併用	・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット

種別	色柄	パイル形状	パイル長・寸法・総厚	工法
・タフテッドカーペット	・無地 ・柄物	・ループ ・カット	パイル長 ・5～7mm ・4～6mm	・グリッパー ・全面接着
・タイルカーペット ・1種 ・2種	・無地 ・柄物	・ループ ・カット	総厚さ、サイズ ・6.5mm ・ ・500角 ・	・全面接着

・帯電性(人体帯電圧の値3kV以下)
タイルカーペットの敷き方（全面接着工法）
平場　・市松敷き　・模様流し　・図示(図面番号：　　)
階段部分　・市松敷き　・模様流し　・図示(図面番号：　　)
下敷き材　・第2種1号、呼び厚さ8mm
・図示(図面番号：　　)
見切り、押え金物
・材質（　　）　・種類（　　）
・形状(図面番号：　　)
織じゅうたんの接合方法　・ヒートボンド工法　・(　　)

7.合成樹脂塗床
(19.4.3)
(表19.4.4)
(表19.4.5)
～(表19.4.8)
・弾性ウレタン塗床材(JISK 5970)
仕上げ
・平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂塗床材(JISK 5970)
工法、仕上げ
・薄膜流しのべ工法(　・平滑　・防滑　)
・厚膜流しのべ工法(　・平滑　・防滑　)
・樹脂モルタル工法(　・平滑　・防滑　)

8.フローリング張り
(19.5.2)
(19.5.3)
(19.5.4)
(19.5.5)
(表19.5.2)
～(表19.5.6)
材料　・単層フローリング
(・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ(1等)　・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ(1等))
・複合フローリング
・釘留め工法

材料	種別	樹種
・フローリングボード (根太張用)		・なら ・(　　)
・複合フローリング (根太張用)	・A種 ・B種 ・C種	・なら ・(　　)
・フローリングボード (直張用)		・なら ・(　　)
・複合フローリング (直張用)	・A種 ・B種 ・C種	・なら ・(　　)

・接着工法

材料		樹種	厚さ(mm)	幅・長さ	裏面不陸緩衝材
・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ (直張用)		・なら ・(　　)			・合成樹脂発泡シート
・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ (直張用)					
・複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ (直張用)	・A種 ・B種 ・C種				

9.畳敷き
(19.6.2)
(表19.6.1)
種別　・A種　・B種　・C種　・D種
・D種の畳床　KT-(　・Ⅰ　・Ⅱ　・Ⅲ　・K　・N)
衝撃緩和型畳　・C１　・C２

⑩せっこうボード、その他のボード及び合板張り
(19.7.2)
(表19.7.1)
(19.7.3)
(表19.7.3)
(表19.7.5)

種類	種別	厚さ(mm)
⊙せっこうボード		壁 ⊙9.5(準不燃) ⊙12.5(不燃) 天井
⊙化粧せっこうボード	⊙トラバーチン模様	・9.5(不燃) ⊙9.5(準不燃)
	・木目模様	・9.5(不燃) ・9.5(準不燃)
・ロックウール化粧吸音板	・普通	・9 ・(　　)
	・立体模様	・9 ・(　　)
⊙けい酸カルシウム板	・タイプⅡ0.8FK	⊙(6　　)
・(　　)	・(　　)	・(　　)

合板張り
・普通合板　表面の樹種名　・生地のまま
・(透明塗料塗り)ﾗﾜﾝ　・(不透明塗料塗り)しな
・(　　)
板面の品質（　　）　厚さ(　　)mm
防虫処理　・(　　)
・天然化粧合板　化粧板の樹種名　・(　　)
厚さ(　　)mm
防虫処理　・(　　)
・特殊加工合板　化粧加工の方法
・オーバーレイ　・プリント
・塗装　・(　　)
表面性能（　　）　厚さ(　　)mm
防虫処理　・(　　)
天井ボードの重ね張り　・図示（図面番号：　　）
合板類の張付け　・A種　・B種

せっこうボードの目地工法
⊙継目処理
・突付け（・ベベルエッジ　・スクェアアエッジ　）
・目透し（・ベベルエッジ　・スクェアエッジ　）

11.壁紙張り
(19.8.2)
(19.8.3)

施工箇所	種類	防火性能	品質

素地ごしらえ
せっこうボード面　・A種　・B種
コンクリート面　・A種　・B種
モルタル・せっこうプラスター面　・A種　・B種

12.断熱材
(19.9.3)
(19.9.4)
断熱材打込み工法
断熱材の種類、厚さ　⊙図示（図面番号：AEV-19,20　）
断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　・A種1　⊙A種1H　・図示（図面番号　　）
断熱材の厚さ　⊙図示（図面番号：AEV-19,20　）

⑳ ユニット及びその他工事

1.ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ
(20.2.2)
ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ及び表面仕上げ材の寸法、ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ高さ、耐震性能、所定荷重、帯電防止性能、漏えい抵抗
・図示（図面番号：　　）
試験方法　20.2.2(2)(ｲ)(a) ～ (d)
寸法精度　20.2.2(2)(ｵ)(a) ～ (c)

2.可動間仕切
(20.2.3)
組立て方式
・スタッド式　・パネル式　・スタッドパネル式
パネル内建具寸法及び形状　・図示(図面番号：　　)
構成基材の種類　・図示(図面番号：　　)
遮音性　・図示(図面番号：　　)
表面仕上げ　・図示(図面番号：　　)

3.移動間仕切
(20.2.4)
操作方法　・手動式　・電動式
表面材の材質及び仕上げ　・図示(図面番号：　　)
遮音性　・図示(図面番号：　　)
ハンガーレールの取付け下地の補強
・標準仕様書[20.2.4](3)(ｳ)　・図示(図面番号：　　)
パネルをランナーに取り付ける部品
・標準仕様書[20.2.4](3)(ｴ)　・図示(図面番号：　　)
ハンガーレール
・標準仕様書[20.2.4](3)(ｵ)　・図示(図面番号：　　)
ランナー
・標準仕様書[20.2.4](3)(ｶ)　・図示(図面番号：　　)
ハンガーレールの固定方法
・溶接　・あと施工アンカー（材質：　　、寸法：　　）

4.トイレブース
(20.2.5)
表面材　・メラミン樹脂系化粧板
・ポリエステル樹脂系化粧板
脚部　・幅木　・図示(図面番号：　　)
扉小口の材質　・ステンレス製　・アルミ製
ドアエッジの材質　・製造所の仕様による　・(　　)

5.手すり
(20.2.6)
材料の種類　・アルミ　・ステンレス（仕上げ：　　）

6.階段滑り止め
(20.2.7)
材種
・ステンレスSUS304製　ビニルタイヤ入り(両端フラットエンド付き)
・(　　)
寸法　・約35mm　・図示(図面番号：　　)
工法　・接着工法　・埋込み工法

7.黒板及びホワイトボード
(20.2.9)
黒板の区分　・焼付け　・(　　)
黒板の種類　・鋼製黒板　・ほうろう黒板　・(　　)
ホワイトボード　・(　　)　・図示（図面番号：　　）

8.鏡 (20.2.10)
厚さ　・5mm　・(　　)mm

⑨表示
(20.2.11)
室名札、ﾋﾟｸﾄｸﾞﾗﾌ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付形式等
⊙図示（図面番号：AEV-14　）
・衝突防止表示　図示（図面番号：　　）
・非常用進入口表示　図示（図面番号：　　）

10.タラップ
(20.2.12)
材料の種類　・ステンレス
仕上げ　・研磨等なし　・(　　)

11.煙突ライニング
(20.2.13)
適用安全使用温度　・(　　)℃
工法　・図示（図面番号：　　）

12.ブラインド
(20.2.14)

形式	スラット	開閉方式	スラットの成形幅(mm)	ヘッドボックス・ボトムレールの材種
・横形ブラインド	・アルミニウム合金 ・(　　)	・ギヤ式 ・コード式 ・(　　)	・25 ・(　　)	・鋼製 ・(　　)
・縦形ブラインド	・アルミニウム合金 ・(　　)	・ギヤ式 ・コード式 ・(　　)	・80 ・100 ・(　　)	

※幅、高さの寸法　・図示(図面番号：　　)

13.ロールスクリーン
(20.2.15)
操作方式　・スプリング式　・コード式　・電動式
寸法及び材種　・図示(図面番号：　　)

14.カーテン及びカーテンレール
(20.2.16)
カーテンの形式等

生地	ひだの種類	形式	開閉操作
・ドレープ ・レース ・図示(　)	・フランスひだ ・箱ひだ　・つまひだ ・プレーンひだ　・片ひだ	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動
・暗幕 (遮光(　)級)	・(　　)	・(　　)	・(　　)

暗幕用カーテン両端、上部及び召合せの重なり
・300mm以上　・(　　)　・図示（図面番号：　　）
カーテンレール　・アルミ製　・ステンレス製
強さによる区分　・10-90　・(　　)
形状　・シングル　・ダブル
断面形状　・角形　・C形　・D形
仕上げ　・アルマイト　・(　　)
付属金物（フック）　・鋼製　・樹脂製

15.プレキャストコンクリート工事
(20.3.2)
(20.3.3)
(20.3.4)
補強鉄線の径　・3.2mm　・(　　)
補強鉄線の網目寸法　・(　　)
設計基準強度Fc　・図示(図面番号：　　)
配筋　・図示(図面番号：　　)
取付方法　・図示(図面番号：　　)

16.間知石及び間知ブロック積
(20.4.2)
(20.4.3)
材種　・(　　)
種類及び質量区分　・図示(図面番号：　　)
積み方　・谷積み　・布積み
目塗り　・(　　)
伸縮調整目地　・材種（　　）・厚さ(　　)mm

㉑ 排水工事

1.排水管
(21.2.1)
(表21.2.1)
排水管用材料

材種	管の種類	呼び径	備考
・硬質ポリ塩化ビニル管	VP		

2.排水桝等
(21.2.1)
・排水桝、ふた
種類等　・図示(図面番号：　　)
・側塊の形状、寸法　・図示（図面番号：　　）
グレーチングの種類

材質	用途	適用荷重	メインバーピッチ	ﾎﾞﾙﾄ固定

場所打ちコンクリート
種類　・普通コンクリート　・(　　)
設計基準強度　・18N/mm2　・(　　)
スランプ　・15cm　・18cm　・(　　) cm
鉄筋の種類等　・SD295　・(　　)
凍結抑制層の材料　・(　　)

原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書（新営）7	A2	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	AEV-07

㉑ 排水工事

3.地業の材料 (21.2.1)
砂
・山砂 ・川砂 ・砕砂 ・( )
砂利
・再生クラッシャラン ・切込砂利 ・切込砕石
試験 ・砂の粒度試験

4.埋め戻し土 (21.2.1)
・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土

5.施工 (21.2.2)
場所打ち排水桝の足掛け金物の材料
・ｽﾃﾝﾚｽ製（幅400mm、径22mm） ・鉄製（径22mm、防錆処置済み）
・合成樹脂被膜加工を行ったもの(径19mm) ・図示（図面番号： ）
遠心力鉄筋コンクリート管
基床の厚さ、種類 ・図示（図面番号： ）
硬質ポリ塩化ビニル管
基床の厚さ、種類 ・図示（図面番号： ）
継手 ・接着剤 ・ゴム輪

⑥街きょ縁石、側溝 (21.3.1) (21.3.2)
コンクリート縁石、側溝
種類、形状、寸法 ⊙図示（図面番号： AEV-17 ）
砂利地業
厚さ ⊙100mm ・図示（図面番号： ）

㉒ 舗装工事

1.路床 (22.2.2) (22.2.3) (表22.2.1) (22.2.4) (22.2.5)
路床の材料（厚さは図示（図面番号： ））
遮断層 ・川砂 ・海砂又は良質な山砂
凍上抑制層 ・切込み砂利 ・砂 ・( )
フィルター層 ・砂
路床安定処理 ・行う
添加材料による安定処理
種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種 ・生石灰( )号
・消石灰( )号
添加量( )kg/㎥(目標CBR ・5以上 ・( ))
盛土に用いる材料
・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土
C種の場合：建設発生土受入量( )m3
片道の運搬距離( )km
試験 ・路床土の支持力比(CBR)試験
・路床締固め度の試験
・現場CBR試験

②路盤 (22.3.2) (表22.3.1) (22.3.3)

舗装の種類	路盤の厚さ(mm) 車道部	路盤の厚さ(mm) 歩道部	路盤材料
⊙アスファルト舗装	⊙(150)	・( )	⊙再生クラッシャラン
・カラー舗装	・( )	・( )	・クラッシャラン
・透水性アスファルト舗装	・( )	・( )	鉄鋼スラグ
・インターロッキングブロック舗装	・( )	・( )	・クラッシャラン
・( )	・( )	・( )	・( )

③アスファルト舗装 (22.4.2)～(22.4.6) (表22.4.1)～(表22.4.6)
舗装の構成及び厚さ ⊙A-5-15 ・図示(図面番号：)
・A-3-10 ・( )
平坦性
⊙通行の支障となる水たまりを生じない程度
・図示（図面番号： ）
再生ｱｽﾌｧﾙﾄの種類 ⊙60～80 ・80～100 ・図示（図面番号： ）
表層の種類
⊙密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(13) ・細粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(13)
・( )
試験 ・アスファルト混合材等の抽出試験

4.コンクリート舗装 (22.5.2)～(22.5.6) (表22.5.1)
舗装の構成及び厚さ ・図示(図面番号：)
平坦性
・通行の支障となる水たまりを生じない程度
・図示（図面番号： ）
コンクリートの種類 ・普通コンクリート ・図示（図面番号 ）
設計基準強度等 ・標準仕様書［表22.5.1］ ・( )
早強セメント ・使用する
注入目地材料 ・低弾性タイプ ・高弾性タイプ
目地 ・種類( ) ・間隔( )
・標準仕様書［表22.5.3］
目地の構造 ・標準仕様書[図22.5.1] ・図示（図面番号： ）

5.カラー舗装 (22.6.2) (22.6.3) (22.6.4) (表22.6.1)
種類
・加熱系 構成及び厚さ（ ）
結合材 ・アスファルト ・石油樹脂系（顔料の添加量： ）
添加材 ・着色骨材 ・自然石
・常温系
工法 ・ニート工法 ・塗布工法
着色部下部 ・アスファルト舗装 ・コンクリート舗装
ニート工法及び塗布工法の配合その他 ・図示（図面番号： ）
試験 ・アスファルト混合物等の抽出試験

6.透水性アスファルト舗装 (22.7.2)(表22.7.1)
舗装構成 ・図示（図面番号： ）
平坦性 ・著しい不陸がないこと ・図示（図面番号： ）

7.ブロック系舗装 (22.8.2) (22.8.3) (表22.8.1)

舗装	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	備考
・コンクリート平板舗装	・普通平板 ・透水平板	・300角 ・( )	・60 ・( )	目地 ・砂 ・モルタル 表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し
・インターロッキングブロック舗装	・普通ブロック ・透水性ブロック		車道部 ・80 ・( ) 歩道部 ・60 ・( )	表面加工 ・標準品 ・( ) 曲げ強度 ・( )
	・植生用ブロック		・80・100	
・舗石舗装	・小舗石 ・花こう岩 ・( )		・80～100	施工方法 ・うろこ張り ・( ) 基層 ・コンクリート舗装 ・アスファルト舗装 基層の厚さ ・( ) mm

コンクリートの平板舗装及び舗石舗装のクッション材
・砂 ・空練りモルタル ・図示（図面番号： ）
平坦性 ・平板等の段差3mm以内 ・図示（図面番号： ）

8.砂利敷き (22.9.2) (表22.9.1)
・通路部 ・A種 ・B種 ・( )
・建物周囲 ・A種 ・B種 ・( )

23 植栽工事

1.植栽地の確認 (23.1.3)
試験 ・土壌の水素イオン濃度(pH)試験
・電気伝導度類(EC)の試験
・( )の試験

2.植栽基盤 (23.2.2) (23.2.3) (表23.2.1) (表23.2.2)
植栽基盤整備工法
樹木 ・A種 ・( )
芝及び地被類 ・B種 ・( )
有効土層 面積 ・図示（図面番号： ）
厚さ ・図示（図面番号： ）
排水設備 ・設ける
（・暗きょ ・開きょ ・排水層 ・縦穴排水 ・(））
植込み用土 ・現場発生の良質土 ・客土
土壌改良材 種類、指定量 ・( )

3.植樹 (23.3.2) (23.3.3)
樹木の種類 ・図示(図面番号：)
寸法 ・図示(図面番号：)
株立数 ・図示(図面番号：)
刈込み ・あり ・なし
支柱材
・丸太(防腐処理方法 ・加圧式防腐処理方法 ・(））
・( )
支柱形式 ・添え柱形 ・鳥居形 ・八ツ掛け形
・布掛け形 ・ワイヤ掛け形 ・地下埋設形
幹巻き用材料 ・幹巻き用テープ ・わら ・こも

4.新植樹木の枯補償 (23.3.4)
引渡しの日から ・1年 ・( )

5.移植樹木の枯損処理 (23.3.6)
引渡しの日から ・1年 ・( )

6.芝張り、吹付けは種及び地被類 (23.4.2) (23.4.3) (23.4.7)
種類 ・コウライシバ ・ノシバ ・( )
吹付けは種用種子 種類 ・標準仕様書[23.4.2](3)(ｱ)後段
・図示（図面番号： ）
量 ・( ) ・図示（図面番号： ）
地被類種類、芽立数、径、単位面積当たりの株数
・図示（図面番号： ）
芝張り工法
平地 ・目地張り ・べた張り ・図示（図面番号： ）
法面 ・目地張り ・べた張り ・図示（図面番号： ）
芝張り、吹付けは種及び地被類の枯補償期間
・引渡日から1年間 ・( )

7.屋上緑化 (23.5.2) (23.5.3) (23.5.4) (23.5.5)
植栽基盤及び材料
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ ・図示(図面番号：)
排水層 ・軽量骨材(層の厚さ：) ・板状成形品
植込み用土 ・改良土 ・人工軽量土
樹種・種類、寸法、株立数、刈込み
・図示(図面番号：)
芝及び地被類の樹種並びに種類等
・図示(図面番号：)
見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等
・図示(図面番号：)
風圧力に対応した工法（建設省告示第1458号）
・図示（図面番号： ）
支柱 ・図示(図面番号：)
かん水装置 ・図示(図面番号：)
新植樹木の枯補償期間
・引渡日から1年間 ・図示（図面番号： ）
芝及び地被類の枯補償期間
・引渡日から1年間 ・図示（図面番号： ）

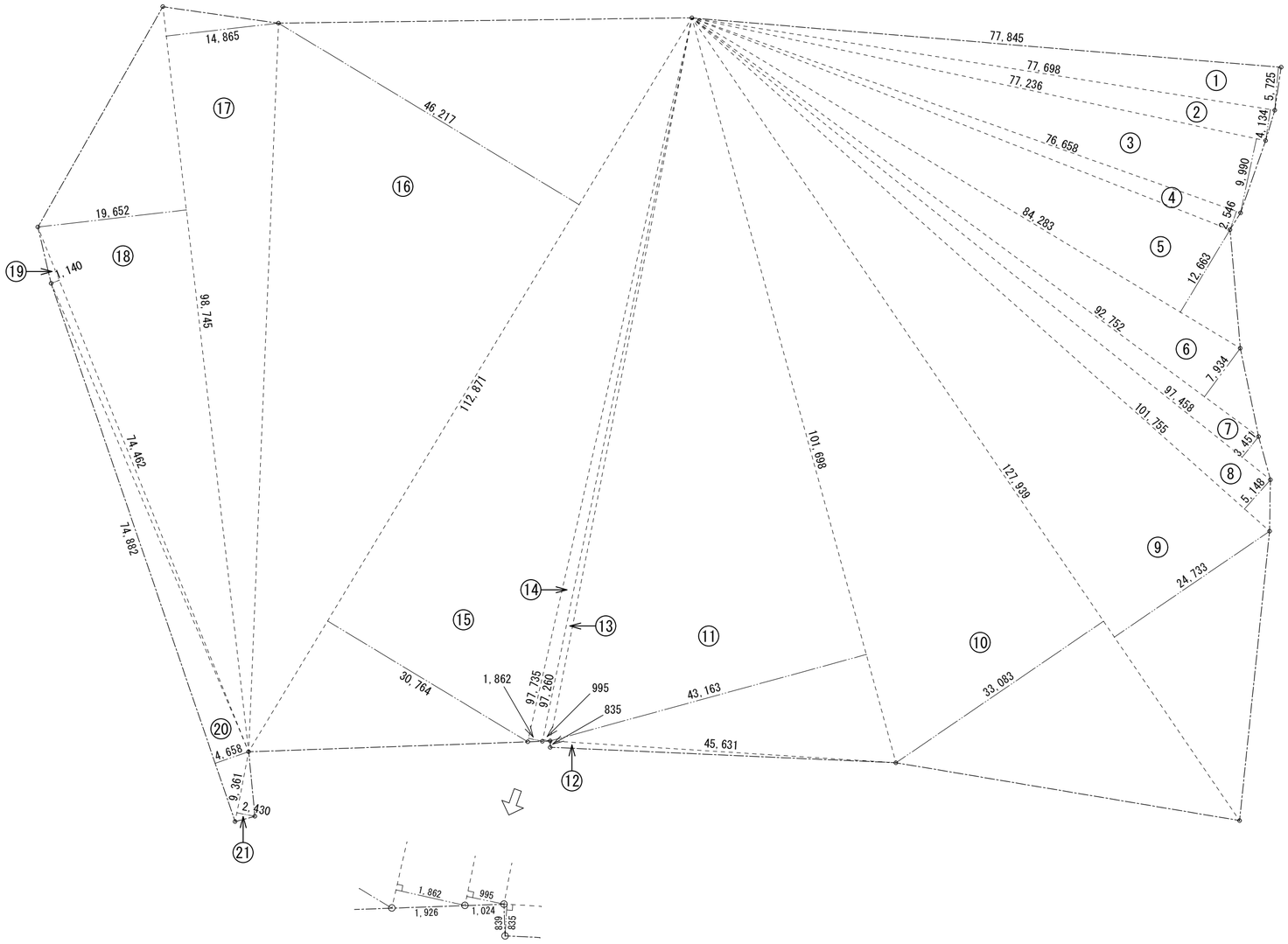
24 外構工事

1.旗竿
材種 ・アルミニウム製 ・( )
形式 テーパー付き ・ロープ式 ・ハンドル式
脚部 ・埋込式 ・ベース式
高さ ・5m ・6m ・7m

2.フェンス
・ネットフェンス ・網材種(・ビニル被覆鉄線 ・( ))
・メッシュフェンス
網材種(・樹脂皮膜 ・工場塗装 ・( ))
・格子フェンス
網材種(・樹脂皮膜 ・工場塗装 ・( ))

原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書（新営）8	A2	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	AEV-08



S=1/100

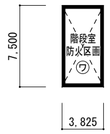
敷地求積図　S=1/500

①	77.845 × 5.725	445.662625
②	77.698 × 4.134	321.203532
③	77.236 × 9.990	771.587640
④	76.658 × 2.546	195.171268
⑤	84.283 × 12.663	1067.275629
⑥	92.752 × 7.934	735.894368
⑦	97.458 × 3.451	336.327558
⑧	101.755 × 5.148	523.834740
⑨	127.939 × 24.733	3164.315287
⑩	127.939 × 33.083	4232.605937
⑪	101.698 × 43.163	4389.590774
⑫	45.631 × 0.835	38.101885
⑬	97.260 × 0.995	96.77370
⑭	97.735 × 1.862	181.98257
⑮	112.871 × 30.764	3472.363444
⑯	112.871 × 46.217	5216.559007
⑰	98.745 × 14.865	1467.844425
⑱	98.745 × 19.652	1940.536740
⑲	74.462 × 1.140	84.886680
⑳	74.882 × 4.658	348.800356
㉑	9.361 × 2.430	22.747230
		29054.065395
29054.065395 ÷ 2		14527.032697
敷地面積（㎡）		14527.03（㎡）

原図：A２

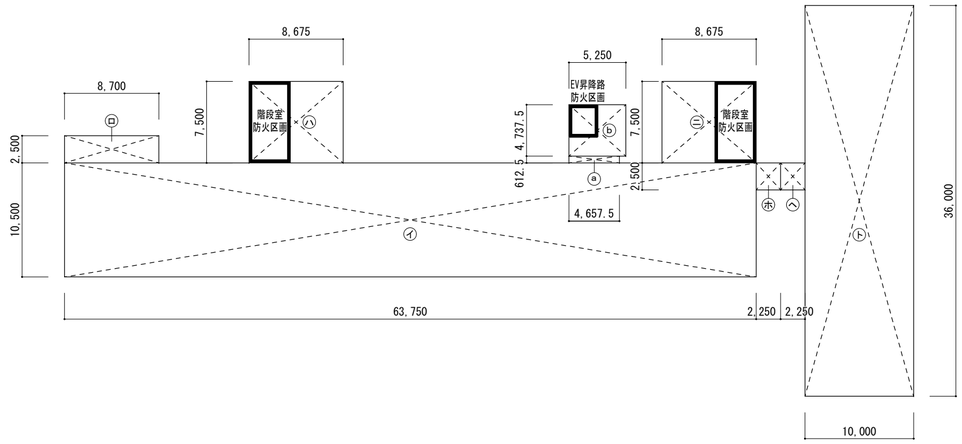
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE		設計者	No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	敷地求積図	A2 1/500	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	一級建築士 第317991号 山本 覚康	AEV-09

R 階



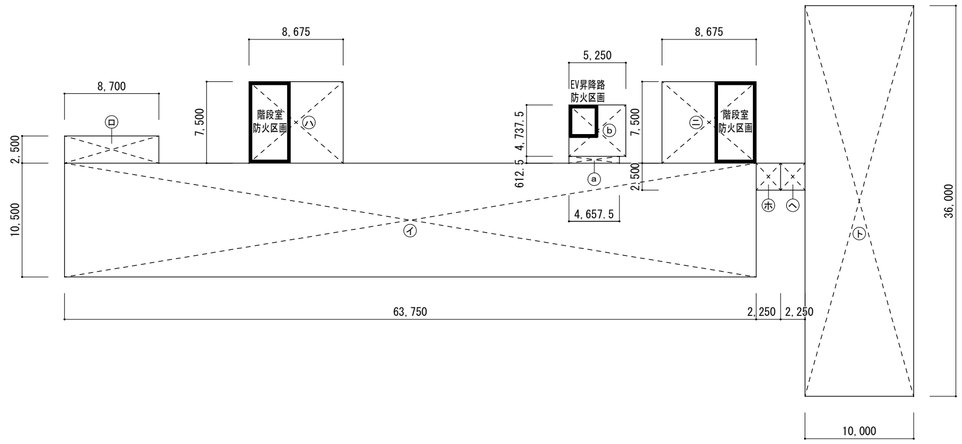
ワ	3.825×7.500=28.6875	28.687
管理・普通教室棟	ワ	28.687 ㎡
R階　床面積		28.68 ㎡

3 階



イ	63.750×10.500=669.375	669.375
ロ	8.700× 2.500= 21.750	21.750
ハ	8.675× 7.500= 65.0625	65.062
ニ	8.675× 7.500= 65.0625	65.062
ホ	2.250× 2.500= 5.625	5.625
ヘ	2.250× 2.500= 5.625	5.625
ト	10.000×36.000=360.000	360.000
ⓐ	4.6575×0.6125= 2.8527	2.852
ⓑ	5.250×4.7375= 24.8718	24.871
管理・普通教室棟	イ+ロ+ハ+ニ+ホ	826.874 ㎡
特別教室棟	ヘ+ト	365.625 ㎡
EV棟	ⓐ+ⓑ	27.723 ㎡
3階　床面積		1220.22 ㎡

2 階



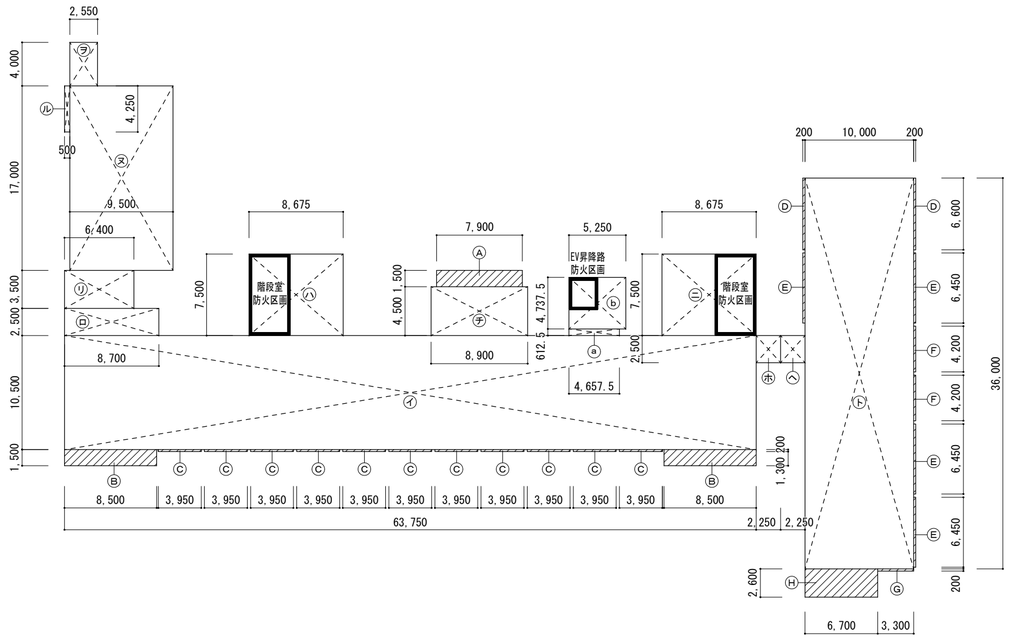
イ	63.750×10.500=669.375	669.375
ロ	8.700× 2.500= 21.750	21.750
ハ	8.675× 7.500= 65.0625	65.062
ニ	8.675× 7.500= 65.0625	65.062
ホ	2.250× 2.500= 5.625	5.625
ヘ	2.250× 2.500= 5.625	5.625
ト	10.000×36.000=360.000	360.000
ⓐ	4.6575×0.6125= 2.8527	2.852
ⓑ	5.250×4.7375= 24.8718	24.871
管理・普通教室棟	イ+ロ+ハ+ニ+ホ	826.874 ㎡
特別教室棟	ヘ+ト	365.625 ㎡
EV棟	ⓐ+ⓑ	27.723 ㎡
2階　床面積		1220.22 ㎡

●建物求積表

	計算式	延床面積
管理・普通教室棟	861.299 + 826.874 + 826.874 + 28.687	2543.73 ㎡
特別教室棟	360.000 + 365.625 + 365.625	1091.25 ㎡
給食棟	196.225	196.22 ㎡
ＥＶ棟	27.723 + 27.723 + 27.723	83.16 ㎡
合　計	延床面積	3914.36 ㎡

	計算式	建築面積
管理・普通教室棟	管理・普通教室棟 1階床面積＋Ⓐ＋Ⓑ× 2 ＋Ⓒ×11＋ホ 861.299 + 11.850 + 25.500 + 8.690 + 5.625	912.96 ㎡
特別教室棟	特別教室棟 1階床面積＋Ⓓ×②＋Ⓔ×④＋Ⓕ×②＋Ⓖ＋Ⓗ＋ヘ 360.000+2.640+5.160+1.680+0.660+17.420+5.625	393.18 ㎡
給食棟	196.225	196.22 ㎡
ＥＶ棟	27.723	27.72 ㎡
合　計	建築面積	1530.08 ㎡

1 階



イ	63.750×10.500=669.375	669.375
ロ	8.700× 2.500= 21.750	21.750
ハ	8.675× 7.500= 65.0625	65.062
ニ	8.675× 7.500= 65.0625	65.062
ホ	2.250× 2.500= 5.625	5.625
ヘ	2.250× 2.500= 5.625	5.625
ト	10.000×36.000=360.000	360.000
チ	8.900× 4.500= 40.050	40.050
リ	6.400× 3.500= 22.400	22.400
ヌ	9.500× 17.000=161.500	161.500
ル	0.500× 4.250= 2.125	2.125
ヲ	2.550× 4.000= 10.200	10.200
ⓐ	4.6575×0.6125= 2.8527	2.852
ⓑ	5.250×4.7375= 24.8718	24.871
Ⓐ	7.900× 1.500= 11.850	11.850
Ⓑ ×2	8.500× 1.500×2=25.500	25.500
Ⓒ ×11	3.950×0.200×11= 8.690	8.690
Ⓓ ×2	0.200× 6.600×2= 2.640	2.640
Ⓔ ×4	0.200× 6.450×4= 5.160	5.160
Ⓕ ×2	0.200× 4.200×2= 1.680	1.680
Ⓖ	3.300× 0.200= 0.660	0.660
Ⓗ	6.700× 2.600= 17.420	17.420
管理・普通教室棟	イ+ロ+ハ+ニ+チ	861.299 ㎡
特別教室棟	ト	360.000 ㎡
給食棟	リ+ヌ+ル+ヲ	196.225 ㎡
EV棟	ⓐ+ⓑ	27.723 ㎡
1階　床面積		1445.24 ㎡
建築面積	1階床面積＋Ⓐ＋Ⓑ× 2 ＋Ⓒ×11＋Ⓓ×②＋Ⓔ×④＋Ⓕ×②＋Ⓖ＋Ⓗ＋ホ＋ヘ	1530.09 ㎡

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE		No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	建物求積表	A2	1/400	AEV-10

一級建築士事務所
三重県登録第1-2396号
山本一級建築士事務所
管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号）
〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779
設計者　一級建築士 第317991号　山本　覚康

●外部仕上表

屋　根	平場：ｳﾚﾀﾝ塗膜防水（X-1工法）　脱気筒設置 立上り：ｳﾚﾀﾝ塗膜防水（X-2工法）※立上り天端ﾏﾃﾞ ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ押え（水勾配付）山上80～120 ﾜｲﾔﾒｯｼｭ6φ　150×150　合成床版用ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ　t=1.2　ｱﾙﾐ笠木：W=175	樋	ﾀﾃ樋：VP管φ100（ｶﾗｰ） 掴み金物（SUS製）@900
外　壁	ALC t=125 縦壁ﾛｯｷﾝｸﾞ工法（１時間耐火） 下地調整の上　複層仕上塗材Ｅ吹付け	その他	避難用シューター　フック基礎　×２ヵ所 （既設ｼｭｰﾀｰ本体は３階廊下に設置） ＥＶ棟増築に伴い撤去 移設
巾　木	ﾓﾙﾀﾙ塗りｺﾃ押え		
備　考			

●内部仕上表

階　数	室　名		床	巾　木	壁	天　井	廻り縁	天井高	備　考
1･2･3階	ＥＶホール	新　設	ﾓﾙﾀﾙ下地 ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.5	塩ビ製 H=100	LGS65下地 石こうﾎﾞｰﾄﾞ t=9.5 ＋ ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=6.0　EP塗装	LGS19下地 化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ張り t=9.5	塩ビ製	１階　2,680 ２階　2,680 ３階　2,620	柱型 下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
	ＥＶ昇降路	新　設	――	――	柱・梁 耐火被覆：ﾛｯｸｳｰﾙ吹付 t=25	――	――		室名札（ﾋﾟｸﾄｻｲﾝ）（EVﾎｰﾙ側に取付け）
	1階　ピロティ	新　設	土間スラブ t=150 のうえ ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ仕上げ	――	――	LGS25下地 ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板張り t=6.0 目透かし張り EP塗装	――		
	2･3階　多目的トイレ	新　設	長尺塩ビシート張り t=2.5	塩ビ製 H=100	LGS65下地 ｼｰｼﾞﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ張り t=12.5 ＋ ﾒﾗﾐﾝ化粧板張り t=3	LGS19下地 化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ張り t=9.5	塩ビ製	２階　2,500 ３階　2,450	室名札（ﾋﾟｸﾄｻｲﾝ）（EVﾎｰﾙ側に取付け）
備　考									

●既設校舎 耐火性能表

柱	１時間耐火
梁	１時間耐火
床 (t=120)	１時間耐火
屋根 (t=120)	３０分耐火
階段 (t=150)	３０分耐火
外壁 (t=200)	１時間耐火
間仕切壁 (t=120)	１時間耐火

耐火性能認定番号				防火性能認定番号		備　考
柱	吹付ﾛｯｸｳｰﾙ t=25	１時間耐火	FP060CN-9460	化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ t=9.5	準不燃 QM-9824	・使用建築材料は全てﾉﾝｱｽﾍﾞｽﾄ製品とする
梁	吹付ﾛｯｸｳｰﾙ t=25	１時間耐火	FP060BM-9408	石こうﾎﾞｰﾄﾞ t=9.5	準不燃 QM-9828	・増築建物および既存建物からｱｽﾍﾞｽﾄ発散の恐れはないものとする
外壁	ALC t=125	１時間耐火	一般指定 告示第1399号	ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=8.0	不燃 NM-8578	
間仕切壁	ALC t=125	１時間耐火	一般指定 告示第1399号			
合成床版用ﾃﾞｯｷ （２・３階）		１時間耐火	FP060FL-9101	ｴﾚﾍﾞｰﾀｰ出入口扉：特定防火設備 CAS-0519		
合成床版用ﾃﾞｯｷ （R階）		１時間耐火	FP060FL-9095	特定防火設備 平成12年建設省告示第1369号		

●消防法による有窓階の検討

	１　階				２　階				３　階			
必要開口面積（1/30）	1445.24×1/30＝48.18				1220.22×1/30＝40.68				1220.22×1/30＝40.68			
有効開口面積	建具	開口面積	開口部数	設置箇所数	建具	開口面積	開口部数	設置箇所数	建具	開口面積	開口部数	設置箇所数
	AW-1	1.75×1.10×1/2＝0.96	0.96×2＝1.92	1.92×4＝7.68	AW-5	0.815×0.84＝0.68	0.68×4＝2.72	2.72×9＝24.48	AW-5	0.815×0.84＝0.68	0.68×4＝2.72	2.72×9＝24.48
	AW-1´-2	1.75×1.10×1/2＝0.96	0.96×2＝1.92	1.92×1＝1.92	AW-7	0.82×1.44＝1.18	1.18×4＝4.72	4.72×4＝18.88	AW-7	0.82×1.44＝1.18	1.18×4＝4.72	4.72×4＝18.88
	AW-2	1.75×2.00×1/2 ＋ 1.75×1.10×1/2＝2.71	2.71×1＝2.71	2.71×1＝2.71								
	AW-3	1.75×2.00×1/2 ＋ 1.75×1.10×1/2＝2.71	2.71×1＝2.71	2.71×1＝2.71								
	SD-1	0.735×1.70＝1.24	1.24×2＝2.48	2.48×1＝2.48								
	SD-1´	0.735×1.70＝1.24	1.24×2＝2.48	2.48×1＝2.48								
	SD-2	0.835×1.70＝1.41	1.41×2＝2.82	2.82×1＝2.82								
	SD-2´	0.835×1.70＝1.41	1.41×2＝2.82	2.82×1＝2.82								
	AW-7	0.82 ×1.44＝1.18	1.18×4＝4.72	4.72×3＝14.16								
	AW-16	1.976×1.5×1/2＝1.48	1.48×3＝4.44	4.44×2＝8.88								
			合　計	48.66			合　計	43.36			合　計	43.36
判　定	48.18 ㎡ ≦48.66 ㎡　……有窓（OK）				40.68 ㎡ ≦43.36 ㎡　……有窓（OK）				40.68 ㎡ ≦43.36 ㎡　……有窓（OK）			

●消防設備

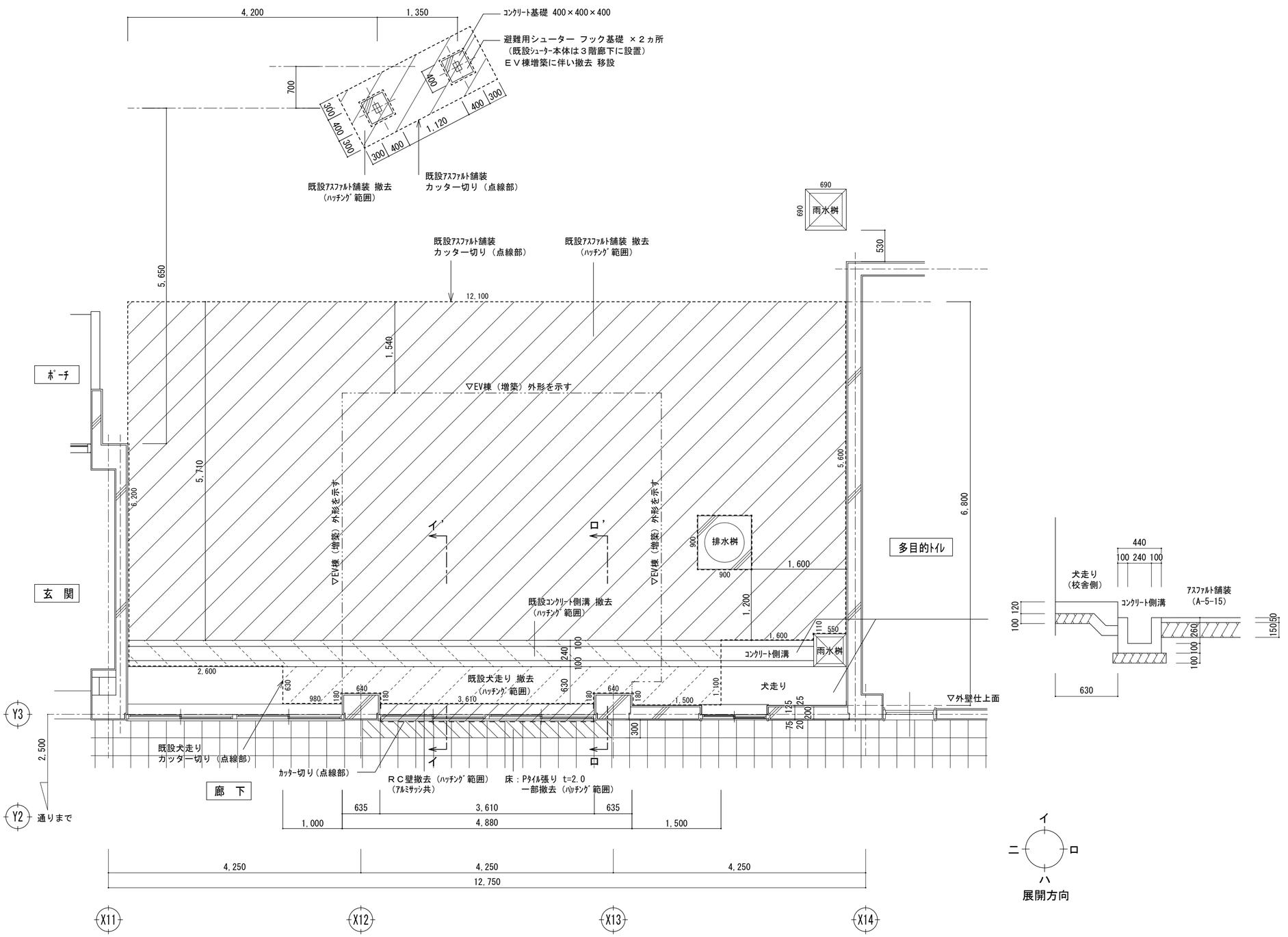
用途：小学校　７項
収容人員：教職員19人（1階職員室）＋生徒98人（2階教室計 53人、3階教室計 45人）＝計 117人
各階収容人員：１階 19人（生徒 0人＋教職員19人）（1階職員室に教職員待機時）
２階 58人（生徒53人＋教職員 5人）（教室に生徒および教職員がいる場合）
３階 48人（生徒45人＋教職員 3人）（教室に生徒および教職員がいる場合）
避難器具：救助袋 ３階廊下に２ヵ所あり（既設）　※避難器具は自主設置とする

※消防開口に算入する建具について、内側から鍵を用いずに手動で開放可能である。
※消防開口に算入する建具について、開口部から道に通ずる通路は有効幅員１ｍ以上である。

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	仕上表（増築）	A2	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	No. AEV-11	

EV棟 増築

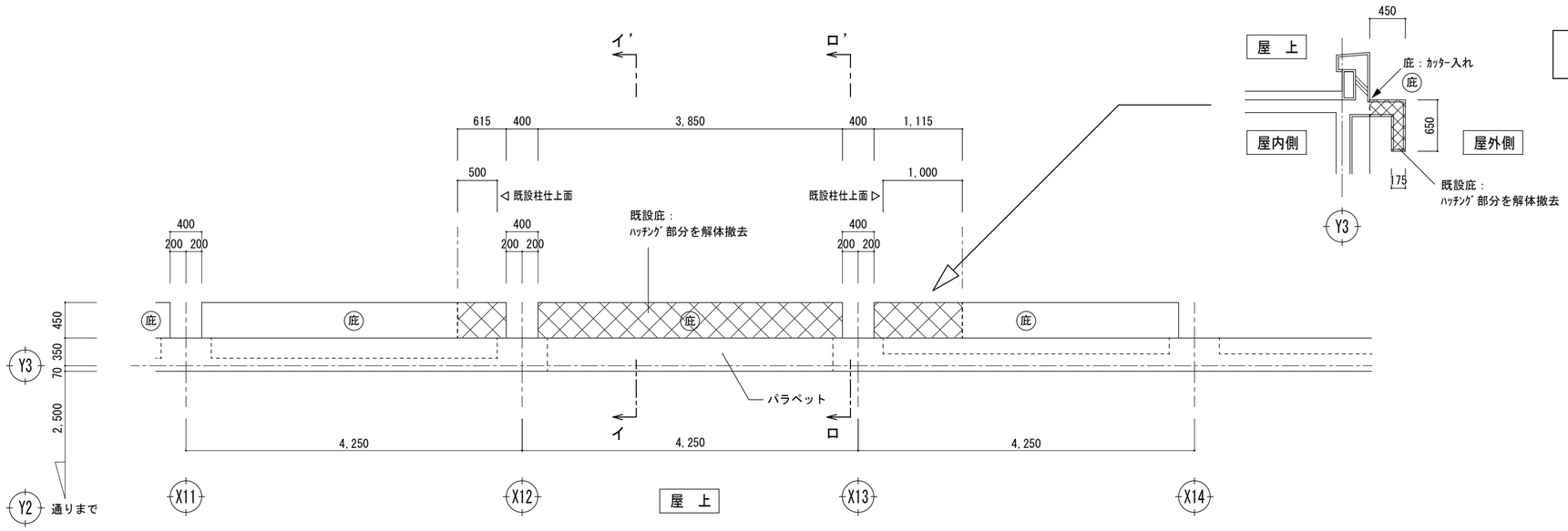


［増築前］１階平面詳細図 S=1/50

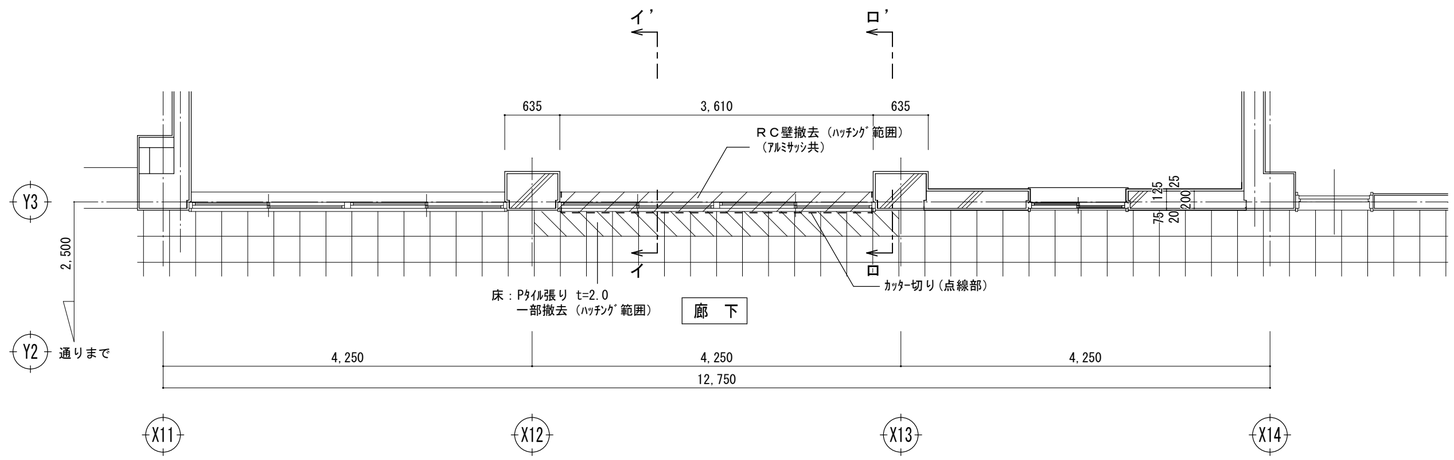
原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	EV棟 ［増築前］１階平面詳細図	A2 1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康		AEV-12

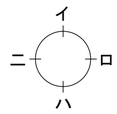
EV棟 増築



［増築前］Ｒ階平面詳細図　S=1/50



［増築前］2，3階平面詳細図　S=1/50

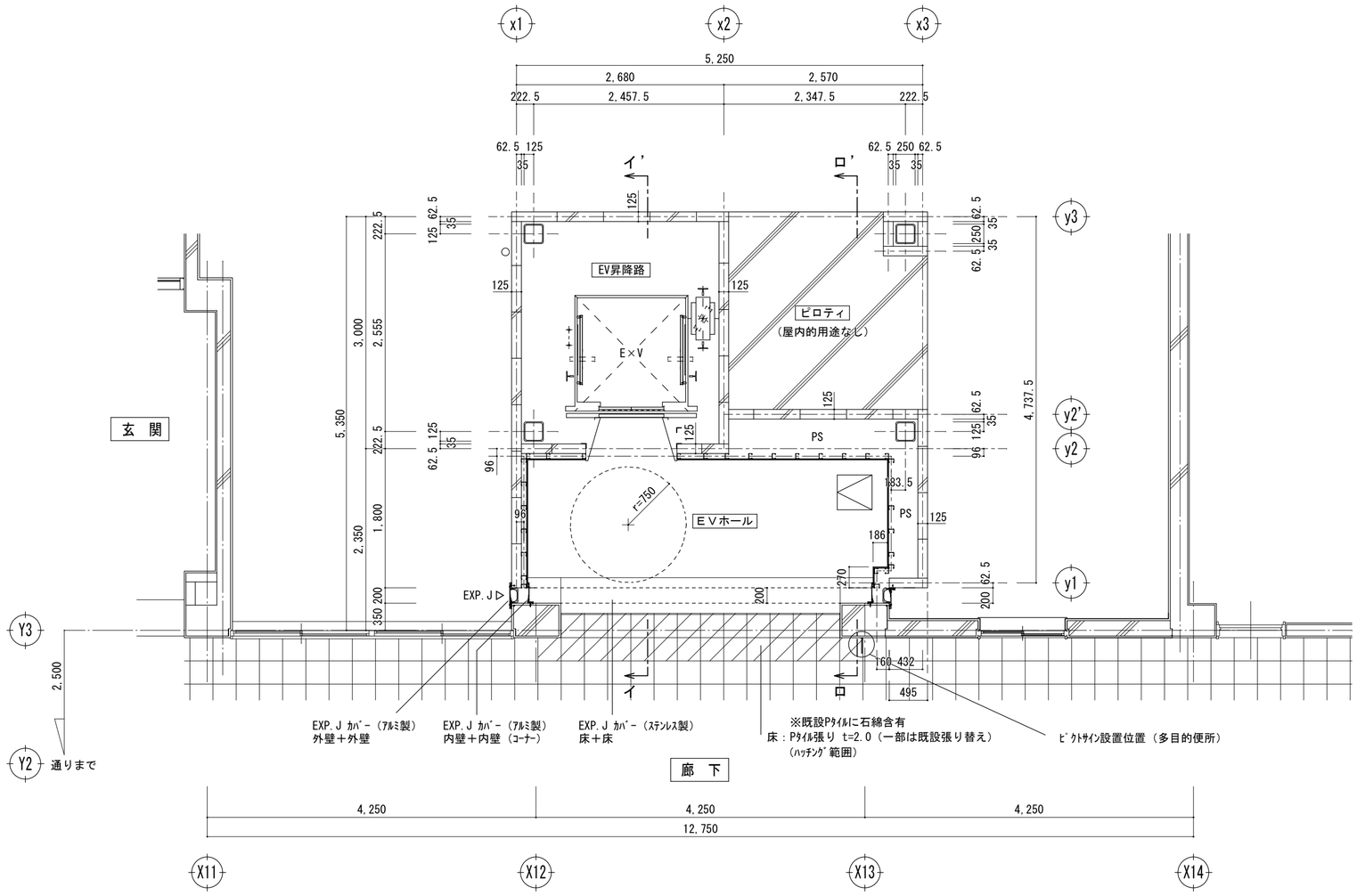


展開方向

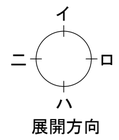
原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	EV棟 ［増築前］Ｒ階平面詳細図 ［増築前］2，3階平面詳細図	A2	1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	AEV-13

EV棟 増築



［増築後］１階平面詳細図 S=1/50



●仕上表

室名	部位	仕 様
EVホール	天井	LGS19下地 化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ張り t=9.5
	壁	LGS65下地 石こうﾎﾞｰﾄﾞt=9.5 ＋ ｹｲｶﾙ板t=6.0 EP塗装
	巾木	塩ビ製巾木 H=100
	床	ﾓﾙﾀﾙ下地 ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.5
	備考	
EV昇降路	柱・梁	耐火被覆：ﾛｯｸｳｰﾙ吹付 t=25
ﾋﾟﾛﾃｨ	床	土間スラブ t=150 のうえ、ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ仕上げ

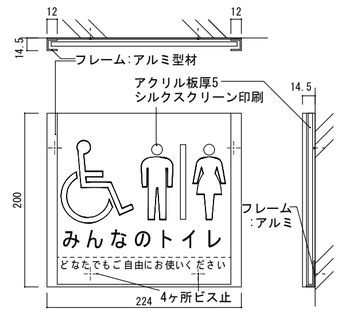
…… 天井点検口 新設 450×450

●床面積

階	計算式	床面積
１階	5.25 × 4.7375	24.87 （㎡）

●昇降路面積

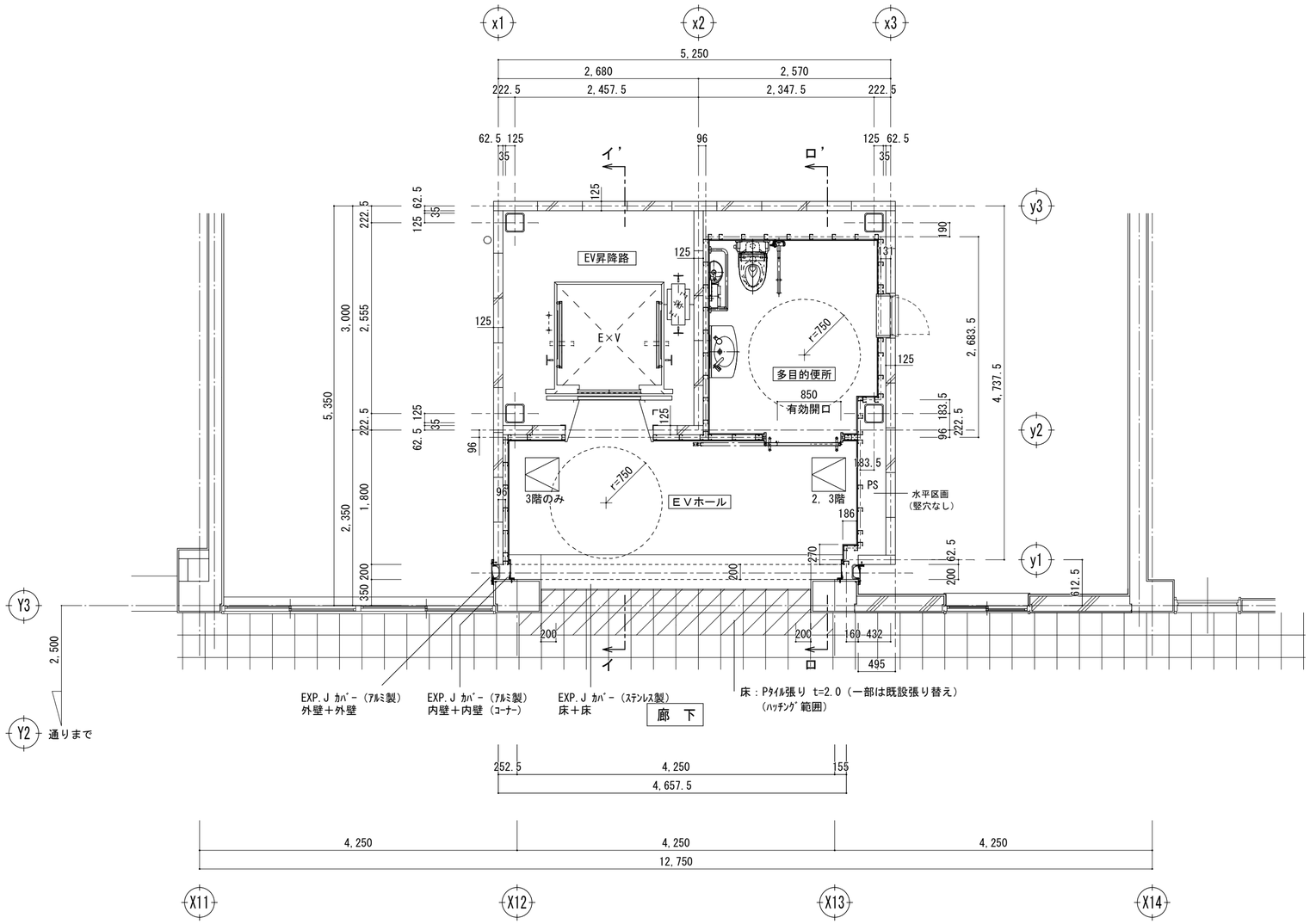
階	計算式	延床面積
1～3階	3.00 × 2.68 × 3（階）	24.12 （㎡）



多目的便所 ﾋﾟｸﾄｻｲﾝ姿図 S=1/5

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	EV棟 ［増築後］１階平面詳細図	A2 1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	AEV-14

EV棟 増築



●仕上表

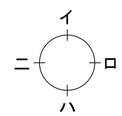
室名	部位	仕 様
EVホール	天井	LGS19下地 化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ張り t=9.5
	壁	LGS65下地 石こうﾎﾞｰﾄﾞt=9.5 ＋ ｹｲｶﾙ板t=6.0 EP塗装
	巾木	塩ビ製巾木 H=100
	床	ﾓﾙﾀﾙ下地 ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.5
	備考	
多目的便所	天井	LGS19下地 化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ張り t=9.5
	壁	LGS65下地 ｼｰｼﾞﾝｸﾞ石こうﾎﾞｰﾄﾞt=12.5 ＋ ﾒﾗﾐﾝ化粧板t=3.0
	巾木	塩ビ製巾木 H=100
	床	ﾓﾙﾀﾙ下地 ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.5
	備考	
EV昇降路	柱・梁	耐火被覆：ﾛｯｸｳｰﾙ吹付 t=25

◁ …… 天井点検口 新設 450×450

●床面積

階	計算式	床面積
３階	5.25 × 4.7375	24.87 （㎡）
２階	5.25 × 4.7375	24.87 （㎡）

［増築後］２，３階平面詳細図 S=1/50

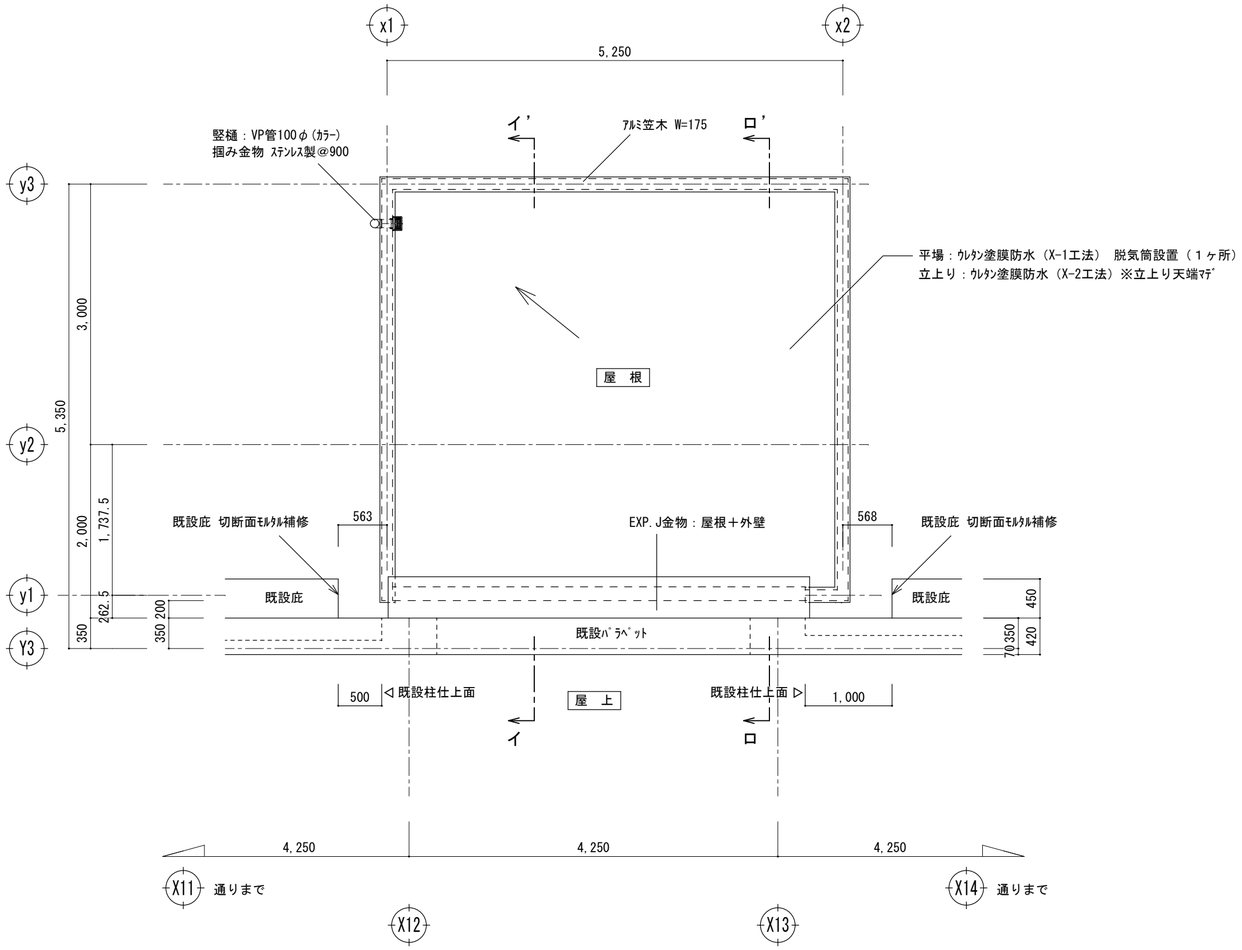


展開方向

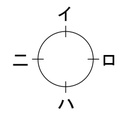
原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE					No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	EV棟 ［増築後］２，３階平面詳細図	A2 1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康			AEV-15

EV棟　増築



［増築後］Ｒ階平面詳細図　S=1/50

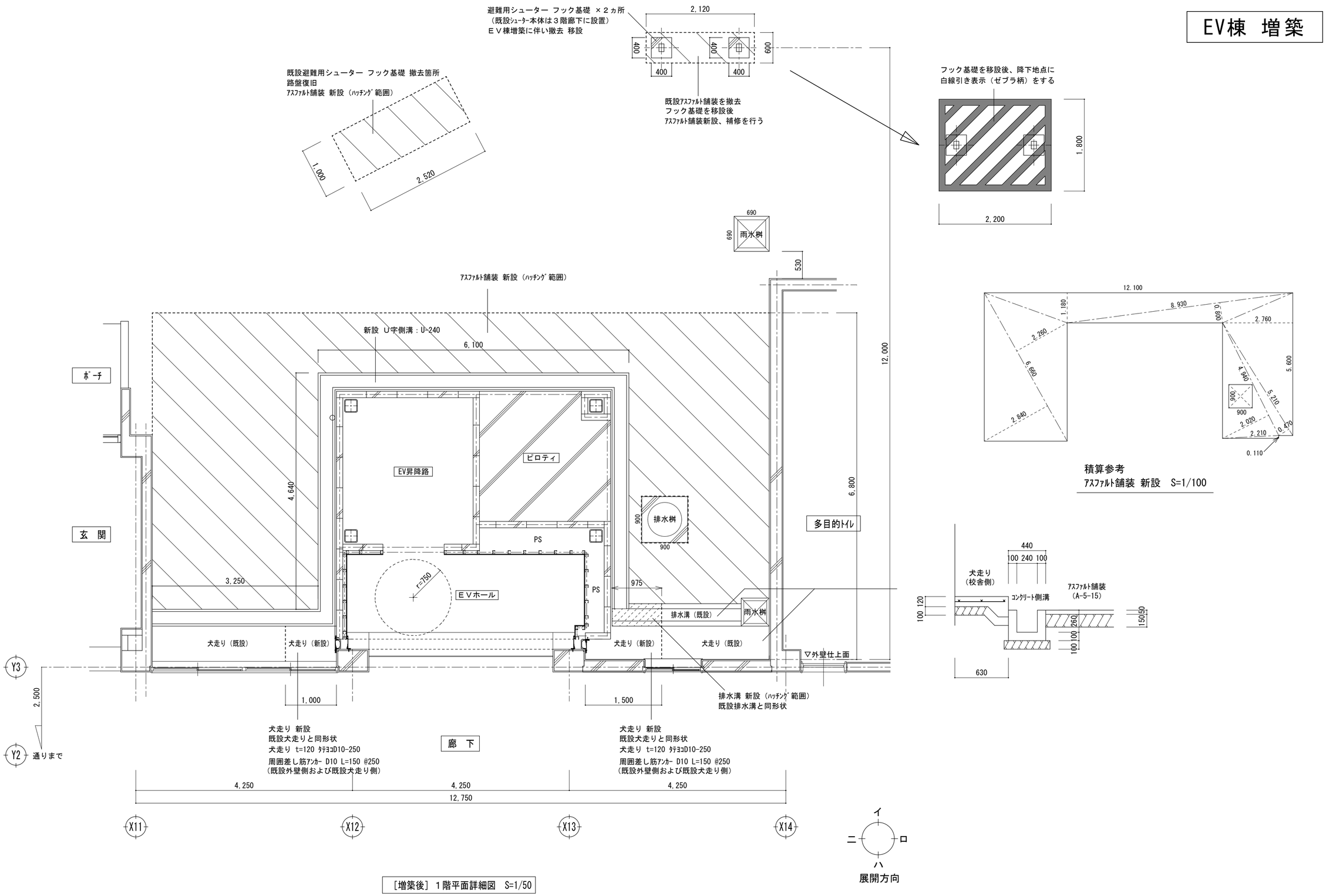


展開方向

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	EV棟 ［増築後］Ｒ階平面詳細図	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	No.	AEV-16

EV棟 増築

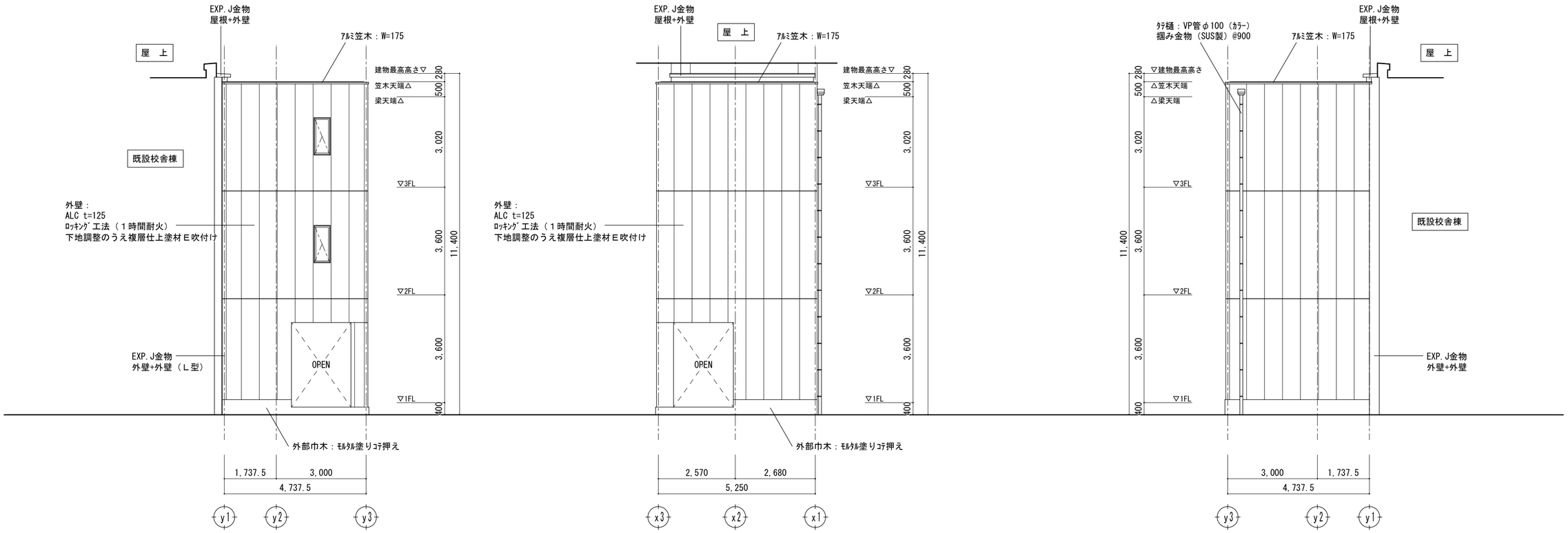


［増築後］１階平面詳細図 S=1/50

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	EV棟 ［増築後］外構図	A2 1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	AEV-17

EV棟 増築



［増築後］東立面図　S=1/100

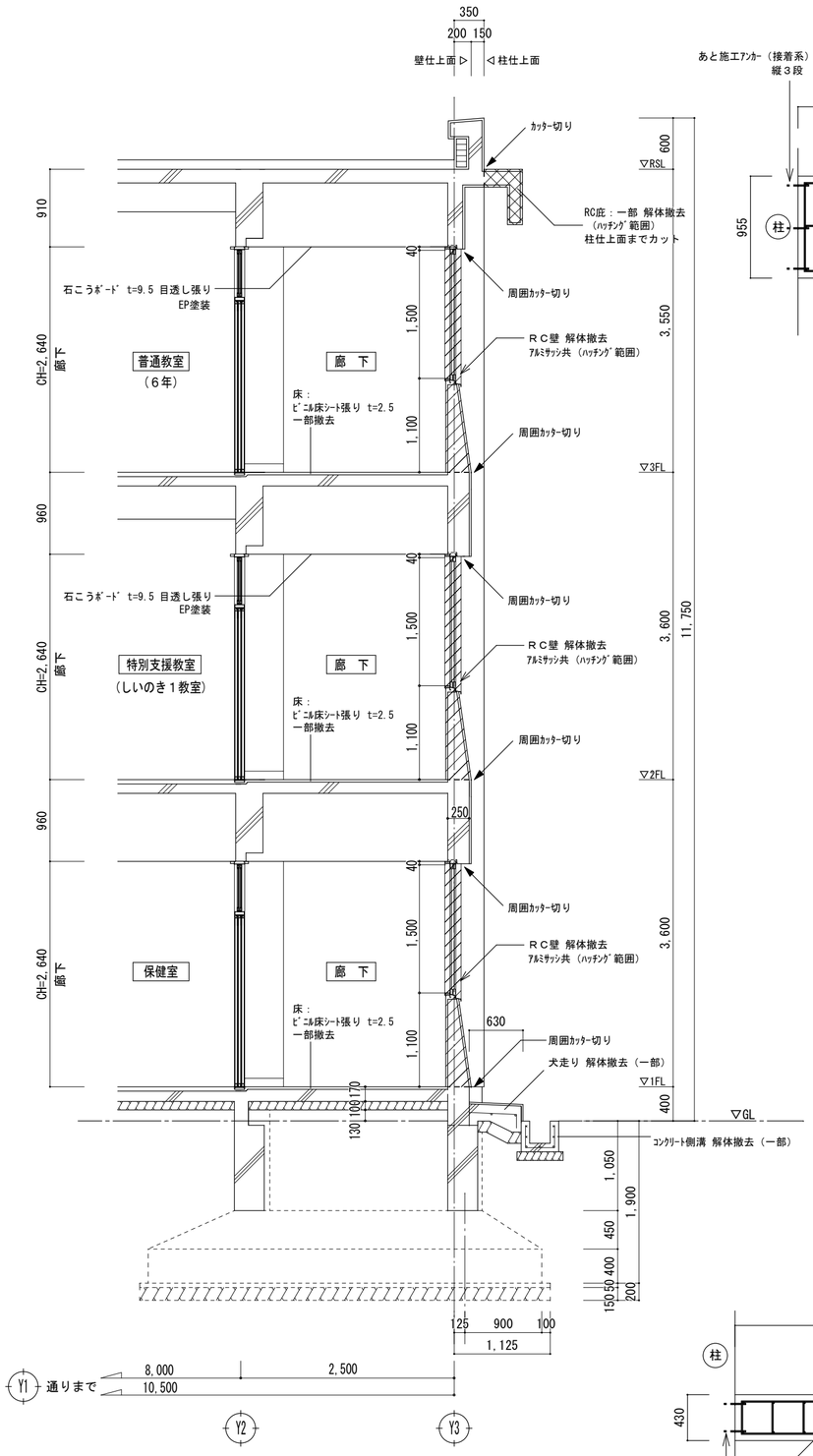
［増築後］北立面図　S=1/100

［増築後］西立面図　S=1/100

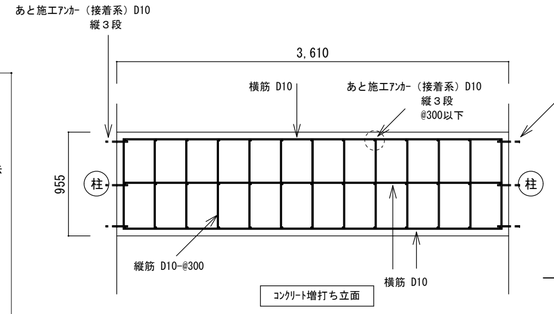
原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 ［増築後］立面図	A2　1/100	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		No. AEV-18

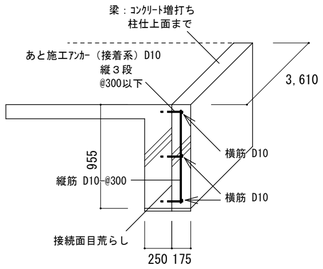
EV棟　増築



［増築前］矩計図　S=1/50

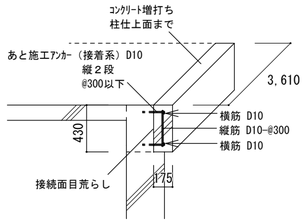


コンクリート増打ち立面



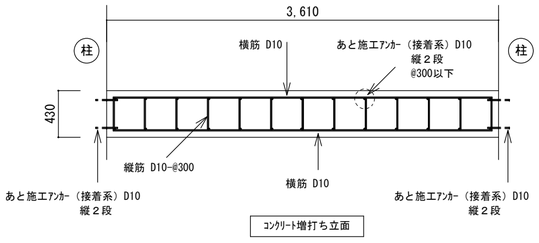
既設梁増打ち詳細図　S=1/40

（管理・普通教室棟＋EV棟接続部）

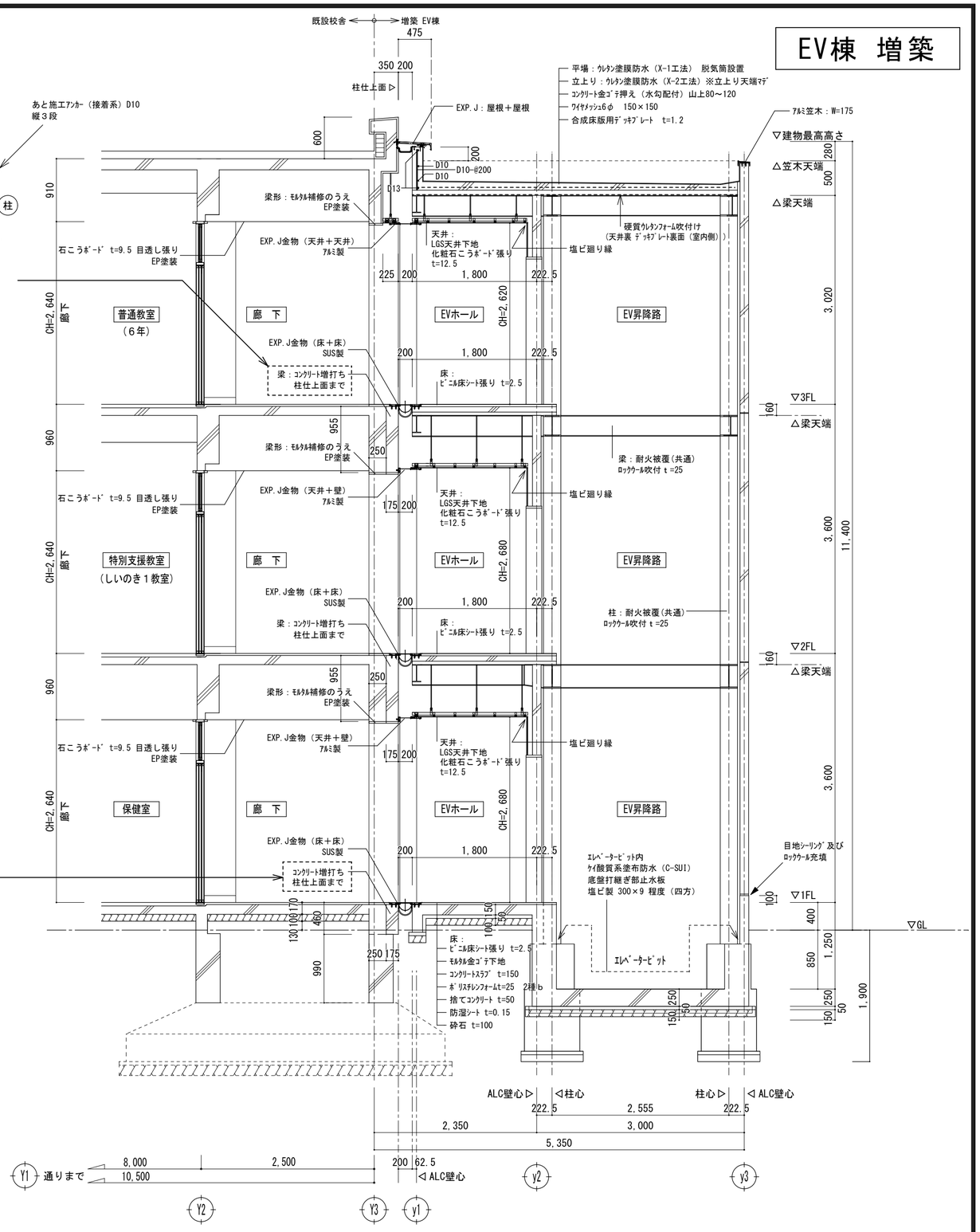


増打ち詳細図　S=1/40

（管理・普通教室棟＋EV棟接続部）



コンクリート増打ち立面

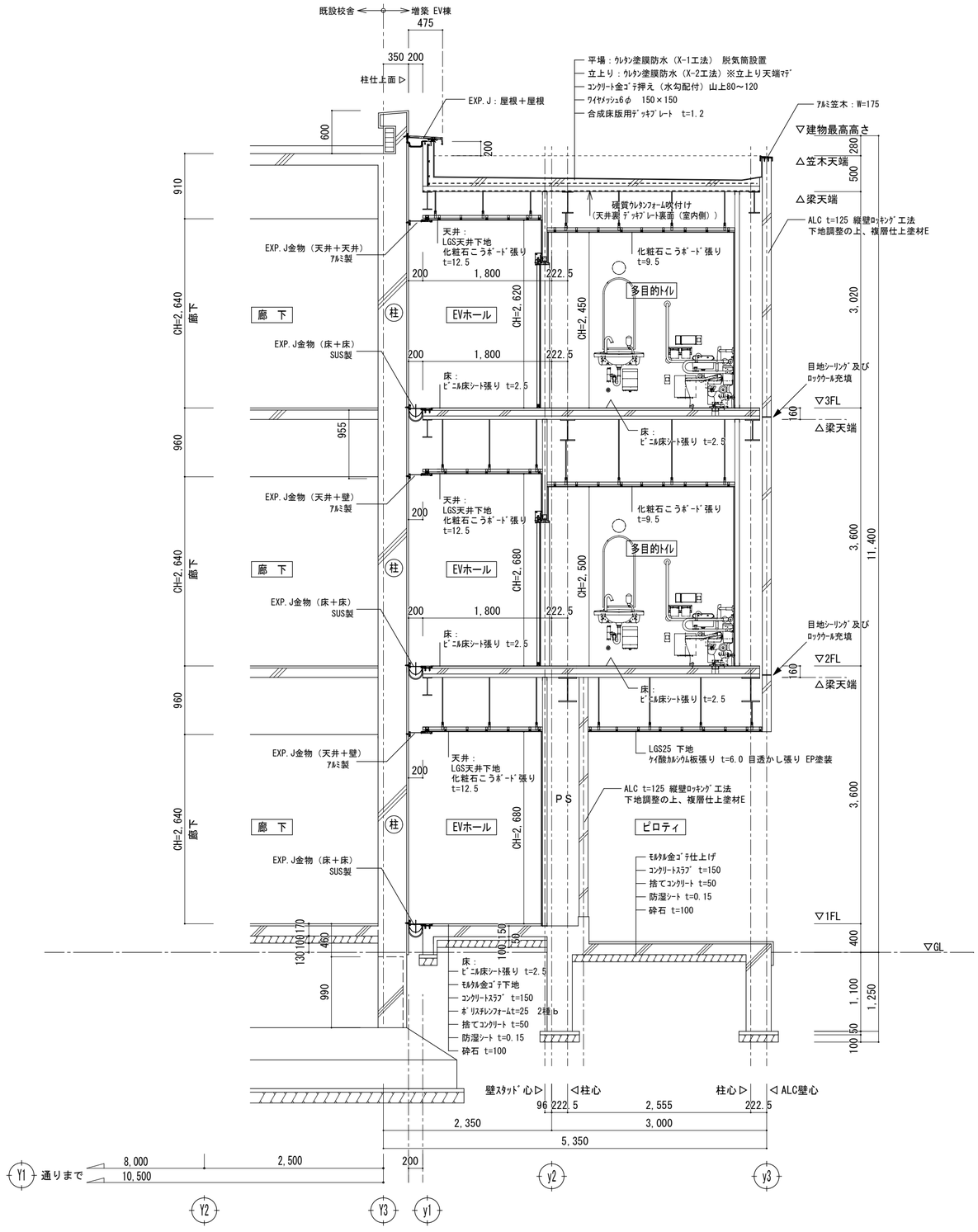


［増築後］イ～イ’矩計図　S=1/50

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 ［増築前］矩計図 ［増築後］イ～イ’矩計図	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	No. AEV-19

EV棟　増築



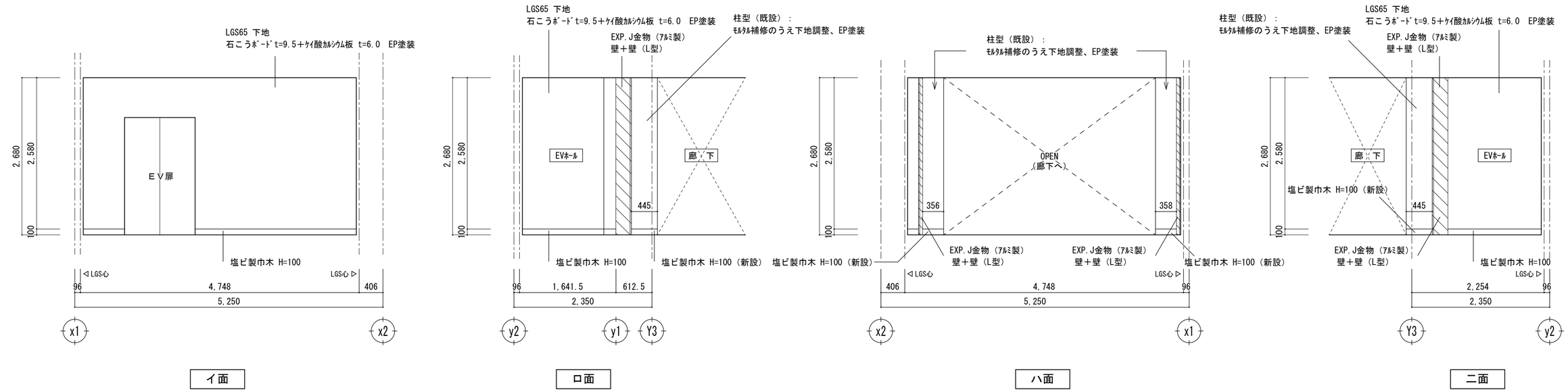
［増築後］ロ～ロ’矩計図　S=1/50

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 ［増築後］ロ～ロ’矩計図	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	AEV-20

EV棟　増築

1階 EVﾎｰﾙ



●仕上表

室名	部位	仕　様
1階 EVホール	天井	LGS19下地 化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.5
	壁	LGS65下地 石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.5 ＋ ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0 EP塗装
	巾木	塩ビ製巾木 H=100
	床	ﾓﾙﾀﾙ下地 ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.5
	備考	

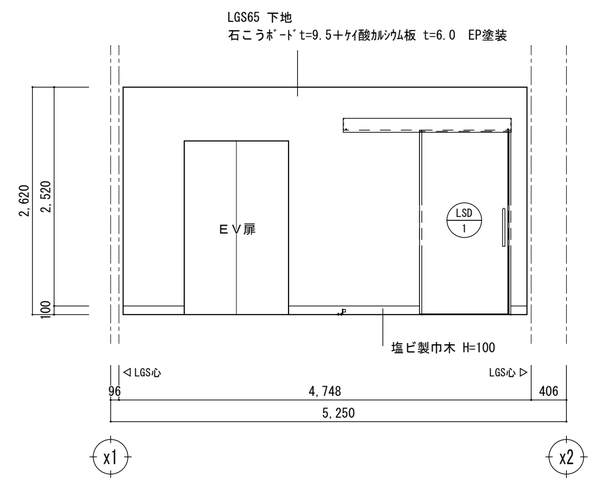
原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE		No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	EV棟 ［増築後］展開図（１階 EVホール）	A2　1/50		AEV-21

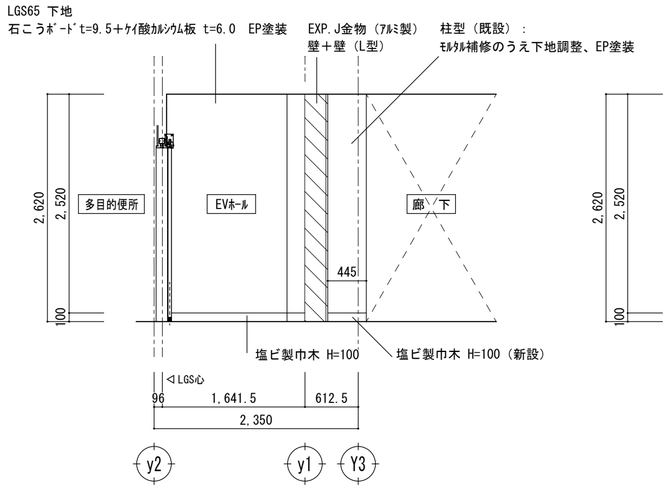
一級建築士事務所
三重県登録第1-2396号
山本一級建築士事務所
管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号）
〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779
設計者　一級建築士 第317991号　山本　覚康

EV棟 増築

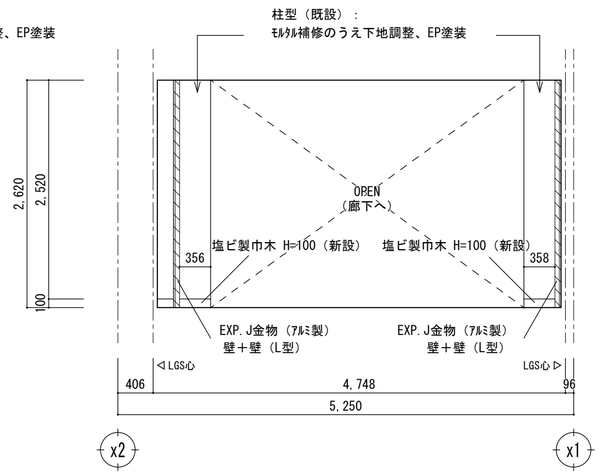
３階 EVﾎｰﾙ



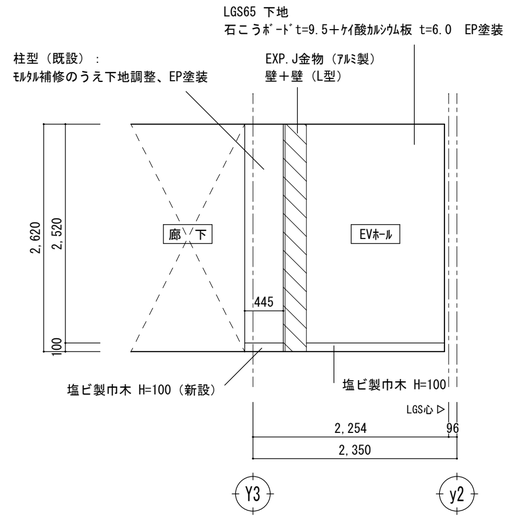
イ面



ロ面

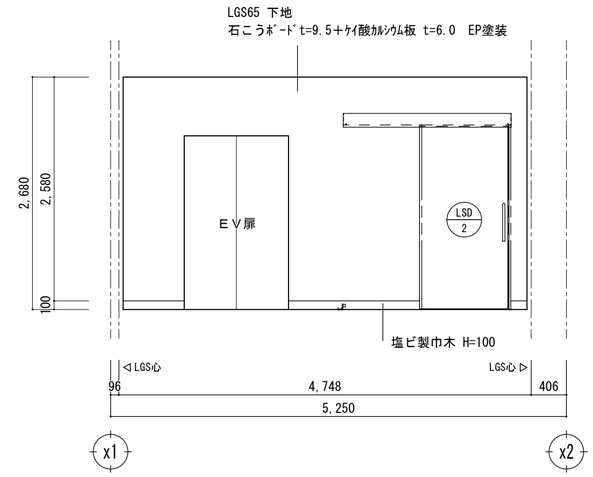


ハ面

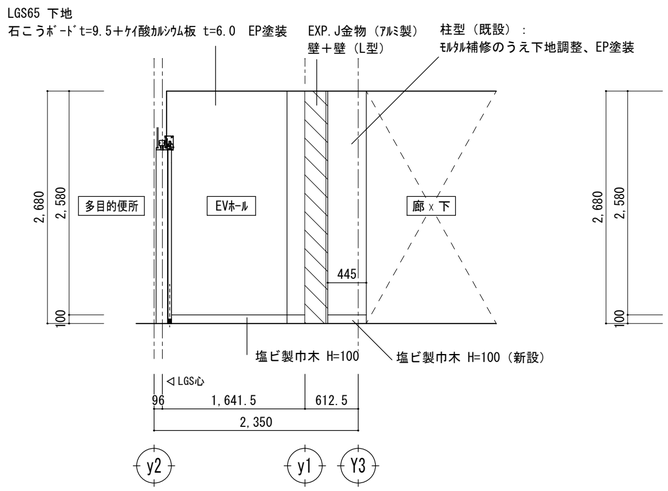


二面

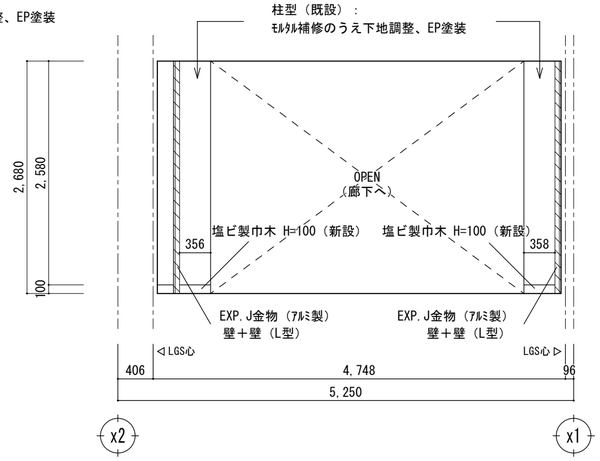
２階 EVﾎｰﾙ



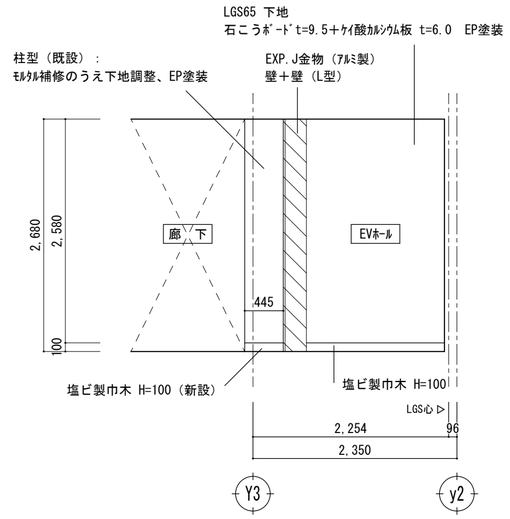
イ面



ロ面



ハ面



二面

●仕上表

室名	部位	仕　様
２，３階 EVホール	天井	LGS19下地 化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.5
	壁	LGS65下地 石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.5 ＋ ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0 EP塗装
	巾木	塩ビ製巾木 H=100
	床	ﾓﾙﾀﾙ下地 ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.5
	備考	

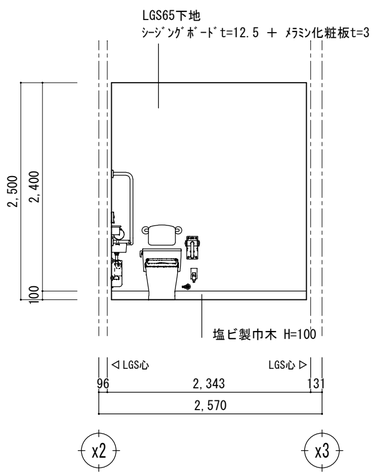
原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE		No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	EV棟 ［増築後］展開図 （２階 EVホール、３階 EVホール）	A2 1/50	山本一級建築士事務所 一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	AEV-22

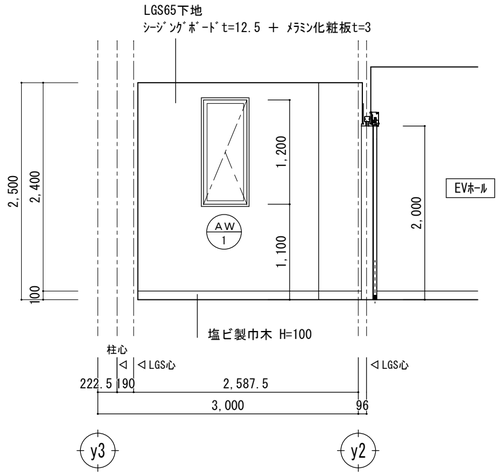
設計者	
一級建築士 第317991号 山本 覚康	

EV棟 増築

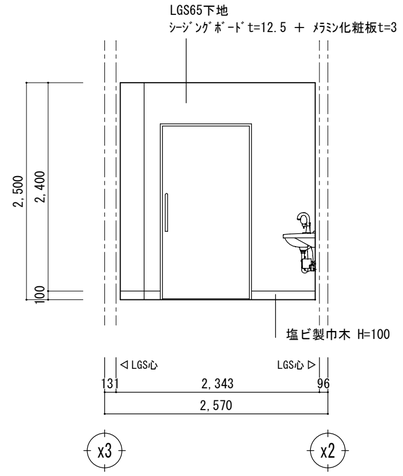
2，3階 多目的トイレ



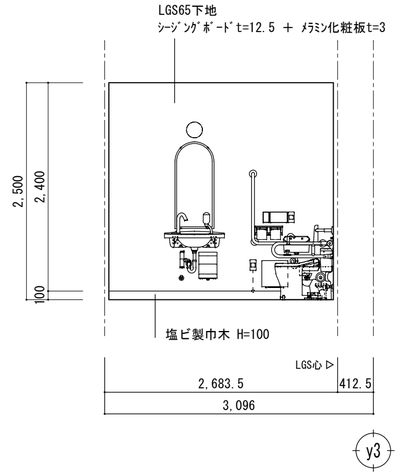
イ面



ロ面

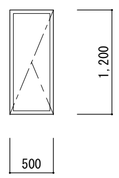
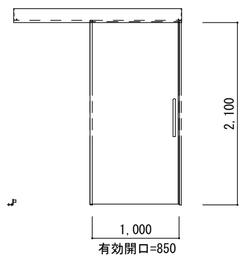


ハ面



二面

●建具表

記号・ヶ所	ＡＷ／１	２，３階 多目的トイレ	２ヶ所	LSD／１	２，３階 多目的トイレ	２ヶ所
姿　図						
形　式	縦すべり出し窓			トイレ用スライドドア		
材　質	アルミサッシ			扉：ペーパーコア		
仕　上	アルマイト			扉：亜鉛ﾒｯｷ鋼板 t=0.6（焼付塗装仕上）		
ガラス	型板強化ガラス t=5.0			――――		
金　物	アルミ水切り、アルミ４方枠、付属金物一式			大型引手（SUS製　鏡面仕上）、サムターン表示錠、付属金物一式		
備　考						

●仕上表

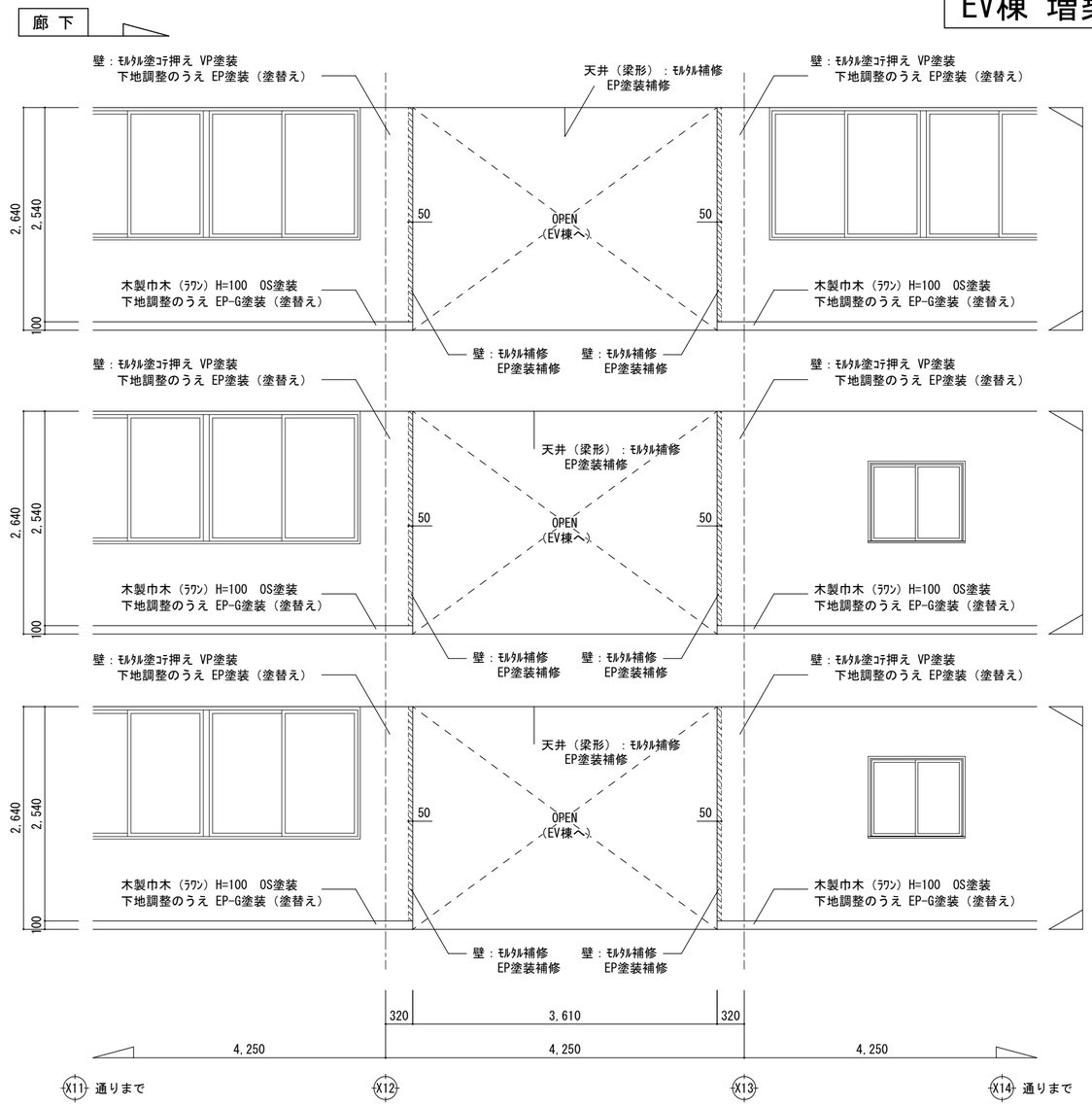
室名	部位	仕　様
２，３階 多目的トイレ	天井	LGS19下地 化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9.5
	壁	LGS65下地 ｼｰｼﾞﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ t=12.5 ＋ ﾒﾗﾐﾝ化粧板t=3.0
	巾木	塩ビ製巾木 H=100
	床	長尺塩ビシート張り t=2.5
	備考	手すり等 設備機器取り付け部は下地補強を行う

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE		No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	EV棟 ［増築後］展開図（２，３階 多目的トイレ）	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康 / AEV-23

EV棟 増築

［改修前］展開図 S=1/50



［改修後］展開図 S=1/50

●仕上表

室名	部位	改修前	改修後
廊 下	天井	有孔PB t=9.0 目透かし張り EP塗装	改修なし
		ﾎﾞｰﾀﾞｰPB t=9.0 目透かし張り	改修なし
	壁	ﾓﾙﾀﾙ塗ｺﾃ押え VP塗装	下地調整のうえ EP塗装（塗替え）
	巾木	木製巾木（ﾗﾜﾝ）H=100 OS塗装	下地調整のうえ EP-G塗装（塗替え）
	床	Pﾀｲﾙ張り t=2.0	Pﾀｲﾙ張り t=2.0 一部張り替え
	備考		

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE		No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	［改修前］展開図（廊下） ［改修後］展開図（廊下）	A2 1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	AEV-24

設計者：一級建築士 第317991号 山本 覚康

参考図

エレベーター仕様要項

分類	仕様項目	０１号機
基本仕様	機種名称	機械室レスエレベーター
	機種形名	Ｐ１１－ＣＯ
	用途	乗用
	制御方式	可変電圧可変周波数制御（回生なし）
	操作方式	乗合全自動方式（１Ｃ－２ＢＣ）
	積載量	７５０ｋｇ
	定員	１１名
	定格速度	４５ｍ／ｍｉｎ
	戸閉方式	２枚戸両引き（ＣＯ）
	出入口幅	８００mm
	出入口高さ	２１００mm
	かご室サイズ（内法間口）	１４００mm
	かご室サイズ（内法奥行）	１３５０mm
	かご室内法高さ	２３００mm
	出入口方式	一方向出入口
	正面側停止数	３停止（１－３階）
	動力用電源	ＡＣ３φ－２１０Ｖ－６０Ｈｚ
	照明用電源	ＡＣ１φ－１００Ｖ－６０Ｈｚ
その他基本仕様	耐震設計施工指針耐震クラス	クラスＡ１４
	公共建築工事標準仕様　適用年版	令和４年版
	敷居間隔	１０mm
	車いす仕様	制御機能付
	視覚障がい者対応仕様	あり
	乗場視覚障がい者用注意名板（追加分）	３枚
	地震時管制運転方式	Ｐ波＋Ｓ波センサ付３段設定（普通級）
	停電時自動着床装置	あり
	かご呼び取消機能	あり
乗場仕様	乗場三方枠	大枠末広幕板なし　３５１mm～６００mm　ステンレスヘアライン（１－３階）
	乗場戸	鋼板塗装（メーカー標準色）（１－３階）
	乗場敷居	アルミ製（１－３階）
	乗場インジケーター	一体セグメントＬＥＤ（橙色）　ステンレスヘアライン（１－３階）
	乗場インジー体形ボタン	ステンレスクリックボタン（φ３３・凸文字・黄橙色ＬＥＤ）（１－３階）
	乗場インジ運行表示灯１	休止表示
	車いす専用乗場ボタンプレート	一般用乗場ボタン一体形　ステンレスヘアライン（１－３階）
	車いす専用乗場ボタン	ステンレスクリックボタン（φ３３・凸文字・黄橙色ＬＥＤ）（１－３階）
	乗場休止スイッチ	あり
	乗場休止スイッチ取付位置	乗場インジ組込

外部連絡装置（インターホン親機）設置上の注意点

エレベーターかご内のインターホンは，常に外部のインターホン親機と連絡できるようにすること。
管理人室等に設置する場合は，２４時間管理人が常駐する必要がある。
（建築基準法施行令第１２９条の１０第３項第三号）
もしも管理人が常駐しない場合は，以下のいずれかの措置が必要となる。
１．インターホン親機を共用部（エレベーターホールや廊下等）に設置する。
２．管理人室内のインターホン親機の鳴動を共用部から確認できるように設置し、
　　鳴動を確認した者が対応できるように、シールや名板で鳴動時の緊急連絡先等の対応方法を明示する。
３．管理人不在時にはエレベーターを使えない状況にする。
　　例えば、営業時間内のみ管理人室等に管理人が常駐するならば営業時間外は建物を閉館する。

エレベーター仕様要項

分類	仕様項目	０１号機
かご室仕様	天井	スタンダード　：フラット（白色）　天井面材：鋼板塗装（メーカー標準色）
	正面壁	化粧鋼板
	側面壁	化粧鋼板
	袖壁材質	ステンレスヘアライン
	出入口上板	化粧鋼板
	かご室戸	化粧鋼板
	巾木	アルミ製
	かご床	樹脂タイル２mm　（メーカー標準タイル）
	かご室敷居	アルミ製　２枚戸両引き用
	かご操作盤タイプ	袖壁操作盤
	かご操作盤プレート	ステンレスヘアライン
	かごボタン	ステンレスクリックボタン（φ３３・凸文字・黄橙色ＬＥＤ）
	インターホンボタン乱用防止カバー	あり
	正操作盤インジケータータイプ	かご内液晶インジケーター（１０．１インチ）
	かご操作盤液晶インジケーター表示言語	２ヵ国語表示（日本語、英語）
	車いす専用かご操作盤	両側面　ステンレスヘアライン
	車いす専用正かご操作盤インジケータータイプ	ドットＬＥＤ（橙色）
	車いす専用かごボタン	ステンレスクリックボタン（φ３３・凸文字・黄橙色ＬＥＤ）
	車いす専用インターホンボタン乱用防止カバー	あり
	かご室換気	ファン
	かご室手すり	丸形ステンレス　二面取付（両側面）
	かご室鏡	ステンレス鏡面フルハイト（巾５００）
	キックプレート	板厚２．０ステンレスヘアライン（ビスなし） 高さ：床面より３５０mm
	壁保護幕	磁石式（保護幕高さ標準：床面より上端まで１８９５mm）
	床保護マット	あり
その他仕様	挟まれ防止ドアセンサ	あり
	セーフティシュー	片側 （多光軸センサー付き）
	遮煙機能	大臣認定品　　２枚戸両引き用（１－３階）
	点字名板取付方法	接着
	インターホン呼び出しボタン応答灯（聴覚障がい者対応仕様）	あり
	おもり非常止め	なし
	火災時管制運転方式	火報信号連動式
	インターホン型式	６Ｖ１局
	かご内アナウンス	かご内音声合成アナウンス
	かご室スピーカー	あり
	高調波対策種類	ＤＣリアクトル（Ｋｉ＝１．８）
	フェッシャープレート	エレベーター手配（標準品）（２－３階）
	レール支持方式	１フロア１ブラケット
	煙感知器点検口スイッチ	正面側上部取付　【標準】
	揚重ビーム手配	エレベーター手配（据付後撤去）
	仮設動力電源	１式　　（NANW03940）

除外工事事項

建築工事関係

１．　昇降路の築造工事及び各階出入口、インジケータ、押ボタン等の穴あけ工事
　　（昇降路壁は５ｃｍ^{2}辺り３００Ｎの外力が作用した時に１５mmを超える変形及び塑性変形が生じない構造とすること）
２．　鉄骨構造階のファスナー、立柱及び中間ビーム（必要の場合）並びにシキイ受材の設置工事
３．　鉄骨構造階の三方枠、インジケータ、押ボタン、ハンガーケース等の取付用鋼材設置工事
４．　鉄骨構造階の敷居取付材設置工事（敷居への作用荷重に対して、たわみは１mm以下となる部材を設置すること）
５．　鉄骨構造階の昇降路における鉄骨材の耐火処理工事および乗場出入口廻りの耐火処理工事
６．　各階乗場出入口枠周囲のロックウール詰め工事
７．　乗場機器取付後の出入口廻りの壁及び床の仕上工事
８．　昇降路頂部にエレベーター機器揚重用のフック又はビームの設置工事（　　ｋＮ）／台
~~９．　通過階がある場合の非常救出口設置工事（かご敷居先端から１２５mm以下）~~
~~１０．　ピット内防水仕上工事（必要の時は、排水設備工事含む）~~
~~１１．　ピット床下部使用の場合の建築対策工事~~
~~１２．　ピットが深い場合の埋め戻し・浅い場合のはつり工事~~
~~１３．　段違いピット時のピット内保護柵工事（必要の場合）~~
１４．　昇降路内の騒音・振動が居室に伝搬しないレイアウトおよび各種防音・防振工事
　　※居室への影響を検討のうえ、適切な防音・防振対策を行ってください
　　（対策例1）昇降路の壁（RC）を厚くする
　　※（２００mm以上推奨）
　　（対策例2）隣接居室内のボードや天井を、昇降路壁（RC）に直接接しない工法とする
　　（対策例3）隣接居室内のボードに制振材（鉛板）、吸音材を貼付けする
１５．　その他建築に関する工事

設備工事関係

１．　動力用電源・照明電源・接地線の受電端子迄の引込工事（繋ぎ込み工事含む）
２．　インターホン取付位置より昇降路までの配管配線工事（０．９φ×１０本）／台
３．　火報信号の昇降路より外部の配管配線工事
４．　遮煙ドアご採用の場合、遮煙ドア設置階乗降ロビーに火災感知器または、煙感知器の設置工事
５．　エレベーターの遠隔管理用配管・配線工事（昇降路内から最寄の電話中継盤まで）
６．　建設設備連動に必要な接点供給工事
７．　ピット内点検用コンセント設備工事（照明用ＡＣ１００Ｖとは別系統のこと）
８．　昇降路頂部の煙感知器設備工事（外部より点検可能なこと）
　　平成２０年国土交通省告示第１４５４号第一号により点検口の戸は錠付（工具を必要とするネジでも可）とし戸が開いた時にはエレベーターを停止させる必要がある
~~９．　かご内ＴＶカメラがある場合、かご内ＴＶカメラ用配管配線工事（昇降路からモニター設置場所まで）・５Ｃ－２Ｖ同軸ケーブル~~
１０．　かご室スピーカーがある場合、放送用配管配線の昇降路制御盤までの引込工事（非常放送がある場合３線式とすること）
１１．　昇降路の換気設備工事（昇降路内温度４０℃および昇降路温度上昇７℃を超える場合、換気設備が必要になります）
　　発熱量　エレベーター駆動部（　　8/8´0台）１
１２．　監視盤電源の監視盤までの引込工事及び配管配線工事

乗場遮煙ドア設置上の条件

・乗場遮煙ドアを設置するためには，自動火災報知設備の設置義務の無い建物であっても，同設備を設けること。
・自動火災報知設備の設置義務の無い建物の場合には，乗場遮煙ドア設置階のエレベーターホールに必ず煙感知器などの火災感知器を設置し，火災感知信号を自動火災警報盤を介してエレベーター制御盤に供給すること。
（無電圧ａ接点，接点電圧ＤＣ２４Ｖ）

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE		設計者	No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 エレベーター詳細図（１）	A2　NONE	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	一級建築士 第317991号 山本 覚康	AEV-25

参考図

NO．01

注意事項

1．　昇降路間口・奥行寸法は、昇降路全域（ピット底部から昇降路頂部まで）にわたり確保のこと
2．　コンクリート強度は２１Ｎ／mm^2 以上のこと
3．　電源電圧の変動は＋５％～－１０％以内、電圧不平衡率５％以内のこと
4．　本エレベーター所定の性能維持のため下記条件とすること
（１）昇降路内の温度は－５℃～４０℃以内、湿度は月平均９０％・日平均９５％未満かつ急激な温度変化等により氷結・結露しないこと
（２）金属を損耗または腐食したり電気接点の接触障害の原因となるような塵及び化学的有害ガス及び爆発性ガスのないこと
①腐食性ガス：硫化水素ガス，亜硫酸ガス，塩素ガス，過酸化窒素ガス，アンモニアガスおよび海岸地区における潮風
※昇降路標準環境の基準例
硫化水素ガス…Ｈ２Ｓ=０．００５［ｐｐｍ］以下
亜硫酸ガス…ＳＯ２=０．０１［ｐｐｍ］以下
塩化水素ガス…ＨＣｌ=０．０５［ｐｐｍ］以下
塩素ガス…Ｃｌ２=０．００５［ｐｐｍ］以下
アンモニアガス…ＮＨ３=０．１［ｐｐｍ］以下
海岸地区における潮風…海岸より２ｋｍ以上の地区
（プールサイドの場合は上記塩素ガスＣｌ２基準値以下）
※海岸より２ｋｍ未満、プールサイドの場合は昇降路内に潮風・プール方向からの風が入らず、乗場が屋外に露出しないようなレイアウトとすること
②電気接点の接触障害となるもの：鉄粉，炭塵，化学工場における粉塵
③爆発性ガス，又は，粉塵：メタン，石炭ガス，ブタン，ガソリン，アセチレン，水素，エーテル，炭塵，穀粉
（３）エレベーターの電気信号に影響を及ぼす電磁波がないこと
電磁波の電界強度が１０Ｖ／ｍ以下の環境とすること
（４）原則、昇降路の設置場所は標高１０００ｍ以下の高さとすること
5．　（１）屋上等直接外気と接する乗場における雨水よけ設備により外部から風雨が侵入しないこと
（ひさし・風除室・水勾配・グレーチング・防潮板等）
（２）センサ誤動作防止、及び乗場戸熱変形防止のため、屋外又は，屋内ガラス越しから乗場及び駆動・制御装置（制御盤，秤装置等）に直射日光が当たらない対策を実施のこと
6．　昇降路壁には電気・水道管の配管・器具を埋め込まないこと
7．　昇降路内には他の用途の配管・ダクト等が露出しないようにすること
（建築基準法施行令第１２９条の２の４第１項第三号）
8．　遮断器はインバータ回線対応のものを使用すること
9．　輸送可能な適温配膳車や台車などの重量物は２５０ｋｇ以下とすること
10．　換気設備を設置する場合は昇降路外部より保守可能な位置とし、設置環境により雨水或いは、防水対策を実施のこと
11．　エレベーターの保守・点検ならびに緊急対応のため、外部階段などから最上階および最下階エレベーターホールへアクセスできる経路を確保すること（個人宅など占有部を経由しないこと）
12．　エレベーターから発生する高周波漏洩電流と高周波ノイズにより、他の設備が影響を受ける恐れがあります
次の対策をお勧めします
（１）エレベーター動力と通信機器・ＯＡ機器等弱電機器の電源線・通信線を１ｍ以上分離する
（２）エレベーターを含む動力の電源トランスと通信機器・ＯＡ機器等弱電機器の電源トランスを分離する
（エレベーター照明用電源は弱電機器のトランスと分離不要）
（３）エレベーターを含む機器アース線と通信機器・ＯＡ機器等弱電機器のアース線の分離配線と接地極の分離をする
13．　乗場壁へウレタン吹付けを行う場合は、乗場機器取付け後に施工する必要があります。乗場機器取付け前にウレタン吹付けを行うと、乗場機器取付け時の溶接の火花に引火する恐れがあります
昇降路内は不燃材もしくは難燃材（平１２建告１４０２号で定められた材料又は国土交通大臣の認定を受けたもの）とする必要があります
※法定のオーバーヘッド寸法確保やドア装置取付に支障が無いか、施工範囲と厚みを昇降機担当へ連絡し問題ないことを確認ください
14．　乗場に向かって強風が吹く場合には、防風対策（建築工事）を行うこと。風圧により乗場の戸が閉まらない恐れがあります
15．　製品の検査は各規格に準じた社内基準にて行います
電動機（巻上機・駆動機）：JEC-2110,2130、JIS C-4034-1
制御盤：JEM1021,1460
尚、電動機の温度上昇試験・負荷特性試験は型式試験結果です
16．　かごの内装デザイン等が別途工事の場合、品質保証（変色、はがれ、劣化等の外観変化）対象外となります
また、昇降機保守対象外となります材質、構造等は以下を順守のこと
材質：不燃又は難燃認定品
構造：装飾品（鏡等含む）には、エレベーター非常止め作動時または緩衝器衝突時は４Ｇ（縦方向）、地震時は１Ｇ（横方向）相当の加速度が発生する可能性があるためそれに耐え、かつ接着固定による劣化を考慮した取付構造とすること
照度：かごの床面で５０ルクス（乗用、寝台用以外にあっては２５ルクス）以上の照度とすること
建築用途と使用環境の違いにより、早期に寿命を迎えることがあります
・かご照明の自動休止機能により、照明のＯＮ／ＯＦＦ回数が多い
・かごの昇降による振動がある

レール下端部荷重（長期荷重）

Ｒ１（ｋＮ）	Ｒ２（ｋＮ）	Ｒ３（ｋＮ）	Ｒ４（ｋＮ）
３．６	２３．４	４３．４	１９．８

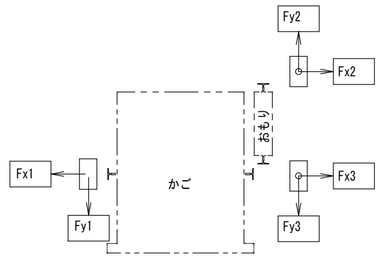
ブラケット取付のため、ピット内の壁または梁は最下階ＦＬ面まで立ち上げて下さい（建築工事）

昇降路機器はピット底面・側面、梁・壁（コンクリートの場合）にあと施工アンカーにより取付を行います

ピット荷重（短期荷重）

Ｐ１（ｋＮ）	Ｐ２（ｋＮ）
７５．２	６３．５

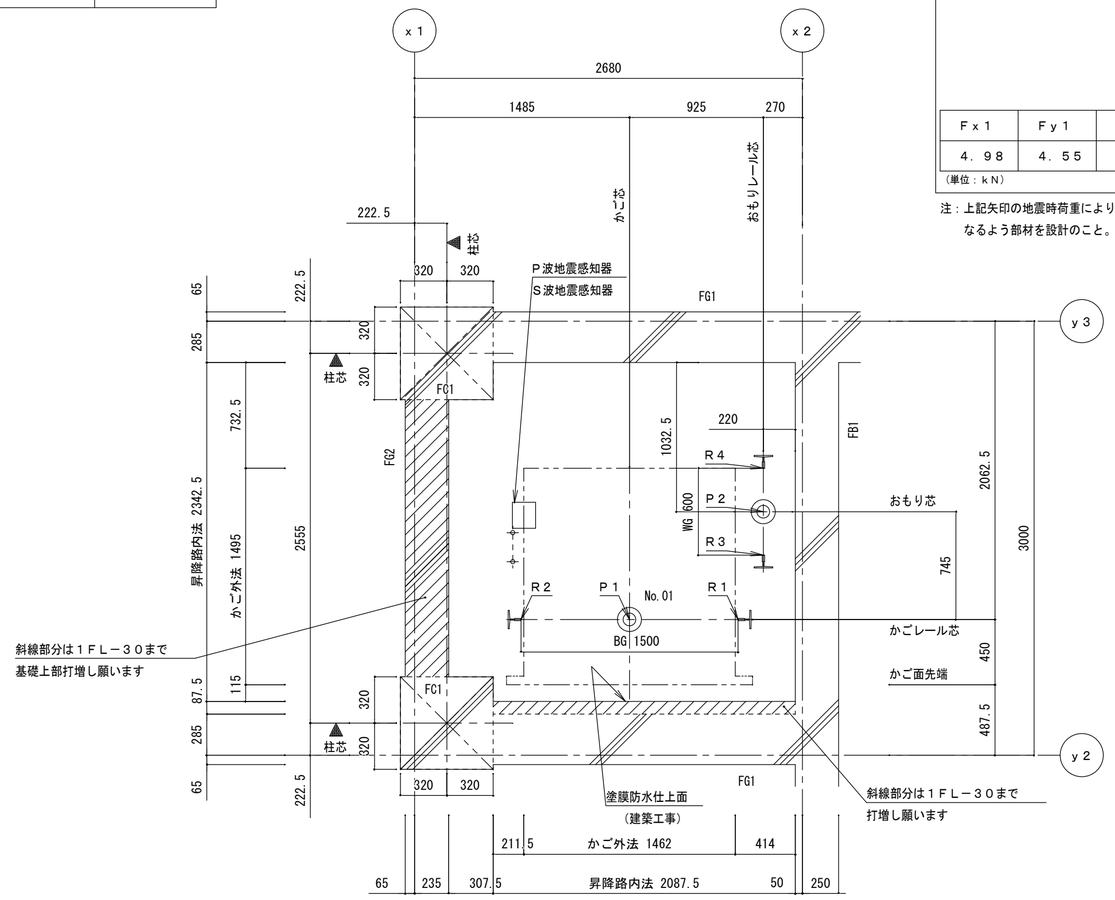
ＥＶレール支持用ブラケットに作用する地震時水平荷重



Ｆｘ１	Ｆｙ１	Ｆｘ２	Ｆｙ２	Ｆｘ３	Ｆｙ３
４．９８	４．５５	３．９２	７．８３	８．８９	１０．３２

（単位：ｋＮ）

注：上記矢印の地震時荷重により柱、梁などのたわみの合計が５mm以下となるよう部材を設計のこと。又、ねじれに対し強固に取付けること。



昇降路平面図　（１／３０）

（ピット）

FC1:　640□
FG1:W350
FG2:W300
FB1:W300

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 エレベーター詳細図（２）	A2　1/30	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康		AEV-26

参考図

動力電源設備（ＣＶＴ電線使用時）

号機名	電源電圧 周波数	電動機容量	設備容量	電源側ＮＦ容量	感度電流値 (＊) 動作時間	電線サイズ	接地線サイズ
０１	ＡＣ３φ２１０　Ｖ ６０　Ｈｚ	３．８ｋＷ	４ｋＶＡ	４０ＡＴ	１００　ｍＡ以上 ０．２　秒以上	８２　ｍまで　８ ｍｍ² １４２　ｍまで　１４ ｍｍ² ２１６　ｍまで　２２ ｍｍ²	３．５　ｍｍ²

照明用電源ＡＣ１φ１００Ｖ　６０Ｈｚ（設備容量１ｋＶＡ／台　電源側ＮＦ容量２０ＡＴ／台）　　（＊）電源側に漏電遮断器を設置する場合

電源引込み口（３ＦＬ＋２６００～３０００ｍｍ）
動力用ＡＣ３φ－２１０Ｖ－６０Ｈｚ
照明用ＡＣ１φ－１００Ｖ－６０Ｈｚ
Ｄ種接地工事
・インターホン用配管配線工事
　ＣＰＥＶ－０．９×５Ｐ
・火災管制運転用配管配線工事
　自火報より無電圧ａ接点支給（接点定格ＤＣ２４Ｖ）
・遠隔監視用配管配線工事
　ＰＶＣ－０．６５×４Ｃ
・カゴ上スピーカー用配管配線工事
　ＨＰ１．２ｍｍ×３Ｃ
・電源線引出し長さ　１５０００ｍｍ
（電気工事）

高調波対策（高調波流出電流計算値）

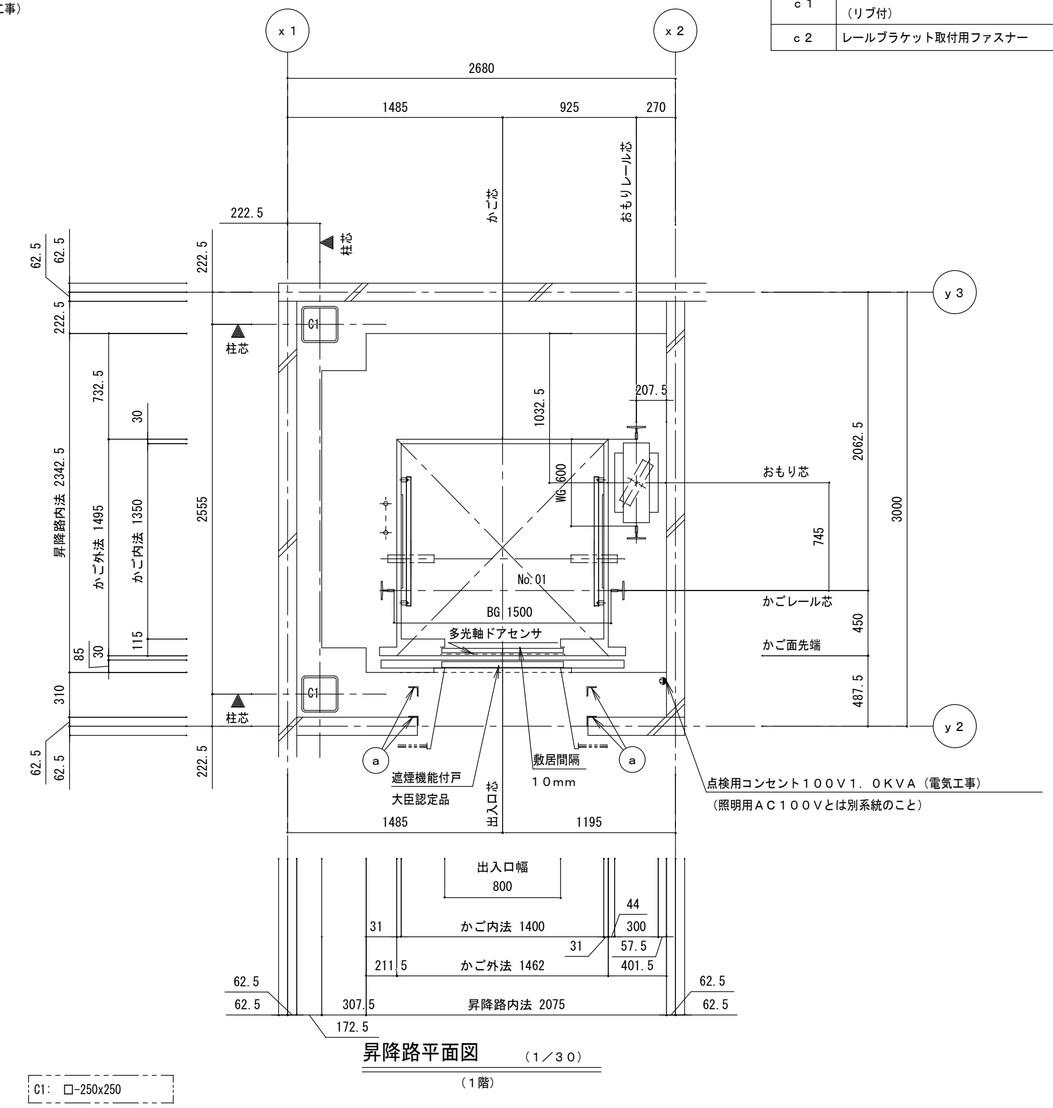
高調波対策内容		機器名称	定格容量 (kVA)	台数	合計容量 Ｐｉ (kVA)	回路分類 細分Ｎｏ.	６パルス換算係数 (Ｋｉ)	６パルス等価容量 [Ki×Pi] (kVA)	機器最大稼働率 (%)	基本電流に対する高調波電流発生率Ｉｎ（%）							
										5次	7次	11次	13次	17次	19次	23次	25次
	~~ノイズフィルタのみ（標準）~~	０１号機 AXIEZ-LINKs (750kg-45m/min)	4.8	1	4.8	~~31~~	~~3.4~~	~~16.2~~	~~25~~	~~65~~	~~41~~	~~8.5~~	~~7.7~~	~~4.3~~	~~3.1~~	~~2.6~~	~~1.8~~
○	DCリアクトル追加（Ki=1.8相当）					33	1.8	8.6	25	30	13	8.4	5	4.7	3.2	3	2.2

高圧または特別高圧需要家が高調波発生機器を新設、増設または更新する場合には「高圧または特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」への適用が求められます。
ガイドラインではその需要家から流出する高調波電流の上限値を定めており、超過する場合には何らかの対策を求められます。

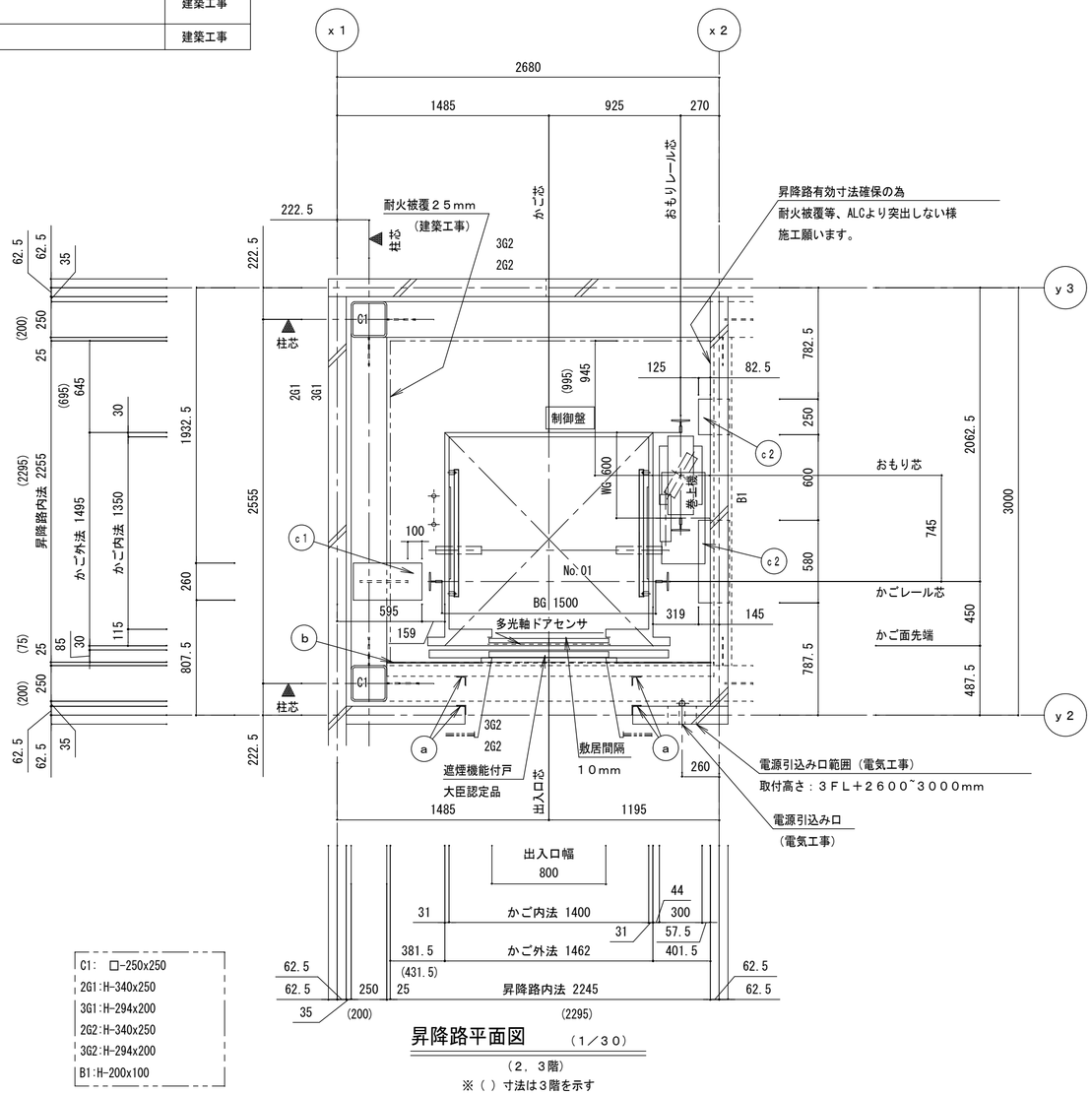
※　各次数毎の高調波流出電流量は以下の計算により求めることができます。

$$\text{各次数毎の高調波流出電流量（mA）} = \frac{\text{合計容量Ｐｉ（ｋＶＡ）}}{\text{受電電圧（ｋＶ）} \times \sqrt{3}} \times 10^{3} \times \text{各次数毎の発生率Ｉｎ（%）} \times \text{機器最大稼働率ｋ（%）}$$

部材記号	名　称	部　材	工事区分
a	三方枠取付鋼材 （壁取付金物の昇降路内への突出不可）	Ｌ－６５×６５×６	建築工事
b	敷居取付材	Ｌ－１００×１００	建築工事
ｃ１	レールブラケット取付用ファスナー （リブ付）	ＰＬ－ｔ１２	建築工事
ｃ２	レールブラケット取付用ファスナー	ＰＬ－ｔ１２	建築工事



昇降路平面図　（１／３０）
（１階）



昇降路平面図　（１／３０）
（２，３階）
※（ ）寸法は３階を示す

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE					No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 エレベーター詳細図（３）	A2　1/30	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康			AEV-27

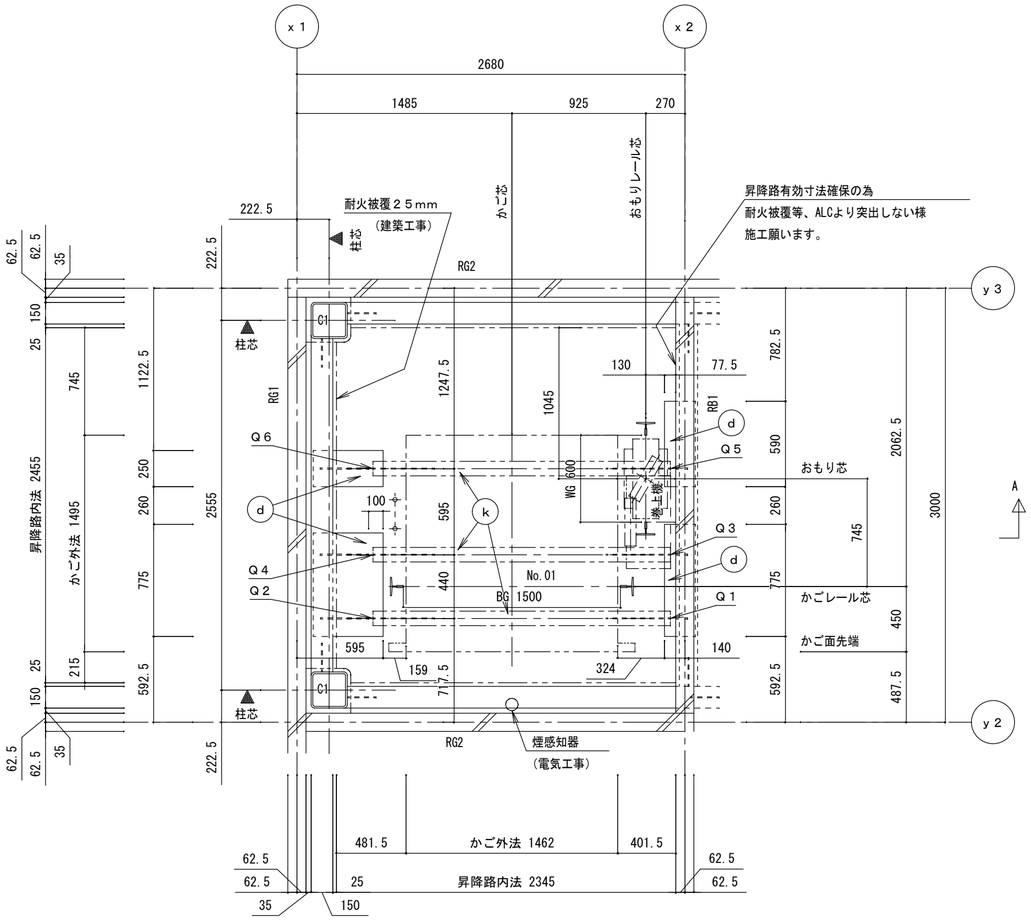
参考図

部材記号	名　称	部　材	工事区分
d	揚重ビーム取付用ファスナー（リブ付）	ＰＬ－ｔ１２	建築工事
k	揚重ビーム（据付後撤去）	Ｈ－１００×１００×６×８	ＥＶ工事

揚重ビームに掛かる荷重　　Ｎｏ．０１

Ｑ１（ｋＮ）	Ｑ２（ｋＮ）	Ｑ３（ｋＮ）	Ｑ４（ｋＮ）	Ｑ５（ｋＮ）	Ｑ６（ｋＮ）
６．０	２．０	８．０	１０．０	１６．０	１１．０

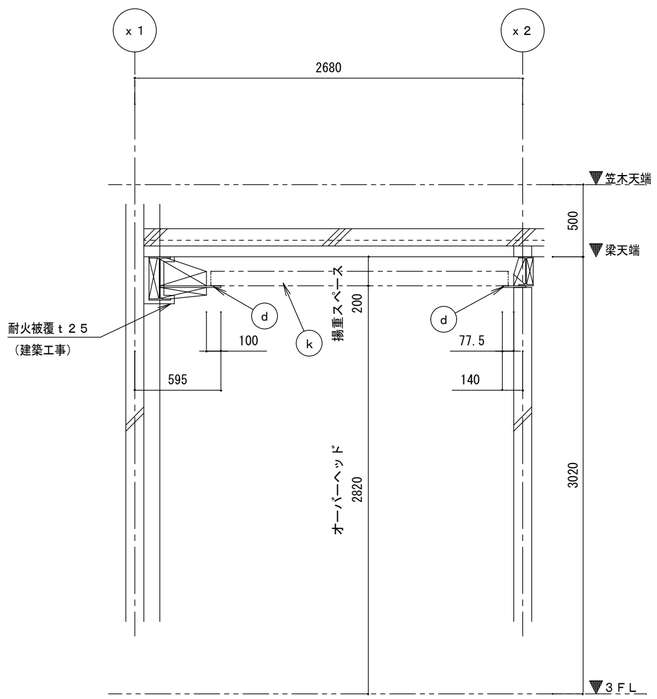
Ｑ１～Ｑ６はＥＶ据付時に作用する



昇降路平面図　（１／３０）

（頂部）

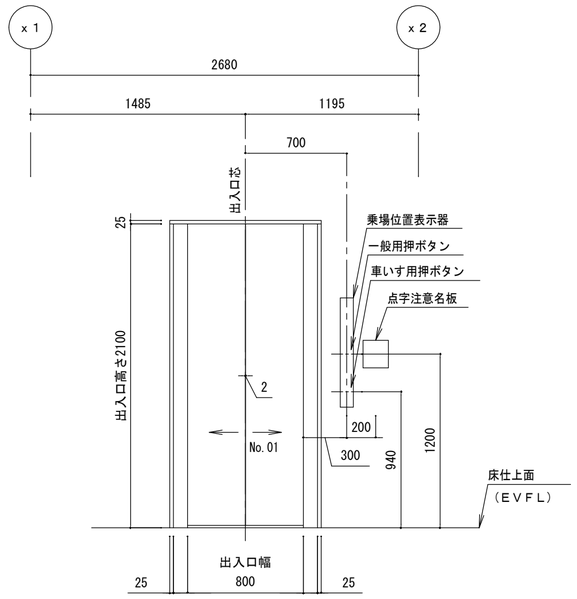
C1:　□-250x250
RG1:H-300x150
RG2:H-300x150
RB1:H-200x100



昇降路頂部断面図　（１／３０）

断面Ａ－Ａ

注）昇降路頂部左右ファスナーは
水平同一レベルで施工願います



乗場正面図　（１／３０）

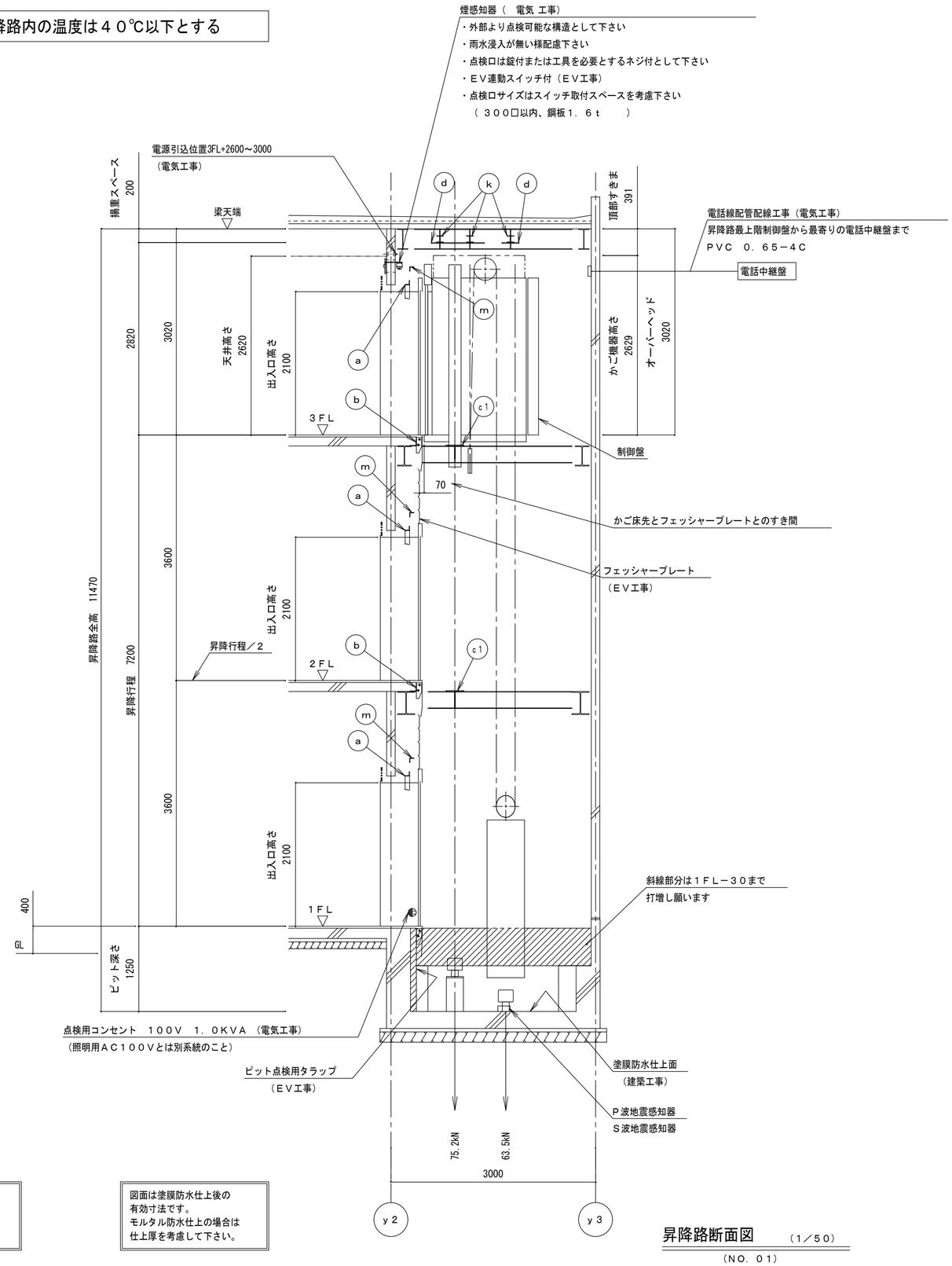
（Ｎｏ．０１号機）
（１－３階）

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 エレベーター詳細図（４）	A2　1/30	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康		AEV-28

参考図

昇降路内の温度は４０℃以下とする



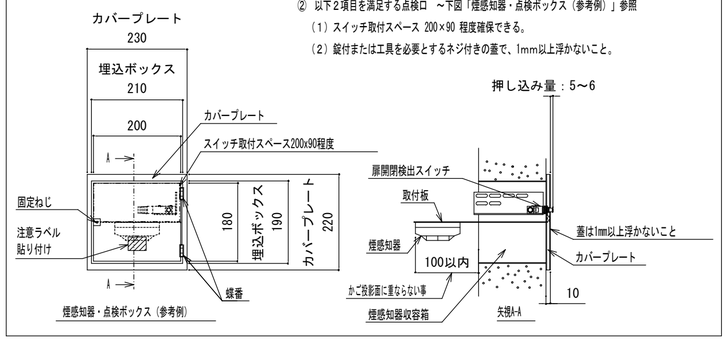
部材記号	名　称	部　材	工事区分
a	三方枠取付鋼材 （壁取付金物の昇降路内への突出不可）	Ｌ－６５×６５×６	建築工事
b	敷居取付材	Ｌ－１００×１００	建築工事
ｃ１	レールブラケット取付用ファスナー （リブ付）	ＰＬ－ｔ１２	建築工事
d	揚重ビーム取付用ファスナー（リブ付）	ＰＬ－ｔ１２	建築工事
k	揚重ビーム（据付後撤去）	Ｈ－１００×１００×６×８	ＥＶ工事
m	ハンガーケース取付材	Ｌ－６５×６５×６	建築工事

煙感知器施工例

煙感知器（電気工事）
・外部より点検可能な構造として下さい。
・雨水浸入が無い様配慮下さい。
・ＥＶ連動スイッチ付（ＥＶ工事）
・点検口は右記　①または②として下さい。

① EV昇降路専用品（スイッチ取付台座付き）（1）～（4）のいずれか
（1）ホーチキ　　ＫＵＳ－１Ｃ
（2）能美防災　　ＦＸＳＪ００１Ａ－ＨＵ
（3）ニッタン　　ＮＩＤ－Ｔ－Ｇ
（4）パナソニック　ＢＶ９５３５１(BOX)+ＢＶ９５３８１Ｈ(扉)

② 以下２項目を満足する点検口　～下図「煙感知器・点検ボックス（参考例）」参照
（1）スイッチ取付スペース 200×90 程度確保できる。
（2）錠付または工具を必要とするネジ付きの蓋で、1mm以上浮かないこと。



煙感知器・点検ボックス（参考例）

ブラケット取付のため、
ピット内の壁または梁は
最下階ＦＬ面まで立ち上
げて下さい（建築工事）

図面は塗膜防水仕上後の
有効寸法です。
モルタル防水仕上の場合は
仕上厚を考慮して下さい。

昇降路断面図　（1／５０）

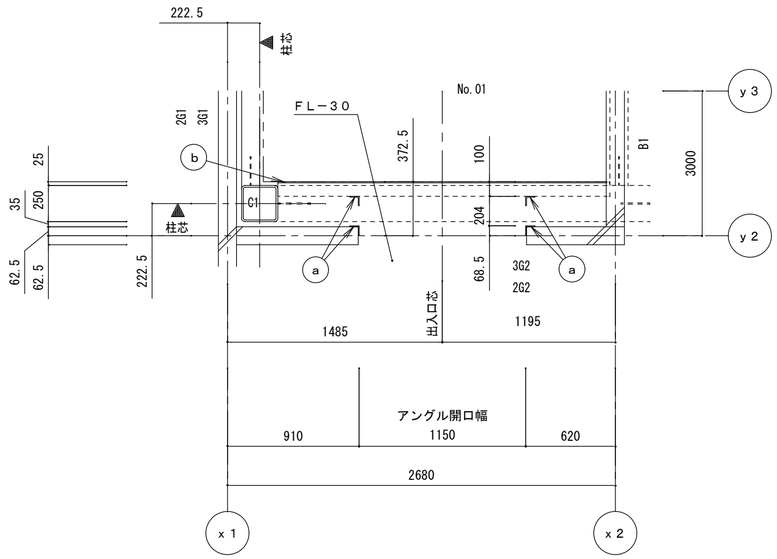
（ＮＯ．０１）

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 エレベーター詳細図（５）	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康		No. AEV-29

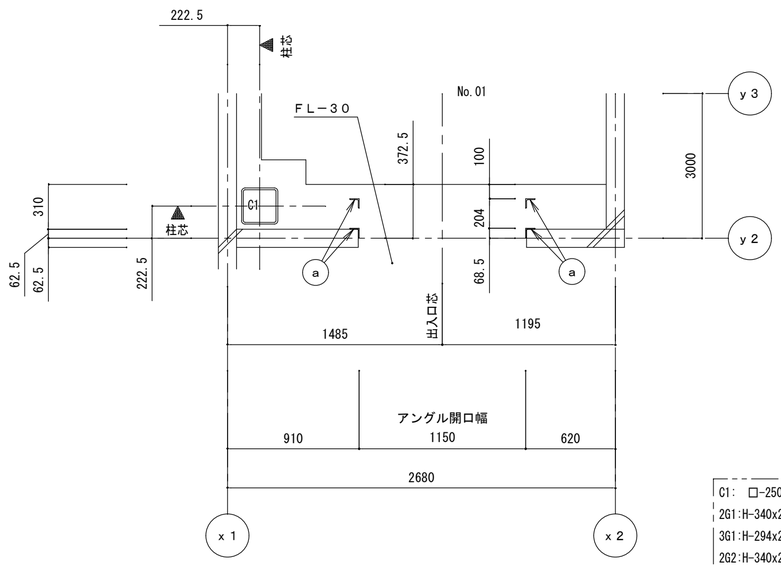
参考図

部材記号	名　称	部　材	工事区分
a	三方枠取付鋼材 （壁取付金物の昇降路内への突出不可）	Ｌ－６５×６５×６	建築工事
b	敷居取付材	Ｌ－１００×１００	建築工事
m	ハンガーケース取付材	Ｌ－６５×６５×６	建築工事



昇降路穴あけ図　（1／30）

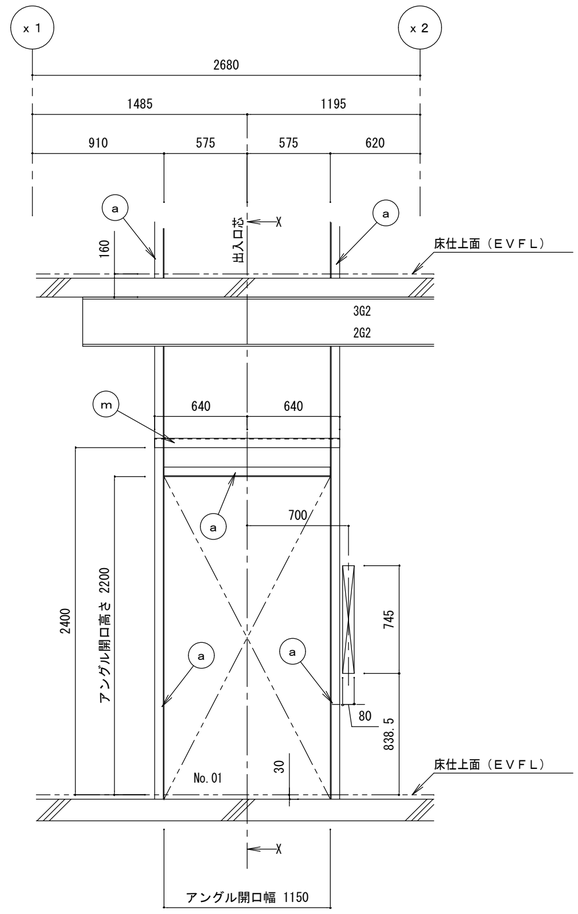
（2，3階）



昇降路穴あけ図　（1／30）

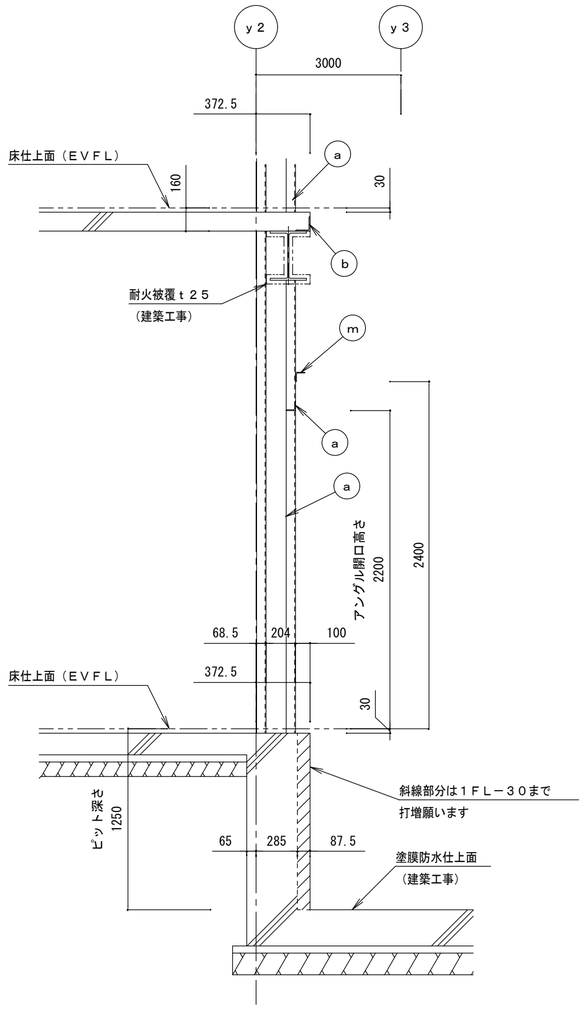
（1階）

C1:　□-250x250
2G1:H-340x250
3G1:H-294x200
2G2:H-340x250
3G2:H-294x200
B1:H-250x125



乗場正面鉄骨組図　（1／30）

（Ｎｏ．０１号機）
（1ー3階）

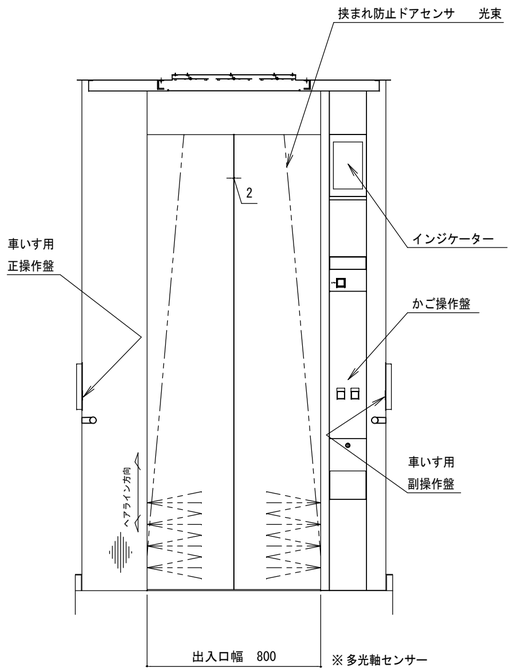


Ｘ－Ｘ断面

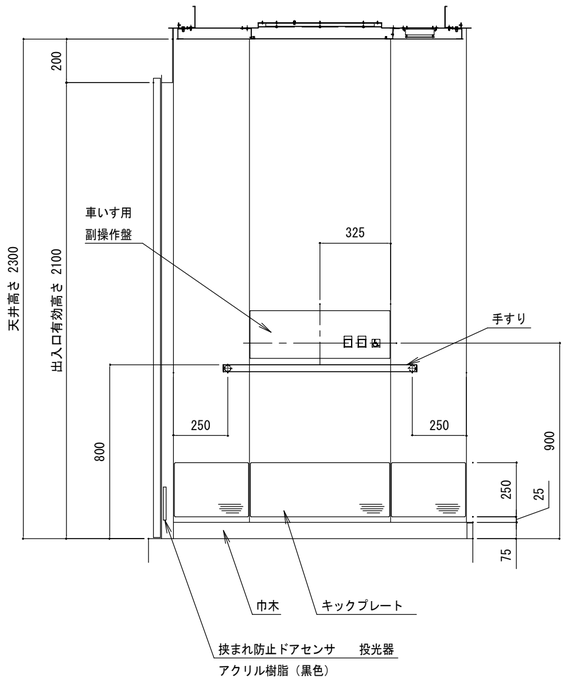
原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 エレベーター詳細図（６）	A2　1/30	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	No. AEV-30

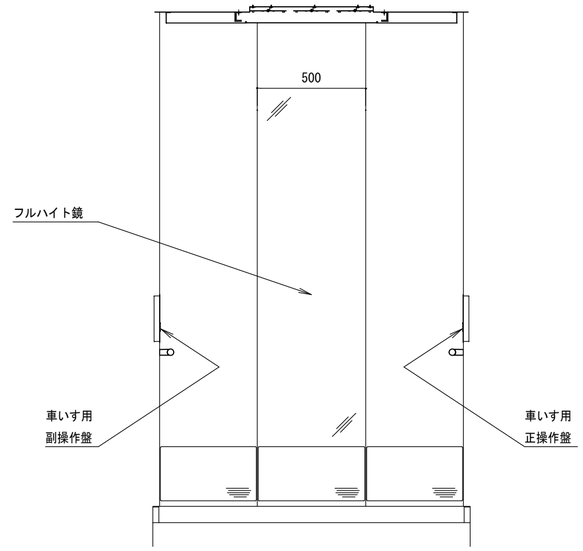
参考図



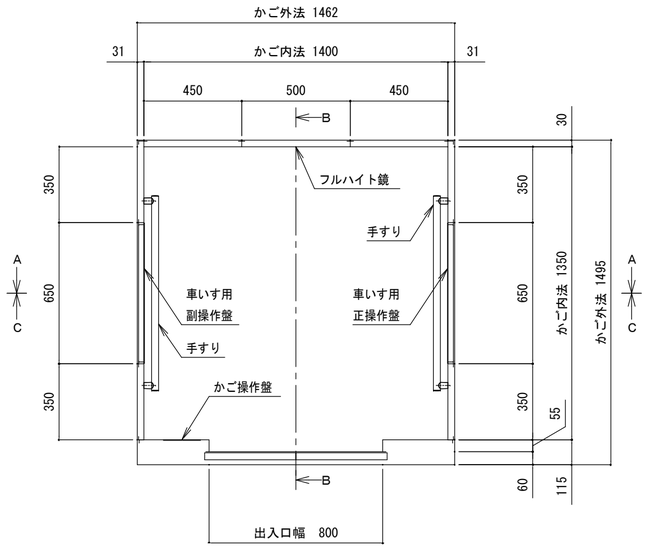
Uかご室正面図（矢視Ａ－Ａ）



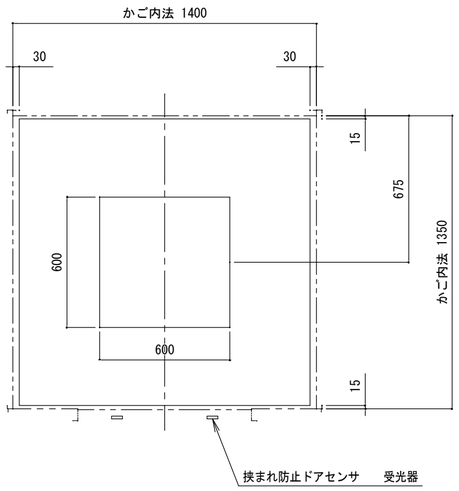
Uかご室側面図（矢視Ｂ－Ｂ）



Uかご室背面図（矢視Ｃ－Ｃ）



Uかご室平面図



U天井伏図

意匠仕様	
天井	鋼板塗装仕上
換気装置	ファン
照明	乳白色樹脂照明板 ＬＥＤ照明（白色）
停電灯	主照明兼用式
壁	化粧鋼板
出入口上板	化粧鋼板
戸	化粧鋼板
袖壁・柱	ステンレスヘアライン仕上
巾木	アルミ製
床仕上部	樹脂タイル２mm（メーカー標準タイル）
敷居	アルミ製
フルハイト鏡	ステンレス鏡面仕上　ｔ１．５
手すり	ステンレスヘアライン仕上（φ３２）　キャップ：樹脂（パールメッキ） ブラケット：アルミ　ブラケットカバー：樹脂（パールメッキ）
キックプレート	ステンレスヘアライン仕上：ビス無
保護幕	磁石式（保護幕高さ標準：床面より上端まで１８９５mm）
床マット	あり

かご室意匠図　（１／２０）

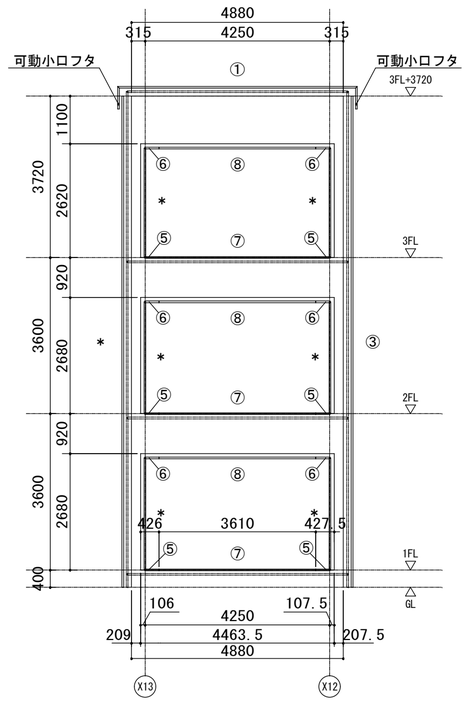
原図：Ａ２

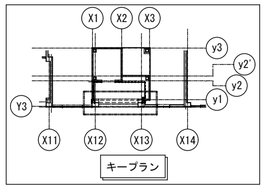
TITLE	DRAWING TITLE　ＥＶ棟	SCALE	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所	設計者	No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	エレベーター詳細図（７）	A2　1/20	管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	一級建築士 第317991号 山本 覚康	AEV-31

参考図

EXP. J

S=1:100





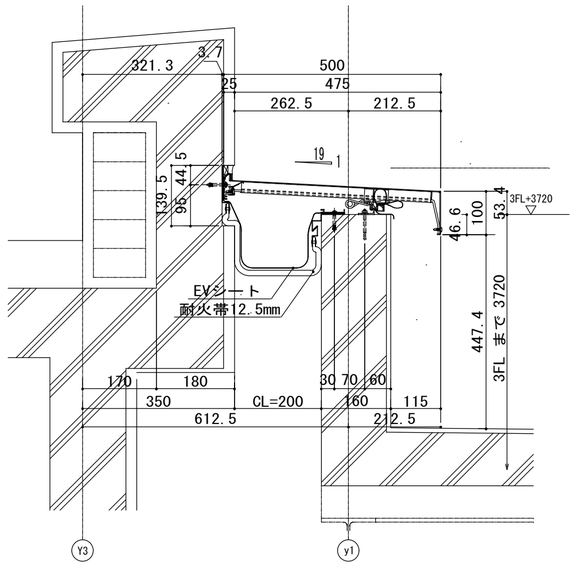
Exp. J

記号	設置場所	材質	ｸﾘｱﾗﾝｽ	耐火帯
①	屋根ー外壁	ｱﾙﾐ	200	○
*	外壁ｺｰﾅｰ	ｱﾙﾐ	200	○
*	内壁ｺｰﾅｰ	ｱﾙﾐ	200	
③	外壁ー外壁	ｱﾙﾐ	200	○
⑤	床ｺｰﾅｰ	ｽﾃﾝﾚｽ	200	○
⑥	天井ｺｰﾅｰ	ｱﾙﾐ	200	
⑦	床ー床	ｽﾃﾝﾚｽ	200	○
⑧	天井ー天井	ｱﾙﾐ	200	

：耐火帯

屋上断面詳細図

S=1:10



原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	EXP. J図	A2	1/10 1/10	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	AEV-32

設計者		
一級建築士 第317991号 山本　覚康		

構造特記仕様書

§1　一般事項

選択項目は、●印を適用し、●が無い場合は、＊印を適用する。
●印が複数有る場合は、共に適用する。

１－１　使用材料は原則としてＪＩＳ規格品、又は大臣認定品とする。

１－２　設計図書の優先順位は下記による。

１）本特記仕様書

２）設計図

３）標準図
- ●　鉄筋コンクリート構造配筋標準図
- ●　鉄骨工作標準図
- ○　鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図
- ○　高強度せん断補強筋施工仕様書
- ○　鉄筋コンクリート壁式標準配筋図

４）仕様書（ ○ 公共建築協会　＊ 日本建築家協会　）

５）日本建築学会標準仕様書　，　ＪＡＳＳ５　，　ＪＡＳＳ６

１－３　各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。

１－４　構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に（ ＊含む　○含まない）

１－５　設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。

１－６　梁貫通位置、径、及び箇所数は（ ○ 意匠図　○ 構造図　＊ 設備図　）による。

１－７　その他

§2　構造計算ルート

２－１

方　向	構造計算ルート
X	○ ルート１　○ ルート２　● ルート３
Y	○ ルート１　○ ルート２　● ルート３

２－２　鉄筋の継手及び定着

構造計算ルート別による主筋等の継手重ね長さと柱に取り付く梁の定着長さ

＊　建築基準法施行令第７３条（政令第７３条）による仕様規定

●　日本建築学会　ＪＡＳＳ５（２００９），鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説

●　日本建築学会　ＲＣ規準２０１０

ＸＹ両方向共ルート３及び限界耐力計算の場合は、政令第７３条の仕様規定によらずＪＡＳＳ５（２００９）鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びＲＣ規準２０１０とすることができる。

§3　仮設工事，土工事

３－１　山留め、根切り

３－２　埋戻し土、盛土、残土処分

埋戻し土　＊　根切り土の中の良土　○　搬入良土

盛土　＊　根切り土の中の良土　○　搬入良土

残土処分　場内地均し　＊　場外搬出処分（＊　自由　○　指定場所　）

§4　地業工事

４－１　基礎及びスラブ下地業　（単位mm）

場　所		捨てコンクリート厚さ ※（1）	A：砕石 B：割栗石	厚　さ
基　礎	独立，布	＊５０ ○９０ ○１００	＊Ａ　○ Ｂ	＊６０　●１００　○１５０
	ベ　タ	＊５０ ○６０ ○１００	＊Ａ　○ Ｂ	＊６０　○１００　○１５０
地　中　梁		＊５０ ○６０ ○１００	＊Ａ　○ Ｂ	＊６０　○１００　○１５０
構造スラブ		＊５０ ○６０ ○１００	＊Ａ　○ Ｂ	＊６０　○１００　○１５０
土間スラブ	屋内	＊５０ ○６０ ○１００	＊Ａ　○ Ｂ	＊５０　●１００　○１５０
	屋外	＊５０ ○６０ ○１００	＊Ａ　○ Ｂ	＊５０　●１００　○１５０

注（１）　アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は１００以上とする。

（２）　端部ａは１００以上とする。

４－２　設計地耐力　長期　kN/㎡　短期　kN/㎡　終局　kN/㎡

地耐力載荷試験　○ 行う　（　箇所，長期設計耐力の３倍を確認する）　＊　行わない

４－３　地盤改良

○ 無筋コンクリート地業　○ 締固め工法　○ ソイルセメント杭

○ セメント系固化材撹拌　○ 圧密排水工法

［ ○ 載荷試験　○ 一軸圧縮試験］　○ 行う　（　箇所）　＊　行わない

［ ○ 六価クロム溶出試験　］　○ 行う　＊　行わない

４－４　既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭　※詳細は構造図による

１）　杭種

○　ＰＨＣ杭　○ Ａ種　○ Ｂ種　○ Ｃ種　○

○　ＳＴ杭　○ Ａ種　○ Ｂ種　○ Ｃ種　○

●　鋼管杭 tmm　●8.0mm　○　○　○

○　ＰＲＣ杭　○ Ⅰ種　○ Ⅱ種　○ Ⅲ種　○ Ⅳ種

○　節杭　○ Ａ種　○ Ｂ種　○ Ｃ種　○

２）　工法

○　打撃工法　○　油圧ハンマー　○　ディーゼルハンマー

●　埋込み工法　○　プレボーリングセメントミルク注入工法

○　プレボーリング拡大根固め工法（認定工法/ＨｉＦＢ工法）

杭周固定液　＊　あり　○　なし

○　中掘拡大根固め工法（認定工法）

○　回転埋設根固め工法（認定工法）

●　先端羽根付き鋼管杭工法（認定工法）

３）　杭径，設計耐力，本数表

杭　径(羽根部)mm	長期ｋＮ	短期ｋＮ	終局ｋＮ	本数	備　考
φ267.4（φ580）	660	1320	1980	２	
φ267.4（φ650）	829	1658	2487	２	

４）　杭の構成は設計図による。

５）　杭頭補強

○　かご筋　○　スタッド溶接　●　杭外周溶接

４－５　場所打鉄筋コンクリート杭，場所打鋼管コンクリート杭

１）　工法

○　アースドリル工法　○ 拡底アースドリル工法

○　リバース工法　○ オールケーシング工法（ ○　ベノト工法　○　　）

○　ＢＨ工法　○

２）　杭径，設計耐力，本数表（拡底部は施工径を示す）

杭　径（拡底部）mm	管厚mm	長期ｋＮ	短期ｋＮ	終局ｋＮ	本数	備　考
（　　）						
（　　）						
（　　）						
（　　）						
（　　）						

３）　杭先端深さ　ＧＬ－　m

４）　孔壁測定（２方向）

＊　行う　（ ○　全数　○　％ ）　○　行わない

５）　使用材料　コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合ＪＡＳＳ５水中コンクリートによる。

コンクリート　Ｆｃ　（ ○ 普通ポルトランドセメント ○ 高炉セメントＢ種 ）

鉄筋　○ Ｄ　以下　ＳＤ２９５Ａ　○ Ｄ　以上　ＳＤ３４５

○ Ｄ　以上　ＳＤ３９０

鋼管（リブ付）○ ＳＫＫ４００　○ ＳＫＫ４９０

４－６　杭打地業共通事項

１）　［ ○　杭長決定用先行杭　○　試験掘］　○　行う　（１本）　＊　行わない

２）　載荷試験　○　行う　（　箇所，長期設計耐力の３倍を確認する）　＊　行わない

３）　ＳＬ塗布　○　行う　＊　行わない

§5　鉄筋工事

５－１　材種

種　類	径	継　手
● ＳＤ２９５Ａ	Ｄ１６以下	＊重ね継手　○スパイラル ○ 工場溶接
● ＳＤ３４５	Ｄ１９以上	○重ね継手　＊溶接継手　○ 機械継手（　　級）
○ ＳＤ３９０	Ｄ　以上	＊溶接継手　○機械継手（　　級）
○ ＳＤ４９０	Ｄ　以上	＊溶接継手　○機械継手（　　級）
○ 溶接金網		○重ね継手
○ 高強度せん断補強筋	○ １２７５級　Ｐ ○ ７８５級　Ｋ ○ ６８５級　ＵＤ　ＵＲ	○重ね継手　○スパイラル ○ 工場溶接

溶接継手　＊　ガス圧接　○　突き合せ溶接（Ｄ１６以下は重ねアーク溶接でも可）

５－２　溶接部の検査（第三者機関による）

●　抜取り検査

○　引張り試験（ＪＩＳＺ３１２０）

1検査ロットにつき　＊　３本　○

●　超高音波探傷試験（ＪＩＳＺ３０６２）○　熱間押抜き試験

1検査ロットにつき　●　３０箇所　○

不合格となった溶接部は切り取って再溶接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。

１検査ロットは１組の作業班が１日に施工した溶接箇所の数量で２００箇所以内

５－３　梁貫通補強

補強筋は原則として工場製品（評定品）を使用する。

５－４　その他

基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ○ ①一般　○ ②地反力を受けるとする。

鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。

コンクリートを２回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。

コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§6　コンクリート工事

６－１　設計基準強度　（Ｎ／mm²）

１）　セメント　＊　普通ポルトランドセメントＪＩＳＲ５２１０　○高炉セメントＢ種

○ 低熱ポルトランドセメントＪＩＳＲ５２１０　○

２）　粗骨材　○　砂利 ＊　砕石　○ 高炉スラグ骨材 ○人工軽量骨材 ○再生骨材

最大径（mm）＊　２０ ○２５　○４０

３）　躯体　（使用区分は設計図の軸組図に示す）

●　普通コンクリート

●　Ｆｃ１８ ●Ｆｃ２１ ○Ｆｃ２４ ○Ｆｃ２７ ○Ｆｃ３０ ○Ｆｃ　○Ｆｃ

○　軽量コンクリート （ ＊１種　○２種　気乾単位容積質量　＊１８．５ ○　）

○ ＬＦｃ１８ ○ＬＦｃ２１ ○ＬＦｃ２４ ○ＬＦｃ２７ ○ＬＦｃ３０ ○ＬＦｃ

４）　土間コンクリート　●Ｆｃ２１　（ただし柱，壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする）

５）　捨てコンクリート　●Ｆｃ１８

６）　防水押さえコンクリート　○Ｆｃ　○ＬＦｃ　（気乾単位容積質量　＊１８．５　○　）

７）　かさ上げコンクリート　○Ｆｃ　○ＬＦｃ　（気乾単位容積質量　＊１８．５　○　）

６－２　混和材　＊ＡＥ減水剤　○ 高性能ＡＥ減水剤　○ 躯体防水材　○ 膨張材

６－３

箇　所	捨てｺﾝｸﾘｰﾄ	基礎、地中梁	一　般		備　考
スランプ　ｃｍ	１５	１８	１８		
水セメント比　％					６０以下
単位水量　ｋｇ／m³					１８５以下
単位セメント量ｋｇ／m³					２７０以上

６－４　試験　（躯体コンクリートの２８日圧縮試験は公的機関において行う）

１）　骨材　［ ● 塩分含有量　●アルカリシリカ反応性 ］＊　行う　○　行わない

２）　フレッシュコンクリート　［ ● スランプ　● 空気量 ］　＊　行う　○　行わない

３）　躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験　＊　行う　○　行わない

４）　コンクリートコア抜き取り圧縮試験　○　行う　＊　行わない

５）　マスコンクリートのひび割れ照査（温度応力解析）　○　行う　＊　行わない

６－５　調合　（補正値は工事費に含む）

計画供用期間の級（　）は耐久設計基準強度Ｆｄ

○ 短期（１８）　＊ 標準（２４）　○ 長期（３０）　○ 超長期（３６）

調合管理強度　Ｆｍ＝Ｍａｘ（Ｆｃ，Ｆｄ）＋Ｓ　Ｓ＝３～６

材齢２８日の調合強度Ｆは下記の両式を満足するものとする。

Ｆ≧Ｆｍ＋１．７３σ　Ｆ≧０．８５Ｆｍ＋３σ

６－６　せき板及び支柱の在置期間（普通ポルトランドセメントの場合）

		基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁　下
コンクリートの材齢による場合	１５℃以上	３日	１７日	２８日
	５℃以上	５日	２５日	
	０℃以上	８日	２８日	
圧縮試験による場合		５Ｎ／mm²	０．８５Ｆｃまたは１２Ｎ／mm²	設計強度

６－７　住宅性能表示

劣化等級　○ 等級２　○ 等級３

劣化等級２又は３を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）２－７かぶり厚さが変わる場合があるので注意すること。

６－８　Ｆｃ６０を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書による。

§7　鉄骨工事

７－１　材種及び使用箇所

規格名称	鋼　材　名	柱	通しダイア	内ダイア	大梁	ブレース	小梁、他
一般構造用圧延鋼材	● ＳＳ４００　○				○	○	○
溶接構造用圧延鋼材	○ ＳＭ４００Ａ　○ ＳＭ４９０Ａ						
建築構造用圧延鋼材	○ ＳＮ４００Ａ　○						
	● ＳＮ４００Ｂ　● ＳＮ４９０Ｂ			○	○		
	○ ＳＮ４００Ｃ　● ＳＮ４９０Ｃ		○				
一般構造用角形鋼管	○ ＳＴＫＲ４００　○ ＳＴＫＲ４９０						
冷間成形角形鋼管	● ＢＣＲ２９５　○	○					
	○ ＢＣＰ２３５　○ ＢＣＰ３２５						
熱間成形角形鋼管	○ ＳＨＣ４００Ｂ　○ ＳＨＣ４００Ｃ						
	○ ＳＨＣ４９０Ｂ　○ ＳＨＣ４９０Ｃ						
一般構造用炭素鋼管	○ ＳＴＫ４００　○ ＳＴＫ４９０						
一般構造用軽量形鋼	● ＳＳＣ４００　○						○

７－２　高力ボルト

高力ボルトの種類		使用箇所
トルシア形高力ボルト	● Ｓ１０Ｔ	全般
ＪＩＳ形高力ボルト	○ Ｆ１０Ｔ	トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	○ Ｆ８Ｔ	母材が亜鉛メッキされている部分

７－３　普通ボルト，アンカーボルト

１）　材質　○ＳＳ４００　○ＳＳ４９０（Ｍ　以上）

○ＡＢＲ４００ ○ＡＢＲ４９０ ○ＡＢＭ４００ ○ＡＢＭ４９０（ＡＢＭはＭ２４以上）

２）　大臣認定柱脚（メーカー仕様による）　● 使用する　○ 使用しない

７－４　頭付きスタッド

径　長　さ（mm）	使用箇所
１６φ　○ ８０ ○１００ ○１２０ ○１５０ ○	小梁(合成梁)
１９φ　○ ８０ ○１００ ○１２０ ○１５０ ○	
２２φ　○１００ ○１２０ ○１５０ ○　○	

７－５　溶接材料

１）　アーク溶接に使用する溶接棒，ワイヤ及びフラックスは母材の種類，寸法，及び溶接条件に相応したものを選定する。

２）　ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

７－６　スカラップ形状　＊　スカラップ工法　○ノンスカラップ工法

７－７　継手

	柱		梁	
フランジ	○ 高力ボルト	○ 現場溶接	＊　高力ボルト	○ 現場溶接
ウェブ	○ 高力ボルト	○ 現場溶接	＊　高力ボルト	○ 現場溶接

７－８　溶接手法及び管理

使用する溶接ワイヤー、入熱量及びパス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。

７－９　デッキプレート　（単位 mm

１）　床用　高さ　○　板厚　○

２）　合成スラブ用　高さ　●５０　板厚　●１．２

３）　型枠用　高さ　○　板厚　○　形版　タイプ

４）　防錆処理　○ プライマー　● 亜鉛メッキ　○Ｚ１２　●Ｚ２７

７－１錆止め塗装（工場塗　＊　２回　○１回、現場タッチアップ程度とする）

１）　素地こしらえ　＊　ケレン　○　ブラスト

２）　錆止め塗料

適用 室外	適用 室内	塗　料	種　別		標準膜厚
＊	＊	鉛、クロムフリー錆び止め　ＪＩＳＫ５６７４			３５μｍ
	○	一般用錆止めペイント　ＪＩＳＫ５６２１	○１種	○２種	
○	○	鉛丹錆止めペイント　ＪＩＳＫ５６２２	○１種	○２種	
●	●	鉛･ｸﾛﾑﾌﾘｰ錆止めペイント　ＪＩＳＫ５６７４	○１種	○２種	

３）　溶融亜鉛メッキ　○　行う　○　行わない

７－１１溶接部の検査（受入検査）　＊　行う　○　行わない

１）受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者（元請）との直接契約による。

２）第三者検査機関は（社）日本溶接協会によるＣＩＷ検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。

３）受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。

４）外観検査の合否判定は国土交通省告示１４６４号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「ＪＡＳＳ６　鉄骨工事　付則６．鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。

５）超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」２００８により、合否判定は７．２．１疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。

６）溶接箇所数の数え方は「ＪＡＳＳ６　鉄骨工事　２０１８」表５．１溶接箇所数の数え方による。

７）溶接部の外観検査は第三者検査機関による全数検査とする。

８）受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。

ａ）工場溶接の場合

ⅰ．検査ロットは各節、各工区毎に溶接箇所２２０箇所以内で構成する。

ⅱ．抜取り数は各ロット毎に２０箇所をランダムにサンプリングする。

ｂ）現場溶接の場合

ⅰ．全数検査とする。

９）検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。

１０）ずれ・食い違いの補修方法は、独立行政法人　建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」等を参考にする。

７－１２ 鉄骨製作工場

国土交通省大臣認定（グレード）					
S	H	M	Ⓡ	J	

§8 コンクリートブロック・ＡＬＣパネル　工事

８－１　コンクリートブロック

１）　種類　○ Ａ種　○ Ｂ種　○ Ｃ種

２）　厚さ mm　○１００　○１２０　○１５０　○１９０

８－２　ＡＬＣパネル

１）　使用箇所　○ 床　○ 屋根　● 外壁　○ 内壁

２）　厚さ mm　○７５（８０）　○１００　●１２５　○１５０　○１７５

３）　外壁取り付け構法

方　向	構　法	使用箇所	備　考
縦	○ スライド構法		
	● ロッキング構法	外壁	
横	○ カバープレート構法		
	○ ボルト止め構法		

建築設備の構造安全性の確認

令第１２９条の２の３の事項　※ ■は、設計が該当する場合を示す。

・　建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

■　建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。

□　屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

□　煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、９０cm以下とすること。

□　煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを５cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが２５cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

■　建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、

■　風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

■　建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

■　管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

■　管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

□　法第２０条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあっては、建設省告示第１３８９号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。

岡本設計株式会社　岡本　成敏
一級建築士登録　第195735号
構造一級建築士登録　第5700号

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号	設計者	No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 構造特記仕様書	A2　1/50	山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	一級建築士 第317991号 山本 覚康	S-1

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

§１　一般事項

1-1 基本事項

1．使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2．設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。
　また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2009)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。
3．本標準図は異形鉄筋を対象とし、ｄは呼び名に用いた数値とする。
4．本標準図に示す単位は特記なき限りすべてｍｍとする。

1-2 その他

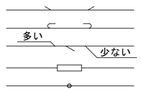
§２　共通事項

2-1 鉄筋の表示記号

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	∘	×	∅	◍	○	◎	⊠	◎	○	⊕	⊗
呼び径ｄ	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径Ｄ	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

・フックのない場合
・フックのある場合
・本数に差がある場合
・機械式継手表示
・溶接継手表示
　（ガス圧接、突合せ溶接）



2-2 鉄筋の折り曲げ

柱・梁・基礎の主筋及びその他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

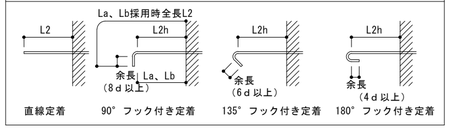
折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径（D）
180°	余長 4ｄ以上	柱・梁主筋 基礎主筋 帯筋 あばら筋 ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋 スラブ筋 壁筋	SD295	D16以下	3d以上
			SD345	D19～D41	4d以上
135°	余長 6ｄ以上		SD390	D41以下	5d以上
90°	余長 8ｄ以上		SD490	D25以下	5d以上
				D219～D41	6d以上

2-3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

「JASS5(2009)」

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)	重ね継手の長さ	定着の長さ 一般 上段 直線 L1 下段 フック付 L1h	定着の長さ 一般 上段 直線 L2 下段 フック付 L2h, La	定着の長さ 小梁・床スラブ 上端筋	定着の長さ 小梁・床スラブ 下端筋
						フック付Lb　L3, L3h
SD295 (SD345) ()はSD345を示す	18	45d(50d) 35d	40d 30d	,20d	15d (20d)	L3＝20d L3h＝10d 床スラブの場合 L3＝10d かつ 150以上 SD490は適用外
	21	40d(45d) 30d	35d 25d	,15(20)d		
	24～27	35d(40d) 25d(30d)	30d(35d) 20d(25d)	,15(20)d	15d	
	30～36	35d 25d	30d 25d	,15d		
	39～45	30d(35d) 20d(25d)	25d(30d) 15d(20d)	,15d		
	48～60	30d 20d	25d 15d	,15d		
SD390 (SD490) (-)は適用外	21	50d(－) 35d(－)	40d(－) 30d(－)	,20d(－)	20d (-)	
	24～27	45d(55d) 35d(45d)	40d(45d) 30d(35d)	,20(25)d		
	30～36	40d(50d) 30d(35d)	35d(40d) 25d(30d)	,20(25)d	15d (-)	
	39～45	40d(45d) 30d(35d)	35d(40d) 25d(30d)	,20(25)d		
	48～60	35d(40d) 25d(30d)	30d(35d) 20d(25d)	,15(20)d		

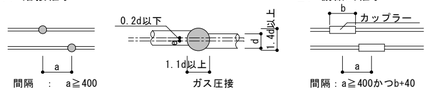
一般定着の直線L2またはフック付のL2h、La、Lbの図



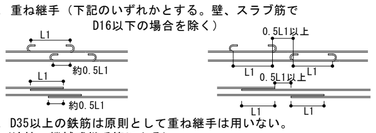
1．重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、またフック付のL2hは仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
2．軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

2-4 継手一般

1．溶接継手



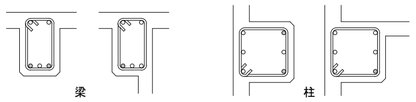
3．重ね継手（下記のいずれかとする。壁、スラブ筋でD16以下の場合を除く）



4．D35以上の鉄筋は原則として重ね継手は用いない。
　（溶接、機械式継手等による）
5．溶接継手を行う場合は原則として同一鋼種とし、鉄筋径の差はガス圧接の場合は２サイズ、突き合せ溶接の場合は１サイズまでとする。
6．突合せ溶接継手及び機械継手の場合はメーカー仕様による。

2-5 鉄筋のフック

・下記の1.～7.に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。
1.あばら筋及び帯筋　　2.煙突の鉄筋
3.柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部分の鉄筋（下図参照）



∘印の鉄筋の末端部にはフックが必要

4．単純梁の下端筋、片持ちスラブの上端筋の先端
5．最上階及びこれに準ずる箇所の柱頭の四隅の鉄筋
6．杭基礎の基礎筋（偏心基礎及び杭２本打以上の場合）
7．鉄骨柱の脚部の基礎柱、又は根巻コンクリートの四隅の鉄筋

2-6 鉄筋のあき

・鉄筋のあきaは、原則として下記による。
　呼び名の数値dの1.5倍以上
　粗骨材の最大寸法の1.25倍以上　　かつ25以上

※ Dは最外径を示す

・鉄筋形が異なる場合は大きい方による、機械接合はカップラー径。
・二段筋のあきは1.5dとする。

2-7 かぶり厚さ

鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

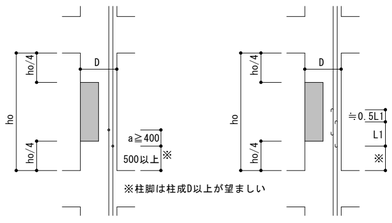
部位			かぶり厚さ（mm） 仕上げあり	かぶり厚さ（mm） 仕上げなし
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内	30 (20)	30 (20)
		屋外	30 (20)	40 (30)
	柱 梁 耐力壁	屋内	40 (30)	40 (30)
		屋外	40 (30)	50 (40)
	擁壁		50 (40)※1	50 (40)※1
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・耐力壁		50 (40)※2	
	基礎・擁壁		70 (60)※2	

1．（　）内の数値は最小かぶり厚さを示す。
2．「仕上げあり」とは、鉄筋の耐久性上有効な仕上のある場合とする。
3．※1　品質・施工法に応じ、工事監理者の承認で 10 減の値とすることができる。
4．※2　軽量コンクリートの場合は、これに 10mm 加算する。
5．柱、梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。

§３　柱

3-1 鉄筋の継手

溶接継手（機械式継手）　　重ね継手

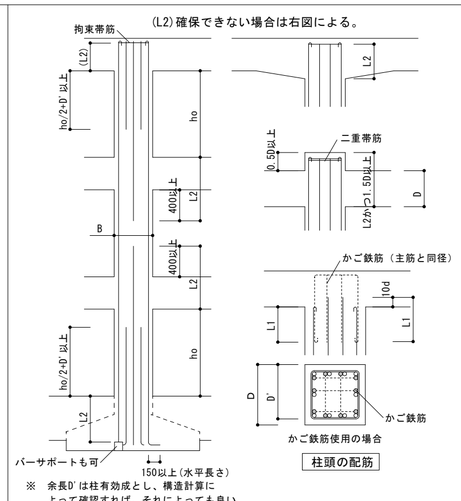


※柱脚は柱成D以上が望ましい

・▭ 印内に継手中心部を設けることを原則とする。

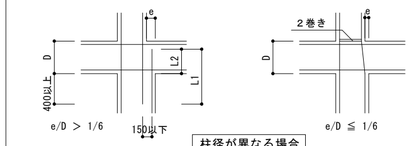
3-2 主筋の定着

(L2)確保できない場合は右図による。



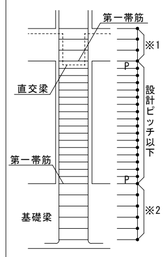
※　余長D'は柱有効成とし、構造計算によって確認すれば、それによっても良い。

柱頭の配筋

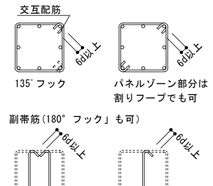


柱径が異なる場合

3-3 帯筋 副帯筋

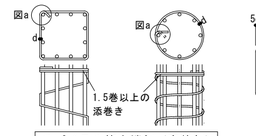


・第一帯筋（D13以上使用の事）は、梁面に入れ、その間を設計ピッチ　以下に割り付ける。
・帯筋の加工は下図による。

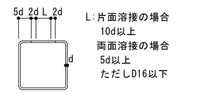


・パネルゾーンの帯筋は設計図によるが、明記なき場合は下記による。
　ただし、帯筋量(Pw)は0.2%以上とする。
　※1．設計ピッチの1.5倍以下とする。　⊟ 形以上の場合は同径同材質で □ 形@100以下とする。
　※2．基礎部分は、同径で □ 形@150 以下とする。

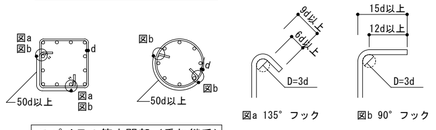
・スパイラル筋の末端処理及び継手は下記のとおりとする。
　1．末端は1.5巻以上の添巻きをし、図aのフックをつける。
　2．重ね継手は重ね長さ50d以上とし、図a又は図bのフックをつける。



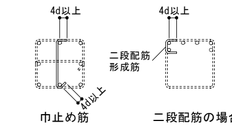
スパイラル筋末端部（定着部）



溶接の場合



スパイラル筋中間部（重ね継手）

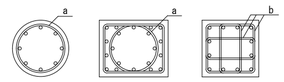


・補助金はD10をピッチ600以内に割り付ける。

3-4 補助筋

3-5 柱のコンファインド補強

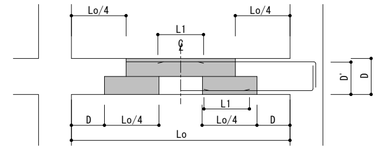
補強する柱は設計図による。（柱頭、柱脚柱成の範囲を補強する。）



a スパイラル帯筋#60～75（有効間隔50程度）
b 溶接閉鎖型帯筋#60～75（有効間隔50程度）

§４　梁

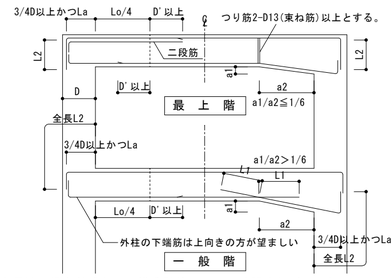
4-1 主筋の継手



4-2 主筋の定着及び余長

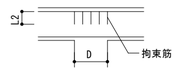
・▭ 印内に継手中心部を設けることを原則とする。ただし溶接継手の場合は、柱面より500以上はなすこと。
・定着形状を下記以外とする場合は設計図による。

外柱



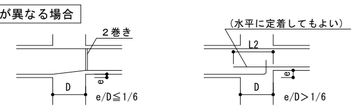
※余長D'は梁有効成とし、構造計算によって確認すれば、それによっても良い。

中柱

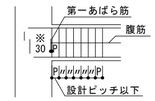


・梁主筋は原則として通し筋とするが、拘束筋 ⊓ をあばら筋と同径同ピッチで落とし込む。

梁成が異なる場合

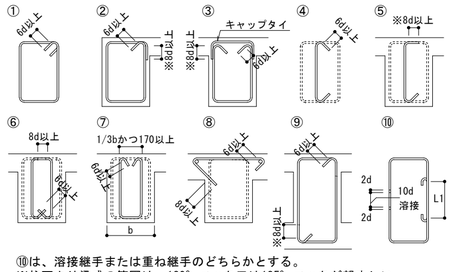


4-3 あばら筋 副あばら筋



※　ねじれ応力を受ける腹筋は定着長さL2とする。

・第一あばら筋は柱面に入れその間を設計ピッチ以下に割り付ける。
・あばら筋の加工は下図①に夜。
　②③⑤⑥⑧⑨は同時打込みのスラブ付の場合に限る。
・⑨⑩は梁成の大きい場合。
・⑧はピッチ2Pで交互配置とする。
・溶接継手は帯筋の項を参照のこと。



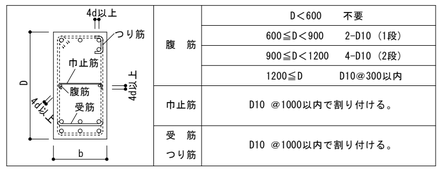
⑩は、溶接継手または重ね継手のどちらかとする。
※柱面より梁成の範囲は、180°フック又は135°フックが望ましい。

岡本設計株式会社　岡本　成敏
一級建築士登録　第195735号
構造一級建築士登録　第5700号

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号	設計者	No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	A2　1/50	山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	一級建築士 第317991号 山本　覚康	S-2

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

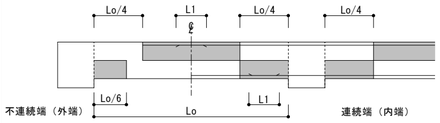
4-4 補助筋



腹筋	D＜600　不要
	600≦D＜900　2-D10（1段）
	900≦D＜1200　4-D10（2段）
	1200≦D　D10@300以内
巾止筋	D10 @1000以内で割り付ける。
受筋 つり筋	D10 @1000以内で割り付ける。

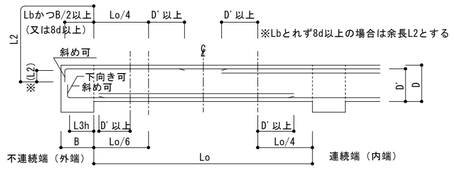
4-5 小梁及び片持梁

a）小梁継手



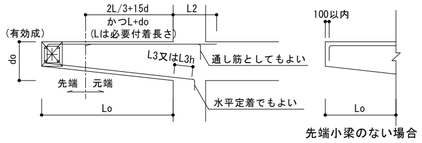
・▒ 印内に継手中心部を設けること、ただし溶接継手の場合は梁面より500以上はなすこと。

定着



b）片持梁定着継手

・下端筋は水平定着でも可。上端筋には継手を設けてはならない。

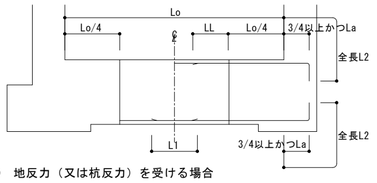


4-6 基礎梁および基礎小梁

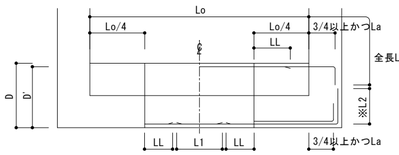
※　地反力を受ける梁は構造特記仕様書5-4項および設計図に示す。
余長LL｛LL≧min(D',L2)｝とする。
余長LLは構造計算によって確認すれば、それによっても良い。

a）基礎梁の継手及び定着

① 一般（独立基礎、杭打独立基礎）



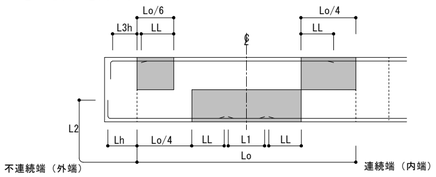
② 地反力（又は杭反力）を受ける場合



※設計者の判断による。

b）基礎小梁の継手及び定着

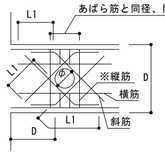
① 地反力を受けない場合は(4-5)による。
② 地反力を受ける場合



・▒ 印内に継手中心部を設けること、ただし溶接継手の場合は柱面より(基礎小梁の場合は梁面)より500以上はなすこと。Lbとれない場合4-5a定着によってよい。

4-7 梁の貫通補強

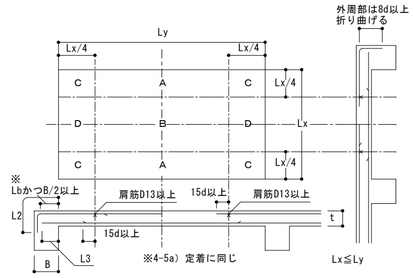
1．補助筋は原則として工場製品（認定品）を使用する。
2．認定品を使用しない場合は下図によるが、補強筋は設計者の指示による。



・梁貫通孔は、梁成の1/3以下とする。
・孔が複数の場合は中心間隔を、径（φ）の３倍以上とする。
また位置はは原則として、柱面から梁成 D以上はなし、梁成の中央D/2の範囲内とする。
・φが100かつD/10以下のとき、補強を必要としないがあばら筋を切断してはならない。
・縦筋はあばら筋加工とする。

§５　スラブ

5-1 鉄筋の折曲げ及び定着

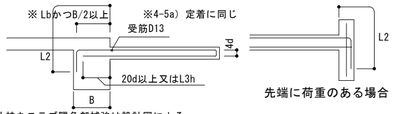


5-2 継手

継手位置は原則として下表によが梁幅位置でも良い。

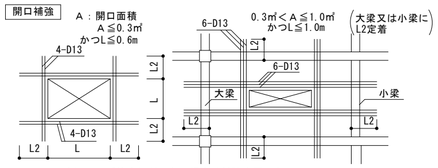
		標準継手位置
上端筋	短辺方向	B　D
	長辺方向	A　B
下端筋	短辺・長辺方向	A　C　D

5-3 片持ちスラブ

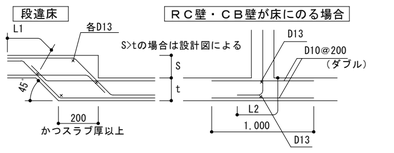


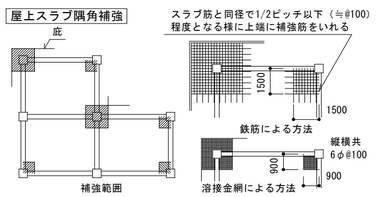
5-4 補強筋

片持ちスラブ隅角部補強は設計図による。



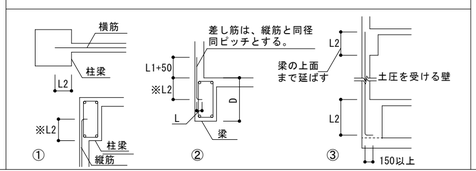
注）スラブ筋を切断しない場合は補強を要しない。





§６　壁

6-1 定着及び継手

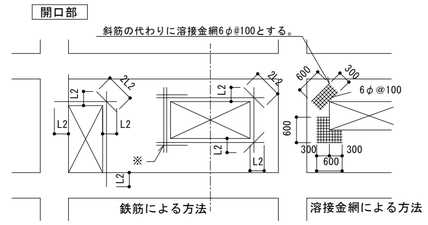


6-2 壁配筋

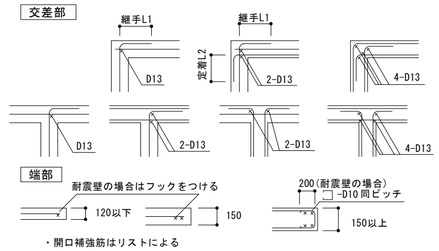
・定着長さはL2、及び継ぎ手長さはL1とする。※ただし耐震壁で帯筋、
※ただし耐震壁で帯筋、あばら筋の内側に定着できない場合は、
L=150程度45°～90°折り曲げ、定着長さはL2かつD/2とする。
（通し配筋の場合は不要）
・土圧を受ける壁の外側鉄筋の定着は③図とする。
・継手位置はどの部分でもよいが、土圧を受ける壁は5-2項の土圧面側を上端筋側に読み替える。

壁の配筋は設計図による。
・ダブル配筋では巾止筋を縦横共D10@1000以内を標準とする。

6-3 補強筋

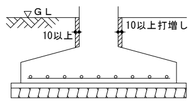


・※ 斜筋を、縦・横補強筋でおきかえる場合は設計者の指示による。
・斜筋は外側に配置する。
・壁筋を切断しない場合は、補強を要しない。



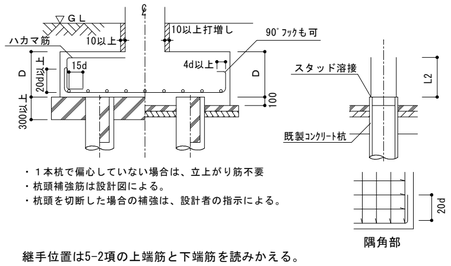
§７　基礎壁

7-1 独立基礎



但しかぶり厚さ５０
（軽量コンクリートの場合６０）
の場合は不要

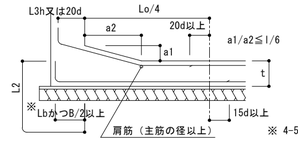
7-2 杭基礎



・１本杭で偏心していない場合は、立上がり筋不要
・杭頭補強筋は設計図による。
・杭頭を切断した場合の補強は、設計者の指示による。

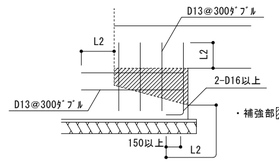
7-3 べた基礎継手及び定着

継手位置は5-2項の上端筋と下端筋を読みかえる。



※ 4-5a)上端筋定着に同じ

7-4 基礎と基礎梁

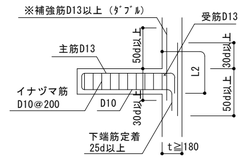


・補強部▨の厚さは梁巾とする。

§８　その他

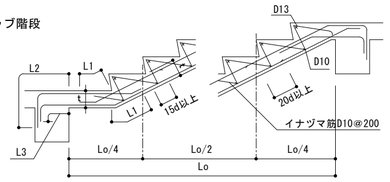
8-1 階段

片持階段

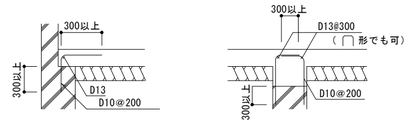


※壁配筋が片持荷重を受ける配筋とされている場合は不要。

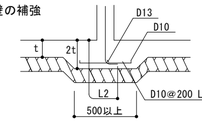
スラブ階段



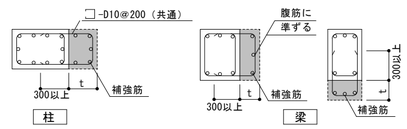
8-2 土間コンクリート



RC壁・CB壁の補強

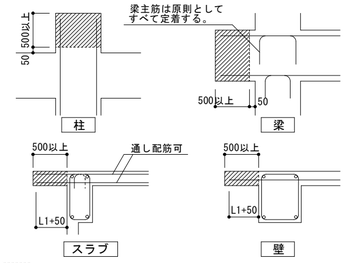


8-3 打増し補強



・▒は打増し部分を示す。
・補強筋（定着は20d以上）
t≦50 補強なし　　50＜t≦100　D13 @300
100＜t≦200 D16 @300　　200＜t≦300 D16 @200
t＞300 設計図による。

8-4 増築予定



・▨は、はつり部分を示す。
・原則として柱・梁の主筋は溶接継手とする。
（増築側の鉄筋は水平定着でも良い）

岡本設計株式会社　岡本　成敏
一級建築士登録　第195735号
構造一級建築士登録　第5700号

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE		
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康

No. S-3

鉄 骨 工 作 標 準 図 （1）

§1 一般事項

1-1
基本事項

1) 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2) 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4.5に指定した共通仕様書および標準仕様書による。
3) 製作精度等に関しては、JASS6の付則6「鉄骨精度検査基準」による。
4) 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

1-2
その他

§2 共通事項

2-1
略号

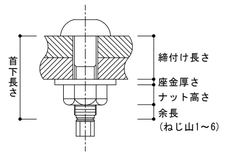
- AB－－－－－－－アンカーボルト
- BPL －－－－－ベースプレート
- DFPL－－－－－ダイアフラム
- FPL －－－－－フランジプレート
- HTB －－－－－高力ボルト
- SPL －－－－－スプライスプレート
- WPL －－－－－ウェブプレート
- BH －－－－－－組立てH形鋼
- CHPL－－－－－ﾁｪｯｶｰﾌﾟﾚｰﾄ
- FB －－－－－フラットバー
- GPL －－－－－ガセットプレート
- RPL －－－－－リブプレート
- TB －－－－－ターンバックル
- W1～W9－－－－－溶接記号（§4参照）

§3 ボルト接合

3-1
高力ボルト

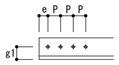
ボルトの長さ

ボルトの呼び径	締付け長さに加える長さ F8T,F10T	締付け長さに加える長さ S10T
M16	30	25
M20	35	30
M22	40	35
M24	45	40



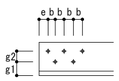
1. 特記以外はすべてS10T（トルシア形高力ボルト、上図）又はF10Tとする。
2. 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの兼用はしてはならない。
3. ボルトの接合面の処理は、締め付け摩擦面を平グラインダー掛け等を行い、黒皮を除去して一様に赤さびを自然発生させる。ただし、ショットブラスト等を行なった場合はこの限りでない。締め付けは１次締付け後、マーキングを入れてから本締めをする。
4. 亜鉛メッキボルトの場合は、すべてF8Tとする。

3-2
高力ボルトのピッチ



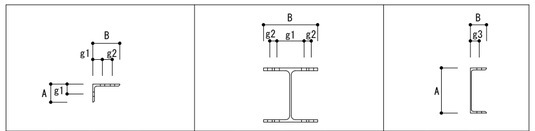
呼び径			M16	M20	M22	M24
孔径			18	22	24	26
ピッチ	標準	P	60	60	60	70
	最小		40	50	55	60
はしあき		e	40	40 (50)	40(55)	45(60)
最小縁端距離	せん断、手動ｶﾞｽ切断縁		28	34	38	44
	圧延縁、自動ｶﾞｽ切断縁		22	26	28	32

（ ）内はボルトが応力方向に３本以上並ばない場合を示す。



ゲージ g2	千鳥打ちのピッチ b M16,20,22	千鳥打ちのピッチ b M24
35	50	65
40	45	60
55	25	45

3-3
形鋼のゲージ

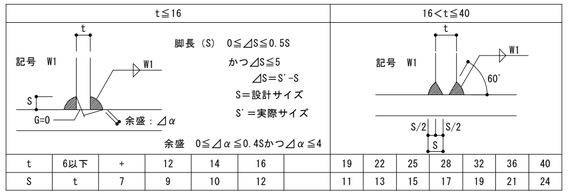


A or B	g1	g2	最大軸径	B	g1	g2	最大軸径	B	g3	最大軸径
**50	30		16	**100	60		16	**50	30	16
60	35		16	125	75		16	65	35	20
65	35		20	150	90		22	70	40	20
70	40		20	175	105		22	75	40	22
75	40		22	200	120		24	80	45	22
80	45		22	250	150		24	90	50	24
90	50		24	*300	150	40	24	100	55	24
100	55		24	350	140	70	24			
125	50	35	24	400	140	90	24			
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

*B＝300は千鳥打ちとする。
**印の欄のg及び最大軸径の値は強度上支障がないとき最小縁端距離の規定にかかわらず用いることができる。

§4 溶接接合

4-1
隅肉溶接



t	6以下	+	12	14	16		19	22	25	28	32	36	40
S	t	7	9	10	12		11	13	15	17	19	21	24

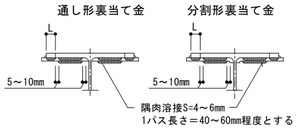
断続隅肉溶接の長さL

4-2
完全溶込み溶接
（突合せ溶接）

1) 板厚の異なる場合

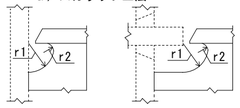
クレーンガーターの場合は、全て2.5倍以上の勾配をとる。

2) エンドタブ
両端に継手と同じ形状のエンドタブを取り付ける。
長さLは35以上かつ薄い方の板厚の2倍以上とする。
エンドタブを切断する場合溶接終了後母材より5～10mmはなして切断する。代替タブを採用する場合は溶接技量付加試験に合格した溶接工によること。
エンドタブ、裏当て金の組立て溶接は右図による。



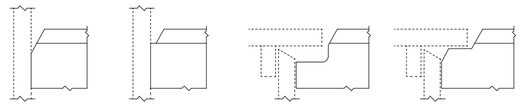
3) 開先加工 （下図は参考とする。）

a）スカラップ工法



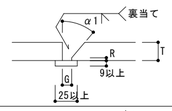
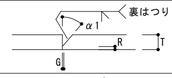
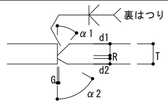
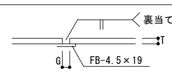
- スカラップの円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工する。r1は35程度、r2は10程度とする。
  なお複合円は滑らかに仕上ること。
- 完全溶込み溶接部以外のスカラップはr=25程度とする。

b）ノンスカラップ工法



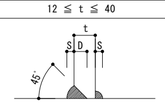
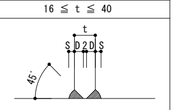
機械加工タイプ　機械加工+ガス切りタイプ

4) 開先形状

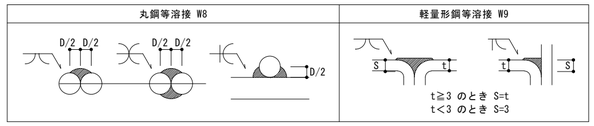
記号	形状	適用板厚	寸法	アーク手溶接	ガスシールド及びセルフシールドアーク溶接
W2 MC-BL-B1 GC-BL-B1		6≦T	G	7 +2 −2	6 +2 −2
			R	2 +1 −2	2 +1 −2
			α1	45° −5°	45° −5°
			G	9 +2	7 +2
			R	2 +1 −2	2 +1 −2
			α1	35° −5°	35° −5°
W3 MC-BL-2 GC-BL-2		6≦T≦19	G	0 +4 −0	0 +3 −0
			R	2 +2 −2	2 +2 −2
			α1	45° −5°	45° −5°
W4 MC-BK-2 GC-BK-2		6<T	G	0 +4 −0	0 +3 −0
			d1	2/3(T-R)	2/3(T-R)
			R	2 +2 −2	2 +2 −2
			d2	1/3(T-R)	1/3(T-R)
			α1	45° −5°	45° −5°
			α2	60° −5°	60° −5°
W5 MC-B1-B1 GC-B1-B1		3～6	G	T −2	T −2
		6～9	G		6 −2

MC･･･はアーク手溶接　GC･･･はガスシールドアーク溶接・セルフシールドアーク溶接の記号を示す。

4-3
部分溶込み溶接

片面溶接 W6										両面溶接 W7
12 ≦ t ≦ 40										16 ≦ t ≦ 40
										
t	12	16	19	22	25	28	32	36	40	D=(t-2)/2
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16	
t/4 ≦ S ≦ 10										

4-4
フレア溶接

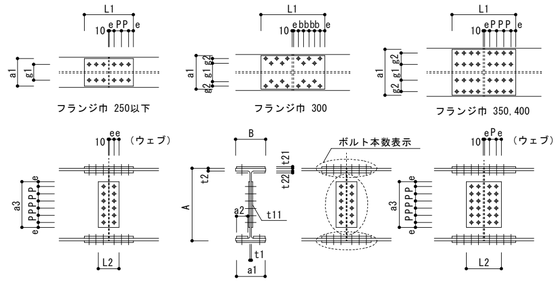


4-5
その他

加工工程中及び現場建方後においてもアークストライク、ショートビートをしてはならない。

§5 継手

5-1
継手リスト

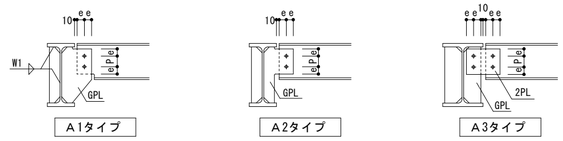


材種	主材	高力ボルト	フランジ ボルト 総本数	フランジ 外側添板 2PL- t21 × a1 × L1	フランジ 内側添板 4PL- t22 × a2 × L1	ウェブ ボルト 総本数	ウェブ 添板 2PL- t11 × a3 × L2	ピッチ
	H- A × B × t1 × t2 BH- A × B × t1 × t2							
	H- × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H- × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H- × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H- × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H- × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H- × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H- × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H- × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H- × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H- × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H- × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H- × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H- × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H- × × ×			× ×	× ×		× ×	

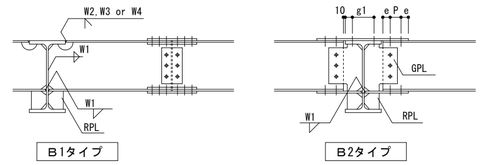
1. フランジPL面もしくはウェブPL面で、段差1mmを超える場合は、フィラーPLを入れて調整すること。
2. a3は原則として梁成の2/3以上確保すること。

5-2
小梁仕口

ピン接合
Aタイプ



剛接合
Bタイプ



1. GPL、RPLは材種、板厚とも小梁のWPLと同等以上とする。
2. 継手プレート及び高力ボルトはリストによる。

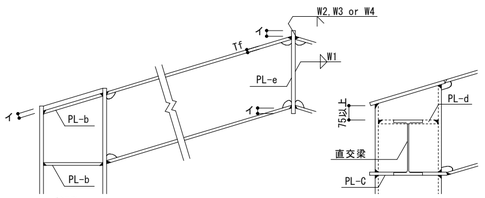
岡本設計株式会社　岡本　成敏
一級建築士登録　第195735号
構造一級建築士登録　第5700号

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE		設計者	No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 鉄骨工作標準図（１）	A2	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	一級建築士 第317991号 山本 覚康	S-4

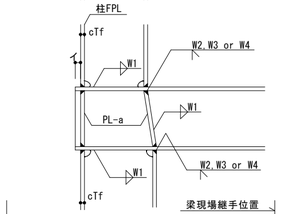
鉄 骨 工 作 標 準 図 （2）

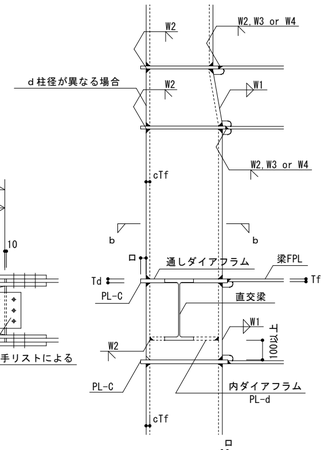
§6 柱梁接合部及び継手

6-1
勾配屋根

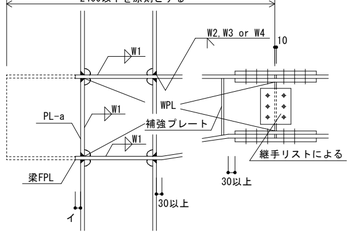


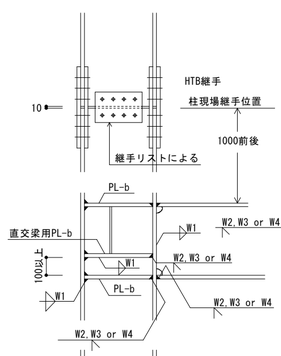
6-2
梁通し

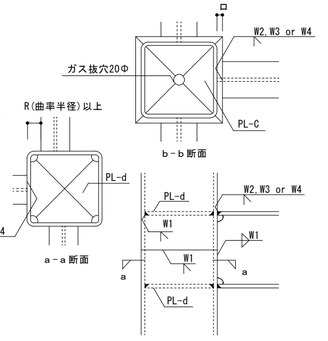




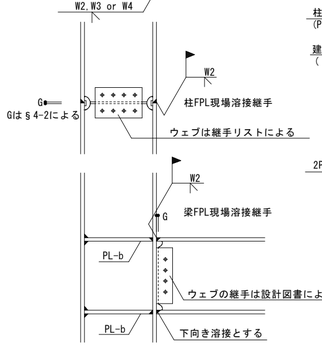
6-3
仕口と継手

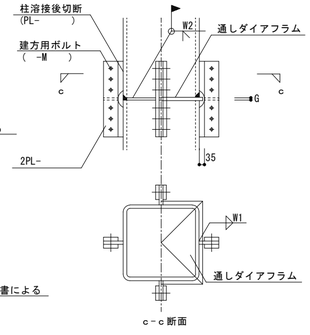






6-4
柱通し

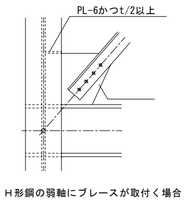




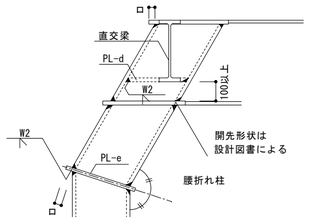
6-5
現場溶接継手

柱がH形鋼の場合　　柱が角形鋼管の場合

6-6
その他



柱がH形鋼の場合



柱が角形鋼管の場合

1) パネルゾーンのPLの暑さ

1.	PL-a（鉛直スチフナ）	上下柱のFPLの厚い方より1サイズUP以上
2.	PL-b（水平スチフナ）	仕口部に集結する梁の最大FPLより1サイズUP以上
3.	PL-C（通しダイアフラム）	仕口部に集結する梁の最大FPLより2サイズUP以上かつ柱のFPL以上
4.	PL-d（内ダイアフラム）	仕口部に集結する梁の最大FPLより2サイズUP以上
5.	PL-e（折れ曲がり部）	梁(柱)のFPLより1サイズUP以上

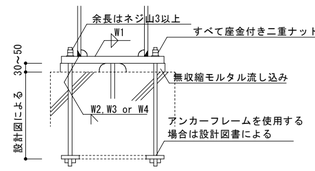
2) 出寸法
イ　25mmかつcTf以上
ロ　cTf≦25の場合　25
　　cTf≧28の場合　30

3) 注記
1. ダイアフラムの材質は特記仕様書による。特記なき場合は、接続する柱及び梁の１ランク上質とする。また接続する柱及び梁の強度及び材質の異なる場合は、強度は大きいほうに同じとし、材質は上の方の１ランク上質とする。
2. d（6-2項）上下階で柱径が異なる場合の板厚は上下階の厚い方、材質は上下階柱と同質以上とし、折り曲げ加工又は溶接加工とする。
3. ハンチ部で、FPLを折り曲げる場合は、R≧10Tfとし補強プレートを入れる。ただし、勾配のゆるい場合(1/6程度)は不要。
4. ダイアフラムと梁フランジの溶接部は、梁フランジはダイアフラムの厚みの内部で溶接すること。(告示1464)
5. 現場溶接を行なう場合は工事監理者の承諾を得、養生に十分配慮して行なう。

§7 柱 脚

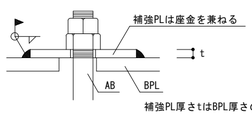
7-1
一般柱脚

Aタイプ（主柱）



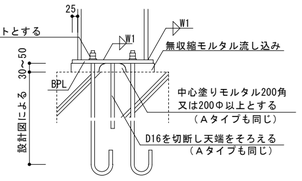
無収縮モルタルの強度はＲＣ柱型の
コンクリート強度以上とする

アンカーボルトの施工に誤差がある
場合は台直しはせず右図の様に補強
する。



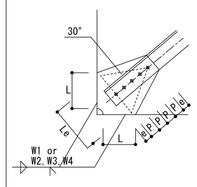
補強PL厚さtはBPL厚さの1/2以上かつ6以上

Bタイプ（間柱等二次部材）



§8 壁面ブレース

8-1
ブレースリスト



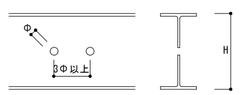
符号	部 材	高力ボルト		GPL		溶 接	
		径	本数	t	Le	脚長	ΣL

1. GPLの最小幅Leが確保できない場合は、設計者の指示により板厚を変更する。
2. 丸鋼を使用する場合は、丸鋼、ターンバックル共JIS規格品を使用する。
3. 床面ブレースは設計図書に明記なき場合は壁面に準ずる。

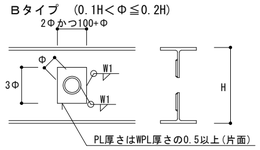
§9 その他

9-1
貫通補強

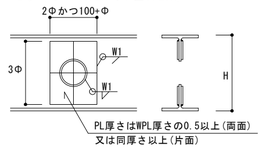
Aタイプ　(Φ≦0.1H)



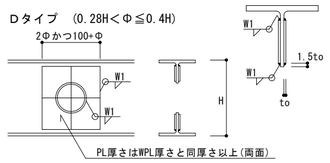
Bタイプ　(0.1H＜Φ≦0.2H)



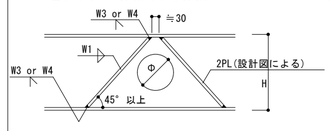
Cタイプ　(0.2H＜Φ≦0.28H)



Dタイプ　(0.28H＜Φ≦0.4H)



Eタイプ　(0.4H＜Φ≦0.5H)

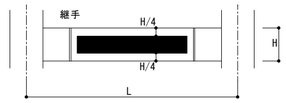


Fタイプ

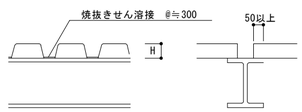
既製品(評定品)を用いた場合

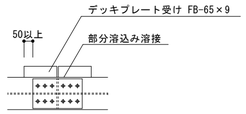
ハイリング、フリードーナツ
OSリング等 使用可

1. 特記なき限り補強方法は上図によるが、孔径(Φ)は0.5H以下とし、そのピッチは3.0Φ以上とする。(これを満足できない場合は設計者の指示による。)
2. 貫通孔を設ける範囲は右図の■■■部分を原則とする。
3. 貫通孔が多くある場合はWPLを厚くした(WPL+補強PL)BHとする。



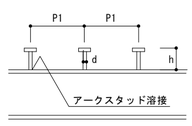
9-2
デッキプレート



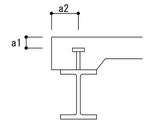


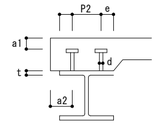
・合成スラブの場合はメーカー仕様による。

9-3
スタッドジベル



h,P1,P2設計図による

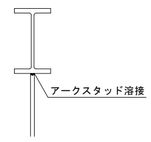




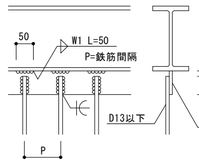
h≧4.0d
7.5d≦P1≦300
P2≧5.0d
a1≧40
a2≧100
e≧40
d≦2.5t

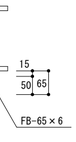
9-4
壁筋の溶接

Aタイプ（標準）

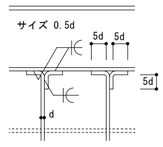


Bタイプ（軽微なRC壁の場合）





Cタイプ（ブロック壁の場合）



岡本設計株式会社　岡本　成敏
一級建築士登録　第195735号
構造一級建築士登録　第5700号

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 鉄骨工作標準図（２）	A2	―	設計者	S-5

一級建築士事務所
三重県登録第1-2396号
山本一級建築士事務所
管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号）
〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779
一級建築士
第317991号
山本　覚康

ベースパックⅠ型

角形鋼管
F値295N/mm²以下
□-150×150 ～ □-300×300 用

（財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」（平成30年9月21日付）

ベースパック柱脚工法 設計 施工 標準図

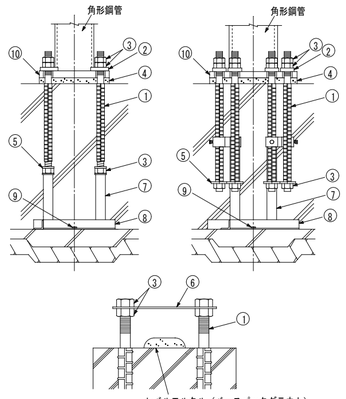
●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社 TEL03（3624）5336
旭化成建材株式会社 TEL03（3296）3515

2019年1月作成

1．工法概要

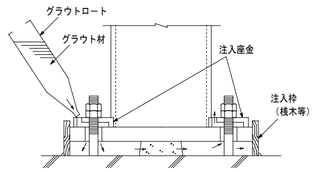
1．1 構成部材



①アンカーボルト
②注入座金
③Mナット
④ベースパックグラウト（グラウト材）
⑤定着座金
⑥テンプレート
⑦フレームポスト
⑧フレームベース
⑨ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑩ベースプレート

(注)上記①～⑩の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑥～⑨は現場状況により仕様が異なる場合がある。

1．2 柱脚の定着方法概要



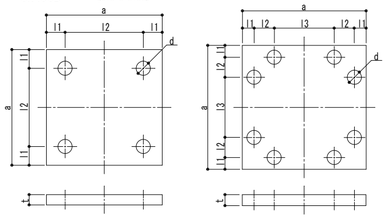
2．柱

F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	○
	TSC295	

3．構成部材・寸法

3．1 ベースプレート

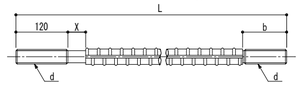
●材質
SN490B 【JIS G 3136】



形状（イ）　形状（ハ）

3．2 アンカーボルト（Mアンカーボルト）【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

i）アンカーフレーム Aタイプの場合

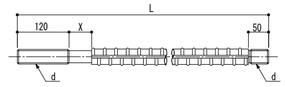


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L 注1)	X	b 注1)	基準強度 (N/mm²)
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690, 735	45	95, 140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770, 810	60	98, 135	490

注1)据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合

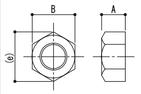


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L	X	基準強度 (N/mm²)
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

3．3 Mナット

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

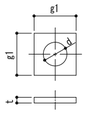


単位 mm

呼び	A	B	(e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

3．4 定着座金

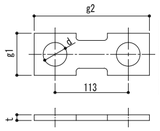
i）アンカーフレーム Aタイプの場合



単位 mm

適用アンカーボルト	g1	t	d	材質
M27	55	9	28	SS400
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合

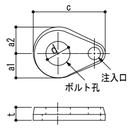


単位 mm

適用アンカーボルト	g1	g2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	SS400
M33	60	173	9	35	
M36	65	178	9	38	

3．5 注入座金

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

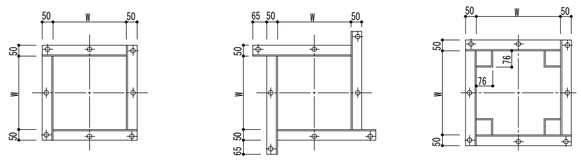


単位 mm

記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	18	28
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

3．6 フレームベース

i）Aタイプ　ii）Cタイプ　iii）特Cタイプ

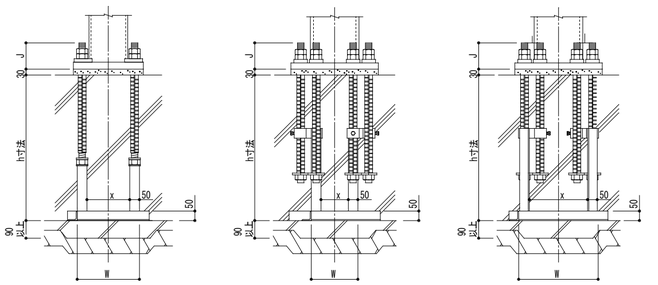


3．7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は下表に記載の値とする。

〈 Aタイプ 〉　〈 Cタイプ ※〉　〈 特Cタイプ 〉

※杭頭納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。

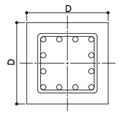


単位 mm

4．コンクリート柱型

4．1 形状・材質

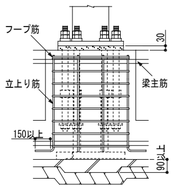
●形状
柱型寸法を標準から変更する場合は、別紙「ベースパック柱脚工法における柱型寸法最大・最小値一覧」による。



●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm² 以上とする。

●鉄筋
SD295(D13, D16)
SD345(D19, D22)

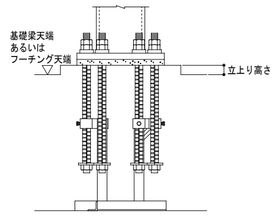
4．2 配筋



※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4．3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。

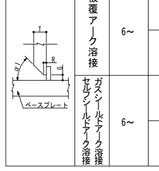


5．工場製作（溶接）

■組立
●ベースプレートの中心線（ｹｶﾞｷ線）に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）
●完全溶込み溶接とする。（JASS 6 鉄骨工事による）

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6 鉄骨工事 2007年版より ）

図	溶接方法	適用板厚 T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	ルート間隔G(mm) 許容差	ルート面R(mm) 標準値	ルート面R(mm) 許容差	開先角度α1(°) 標準値	開先角度α1(°) 許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：45	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き
			9	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：45	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き
			7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：35		

許容差・記号+∞は制限無しを示す。
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

■ベースプレートの予熱
●気温(鋼材表面温度)が5°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm) t＜32	32≦t＜40	40≦t≦50
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	予熱なし	50 ℃	50 ℃
CO2ガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	予熱なし	予熱なし

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。
■施工管理：７．本工法の施工及び施工管理参照。

6．工事場施工

6．1 基礎工事

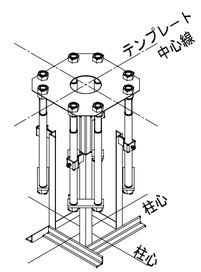
●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6．2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



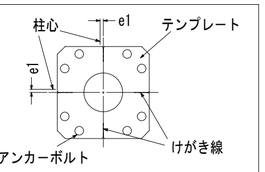


図	e1：柱心とテンプレートのけがき線との許容差
標準許容差	-2≦e1≦2 基準高さより誤差は -3≦e≦10

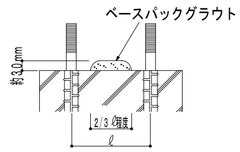
6．3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6．4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。



6．5 アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6．6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材１袋（6kg）に対して、計量カップで1.0～1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち６．２アンカーボルト据付け及び６．６ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

採用	ベースパック記号	柱 外径(mm)	柱 板厚(mm)	ベースプレート 材質	形状	寸法(mm) a	t	l1	l2	l3	d	アンカーボルト 本数-呼び	基準強度(N/mm²)	アンカーフレームタイプ	コンクリート柱型 寸法D(mm) 標準フレーム	特C	配筋 立上り筋	フープ筋	設計基準強度(N/mm²)	フレームベース 寸法W(mm) 標準フレーム	特C	フレームポスト間 寸法X(mm) 標準フレーム	特C	最低h寸法(mm)	J寸法(mm)
	15-12V	□-150×150	t≦12	SN490B	(イ)	300	28	50	200	-	φ45	4-M27	490	A	500	-	12-D16	D13@100	21以上	250	-	150	-	550	135
	17-12V	□-175×175	t≦12	SN490B	(イ)	320	32	45	230	-	φ45	4-M30	490	A	530	-	12-D19	D13@100	21以上	280	-	180	-	600	135
	20-09V	□-200×200	t≦9	SN490B	(イ)	360	28	50	260	-	φ45	4-M30	490	A	560	-	12-D16	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135
	20-12V	□-200×200	t≦12	SN490B	(イ)	360	32	50	260	-	φ50	4-M33	490	A	560	-	12-D19	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135
	25-09V	□-250×250	t≦9	SN490B	(イ)	420	32	55	310	-	φ55	4-M36	490	A	610	-	12-D19	D13@100	21以上	360	-	260	-	650	150
	25-12V	□-250×250	t≦12	SN490B	(イ)	420	36	55	310	-	φ55	4-M39	490	A	630	-	12-D19	D13@100	21以上	370	-	270	-	650	150
○	25-16V	□-250×250	t≦16	SN490B	(ハ)	450	32	50	80	190	φ50	8-M33	490	A	620	-	12-D19	D13@100	21以上	240	440	140	300	650	135
	30-09V	□-300×300	t≦9	SN490B	(イ)	480	36	60	360	-	φ55	4-M39	490	A	680	-	12-D22	D13@100	21以上	420	-	320	-	650	150
	30-12V	□-300×300	t≦12	SN490B	(ハ)	520	32	50	80	260	φ50	8-M30	490	C	700	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	650	135
	30-16V	□-300×300	t≦16	SN490B	(ハ)	520	40	50	80	260	φ55	8-M36	490	C	710	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	700	150
	30-19V	□-300×300	t≦19	SN490B	(ハ)	550	50	50	80	290	φ55	8-M36	490	C	740	740	12-D22	D13@100	21以上	340	540	240	400	700	150

岡本設計株式会社　岡本　成敏
一級建築士登録　第195735号
構造一級建築士登録　第5700号

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号）	設計者	No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 ベースパック柱脚工法 標準図	A2 1/50	〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	一級建築士 第317991号 山本 覚康	S-6

ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準 耐火仕様② JFE 建材 株式会社
耐火補強筋不要仕様 ［耐火認定FP060FL-0099,0100,0101,0102,0126,FP120FL-0127用］

ＱＬデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工規準 2018」、ＱＬデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設　　計

材料／デッキプレート ［ISO 9001認証取得］

デッキプレート種類		板厚(mm)	表　面　処　理
■ＱＬ９９－５０ □ＱＬ９９－７５	端部加工 ■ｴﾝﾄﾞ有り □無し	□１．０ ■１．２ □１．６	□裏面防錆処理(一次塗装)*1　ＱＬプライマー(P)*2 ■亜鉛めっき　［□Z12 ■Z27］ □JFEｴｺｶﾞﾙ(高耐食溶融めっき鋼板)［□Y18 □Y27］ □その他(　　)　□無し*2

*1 現場搬入までの一次防錆（ＪＩＳ Ｋ ５６２１ ２種または３種相当）
*2 板厚１．２mm，１．６mmに限る

材　質	ＪＩＳ Ｇ ３３５２に定めるSDP１T、SDP２、SDP２G

材料／コンクリート

種　　類	■普通コンクリート
設計基準強度	□１８　■２１　□（　　）Ｎ／mm²
厚さ(QLデッキ山上)	□６０ □７０ ■８０ □８５ □９０ □９５ □１００ ■（８０～１２０）mm

材料／溶接金網・異形鉄筋

■ 溶 接 金 網	ＪＩＳ Ｇ ３５５１	■φ６-１５０×１５０　□φ６-１００×１００ □（　　）
□ 異 形 鉄 筋	ＪＩＳ Ｇ ３１１２、３１１７	□Ｄ１０-@２００　□（　　）

接　　合

■焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
□打込み鋲	接合箇所は特記による
□頭付きスタッド	JIS B 1198　□φ１３　□φ１６　□φ１９　□φ２２　各長さ・ピッチは特記による ※最小長さはデッキ高さ＋３０mm以上とする。
□そ　の　他	

耐　　火

	ＱＬ９９－５０	ＱＬ９９－７５
床１時間	■ＦＰ０６０ＦＬ－０１００ □ＦＰ０６０ＦＬ－０１０１ □ＦＰ０６０ＦＬ－０１２６	□ＦＰ０６０ＦＬ－０１０２ □ＦＰ０６０ＦＬ－０９９９
床２時間		□ＦＰ１２０ＦＬ－０１２７
そ　の　他 □指定なし	□（　　） □（　　）	□（　　） □（　　）

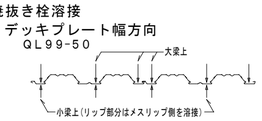
特　　記

支保工有無	その他：
■ 無　□ 有	

上欄内の採用項目に☒を記して下さい。

焼抜き栓溶接

デッキプレート幅方向



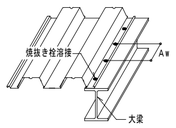
デッキプレートスパン方向

「ＱＬデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

$$Aw = \frac{1.5Qa}{Qo} \times 1000mm \text{ かつ } 600mm \text{ 以下}$$

Aw：焼抜き栓溶接ピッチ
Qo：設計最大せん断力(N/m)
Qa：焼抜き栓溶接１個当たりの長期許容せん断力（N）

板厚	１．０	１．２	１．６
Qa（N）	4,000	4,900	7,350(SPW) 6,860(APW)



Aw ＝（ 600 ）mm　（注）接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要です。

耐　火　仕　様

○共通事項　支持梁：鉄骨梁、コンクリート：設計基準強度18～36 N/mm²の普通コンクリート
溶接金網[JIS G 3551]又は異形鉄筋[JIS G 3112, G 3117]　寸法は下表参照
耐火補強筋：不要

【ＱＬ９９－５０】

■認定番号［ＦＰ０６０ＦＬ－０１００（床１時間耐火）］

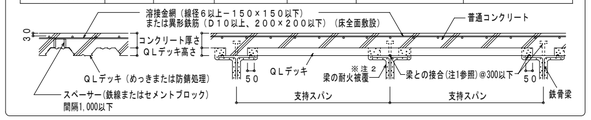
デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９-５０-１０ ＱＬ９９-５０-１２ ＱＬ９９-５０-１６	単純支持 連続支持	２,７００mm 以下	８０mm 以上	５,４００N/m²以下	線径6mm以上-１５０×１５０mm以下 Ｄ１０以上-２００×２００mm以下	焼抜き栓溶接(φ１８以上) 打込み鋲(φ４.５) 頭付きスタッド(φ１３以上)

□認定番号［ＦＰ０６０ＦＬ－０１０１（床１時間耐火）］

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９-５０-１０ ＱＬ９９-５０-１２ ＱＬ９９-５０-１６	単純支持 連続支持	３,０００mm 以下	８０mm 以上	３,５００N/m²以下	線径6mm以上-１５０×１５０mm以下 Ｄ１０以上-２００×２００mm以下	焼抜き栓溶接(φ１８以上) 打込み鋲(φ４.５) 頭付きスタッド(φ１３以上)

□認定番号［ＦＰ０６０ＦＬ－０１２６（床１時間耐火）］

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９-５０-１０ ＱＬ９９-５０-１２ ＱＬ９９-５０-１６	単純支持 連続支持	２,７００mm 以下	８０mm 以上	７,０００N/m²以下	線径6mm以上-１５０×１５０mm以下 Ｄ１０以上-２００×２００mm以下	頭付きスタッド(φ１６以上)



【ＱＬ９９－７５】

□認定番号［ＦＰ０６０ＦＬ－０１０２（床１時間耐火）］

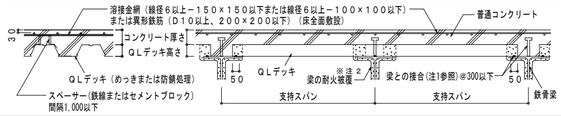
デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９-７５-１０ ＱＬ９９-７５-１２ ＱＬ９９-７５-１６	単純支持 連続支持	３,０００mm 以下	８０mm 以上	５,４００N/m²以下	線径6mm以上-１５０×１５０mm以下 Ｄ１０以上-２００×２００mm以下	焼抜き栓溶接(φ１８以上) 頭付きスタッド(φ１３以上)

□認定番号［ ＦＰ０６０ＦＬ－０９９９（床１時間耐火）］

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９-７５-１０ ＱＬ９９-７５-１２ ＱＬ９９-７５-１６	単純支持 連続支持	３,４００mm 以下	８０～１００mm	３,５００N/m²以下	線径6mm以上-１５０×１５０mm以下 Ｄ１０以上-２００×２００mm以下	頭付きスタッド (φ１６以上)

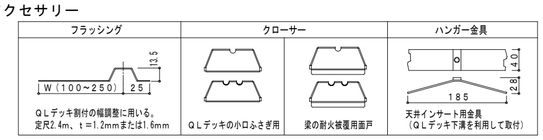
□認定番号［ ＦＰ１２０ＦＬ－０１２７（床２時間耐火）］

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９-７５-１０ ＱＬ９９-７５-１２ ＱＬ９９-７５-１６	単純支持 連続支持	２,５００mm 以下	９０mm 以上	６,０００N/m²以下	線径6mm以上-１００×１００mm以下 Ｄ１０以上-２００×２００mm以下	焼抜き栓溶接(φ１８以上) 頭付きスタッド(φ１３以上)



注1）梁との接合間隔は、焼抜き栓溶接・打込み鋲・頭付きスタッド共に、デッキ溝と直交する場合300mm以下、平行方向は600mm以下とする。
注2）梁の耐火被覆　梁に所定の耐火性能を要求される場合は、それらに応じて適切な耐火被覆を施す。（本認定仕様外）
注3）許容積載荷重は、床にかかる全荷重(仕上げ荷重も含む)から床荷重(デッキプレート+コンクリート+鉄筋)を差し引いた値を示す。

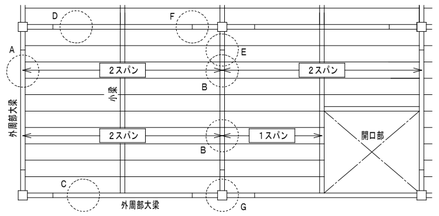
アクセサリー

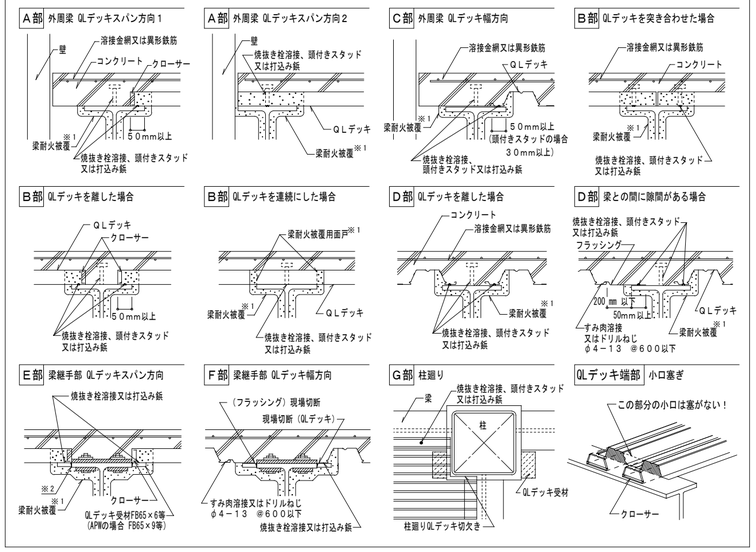


標　　準　　納　　ま　　り

支持梁：鉄骨梁

図中※１は、梁に１、２または３時間の耐火性能が要求される場合のみ適用。
※２ 溶接方法等は別途検討が必要。(合成スラブ工業会Ｑ＆Ａ参照)





（参考）ひび割れ拡大防止のための留意事項

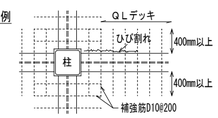
[1]設計上の留意点

1)小梁の剛性を大きくする。
2)ひび割れ拡大防止のため補強筋を設ける。(右図補強例参照)
3)スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。
（コンクリート厚さをＱＬデッキ山上から 80～90mmと厚くする。）
4)デッキプレートは各溝で梁に接合すること。
頭付きスタッド使用の場合にも、デッキプレート各溝全てをアークスポット溶接するのが望ましい。

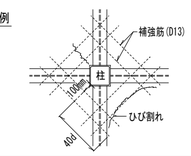
[2]施工上の留意点

1)水セメント比を小さくする。
［例］単位水量　175リットル/m³以下
ベースコンクリートスランプ　10cm　スランプ 15cm
高性能ＡＥ減水剤
2)溶接金網の位置一かぶり厚さ30mm－を確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する)
3)コンクリート打込み後１週間は載荷作業を行わない。歩行程度は可。
4)打込み後初期には散水や養生シート等で湿潤養生を行う。
直射日光が当たる屋上は、散水養生は必須。
5)打込み後４～７日間はスラブに振動や荷重を加えないようにし、充分な養生期間を設ける。

大梁上の補強例



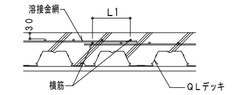
柱廻りの補強例



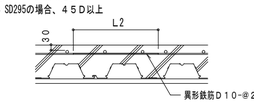
スラブの配筋

コンクリート表面よりのかぶり厚さが３０mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。

溶接金網の重ね代L1：１メッシュと５０mm以上
（線径6-１５０×１５０の場合２００mm以上、線径6-１００×１００の場合１５０mm以上）



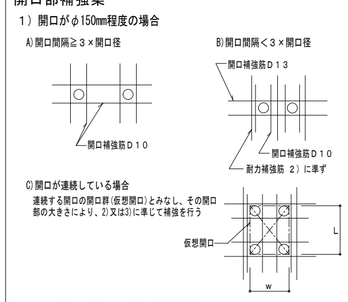
異形鉄筋の重ね代L2：JASS 5による
例）Fc18 SD295の場合、４５D以上



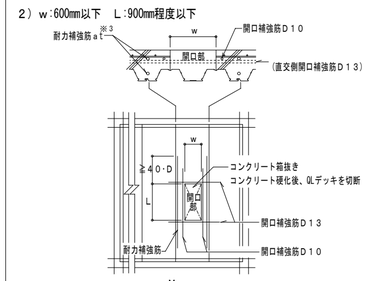
※配筋のスペーサーは鉄線またはセメントブロックとし、間隔は１．０m以下とする。

開口部補強案

１）開口がφ150mm程度の場合

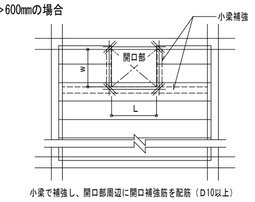


２）ｗ：600mm以下　Ｌ：900mm程度以下



※3 耐力補強筋 所要断面積 $at = \frac{M}{ftxj}$
M：開口によって生じる隣接スラブの増加曲げモーメント

３）ｗ＞600mmの場合



小梁で補強し、開口部周辺に開口補強筋を配筋（D10以上）

※開口補強の詳細は、合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」（I）合成スラブの設計　４．合成スラブの開口補強方法　を参照する。

施工

施工順序

墨出し
↓
敷込み仮止め溶接
↓
QLデッキと梁との接合
1）頭付きスタッド
2）打込み鋲
3）焼抜き栓溶接
↓
ひび割れ防止筋敷込み
↓
検　査
↓
コンクリート打設

敷　込　み

鉄骨梁の場合
1)墨出し線に合わせて１枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(５～１０枚)ごとに仮止め溶接する。
2)各大梁上にデッキプレートの溝部が乗るように敷込む。

デッキプレート幅方向のかかり代は、５０mm以上あることを確認する。
(頭付きスタッドの場合は３０mm以上)
3)デッキプレート長手方向の大梁のかかり代は、５０mm以上あることを確認する。

デッキプレートと梁との接合

1）頭付きスタッド
施工は、JASS6「鉄骨工事」による。
デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。

2）打込み鋲
施工は打込み鋲製造業者の施工要領による。
施工の仕様等については別途製造業者へご確認下さい。
日本ヒルティ(株)

3）焼抜き栓溶接
国土交通省告示第３２６号(平成14年4月16日制定)及び国土交通省告示第６０６号(平成19年6月20日改正)の第２接合ハ(4)焼抜き栓溶接に基づく下記仕様による。（梁フランジの表面処理条件：黒皮または一般錆止め塗装）
合成スラブ工業会主催の「焼抜き栓溶接講習会」の受講が望ましい。

焼抜き栓溶接［ＳＰＷ］ ―アーク手溶接―

（１）溶接機
交流アーク溶接機 ＡＷ２５０Ａ以上　エンジン溶接機 ２３０Ａ以上
（２）溶接棒
JIS Ｚ 3211のE4316、E4916 に定める低水素系被覆アーク溶接棒で棒径４mmφのもの
（３）標準溶接条件
梁フランジ板厚：６mm以上
溶 接 電 流　：１９０～２３０Ａ(標準２１０Ａ)
（４）溶接工の資格
JIS Ｚ 3801、JIS Ｚ 3841 における基本級の有資格者
（５）手順・要領
右の１～４の順に行う。

	工　程	手　順　・　要　領
1	アーク発生	QLデッキを梁になじませ(隙間２mm以下)溶接棒をQLデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2	QLデッキ焼抜き	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径10mm弱で"の"の字を描いてQLデッキを焼抜く。
3	押し込み・溶着	溶接棒を梁上まで押し込み、焼抜きの内側をなぞるように円中央へ２～３回転しながら連棒。
4	整　形	溶着金属を整え、中央部でそっと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認。

溶接時間の目安：電流値２１０Ａ(標準)の場合８秒程度

自動焼抜き栓溶接［Ａ．Ｐ．Ｗ］ ―CO_2アークスポット溶接―

（１）一次側電源の必要容量：仮設電力の場合　１８ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ
発電機の場合　３５ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ
（２）ワイヤの種類と直径　：ＹＧＷ　１１、１２　φ１．２mm
（３）標準溶接条件：下表

QLデッキ板厚	梁フランジ板厚	電流（Ａ）	電圧（Ｖ）	アークタイム（秒）
１．２mm	６～９mm未満	３００～３２０	３３～３５	３．０～４．０×１度打ち
	９mm以上	３００～３２０	３３～３５	３．０～４．０×２度打ち
１．６mm	６～９mm未満	３００～３２０	３４～３６	３．５～４．５×１度打ち
	９mm以上	３００～３２０	３４～３６	４．０～４．５×２度打ち

注１．デッキプレート　板厚１．０mm　表面条件：Ｚ１２、Ｚ２７、裏面塗装
２．CO_2ガス流量：２０ℓ／分以上

検　　査

【焼抜き栓溶接（ＳＰＷ）及び自動焼抜き栓溶接（Ａ．Ｐ．Ｗ）】
□事前検査
ＳＰＷ：適正な溶接を行うため下記1)または2)の方法で電流値をチェックする。
1）検流計での計測
2）溶接棒の消費長さによる確認―― 未使用の規定の溶接棒を用いて、アーク長さを約３mmに保持し、１０mm程度の円を描いて１０秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが４５～５３mmであること。
Ａ．Ｐ．Ｗ：試し溶接を行って溶接径を確認する。
□溶接後の外観検査
1）溶接箇所の確認　2）焼き切れ、余盛り不足の有無
3）標準余盛り径　SPW：18mm以上　A.P.W：25mm±3
□不良部の補修
ＳＰＷ　の場合：スラグ除去後、梁にデッキプレートを密着させて再溶接する。
不員合箇所に溶着金属を流し込む要領で補修。
Ａ．Ｐ．Ｗの場合：重ね溶接して補修する。
【そ　の　他】
(1)ＱＬデッキ相互の嵌合状況　(2)ひび割れ拡大防止筋の敷込み状況　(3)開口部の補強状況

特記事項：

その他の納まり・参考例等については、ＱＬデッキ施工マニュアルまたは別途『納まり図』(技術資料CADデータ収録)を参照下さい。

2019／08／01

岡本設計株式会社　岡本　成敏
一級建築士登録　第195735号
構造一級建築士登録　第5700号

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE		設　計　者	No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準	A2　－	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	一級建築士 第317991号 山本　覚康	S-7

へーベル 外壁・間仕切壁《縦壁ロッキング構法》

縦壁ＨＤＲ構法(一般用)　設計施工 標準図

Ⅰ ＡＬＣパネル仕様

1 ＡＬＣパネル仕様

JIS A 5416 軽量気泡コンクリートパネル（ＡＬＣパネル）に適合するもの

2 ＡＬＣパネル使用部位およびパネル厚

- ◎ 外壁 平パネル
  - □ 100厚
  - ◎ 125厚
  - □ 150厚
- □ 外壁 意匠パネル
  - □ 100厚
  - □ 125厚
  - □ 150厚
- □ 間仕切壁
  - □ 75厚
  - □ 100厚
  - ◎ 125厚
  - □ 150厚

※150厚は一部の納まりが異なるため、別途専用の設計施工標準図をご用意いたします。

3 ＡＬＣ外壁仕様

(1)パネル取付け構法

- ◎ 縦壁構法
  - ◎ 縦壁ロッキング構法 —— □ 縦壁ＨＤＲ構法（一般用）
  - □ その他　（　　）

(2)設計風圧力

階	～	階	正	負	〔 N/m 2〕
階	～	階	正	負	〔 N/m 2〕
階	～	階	正	負	〔 N/m 2〕
1 階	～	3 階	正1263.19	負1263.19	〔 N/m 2〕

(3)パネル特殊仕様

特記: □ 意匠パネル
- □ デザインパネル　（表面に凹凸デザイン模様　）
  （特記:　　）
- □ ジーファスパネル　（岩肌調デザイン模様　）
- □ NCフリーデザインパネル　（オリジナルのパターン加工　）
- □ Canvasパネル　（表面にブラスト模様　）
  - □ スタンダード　番号
  - □ オリジナル　（　　）

□ アートミュール　（工場下地処理＋現場塗装　）

□ デュアルウォール　（金属仕上げパネル専用工法　）

□ 下地処理済みパネル
- □ ＳＰパネル　（表面にフィラー下地処理済み　）
- □ その他

□ ＳＩパネル　（吸水性を抑えたパネル　）

□ その他　（　　）

4 ＡＬＣ間仕切壁仕様

(1)パネル取付け構法

- ◎ 縦壁構法
  - ◎ 縦壁ロッキング構法 —— □ 縦壁ＨＤＲ構法（一般用）
  - □ その他　（　　）

(2)パネル特殊仕様

（特記:　　）

Ⅱ 関連資材仕様

1 シーリング材　（ＡＬＣパネル間）

※モジュラスの低いもの(経年時の50%引張応力の値が0.3N/mm2以下)を選定
（JIS A 5758 に基く耐久性区分　）

(1)種類

- ◎ ポリウレタン系 —— ◎ 耐久性区分　8020
- □ 変成シリコーン系
  - □ 耐久性区分　8020
  - □ 耐久性区分　9030
- □ その他　（　　）—— 耐久性区分（　　）

(2)その他特記事項　（品名:　　）

2 耐火目地材

ロックウール保温板(JIS A 9504) または
高温断熱ウールＡＥＳブランケット(JIS R 3311)品質同等

3 防錆塗料（ＡＬＣ下地鋼材、開口部補強鋼材塗装用）

特記による（　　）

Ⅲ 内外装仕様

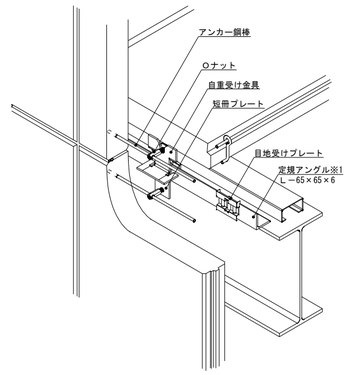
1 外装仕上げ

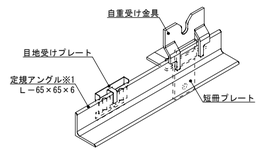
- ◎ 仕上塗材仕上げ（特記:　　）
  - ◎ 複層仕上塗材　(JIS A 6909)
    - ◎ 複層塗材Ｅ（アクリルタイル）
    - □ 複層塗材ＣＥ（セメント系吹付タイル）
    - □ 複層塗材Ｓｉ（シリカタイル）
    - □ その他　（　　）
  - □ 薄付け仕上塗材　(JIS A 6909)
    - □ その他　（　　）
  - □ 厚付け仕上塗材　(JIS A 6909)
    - □ その他　（　　）
- □ 張り仕上げ
  - □ その他　（　　）

2 内装仕上げ

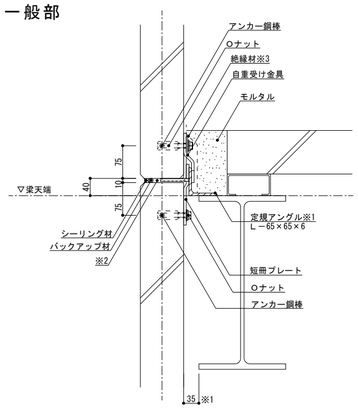
- □ 仕上塗材仕上げ　（特記:　　）
- □ ペイント塗り　（特記:　　）
- ◎ ボード仕上げ —— ◎ 変形追従型工法　（特記:　ＧＬ工法　）
- □ その他　（特記:　　）

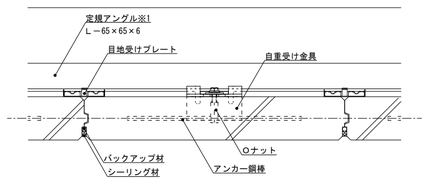
1.構法概要（縦壁ＨＤＲ構法（一般用））





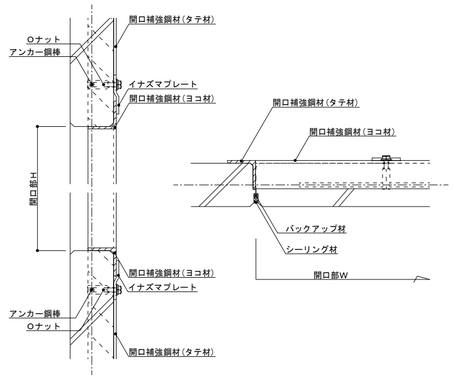
2.一般部



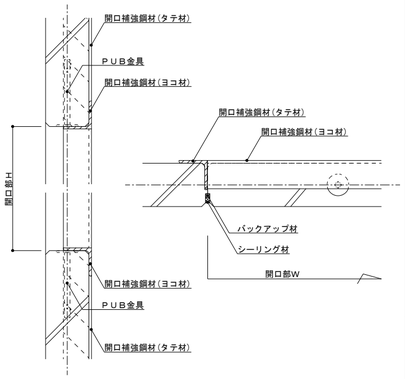


3.開口部

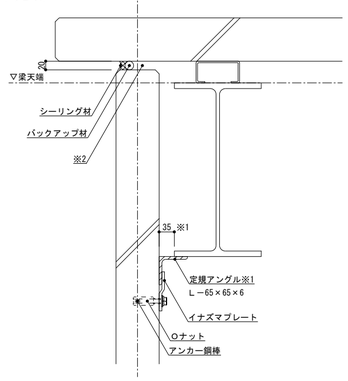
(1)Oナットを使用する場合



(2)ＰＵＢ金具を使用する場合

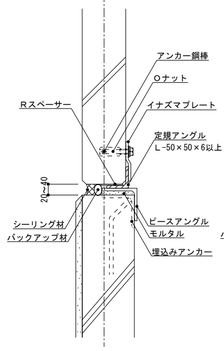


4.軒先部

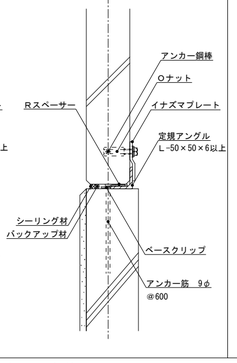


5.布基礎部

(1) 埋込みアンカー仕様

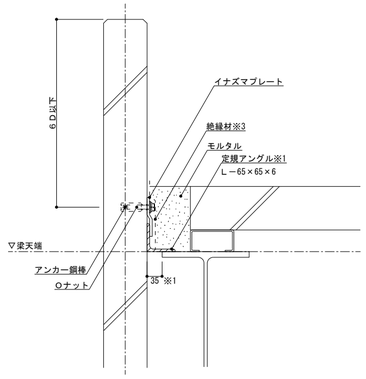


(2) ベースクリップ仕様

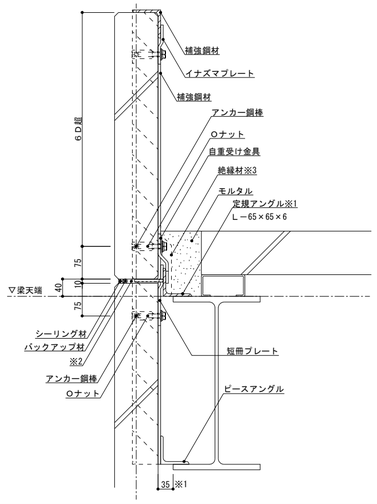


6.パラペット部

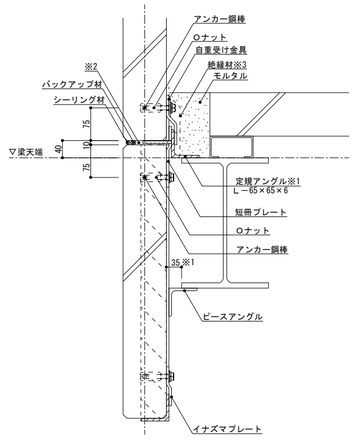
(1)はね出し寸法６Ｄ以下　　Ｄ：パネル有効厚



(2)はね出し寸法６Ｄ超



7.下がり壁部

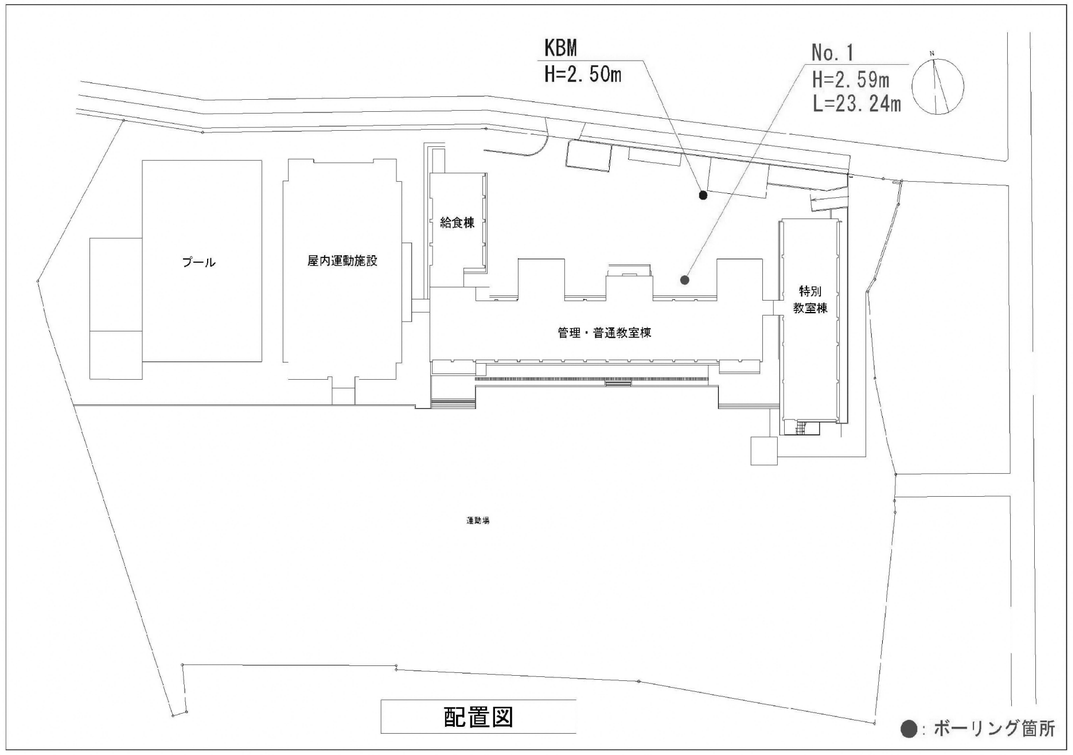


※1　平パネル厚さ150mmの場合、自重受け金具を取り付ける定規アングルなどはL-75×75×6を使用する。またパネルと躯体とのクリアランスは45～50mmとする。
※2　耐火目地材：横目地、出隅、入隅部、伸縮目地や軒まわりなどの目地で、耐火構造・断熱など必要な場合は、指定された耐火目地材を充てんする。
※3　絶縁材：床取合い部では、モルタルがパネルのロッキングを拘束しないように、パネルとモルタルの間に全長にわたって絶縁材を設ける。

岡本設計株式会社　岡本　成敏
一級建築士登録　第195735号
構造一級建築士登録　第5700号

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE		No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 へーベル縦壁ＨＤＲ構法（一般用）設計施工標準図	A2　1/50		S-8

一級建築士事務所
三重県登録第1-2396号
山本一級建築士事務所
管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号）
〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779
設計者　一級建築士 第317991号　山本　覚康



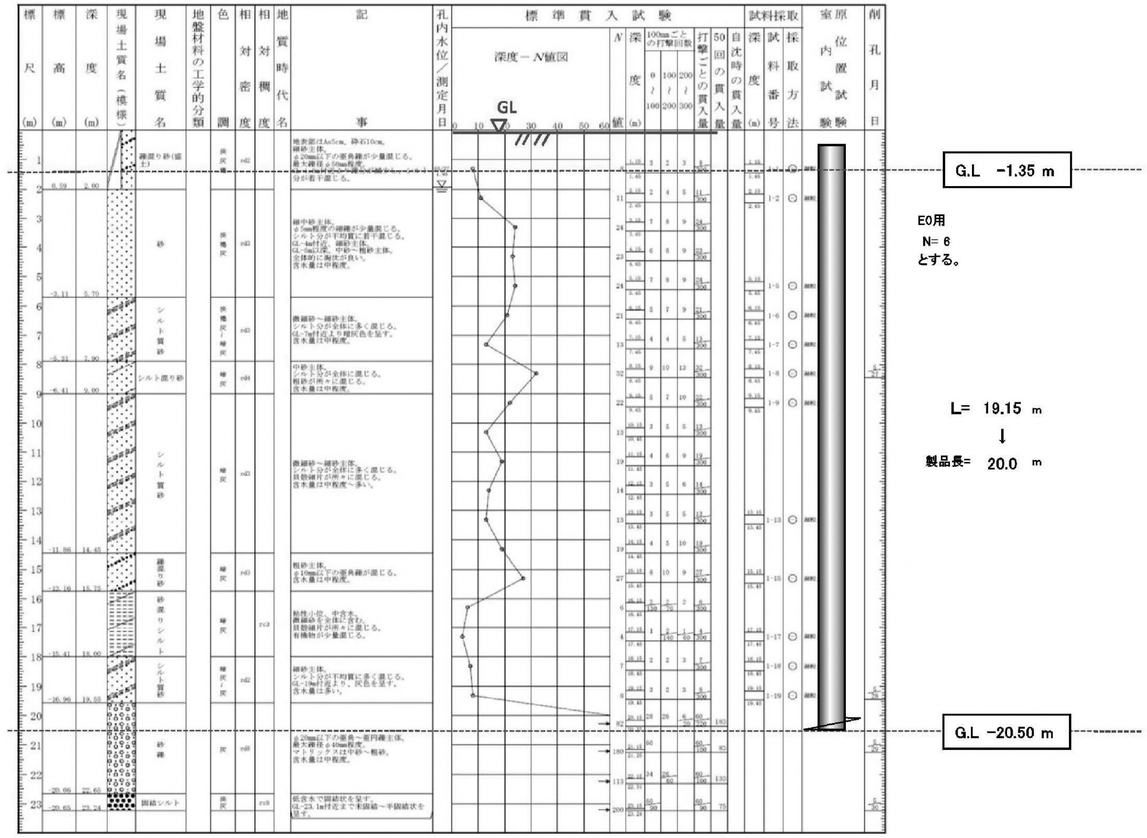
土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名　令和6年度営繕施第1-9号　津市立栗真小学校改修工事に係る地質調査業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　建築 構造物基礎

ボーリング名	No.1	調査位置	三重県津市栗真中山町　地内			北緯	34° 45′ 39.6″
発注機関	三重県津市			調査期間	2024年 5月 27日 ～ 2024年 5月 30日	東経	136° 31′ 21.9″
調査業者名	株式会社 若鈴 電話 059-226-4101	主任技師	辻 美久 地質調査技士 建設コンサルタント	現場代理人	瀬田 誠一 地質調査技士 建設コンサルタント	コア鑑定者	瀬田 誠一 地質調査技士 建設コンサルタント	ボーリング責任者	福口 憲治 地質調査技士 第25041号
孔口標高	H= 2.59m	角度	180° 上下 90° 0° 0°	方位	北 0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	水平0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機 KR-100PB-3
総削孔長	23.24m								エンジン PF90V-E　ポンプ V5-P

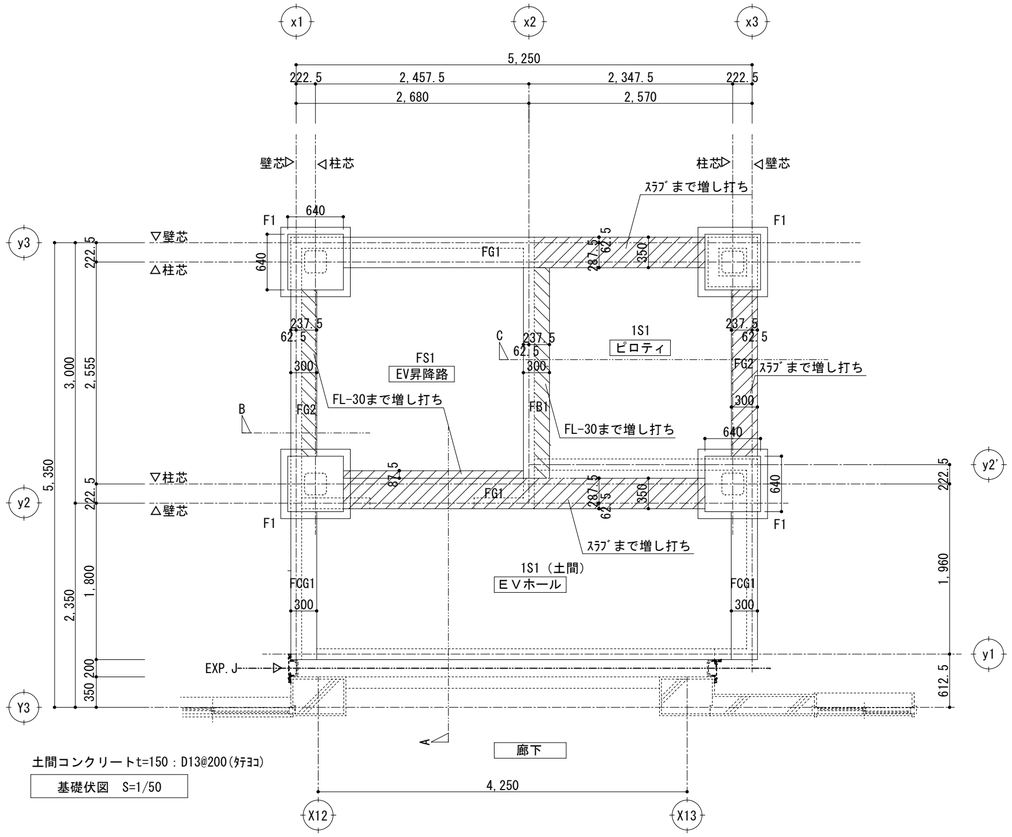


本検討書で採用したボーリング柱状図の位置は、施工位置から離れています。
本計画の施工位置での標準貫入試験の実施をお願い致します。
地盤にばらつきがある場合、本検討書通りの性能が発揮できない場合があります。

N= 50 とする。

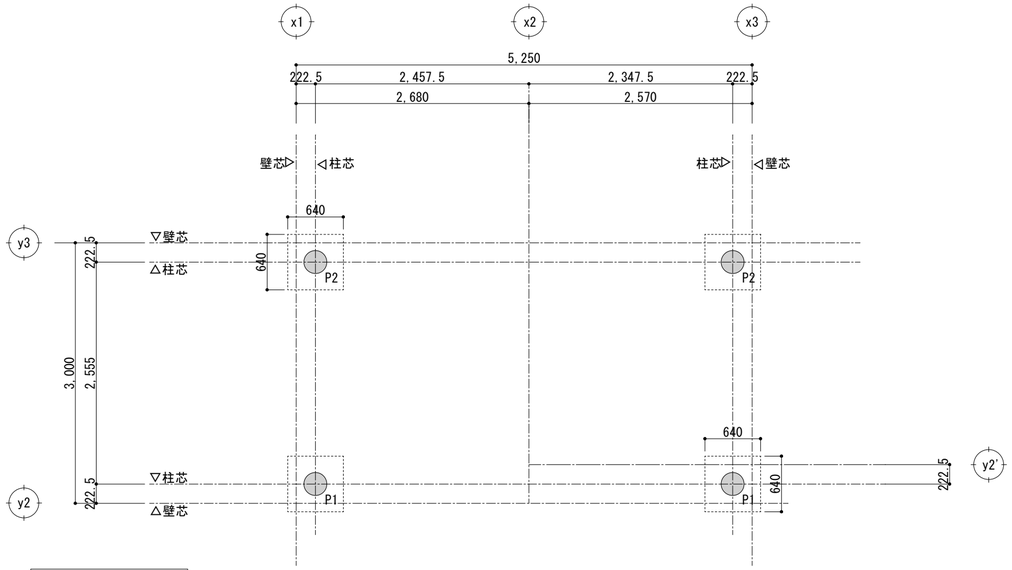
岡本設計株式会社　岡本　成敏
一級建築士登録　第195735号
構造一級建築士登録　第5700号

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 地質調査図	A2	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		No. S-9



土間コンクリートt=150：D13@200(ﾀﾃﾖｺ)

基礎伏図　S=1/50



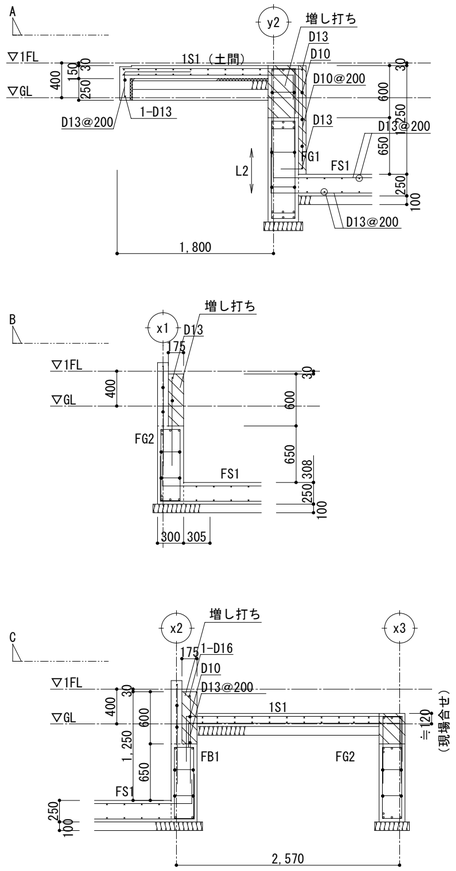
杭伏図　S=1/50

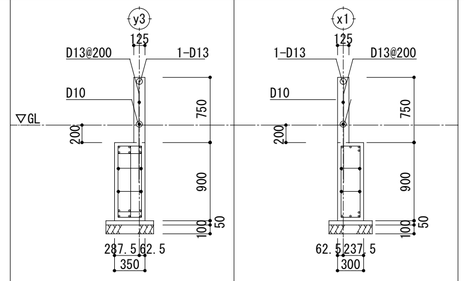
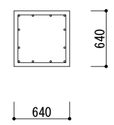
鋼管杭　杭工法:ｽｸﾘｭｰﾊﾟｲﾙEAZET工法

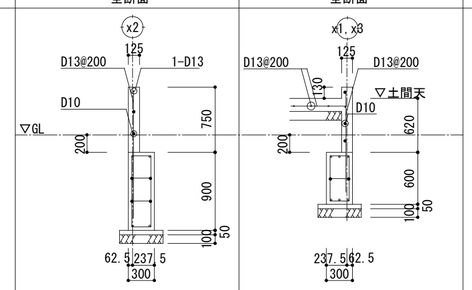
杭本体部						羽根			杭全長	本数	長期設計
符号	径		厚	種類	杭長	径	先端羽根厚	種類			支持力
P1	φ267.4	上杭	8.0mm	STKT590	5.0m	φ580	28mm	SM490A	L=20.0m	2set	660kN
	φ267.4	中・下杭	8.0mm	STK490	15.0m						
P2	φ267.4	上杭	8.0mm	STKT590	5.0m	φ650	28mm	SM490A	L=20.0m	2set	829kN
	φ267.4	中・下杭	8.0mm	STK490	15.0m						

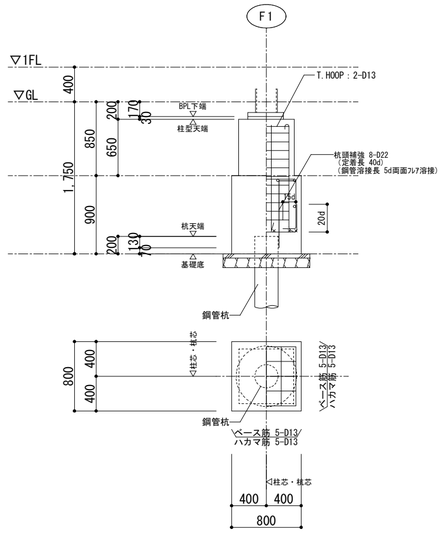
※中・下杭　杭長＝15.0m (5.0+5.0+5.0)

地中梁・柱脚リスト　1/50



符　号	FG1	FG2	符　号	FC1
位　置	全断面	全断面	位　置	全断面
姿　図			姿　図	
上端筋	6-D25	4-D19	主筋	12-D19
下端筋	6-D25	4-D19	HOOP	2D13@100
ＳＴＰ	3D-13@200	2D-13@200	柱アンカー	ベースパック　25-16V（特Ｃタイプ）
腹　筋	4-D13	4-D13		
巾止筋	D10@1000以内	D10@1000以内		

符　号	FB1	FCG1
位　置	全断面	全断面
姿　図		
上端筋	2-D19	3-D19
下端筋	2-D19	3-D19
ＳＴＰ	D-13@200	D-13@200
腹　筋	4-D13	2-D13
巾止筋	D10@1000以内	D10@1000以内



スラブリスト　1/50

符　号	t	位　置	短辺方向 端部	短辺方向 中央	長辺方向 端部	長辺方向 中央
FS1	250	上端筋	D13@200	――	D13@200	――
		下端筋	D13@200	――	D13@200	――
1S1	150	上端筋	D13@200	――	D13@200	――
		下端筋	D13@200	――	D13@200	――

① 使用材料

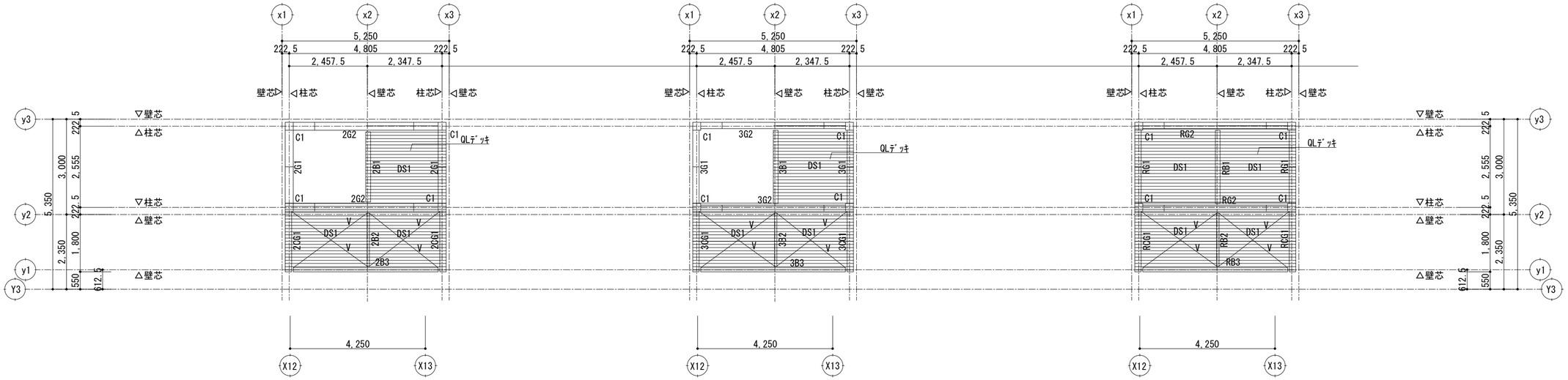
1. コンクリート（基礎）　２１+S　N／mm^2　（立上・立下・増打共）
2. 土間コンクリート　２１　N／mm^2
3. 鉄　筋　Ｄ－１６以下 ―― ＳＤ２９５
   Ｄ－１９以上 ―― ＳＤ３４５
4. 鉄　骨　ＳＮ４００Ｂ
   ＢＣＲ２９５
5. Ｈ．Ｔ．Ｂ　Ｓ１０Ｔ
6. デッキプレート　合成床版用デッキプレート（ＳＤＰ２Ｇ）１時間耐火仕様
   ｔ=1.2　山高　H=50　溶融亜鉛メッキ　Ｚ２７
   コンクリート　２１+S　N／mm（Ｓ＝３）
   ＲＦ　T=80～120　ワイヤメッシュ　6φ-150×150
7. 錆　止　２，３Ｆ　T=80　ワイヤメッシュ　6φ-150×150
   ＪＩＳ　Ｋ　5674（工場１回、現場１回塗）

② 製作工場Ｒグレード以上　(株)全国鉄鋼工業連合会）

③ 全ての工事は大臣官房官庁営繕部監修、建築工事仕様書、建築改修工事共通仕様書による。

岡本設計株式会社　岡本　成敏
一級建築士登録　第195735号
構造一級建築士登録　第5700号

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号）	設計者	No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 基礎伏図、基礎詳細図、地中梁リスト	A2　1/50	〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	一級建築士 第317991号 山本　覚康	S-10



※水平ブレースM16

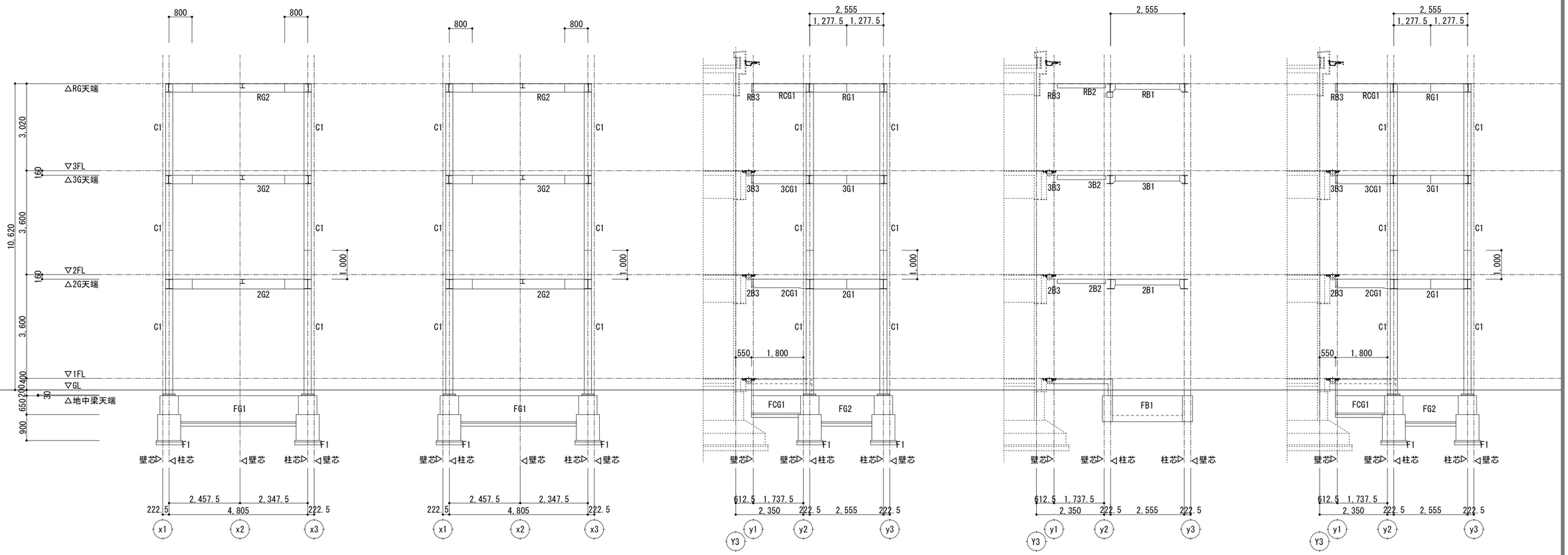
2階　梁伏図　S=1/100

※水平ブレースM16

3階　梁伏図　S=1/100

※水平ブレースM16

R階　梁伏図　S=1/100



y2通り軸組図　S=1/100

y3通り軸組図　S=1/100

x1通り軸組図　S=1/100

x2通り軸組図　S=1/100

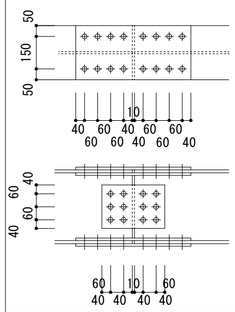
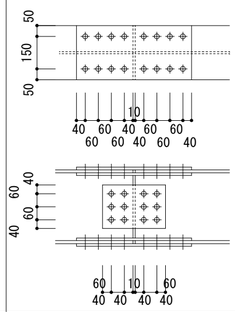
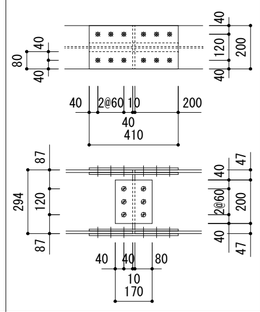
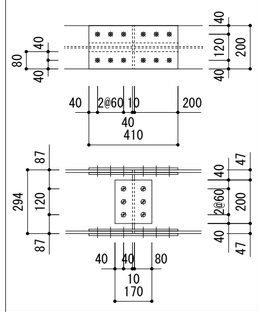
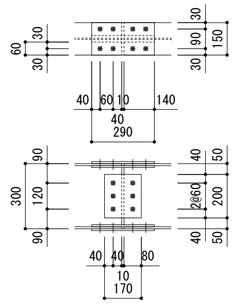
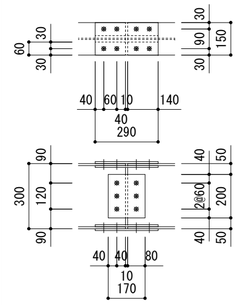
x3通り軸組図　S=1/100

岡本設計株式会社　岡本　成敏
一級建築士登録　第195735号
構造一級建築士登録　第5700号

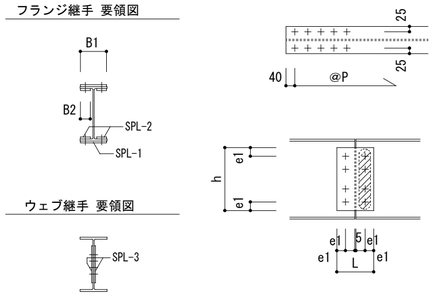
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE					No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 梁伏図、軸組図	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号	山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		S-11

鉄骨大梁・大梁継手リスト

※ 特記なき限り　鉄骨材質　ＳＮ４００Ｂ　Ｈ：ロールＨ型 鋼

符号	２Ｇ１	２Ｇ２	３Ｇ１	３Ｇ２	ＲＧ１	ＲＧ２
部材	Ｈ－３４０×２５０×９×１４	Ｈ－３４０×２５０×９×１４	Ｈ－２９４×２００×８×１２	Ｈ－２９４×２００×８×１２	Ｈ－３００×１５０×６．５×９	Ｈ－３００×１５０×６．５×９
詳細図						
フランジ	32-M20 / 2PL-530×250×12 / 4PL-530×100×12	32-M20 / 2PL-530×250×12 / 4PL-530×100×12	24-M20 / 2PL-410×200×9 / 4PL-410×80×9	24-M20 / 2PL-410×200×9 / 4PL-410×80×9	16-M16 / 2PL-290×150×9 / 4PL-290×60×9	16-M16 / 2PL-290×150×9 / 4PL-290×60×9
ウェブ	12-M20 / 2PL-290×200×9	12-M20 / 2PL-290×200×9	6-M20 / 2PL-170×200×9	6-M20 / 2PL-170×200×9	6-M16 / 2PL-170×200×6	6-M16 / 2PL-170×200×6

フランジ継手 要領図



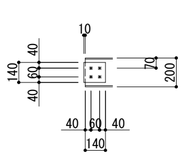
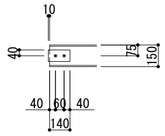
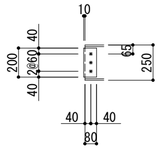
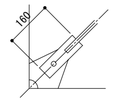
ボルト径	e１	P
Ｍ１６	４０	６０
Ｍ２０	４０	６０

鉄骨雑部材リスト

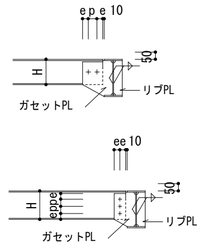
※ 特記なき限り　鉄骨材質　ＳＳ４００　Ｈ：ロールＨ型 鋼　Ｈ・Ｔ・Ｂ　Ｓ１０Ｔ

符号	部材	Ｇ・ＰＬ	Ｈ・Ｔ・Ｂ	備考
ＲＢ１	Ｈ－２００×１００×５．５×８	ＰＬ－６	２×２－Ｍ１６	
ＲＢ２	Ｈ－１５０×　７５×　５×７	ＰＬ－６	２－Ｍ１６	
ＲＢ３	Ｈ－２５０×１２５×　６×９	ＰＬ－９	３－Ｍ１６	
ＲＣＧ１	Ｈ－２９４×２００×　８×１２			元端剛接合（鉄骨詳細図参照）
３Ｂ１	Ｈ－２００×１００×５．５×８	ＰＬ－６	２×２－Ｍ１６	
３Ｂ２	Ｈ－１７５×　９０×　５×８	ＰＬ－６	２－Ｍ１６	
３Ｂ３	Ｈ－２５０×１２５×　６×９	ＰＬ－９	３－Ｍ１６	
３ＣＧ１	Ｈ－２９４×２００×　８×１２			元端剛接合（鉄骨詳細図参照）
２Ｂ１	Ｈ－２００×１００×５．５×８	ＰＬ－６	２×２－Ｍ１６	
２Ｂ２	Ｈ－１７５×　９０×　５×８	ＰＬ－６	２－Ｍ１６	
２Ｂ３	Ｈ－２５０×１２５×　６×９	ＰＬ－９	３－Ｍ１６	
２ＣＧ１	Ｈ－２９４×２００×　８×１２			元端剛接合（鉄骨詳細図参照）
水平ﾌﾞﾚｰｽ V	Ｍ１６	ＰＬ－９	１－Ｍ１６	

小梁等継手リスト

符号	ＲＢ１，３Ｂ１，２Ｂ１	ＲＢ２，３Ｂ２，２Ｂ２	ＲＢ３，３Ｂ３，２Ｂ３	水平ﾌﾞﾚｰｽ
部材	Ｈ－２００×１００×５．５×８	Ｈ－１５０×７５×５×７	Ｈ－２５０×１２５×６×９	Ｍ１６
詳細図				
ｶﾞｾｯﾄﾌﾟﾚｰﾄ	ＰＬ－６	ＰＬ－６	ＰＬ－９	ＰＬ－９
ボルト	２×２－Ｍ１６	２－Ｍ１６	３－Ｍ１６	１－Ｍ１６

接合部要領図



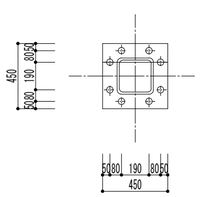
・リブPLはガセットPLの１サイズダウンかつ６mm以上

・ｐ、ｅは下表とする

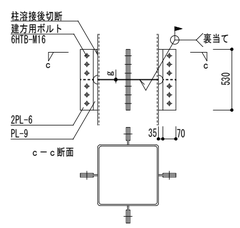
ボルト径	Ｍ１６
Ｐ	６０
ｅ	４０

鉄骨柱リスト　S=1:30

※ 特記なき限り　鉄骨材質　ＢＣＲ２９５　（ダイヤフラム ＳＮ４９０Ｃ）

符号		Ｃ　１			
階	３　Ｆ	□－２５０×２５０×１２			
	２　Ｆ	□－２５０×２５０×１２			
	１　Ｆ	□－２５０×２５０×１６			
柱脚	Ｂ・ＰＬ	４５０×４５０×３２			
	A-BOLT	８－Ｍ３３（ＳＤ４９０）			
詳細図		ベースパック25-16V（特Ｃタイプ） 			

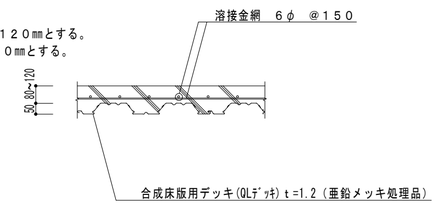
柱現場溶接継手



・パネルゾーン及び通しﾀﾞｲｱ の材質は、特記なき限り、接続する柱及び梁と同材質とする。又、接続する柱及び梁の材質の異なる場合は、強度の大きい方の材質とする。

DS1　スラブ　リスト　S=1:20

屋上は山上+８０～１２０mmとする。
２Ｆ，３Ｆは山上+８０mmとする。



岡本設計株式会社　岡本　成敏
一級建築士登録　第195735号
構造一級建築士登録　第5700号

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 鉄骨断面リスト	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		S-12

岡本設計株式会社　岡本　成敏
一級建築士登録　第195735号
構造一級建築士登録　第5700号

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	ＥＶ棟 鉄骨詳細図	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	No. S-13

電気設備工事特記仕様書

Ⅰ．工事概要

１．工事名称　津市立栗真小学校長寿命化改修工事

２．工事場所　津市 栗真中山町 地内

３．建物概要　管理普通教室棟　RC造　3階建　延べ面積2369.305㎡　用途区分(7)項

用途区分は消防法施行令別表第一による表記

４．工事種目
下記において●印を付した工事を対象とする。
●電力設備　●受変電設備　・電力貯蔵設備　・発電設備
●通信・情報設備　・中央監視制御設備　・医療関係設備
●構内配電線路　・構内通信線路　・その他

Ⅱ．共通仕様
図面及び特記仕様書に記載されていない事項については下記による。
・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
「公共建築工事標準仕様書」（建築工事編・電気(機械)設備工事編　各令和4年版）
「公共建築改修工事標準仕様書」(建築工事編・電気(機械)設備工事編　各令和4年版)
「公共建築設備工事標準図」（電気設備工事編・機械設備工事編　各令和4年版）
・電気設備に関する技術基準を定める省令（電気設備技術基準）
・電気工事業の業務の適正化に関する法律
・電気工事士法
・労働安全衛生法
・消防関連法規（条例・所轄署指導要領を含む。）
・電力会社供給約款
・その他関連法令、関連諸基準

Ⅲ．一般共通事項
下記の該当する項目を適用する。また、選択する事項は、●印のついたものを適用する。

１．一般事項
(1)工事の詳細については、本設計図面及び仕様書による他、上記各施工基準に準拠し監督員指示の下に入念かつ誠実に施工すること。
(2)設計図書に定められた内容、現場の納まり・取り合い等の不明な点や施工上の困難・不都合、図面上の誤記及び記載漏れ等に起因する問題点及び疑義、設計図書のとおりに施工することで将来不具合が発生しうると予想される場合については、その都度、監督員と協議すること。
なお、設計図書のとおりの施工であっても使用上の不具合が発生した場合は、協議のうえ改善策を講じること。
(3)他工事との取合いについては予め当該工事関係者間において協議し、円滑な工事進捗に努めること。調整不足による意匠的な仕上がり不備や不具合が発生した場合は、監督員の指示により手直し施工を行うこと。

２．足場
設置する足場について、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年４月）」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の　作業は、「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の２の(2)手すり据置き型方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

内部足場の種別（参考）　・　脚立　・　棚足場　・その他（　　）
外部足場の種別（参考）　・　手摺先行据置枠組本足場　・　移動足場　・　高所作業車
・　その他（　　）
外部足場設置範囲（参考）・　外部改修部　・　設備改修部　・　昇降用　・　転落防止用防護シート等による養生　・　適用する　・　適用しない

・足場の組立て後、足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行い記録を保存すること。
つり足場、張出し足場又は高さが１０ｍ以上の足場で、組立から解体までの期間が６０日以上のものについては、組立て後市監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。
なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。

1）　足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第１９条の２に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者
2）　労働安全衛生法第８１条に規定する労働安全コンサルタント（区分が土木又は建築である者）や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等法第８８条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参画者」に必要な資格を有する者
3）　全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記１）又は２）に掲げる者と同等の知識・経験を有する者

３．三重県産業廃棄物税
本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には、完成年度の翌年度の４月１日から８月31日までの間に、別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して、当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。
なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表（マニフェストの数量の集計）を超えて請求することはできない。

４．電気工作物の種類
・一般電気工作物　●自家用電気工作物

５．電気工事士
電気工事士法の区分により施工するものとし、契約電力が５００kW以上の電気工作物においても、第一種電気工事士により施工するものとする。

６．電気工事業の業務の適正化に関する法律
電気工事の施工場所ごとに、その見やすい場所に、氏名又は名称、登録番号その他の経済産業省令で定める事項を記載した標識を掲げなければならない。

７．電気保安技術者
電気工作物に係る工事は電気保安技術者を配置し、工事期間中の電気工作物の保安業務を行う。
また、電気主任技術者が選任されている施設においては、電気主任技術者に工事内容の説明を行い、工事の調整にあたる指導を受けるものとする。
なお、電気主任技術者の立会費用は、下記のとおりとする。
・受注者負担　・不要　・その他（　　）

８．品質管理
工事施工に関して、着手前・施工途中・施工後の自主検査を実施すること。
チェックリスト等を作成し、管理を行うこと。

９．出来形管理
以下の項目について、出来形管理の対象として管理を行うこと。
①　各種盤据付
耐震強度（設計標準震度、アンカーの種類・サイズ確認・埋め込み深さ）
基礎寸法
水平垂直
②　配管・配線工事
支持間隔
③　スイッチ類の取付高さ

10．測定機器の校正等
試験に使用する計測器類は２年以内の校正証明書（写）又は有効期限内の精度保証書（写）等を提出する。
また、照度計、騒音計、振動レベル計等の特定計量器を用いて計測する場合は、計量法に基づく検定に合格し、かつ検定有効期限内のものを使用する。

11．施工計画等
受注者は施工に先立ち、次の書類を提出し監督員と打合せを行う。
なお、書類の作成においては、関連する関係者と十分に調整すること。
①　総合施工計画書
包含工事の場合は、電気設備工事施工計画書とする。
②　工種別施工計画書（施工要領書）
各種工種ごとに作成し、停電及び搬入計画も作成する。
③　施工図（ブロット図、平面図、展開図、各種詳細図）
主要機器、重量機器、３kg超過吊器具類等については、固定方法、吊り方法等の詳細図を作成し、十分な耐震性能を確保する施工方法を提案すること。
④　耐震計算書
⑤　照度分布図

12．機材等
工事に使用する材料及び機器等については、次の書類を提出する。
①　使用機材届出書
②　機器明細図
使用機材届出書に記載のものの他、監督員の指示による。
③　各種計算書
設計図書による他、監督員の指示による。

13．完成図書
作成する　（　・　完成図　・　保全に関する資料　・（　　））
完成図作図範囲（設計図を訂正）
完成図はＣＡＤにより作成することとし、著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む）にかかる使用権は発注者に移譲する。また、製本２部（原図サイズ）により提出すること。

14．工事写真
営繕工事写真撮影要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（最新版））に従い、撮影すること。
なお、デジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について（令和5年3月1日付け国営建技第14号）」による。

15．施工条件
監督員及び関係部局と協議調整し決定すること。
(1)施工可能日
・指定なし
・一部指定あり（振動・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等）
●指定あり
指定日（・施設休業日　●打ち合わせ　・その他（　　））
(2)施工可能時間帯
・指定なし
・一部指定あり（振動・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等）
●指定あり
指定時間（・(　)時～(　)時　●打ち合わせ　・その他（　　））
(3)その他
（　　）

16．事故の発生時
工事施工中に事故が発生した場合には直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により工事事故報告書を監督員が指示する期日までに、監督員に提出しなければならない。
なお、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取調査、検証等に協力すること。

17．建築副産物情報交換システムの利用
受注者は工事着手前に「再生資源利用計画書」(建設資材の搬入がある場合)及び「再生資源利用促進計画書」(建設副産物の搬出がある場合)を作成し、施工計画書に含めて監督員へ写しを提出するとともに法令等に基づき、再生資源利用計画及び　再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。
また、工事完了後には「再生資源利用実施書」(建設資材の搬入があった場合)及び「再生資源利用促進実施書」(建設副産物の搬出があった場合)をすみやかに作成し、監督員へ写しを提出すること。
なお、各計画書及び実施書の作成等は、JACICOが運営する「建設副産物情報交換システム」に登録のうえ、行うこと。

18．発生材の処理等
・本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事である。
分別解体等及び特定建設資材の再資源等の実施について適正な措置を講ずることとする。工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。
分別解体等の方法
工種　・新築　・増築　・修繕　・模様替　・解体　・その他（　　）
分別解体の方法　・手作業　・手作業、機械作業併用

(1)引き渡しを要するものは下記のとおりとし、それ以外は別途監督員の指示による。
（　　）
(2)特別管理産業廃棄物
・変圧器　・コンデンサ　・その他（　　）
現場内の監督員の指定する場所へ保管するものとする。
なお、施工に際してＰＣＢ等特別管理産業廃棄物及び疑わしき機器等を発見した場合は、監督員に報告し対応を協議するものとする。
(3)現場内において再利用を図るもの
・発生土　・その他（　　）
(4)再資源化を図るもの
・コンクリート塊　・アスファルトコンクリート塊　・建設発生木材　・（　　）
(5)水銀使用製品産業廃棄物として取り扱うもの
・●蛍光ランプ　・Ｈ●Ｄランプ（高輝度放電ランプ）　・その他（　　）
「水銀廃棄物ガイドライン 第３版」（令和3年3月 環境省　環境再生・資源循環局　廃棄物規制課）に基づき適切に　処理すること。
(6)引き渡しを要しないものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、再生資源の利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令に従い適正に処理し、監督員に報告すること。
（マニフェストＡ、Ｂ２、Ｄ票を提示すること。）

19．官公署への手続き
工事の着手、着工、完成にあたり、関係官公署への必要な届出、手続き等を遅滞なく行う。
なお、当該手続きに係る費用は受注者の負担とする。
・消防設備関係　・電気工作物関係　・受電関係　・通信関係　・建設工事関係
・その他（　　）

20．消防法関係の手続き
(1)消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成
・本工事　（・建築工事　・電気設備工事　・機械設備工事 ）　・別途工事
(2)防火対象物使用開始届出書
書類の作成（電気設備図面の作成及び電気設備に関する部分の記入）を行うこと。

21．工事用仮設物
構内への設置　●できる（施設管理者と協議）　・できない

22．工事用電力
構内既存の施設
●利用できる（　・有償　●無償）　・利用できない
本工事で新規受電した時からの電力料金は本工事に含まれる。また、本受電後，引渡しまでの電気主任技術者の選任及びこれに伴う費用負担も本工事に含まれる。

23．工事用水
構内既存の施設
●利用できる（　・有償　●無償）　・利用できない

24．工事中等の保安監理
電気工作物の範囲が変更になった場合、工事着手から引渡しまでの電気保安管理等にかかる費用は本工事に含まれる。

25．搬入計画
大型機器、重量物等の搬入前に、搬入経路の有効寸法（扉、天井高さ、搬入経路上の曲がり等）、障害物（足場等）、養生方法、運送車両、揚重機械、搬入機械の種類、台数及び数量、雨天の場合の処置、受入検査の方法等を記載し監督員に提出する。

26．製品確認
発注者及び受注者の協議により仕様を決定し、製作するような規格品でない製品並びに監督員が指定する製品については、試験及び検査等を行う機器が整備された施設内において、監督員等が製品の確認をするものとする。

27．機材等の検査及び試験
検査及び試験を行うべき機材等は、設計図書によるほか、監督員の指示による。

28．完成確認及び完成検査時等の電源確保
機器の動作確認、電圧、極性、相回転等確認できるように電源を確保すること。

29．完成時の操作説明
総合盤等操作の必要な機器については、使用開始前に操作説明を行うものとする。また、必要に応じて操作説明書、操作注意事項書を作成し、機側に備えるものとする。

30．不正軽油の使用の禁止
(1)工事現場で使用し、又は使用させる車両（資機材の搬出入車両を含む。）並びに建設機械等の燃料として、不正軽油（地方税法第144条の32(製造等の承認を受ける義務等）の規定に違反する燃料をいう。）を使用してはならない。
(2)受注者は、県が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また、受注者は下請負者等に同調査に協力するよう管理及び監督しなければならない。
(3)受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。また、受注者は下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じるよう管理及び監督しなければならない。

Ⅳ．施工仕様
下記の該当する項目を適用する。また、選択する事項は、●印のついたものを適用する。

１．既設設備等の調査
既設設備等の改修を含む場合、他の設備、施設運営に影響をきたさないよう、現地工事着工前に十分な調査を行うこと。
(1)地中埋設管路
1）項　目　●埋設配管　●構造物　・その他（　　）
2）調査範囲　●埋設ルート　・その他（　　）
(2)貫通及びはつり
1）項　目　●鉄筋　●配管　・その他（　　）
2）調査範囲　●施工部分　・その他（　　）
(3)既設との取合い
1）項　目　●接続箇所　●増設箇所　・その他（　　）
2）調査範囲　●施工部分　・その他（　　）

２．施工前の測定等
改修工事にあたっては、工事範囲の既設機器の動作確認及び絶縁測定等を着工前に行い、監督員に報告すること。

３．耐震基準
耐震措置の計算及び施工方法は、次の基準を適用する。
(1)「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準　平成２５年版」（国土交通省大臣官房官庁営繕部）
(2)「建築設備耐震設計・施工指針　２０１４年版」

４．耐震施工
(1)想定される地震に施工する設備を対応させる。
(2)耐震計算書を監督員に提出する。

５．はつり
(1)穴開け及び補修　・なし　●あり（貫通場所及び口径は別図による）
(2)溝はつり及び補修　・なし　●あり（はつり深さは別図による）

６．あと施工アンカー
性能確認試験及び施工確認試験　・行う　●行わない

７．基礎の配線ピット
基礎に配線ピットを設ける場合、ピットの寸法は敷設するケーブルの曲げ半径、条数、将来増設時の作業性、事故時の対応、排水等に配慮する。

８．配管・配線の耐震処置
建物引込部の配管の耐震処置　●行う　・行わない
建物のエキスパンションジョイント部の配線の耐震処置　●行う　・行わない

９．最上階の埋込配管
最上階のコンクリート屋根スラブへの埋込配管は、原則として行わない。

10．露出配管
(1)雨線外など水気のある場所に施設する場合は、U字配管を行わない。
(2)附属品は、ねじ込み形を使用する。
(3)壁面配管で人が容易に触れるおそれのある部分（２ｍ以下）の配管には、突起のない支持金物又は保護カバーを使用する。
(4)通路部分では床配管を避け、天井配管の場合は原則２．１ｍ以上とする。
(5)監督員の指示がある場合は、上記に係わらずその指示に従う。

11．合成樹脂管
(1)合成樹脂管の管端には、ブッシングを取り付ける。
(2)原則として屋外の露出には使用しない。（ＰＦ管）

12．予備配管等
埋込型分電盤からの立上り予備配管は、予備回路が４回路以下は（ＰＦ２２）を１本、５回路以上は（ＰＦ２２）を２本施工する。スラブ天井の場合は、天井又は梁下２００㎜まで立上げ、位置ボックスを取付ける。また、二重天井の場合は、天井まで立上げ、位置ボックスを取付ける。

13．金属製電線管等の塗装
(1)露出配管、露出ボックス、鋼製プルボックス等のうち下記の部分には、塗装を施す。
1）屋外、屋内（電気室、機械室、ＥＰＳ、居室、廊下）、その他建築意匠上必要な箇所。
2）図面に特記なき場合は、溶融亜鉛メッキ鋼材製のポール及びアームは塗装しなくてもよい。ただし、図面に指示がある場合はその指示による。
3）湿気、水気のある場所及びコンクリート埋込みの金属製位置ボックスの内面には絶縁性防錆塗料を十分に塗布すること。（監督員が指示した場所は除く。）
4）仮枠貫通部の金属配管には錆止め塗装を施すこと。
(2)塗装はエッチングプライマー１種の下地処理のうえ、監督員の指定する色にて調合ペイント２回塗りとする。ただし、指定場所及びその他建築意匠上、必要な箇所の露出プルボックスは指定色焼付塗装とする。

14．導入線
通線を行わない配管及び配線引抜き後に空となった配管には、導入線（φ１．２㎜以上の樹脂被覆鉄線等）を挿入する。ただし、長さ１ｍ以下の部分は省略することができる。

15．予備スリーブ
梁下に配管・配線スペースがない梁には、１スパンに２本程度を予備スリーブとして埋込む。
なお、防火区画貫通スリーブは、防火区画処理を行うこと。

16．ボックス類
位置ボックス及びジョイントボックス類は、特記なき場合、原則として金属製とする。

17．軽量間仕切のボックス
軽量間仕切に位置ボックスを固定する場合は、ボルト等により堅固に固定する。

18．プルボックス
(1)屋外形、特殊な形状又は一辺が８００㎜以上のものは、製作図を提出すること。
(2)屋外形プルボックスはボックス内に支持ボルトが突出しない構造とし、取付部にはコーキングを行う。

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書(電気設備) 1	N・S	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康		E-01

19. ボルト・ナット類
屋外に使用する支持金物及びボルト、ナット類で特記のないもの
●ステンレス　・溶融亜鉛メッキ仕上げ

20. ケーブル及び配線
(1)表示
下記の箇所で、ケーブル等に行き先等表示札（ケーブル種別及びサイズ、行き先、施工年、用途、施工者名等を表示。）を取り付ける。
① ケーブルがスラブを貫通する部分
② ケーブル分岐部分
③ 変電所内のケーブル引出し部分
④ 盤内及び接地端子箱の外部配線引込み部分
⑤ 屋内の直線部分は、30mごと
⑥ プルボックス内
⑦ 屋外の共同溝等の直線部分は、50mごと
⑧ 屋外の地中管路より建物内への引込み部分
⑨ マンホール及びハンドホールごと
(2)ケーブル余長
1) 地中線式の場合、マンホール、ハンドホール内でケーブル余長を見込む箇所数
●2箇所　・4箇所　・（　　）箇所
2) 架空線式の場合、電柱上でケーブル余長を見込む箇所数
・2箇所　・4箇所　・（　　）箇所

21. 配線器具の設置
(1)特殊コンセントはプラグ付とする。
(2)電源の種類により色を区別する。
(3)配線器具を取り付ける場所が金属の場合は、絶縁枠を使用する。
(4)プレートは、図面に特記なき場合、新金属製とする。
(5)カバープレートは、原則として新金属製とする。
なお、器具を実装しない位置ボックスには用途表示をすること。
(6)フロアプレートは、水平高低調整型（空転防止リング付）とする。

22. 照明器具の設置
(1)照明器具取付完了後、照度測定を行う。照度計は一般形AA級とする。
(2)天井下地材より支持をする場合は、ワイヤ等により脱落防止の措置を行う。
(3)パイプ吊りの照明器具は振れ止めを施工する。

23. 照明改修の際の測定
対象室の改修前後の照度及び回路電流値の測定を次のとおり行うこと。
測定箇所　（ ＊＊＊＊　　）　　測定回数　前後各（　＊　）回

24. 分電盤、制御盤、キュービクル等
図面ホルダー内には、完成図及び回路の行き先がわかる図面を備える。また、既設分電盤・制御盤等を改造した場合は、図面を修正するものとする。

25. 受変電設備、発電設備の設置場所
(1)保守点検、防火上有効な空間、維持管理の空間を考慮する。
(2)屋内に設置する場合は、床の強度計算書、換気計算書等を監督員に提出する。
(3)基礎の高さは周囲の状況を考慮する。
(4)電気室には水管、蒸気管、ガス管、ダクト等を通過させない。

26. 発電設備の燃料配管
(1)フレキシブルジョイント取付位置は、施工前に所轄の消防署と十分に打合せを行う。
(2)配管の接続は、機器の取外し又は保守点検を考慮し施工する。

27. 非常放送設備のスピーカ設置
(1)放送区域の各部からスピーカまでの水平距離は10m以内とする。
(2)階段等にスピーカを設置する場合は、垂直距離15m以内とする。

28. 土工事
(1)埋戻しの材料及び工法
●B種　（ 材料：根切り土の中の良質土 / 工法：機器による締固め ）
・その他　（　　）
ただし、配管周りの埋戻し材料は山砂とする。
(2)特記なき地中埋設配管の深さは、GL—600mm以上とする。
(3)根切りの種類は、マンホール、ハンドホール、屋外受変電設備及び自家発電装置の基礎等は総掘り、埋設管路等は布掘り、外灯基礎、電柱等はつぼ掘りとする。
(4)機械掘削は根切り底を乱さないようにする。

29. ハンドホール、マンホール
高さ900mmを超えるものにあっては、タラップ付とする。
なお、タラップの取付は450mm間隔以内とする。

30. 地中配線路の表示杭
下記の箇所に、地中配線路の表示杭を設置する。
① 建物への引込口及び送出口付近
② マンホール・ハンドホール付近
③ 地中線路の曲折箇所
④ 道路横断箇所
⑤ 直線部分では30m程度に1個（30mに満たない部分はその間に1個）

V. 機器仕様
下記の該当する項目を適用する。また、選択する事項は、●印のついたものを適用する。
なお、詳細については図面による。

【電力設備】

1. 電灯設備
(1)既設等との取り合い　・無し　●盤改造　●配線接続　・電源供給　・その他（　　）
(2)機器類　●一般照明器具　・照明制御装置　・外灯（単独設置）　・コンセント等
・分電盤、制御盤等　・その他（　　）
(3)一般照明器具
1) 形式　●公共型　●一般型
2) 灯具　●LED灯　・その他（　　）
3) 用途　●屋内用　・屋外用　・防災用
4) 環境　●普通地域　・塩害地域
5) 照明器具は、認証書又は認定書、試験成績書を提出すること。
(4)照明制御器
1) センサ類　●明るさセンサ　●人感センサ　・タイマ　・調光スイッチ
・その他（　　）
2) 調光方式　・連続調光　・段階調光　●ON／OFF制御
・その他（　　）
3) 制御方式　・有線　・無線通信
(5)外灯（単独設置）
1) 照明用ポール
①材質　・アルミニウム製　・鋼製　・溶融亜鉛メッキ
・その他（　　）
②配線用遮断器又はカットアウトスイッチ内蔵型とする。
2) 基礎　・本工事　・別途工事　・既設利用　・その他（　　）
3) 灯具　・LED灯　・その他（　　）
4) 電源　・商用電源（60Hz）（・200V　・100V）　・その他（　　）
5) 制御　・EEスイッチ　・タイマ　・その他（　　）
6) 接地　・単独接地（・本工事　・別途工事　・既設利用）　・共用
・その他（　　）
(6)コンセント等　●一般型　・防水型
・ﾊｲﾃﾝｼｮﾝｱｳﾄﾚｯﾄ　（・固定型　・上下動型(アップ式を含む)）
(7)分電盤、制御盤等
1) 銘板には、公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）に定める事項に加えて、施工年月、受注者名、施工者名を記載する。
2) 図面ホルダーは、A4サイズ以上（キャビネットのサイズ等により取付けできない場合を除く。）とする。
3) 表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。
4) 接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。
5) 絶縁抵抗測定用接地端子は盤内の作業のしやすい場所に設ける。
6) 配線用遮断器の定格電流は、予備を含めた負荷電流以上とし、定格遮断容量は、系統に流れる短絡電流の値以上とする。

2. 動力設備
(1)既設との取り合い　・無し　・盤改造　・配線接続　・その他（　　）
(2)機器類　●分電盤、制御盤等　・その他（　　）
(3)負荷設備　・給水　・排水　・消火　・空調　・換気　・排煙　●昇降機
・その他（　　）
(4)負荷設備への接続　図面に特記明示がない場合、負荷設備への接続は本工事とする。
(5)電動機等の接地　●専用接地　・金属管接地（7.5kW以下）
(6)分電盤、制御盤等
1) 銘板には、公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）に定める事項に加えて、施工制御盤等年月、受注者名、施工者名を記載する。
2) 図面ホルダーは、A4サイズ以上（キャビネットのサイズ等により取付けできない場合を除く。）とする。
3) 表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。
4) 接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。
5) 絶縁抵抗測定用接地端子は盤内の作業のしやすい場所に設ける。
6) 配線用遮断器の定格電流は、予備を含めた負荷電流以上とし、定格遮断容量は、系統に流れる短絡電流の値以上とする。
7) 電流計は赤指針付（定格電流指示）とする。

3. 電保護設備
(1)避雷針
1) 受雷部　・突針　・棟上導体　・笠木等の別途施工物
2) 避雷導線　・引下げ導線　・建築構造体利用
3) 接地極　・接地極埋設　・建築構造体利用　・測定用補助接地極
4) 接地抵抗の測定
①測定方法　・電位差計方式　・電圧降下法
②測定回数　・3回　・（　　）回
5) 接地極埋設標を設置する。
(2)雷サージ保護
1) 耐雷トランス　・設置（・単相用　・動力用）　・設置しない
2) SPD　・低圧用（・クラスⅠ　・クラスⅡ）
・通信用（・カテゴリC2　・カテゴリD1）
3) SPDの性能仕様は別図による
(3)電源回路保護
1) 低圧用SPDに使用する配線用遮断器は警報接点付とする。
2) 主幹機器の2次側に設ける場合の配線用遮断器は、定格遮断容量5kA以上とする。
(4)通信回線保護　電話回線、制御回線などの通信回線に侵入するおそれがある場所は、雷サージから機器を保護するため通信用SPDを設置する。

4. 接地設備
(1)接地工事
1) 種別　・A種　・B種　・C種　●D種
2) 施工　●各種単独　・共用有り（　　）
(2)接地抵抗測定
1) 測定方法　●電位差計方式　・電圧降下法
2) 測定回数　●3回　・（　　）回
(3)接地極埋設標　接地には接地極埋設標を施工し、接地極の位置がわかるようにする。

【受変電設備】

5. 受変電設備
(1)既設との取り合い　・無し　●改造（機器取替、追加等を含む）　・増設　●配線接続
・その他（　　）
(2)機器類
・盤類　・交流遮断器　・断路器　・避雷器　・負荷開閉器　・変圧器
・進相コンデンサ　・直列リアクトル　●配線用遮断器　・電磁接触器
・その他（　　）
(3)盤類
1) 形 式　・キュービクル式配電盤（JIS C 4620）
・高圧スイッチギア（JEM 1425）（・CX　・CW　・PW　・MW）
・開放形配電盤　・その他（　　）
2) 中通路　・有　・無
3) 特記事項　（　　）
(4)交流遮断器　真空遮断器（VCB）
①操作方式　・手動ばね操作　・電動ばね操作　・電磁操作
②引外し方式　・電流引外し　・コンデンサ引外し　・直流電圧引外し
(5)断路器
1) 形式　・3極単投　・単極単投（避雷器用に限る）
2) 操作方式　・遠方手動操作　・フック棒操作（避雷器用に限る）
(6)負荷開閉器
1) 形　式　・配電盤用　・引込柱用　・地中引込用
2) 配電盤用　①操作方式　・フック棒操作　・遠方手動操作　・電動操作
②限流ヒューズ　・有（ストライカ付き）　・無
③引外し装置　・ストライカ引外し　・電圧引外し　・無
3) 引込柱用　①本体及び制御箱の材質　・ステンレス製　・鋼製
②保護装置　過電流蓄勢トリップ付地絡方向継電器とし、制御電源用変圧器内蔵とする
③避雷器　・内蔵　・無
4) 地中引込用　保護装置は、過電流蓄勢トリップ付地絡方向継電器とし、制御電源用変圧器内蔵とする
(7)変圧器
1) 形式　・油入　・モールド
2) 設置方式　・屋外型　・屋内型
3) ダイヤル温度計　・有（・最大値指針 有　・最大値指針 無 ）　・無
油入500kVA以上、モールド150kVA以上の場合は必須とする
(8)進相ｺﾝﾃﾞﾝｻ
1) 絶縁方式　・油入　・モールド
2) その他　①内部異常を検知して動作する保護接点を設けること
②放電装置を附属又は内蔵すること
(9)直列ﾘｱｸﾄﾙ（進相ｺﾝﾃﾞﾝｻ用）
1) 絶縁方式　・油入　・モールド
2) 容量　・6%　・13%
3) その他　内部異常を検知して動作する警報接点を設けること
(10)キュービクル等
1) 銘板には、公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）に定める事項に加えて、施工年月、受注者名、施工者名を記載する。
2) 図面ホルダーは、A4サイズ以上（キャビネットのサイズ等により取付けできない場合を除く。）とする。
3) 表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。
4) 接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。
5) 絶縁抵抗測定用接地端子は盤内の作業のしやすい場所に設ける。
(11)基礎
・本工事（・21N/mm2　・18N/mm2）　・別途工事　・既設利用
・その他（　　）
(12)配線ピット及び蓋
1) 施工　・本工事　・別途工事　・既設利用　・その他（　　）
2) ピット蓋の加工が必要な場合は、本工事にて行うこと。
(13)設置場所　・屋内　・屋外（・地上　・屋上）

【電力貯蔵設備】

6. 直流電源設備
(1)用途　・非常用照明器具電源　・受変設備制御電源　・その他（　　）
(2)容量　（　　）kVA
(3)整流装置
1) 出力電圧　直流（・12V　・24V　・48V　・（　　）V）
2) 整流装置は、蓄電池を充電するための電流並びに監視及び制御等で消費される電流を考慮して選定する。
(4)蓄電池
1) 種類　・鉛蓄電池（・HS　・MSE　・長寿命形MSE）
・アルカリ蓄電池（・AH　・AMH）
・その他（　　）
2) 最低蓄電池温度　・5℃　・15℃　・25℃　・-5℃　・（　　）℃

7. 交流無停電電源設備
(1)用途　（　　）
(2)容量　（　　）kVA
(3)給電方式　・常時インバータ給電方式　・ラインインタラクティブ方式
・常時商用給電方式　・その他（　　）
(4)整流装置等　整流装置、インバーター装置は、接続する負荷の特性を配慮し選定する。
(5)蓄電池
1) 種類　・鉛蓄電池（・HS　・MSE　・長寿命形MSE）
・アルカリ蓄電池（・AH　・AMH）
・その他（　　）
2) 最低蓄電池温度　・5℃　・15℃　・25℃　・-5℃　・（　　）℃
(6)性能　停電補償時間　（　　）

8. 電力平準化用蓄電設備　・仕様詳細は別図による。

9. 分散電源エネルギーマネジメントシステム　・仕様詳細は別図による。

【発電設備】

10. 燃料式発電設備
(1)用途
1) 用途　・防災電源専用（防災認定品）　・防災電源兼用（防災認定品）
・一般用
2) 区分　・常用　・非常用
(2)設置場所　・屋内　・屋外（・普通地域　・塩害地域）
(3)機器　・発電装置　・燃料槽　・給油ボックス　・燃料移送ポンプ
・その他（　　）
(4)発電装置
1) 種類　・ディーゼル発電装置　・ガスエンジン発電装置
・ガスタービン発電装置
2) 形式　・簡易形　・オープン式
・キュービクル式（・85dB(A)/1m　・75dB(A)/1m）
3) 始動時間（停電検出後）　・10秒以内　・40秒以内
・（　　）秒以内
4) 連続運転時間　・2時間以上　・10時間以上　・24時間以上
・72時間以上　・その他（　　）
5) 発電機
①電気方式　・三相3線式（・6.6kV　・200V　・（　　）V）
・単相3線式（200／100V）
・単相2線式（・200V　・100V　・（　　）V）
②定格周波数　60Hz
③定格出力　（　　）kVA
6) 原動機
①定格出力　・（　　）kW 以上　・（　　）ps 以上
②冷却方式　・ラジエータ方式　・その他（　　）
(5)燃料
1) 種類　・軽油　・灯油　・A重油　・その他（　　）
2) 引渡時燃料　・満タン　・指定なし　・その他（　　）
(6)燃料槽
1) 形式及び容量　・パッケージ搭載タンク（　　）リットル
・燃料小出槽（　　）リットル
・主燃料槽（　　）リットル
2) 燃料小出槽　・屋外型（・ステンレス製　・鋼製）
・屋内型（・ステンレス製　・鋼製）
3) 主燃料槽
①設置場所　・屋内　・屋外(地上)
・地下埋設（・タンク室内埋設　・直埋設）
②形式　・二重殻タンク　・一重殻タンク
・その他（　　）
③設置工事　・本工事　・別途工事　・その他（　　）
④タンク室工事　・本工事　・別途工事　・既設利用　・その他（　　）
(7)給油ボックス
1) 材質　・ステンレス製　・鋼製　・その他（　　）
2) 油量指示計　・有　・無
(8)燃料移送ポンプ
1) 電動ポンプ　・歯車ポンプ　・油中ポンプ
2) 手動ポンプ（ウイングポンプ）　・有　・無
3) 電動ポンプ水没防止カバー　・有　・無
(9)基礎
・本工事（・21N/mm2　・18N/mm2）　・別途工事　・既設利用
・その他（　　）

11. その他発電設備　・（　　）の仕様詳細は別図による。

【通信・情報設備】

12. 構内情報通信網設備　・仕様詳細は別図による。

13. 構内交換設備
(1)機器
・交換装置　・電話機　・端子盤類　・アウトレット
●その他（ｴﾚﾍﾞｰﾀｰ監視用　　）
(2)交換装置
1) 種別　・構内交換装置（・デジタルPBX　・IP-PBX　・VoIPサーバ）
・ボタン電話装置
・その他（　　）
2) 局線応答方式　・局線中継台　・分散中継台　・ダイヤルイン
・ダイレクトインダイヤル　・ダイレクトインライン
・その他（　　）
3) 保安用接地　・本工事　・別途工事　・既設利用
・その他（　　）
4) 本配電盤(MDF)　・自立ﾌﾚｰﾑ（・片面形　・両面形）　・交換機一体型
・壁掛型　・その他（　　）
5) 電源装置　①形式　・別置型　・一体形　・その他（　　）
②停電補償時間　・30分以上　・（　　）以上
(3)電話機
・一般電話機　・多機能電話機　・IP電話機
・ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ電話機（PHS方式）　・IPｺｰﾄﾞﾚｽ電話機（無線LAN方式）
・その他（　　）
(4)端子盤類
1) 端子盤　・中継端子盤（IDF）　・室内端子盤
2) 中継端子盤には実装数の20%以上、室内端子盤には10P以上の接続端子板スペースを見込む。
(5)アウトレット
・ローテンションアウトレット（・固定型　・上下動型（アップ式を含む））
・壁コンセント　・その他（　　）

14. 情報表示設備
(1)設備
・ﾏﾙﾁｻｲﾝ装置　・出退表示装置　・時刻表示装置　・警報等表示装置
(2)ﾏﾙﾁｻｲﾝ装置　仕様詳細は別図による。
(3)出退表示装置　仕様詳細は別図による。
(4)時刻表示装置　仕様詳細は別図による。
(5)警報等表示装置
1) 機器　・表示盤　・検出装置　・その他（　　）
2) 表示盤　①表示方式　・表示窓式　・その他（　　）
②施工　・本工事　・別途工事　・既設利用
・その他（　　）
3) 検出装置　①検出方式　・電極　・無電圧接点　・その他（　　）
②施工　・本工事　・別途工事　・既設利用
・その他（　　）
4) 図面に特記明示がない場合、検出装置への接続は本工事とする。

15. 映像音響設備　・仕様詳細は別図による。

原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書(電気設備) 2	N・S	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康		E-02

16. 拡声設備
(1)機器　・増幅器　・付属機器　・操作装置　●スピーカ　・その他（　　）
(2)増幅器　・非常放送兼用（仕様は非常放送装置を参照）
・専用　出力（　　）W
出力インピーダンス　・Lo形　・Hi形
(3)付属機器　・オーディオミキサー　・リモコンマイク　・電源制御器
・録音再生装置（・CD　・メモリオーディオ　・その他（　　））
・アナウンスレコーダ（・チャイム　・独自メッセージ　・プログラムタイマ
・その他（　　））
・有線マイクロホン
・無線マイクロホン（・電波式（・アナログ　・デジタル）　・赤外線式）
・ラジオチューナー（・FM　・AM　・その他（　　））
・スピーカ切替装置　・その他の機器（　　）
(4)操作装置　・卓型　・キャビネットラック型　・壁掛型　・その他（　　）
(5)スピーカ　・非常放送兼用（仕様は非常放送装置を参照）
・専用　結線　●1W　・3W　・（　　）W
インピーダンス　・Lo形　●Hi形
設置場所　・屋内　・屋外　・その他（　　）

17. 誘導支援設備
(1)設備　・音声誘導装置　●インターホン　●トイレ等呼出装置
(2)音声誘導装置　1）検出方式　・磁気式　・無線式　・画像認識式　・その他（　　）
2）設置場所　・屋外（防雨形）　・屋内
3）機能　・自動火災報知設備より火災報知信号を受信した場合停止する
・タイムスケジュールにより停止及び開始を可能とする
・その他（　　）
4）機器　・制御装置　・送信機　・受信機　・その他（　　）
5）制御装置　・壁掛型　・卓上形　・複合盤組込　・その他（　　）
6）送信機　・壁掛形　・卓上形　・埋込形　・その他（　　）
7）受信機　・スピーカ式　・イヤホン式　・その他（　　）
(3)インターホン　1）用途　・内部受付用　・外部受付用　・夜間訪問用　・身体障害者用
・保守用　●その他（ｴﾚﾍﾞｰﾀｰ用　　）
2）機能　●音声通話　・映像モニタ
3）通話網　・親子式　●相互式　・複合式
4）通話方式　・同時通話式　・交互通話式　・その他（　　）
5）機器　・親機　・子機　・その他（　　）
6）親機
①形状　・壁掛型　・卓上形　・複合盤組込　・その他（　　）
②送受話器　・電話機形　・マイク形　・その他（　　）
7）子機
①形状　・壁掛形　・卓上形　・埋込形　・その他（　　）
②送受話器　・電話機形　・マイク形　・その他（　　）
(4)トイレ等呼出装置　1）用途　●トイレ呼出　・受付呼出　・非常通報
・その他（　　）
2）機器　●親機　●呼出スイッチ　●警報装置　・その他（　　）
3）親機　●壁掛型　・卓上型　・複合盤組込　・その他（　　）
4）呼出スイッチ　●押ボタン式　・引紐式　・その他（　　）
5）警報装置　●光　・音声　●ブザー　・ベル　・その他（　　）

18. テレビ共同受信設備
(1)受信放送　●UHF　・BS　・CS　・FM　・CATV　・その他（　　）
(2)機器　・増幅器　・混合器　・分波器　・分岐器　・分配器　・機器収容箱
・アンテナ　●その他（既設ｱﾝﾃﾅ、直列ﾕﾆｯﾄ　　）
(3)アンテナ　1）放送　・UHF　・BS　・CS　・FM　・その他（　　）
2）マスト　・地上波用（・壁面取付　・自立　・既設利用）
・衛星用　（・壁面取付　・自立　・既設利用）
・その他　（　　）
3）自立用基礎　・本工事　・別途工事　・既設利用
・その他（　　）

19. 監視ｶﾒﾗ設備　・仕様詳細は別図による。

20. 駐車場管制設備　・仕様詳細は別図による。

21. 防犯・入退室管理設備　・仕様詳細は別図による。

22. 自動火災報知設備
(1)機器　・受信機　・副受信機（表示装置）　・中継器　・発信機　●感知器
・光警報装置　・その他（　　）
(2)受信機　1）型式　・P型1級　・P型2級　・R型
2）回線数　・（　　）回線　・（　　）アドレス
3）試験機能　・自動試験機能　・遠隔試験機能
4）盤形式　・複合盤組込　・自立型　・壁掛型
・その他（　　）
(3)副受信機（表示装置）　1）盤形式　・自立型　・壁掛型　・その他（　　）
2）回線数　・（　　）回線　・（　　）アドレス
3）表示装置の仕様詳細は別図による。
(4)中継器　試験機能　・自動試験機能　・遠隔試験機能
(5)発信機　1）型式　・アドレス付　・P型1級　・P型2級
2）消火栓ポンプ起動　特記なき場合は、発信機連動方式とし、発信機表面に「消火栓起動」等の文字を併記する。
3）設置　・単独設置　・機器収容箱に組込
・消火栓ボックス（別途）に組込　・その他（　　）
(6)感知器　1）型式　・アドレス付　・一般型
2）種類　●熱感知器　・空気管式　●煙感知器　・炎感知器
3）試験機能　・自動試験機能　・遠隔試験機能
4）機器仕様　●一般　・防水　・防爆　・防食　・その他（　　）
(7)光警報装置　1）機器　・警報装置　・制御装置　・同期装置
2）警報装置　・天井付　・壁付
3）同期装置　・自走同期式　・外部同期式

23. 自動閉鎖設備
(1)機器　・連動制御器　・感知器　・自動閉鎖装置　・自動開錠装置
・その他（　　）
(2)連動制御器　1）制御対象　・防火戸　・防火シャッター　・防排煙ダンパー
・非常口等の扉　・その他（　　）
2）回線数　（　　）回線（遠方復帰機構（　　）回路）
3）設置　・単独（・壁掛形　・自立形）　・火災受信機等との複合盤
(3)感知器　1）型式　・アドレス付　・一般型
2）種類　煙感知器（・2種　・3種）
3）試験機能　・自動試験機能　・遠隔試験機能
4）機器仕様　・一般　・防水　・防爆　・防食　・その他（　　）
(4)自動閉鎖装置　1）方式　・電磁式　・ラッチ式　・その他（　　）
2）施工　・本工事（・建築工事　・電気設備工事）　・別途工事
・既設利用　・その他（　　）
(5)自動開錠装置　1）方式　・電気錠　・その他（　　）
2）施工　・本工事（・建築工事　・電気設備工事）　・別途工事
・既設利用　・その他（　　）

24. 非常警報設備
(1)設備　・非常放送装置　・非常ベル
(2)非常放送装置　1）消防法基準適合マーク品とする。
2）機器　・増幅器　・スピーカ　・非常用リモコンマイク
・その他（　　）
3）増幅器
①出力　（　　）W
②出力インピーダンス　・Lo形　・Hi形
③形式　・ロングラック型　・スタンダードラック型　・壁掛型
・その他（　　）
④機能　・マイク放送　・連動放送（・自火報設備　・緊急地震速報設備）
・その他（　　）
⑤用途　・拡声設備兼用　・非常放送専用
4）スピーカ
①結線　・1W　・3W　・（　　）W
②インピーダンス　・Lo形　・Hi形
③設置場所　・屋内　・屋外　・その他（　　）
④用途　・拡声設備兼用　・非常放送専用
5）非常用リモコンマイク
型式　・壁掛形　・ラック収納形　・卓上形　・その他（　　）
(3)非常ベル（自動ｻｲﾚﾝを含む）　1）機器　・起動装置　・非常ベル　・表示灯　・その他（　　）
2）設置　・単独設置　・機器収容箱に組込
・消火栓ボックス（別途）に組込　・その他（　　）

25. ガス漏れ火災警報設備
(1)機器　・受信機　・副受信機　・中継器　・検知器　・警報器
・その他（　　）
(2)受信機　1）回線数　（　　）回線
2）種類　・都市ガス用　・液化石油ガス用
3）設置　・単独（・壁掛形　・自立形）　・火災受信機等との複合盤
・その他（　　）
(3)副受信機　設置　・単独（・壁掛形　・自立形）　・火災受信機等との複合盤
・その他（　　）
(4)検知器　1）動作　・単独（単独動作）　・連動（受信機に伝送）
2）定格電圧　・AC100V　・DC24V（受信機等から供給）
・その他（　　）
3）ガス検知出力信号　・有電圧出力方式　・無電圧接点方式

【中央監視制御設備】　・仕様詳細は別紙による。

【医療関係設備】　・仕様詳細は別紙による。

【構内配電線路】
26. 構内配電線路
(1)配線方式　・地中線式（・直埋　●管路）　・架空線式（・直接　・ちょう架線添架）
・建築物等添架式（●露出配管　・隠蔽配管　・その他（　　））
・その他（　　）
(2)建柱　1）施工　・本工事　・既設柱利用　・その他（　　）
2）電柱　・コンクリート柱　・鋼管柱　・パンザマスト
・その他（　　）
3）支持材　・根かせ　・根はじき　・根巻き　・底板
・支線（保護ガード　・有　・無）
4）装柱材料　・有　・無
5）銘板　・有　・無
(3)装柱機器（高圧用）　1）機器　・開閉器　・避雷器　・カットアウト　・碍子
・その他（　　）
2）耐環境性　・一般用　・耐塩用
3）開閉器　仕様は　5. 受変電設備　(6)負荷開閉器　による。
(4)装柱機器（低圧用）　1）機器　・開閉器　・開閉器箱　・避雷器　・カットアウト　・碍子
・その他（　　）
2）耐環境性　・一般用　・耐塩用
(5)ハンドホールマンホール　1）形式　・ブロック式　・現場打ち
2）施工　・本工事（・建築工事　・電気設備工事）　・別途工事
・既設利用　・その他（　　）
3）ケーブル支持金物の取付　・2箇所　・4箇所　・（　　）箇所
4）重車両の通行
・有（破壊荷重　200kN以上、衝撃係数　0.1(走行速度制限箇所)）・無
(6)鋳鉄蓋　1）鋳鉄蓋の刻印は「強電」、「電力」又は「高圧」とする。
2）雨水の流れ込みを防ぐため防水パッキン付とする。
(7)地中ケーブル保護材料　1）種類　●FEP　・GLT（PEライニング管）　・VE　・HIVE　・SGP
・厚鋼電線管　・その他（　　）
2）標示杭埋設　●コンクリート製　・鉄製（アスファルト部分）
3）埋設標識シート　●2倍長　・その他（　　）
4）埋設標識シートの表記は電力用であることがわかるものとする。

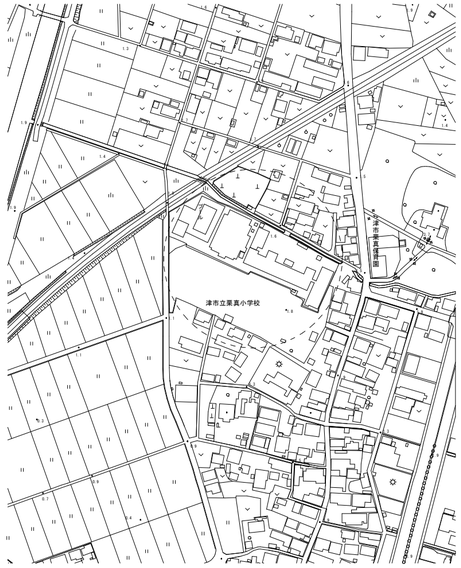
【構内通信線路】
27. 構内通信線路
(1)用途　・電話　・拡声　・時刻表示　・火災報知　・非常警報　・インターホン
・テレビ共同受信　・防犯　・制御　・その他（　　）
(2)配線方式　・地中線式（・直埋　・管路）　・架空線式（・直接　・ちょう架線添架）
・建築物等添架式（・露出配管　・隠蔽配管　・その他（　　））
・その他（　　）
(3)建柱　1）施工　・本工事　・既設柱利用　・構内配電線柱に添架
・その他（　　）
2）電柱　・コンクリート柱　・鋼管柱　・パンザマスト
・その他（　　）
3）支持材　・根かせ　・根はじき　・根巻き　・底板
・支線（保護ガード　・有　・無）
4）装柱材料　・有　・無
5）銘板　・有　・無
(4)ハンドホールマンホール　1）形式　・ブロック式　・現場打ち
2）施工　・本工事（・建築工事　・電気設備工事）　・別途工事
・既設利用　・その他（　　）
3）ケーブル支持金物の取付　・2箇所　・4箇所　・（　　）箇所
4）重車両の通行
・有（破壊荷重　200kN以上、衝撃係数　0.1(走行速度制限箇所)）・無
(5)鋳鉄蓋　1）鋳鉄蓋の刻印は「弱電」又は「通信」とする。
2）雨水の流れ込みを防ぐため防水パッキン付とする。
(6)地中ケーブル保護材料　1）種類　・FEP　・GLT（PEライニング管）　・VE　・HIVE　・SGP
・厚鋼電線管　・その他（　　）
2）標示杭埋設　・コンクリート製　・鉄製（アスファルト部分）
3）埋設標識シート　・2倍長　・その他（　　）
4）埋設標識シートの表記は弱電用であることがわかるものとする。

【その他】
28. 消火器　1）設置　・本工事（・建築工事　・電気設備工事　・機械設備工事）
・別途工事
2）消火器　種別（　　）、数量（　　）本
3）消火器収納箱　材質（　　）、数量（　　）面

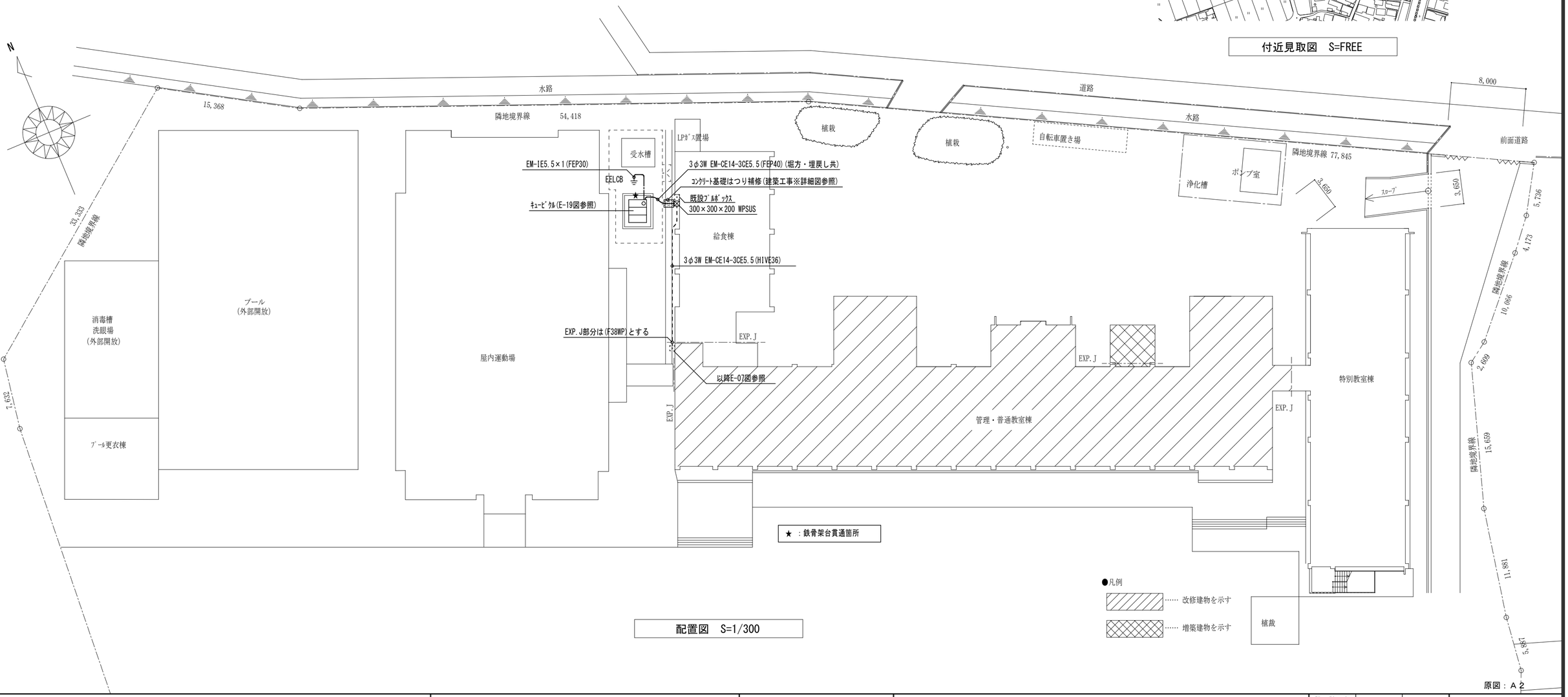
Ⅵ. 使用資機材の適用規格
(1)以下に定めるとおりとする。なお、以下に定めのない資機材については、日本産業規格（JIS規格）適合品の使用を原則とする。
● 電気用品安全法に定める特定電気用品又は特定電気用品以外の電気用品
・電気用品安全法適合品
● 耐熱・耐火電線、耐熱・耐火ケーブル
・消防庁の登録認定機関として消防庁告示に規定された耐火・耐熱電線及び耐火バスダクトの適合性検査を行い合格したもの
・第三者認証機関として(一社)日本電線工業会規格（JCS規格）への適合性検査を行い合格したもの
● 非常用照明器具
・建築基準法に定める国土交通大臣認定品
・(一社)日本照明工業会の自主評定を受け、JIL5501適合マークが貼付されたもの
● 誘導灯
・登録認定機関（(一社)日本電気協会（JEA誘導灯認定委員会））の認定を受け、認定証票が貼付されたもの
● 制御盤
・(一社)日本配電制御システム工業会規格（JSIA規格）適合品
● 消防用加圧送水装置、不活性ガス消火設備及びハロゲン化物消火設備の制御盤、火災通報装置、総合操作盤等の認定対象品
・登録認定機関（(一財)日本消防設備安全センター（消防用設備等認定委員会））の認定を受け、認定証票が貼付されたもの
● 不活性ガス消火設備等の操作箱、新ガス系消火設備制御盤、緊急通報装置、非常通報装置等の性能評定対象品
・(一財)日本消防設備安全センターの性能評定を受け、評定証票が貼付されたもの
● 金属閉鎖形スイッチギア
・(一社)日本電機工業会規格（JEM規格）適合品
● 高圧機器（遮断器、限流ヒューズ、負荷開閉器、避雷器、断路器、特定機器以外の変圧器、計器用変成器、保護継電器）
・(一社)電気学会電気規格調査会規格（JEC規格）適合品
● 直流電源装置（防災電源用）
・登録認定機関（(一社)日本電気協会（JEA蓄電池設備認定委員会））の認定をうけ、認定証票が貼付されたもの
● 交流無停電電源装置
・(一社)電気学会電気規格調査会規格（JEC規格）適合品
● 自家発電装置（防災電源用）
・登録認定機関（(一社)日本内燃力発電設備協会）の認定を受け、認定証票（長時間形）が貼付されたもの
● 自家発電装置（防災電源用でないもの）
・(一社)日本電機工業会規格（JEM規格）適合品
● 太陽電池モジュールの支持物
・電気設備の技術基準の解釈第46条第2項又は第3項の規定に適合するもの
● 電話用設備（電話交換機、電話機等）
・登録認定機関（(一財)電気通信端末機器審査協会（JATE）等）の技術基準適合認定を受け、適合表示が貼付されたもの
● 非常用放送設備
・登録認定機関（日本消防検定協会）の認定を受け、認定証票が貼付されたもの
● テレビ共同受信機器
・優良住宅部品（BL部品）の認定を受けたもので、BLマーク証紙が貼付されたもの
・(一社)電子情報技術産業協会スーパーハイビジョン受信マーク登録品の認定を受けたもので、SHマークが貼付されたもの
● 自動火災報知設備
・登録認定機関（日本消防検定協会）の認定を受け、認定証票が貼付されたもの
(2)特殊仕様の資機材を使用する場合は、仕様・性能等を証明する書類を監督員に提出し、監督員の承諾を得るものとする。

原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書(電気設備) 3	N・S	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士第317991号 山本 覚康		E-03



付近見取図　S=FREE



配置図　S=1/300

原図：A2

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	配置図・付近見取図	1/300	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康		No. E-04

電 灯 分 電 盤 リ ス ト

協約型1Pモジュールサイズ、2P型とする

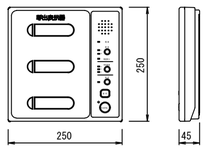
盤名称	盤結線図	回路番号	電圧(V)	分岐開閉器 種類	P	AF	AT	負荷容量(VA)	負荷名称	備考
L-2-EV 壁掛型 1φ3W 100/200V	MCCB3P50/40 5157VA	1	100	ELCB	2	50	20	257	照明1F～3F	
		2	100	ELCB	2	50	20	100	1F昇降路ｺﾝｾﾝﾄ	
		3	100	ELCB	2	50	20	1400	多目的便所 2F ｺﾝｾﾝﾄ	
		4	100	ELCB	2	50	20	1400	多目的便所 3F ｺﾝｾﾝﾄ	
		5	100	ELCB	2	50	20	1000	ｴﾚﾍﾞｰﾀｰ制御盤	
		予備	100	ELCB	2	50	20	(1000)		

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	分電盤結線図	N・S	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	No.	E-05

SP-1	天井埋込スピーカー　　SC6Hi-1V0

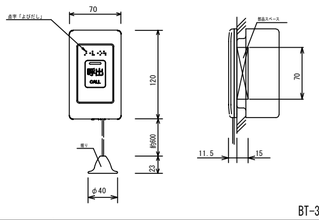
NC-1	ﾄｲﾚ呼出表示器　3窓用



IRP-3B

形　状	壁掛形
材　質	カバー、ケース：AES樹脂,シャーシ：鋼板製
呼出表示灯	LED（赤）
呼出音	電子メロディー（8種）／トレモロ音／チャイム音
呼出種別	一般呼出、緊急呼出
操作スイッチ	復旧、呼出音停止、呼出音量、転送、設定
電　源	AC-6C100V　50／60Hz，最大14W（待機時2W）
備　考	バラ表示／転送受入機能

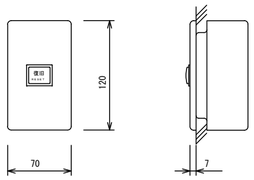
NC-2	呼出ボタン(引きひも付)



BT-312ZR

形　状	壁埋込形（JIS1個用スイッチボックスカバー付）
プレート／握り	抗菌樹脂
確認灯	LED（赤）
呼出ボタン	ノンロック式
点　字	よびだし
備　考	JIS C-0920 IPx5（防噴流形）適合

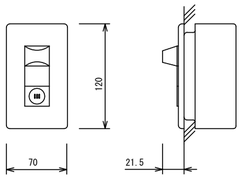
NC-3	復旧ボタン



BR-302RAU

形　状	壁埋込形（JIS1個用スイッチボックスカバー付）
プレート	樹脂
復旧スイッチ	ノンロック式

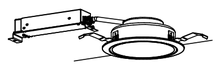
NC-4	ブザー付廊下灯



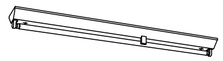
BL-644U/8

形　状	壁埋込形（JIS1個用スイッチボックスカバー付）
プレート	樹脂
表 示 灯	LED（赤）
アラーム音	65dB（距離1m）、背面ボリュームで可変

型番は参考とする

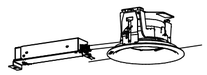


Ⓐ	LED　1695lm相当　消費電力11.6W相当 LRS1-13



ひとセンサON/OFF段調光切替タイプ
定格出力型
ランプ素材:ガラス管,Ra84
本体:亜鉛鋼板(クロムフリー)、反射板:亜鉛鋼板(白色)
NNFS41038J LE9

Ⓑ	LED　3680lm相当　消費電力33W相当

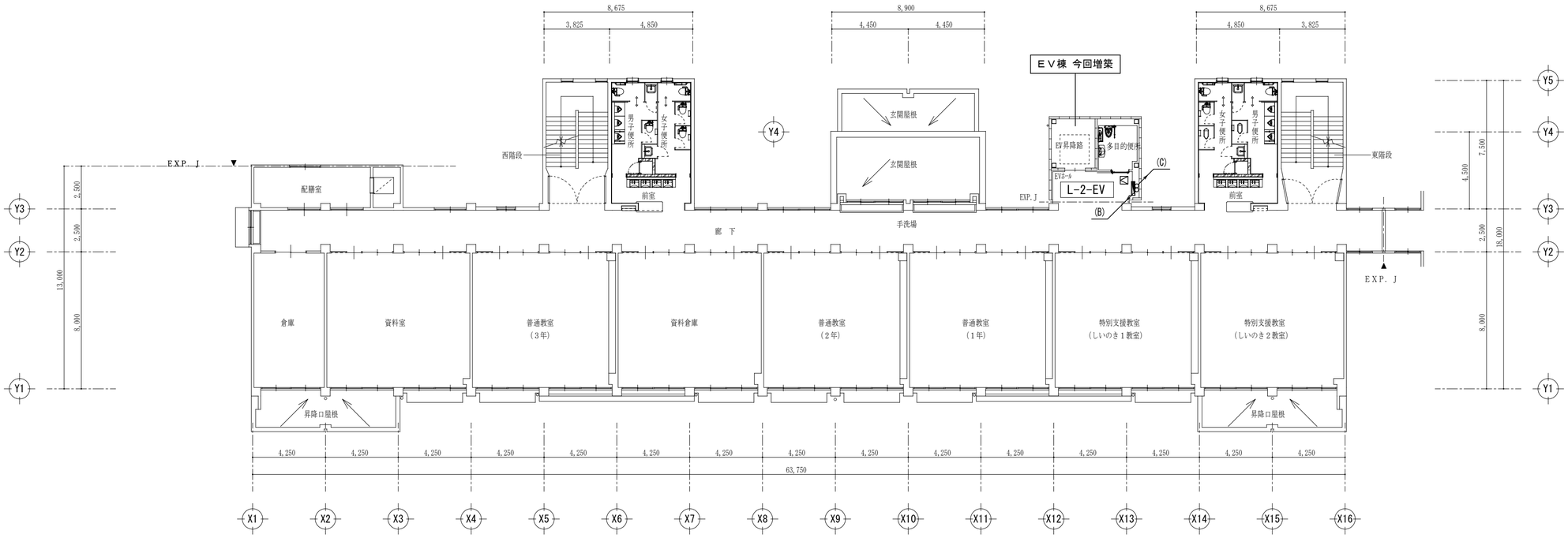


Ⓒ	LED　1585lm相当　消費電力11.6W相当 LRS1RP-13　　軒下用(防雨型)

型番は参考とする

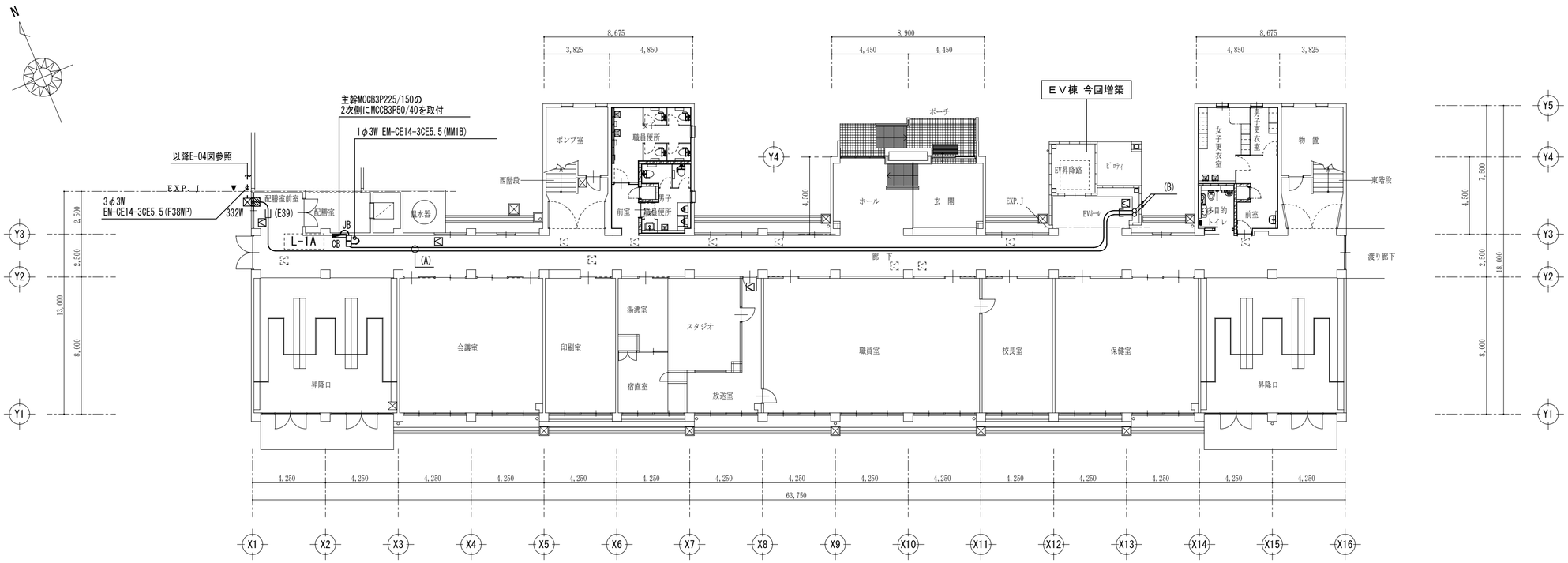
原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津 市 立 栗 真 小 学 校 長 寿 命 化 改 修 工 事	照明器具・弱電機器姿図	N・S	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山 本 一 級 建 築 士 事 務 所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設 計 者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		E-06



記号	配管配線
(C)	3φ3W EM-CET14E5.5(E39)

［改修後］２階平面図　S=1/200



記号	配管配線
(A)	1φ3W EM-CE14-3CE5.5
	3φ3W EM-CE14-3CE5.5
(B)	1φ3W EM-CE14-3CE5.5(E39)
	3φ3W EM-CE14-3CE5.5(E39)

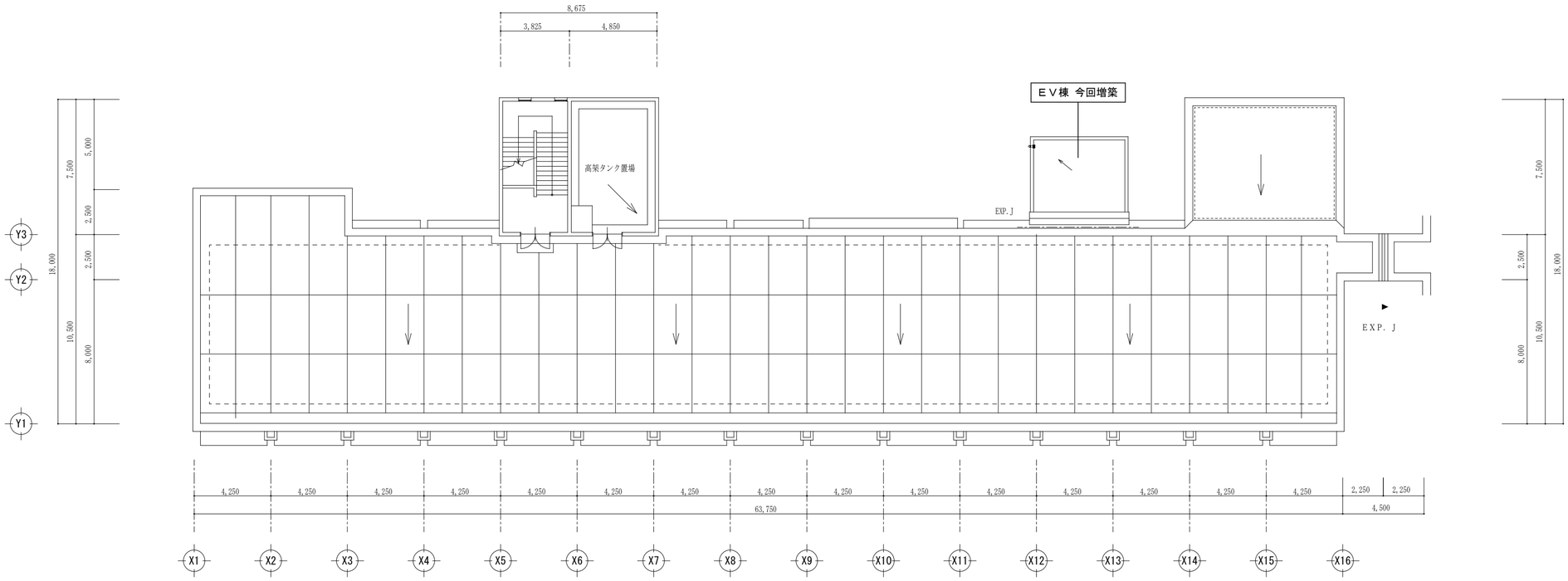
記号	名称
◪	電灯盤
□JB	1種金属線ぴ ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ
□CB	1種金属線ぴ ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ
⊠332W	ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ 300×300×200 WPSUS
⊠	天井点検口　建築工事
⊠	既設天井点検口　再使用
▧	貫通補修を示す
▧防	防火区画貫通個所を示し
	国土交通大臣認定品にて処理を行なう

点線にて記入のものは既設を示し再使用とする

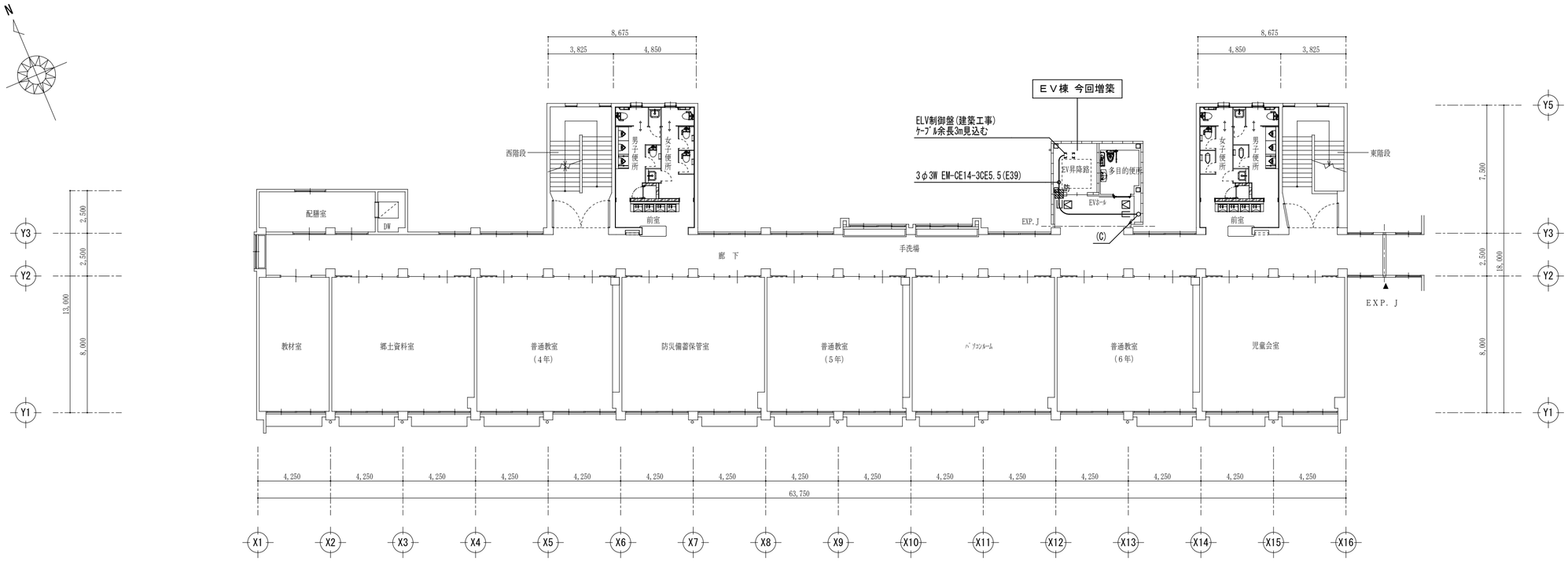
［改修後］１階平面図　S=1/200

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE					No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	電灯設備・動力設備 ［改修後］１階・2階平面図	1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康			E-07



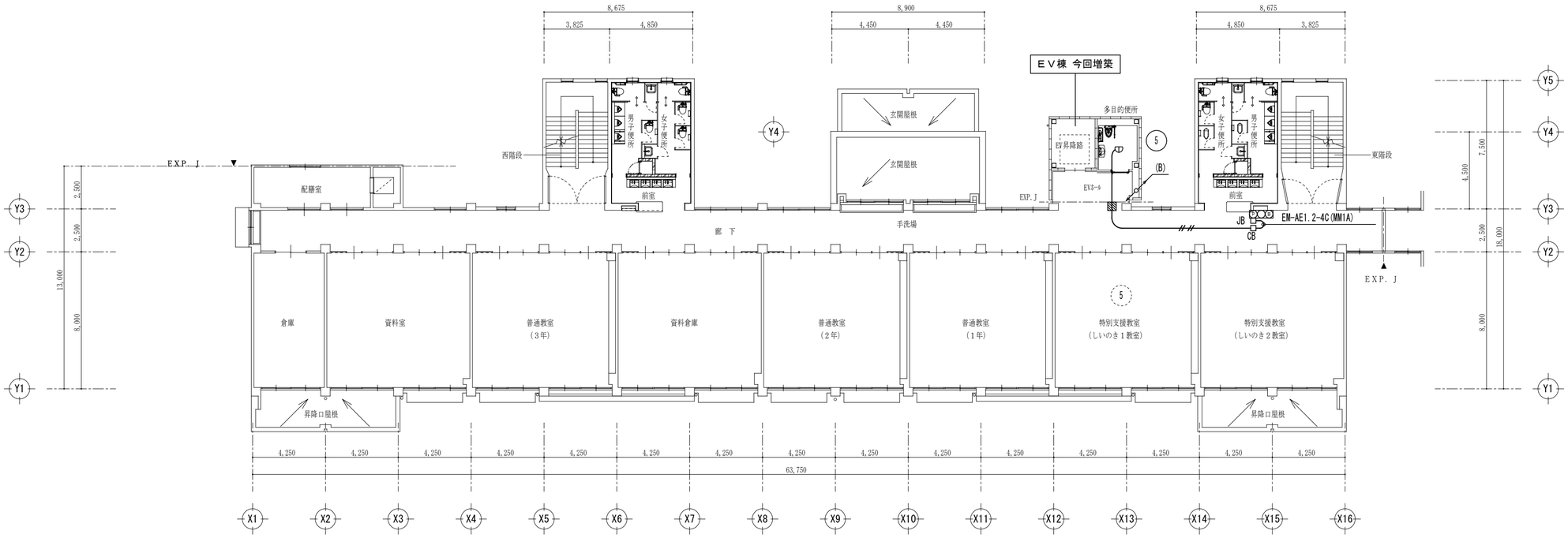
［改修後］屋上階平面図　S=1/200



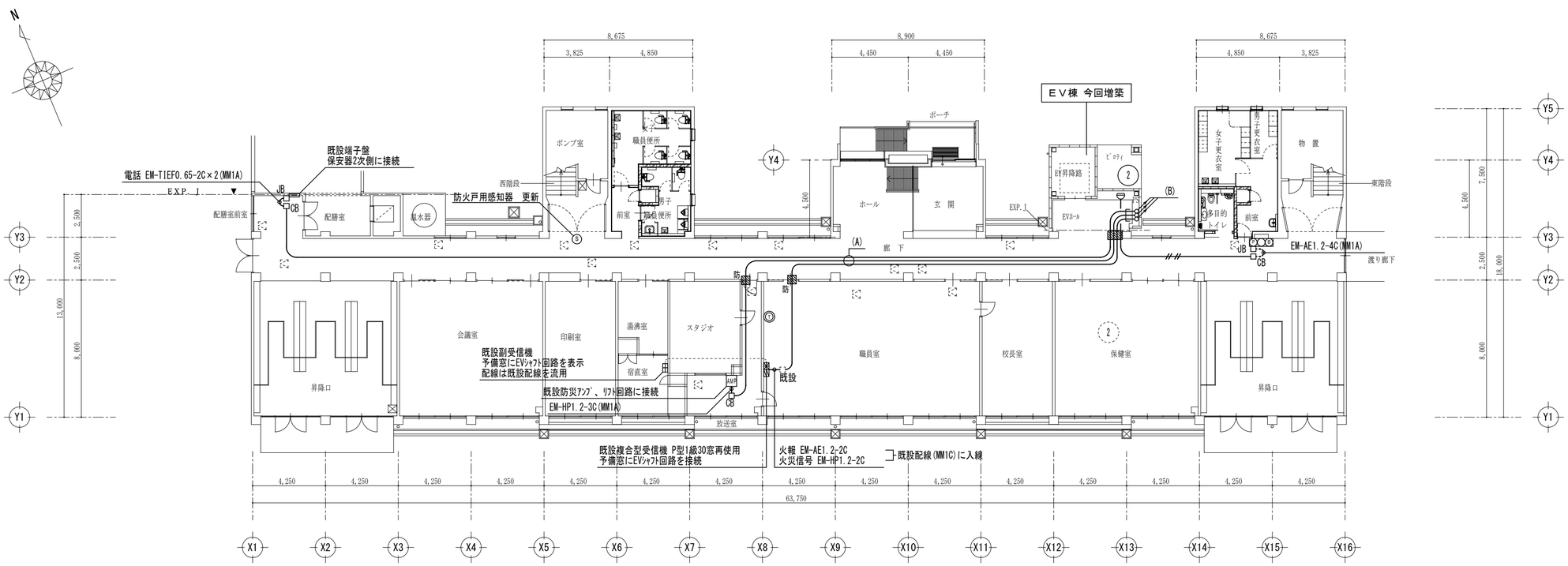
［改修後］３階平面図　S=1/200

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	動力設備 ［改修後］３階・屋上階平面図	1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		No. E-08



［改修後］２階平面図　S=1/200



［改修後］１階平面図　S=1/200

記号	配管配線	
(A)	電話	EM-TIEFO.65-2C×2
	火報	EM-AE1.2-2C
	火災信号	EM-HP1.2-2C
	拡声	EM-HP1.2-3C
(B)	電話	EM-TIEFO.65-2C×2(E19)
	火報	EM-AE1.2-2C(E19)
	火災信号	EM-HP1.2-2C(E19)
	拡声	EM-HP1.2-3C(E19)

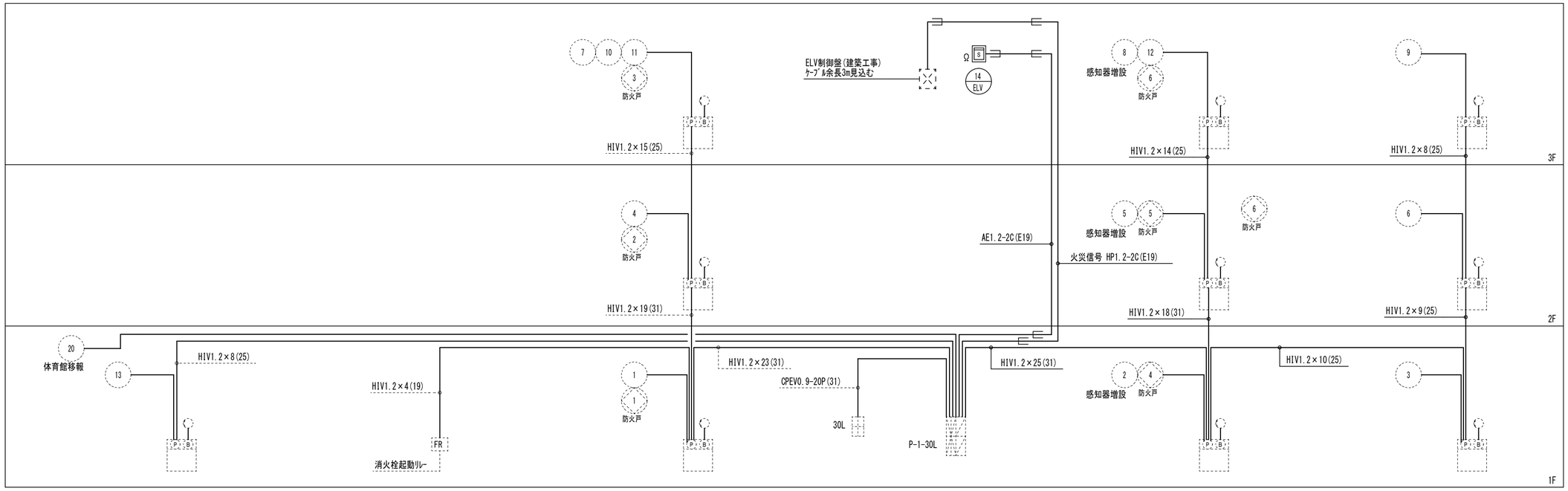
記号	名称
Ⓟ	発信機P型1級 消火栓ﾎﾞｯｸｽに組み込み 既設再使用
○	表示灯　既設再使用
Ⓔ	電鈴 150φ 消火栓ﾎﾞｯｸｽに組み込み 既設再使用
Ⓢ	感知器　煙3種
	感知器 差動式ｽﾎﾟｯﾄ型2種 新設
	感知器 定温式ｽﾎﾟｯﾄ型1種防水型 新設
	感知器 煙2種 点検函共 新設
Ω	終端抵抗器 新設
(NO)	警戒区域番号
◎	火災通報装置　自動火災報知設備と非連動　既設再使用
□CB	1種金属線ぴ ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ
□JB	1種金属線ぴ ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ
	既設天井点検口　再使用
	貫通補修を示す
防	防火区画貫通個所を示し
	国土交通大臣認定品にて処理を行なう

点線にて記入のものは既設を示し再使用とする
天井点検口は動力設備平面図を参照

図中記入なき配線は下記とする
EM-AE1.2-4C(PF16)
天井内はｹｰﾌﾞﾙころがし配線、壁内部は電線管にて保護とする

原図：Ａ２

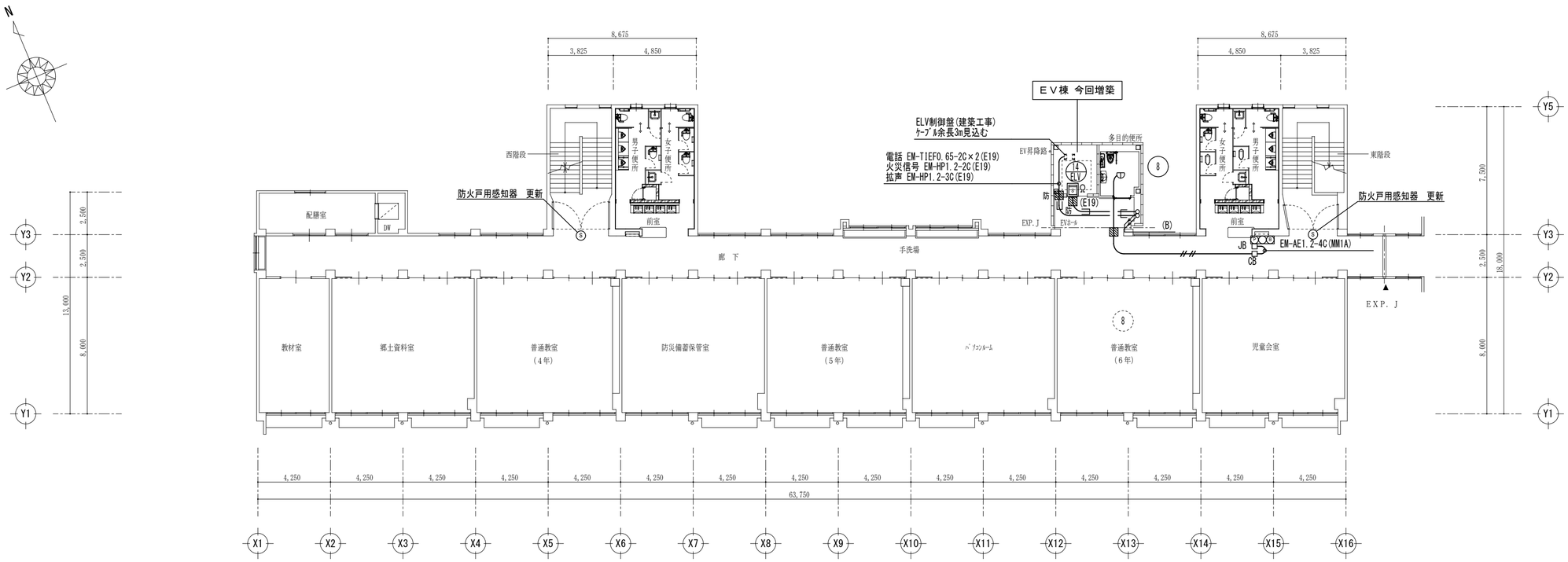
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	弱電設備(1) ［改修後］１階・2階平面図	1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		E-09



自動火災報知設備系統図

「非常放送設備は自主設置」

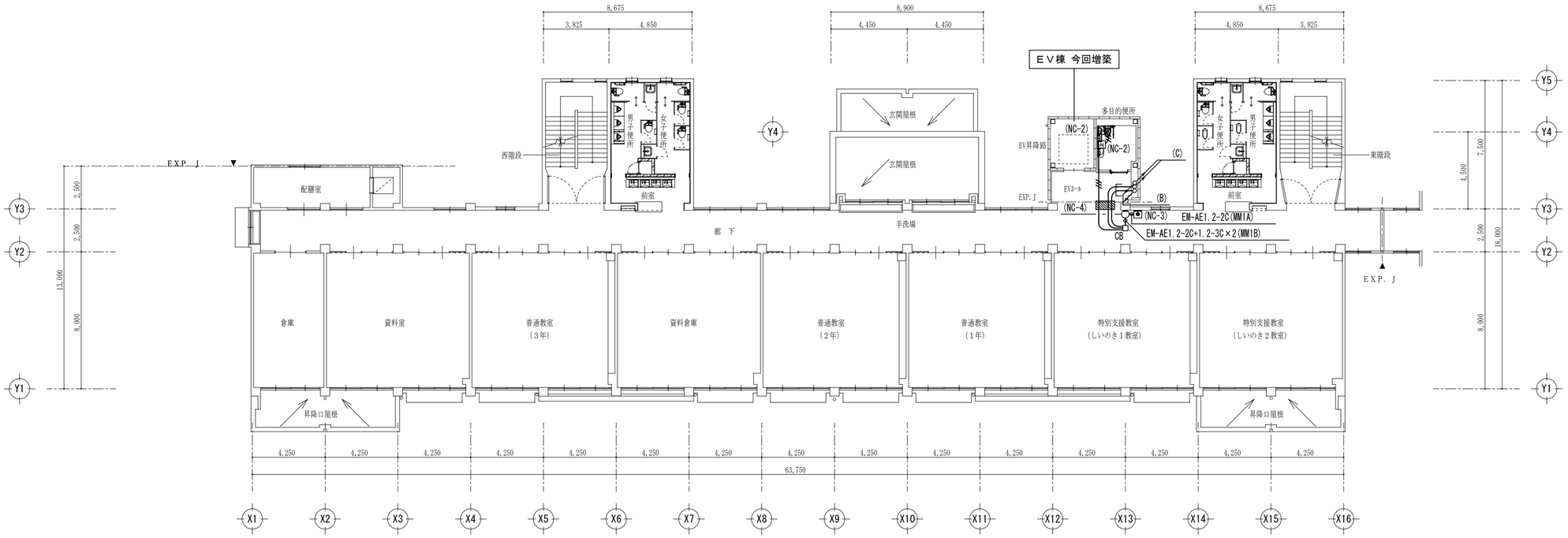
「非常放送設備と自動火災報知設備は連動しない。非常放送放送設備のﾏｲｸ使用時にﾍﾞﾙ鳴動が停止する措置を講じる」



［改修後］３階平面図　S=1/200

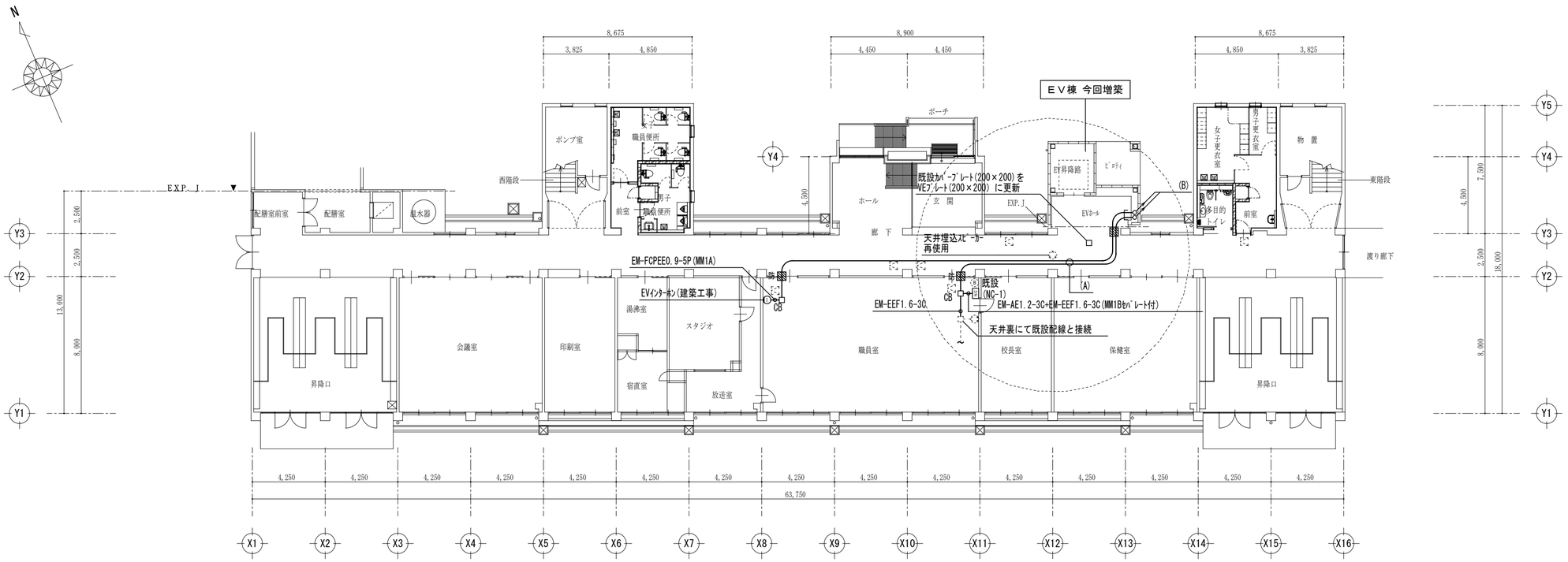
原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	弱電設備(1) ［改修後］３階・屋上階平面図	1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康	No. E-10	



記号	配管配線	
(C)	ｲﾝﾀｰﾎﾝ	EM-FCPEE0.9-5P(E19)
	ﾄｲﾚ呼出	EM-AE1.2-2C(E19)

［改修後］２階平面図　S=1/200



記号	配管配線	
(A)	ｲﾝﾀｰﾎﾝ	EM-FCPEE0.9-5P
	ﾄｲﾚ呼出	EM-AE1.2-3C
(B)	ｲﾝﾀｰﾎﾝ	EM-FCPEE0.9-5P(E19)
	ﾄｲﾚ呼出	EM-AE1.2-3C(E19)

記号	名称	
NC	ﾄｲﾚ呼出表示器	新設
N	呼出ﾎﾞﾀﾝ	新設
●	復旧ﾎﾞﾀﾝ	新設
○	角型廊下灯	新設
Ⓑ既設	既設ﾄｲﾚ呼出用ﾌﾞｻﾞｰ	既設再使用
□CB	1種金属線ぴ ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ	
[ ]	既設天井点検口	再使用
▧	貫通補修を示す	
▧防	防火区画貫通個所を示し	
	国土交通大臣認定品にて処理を行なう	

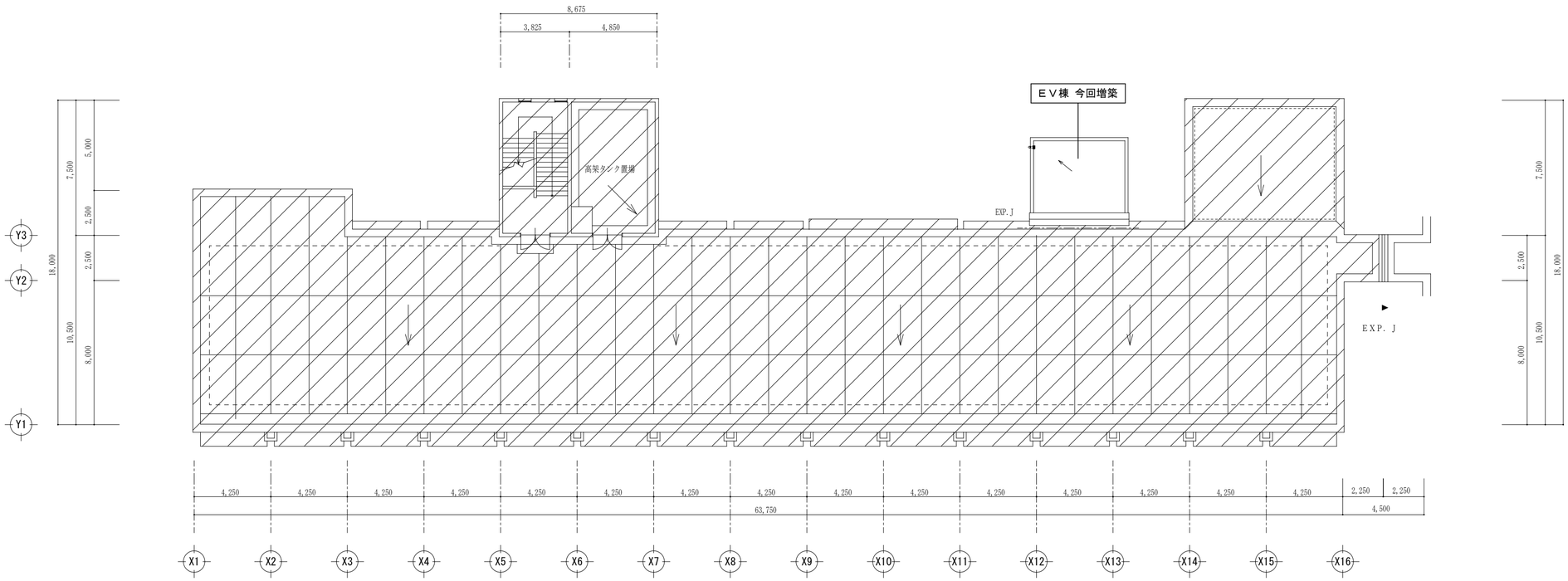
点線にて記入のものは既設を示し再使用とする

図中記入なき配線は下記とする
——//—— EM-AE1.2-2C(PF16)
——///—— EM-AE1.2-3C(PF16)
天井内はｹｰﾌﾞﾙころがし配線、壁内部は電線管にて保護とする

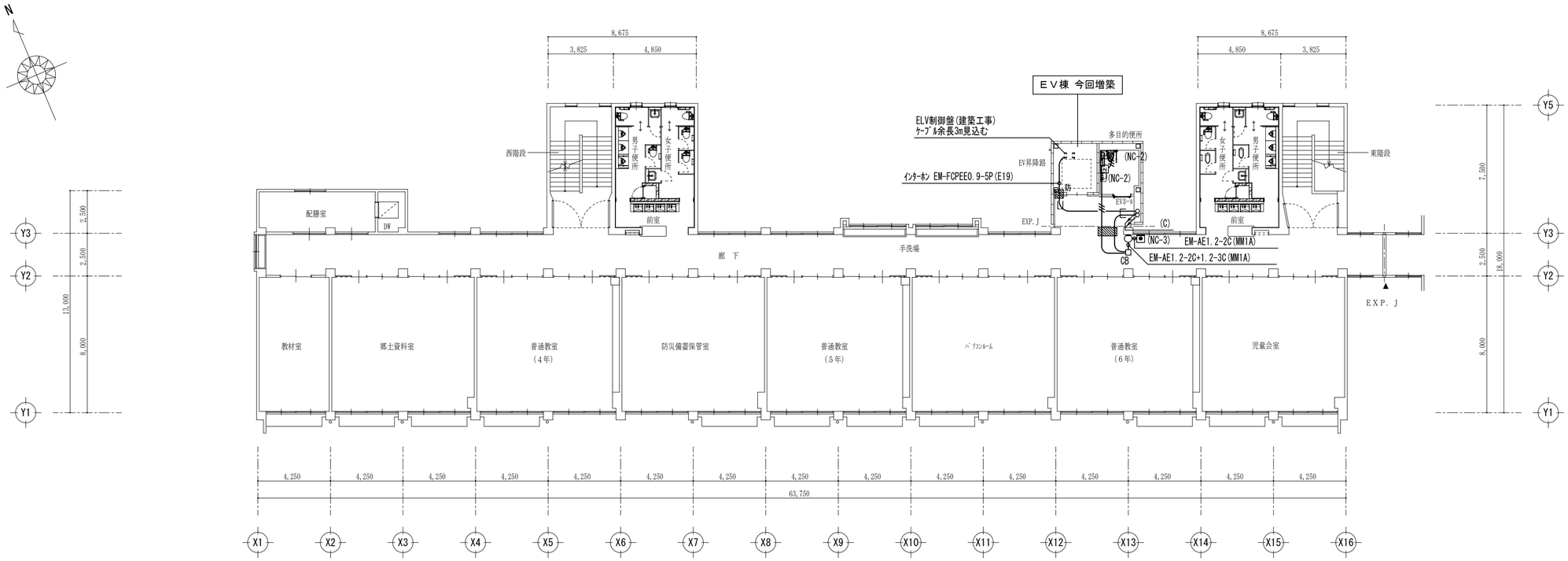
［改修後］１階平面図　S=1/200

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	弱電設備(2) ［改修後］１階・2階平面図	1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康		E-11



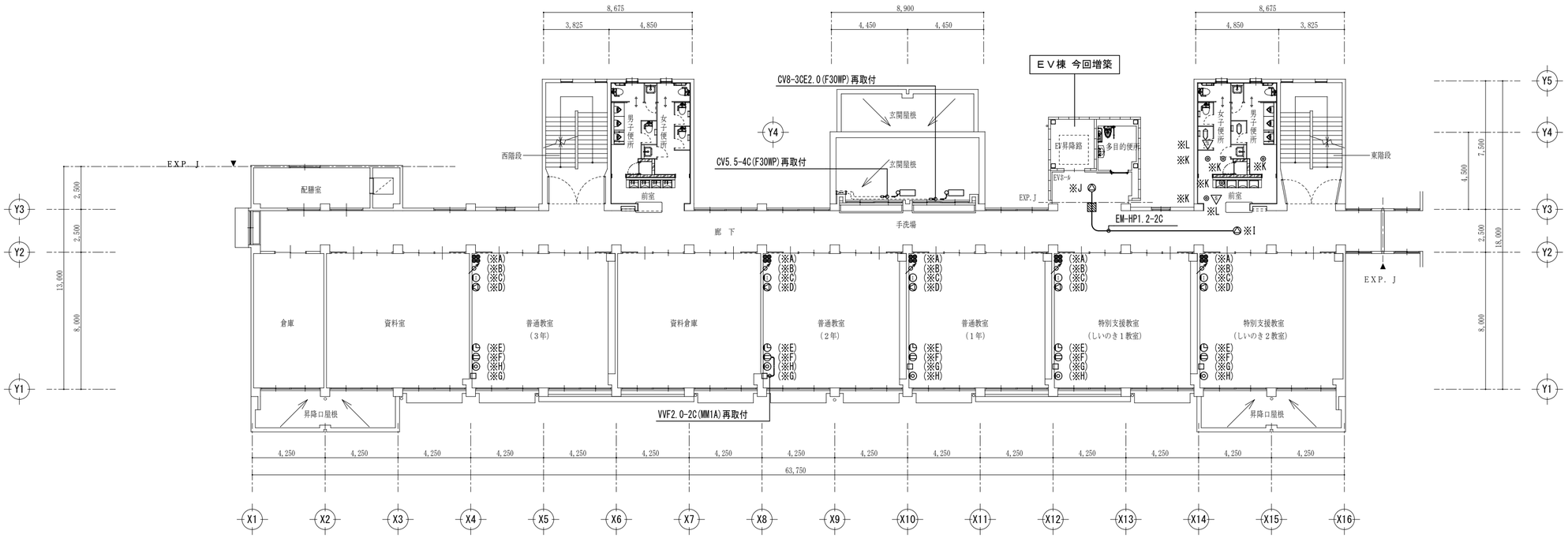
［改修後］屋上階平面図　S=1/200



［改修後］３階平面図　S=1/200

原図：Ａ２

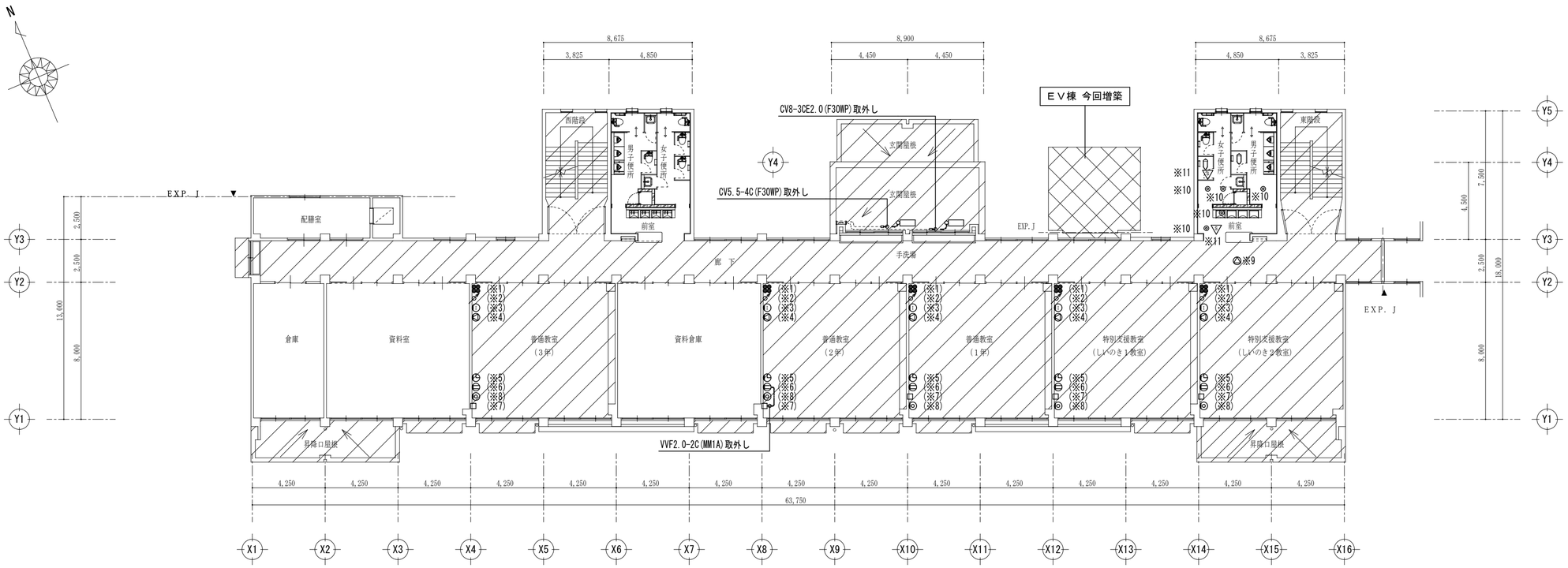
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津 市 立 栗 真 小 学 校 長 寿 命 化 改 修 工 事	弱電設備(2) ［改修後］３階・屋上階平面図	1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山 本 一 級 建 築 士 事 務 所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設 計 者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	E-12



記号	名称	内容
※A	ﾀﾝﾌﾞﾗｽｲｯﾁ 1P15A×4	再取付
※B	ｱｯﾃﾈｰﾀｰ	再取付
※C	ｲﾝﾀｰﾎﾝ 子機	再取付
※D	壁掛型ｽﾋﾟｰｶｰ	再取付
※E	壁掛型子時計	再取付
※F	埋込ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×2	再取付
※G	ｶﾊﾞｰﾌﾟﾚｰﾄ	再取付
※H	直列ﾕﾆｯﾄ 端末	再取付
※I	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ	再使用 既設回路に接続
※J	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ(SP-1)	新設
※K	ﾀﾞｳﾝﾗｲﾄ	再取付
※L	ｾﾝｻｰ	再取付

点線にて記入のものは既設を示し再使用とする

［改修後］２階平面図　S=1/200



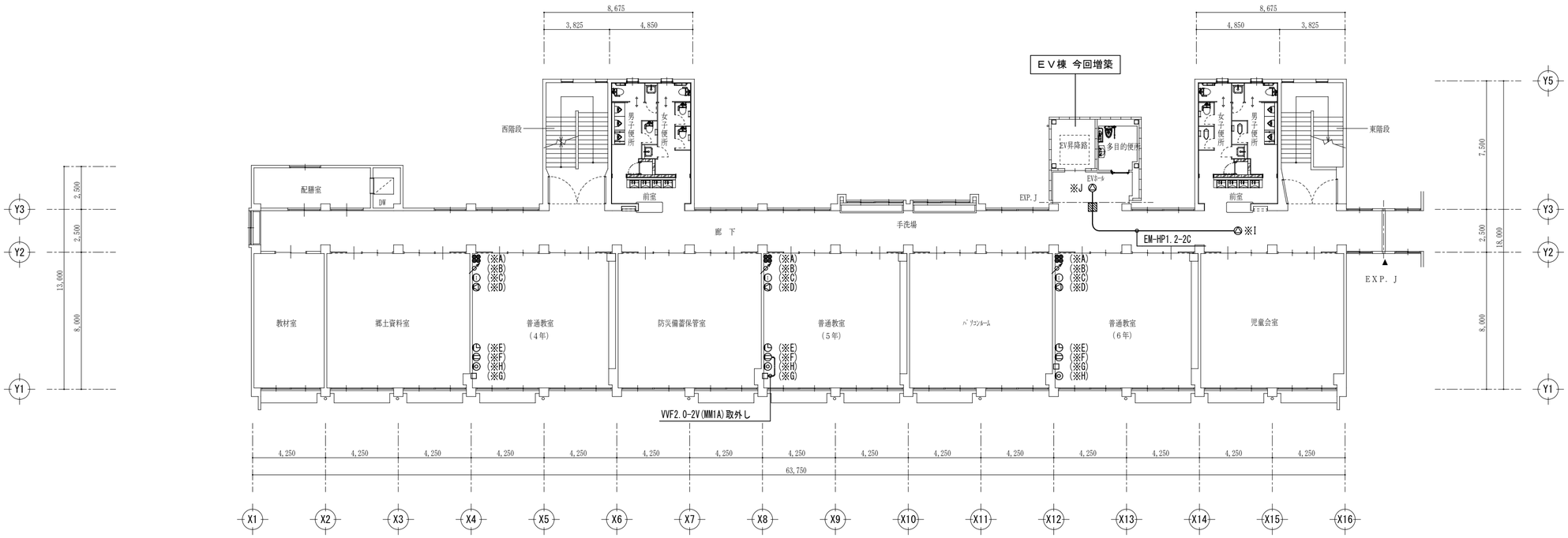
記号	名称	内容
※1	ﾀﾝﾌﾞﾗｽｲｯﾁ 1P15A×4	取外し
※2	ｱｯﾃﾈｰﾀｰ	取外し
※3	ｲﾝﾀｰﾎﾝ 子機	取外し
※4	壁掛型ｽﾋﾟｰｶｰ	取外し
※5	壁掛型子時計	取外し
※6	埋込ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×2	取外し
※7	ｶﾊﾞｰﾌﾟﾚｰﾄ	取外し
※8	直列ﾕﾆｯﾄ 端末	取外し
※9	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ	取外し
※10	ﾀﾞｳﾝﾗｲﾄ	取外し
※11	ｾﾝｻｰ	取外し

点線にて記入のものは既設を示し再使用とする

［改修前］２階平面図　S=1/200

原図：Ａ２

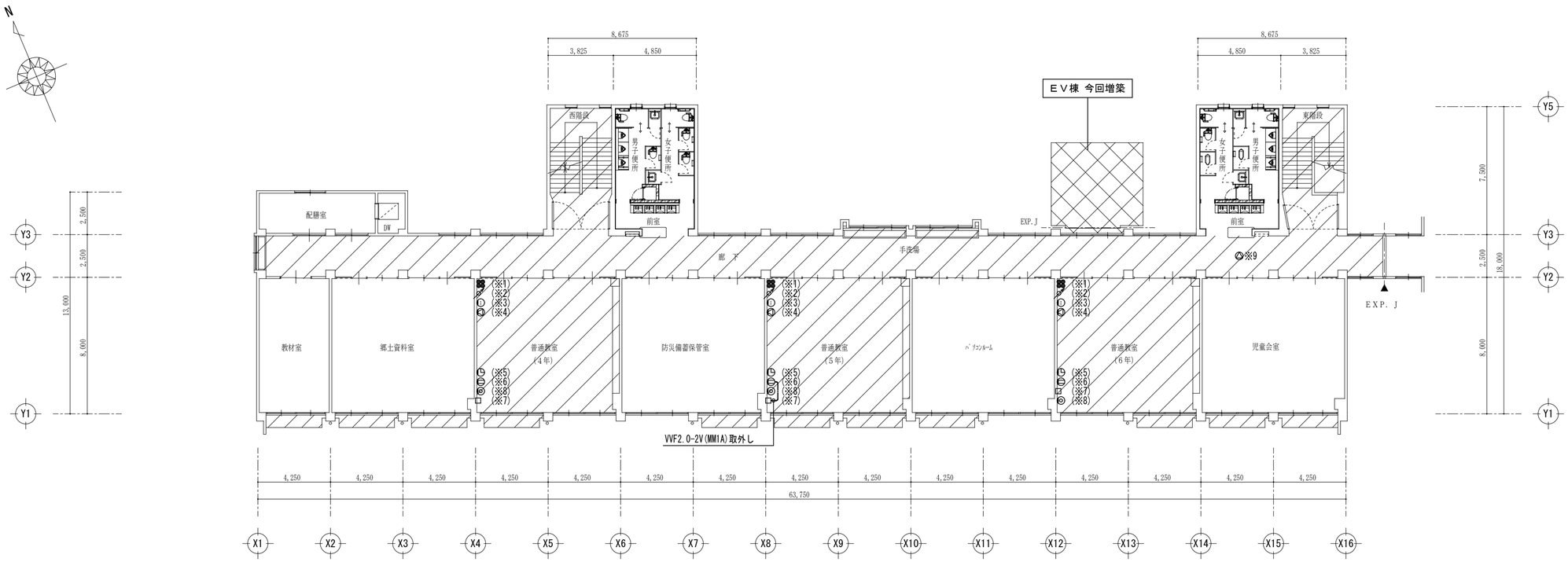
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	電灯設備・動力設備・弱電設備 ［改修前］［改修後］２階平面図	1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康		E-13



記号	名称	内容
※A	ﾀﾝﾌﾞﾗｽｲｯﾁ 1P15A×4	再取付
※B	ｱｯﾃﾈｰﾀｰ	再取付
※C	ｲﾝﾀｰﾎﾝ 子機	再取付
※D	壁掛型ｽﾋﾟｰｶｰ	再取付
※E	壁掛型子時計	再取付
※F	埋込ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×2	再取付
※G	ｶﾊﾞｰﾌﾟﾚｰﾄ	再取付
※H	直列ﾕﾆｯﾄ 端末	再取付
※I	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ	再取付 既設回路に接続
※J	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ(SP-1)	新設

点線にて記入のものは既設を示し再使用とする

［改修後］３階平面図　S=1/200



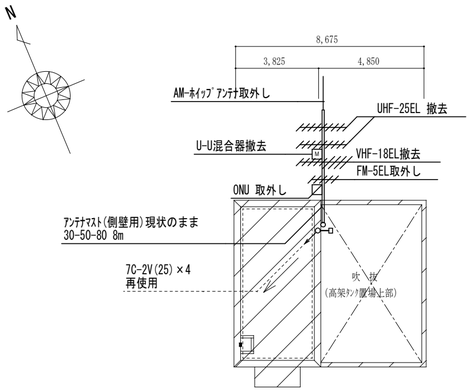
記号	名称	内容
※1	ﾀﾝﾌﾞﾗｽｲｯﾁ 1P15A×4	取外し
※2	ｱｯﾃﾈｰﾀｰ	取外し
※3	ｲﾝﾀｰﾎﾝ 子機	取外し
※4	壁掛型ｽﾋﾟｰｶｰ	取外し
※5	壁掛型子時計	取外し
※6	埋込ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×2	取外し
※7	ｶﾊﾞｰﾌﾟﾚｰﾄ	取外し
※8	直列ﾕﾆｯﾄ 端末	取外し
※9	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ	取外し

点線にて記入のものは既設を示し再使用とする

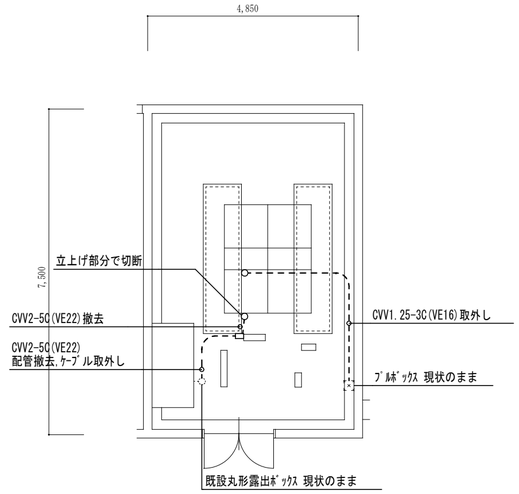
［改修前］３階平面図　S=1/200

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	電灯設備・動力設備・弱電設備 ［改修前］［改修後］３階平面図	1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康		E-14

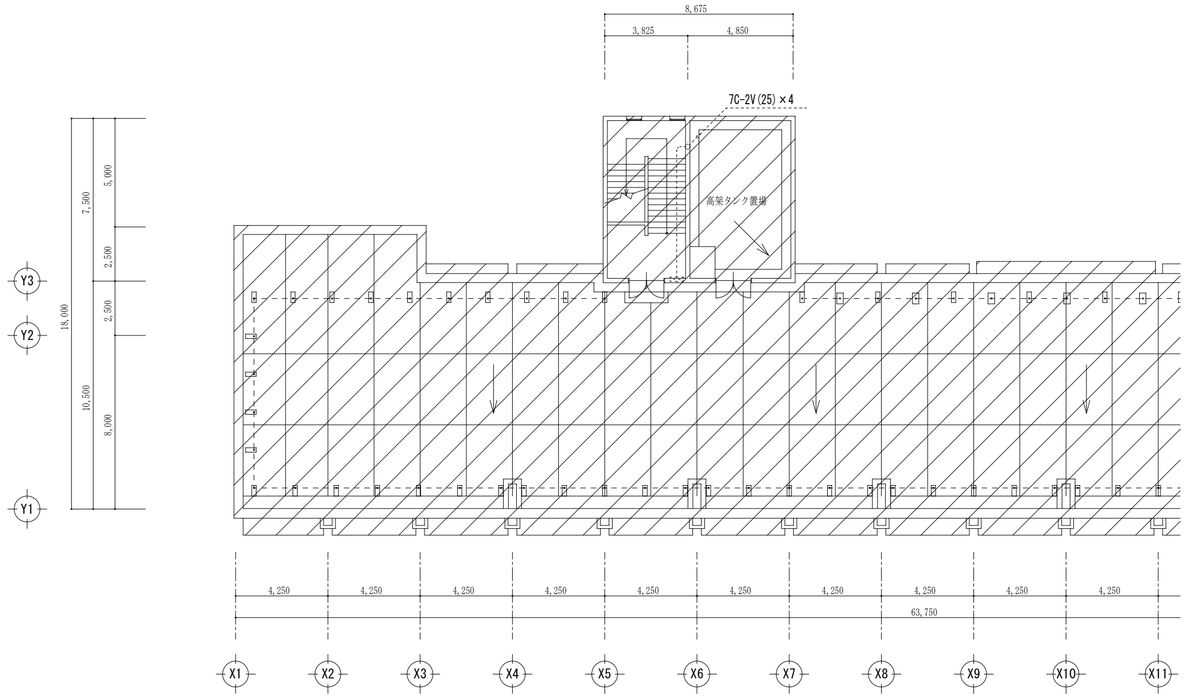


［改修前］PH階平面図　S=1/200

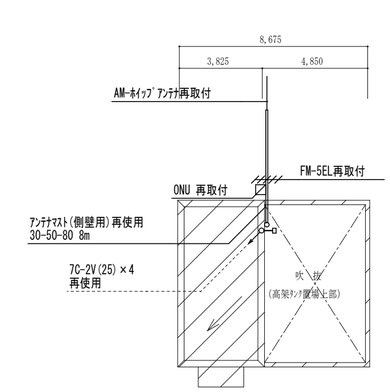


［改修前］高架ﾀﾝｸ置場　S=1/100

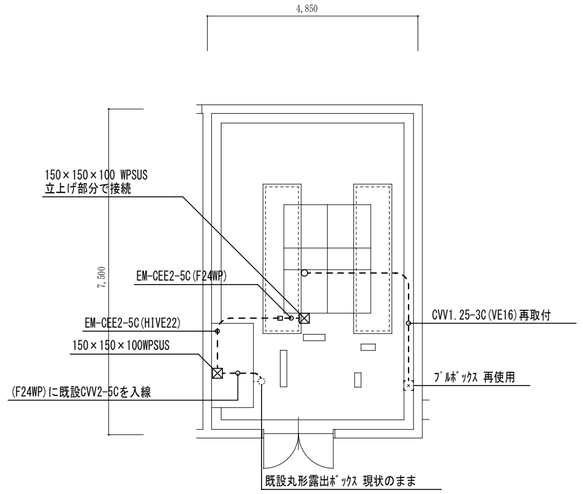
点線にて記入のものは既設を示し再使用とする



［改修前］屋上階平面図　S=1/200

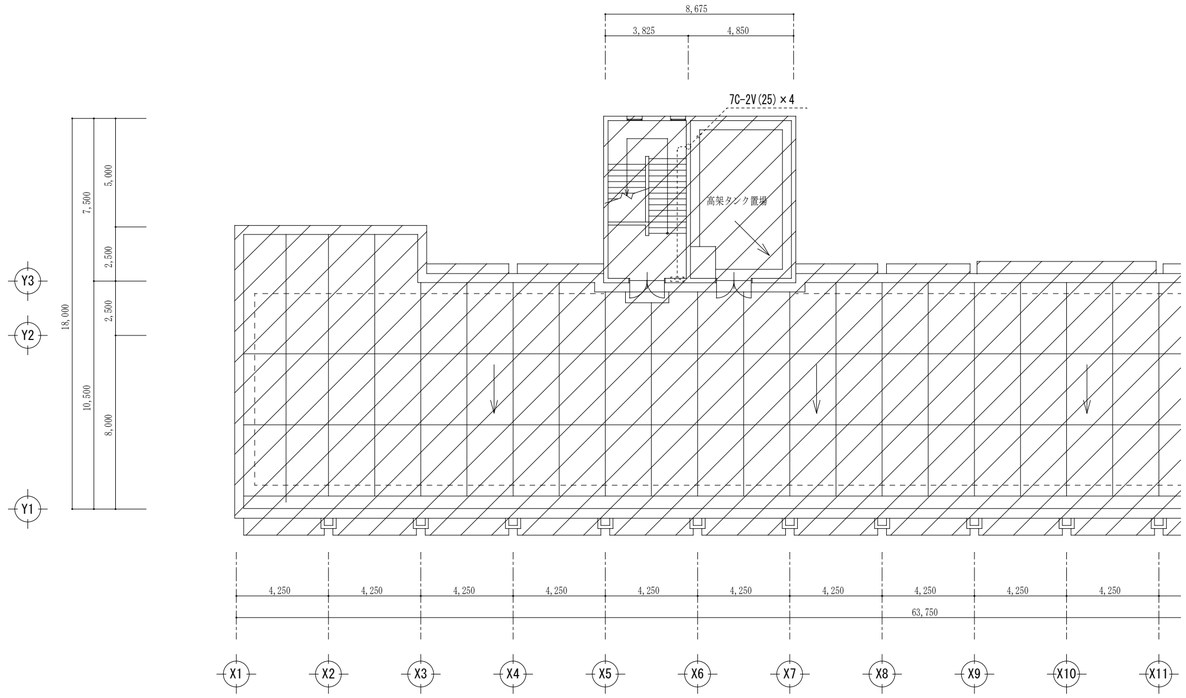


［改修後］PH階平面図　S=1/200



［改修後］高架ﾀﾝｸ置場　S=1/100

点線にて記入のものは既設を示し再使用とする

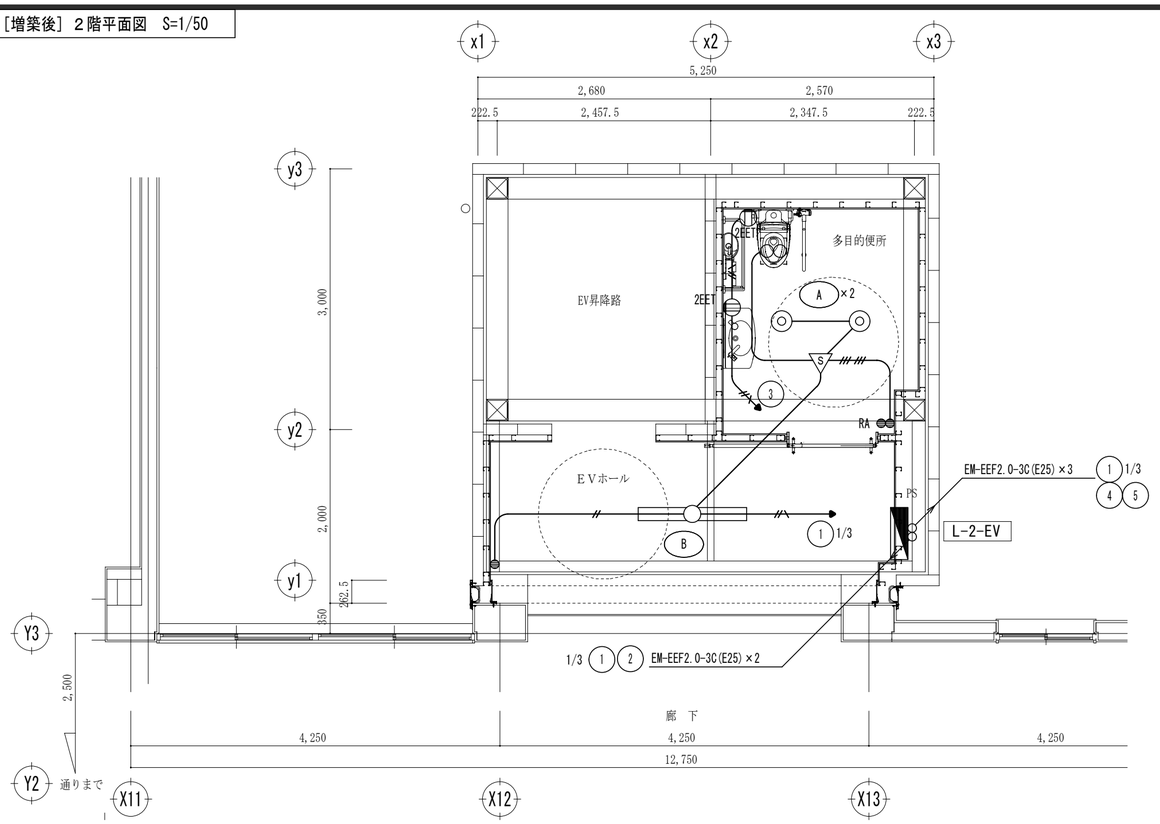


［改修後］屋上階平面図　S=1/200

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	動力設備・弱電設備 ［改修前］［改修後］屋上･PH階平面図	1/200	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		No. E-15

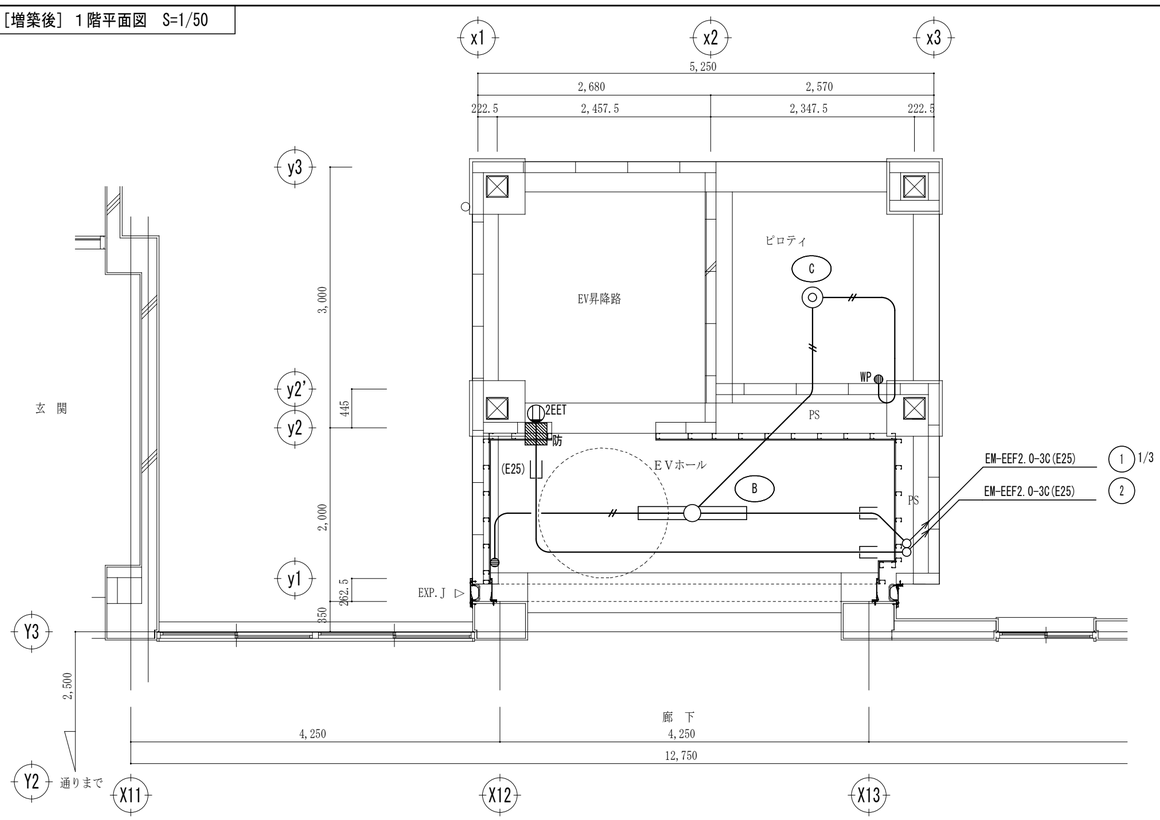
［増築後］２階平面図　S=1/50



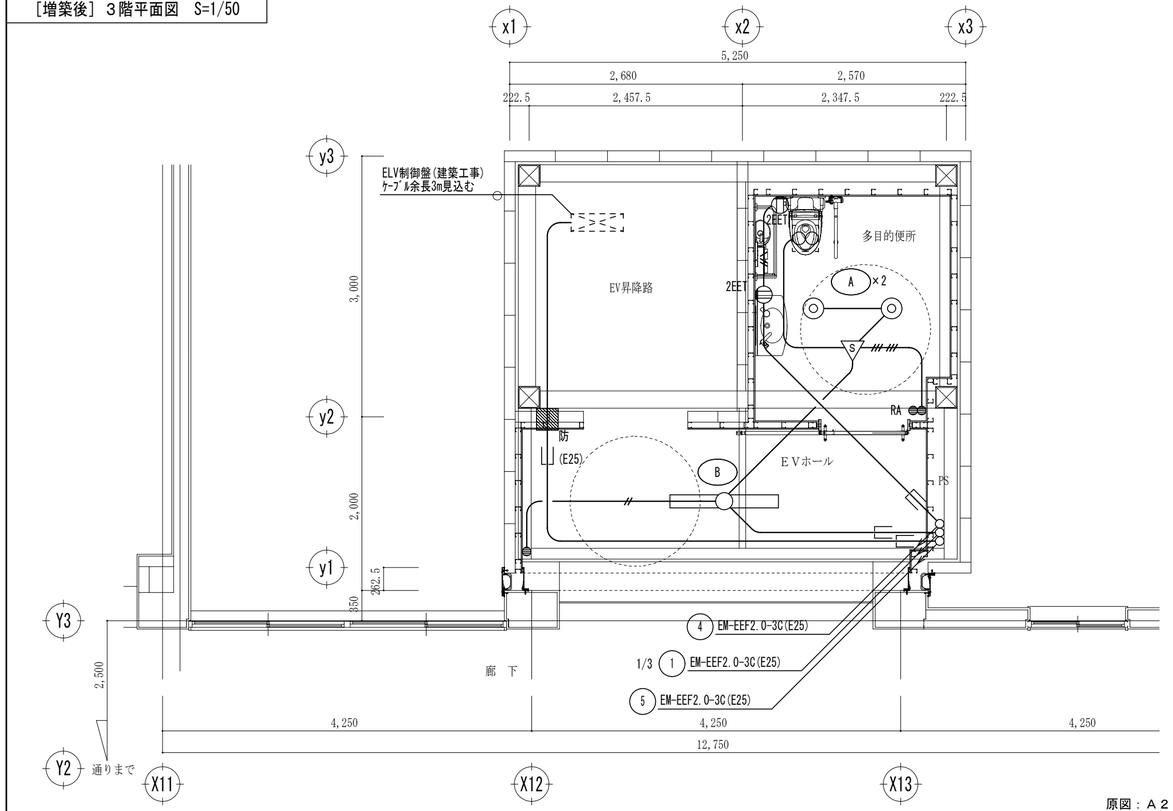
記号	名称	
	電灯分電盤	
	LED灯 ﾍﾞｰｽﾗｲﾄ	
	LED灯 ﾀﾞｳﾝﾗｲﾄ	
	換気扇　機械設備工事	
	ﾀﾝﾌﾞﾗｽｲｯﾁ　片切	
WP	ﾀﾝﾌﾞﾗｽｲｯﾁ　片切　防水	
S	熱線ｾﾝｻｰ付自動ｽｲｯﾁ 換気扇連動用	WTK2614K相当品
RA	熱線ｾﾝｻｰ用自動ｽｲｯﾁ操作ﾕﾆｯﾄ2回路用	WTC5822W相当品
2EET	埋込ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A 2ｹﾀ 接地極・接地端子付	
防	防火区画貫通個所を示し、国土交通大臣認定品にて処理を行なう	

図中記入なき配線は下記とする
EM-EEF1.6-3C(PF22)　内1Cは接地線
EM-EEF2.0-3C(PF22)
EM-EEF1.6-2C(PF22)
EM-EEF1.6-3C×2(PF28)
天井内はｹｰﾌﾞﾙころがし配線、壁内部は電線管にて保護とする
斜線の傾きの異なるものは接地線を示す

［増築後］１階平面図　S=1/50

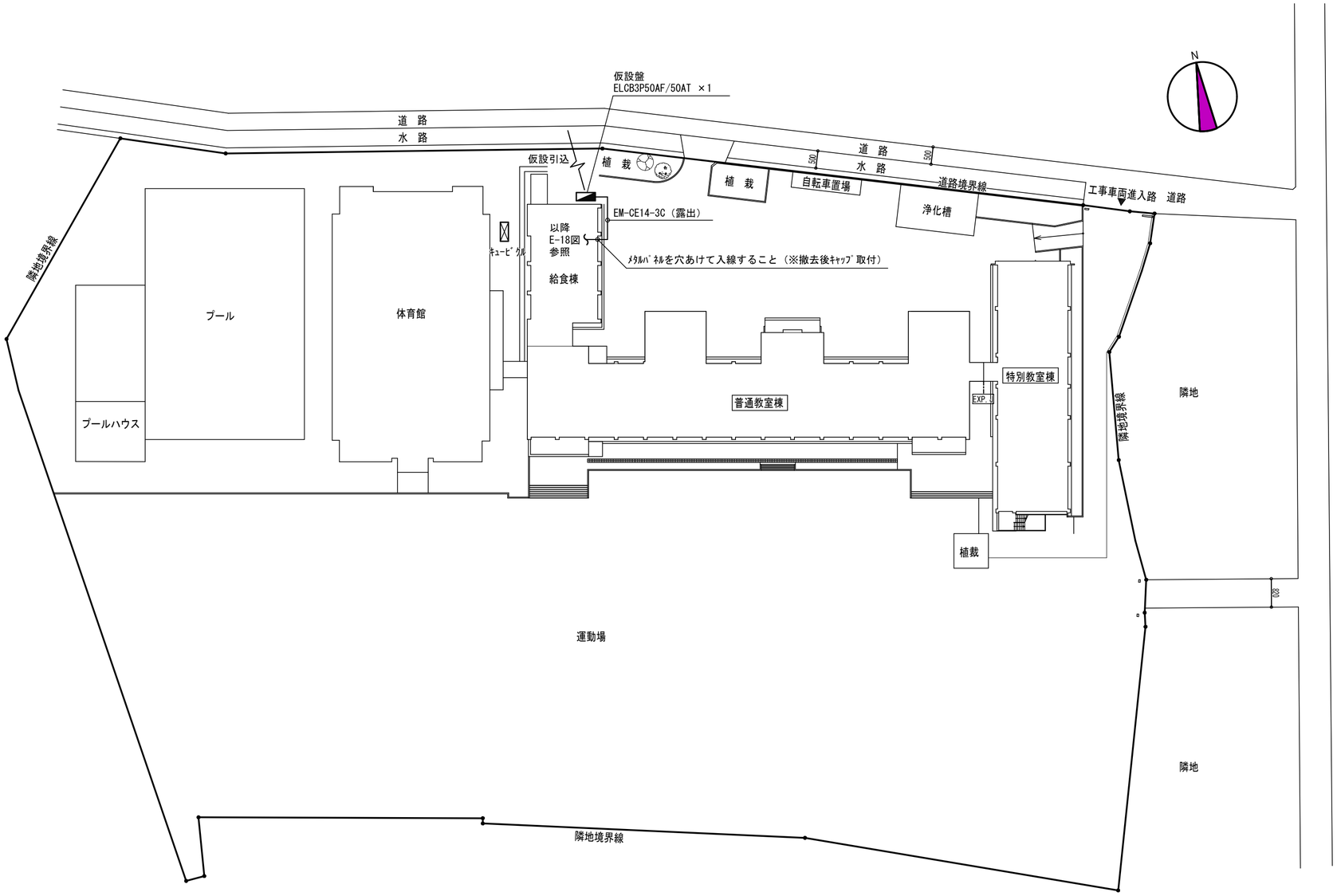


［増築後］３階平面図　S=1/50



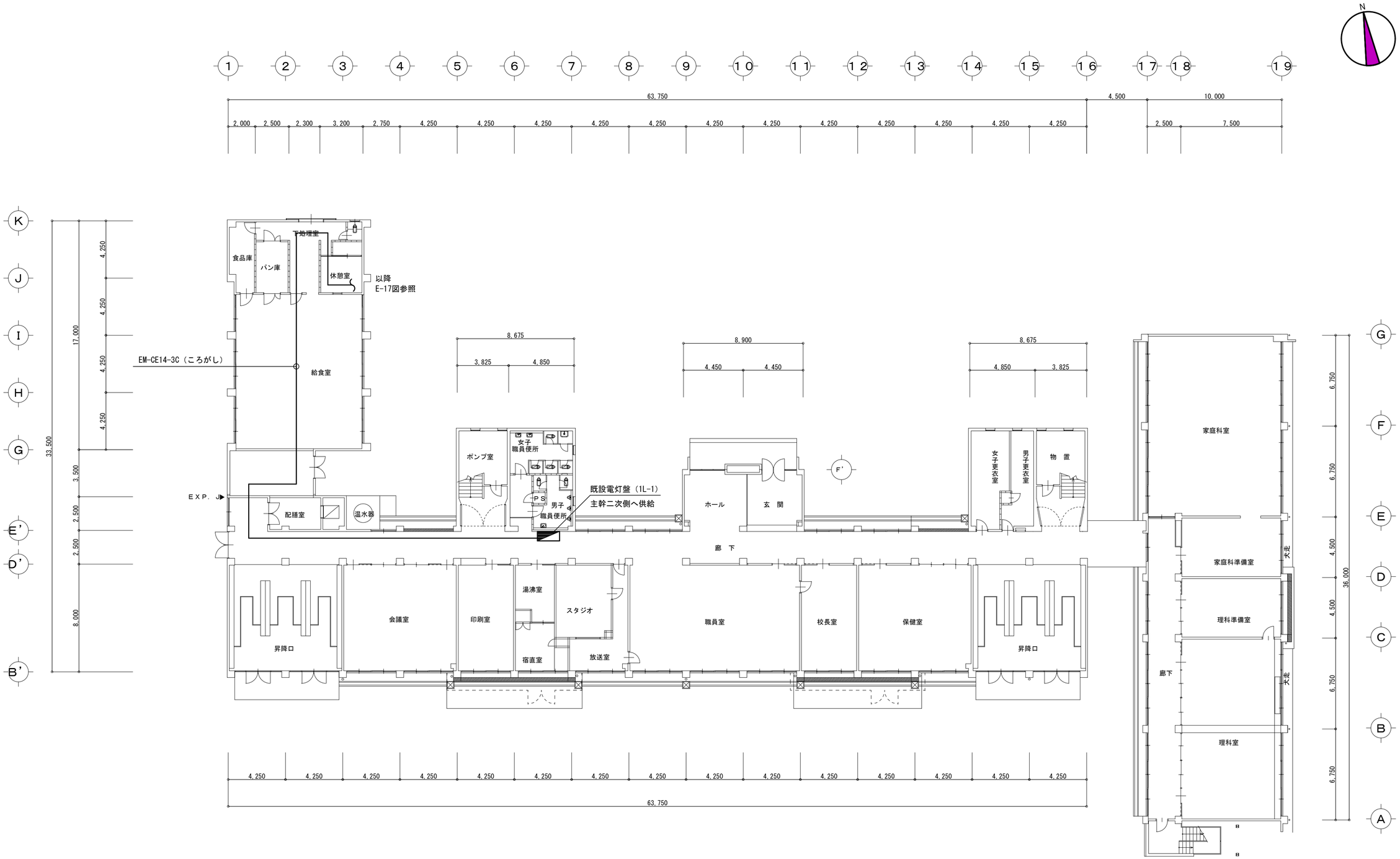
原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE					No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	EV棟 電灯設備［増築後］各階平面図	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康			E-16



配 置 図 S=1/500

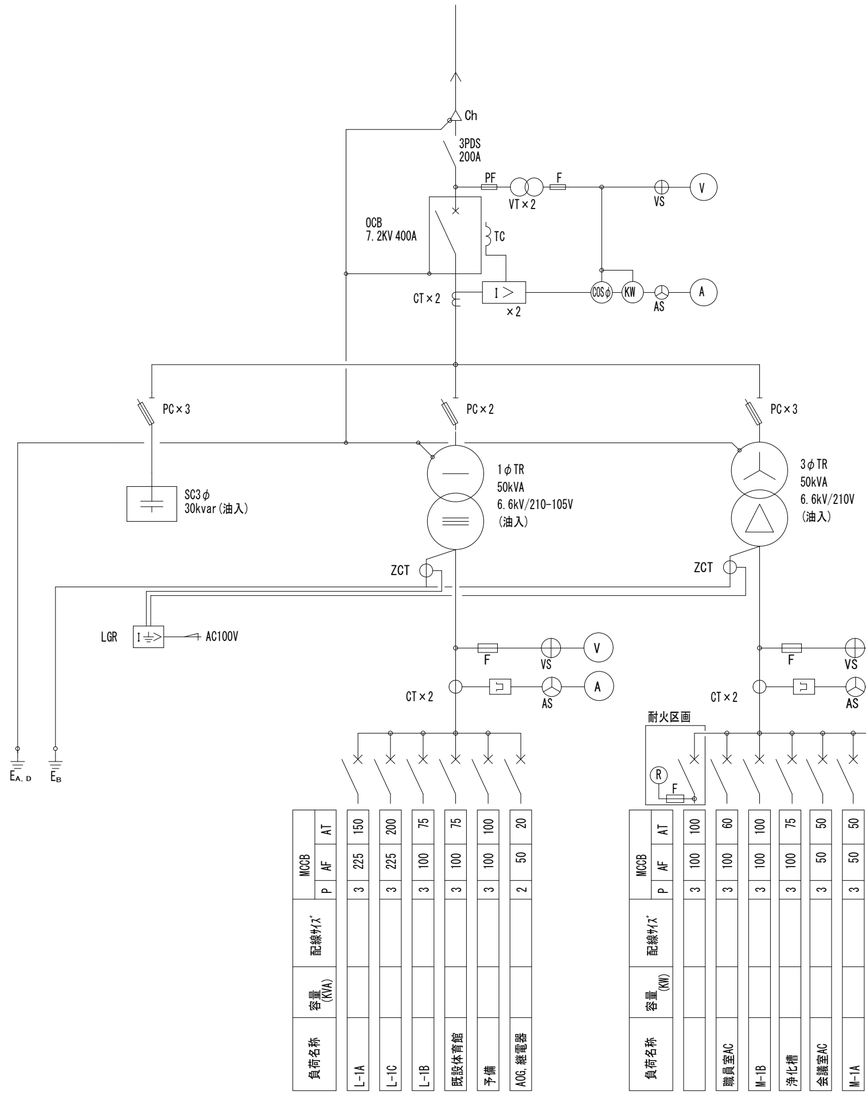
津市立栗真小学校長寿命化改修工事		縮尺 1／500
図面名称	仮設電源配置図	原図：A2
津 市 建 設 部 営 繕 課		No. E-17



1階平面図　S＝1／200

津市立栗真小学校長寿命化改修工事		縮尺 1／200
図面名称	仮設電源1階平面図	原図：A2
津 市 建 設 部 営 繕 課		No. E-18

改修前

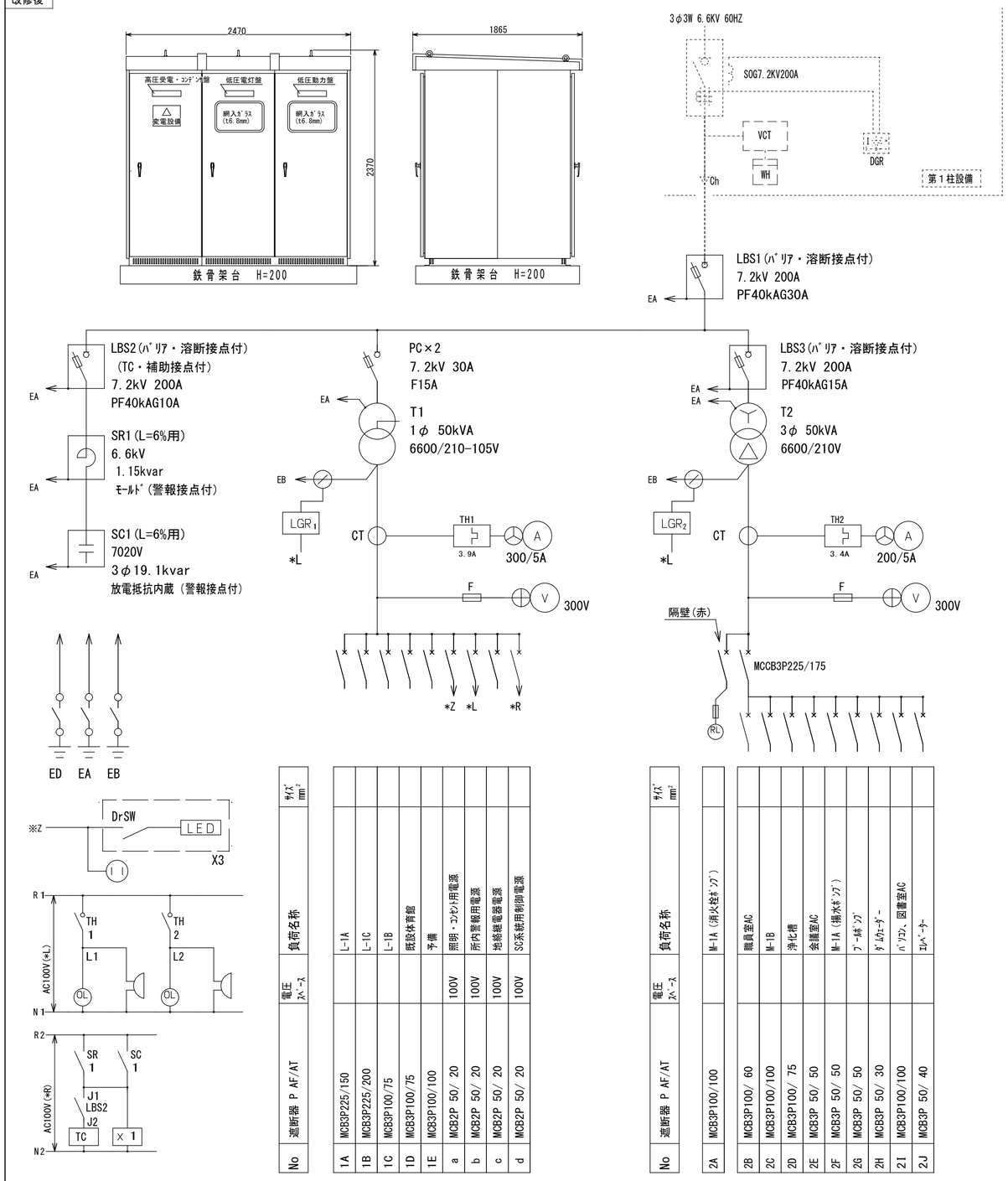


負荷名称	容量 (KVA)	配線サイズ	MCCB P	MCCB AF	MCCB AT
L-1A			3	225	150
L-1C			3	225	200
L-1B			3	100	75
既設体育館			3	100	75
予備			3	100	100
AOG、継電器			2	50	20

負荷名称	容量 (KW)	配線サイズ	MCCB P	MCCB AF	MCCB AT
			3	100	100
職員室AC			3	100	60
M-1B			3	100	100
浄化槽			3	100	75
全議室AC			3	50	50
M-1A			3	50	50
ブールポンプ			3	50	50
ダムウェーター			3	50	30
パソコン、図書AC			3	100	100

※既設コンデンサは新設キュービクル内に保管すること

改修後



No	遮断器 P AF/AT	電圧 ｹｰﾌﾞﾙ	負荷名称	ｻｲｽﾞ mm²
1A	MCB3P225/150		L-1A	
1B	MCB3P225/200		L-1C	
1C	MCB3P100/75		L-1B	
1D	MCB3P100/75		既設体育館	
1E	MCB3P100/100		予備	
a	MCB2P 50/ 20	100V	照明・コンセント用電源	
b	MCB2P 50/ 20	100V	所内警報用電源	
c	MCB2P 50/ 20	100V	地絡継電器電源	
d	MCB2P 50/ 20	100V	SC系統用制御電源	

No	遮断器 P AF/AT	電圧 ｹｰﾌﾞﾙ	負荷名称	ｻｲｽﾞ mm²
2A	MCB3P100/100		M-1A(消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ)	
2B	MCB3P100/ 60		職員室AC	
2C	MCB3P100/100		M-1B	
2D	MCB3P100/ 75		浄化槽	
2E	MCB3P 50/ 50		全議室AC	
2F	MCB3P 50/ 50		M-1A(揚水ﾎﾟﾝﾌﾟ)	
2G	MCB3P 50/ 50		ブールポンプ	
2H	MCB3P 50/ 30		ダムウェーター	
2I	MCB3P100/100		パソコン、図書室AC	
2J	MCB3P 50/ 40		エレベーター	

仕様

1	消防庁告示第７号に準拠すること
2	国土交通省仕様とすること
3	外部出力接点（キュービクル一括警報）付

津市立栗真小学校長寿命化改修工事		縮尺 N／S
図面名称	単線結線図(改修前･改修後)	原図：A２
津 市 建 設 部 営 繕 課		No. E-19

機械設備工事特記仕様書

1　工事名称　　津市立栗真小学校長寿命化改修工事

2　工事場所　　津市　栗真中山町　地内

3　建築概要　　小学校　ＲＣ造　3階建
　　消施令の適用　７項

4　適用基準　　図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、以下による
　　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
　　「公共建築工事標準仕様書（建築、電気、機械設備工事編）令和４年版」
　　「公共建築改修工事標準仕様書（建築、電気、機械設備工事編）令和４年版」
　　「公共建築設備工事標準図（電気、機械設備工事編）令和４年版」
　　「建築、電気、機械設備工事監理指針令和４年版」
　　独立行政法人　建築研究所監修
　　「建築設備耐震設計・施工指針２０１４年版」
　　下記の該当する項目を適用する。また、特記事項において選択する事項は、
　　なお、以下において選択する事項は、■印のついたものを適用する。

5　一般事項
　工事の詳細については、本設計図面及び仕様書による他、上記各適用基準に準拠し、監督員指示の下に入念かつ誠実に施工すること。
　設計図書に定められた内容、現場の納まり・取り合い等の不明な点や施工上の困難・不都合、図面上の誤記及び記載漏れ等に起因する問題点及び疑義、設計図書とおりに施工することで将来不具合が発生しうると判断される場合については、その都度、監督員と協議すること。なお設計図書とおりの施工であっても使用上の不具合が発生した場合は協議の上、改善策を講じること。
　他工事との取り合いについては予め当該工事関係者間において協議し、円滑な工事進捗に努めること。なお調整不足による意匠的な仕上がり不備や不具合が発生した場合は監督員の指示により手直し施工を行うこと。
（１）　提出図書　　■建築工事に準じる
　１）工事書類　：　・施工計画書　　・打合記録　　・施工要領書
　　・機器使用願　　・機器明細図　　・工程表　　・施工図等
　２）工事完成図書：　・品質確認書類　　・工事日報
　　・工事写真　　・安全・訓練実施記録
　　・竣工図［製本４（原寸　２部、Ａ３（見開き）　２部）］
　　・機器完成図（ファイル等１部）
　　・保守に関する説明書（取扱説明書・保証書）　２部
　　・機器性能試験成績書　１部
　　・総合調整測定表（試験結果・測定結果等）　１部
　　・官公署届出書類控、検査済証　１部
　　・出来形確認書類　１部　等
　※　竣工図・施工図はＣＡＤにより作成すること。
　※　工事写真は営繕工事写真撮影要領（国土交通大臣官房官庁営繕部監修（平成３１年版））に従い撮影すること。
　※　建築包含工事の場合、監督員に確認のこと。

（２）　機器及び材料等
　工事に使用する機器及び材料等については、予め使用機材届出書（メーカーリスト）、機器明細図、現品、カタログ、その他諸資料を事前に届け出ること。
　尚、図面に記載の品番は、参考品番として便宜上メーカー品番を使用しているので、メーカー選定にあたっては、同等品以上の性能を有するものとする。また、国等による環境物品等の調達推進に関する法律（グリーン購入法）を考慮し、再生品などの環境に優しい（環境物品）の調達に努める。
　又、重量機器については、機器据付要領・耐震計算書もあわせて提出すること。

（３）　官公署等への届出手続
　工事に伴う関係官公署への必要な諸手続きは、受注者が遅滞なく行い、これに要する費用も負担する。
　１）消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成
　　□本工事（□建築工事　□電気設備工事　□機械設備工事）
　　□別途工事
　２）防火対象物使用開始届出書
　　書類の作成（機械設備図面の作成及び機械設備に関する部分の記入）を行うこと。

（４）　品質管理
　工事施工に関して、着手前・施工途中・施工後の自主検査を実施すること。
　チェックリスト等を作成し、管理を行うこと。

（５）　出来形管理
　以下の項目について、出来形管理の対象として管理を行うこと。
　１）各種機器据付
　　・　耐震強度（設計標準震度、アンカーの種類・サイズ確認・埋め込み深さ）
　　・　基礎寸法　　・　水平、垂直等
　２）配管・ダクト工事
　　・　支持間隔　　・　振れ止め支持間隔
　３）屋外排水工事
　　・　排水勾配　　・　桝の深さ
　４）水栓、リモコンスイッチ類の取付高さ

（６）　製品確認
　発注者、受注者において仕様を決定し、製作するような規格品ではない製品については、試験・検査等を行う機器が整備された施設内において、監督員等が製品の確認を行うものとする。
　□　適用する　　□　適用しない

（７）　耐震安全性の分類
　構造体（　）類　　建築非構造部材（　）類　　建築設備（　）類

（８）　機器の地震力（主要機器）　□図示による
　機器名
　　設置階　（　　）　設計標準震度Ｋｓ　（　　地域係数）　（１．０）
　水槽類
　　設置階　（　　）　設計標準震度Ｋｓ　（　　地域係数）　（１．０）

　その他監督員が指示するもの
（９）　冷媒（フロン類）の回収　　□適用する　　□適用しない
　冷凍機等の撤去に伴う冷媒の回収方法は、改修標準仕様書第３編　２．４．３により、次の書類の写しを監督員に提出すること。
　・フロン回収行程管理票
　・特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）
撤去する前にフロンを屋外機ユニットに集める作業（ポンプダウン）を行うこと。
パッケージ形空調機の移設等により、冷媒の回収が必要となる場合においても、上記に準じて冷媒の大気中への飛散を防止する措置を講じること。
（１０）　中間技術検査
　実施回数　（　　）回
　実施する段階（　　）

（１１）　発生材の処理等　■建築工事に準じる
　１）　引渡しを要するもの　（　　）
　　上記以外の引き渡しを要するものについては別途、監督員が指示する。
　２）　特別管理産業廃棄物　（　　）
　　処理方法　（　　）
　　なお施工に際して廃石綿等特別管理廃棄物及び疑わしき機器等を発見した場合は、監督員に報告し対応を協議するものとする。
　３）　現場内において再利用を図るもの　□発生土　　□その他（　　）
　４）　再資源化を図るもの　□コンクリート塊　　□　アスファルトコンクリート塊
　　□　建設発生木材　）
　５）　発注者へ引き渡すものについては「現場発生品調書」を提出すること。また再利用を図るものについても調書を作成し、監督員へ提出すること。
　６）　引渡しを要しないものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切処理し、監督員に報告すること。（マニフェストＡ、Ｂ２、Ｄ票を提示すること。）
（１２）　電気保安技術者
　□　配置する　　□　配置しない
（１３）　施工条件
　監督員及び依頼部局と協議調整し決定すること。　□建築工事に準じる
　１）施工可能日　　□　一部に土、日曜日、祝祭日施工あり　　□　指定なし
　　（　　）
　２）施工可能時間帯　□　指定なし　□　指定あり　（　　時　～　　時　）
（１４）　概成工期
　建築物等の使用を想定して総合試運転調整を行ううえで、関連工事を含めた各工事が支障のない状態まで完了していること。　■建築工事に準じる
　□　指定なし　□　指定あり　（　令和　　年　　月　　日　）

（１５）　仮設工事　構内既存の施設　■建築工事に準じる
　１）便所　　□　利用できる　　□　利用できない
　２）工事用水　　□　利用できる（有償）　□　利用できる（無償）　□　利用できない
　３）工事用電力　　□　利用できる（有償）　□　利用できる（無償）　□　利用できない
※　本工事で新規受電または既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は本工事に含まれる。
（１６）　足場　　■建築工事に準じる
　設置する足場については、「手すり先行工法等に関するガイドライン」（厚生労働省平成２１年４月）により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の２の（２）手すり据置き方式又は（３）手すり先行専用足場方式により行うこと。

　足場（つり足場、張出し足場又は高さが１０ｍ以上の足場で、組立から解体までの期間が６０日以上のものに限る）の組立て後、市監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。
　１）　足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第１９条の２に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者
　２）　労働安全衛生法第８１条に規定する労働安全コンサルタント（区分が土木又は建築である者）や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等法第８８条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参画者」に必要な資格を有する者
　３）　全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記１）又は２）に掲げる者と同等の知識・経験を有する者

（１７）　建築材料等
　１）　本工事に使用する建築材料等は、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とする。
品質が求められる水準以上であれば、市内生産品の優先使用に努めること。
　２）　本工事で使用する建設資材の調達にあたっては、極力市内の取り扱い業者から購入するよう努めること。

　３）　下記製品を本工事で使用する場合は、三重県リサイクル製品利用推進条例に基づく認定製品を使用すること。
ただし認定製品が入手できない場合は、監督員と別途協議を行うこと。

　４）　下記製品を本工事で使用する場合は、三重県リサイクル製品利用推進条例に基づく認定製品を使用するように努めること。
　　（認定製品の品名：　・間伐材製工事用バリケード・間伐材工事看板・間伐材表示板
　　（　　））

（１８）　三重県産業廃棄物税
　本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の４月１日から８月３１日までの間に別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。なお、この期間を超えて請求することはできない。
また、産業廃棄物処理集計表（マニフェストの数量の集計）を超えて請求することはできない。

（１９）　事故の発生時
　工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員へ通報するとともに、所定の様式により事故発生報告書を監督員が指示する期日までに監督員へ提出すること。
　なお、事故発生後の措置について、監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。

（２０）　既設との取合い・養生
　本工事施工に伴う、既存設備の軽微な加工・改造は、本工事とする。
また、工事施工に際し、既存部分を汚損・破損等しないよう養生を行うこと。なお汚損・破損等した場合は、機能・仕上げ共、既設にならい復旧すること。

（２１）　不正軽油の使用の禁止
　１）　一般事項
　　工事の施工に当たり、工事現場で使用し、又は使用される車両（資機材等の搬入車両を含む。）並びに建設機械等の燃料として、不正軽油（地方税法第１４４条の３２（製造等の承認を受ける義務等）の規定に違反する燃料をいう。）を使用してはならない。
　２）　調査の協力
　　受注者は、市が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。
　　また、受注者は下請負者等に同調査を協力するよう管理及び監督しなければならない。
　３）　是正措置
　　受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。
　　また、受注者は下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じるよう管理及び監督しなければならない。

（２２）　その他
　１）　使用機械
　　低騒音型、低振動型の建設機械の使用に努めること。
　２）　測定機器の校正記録
　　工事で使用する測定機器に対しては適正に校正した器具を使用しなければならない。
　　測定に先立ち使用する測定機器の検査済証（写し）又は校正記録（写し）を監督員に提示すること。
　３）　フロン回収及び充填
　　当該工事を施工するに当たって施工時にフロン類の充填、回収作業を行う場合は、フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（令和２年４月１日施行）等の関係法令を遵守し、第１種フロン類充填回収登録業者が行うこと。
（２３）　現場での安全確保（自主施工の原則）
　１）　受注者は工事中の適切な安全確保の措置等の一切の手段について、自らの責任において定め、工事を実施すること。
　２）　設計図書に明示された施工条件と工事現場が一致せず、安全確保のために指定仮設の変更や計上が必要な場合は、監督員と協議を行い、指示を受けた後、受注者として適切な安全確保の措置を講じたうえで、工事を実施すること。

6　工事種目　　給排水衛生設備工事
　■　屋外給水設備工事　　■　屋内給水設備工事　　■　屋外排水設備工事
　■　屋内排水通気設備工事　　■　衛生器具設備工事　　□　消火設備工事
　□　給湯設備工事　　■　屋外ガス設備工事　　□　屋内ガス設備工事
　□　浄化槽設備工事　　□　厨房機器設備

　空調設備工事
　■　機器設備工事　　■　配管設備工事　　■　換気設備工事

7　工事概要
　給排水衛生設備工事
　（１）　給水設備工事
　　本工事は図示のごとくを工事範囲とし、高置水槽方式により
　　所要の各所に給水する。直圧部の弁類は、水道局規格品ＪＩＳ１０Ｋを使用する。
　　既設の不要な配管は撤去処分とする。
　（２）　屋外排水設備工事
　　本工事は、汚水、雑排水を合流方式とし、敷地内最終桝
　　に至る配管、桝を勾配に十分留意し敷設するものとする。
　　桝は公団型、現場打ちまたはプラスチック桝とする。
　　既設の不要な配管は撤去処分とする。
　（３）　屋内排水通気設備工事
　　本工事は汚水、雑排水を合流式により屋外桝に接続放流する。
　　既設の不要な配管は撤去処分とする。
　（４）　衛生器具設備工事
　　衛生器具を所定の位置に附属金具により堅固に取り付けるものとし、陶器の
　　色は監督員と協議の上決定する。
　　既設の不要な器具は撤去処分とする。

　空調設備工事
　（１）　機器設備工事
　　本工事は、防水工事に伴いパッケージエアコン屋外機の保温のみ取外し、取付を
　　を含めて機器設備工事とする。

　（２）　換気設備工事
　　換気扇の設置ならびに付帯ダクト設備を行うものとする。

8　総合調整
　（１）　風量調整
　　□　適用する　　■　適用しない
　（２）　水量調整
　　■　適用する　　□　適用しない
　（３）　室内外空気の温度測定
　　□　適用する　　■　適用しない
　（４）　室内外空気の湿度測定
　　□　適用する　　■　適用しない
　（５）　室内気流及びじんあいの測定
　　□　適用する　　■　適用しない
　（６）　騒音の測定
　　□　適用する　　■　適用しない
　（７）　飲料水の水質の測定（水道法施行規則第１０条による水質検査）
　　□　適用する　　■　適用しない
　　のうち　一般細菌、大腸菌、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、塩化物イオン、
　　有機物（全有機炭素（ＴＯＣ）の量）、ｐＨ値、味、臭気、色度、濁度　について測定を行なうこと。
　　※遊離残留塩素　については、上記適用の有無にかかわらず、測定を行なうこと。
　（８）　その他（　　）
　　□　適用する　　□　適用しない

工事細目
9（１）　配管材料

■　給水管	■　水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管　ＪＷＷＡ　Ｋ１１６ （一般；　ＳＧＰ－ＶＢ　地中　；　ＳＧＰ－ＶＤ　） □　フランジ付硬質塩化ビニルライニング鋼管　ＷＳＰ　０１１ （一般；　ＳＧＰ－ＦＶＡ，　ＦＶＢ　地中　；　ＳＧＰ－ＦＶＤ） ※　継ぎ手はコア内蔵型とする。 ※　給水管１００Ａはねじ又はフランジ接合、１２５Ａ以上はフランジ接合（工場加工）とする。 ■　水道用硬質ポリ塩化ビニル管　ＪＩＳ　Ｋ　６７４２ （屋外埋設　；　ＨＩＶＰ） □　水道配水用ポリエチレン管　ＪＷＷＡ　Ｋ　１４４　（地中：ＰＥ） □　水道用ステンレス鋼鋼管ＪＷＷＡ　Ｇ　１１５ □　一般配管用ステンレス鋼鋼管　ＪＩＳ　Ｇ　３４４８ ※　地中埋設管は、取出し位置のＧＬ面又はＳＬ，ＦＬ面より＋１００立ち上げた所までとする。
■　雑排水管	□　配管用炭素鋼鋼管（白）　ＪＩＳ　Ｇ　３４５２　（ＳＧＰ－白） ※　継ぎ手はドレネジ継ぎ手又は、ＭＤ継ぎ手を使用 （地中・コンクリート埋設は防食テープ２重巻き） ■　土間・一般：　硬質ポリ塩化ビニル管　ＪＩＳ　Ｋ　６７４１　（ＶＰ） □　土間：　リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管　ＪＩＳ　Ｋ　９７９８　（ＲＦ－ＶＰ） ※　１２５Ａ以下はＶＰ、１５０Ａ以上はＶＵとする。 ■　排水・通気用耐火二層管　ＪＩＳ　Ｋ　６７４１（硬質塩化ビニル管ＶＰ）又は ＪＩＳ　Ｋ　９７９８（リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管ＲＦ－ＶＰ）規格品に繊維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。
■　通気管	□　配管用炭素鋼鋼管（白）　ＪＩＳ　Ｇ　３４５２　（ＳＧＰ－白） ※　継ぎ手はドレネジ継ぎ手又は、ＭＤ継ぎ手を使用 （地中・コンクリート埋設は防食テープ２重巻き） ■　硬質ポリ塩化ビニル管　ＪＩＳ　Ｋ　６７４１　（ＶＰ） □　リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管　ＪＩＳ　Ｋ　９７９８　（ＲＦ－ＶＰ） ※　１２５Ａ以下はＶＰ、１５０Ａ以上はＶＵとする。　ＲＦ－ＶＰは屋外露出不可 ■　排水・通気用耐火二層管　ＪＩＳ　Ｋ　６７４１（硬質塩化ビニル管ＶＰ）又は ＪＩＳ　Ｋ　９７９８（リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管ＲＦ－ＶＰ）規格品に繊維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。
■　汚水管	□　排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管　ＷＳＰ　０４２ ※　同上ＭＤ継ぎ手　ＪＰＦ　ＭＤＪ　００２ ■　土間・一般：　硬質ポリ塩化ビニル管　ＪＩＳ　Ｋ　６７４１　（ＶＰ） □　土間：　リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管　ＪＩＳ　Ｋ　９７９８　（ＲＦ－ＶＰ） ※　１２５Ａ以下はＶＰ、１５０Ａ以上はＶＵとする。 ■　排水・通気用耐火二層管　ＪＩＳ　Ｋ　６７４１（硬質塩化ビニル管ＶＰ）又は ＪＩＳ　Ｋ　９７９８（リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管ＲＦ－ＶＰ）規格品に繊維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。
□　鉛管	□　排水・通気用鉛管　ＳＨＡＳＥ－Ｓ２０３
□　給湯管	□　水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管　ＪＷＷＡ　Ｋ　１４０ （一般　；　ＳＧＰ　－ＨＶＡ　地中　；　ＷＨＴＬＰ　内外面耐熱性硬質塩ビライニング鋼管） □　水道用ステンレス鋼鋼管ＪＷＷＡ　Ｇ　１１５ □　一般配管用ステンレス鋼鋼管　ＪＩＳ　Ｇ　３４４８
□　ガス管	□　配管用炭素鋼鋼管（白）　ＪＩＳ　Ｇ　３４５２　（ＳＧＰ－　白） □　土間：　塩化ビニル被覆鋼管（黒） □　ガス用ポリエチレン管　ＪＩＳ　Ｋ　６７７４　（地中：ＰＥ） ※　地中埋設鋼管は、取出し位置のＧＬ面又はＳＬ，ＦＬ面より＋１００立ち上げた所までとする。 □　ガス事業者の供給規定に準じる
□　消火管	□　配管用炭素鋼鋼管（白）　ＪＩＳ　Ｇ　３４５２　（ＳＧＰ－　白） □　消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（白）ＷＳＰ０４１　（ＳＧＰ－ＶＳ） ※　地中埋設管ＶＳ　は、取出し位置のＧＬ面又はＳＬ，ＦＬ面より＋１００立ち上げた所までとする。
■　屋外埋設排水	■　硬質ポリ塩化ビニル管　ＪＩＳ　Ｋ　６７４１　（ＶＰ） □　リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管　ＪＩＳ　Ｋ　９７９８　（ＲＦ－ＶＰ） □　排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管　ＡＳ－５８　（ＲＥＰ－ＶＵ） □　リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管　ＪＩＳ　Ｋ　９７９７　（ＲＳ－ＶＵ） ※　１２５Ａ以下はＶＰ、１５０Ａ以上はＶＵとする。 □　コンクリート管　ＪＩＳ　Ａ　５３７２（プレキャスト鉄筋コンクリート製品） （１類水路用遠心力鉄筋コンクリート管）
□　冷温水配管	□　配管用炭素鋼鋼管（白）　ＪＩＳ　Ｇ　３４５２　（ＳＧＰ－　白） □　水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管　ＪＷＷＡ　Ｋ　１４０ （一般　；ＳＧＰ　－ＨＶＡ）
□　冷却水管	□　配管用炭素鋼鋼管（白）　ＪＩＳ　Ｇ　３４５２　（ＳＧＰ－　白） □　水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管　ＪＷＷＡ　Ｋ１１６　（一般；　ＳＧＰ－ＶＡ，　ＶＢ） □　フランジ付硬質塩化ビニルライニング鋼管　ＷＳＰ　０１１　（一般；　ＳＧＰ－ＦＶＡ，　ＦＶＢ）
□　ドレン管	□　配管用炭素鋼鋼管（白）　ＪＩＳ　Ｇ　３４５２　（ＳＧＰ－　白） □　硬質ポリ塩化ビニル管　ＪＩＳ　Ｋ　６７４１　（ＶＰ）（屋外　カラーＶＰ） □　保温層付硬質ポリ塩化ビニル管 □　リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管　ＪＩＳ　Ｋ　９７９８　（ＲＦ－ＶＰ） ※　１２５Ａ以下はＶＰ、１５０Ａ以上はＶＵとする。　ＲＦ－ＶＰは屋外露出不可。 □　排水・通気用耐火二層管　ＪＩＳ　Ｋ　６７４１（硬質塩化ビニル管ＶＰ）又は ＪＩＳ　Ｋ　９７９８（リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管ＲＦ－ＶＰ）規格品に繊維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。
■　冷媒管	□　銅及び銅合金継目無管　硬質、軟質または半硬質　ＪＩＳ　Ｈ３３００ ■　断熱材被覆銅管　原管はＪＩＳ　Ｈ３３００による。　製造者標準品 ただし、保温厚は　ガス管　２０mm、液管　１０mm（液管の呼び径が９．５２mm以下の断熱厚さは８mmとしてよい）　とする。 ※　冷媒用銅管の肉厚は、冷凍保安規則関係例示基準の規定による。
□　油管	□　配管用炭素鋼鋼管（黒）　ＪＩＳ　Ｇ　３４５２　（ねじ接合）
□　蒸気管	□　配管用炭素鋼鋼管（黒）　ＪＩＳ　Ｇ　３４５２
□　ブライン管	□　配管用炭素鋼鋼管（黒）　ＪＩＳ　Ｇ　３４５２

※ 弁類　　揚水ポンプ（二次側）、消火ポンプ（二次側）、水道直圧部は　１０Ｋとし、それ以外は　５Ｋとする。
　　塩ビライニング鋼管に使用する際は、管端防食コア付き、又はライニング弁を使用すること。

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	特記仕様書1	A2　1/NS	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		No. M-01

※横走り管の吊り間隔

鋼管	１００Ａ以下 １２５Ａ以上	－ －	２ｍ　以下 ３ｍ以下
ビニル管 耐火二層管 銅管	８０Ａ以下 １００Ａ以上	－ －	１ｍ　以下 ２ｍ以下
鉛管	１．５ｍ以下		
鋳鉄管	標準図による		

※横走り管形鋼振れ止め支持間隔

支持間隔	６ｍ以下	８ｍ以下	１２ｍ以下
鋼管 鋳鉄管	－	５０Ａ～１００Ａ	１２５Ａ～
ビニル管 耐火二層管 銅管	２５Ａ～４０Ａ	５０Ａ～１００Ａ	１２５Ａ～

※冷媒用銅管の横走り管の支持間隔
基準外径　９．５２ｍｍ　以下　　吊り間隔　　１．５ｍ※液管・ガス管共吊りの場合は液管の外径を
基準外径　１２．７０ｍｍ　以上　吊り間隔　　２．０ｍ以下基準とする。
形鋼振れ止め支持間隔は、鋼管に準ずる。

（２）　ダクト工事
矩形ダクト　□　亜鉛鉄板　ＪＩＳ　Ｇ　３３０２　（ＳＧＣＣ　、ＳＧＣＣＡ）　鍍金付着Ｚ１８以上
　　□　ステンレス鋼板　ＪＩＳ　Ｇ４３０５
工法　　□　アングルフランジ工法
　　□　共板フランジ工法
　　□　スライドオンフランジ工法
形鋼補強　□　山形鋼　　ＪＩＳ　Ｇ　３１０１　ＳＵＳ鋼材　　ＪＩＳ　Ｇ　４３１７
丸ダクト　■　スパイラルダクト
　　□　下水道用リサイクル三層硬質塩化ビニル管　（多湿箇所）　ＡＳ－６２　（ＲＳ－ＶＵ）

（３）　保温塗装工事
１）材料

□　グラスウール保温材　　保温筒　ＪＩＳ　Ａ　９５０４　２号　４０Ｋ
（屋内一般等）　　保温板、保温帯　ＪＩＳ　Ａ　９５０４　２号　４０Ｋ

□　給水管	□　排水管	□　給湯管	□　温水管
□　蒸気管	□　冷水・冷温水管	□　冷媒管	□
（屋外等）			
□　給湯管	□　温水管	□　蒸気管	□　冷水・冷温水管
□　冷媒管	□	□	□

□　ロックウール保温材　　保温板、保温帯、ブランケット
（防火区画貫通部等）　　１号ＪＩＳ　Ａ　９５０４

□　給水管	□　排水管	□　給湯管	□　温水管
□　蒸気管	□　冷水・冷温水管	□　冷媒管	□　消火管

■　ポリスチレンフォーム保温材　　保温筒　ＪＩＳ　Ａ　９５１１　３号
（屋内一般等）　　保温板　ＪＩＳ　Ａ　９５１１　３号

■　給水管	□　排水管	□　冷水・冷温水管	□　冷水管（２～４℃）
□　ブライン管	□	□	□
（屋外等）			
■　給水管	□　排水管	□　給湯管	□　冷水・冷温水管
□　ブライン管	□　消火管	□	□

□　合成樹脂調合ペイント塗り塗料　　ＪＩＳ　Ｋ　５５１６（合成樹脂調合ペイント）　１種
（露出）

□　給水管	□　排水管	□　通気管	□　ドレン管
□　ガス管	□　消火管	□　油管	□　冷却水管
□　ダクト（亜鉛鉄板製）	□　ダクト（鋼板製）		

□　さび止めペイント塗り塗料　　ＪＩＳ　Ｋ　５６２１（一般用錆止めペイント）　２種
（露出）

□　蒸気管（往）	□　ダクト（鋼板製）		

２）保温厚
・グラスウール、ロックウール

保温厚　（mm）	２０	２５	３０	４０	５０
給水・排水・ドレン・給湯 膨張・温水・消火管	～８０Ａ	１００～１５０Ａ		２００Ａ～	－
蒸気管	～２５Ａ	－	３２～５０Ａ	６５Ａ～	－
冷水・冷温水・冷媒管	－	－	～２５Ａ	３２～２００Ａ	２５０Ａ～

・ポリスチレンフォーム

保温厚（mm）	２０	２５	３０	４０	５０	６５
給水・消火・排水管	～８０Ａ	１００Ａ～		－	－	－
冷水・冷温水管	－	－	～２５Ａ	３２～２００Ａ	２５０Ａ～	－
冷水管（冷水温度２～４℃）	－	－	～２０Ａ	２５Ａ～１００Ａ	２５Ａ～	－
ブライン管	－	－	－	～２５Ａ	３２～８０Ａ	１００Ａ～

・機器ダクト保温厚

保温厚	
２５ｍｍ	ダクト（屋内露出［機械室、書庫、倉庫］、隠蔽部）、消音チャンバー・エルボ 膨張タンク、鋼板製タンク、排煙ダクト隠蔽部（ロックウール）
５０ｍｍ	ダクト（屋内露出［一般居室、廊下］）、サプライチャンバー、貯湯タンク類 冷水・冷温水・温水・環水タンク、熱交換器、冷水・冷温水・温水・蒸気ヘッダー 排気筒隠蔽部（ロックウール）
７５ｍｍ	煙導（ロックウール）

３）種別
給排水衛生設備配管の保温仕様

	1	2	3	4
屋内露出	保温筒	鉄線	合成樹脂製カバー	
機械室・書庫・倉庫	保温筒	鉄線	原紙	アルミカ゛ラスクロス仕上
天井内・ＰＳ内	アルミカ゛ラス化粧保温板		ラスクロス粘着テープ	
暗渠内（ピット内）	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	着色アルミカ゛ラスクロス
屋外露出	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	ＳＵＳ鋼板仕上

※　１）排水管については、上表暗渠内（ピット内）の仕様を防食テープ巻きに読み替える。
※　２）サヤ管工法：架橋ポリエチレン・ポリブデン管使用の場合は、上表保温不要。
※　３）消火管の外部露出のは保温を行う。

空調設備配管の保温仕様（Ｒ、Ｇ保温材の仕様のみ）

	1	2	3	4	5
屋内露出	保温筒	鉄線	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ	合成樹脂製カバー	
機械室・書庫・倉庫	保温筒	鉄線	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ	原紙	アルミガラスクロス仕上
天井内・ＰＳ内 （温水・蒸気管以外）	保温筒	鉄線	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ	アルミガラスクロス仕上	
暗渠内（ピット内）	保温筒	鉄線	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ	着色アルミガラスクロス仕上	
屋外露出	保温筒	鉄線	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ	ＳＵＳ鋼板仕上	

※　１）冷媒管に断熱材被覆銅管を使用した場合の保温種別
　　□　保温化粧ケース仕上　　■　ポリスチレン成形の上、ＳＵＳ鋼板仕上（屋外露出部分）

機器保温仕様

	1	2	3	4	5
冷水・冷温水タンク 鋼板製タンク 冷水・冷温水ヘッダ	鋲	保温板	ポリエチレン フィルム	鉄線	ＳＵＳ鋼板仕上 カラー亜鉛鉄板（屋内）
温水・膨張・還水 貯湯タンク 温水・蒸気ヘッダ 熱交換器	鋲	保温板	鉄線	ＳＵＳ鋼板仕上 カラー亜鉛鉄板（屋内）	

※　１）密閉式膨張タンク及び、プレート形熱交換器は、保温施工不要

ダクト・チャンバー・煙道　保温仕様

			1	2	3	4	5
長方形ダクト	屋内露出	一般・廊下	鋲	保温板	カラー鉄板		
		機械室	鋲	アルミガラスクロス化粧保温板		アルミガラスクロス粘着テープ	
	屋内隠蔽、ＤＳ内		鋲	アルミガラスクロス化粧保温板		アルミガラスクロス粘着テープ	
	屋外露出、多湿箇所		鋲	保温板	ポリエチレンフィルム	鉄線	ＳＵＳ鋼板
スパイラルダクト	屋内露出	一般・廊下	保温帯	鉄線	カラー鉄板		
		機械室	アルミガラスクロス化粧保温帯	アルミガラスクロス粘着テープ			
	屋内隠蔽、多湿箇所		アルミガラスクロス化粧保温帯	アルミガラスクロス粘着テープ			
	屋外露出、多湿箇所		保温帯	鉄線	ポリエチレンフィルム	鉄線	ＳＵＳ鋼板
サプライチャンバー			鋲	保温板	ガラスクロス	銅亀甲金網	
消音チャンバー、エルボ			鋲	保温板	ガラスクロス		
排煙ダクト長方形		屋内隠蔽	鋲	アルミガラスクロス化粧保温板		アルミガラスクロス粘着テープ	
排煙ダクト　円形		屋内隠蔽	アルミガラスクロス化粧保温帯	アルミガラスクロス粘着テープ			
煙道			ブランケット	鉄線	カラー鉄板		

※　１）排煙ダクトは、ロックウール保温板、保温帯、１号を使用。
※　２）煙道ブランケットは、ＪＩＳ　Ｇ　３５５４　（亀甲金網）による亜鉛鍍金を施した網目呼称１６線径０．５５の金網又はＲＷＡＳ０２による防錆処理を施した平ラス０号で外面補強したものを使用。
※　３）銅亀甲金網は、ＪＩＳ　Ｈ　３２６０　網目呼称１０、線径０．５を使用。

配管用炭素鋼鋼管の塗装仕様

機材	状態	塗料の種別	塗り回数			備考
			下塗り	中塗り	上塗り	
白管	露出	合成樹脂調合ペイント	1	1	1	下塗りはさび止めペイント
黒管	露出	合成樹脂調合ペイント	2	1	1	下塗りはさび止めペイント

※　１）ねじ切りした部分の鉄面は、さび止めペイント２回塗りを行う。

４）施工
ダクト保温施工範囲
１．ＳＡ
□　保温あり　　□保温なし　　□図面による　　□その他（　　）
２．ＥＡ
□　保温あり　　□保温なし　　□図面による　　□その他（　　）
３．ＲＡ
□　保温あり　　□保温なし　　□図面による　　□その他（　　）
４．ＯＡ
■　保温あり　　□保温なし　　□図面による　　□その他（　　）
チャンバー内貼施工
□　内貼あり（　　ｍｍ　）　　□内貼なし　　□図面による　　□その他（　　）

（４）　スリーブ工事
1管スリーブの径は、原則として、管の外径（保温されるものは、保温厚さを含む）より４０ｍｍ程度大（＝２サイズＵＰ）なるものとする。
箱抜きスリーブは、木枠又は鋼板（実管ダクト）とする。
2地中部分のスリーブは、塩化ビニル管（ＶＵ）とし、水密を要する部分のスリーブは、つば付き鋼管とする。
3その他のスリーブは、特記なき限り、紙ボイドとする。紙ボイド使用の際は、配管前に必ず撤去のこと。

共通事項
１）陸上ポンプ、送排風機（エアハン含む）の電動機は、すべて全閉防まつ形とする。
２）配管途中、要所にはフランジ接続箇所を設置し、取り外しを容易にすること。
３）系統が分かるように、必要箇所（機械室、ＰＳ内等）に文字書き・矢印記入・バルブ札取付を行うこと。手書きもしくはカッティングシートとする。
４）機器・配管・支持金物には、絶縁処理を行うこと。
５）配管に空気が滞留する恐れのある箇所には、エア抜き弁を設置し、最寄りのドレン管に接続すること。
６）屋外機器設置基礎のアンカーボルトは、構造体鉄筋より取り出す、もしくはあと施工アンカー工法の類とする。使用アンカーについては、機器仕様書、耐震クラス等を確認すること。また、重量機器にあと施工アンカー工法を採用する場合、ケミカルアンカーを使用し施工すること。
７）機器、配管の耐震措置及び機器、ダクトの防振・消音については、標準仕様書、標準図、施工監理指針及び建築設備耐震設計・施工指針に基づき十分考慮すること。
８）雨がかり部に取り付けるガラリのチャンバーには、水抜きを設けること。
９）屋外埋設管（給水、消火、ガス）には、埋設シートを敷設し、曲がり・分岐部には、地中埋設標を施工すること。
１０）冷水及び冷温水管の支持材には、合成樹脂製支持受けを使用すること。
１１）水栓は、節水機構付きのものを使用すること。
１２）消火管等防火区画貫通部は、建築基準法・消防法に適合する工法にて防火処理を行うこと。
１３）地中埋設配管については、下記の沈下対策を講ずること。
・管は継ぎ手の組み合わせにより可とう性をもたせる。
・接続箇所は必要に応じコンクリートで保護する。
・土間配管は、土間筋に吊り下げるなど埋設配管を保持すること。
・呼び径１００Ａ以下はＭ１０、１２５Ａ～２５０ＡはＭ１２、２５０Ａ以上はＭ１６のステンレス棒鋼を使用する。
１４）屋外露出及び多湿箇所（トレンチピット等）の配管架台は、ＳＵＳ又はＳＳ溶融亜鉛メッキ仕上げとすること。
１５）屋外設置のマンホール類には用途名を入れること。
１６）合成樹脂製カバーの仕上げについては、保温見切り箇所には菊座の取り付けを行うこと。
１７）送風機用ベルトカバーには点検口を設けること。

施工条件
１）増築棟の施工に係る既設給水管からの分岐及び排水接続などの断水等が発生する作業は、学校運営に支障を来さないよう、事前に学校および市監督員と協議の上、施工を行うこと。

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE					No.
津　市　立　栗　真　小　学　校　長　寿　命　化　改　修　工　事	特記仕様書2	A2　1/NS	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康			M-02

図示記号

記号	名称
——— - ———	給水管
——— | ———	給湯管
——— G ———	ガス管
———	排水管
----------	通気管
———	換気ダクト
——— R ———	冷媒管
——— D ———	ドレン管
	給水栓
	混合水栓
	排水金物
	床上掃除口
	弁類

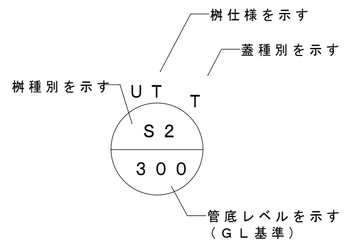
桝仕様

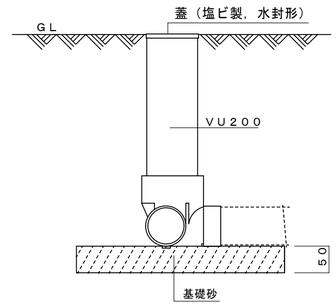
種別	記号	桝寸法	桝寸法	備考
小口径インバート桝	S－2	200φ	密閉型 200φ	記号 ○
小口径雨水桝	R－2	200φ	密閉型 200φ	記号 ⊗

記号・D → MHD蓋　・A → MHA蓋　・B → MHB蓋　・格子 → 格子蓋　・化粧 → 化粧蓋＋MHB蓋
・トラップ → トラップ桝・ドロップ → ドロップ桝・T → 鋳鉄製蓋（T－8）・表記なし → 塩ビ製蓋（鎖付き）・格子 → 格子蓋

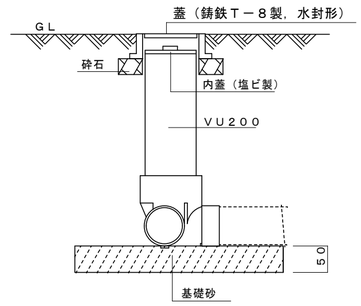
注記）排水勾配　屋外　1／100　屋内　1／50を基準とする。
ウオーターハンマー防止の為、配管類は堅固に支持、固定すること。
排水トラップ封水高　50mm以上　100mm以下とする。
桝レベルは参考とする。
埋設標示設置のこと。
上水、下水関係は市町村施工基準に準じること。

汚水桝施工要領図





小口径桝（汚水桝①）



小口径桝（汚水桝②）

換気機器表

機器番号	機器名称 参考型番	形式・仕様	電気容量 電源 (φ-V)	電気容量 送風機 (W)	台数	設置場所及び備考
V-1	天井扇	形　式　低騒音型	1-100	29.5	2	2.3階多目的便所
	VD-18ZC14	風　量　200 m3/h　60 Pa				
		付属品　SUS深型フード、他一式				
OA-1	給気ｸﾞﾘﾙ	形　式　低騒音型	---	---	2	2.3階多目的便所
	P-18GLF6	風　量　--- m3/h　-- Pa				
		付属品　SUS深型フード（防虫網）、他一式				

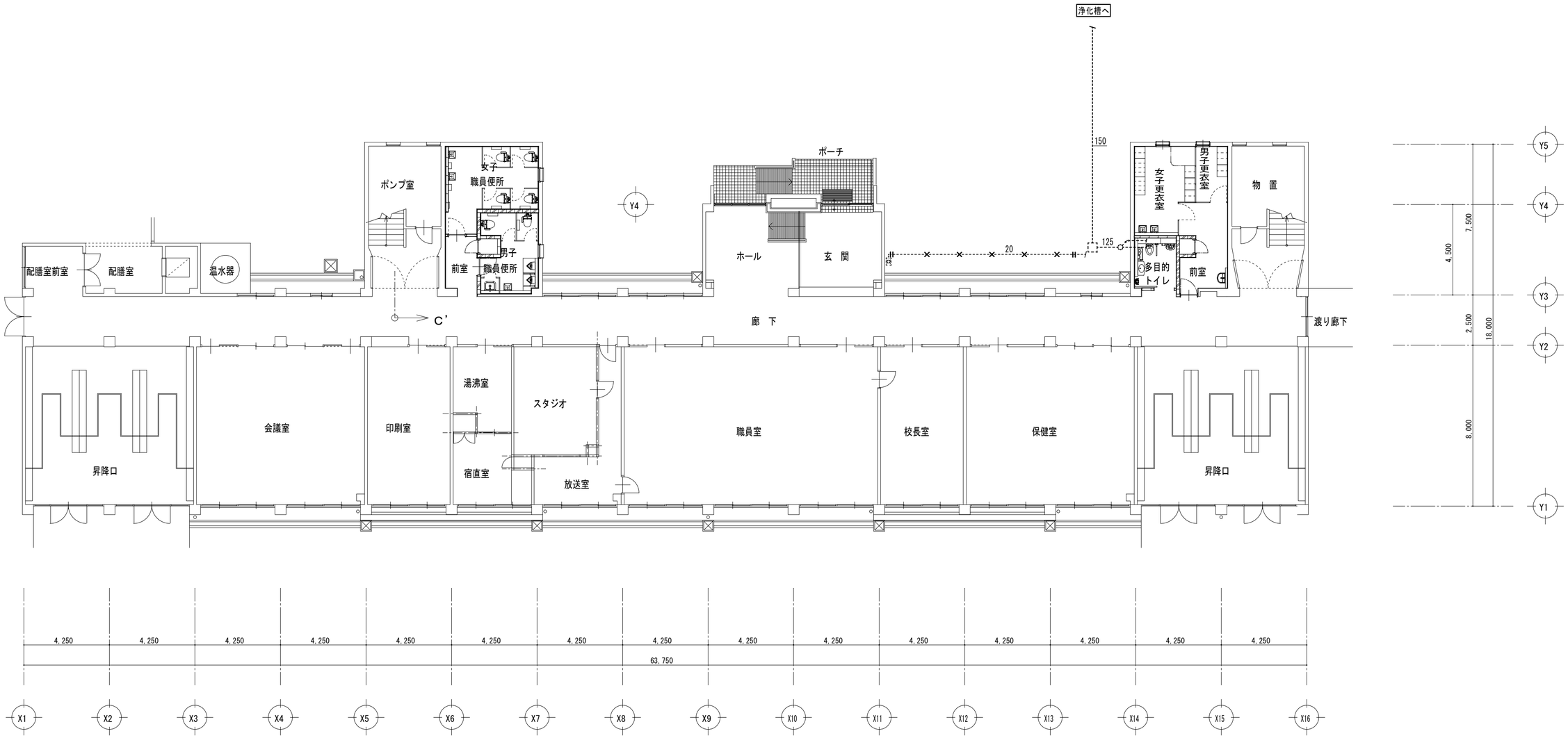
注記　消費電力は参考とする

衛生器具表

名称	参考品番 （上段：TOTO） （下段：LIXIL）	付属品 （上段：TOTO） （下段：LIXIL）	合計	2階 多目的便所	3階 多目的便所
洋風便器	CFS498BC	TCF5554AUPR（洗浄便座）	2	1	1
	BC-P110SM	DQ-PA150CH(ロータンク),CW-PA21LQE-NEC-R1(洗浄便座)			
棚付二連紙巻器	YH702	（SUS製）	2	1	1
	CF-63HST	（SUS製）			
洗面器	L270C	TLE28SS1A（自動水栓）,TLDP2105JA,TL220D	2	1	1
	L275AN	AM-311CV1（自動水栓）,LF-105PA,SF-10E,KF-30DN			
手洗器	LSA90AAP	（自動水栓　100V）	2	1	1
	AWL-71U2AM(P)	（自動水栓　100V）			
手すり（はねあげ）	T112HK7R	（固定金具）	2	1	1
	KF-471EH70JU	（固定金具）			
手すり（L型）	T112CL12	（固定金具）	2	1	1
	KF-926AE80D25J	（固定金具）			
背もたれ	EWC283CR		2	1	1
	KFC-275T1U				
化粧鏡	YM4510FA	（450×1000）	2	1	1
	KF-W450H1000AH	（450×1000）			

原図：A2

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	凡例・器具、機器表	A2　1/NS	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康		No. M-03

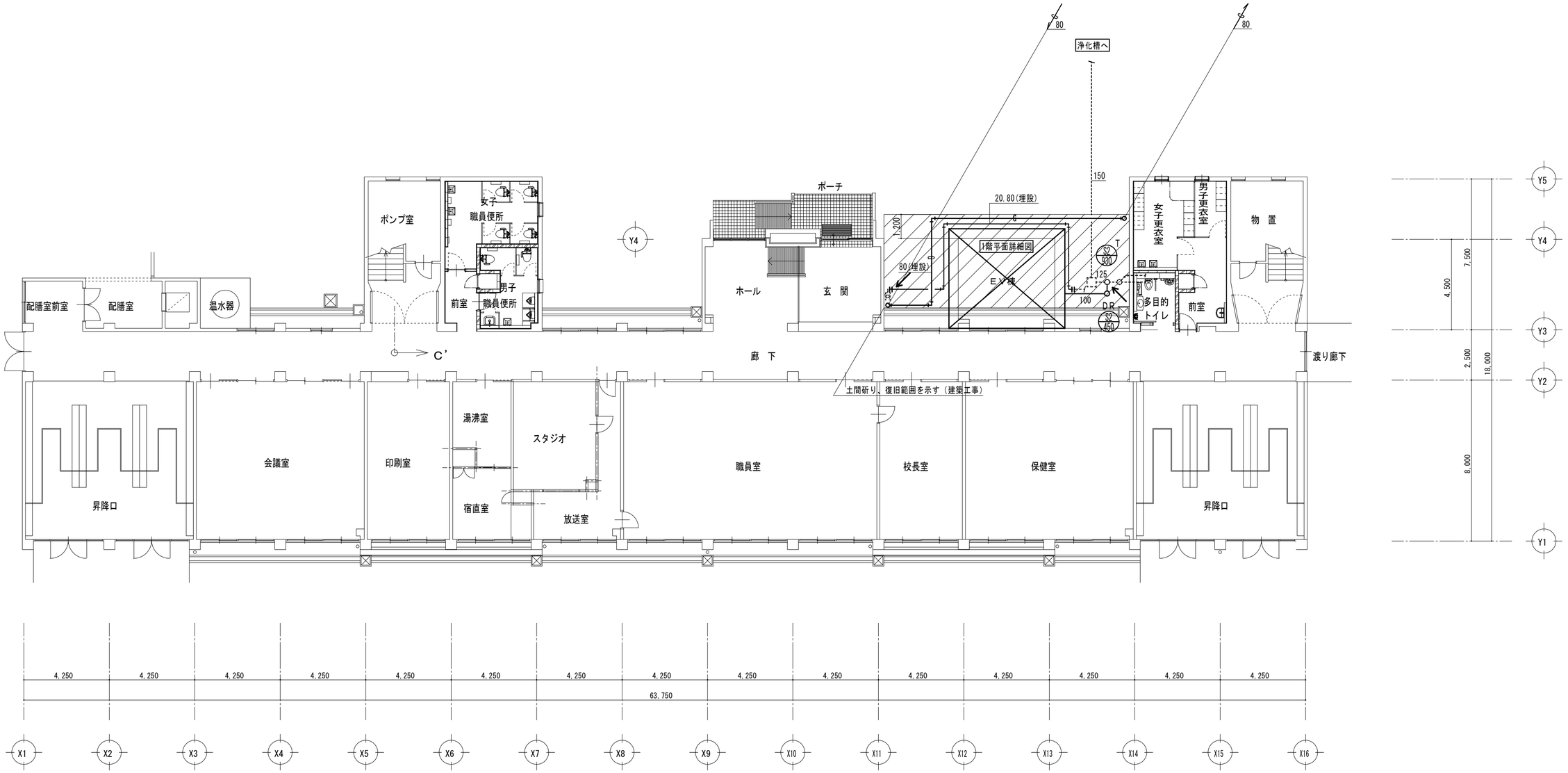


1階平面図　S=1/150

凡例	
既設配管を示す(残置)	---------
既設配管を示す(撤去)	-×-×-×-
既設配管切断箇所を示す	‖ =

原図：A２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE					No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	1階平面図（改修前）	A2 1/150	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康			M-04



1階平面図　S=1/150

凡例	
新設配管を示す	――――
既設配管を示す	- - - - - - - -
既設配管接続箇所を示す	←―――

原図：A２

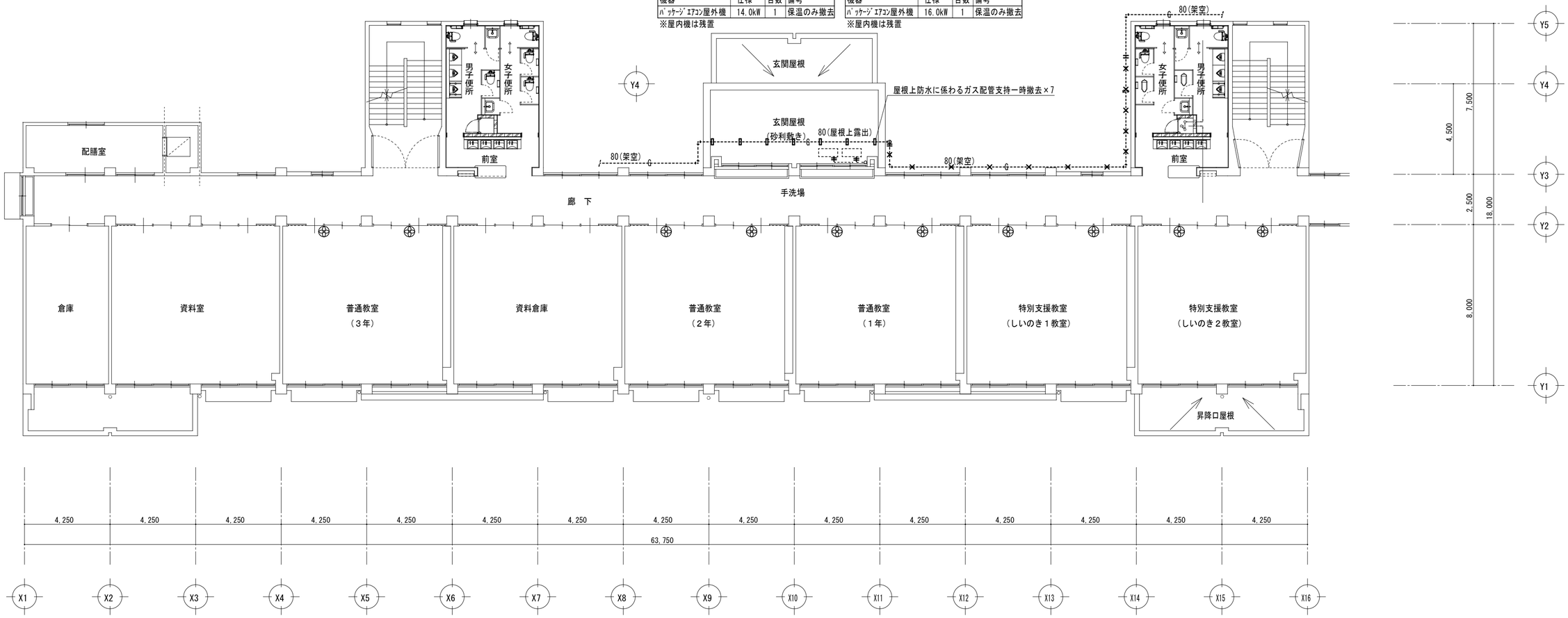
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE					No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	1階平面図（改修後）	A2 1/150	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士 山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815 三重県津市藤方1457-4 TEL<059>(225)0757 FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本 覚康			M-05

既設機器リスト（パソコン室系統）			
機器	仕様	台数	備考
ﾊﾟｯｹｰｼﾞｴｱｺﾝ屋外機	14.0kW	1	保温のみ撤去

※屋内機は残置

既設機器リスト（普通教室1年系統）			
機器	仕様	台数	備考
ﾊﾟｯｹｰｼﾞｴｱｺﾝ屋外機	16.0kW	1	保温のみ撤去

※屋内機は残置



２階平面図　S=1/150

⊕	扇風機：一時撤去を示す

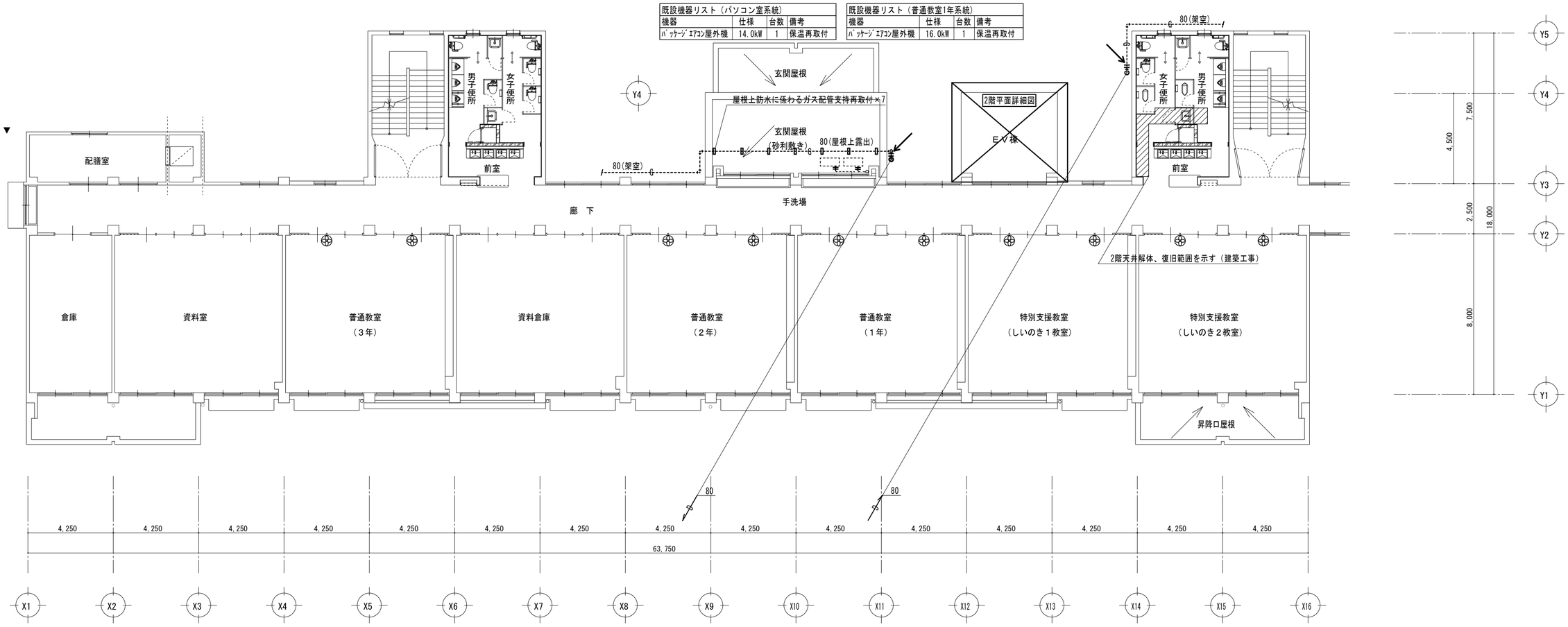
凡例	
既設配管を示す(残置)	---------
既設配管を示す(撤去)	×-×-×
既設配管切断箇所を示す	‖ ＝

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	２階平面図（改修前）	A2　1/150	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	M-06

既設機器リスト（パソコン室系統）			
機器	仕様	台数	備考
ﾊﾟｯｹｰｼﾞｴｱｺﾝ屋外機	14.0kW	1	保温再取付

既設機器リスト（普通教室1年系統）			
機器	仕様	台数	備考
ﾊﾟｯｹｰｼﾞｴｱｺﾝ屋外機	16.0kW	1	保温再取付



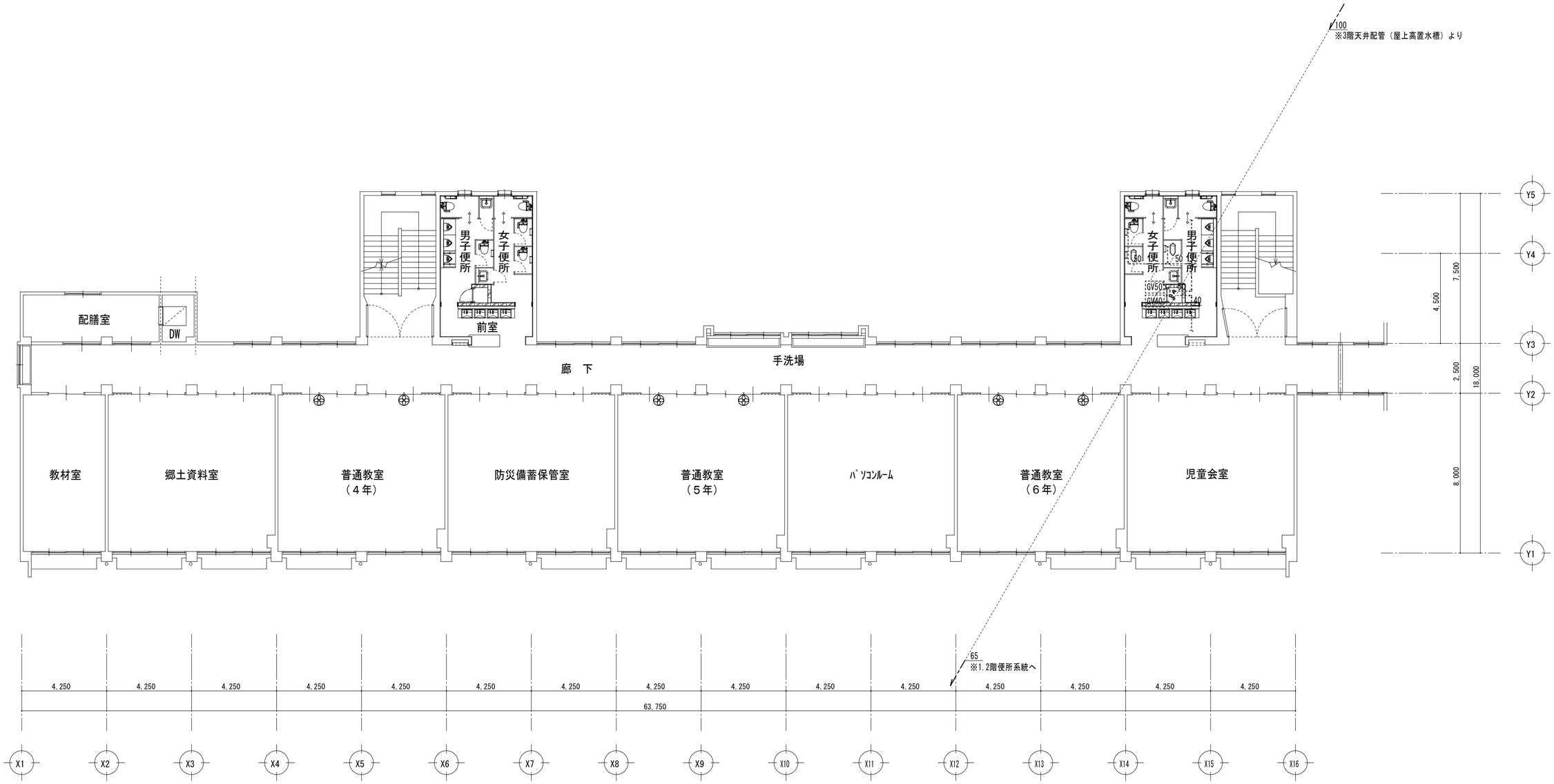
２階平面図　S=1/150

⊕	扇風機：既設品再取付を示す

凡例	
新設配管を示す	――――
既設配管を示す	--------
既設配管接続箇所を示す	←

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	２階平面図（改修後）	A2　1/150	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	M-07



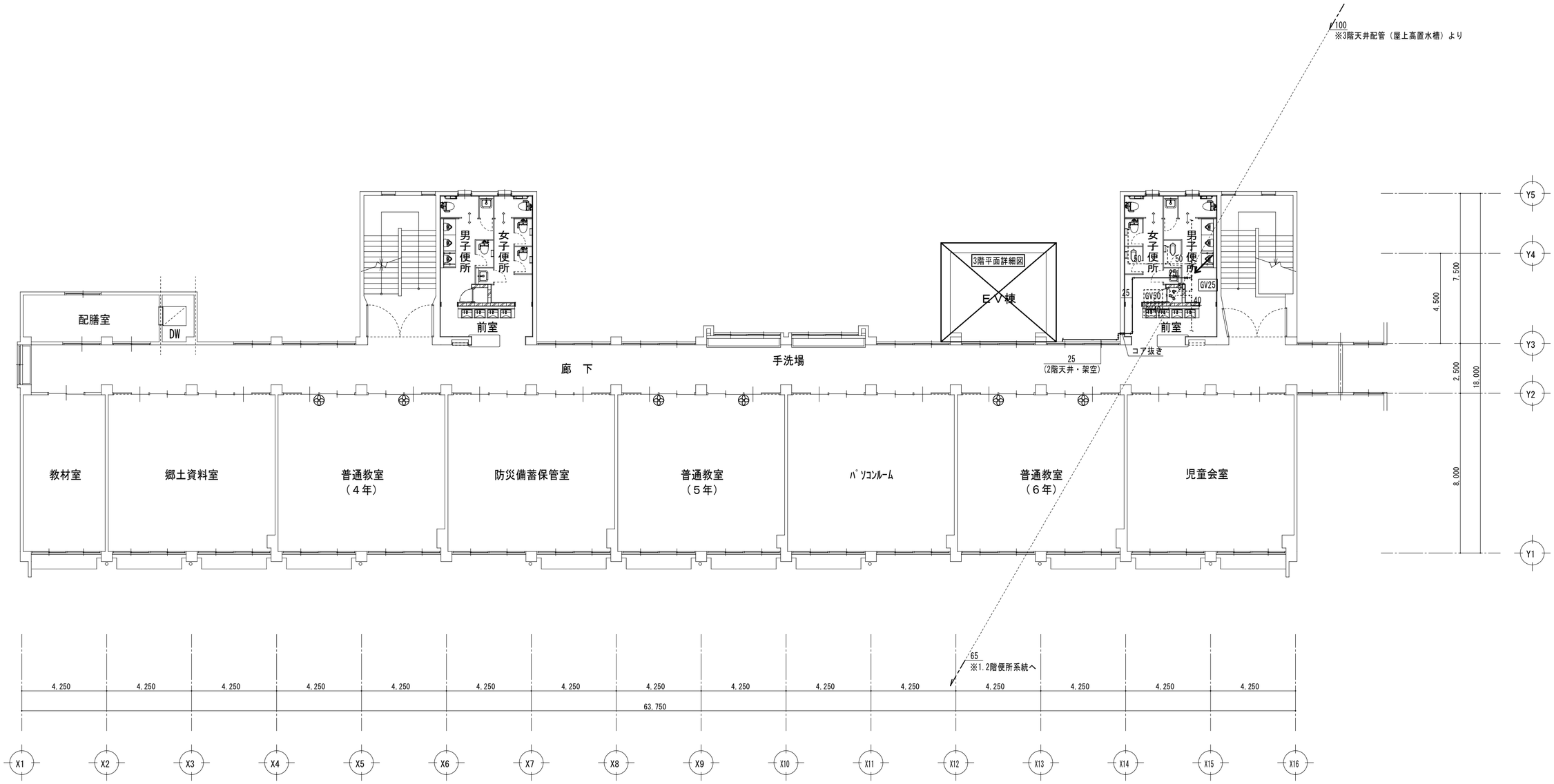
３階平面図　S=1/150

扇風機：一時撤去を示す

凡例	
既設配管を示す(残置)	--------
既設配管を示す(撤去)	×-×-×
既設配管切断箇所を示す	＝ ＝

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	３階平面図（改修前）	A2　1/150	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	M-08



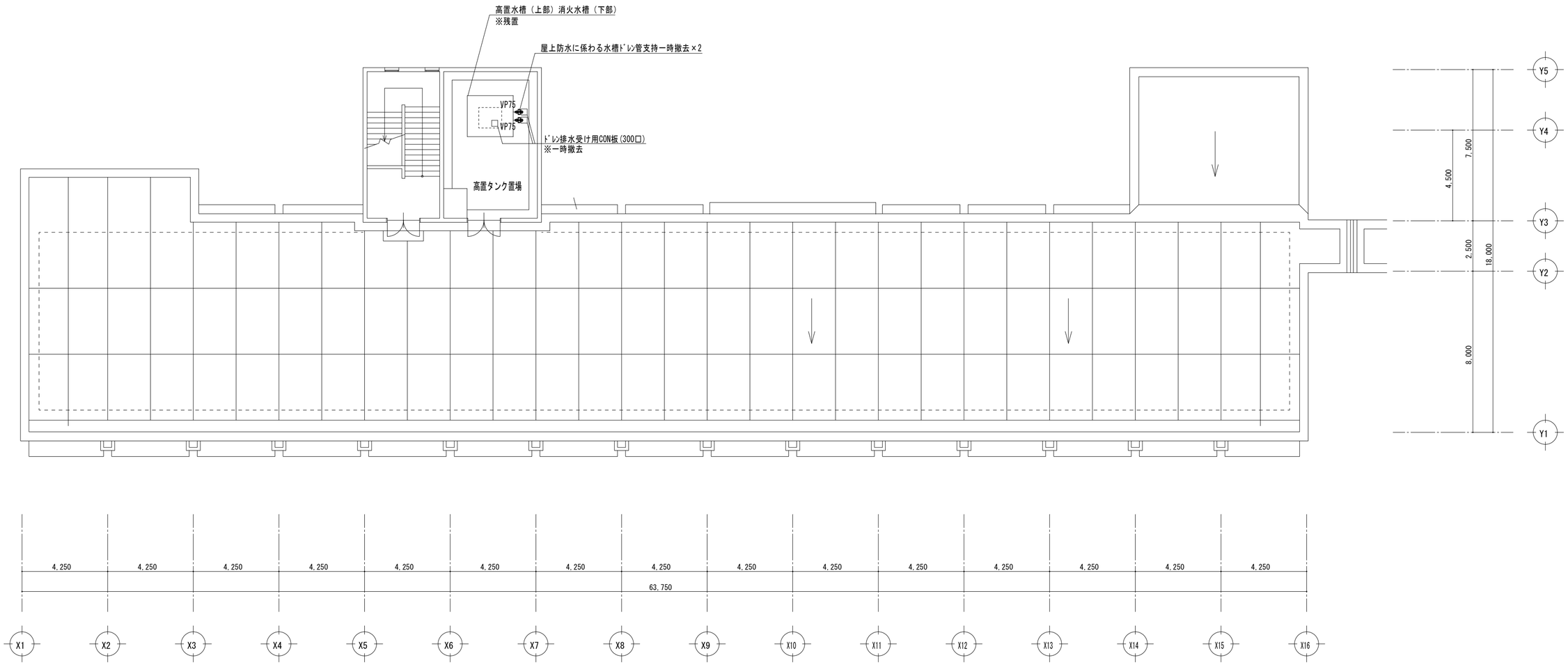
３階平面図　S=1/150

⊕	扇風機：既設品再取付を示す

凡例	
新設配管を示す	――――
既設配管を示す	--------
既設配管接続箇所を示す	←―――

原図：Ａ２

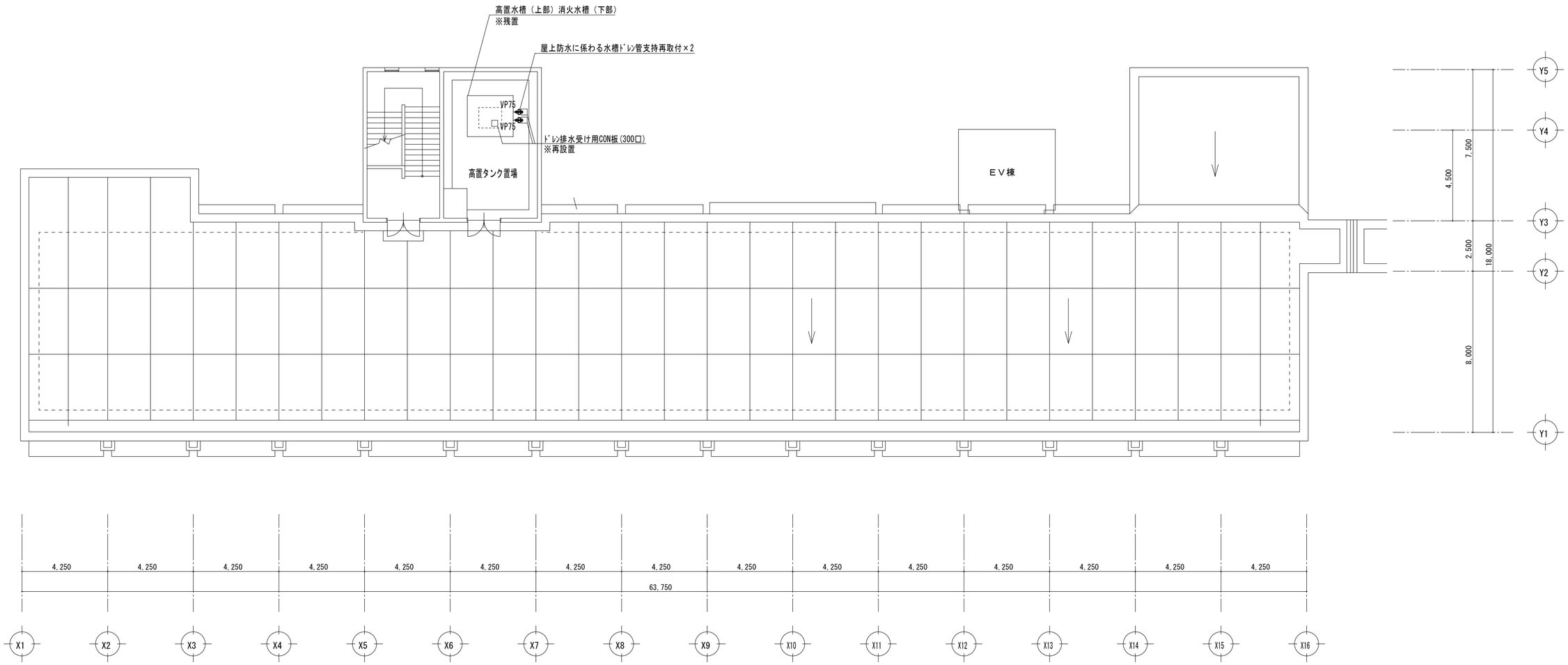
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	３階平面図（改修後）	A2　1/150	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		No. M-09



屋上階平面図　S=1/150

原図：Ａ２

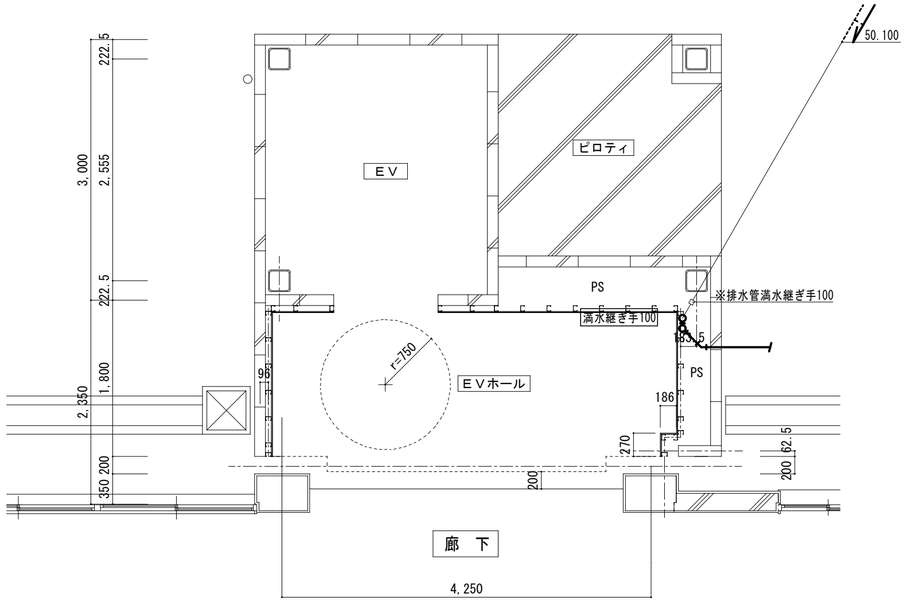
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	屋上平面図（改修前）	A2　1/150	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康		No. M-10



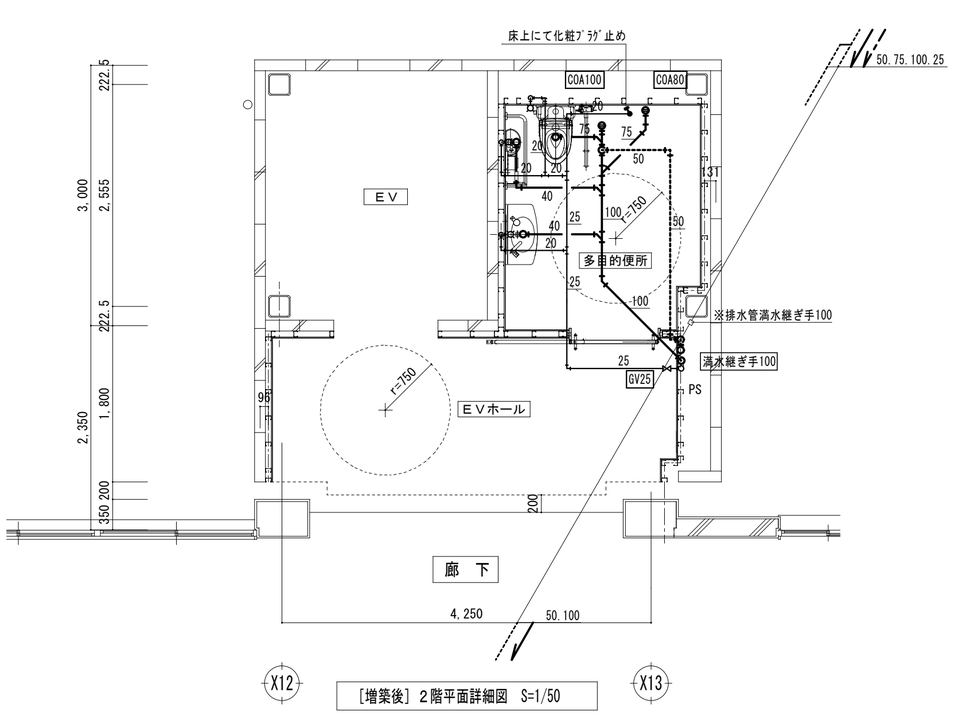
屋上階平面図　S=1/150

原図：Ａ２

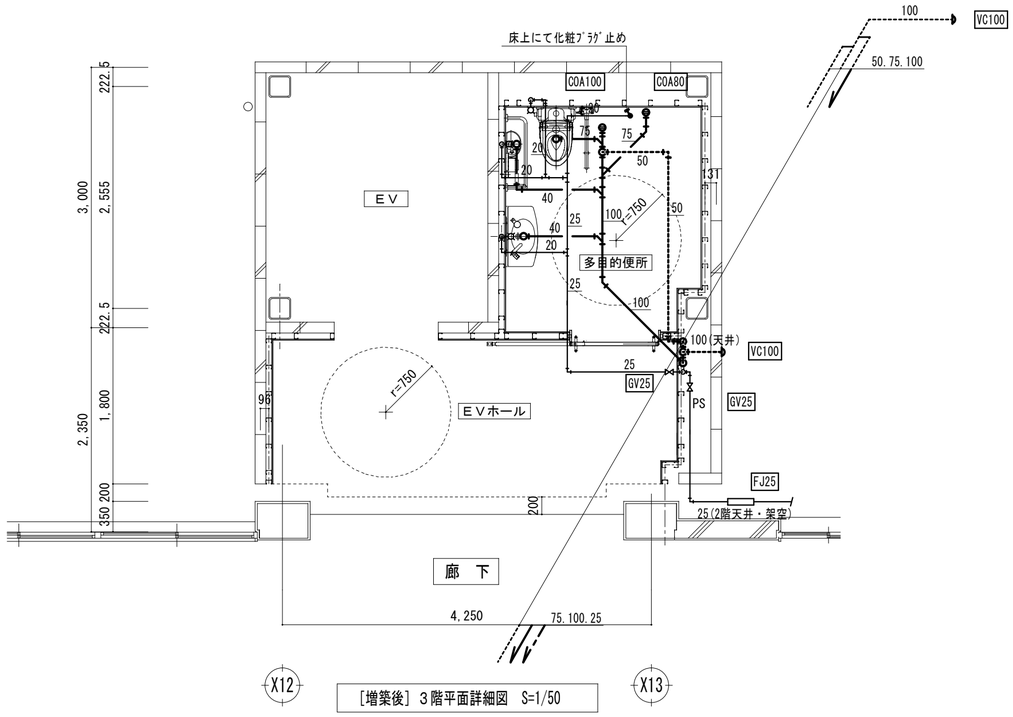
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE					No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	屋上平面図（改修後）	A2　1/150	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康			M-11



［増築後］１階平面詳細図　S=1/50



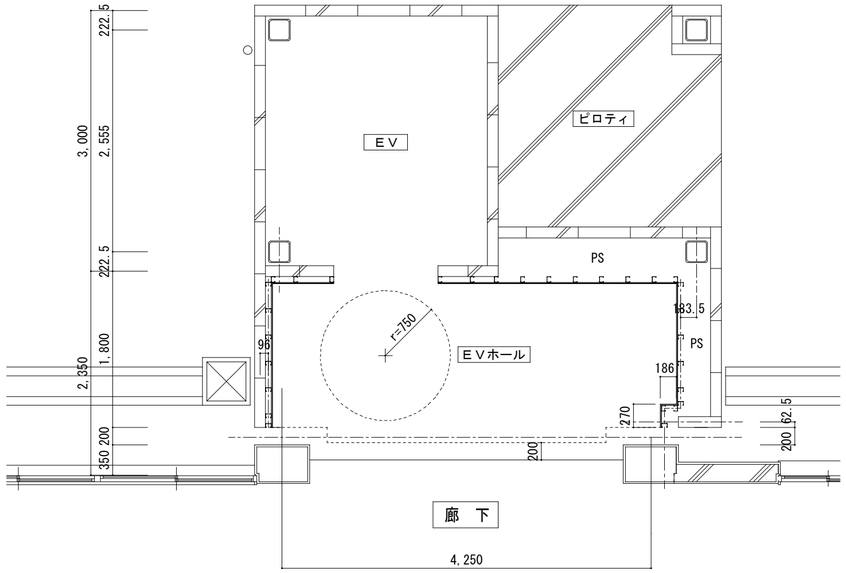
［増築後］２階平面詳細図　S=1/50



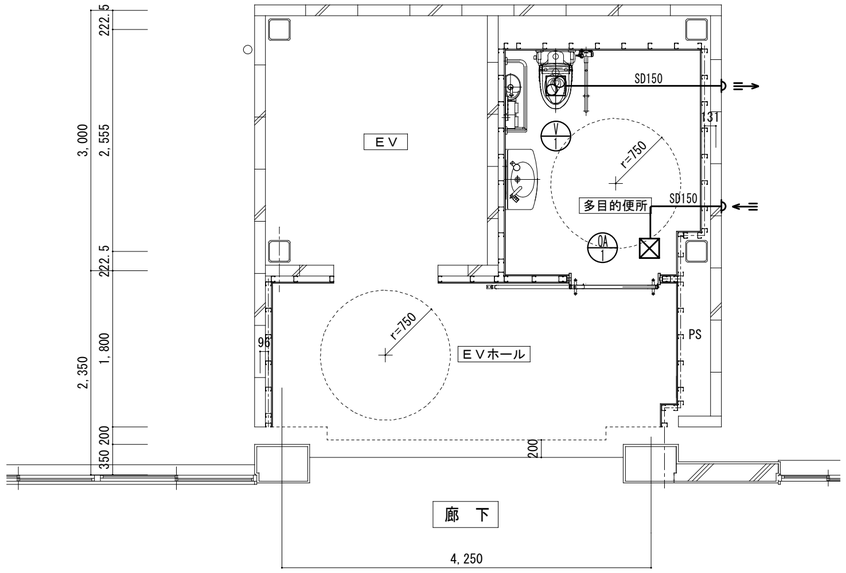
［増築後］３階平面詳細図　S=1/50

原図：Ａ２

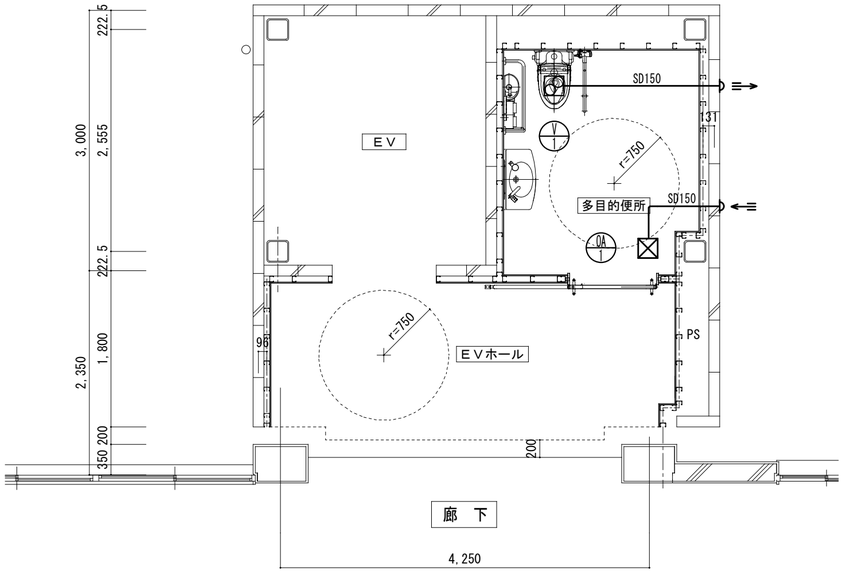
TITLE	DRAWING TITLE	SCALE				No.
津市立栗真小学校長寿命化改修工事	１．２．３階平面詳細図（給排水衛生設備）	A2	1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	M-12



X12　［増築後］１階平面詳細図　S=1/50　X13



X12　［増築後］２階平面詳細図　S=1/50　X13



X12　［増築後］３階平面詳細図　S=1/50　X13

原図：Ａ２

TITLE	DRAWING TITLE	SCALE			No.
津　市　立　栗　真　小　学　校　長　寿　命　化　改　修　工　事	１．２．３階平面詳細図（換気設備）	A2　1/50	一級建築士事務所 三重県登録第1-2396号 山本一級建築士事務所 管理建築士　山本覚康（一級建築士 第317991号） 〒514-0815　三重県津市藤方1457-4　TEL<059>(225)0757　FAX<059>(224)1779	設計者 一級建築士 第317991号 山本　覚康	M-13